# 上越教育大学年次報告書

ー第14集：平成10年度版ー

上越教育大学

# ま　え　が　き

本年次報告書は，平成10（1998）年度における本学の活動状況を年次報告と自己点検・評価としてまとめたものであり，通算では第14集に当たるものである。

平成８年度から新体制による自己点検・評価を実施し，本年次報告書の内容構成を「年次報告」と「自己点検・評価」とに独立させ，各実施組織の討議を尽くした「自己点検・評価」の内容が明確になるよう編集に配慮し，当該年度に実施した「自己点検･評価結果」を「年次報告書」として学内外に公表している。

自己評価等委員会では，平成８年度からの新体制による自己点検・評価が平成10年度で３年目となり，規則に掲げる自己点検･評価項目のすべてについて一応の点検･評価を行ったこととなることを契機に，自己点検・評価の現状を把握し，現状体制の再点検を行うため，各実施組織等に対し調査を実施し，その調査結果を反映させた自己点検・評価体制の見直しを行い，平成11年度から実施する自己点検・評価体制を確立した。その内容は，①事項を主とした体系的な点検・評価を行うための，重点事項・項目の設定。②重点事項・項目の具体的な実施方法等を検討するための専門部会の設置。の２点である。

しかしながら，大学審議会答申「21世紀の大学像と今後の改革方策について―競争的環境の中で個性が輝く大学―」（平成10年10月26日）で出された学内に評価の専門家がいないこと，外部への情報発信が足りない等々の大学評価の問題点の指摘事項は否めない現状にある。

今後は，これらの現状を踏まえ，本学の教育研究の理念・目的に照らした自己点検・評価の在り方について抜本的な見直しを行うとともに，その結果についての外部評価や平成12年度から導入される第三者評価システムに向けての体制の整備・充実を図ることとしている。

平 成 12 年 1 月

上 越 教 育 大 学 長
自己評価等委員会委員長

大　澤　健　郎

# 目　　次


まえがき

第一章　年次報告……1

1　年度のハイライト……1

2　10年度の大学運営を顧みて……2

3　管理運営の概要……2

(1)　評議会……2

(2)　教授会……2

(3)　大学院学校教育研究科委員会……3

(4)　連合大学院委員会……3

(5)　参与会……3

(6)　自己評価等委員会……4

(7)　将来計画検討委員会……4

(8)　教員人事……4

①　人事委員会……4

②　その他……4

(9)　財務……6

①　学内予算配分……6

②　概算要求……6

(10)　広報活動……6

①　情報・広報委員会……6

②　その他の広報活動……6

(11)　教員組織……6

①　学校教育研究系……6

②　幼児・障害児教育研究系……7

③　言語系教育研究系……7

④　社会系教育研究系……7

⑤　自然系教育研究部……8

⑥　芸術系教育研究部……8

⑦　生活・健康系教育研究部……8

⑧　合同部（系）教員会議……8

(12)　施設整備……8

(13)　創立20周年記念行事……9

(14)　事務局……10

① 事務連絡会……10
② 各課の主な業務……10
⑮ そ の 他……11
① 環境委員会……11
② 実験廃棄物等管理委員会……12
③ 職員レクリエーション委員会……12

**4 教育・研究活動**……12
(1) 各講座の教育・研究……12
① 教育基礎講座……12
② 教育経営講座……12
③ 教育方法講座……13
④ 生徒指導講座……14
⑤ 幼児教育講座……14
⑥ 障害児教育講座……15
⑦ 言語系教育講座（国語）……16
⑧ 言語系教育講座（外国語）……16
⑨ 社会系教育講座……17
⑩ 自然系教育講座（数学）……17
⑪ 自然系教育講座（理科）……18
⑫ 芸術系教育講座（音楽）……18
⑬ 芸術系教育講座（美術）……19
⑭ 生活・健康系教育講座（保健体育）……19
⑮ 生活・健康系教育講座（技術）……20
⑯ 生活・健康系教育講座（家庭）……21
(2) 大学院学校教育研究科……21
① 入学者選抜……21
② 教 務 関 係……22
③ 教 育 実 習……23
④ 学 位 論 文……23
(3) 学校教育学部……23
① 入学者選抜……23
② 入学者選抜方法の研究……25
③ 教 務 関 係……26
④ 教育実地研究……26
(4) 教育課程の改善……27
(5) スペース・コラボレーション・システム事業……27
(6) 国 際 交 流……28
(7) 研 究 紀 要……28
(8) 公開講座等……29

(9) 研究集会等……29

5 厚生補導……31
(1) 学生生活……31
(2) 大学会館……33
(3) 学生居住施設……34
(4) 就職指導……35

6 大学改革……36
(1) 改革構想の策定……36
(2) 改革の理念と基本方針……43

第二章 自己点検・評価……45

1 自己点検・評価の実施……45

2 自己点検・評価結果……46
(1) 各実施組織における自己点検・評価結果……46
〔教務委員会〕……48
〔教育実習委員会〕……49
〔学生委員会〕……51
〔学校教育学部入学試験委員会〕……52
〔大学院入学者選抜委員会〕……53
〔大学院教育実習委員会〕……54
〔学位論文審査委員会〕……54
〔自己評価等委員会〕……56
〔スペース・コラボレーション・システム事業実施委員会〕……72
〔教育課程検討委員会〕……72
〔職員レクリエーション委員会〕……72
〔実験廃棄物等管理委員会〕……73
〔公開講座委員会〕……78
〔研究紀要委員会〕……78
〔国際交流委員会〕……79
〔学生宿舎委員会〕……80
〔国際学生宿舎委員会〕……81
〔大学会館運営委員会〕……81
〔予算委員会〕……82
〔環境委員会〕……82
〔就職指導委員会〕……82
〔事 務 局〕……83
(2) その他の自己点検・評価……89

第三章　附 属 施 設 等……93

1　附属図書館……93
(1)　運営委員会……93
(2)　自己点検・評価結果……94
(3)　今後の課題として……95

2　学校教育研究センター……96
(1)　運営委員会……96
(2)　自己点検・評価結果……99

3　保健管理センター……102
(1)　運営委員会……102
(2)　自己点検・評価結果……103

4　情報処理センター……103
(1)　運営委員会……103
(2)　自己点検・評価結果……104

5　附属実技教育研究指導センター……104
(1)　運営委員会……104
(2)　自己点検・評価結果……106

6　附属障害児教育実践センター……106
(1)　運営委員会……106
(2)　自己点検・評価結果……107

7　附属小学校……108

8　附属中学校……111

9　附属幼稚園……114

第四章　各教官の研究活動及び社会との連携……119

第五章　資　　料　　編……231

1　管 理 運 営……231
(1)　管理運営機構……231
①　組　織　図……231

② 運 営 図……232
(2) 職 員 数 等……233
① 定員・現員……233
② 教員の任用状況……234
(3) 予算及び決算……235
① 国立学校特別会計……235
② 一般会計（歳出）……235
(4) 広報刊行物一覧……236
(5) 土地・建物の概要……237

**2 教育・研究活動**……238
(1) 平成11年度入学者選抜試験状況……238
① 大学院学校教育研究科……238
② 学校教育学部……242
(2) 在 学 者 数……244
① 大学院学校教育研究科……244
② 学校教育学部……246
③ 科目等履修生等……248
④ 外国人留学生……248
(3) 修了者・卒業者数……250
① 大学院学校教育研究科（専攻・コース別）……250
② 学校教育学部（専修・コース別）……251
(4) 休学者・退学者数……252
① 大学院学校教育研究科（専攻・コース別）……252
② 学校教育学部（専修・コース別）……253
(5) 各教員の担当授業科目・授業時間数一覧……254
(6) 平成10年度学位論文・卒業研究……287
① 大学院学校教育研究科修了者の学位論文題目一覧……287
② 学校教育学部卒業者の卒業研究題目一覧……296
(7) 教育職員免許状取得状況……303
① 平成10年度大学院学校教育研究科修了者……303
② 平成10年度学校教育学部卒業者……303
(8) 科学研究費補助金等……304
① 科学研究費補助金……304
② 各種研究経費……305
③ 奨学寄附金……305
④ 受託研究経費……305
(9) 教官の外国出張等……306
① 外国出張・海外研修……306
(10) 非常勤講師等……310

① 非常勤講師……310
② 教員養成実地指導講師……312
③ ティーチング・アシスタント……316
④ リサーチ・アシスタント……319
(11) 公開講座等実施状況……320
① 公 開 講 座……320
② 文化講演会……321
(12) 厚生補導事業実施状況……322
(13) 学生団体一覧……323
(14) 奨学金受給状況……324
① 日本育英会……324
② 日本育英会以外の奨学事業団体……325
(15) 授業料及び入学料免除実施状況……326
① 授 業 料……326
② 入 学 料……326
(16) 学生宿舎・国際学生宿舎入居状況等……327
① 入 居 状 況……327
② 居 室 状 況……328
(17) 平成10年度修了者・卒業者就職状況……329
① 大学院学校教育研究科……329
② 学校教育学部……330
③ 都道府県別公立学校教員採用者数……331
(18) 学生健康診断受診・精神衛生相談実施状況……332
① 定期健康診断……332
② 特別健康診断（学部１・４年次生対象）……333
③ 精神衛生相談……333
(19) 附属図書館蔵書数・利用状況……334
① 蔵 書 数……334
② 利用状況（前年度比）……335
(20) 附属学校在学児童・生徒・幼児数……336

**3 兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科**……337
(1) 平成11年度入学者選抜試験状況……337
(2) 構成大学別配属学生数……338
(3) 配属学生別指導教官……338
(4) 平成10年度修了者及び学位論文……339
① 修 了 者……339
② 修了者の学位論文題目一覧……339

**あ と が き**

# 第一章　年　次　報　告

# 第一章　年　次　報　告

## 1　年度のハイライト

平成10年度の大学運営上の主要事項を時間の経過にしたがって記載する。

**〈アイオワ大学（アメリカ合衆国）との大学間交流協定の締結〉**

学長，大澤副学長及び庭野国際交流委員会委員が，アイオワ大学を訪問し，教職員及び大学院学生の交流，教育・研究交流を促進し，日米両国の相互理解と友好親善を増進することを目的とした大学間交流協定に，平成10年６月２日調印した。

**〈大学公式ホームページの開設〉**

大学情報の積極的な提供や事務情報化の推進を図るため，大学公式ホームページを開設し，平成11年４月１日から公開することを平成10年６月９日の情報・広報委員会において決定した。

**〈改革構想の策定と推進〉**

平成９年度に設置された改革構想特別委員会において，継続審議されてきた「上越教育大学改革構想」が策定され，平成10年９月24日の教授会において最終報告された。

改革構想特別委員会の「上越教育大学改革構想（最終報告）」を受け，大学改革に向けての具体的な検討を行い「上越教育大学改革計画」を策定し，その計画を推進するため，新たに改革推進特別委員会を設置することについて，平成10年９月24日の教授会において決定した。

**〈創立20周年記念式典の挙行〉**

本学の創立20周年を祝う記念式典を，平成10年10月２日に350人の来賓を迎えて盛大に挙行した。記念式典に先立ち，本学が平成９年度に教員就職率で全国第１位となったことを喜ぶとともに，教師教育のリーダーとして発展することを目指し，「イチイ（一位）」の木を植樹した。

また，記念式典の当日から３日間にわたり，「造形活動ワークショップ」，「学びのひろばオンキャンパス」，「市民参加ふれあい講座」など23の行事を実施し，およそ6,500人の市民が共に本学の20周年を祝った。

**〈フレンドシップ事業に係るシンポジウムの開催〉**

平成10年度からスタートした本学フレンドシップ事業のまとめとして，「教員養成課程における体験学習の意義とそのあり方」をテーマに，体験的カリキュラムの意義とその内容，学生参加のあり方，各種教育機関等との協力体制の在り方について協議するため，フレンドシップ事業シンポジウムを平成10年12月12日に開催した。シンポジウムでは，土井進（信州大学教授）及び坂本登（国立岩手山青年の家所長）の両氏による基調講演の後，両氏及び小池務（国立妙高少年自然の家専門職員）他５人の教育委員会等関係者をシンポジストに迎えたパネルディスカッションを行った。

**〈次期学長候補者の決定〉**

本学助手以上の専任教員による第１次選挙（平成11年１月14日）及び第２次選挙（平成11年１月20日）の結果，大澤副学長が当選し，平成11年１月20日の教授会において，同副学長を次期学長候補者に決定した。

**〈セクシュアル・ハラスメントに関するガイドラインの作成〉**

セクシュアル・ハラスメント対策ガイドライン等制定委員会が，本学におけるセクシュアル・ハラスメントの防止及び被害者の救済等のため，セクシュアル・ハラスメントに関するガイドラインを平成11年１月に作成し，本学学生及び教職員全員に配付した。

**〈介護等体験特例法に基づく介護等体験の実施〉**

介護等体験特例法の施行に伴う，平成10年度介護等体験（社会福祉施設５日間）に１年次生160人の申込みがあり，

受入施設決定後，冬期・春期休業期間中に各社会福祉施設において介護等体験を行った。

## 2　10年度の大学運営を顧みて

平成10年度を振り返ってみると，第１に改革構想の策定と推進をあげなければならないであろう。

平成９年度から継続審議されてきた「上越教育大学改革構想」が改革構想特別委員会において策定され，平成10年９月の教授会において最終報告された。この改革構想の中には，６年一貫カリキュラム構想をはじめ，人間教育学中心の科目，ブリッジ科目，発達臨床コース等々といった，ユニークなアイディアが盛り込まれている。その方向は，新たな改革推進特別委員会のワーキンググループがボトムアップ方式によって更に興味深い新しいアイディアを生み，具体化に進んでいる。

平成11年度は，これらの知恵を寄り合わせて我が国のみならず，アジアや世界の教師教育にインパクトを与える構造改革プランが実現することを期待する。

第２にこれらの新しい改革動向の中で迎えた創立20周年記念行事が，平成10年10月をピークに相当の盛り上がりをみせたことである。

上越市の全面的な協力と，20年の本学の実績を評価していただいた市内の企業からの貴重なご寄附によって底力を発揮できたことは，「大学」という抽象的なイメージに，まさに「やればできる」という具体的な内容をつぎ込むことができた。

記念パーティーや外部から講師を招いての講演や，シンポジウムで終わるというありきたりの例から一歩抜け出して，学生の大学祭に一つのモデルを提供するほど，教官諸氏の自前のイベントは，折からの改革論議の進展を裏付けるような頼もしさを感じることができた。特に，地域の多数の子どもや市民を巻き込んだ企画から，内外の国際的に知られる教師教育研究者の方々のシンポジウムまで，本学の存在意義を明らかな形にしたこれらの幅広い催しが，これからの可能性を物語っている。

## 3　管理運営の概要

### (1)　評議会

評議会は，学長の諮問に応じ，国立大学の評議会に関する暫定措置を定める規則第６条第１項に規定する事項等を審議するために設置されており，学長，副学長，附属図書館長，学校教育研究センター長及び10人以内の教授（各教育研究部（系）部長，附属実技教育研究指導センター長及び各附属学校長のうち１人）で組織し，原則として毎月第２水曜日に開催している。

平成10年度においては，11回（第198回～第208回）開催し，主な審査事項は①学内規則等の制定・改正，②平成11年度歳出概算要求，平成10年度歳出学内予算，③本学における外国人教員の管理職への任用，④名誉教授の選考，⑤学内委員会の設置，⑥公開講座実施計画，⑦奨学寄附金及び受託研究の受入れ，⑧自己点検・評価，⑨「崔岩光（サイ・イエングワン）ソプラノコンサート」事業の共催，⑩セクシュアル・ハラスメントに係るリーフレット等の作成・同対策委員会の設置等であった。（各回の議題については，学報65号～第67号参照）

### (2)　教授会

教授会は，学部の教育研究に関する重要事項を審議し，及び教育公務員特例法の規定によりその権限に属することとされた事項を行うために設置されており，学長，副学長及び教授で組織し，原則として毎月第４水曜日に開催している。なお，教授会には専門的事項について調査検討を行うため，５つの専門委員会が置かれている。

平成10年度においては，17回（第226回～第242回）開催し，主な審議事項は，①学長選挙，②教員人事，③役職員の選考，④専門委員会委員の委嘱，⑤学生募集要項，⑥入学者選抜試験の実施及び合格者の判定，⑦学生の

退学及び休学，⑧卒業判定，⑨教育課程，学年暦，教育実習実施計画，⑩科目等履修生の受入れ，⑪上越教育大学改革構想，⑫独立行政法人化への対応，⑬自己点検・評価等であった。

### (3) 大学院学校教育研究科委員会

大学院学校教育研究科委員会は，大学院（学校教育研究科）の教育研究に関する重要事項を審議するために設置されており，研究科長（学長）及び副学長及び研究科担当を命じられた教授で組織し，原則として毎月第４水曜日に開催している。なお，委員会には専門的事項について調査検討を行うため，６つの専門委員会が置かれている。

平成10年度においては，16回（第218回～第233回）開催し，主な審議事項は，①大学院担当教員の判定，②専門委員会委員の委嘱，③学生募集要項，④入学者選抜試験の実施及び合格者の判定，⑤学生の退学及び休学，⑥修了判定，⑦教育課程，学年暦，⑧ティーチング・アシスタントの選考，⑨科目等履修生及び研究生の受入れ，⑩自己点検・評価等であった。

### (4) 連合大学院委員会

連合大学院委員会は，本学が構成大学として参加する兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科（平成８年４月１日設置，以下「連合研究科」とする。）と本学との連絡調整に関する事項並びに連合研究科の研究科委員会及び研究科代議委員会の審議事項に関する事項等について審議するために設置されており，学長，副学長及び連合研究科の主指導教官有資格者である教授で組織し，原則として毎月第４水曜日に開催している。

平成10年度においては，11回（第20回～第30回）開催し，主な審議事項は，①リサーチ・アシスタント，②研究科教官候補者の推薦，③ティーチング・アシスタントの選考，④上越教育大学連合大学院委員会規程第９条に規定する各種学内委員会への付託，⑤連合研究科幹事の選出等であった。

### (5) 参与会

参与会は，国立学校設置法施行規則第29条の５の規定に基づき，本学の基本理念を理解し，教員の養成及び大学の教育について広く，かつ，高い識見を有する学外の者から学長が選考した参与並びに学長，副学長及び事務局長をもって組織している。

平成10年度においては，６月30日に開催し，本学の運営及び教育・研究並びに大学改革構想に関して，活発な意見交換が行われ，それらの諸問題に対する本学の対応について，貴重な指導・助言が得られた。

平成10年度における参与（職名は，平成10年度４月１日現在）は，次のとおりである。

| | |
|---|---|
| 市川　　正 | 東京都教育委員会委員長 |
| 井内慶次郎 | 財団法人日本視聴覚教育協会会長 |
| 黒羽　亮一 | 常磐大学教授 |
| 河野　重男 | 東京家政学院大学長 |
| 後藤　亮一 | 上越市立東本町小学校長（新潟県小学校長会会長） |
| 佐久間舜二 | 日本衛星放送株式会社代表取締役社長 |
| 髙橋　信雄 | 髙助合名会社社長 |
| 辰野　千壽 | 財団法人応用教育研究所所長（元上越教育大学長） |
| 平山　征夫 | 新潟県知事 |
| 宮越　　馨 | 上越市長 |

### ⑹ 自己評価等委員会

自己評価等委員会は，本学の教育研究水準の向上並びに設置目的及び社会的使命達成のため，教育研究活動等について自ら点検・評価を行うことを目的に設置されており，学長，副学長，附属図書館長，学校教育研究センター長，学部主事，事務局長その他学長が指名した教授の計15人で構成している。

平成10年度においては，６回開催し，平成９年度自己点検・評価結果，本委員会が実施組織となる項目（部組織の運営体制･状況，研究費の財源（学外からの資金の導入状況，科学研究費補助金の採択状況等））に係る自己点検・評価の実施，年次報告書（第14集：平成10年度版）の作成等について審議した。

その審議結果に基づき，各種委員会等への自己点検・評価の実施依頼，各種委員会等への自己点検・評価内容の充実に関する通知，各教官への研究活動及び社会との連携に関する状況調査，年次報告書（平成10年度版）原稿の提出依頼等を行った。

### ⑺ 将来計画検討委員会

将来計画検討委員会は，本学独自の将来計画を策定し，さらに，本学の組織及び運営の現状を検討し必要に応じてその改善策を策定することを目的として設置されており，評議員，各附属学校長及び事務局長により組織されている。

平成10年度においては，１回（第50回）開催し，大学審議会答申（平成10年10月26日）に関し本学における具体的な改革方策について検討を行った。

### ⑻ 教員人事

① 人事委員会

教授会に置かれる専門委員会として，教員の人事に関する事項を専門的に調査検討するため，人事委員会が設置されており，副学長，各部から選出された教授各２人（生活・健康系教育研究部は３人）の計17人及び臨時委員（選考案件ごとに当該部から選出される教授２人）で構成している。

人事委員会は，教員の選考に当たっては，選考案件ごとに教員選考審査会を設置して，候補者の業績審査等を付託し，同審査会の審査報告を基に審議を行っている。

委員会は，毎月１回，定例教授会開催日の１週間前の開催を原則としており，平成10年度は11回開催した。教員任用の審査件数は次のとおりである。

| 職　名 | 平成10年度 | | | | | | | 平成９年度 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 件数 | 採用 | 昇任 | 転任 | 配置換 | 降任 | 併任 | 件数 | 採用 | 昇任 | 転任 | 配置換 | 降任 | 併任 |
| 教　授 | 12 | | 6 | | 4 | 2 | | 10 | 1 | 8 | | | | 1 |
| 助教授 | 3 | | 1 | | 2 | | | 7 | | 5 | 1 | 1 | | |
| 講　師 | 2 | 1 | 1 | | | | | 5 | | 3 | 1 | 1 | | |
| 助　手 | 2 | 2 | | | | | | 3 | 2 | | 1 | | | |
| その他 | 54 | — | — | — | — | — | — | 63 | — | — | — | — | — | — |
| 計 | 73 | 3 | 8 | | 6 | 2 | | 88 | 3 | 16 | 3 | 2 | | 1 |

（注）「その他」は非常勤講師，外国人教師及び客員研究員を示す。

② その他

ア 役職員

平成10年度役職員は，次のとおりである。

(ア) 部局長等

| | |
|---|---|
| 学長 | 加藤　章 |
| 副学長 | 大澤健郎 |
| 副学長 | 湧井　豊 |
| 附属図書館長 | 前田　幹 |
| 第一部学部主事 | 細井房明 |
| 第二部学部主事 | 鈴木敏紀 |
| 第三部学部主事 | 渡邉　隆 |
| 第四部学部主事 | 工藤智昭 |
| 第五部学部主事 | 丸山芳郎 |
| 学校教育研究センター長 | 新井郁男 |
| 保健管理センター所長 | 山本　保 |
| 情報処理センター長 | 中川清隆 |
| 附属実技教育研究指導センター長 | 伊達　博 |
| 附属障害児教育実践センター長 | 森島　慧 |
| 附属小学校長 | 南舘忠智 |
| 附属中学校長 | 二谷貞夫 |
| 附属幼稚園長 | 太田將勝 |

(イ) 評議員

| | |
|---|---|
| 学長 | 加藤　章 |
| 副学長 | 大澤健郎 |
| 副学長 | 湧井　豊 |
| 附属図書館長 | 前田　幹 |
| 学校教育研究センター長 | 新井郁男 |
| 教授 | 細井房明 |
| 教授 | 鈴木敏紀 |
| 教授 | 渡邉　隆 |
| 教授 | 工藤智昭 |
| 教授 | 丸山芳郎 |
| 教授 | 伊達　博 |
| 教授 | 二谷貞夫 |
| 教授 | 西　穣司 |
| 教授 | 有澤俊太郎 |

イ　名誉教授

上越教育大学名誉教授称号授与規則に基づき，平成10年度は次の者に名誉教授の称号が授与された。

小野昭一（元教授学校教育学部）
酒井倫夫（　〃　）
塚原　実（　〃　）

### ⑼ 財務

本学の「学内予算配分」,「概算要求」については，評議会の審議事項となっている。

また，「学内予算配分」に当たって検討を要する事案については，評議会の付託により予算委員会で審議することとなっている。

① 学内予算配分

ア 平成10年度学内予算配分は，予算委員会で審議の後，平成10年７月８日開催の第201回評議会で承認された。評議会での学内予算配分対象事項は，校費については教官当積算校費，大学院学生当積算校費及び学部学生当積算校費であり，職員旅費については教官研究旅費となっている。

イ 平成10年度連合研究科学内予算配分は，予算委員会で審議の後，平成10年７月８日開催の第201回評議会で承認された。

② 概算要求

ア 平成11年度概算要求事項は，平成10年６月10日開催の第200回評議会で承認された後，文部省へ提出された。

イ 平成10年度の概算要求において認められた事項は，次のとおりである。

(ア) 特別設備費 授業演習観察訓練記録システム 一式

(イ) 図書館設備費 図書購入費（全体８年計画の６年次分）

### ⑽ 広報活動

① 情報・広報委員会

情報・広報委員会は，本学に関する情報・広報に係る基本方針に関する事項並びに広報機能の能率性向上及び有機的な情報・広報活動の確保に関する事項等について審議することを目的として，平成10年４月に設置された。委員会は，学長，副学長，附属図書館長，各種委員会委員長，事務局長及び学長が指名した者で組織している。また，委員会には専門的事項について調査検討を行うため，電子情報専門部会と出版専門部会が置かれている。

平成10年度においては，３回開催し，主に「上越教育大学公式ホームページ」の開設に向け，公開事項等について検討を重ねてきた。また，大学院だより出版専門部会及び学園だより出版専門部会においては，それぞれ大学院だよりのNo.49～No.51及び学園だよりの第６号，第７号を編集・発行した。

② その他の広報活動

ア 広報刊行物

本学の学生募集や各種事業に関する広報活動は，各委員会，センター・附属学校等の部局及び事務局の担当部署が行っている。平成10年度に本学が発行した広報刊行物は，第５章資料編「広報刊行物一覧」のとおりである。

イ 新教育大学紹介コーナー

本学，兵庫教育大学及び鳴門教育大学の３大学が共同で国立教育会館学校教育研修所（茨城県つくば市）と国立特殊教育総合研究所（神奈川県横須賀市）の２カ所に新教育大学紹介コーナーを設置しており，写真パネルや広報刊行物等の資料を展示し，両施設に研修に訪れた現職教員等に本学の情報を提供している。

### ⑾ 教員組織

#### ① 学校教育研究系

本研究系では，教育基礎，教育経営，教育方法，生徒指導の４講座に所属する教官と，学校教育研究センターに所属する教官との全員によって部の教員会議を組織しており，原則として毎月１回，第３水曜日の午後１時

より３時頃まで開催してきた(平成10年度は計11回開催)。その他，入学者選抜に関する臨時の教員会議を２回開催した。会議の進行は部長が担当し，会議の議事要旨の作成は４講座及び学校教育研究センター所属の助手が交替して行った。

会議の主な議題は，評議会，教授会，研究科委員会及び各種委員会の報告と部の運営に関わる課題等についての協議事項である。とくに平成10年度においては，前年度より系内に検討委員会を設置して協議を重ねてきた本研究系の教員人事システムの改善案を３回にわたって慎重に審議した。しかしながら，部長提案による改善案は投票の結果十分な合意が得られなかったため，今後も引き続き改善策を探ることにした。

**② 幼児・障害児教育研究系**

幼児・障害児教育研究系においては，原則として，月に１回（評議会の翌週，12時30分～13時20分），系の教官会議を開催することにしている。そこで，これを承けて，本年度は平成10年４月15日に開催された〈第１回系教官会議〉を皮切りに平成11年３月までに，８月を除き，11回のそれを行うことになった（ただし，日程の都合がつかず２回は文書でもって報告し，教官会議は開催しなかった)。そこで扱われた中心テーマは幼児教育講座と障害児教育講座に共通に関連する事項及び各種委員会のうち，１方の講座からのみ委員が選出されている委員会にかかわる事項のみである。(その他の事項については，各講座の主体性を尊重し，各講座会議でとりあげることになっている。）そのようなことから，この〈系教官会議〉では，評議会や改革推進特別委員会，教育課程検討委員会，自己評価等委員会等の構成員である部長をはじめとする各委員会の委員により，委員会等で審議・報告された事項について，可能な限り正確に伝えるための努力等がなされた。また，本研究系では，系における教官の人事等に関わる重要な案件については，系の〈教授会〉でとりあげ，審議することになっているので，本年度もそれが行われた。

**③ 言語系教育研究系**

原則として月の第３水曜日に定例部会（社会系教育研究系と合同で２部会を組織）を開催した。当該月の評議会で議せられ，報告された案件について，部選出の評議員が配布資料に基づいて報告し，質問などに答えた。部にかかわる案件については，討議を行い，部の意見の集約を図った。

言語系教育研究系としては，国語コース，外国語コースに分かれて，各講座主任の主催する教室会議で各コースにかかわる諸問題を処理してきた。人事案件については，各コースの討議を踏まえて言語系教授会を開催して審議を行った。平成10年度は，６月３日㈬と10月７日㈬に開催された。

日本教育大学協会北陸地区第二部会国語科・書道科合同研究協議会が，10月29日㈭，30日㈮の両日，本学を当番校として開催された。

連合大学院関係では，必要に応じて講座代表者が言語系教官会議を召集した。平成10年度は，５月15日㈮と３月４日㈭に開催された。

**④ 社会系教育研究系**

当研究系は，平成10年度中に，教授のみによる教員会議を３回，全構成員による教員会議を18回開催した。教授のみによる教員会議はすべて人事に関するものであり，その結果はすべて全構成員による教員会議に報告され，あるいは審議事項として提案された。平成10年度における全構成員による教員会議で審議・検討された内容は多岐にわたっているが，主なものをあげれば次のようである。①助教授から教授への昇進に係る案件２件。これは後にいずれも人事委員会及び教授会において承認された。②各種委員会委員の選出，③平成11年度の哲学，法律学の非常勤講師に関する件，④各種委員会報告，⑤部長による教授会・研究科委員会の報告，及び配布文書に関する報告，⑥講座主任による日本教育大学協会北陸地区社会科部門研究協議会報告，⑦大学院修士課程１年生の指導教官の決定，⑧学部３年生のゼミ所属の決定，⑨大学改革及びカリキュラム編成に関する件，などである。

⑤　自然系教育研究部

部教員会議は，原則として８月を除く毎月第３水曜日を原則として開催された。

会議は，議題，報告その他に分けて行われ，(1)評議会及び学部主事の役職指定による各種委員会，(2)その他の各種委員会，からの付託事項に関しての議事及び報告事項が取り扱われた。

自然系では，教官会議は大学の管理運営に関する情報の速やかな伝達と評議会等からの付託事項への意見の集約が大きな役目であると認識されている。今年度，特に印象に残った議題は次のとおりである。

ア　セクシャルハラスメント対策

イ　上越教育大学創立20周年

ウ　大学改革

⑥　芸術系教育研究部

芸術系の定例部会は原則として第３水曜日の午後１時から開催してきた。日程調整がつかず開催できない月もあったが，平成10年度は合計９回の会議を実施した。議題・報告等は評議会をはじめとする部長が務める委員会と，芸術系から１人のみ選出の委員会の報告が行われ，必要に応じ協議がなされた。一方，主として人事案件が生じた際に，教授のみによる会議を開催し，慎重な審議を行った。また，全学教官会議や，音楽・美術各講座会議の中から芸術系として協議しなければならない事項を議題として組み入れた。いずれも，各委員会の資料の中から特に必要と考えられるもののみを部会の資料とし，評議会，教授会，研究科委員会等の全資料は各合研に備え付けの書類により情報伝達を行った。なお，今年度の採用人事は凍結措置により実現できなかったが，昇任人事については一応の成果をみた。

⑦　生活・健康系教育研究部

生活・健康系研究部は，保健体育，技術，家庭の３講座の教官によって教員会議を組織し，原則として毎月第３水曜日（８月を除く）の12時30分から人事委員会が始まるまでの間に開催した。会議の進行は部長が行い，議事録の作成は３講座の助手が交替で行った。会議の主な議題は，評議会，各種委員会の報告並びに関連した課題についての審議であった。年度当初には，講座主任会議を開催し，生活・健康系教員会議に諮って検討すべき事項や各講座において予定されている人事案件等について意見交換を行った。

⑧　合同部（系）教員会議

本会議においては，学長団よりそれぞれの時点で当面している本学の諸問題や本学の将来に関わる方針・展望について開陳してもらい，出席した教官より質問・要望を提出してもらい，学長がそれに応ずるという形で開催し，それぞれの時点における情報の周知伝達，特に教授会構成員でない教官の意見・要望の吸い上げに努力してきた。

平成10年度においては３回開催（平成10年５月13日，９月22日，12月16日）し，改革構想特別委員会報告，今後の改革の進め方，国立大学の独立行政法人化等について，教官との間で質疑応答及び活発な意見交換が行われた。

⑿　施設整備

①　施設整備状況として，基幹・環境整備（機器更新）が平成11年３月に完了した。

②　平成11年度施設整備費概算要求事業として，大学院Ａ棟，大学院Ｂ棟，大学会館，体育棟改修，基幹・環境整備の５件を要求した。

③　20周年記念事業として，大学会館テラスが平成10年９月に完成した。また，記念植樹を平成10年10月に行った。

④　営繕工事として，全天候型テニスコートの改修，情報教育拡充のため人文棟情報訓練室改修，附属中学校照

明設備改修，附属小学校下水道切替工事及び機械設備棟等防水改修等を含め21件の事業を実施した。

⑤　保全業務として，消防設備，高圧受変電設備，昇降機設備，電話交換機設備，生活排水処理施設，設備監視装置等を含め16件の事業を実施した。

⑥　その他建物等修繕工事として，山屋敷職員宿舎天井改修工事，学生宿舎補食室改修工事等を含め40件の事業を実施した。

### ⑬　創立20周年記念行事

本学は，平成10年10月1日に創立20周年を迎え，これを記念して創立20周年記念式典を10月2日に本学講堂で挙行した。式典には御手洗文部省教育助成局長をはじめ334人の来賓と本学職員，学生代表等計419人が出席し，学長式辞，来賓式辞，学生代表あいさつ及び祝電披露をもって終了した。その後附属小・中学校児童生徒及び本学混成合唱団による記念合唱をはさんで記念祝賀会を本学体育館で開催し，関係者460人が出席した。

また，本学が立地する上越市の市民とともに20周年を祝い，地域に開かれた大学としてさらに貢献していくため，記念式典の当日から3日間にわたり次のような「市民参加事業」を実施した。多数の市民の参加を得て，大きな成果をあげることができた。

| 行　事　等　名 | 参加者数 | 日　　時 | 場　　所 |
|---|---|---|---|
| 記念講演・シンポジウム | 約110人 | 10月3日<br>第1部　10：00～12：00<br>第2部　13：30～16：30 | 講堂 |
| 造形活動ワークショップ | 約350人 | 10月3日　10：00～16：00<br>ワークショップ<br>4日　10：00～16：00<br>ワークショップ | 中庭 |
| | 約150人 | シンポジウム | 講義棟301 |
| 教官演奏会Ⅰ | 約450人 | 10月3日　19：00～20：30 | 講堂 |
| 教官演奏会Ⅱ | 約400人 | 4日　14：00～16：00 | |
| 学生演奏会 | 約250人 | 10月25日　13：30～16：00 | 講堂 |
| 記念文化講演会 | 154人 | 9月26日　14：00～16：00 | 文化会館 |
| 20年の歩みパネル展 | 約300人 | 9月21日～25日 | 市役所ホール |
| | 約1,300人 | 10月2日～4日 | 講堂ホール |
| | 約1,000人 | 10月27日～11月8日 | エルマール |
| | 約500人 | 11月18日～22日 | アコーレ |
| | 約400人 | 12月8日～11日 | 高田図書館市民ギャラリー |
| 留学生と市民との交流会 | 約50人 | 9月26日　14：00～17：00 | 講義棟301 |
| 外国人招へい教授講演会 | 15人 | 10月4日　13：00～15：00 | 講義棟102 |
| 中国楽器演奏者と崔岩光を囲む国際文化交流会 | 約200人 | 7月18日　15：30～17：00 | 講堂 |

●市民参加ふれあい講座

| | | | |
|---|---|---|---|
| みんなで考えよう！私たちの敬語 | 約90人 | 9月12日　14：00～17：30 | 講堂，講義棟202 |
| フィルム・ワークショップin上教大 | 約50人 | 10月3･4日　10：00～ | |
| フォーラム　謙信・景勝と春日山城 | 405人 | 10月17日　シンポジウム | リージョンプラザ上越 |
| | 95人 | 18日　春日山城跡見学会 | 春日山城跡 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 一日大学生 | 21人 | 10月４日　10：00～15：30 | 講義棟103他 |
| 生活の中のミラクル体験 | 約200人 | 10月３日　10：00～16：00 | 自然棟219他 |
| 体力測定・体力相談 | 約70人 | 10月３日　13：00～15：00<br>４日　10：00～15：00 | スポーツ科学実験棟 |
| スポーツ広場 | 49人 | 10月２日　10：00～10：30<br>３日　14：00～14：30 | 体育館，トレーニング室，ダンス室 |
| | 28人 | ４日　９：00～16：00 | グラウンド |
| 学びのひろばオンキャンパス | 293人 | 10月４日　９：00～15：30 | 大学構内 |

●大学施設公開・展示

| | | | |
|---|---|---|---|
| 大型分析機器公開及びコンピュータによる教育情報等の公開 | 約150人 | 10月3･4日 13：00～15：00 | レーザー実験室<br>鉱物実験室<br>情報処理センター |
| LL教室（マルチメディア教室）公開 | 5人 | 10月２日　10：00～16：00 | LL教室 |
| アジアの楽器の展示 | 約200人 | 10月３日　13：00～18：30<br>４日　10：00～16：00 | 音楽棟101<br>音楽棟102 |
| 機器等展示・公開 | 約210人 | 10月3･4日 10：00～16：00 | 講義棟104<br>講義棟１Ｆロビー |
| スポーツ科学実験棟施設・測定機器等の公開 | 81人 | 10月２日　12：00～17：00<br>3･4日　９：00～17：00 | スポーツ科学実験棟 |
| 情報処理センターの公開 | 約20人 | 10月４日　８：30～17：00 | 情報処理センター |
| 附属図書館の公開 | 約60人 | 10月3･4日 11：00～17：00 | 附属図書館 |

| | | |
|---|---|---|
| 参　加　者　合　計 | 7,656人 | |

### ⑭　事務局

①　事務連絡会

事務連絡会は，本学運営の連絡調整とその円滑な運営を図ることを目的として設置されており，事務局長，各部課長・主幹及び課長補佐で組織し，原則として毎月１回開催している。

平成10年度においては，事務局の自己点検・評価の実施についての審議を行ったほか，各課・主幹等における事務の連絡調整を行った。

②　各課の主な業務

ア　「さわやか行政サービス運動」における研修

事務職員を対象に，６月29日㈪に外部講師を招き，午前と午後の２班に分かれてそれぞれ約３時間の研修を実施し，さわやか行政サービス運動に対する理解を深めるとともに，行政サービスの改善を図った。

研修の実施により，職場でのコミュニケーション及び自己表現に関すること等についての知識，技能を習得することができ，今後の行政サービスの向上を図ることができた。

イ　関東甲信越地区国立大学長会議

本学及び東京商船大学が当番校となり，臨時関東甲信越地区国立大学長会議を７月23日㈭に国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて，第46回関東甲信越地区国立大学長会議を10月16日㈮に如水会館においてそれぞれ開催した。

ウ　会計検査院会計実地監査

会計検査院による会計実地監査が平成11年１月28日㈭・29日㈮に実施され，会計事務全般にわたって監査

を受けた。

エ　文部省会計監査

平成10年度文部省会計実地監査が７月21日㈫･22日㈬に実施され，会計事務全般にわたって監査を受けた。

オ　消防訓練

11月24日㈫に上越南消防署の協力を得て，学長以下全職員が参加し，初期消火，避難誘導及び救護等の消防訓練を実施した。

カ　学内パソコン研修

パソコンを事務に活用するため事務職員を対象とした研修が，Ａコースを11月４日㈬から６日㈮の３日間実施し11人が受講，Ｂコースを11月９日㈪から11日㈬の３日間実施し15人が受講しそれぞれパソコンに対する知識を習得した。

キ　全国国立教育系大学学生部部課長連絡協議会

平成10年度全国国立教育系大学学生部部課長連絡協議会を本学が当番校になり11月５日㈭・６日㈮に上越ワシントンホテルにおいて開催した。

ク　都道府県教育委員会との懇談会

各教育委員会の本学大学院に対する理解を深め，学生定員の充足に資するため，都道府県教育委員会との懇談会を平成11年１月21日㈭・22日㈮に実施した。

今年度は，秋田県，栃木県，埼玉県，東京都及び新潟県の５都県を対象に，本学大学院の研究・教育の指導方針及び現状等について説明し，現職教員の派遣増等について一層の理解を求めた。

また，各教育委員会と本学に派遣されている現職教員との間で直接情報交換を行う機会を設け，各都県ごとに懇談会を実施した。

ケ　都道府県教育委員会等の訪問

各教育委員会，学校等を訪問し，現職教員の派遣及び派遣増を要請した。

今年度は，岩手県，宮城県，千葉県，茨城県，岐阜県，静岡県，奈良県，和歌山県，広島県，山口県の10県を訪問した。

コ　上越教育大学留学生フォーラム及び外国人留学生懇親会の実施

地域と大学が一体となった留学生受入れ体制の整備と上越地域の国際化に向けた事業を推進することを目的とした「留学生フォーラム及び外国人留学生懇親会」を実施した。

サ　自動学割証発行機の設置等

学生課事務室内に自動学割証発行機を設置し，学生が学生証を使用することにより窓口業務時間内に随時交付を受けられるよう学生へのサービスの充実を図った。

また，大学会館第１食堂にテラスを設置し，屋外で食事・休憩等ができるように整備した。

### ⑮　その他

①　環境委員会

大学構内の建物利用，設置構想から緑化保護までを環境保護・保全・整備という総合的な見地から審議するため，学長を委員長とし，副学長，附属図書館長，学校教育研究センター長，評議員，事務局長を構成員として設置されており，建物施設専門部会，緑化保全専門部会，交通安全専門部会の３部会がおかれている。平成10年度においては，環境委員会及び建物施設専門部会，緑化保全専門部会は開催しなかったが，交通安全専門部会を平成10年７月に開催し，構内の交通安全対策及び指導方法について審議し，平成10年９月に交通安全専門部会委員による巡回指導を実施した他，適宜警備員による入構違反車両の排除及び駐車違反車両に輪止めの

措置等の対策を講じた。

② 実験廃棄物等管理委員会

本学の研究教育に伴い発生する実験廃棄物等の管理及び取扱いの指導，実験廃水処理施設等の運営に関する事項等を審議するため，学長が指名する副学長及び各部から選出される委員各１人から構成されている。

平成10年度においては，塩素系溶剤，可燃性溶剤，実験廃液等約440リットルの処理を行った。

③ 職員レクリエーション委員会

職員レクリエーション委員会は，本学職員のレクリエーション活動に関し，学内の意見を聴き，円滑な実施を図るために設置されており，学長が指名する副学長，各教育研究部及び各附属学校から選出された者各１人，事務局長，事務局の職員のうちから学長が指名する者３人の計15人で構成している。

平成10年度においては，１回開催し，本年度のレクリエーション行事の計画について審議し，その審議結果に基づき，本年度のレクリエーションを実施した。

## 4 教育・研究活動

### (1) 各講座の教育・研究

〈学校教育研究系〉

#### ① 教育基礎講座

【講座の概括】

昨年度講座は教育課程と院生指導体制の抜本的な改善を図ったが，本年度は，①教育基礎研究法（１年次必修）で指導した項目の内，学術論文作成に関する基本的な知識の定着について特に教育学領域について課題を残した。しかし，②新設演習Ⅰ，Ⅱ及び計４回にわたる講座指導により，今年度も学位論文の水準をレベルアップすることができた。

教官の研究活動等に関しては以下のとおりである。現在大前敦巳氏が平成10年９月より引き続きフランスに留学中である。杵淵俊夫氏が平成10年５月に博士（教育学）の学位を東北大学より授与された。本講座における博士学位取得者は５人になる。平成10年度の科学研究費補助金基盤研究(C)を増井三夫氏と若林明雄氏が交付された。さらに若林明雄氏は日本心理学会より刊行助成を受け，平成11年夏に著書が刊行される予定である。その若林氏が平成11年４月１日付けで千葉大学文学部へ転出されることになった。

【講座における教育・研究の特色】

本講座は学校教育に関する基礎領域を扱っている。年々，現職院生がその教育実践で生じたテーマについて基礎研究をおこなう体制が定着しつつあり，他大学院に比しても高い水準の成果が蓄積されつつある。「講座の概括」で記したように，院生の研究指導は，教育基礎研究法→特論→演習Ⅰ・Ⅱ→講座全体指導→学位論文作成→研究発表会という体制を取っている。とくに，12月１日の学位論文仮提出→主査・副査３人の査読→２週間後の指導は，論文の精度を高めるうえで，院生からも高い評価をえた。院生間の研究活動は相互に親密的でしかもとくに今年度は自律的になってきている。今年度の非常勤講師科目「教育基礎論」に一橋大学大学院社会学研究科イ・ヨンスク博士をお招きして開講された。学内外の聴講者多数が受講した。

#### ② 教育経営講座

【講座の概括】

平成10年度４月１日付で，安藤知子教官が本講座所属の助手に就任した（筑波大学教育学系助手より配置換）。また，古賀一博助教授が平成10年９月１日より文部省在外研究員として，米国カリフォルニア大学バークレイ校へ出張した（平成11年６月30日までの予定）。

本講座では，従前より大学院のコース専攻科目の中の所属教官全員担当授業を機軸に緊密な協力的指導体制

を重視した教育活動を展開しており，平成10年度は次のとおり実施した。４月25日～26日に，牧村「深山荘」において合宿研究会を開催した。ここでは，学部３・４年次生については卒業研究の構想発表，大学院１年次生については課題研究のオリエンテーション，大学院２年次生については修士論文の構想発表の機会とし，所属教官全員が指導に当たった。幸い，本コース修了者の出席も得られ，集中的かつ有益な指導ができたと考えらる。また，10月24日㈯には，大学院２年次生の修士論文執筆過程での中間報告会を開催し，大学院１年次生にも出席させてコース全体の修士論文の質的充実のための指導を行った。なお，９月19日～22日には，岡東壽隆氏（広島大学教育学部教授）を非常勤講師に迎え，大学院の「教育計画特論」の授業を担当いただいた。

【講座における教育・研究の特色】

第一に，大学院修士課程の「課題研究」の授業を中心に所属教官全員による協力的指導体制を重視している。具体的には，４月下旬には１泊２日の合宿研究会，10月下旬には修士論文執筆過程での中間報告会を開催し，所属教官全員が出席して緊密な協力体制による指導を心掛けている。

第二に，本講座としての研究面での独自性を追求し，併せて大学院修了者の研究活動を奨励する趣旨で研究団体（上越教育経営研究会，平成６年４月発足）を組織し，定期的に機関誌を編集･発行している。（最新号は，平成11年３月発行の『教育経営研究』第５号である。）

第三に，教育経営に関する全国的な最新の研究動向を把握し，さらに本講座の研究活動の独創性を追求するために，各教官が所属する全国規模の研究学会の大会等に大学院生の出席・研究発表を促している。具体的には，平成10年８月開催の日本学校教育学会第13回研究大会（於：埼玉短期大学）において，本講座関係の現役大学院生10人が研究発表を行った。

### ③　教育方法講座

【講座の概括】

本講座は，教育の方法・技術を対象とした学問領域，すなわち教育方法学・教授学，教育課程論，学習指導論，学習・認知心理学，教育評価・統計，教育工学，授業分析法，教育情報学を網羅し，各教官がそれぞれの分野で勢力的に研究した成果に基づいて教育にあたっている。

大学院生の修士論文指導は，テーマごとに指導教官を決め，個別指導を中心にして進め，さらに講座の教官全員の指導を１年次には構想発表（１回），２年次に修士論文研究発表（２回）の場として厳しく行った。ただ，院生定員は10人であるにもかかわらず，常に定員をオーバーした志願者があり，本年度は１年次生19人，２年次生23人の計42人が在席している。このため院生研究室が狭く，その機能が果たせず，全員が落ち着いて学習や研究のできる環境にはない。そのため，まず院生の研究環境の整備が望まれる。次に，専任教官の増員を強く要望しつつ，コースの研究・教育の充実を一層図っていきたいと念じている。

なお，学部「日本の教育」では国立教育研究所教育方法研究室長の高浦勝義氏，大学院「学習指導特論」は名古屋大学教授安彦忠彦氏によって集中講義が行われ，いずれも学生に好評を博した。

【講座における教育・研究の特色】

教育方法講座では，授業改善に関する有効な理論の構築とその研究方法の開発に基本的な目標をおき，教育の方法・技術について，教育方法学，教育課程論，教授学，認知・学習心理学，教育工学，教育情報学，教育評価法などの学問分野から，専門的・総合的に研究・教育を行っている。

授業実践を核としながら，学校生活全般にわたる教育・学習活動，及びその背景にある社会的文脈をも視野に入れた幅広い問題意識を持ち，またそれらの問題に対して，深く鋭い分析を加えるための，高度な研究能力や実践能力を身につけることを目指している。

具体的には，主として，①教育学的・教授学的アプローチ，②心理学的・教育評価的アプローチ，③授業分析的・教育工学的アプローチの３つにより，研究・教育を進めている。

院生は，各自の問題領域や研究計画に基づいて，いずれかのアプローチを選択し，その問題に対する理論的枠組みや研究方法への理解を深める。さらに，カリキュラム上，専攻科目の受講やコース全体での研究発表会などの機会を通じて，異なる学問分野や理論的立場にアプローチすることにより，学際的で柔軟な研究姿勢を学ぶことができるように教育・研究に特色をもたせて運用している。

④　生徒指導講座

【講座の概括】

生徒指導講座に在籍する大学院生は，１年次20人，２年次20人で，本年度も定員（10人）の倍であり，昨年度より学校教育研究センターの井上忠典講師の協力を得ているものの，論文指導の教官の負担は極めて大きい。引き続き，教官定員及び院生定員の再検討を強く希望したい。指導の限界を大きく超えた状況である。

大学院生の論文指導については，テーマにそった指導教官の個別指導に併せて，１年次７月，12月，２年次４月，９月の４回にわたり，全教官の指導を受ける中間発表会を行っている。また，生徒指導，カウンセリング，特別活動，道徳教育の演習において，事例に基づき，児童・生徒の理解，援助・指導のあり方について具体的に検討している。

いじめ，登校拒否などの問題解決への援助として，県担当事業による中学校・小学校への派遣カウンセラーに５人の教官が，文部省のスクールカウンセラーとして４人の教官がそれぞれ参加し，スーパービジョンを行いつつ，事例研究を行っている。

【講座における教育・研究の特色】

本講座では，生徒指導（臨床心理学領域，カウンセリング，進路指導を含む。），道徳教育，特別活動，社会教育など教科以外の教育活動に関する分野について，専門的，実践的，総合的な研究・教育を行う。

生徒指導（臨床心理学）の分野では，現在学校教育において重要な課題とされている，いじめ，登校拒否，非行など児童生徒の各種の不適応行動の理解と援助・指導のあり方について，先行研究を講読しつつ，事例を通して検討する。また，各種の心理検査を用いて，パーソナリティ，能力，態度などの理解を体験的に深め，援助・指導に結びつく診断のあり方についても検討する。

カウンセリングの領域では，様々な立場のカウンセリング，心理療法に関して，その人間観，パーソナリティ理解，それに基づく諸技法について研究する。さらに，ミニカウンセリング，ロールプレイング等の体験を通して，カウンセリングの基本的訓練を行う。

道徳教育の分野では，道徳教育の目標，内容，方法など指導上の諸問題及び児童生徒の道徳性の発達に関する諸問題を検討する。

特別活動の分野では，特別活動の原理や方法及び評価について考察を深めるとともに，主にグループワーク的手法を用いて実践的な研究・指導を行う。

さらに，すべての分野において，生徒指導の積極的側面として，豊かな人間性，自己指導能力を育成するための援助・指導のあり方についても検討する。

また，本年度は文部省委嘱研究「生徒指導の理論と方法」について研究を実施した。

〈幼児・障害児教育研究系〉

⑤　幼児教育講座

【講座の概括】

平成10年度の講座会議はほぼ２週間に１度の割合で定期的に開催された。具体的には，第１回目の４月９日を皮切りに３月17日の最終回に至るまでの計20回開催された。他に臨時の会議として新カリキュラム開発のための意見聴取を目的とした「談話会」が５回開催された。

講座運営における今年度の目標及び特徴は２点あった。１つは講座会議の効率的運営であり，会議時間の短

縮化を図ることを主たる目標とした。２つ目は，講座会議の内容に「学生・院生の状況と指導」を盛り込み，主として彼らの単位修得状況を定期的に点検し，具体的な指導対策を立案することに焦点を定めたことである。他に，学生・院生がシラバス検索を講座において行えるよう学生控室及び院生室にコンピューター機器の導入を，予算措置を講じて実現した。

効率的運営はほぼ実現されたが，やや柔軟性に欠ける面が認められた。学生・院生の状況把握と指導については，利用促進の方法を考案することが課題として残された。

【講座における教育・研究の特色】

幼児教育講座における教育•研究の特色は，実践的内容がますます色濃くなっているという点に認められる。本講座の場合，歴年「実践場面分析演習」や「基礎演習」を代表として現場志向が強力であったが，そうした傾向は学生•院生の研究にも拡大している。具体的には，修士論文（『幼児教育研究』第13号）や卒業論文（『卒業論文抄録集』第15号）に収録された研究をその方法論から見てみると，〈観察〉や〈事例研究〉という方法が増加しているのである。

講座教官の共同研究としては『幼稚園園児の自発活動を支える指導の在り方に関する基礎的研究(2)』が平成９年度教育研究学内特別経費による研究報告書として刊行された。保育実践場面における保育者の「援助行動」の実態を明らかにする研究がその中心を成している。他に，生活科担当教官の共同研究として『大学における〈〈生活科教育〉教育〉の探究』が印刷中である。

教育・授業面においても各教官が必要に応じて幼稚園観察・見学を取り込み，この点でも現場実践への志向性が強化されている。

研究面での今後の課題として実践を理論的に支える基礎的研究とのバランスを図っていく必要があろう。

### ⑥　障害児教育講座

【講座の概括】

障害児教育講座は，附属障害児教育実践センターと組織は別であるが，運営は一体となって行われている。従って，教官人数は両方合わせて14人で，それぞれの役割を決め一致協力して運営された。ただ，藤原義博教授が，平成10年３月に，米国に在外研究員として留学したので，実質は13人体制であった。講座会議は定例として月２回，必要に応じて臨時の会議を開き，情報や意見交換，必要事項の決定等を行ってきた。

各教官は，それぞれの専門分野で研究・教育を行っただけでなく，教育現場での講演や研究指導，教育相談等を通して，地域と密着した活動を行った。

文部省の科学研究費補助金は，基盤研究(C)３件と奨励研究(A)２件の交付を受けた。また，教育改善推進費（学長裁量経費）教育研究改革・改善プロジェクト経費では，３つのプロジェクトに交付された。さらに，教育基盤設備充実費の配分を受け，障害児心理学実験制御システムが設備された。

本年度の当講座は，１年次生23人，２年次生21人及び研修生３人であり，２年次生全員修士論文を完成させ修了することができた。

【講座における教育・研究の特色】

本講座では，障害児教育・福祉の現場で専門的，実践的な知識・技能を持った指導力の高い教育の養成を目指している。そのため，このような内容を重視したカリキュラムを編成している。具体的には，専門的な知識についての講義だけでなく，特殊教育諸学校や福祉施設等の観察・参加や附属障害児教育実践センターでの教育相談や臨床指導などで構成されている。また，障害児教育で対象とする障害の種類は多岐にわたっており，各障害に対して，様々な専門的分野から多角的にアプローチして，教育現場で直面している議題に対処しうる研究・教育を行っている。

院生の修士論文への取り組みは，本人の研究課題を尊重して進めるようにしている。従来，その作成に当たっ

ては，課題研究の一環として，プレデゲイン発表会（２月），デザイン発表会（４月），中間発表会（９月）を開催して，全員一律に同じ形式で進めてきた。しかし，院生の進捗状況に個人差が大きいことなどの理由から，これら３回の発表会が本来の目的を達成していないという反省のもと，検討を重ねた結果，次のように変更された。即ち，１年次の秋に論文の構想を発表し意見交換する「修士論文構想検討会」，４月の時点で論文の進捗状況を発表する「修士論文発表会１」，９月には同様な主旨で行う「修士論文発表会２」の３段階とし，それぞれの進捗状況を重視した場に変えられた。

〈言語系教育研究系〉

**⑦　言語系教育講座（国語）**

【講座の概括】

人事：平成10年４月１日付けで書写書道の押木秀樹助教授が着任した。また，同日付けで国語教育の渡部洋一郎助手が講師に昇任した。６月１日付けで迎勝彦助手が着任した。

学会：上越教育大学国語教育学会（国語講座の教官・学部学生・大学院生・卒業生・大学院修了生で構成）の学会誌『上越教育大学国語研究』第13号を平成11年２月に発刊した。執筆者は，前川幸雄教授，田島弘司講師，及び大学院修了生の平井修二，桑原哲朗，王承云の各氏である。

本学会の第16回総会・上越教育大学創立20周年記念「市民ふれあい講座」が平成10年９月12日に開催され，基調講演「現代社会と敬語」及びパネルディスカッション「私たちの敬語を考える」が本学講座にて行われた。また第36回例会が平成11年２月13日に開催され，前川幸雄教授及び大学院生３人，学部生２人の研究発表が行われた。

刊行：『教育実践場面分析演習（国語）の研究　学習者の言語感覚の変容に関する研究―詩歌学習における授業記録の分析を通して―』を平成11年３月に刊行した。

【講座における教育・研究の特色】

国語科教育は，原理・方法・教材等の各分野について，児童・生徒の成長・発達という視点から総合的・専門的に研究・教育する。

国語学は，音韻・文字・語彙・文法・文章等にわたって日本語の特質・構造及びその歴史を究明し，論理と実証の両面から総合的・専門的に研究・教育する。

国文学は，作品そのものの読みを深めるとともに，日本文学の史的展開相と特質を，文献学・文芸学・分析批評等の研究方法により総合的・専門的に研究・教育する。

漢文学は，思想・史伝・詩文関係の資料を講読し，主として文献学等の研究方法により，日中比較研究を含め，総合的・専門的に研究・教育する。

日本語教育は，外国語としての日本語教育の内容・方法・教材等について，学習者の学習目的に応じた指導という視点から総合的・専門的に研究・教育する。

**⑧　言語系教育講座（外国語）**

【講座の概括】

大学院修士課程英語コースの修了生，在学生，そして教官も含めた幅広い研究発表と情報交換のためのネットワークとして「上越教育大学英語教育学会」が昨年発足したが，その第２回大会が７月25日㈰に開催された。また，実技教育研究指導センター外国語部門主催の講演会が２月４日㈬に開催され，文京女子大学のアレン玉井氏が早期英語教育の理論と実践について講演した。人事関係では，４月１日付けで平野絹枝助教授，加藤雅啓助教授が教授に，野地美幸助手が講師に，それぞれ昇任した。また，４月１日付けで赤松信彦講師が，８月１日付けで若山真幸助手が，それぞれ着任した。また，６月９日㈫には，平成10年３月に停年退官した小野昭一教授と酒井倫夫教授が上越教育大学名誉教育の称号を受けた。

【講座における教育・研究の特色】

学部では平成９年度にカリキュラムが改訂され，英語およびドイツ語は教養基礎科目の中の「国際理解科目」に位置づけられている。英語は，１年次がコミュニケーション英語ＡⅠ，ＡⅡ，ＢⅠ，ＢⅡ，２年次はコミュニケーション英語ＣⅠ，ＣⅡという形で，いずれもコミュニケーション重視の教材および授業展開に留意している。ドイツ語は，ドイツ語・ドイツ事情Ⅰ，Ⅱとして，ドイツ語の基礎の修得とドイツ語文化圏に関する知識の拡大を目指している。大学院（修士課程）では，英語科教育・英語学・英米文学・文学理論の講義・演習および課題研究を通じて学生の指導に当たった。各学生が修士課程の学生にふさわしい学力・問題意識を持って研究課題に取り組み，それが修士論文に結実するように，個別指導を徹底して行った。その成果は本学の平成10年度学位論文概要等を参照されたい。

〈社会系教育研究系〉

⑨　社会系教育講座

【講座の概括】

人事：平成11年３月31日をもって，神成嘉光（法律学），渋谷久（哲学）両教授が停年退職した。

教育：平成10年度における社会系への入学者は，学部20人，大学院27人であった。一方同年度の卒業・修了者は，学部25人，大学院19人であった。

研究：文部省科学研究費補助金として，基盤研究(A)１件，基盤研究(C)３件，奨励研究(A)２件がそれぞれ交付された。また米日財団の援助によって行われた，上越教育大学米国理解プロジェクト（研究代表者加藤章，委員長大嶽幸彦）による研究成果報告書『米国理解を深める社会科教材の開発　第１集』が，当講座から刊行された。

その他：創立20周年記念事業の一環として，10月３，４両日には，「映像教材を用いた社会系教育の新しい展望」と題する映画の上映会が行われた。

【講座における教育・研究の特色】

第１に，当講座は人文・社会・自然科学の諸領域を専門とする広い分野の教官から構成されながらも，個別専門の枠にとどまることなく，いわゆる学際的・総合的な教育と研究の諸活動に積極的に取り組んできた。平成７年度以来継続する，東アジア地域を視野におく歴史学および歴史教育に関する研究プロジェクト（現在は上記の基盤研究Ａとして実施中）は，そうした試みの一つである。第２は，初等・中等教育現場との意見交換や共同研究にも力を注いできた。日常的な研究会などを通した交流ばかりでなく，たとえば上述した米国理解プロジェクトによる研究は，新潟県内を中心とする小・中・高等学校の教員との連携の成果である。第３に，地域の文化活動への貢献にも取り組んできた。現在継続中の上越市史の編纂事業は，その目的から歴史を中心とする多数の研究者を必要とするが，当講座からも多くの教官がこの企てに参加し，地域の教員・研究者との協力のもとで，精力的な活動を展開中である。

〈自然系教育研究部〉

⑩　自然系教育講座（数学）

４月より岡崎氏が当講座の助手として採用されて当講座の研究教育の進展に寄与されている。

解析学，代数学，幾何学，数学教育学のそれぞれの分野において活発な研究発表が行われた。

全国数学教育学会において岩崎氏が奨励賞を受賞された。

布川氏は在学研究のため米国で研究され２月に無事帰国された。

学部生20人，修士11人が無事終了し学士，修士の学位をそれぞれ授与された。

また連合大学院では第１期生として１人博士の学位を授与された。

学部の教育採用率は，他コース同様極めて不本意な結果に終わった。

⑪　自然系教育講座（理科）

【講座の概括】

4月から新しく物理学担当として室谷利夫教授を迎えることができた。理科の運営についてはすべて部会の意見を通して行われ，毎月の定例の会議の他臨時を含めて合計18回開催した。3月には学部生25人，院生17人が卒業・修了した。今年特記すべきことは本学開学20周年記念行事として参加したことである。大型装置の公開として，半導体超格子など新しい半導体材料を創製するための分子線エピタキシー装置，レーザーラマン分光装置，低真空走査型電子顕微鏡(SEM)，インターネット上の化学教育と化学教育活動の4企画の紹介を行った。市民の反応として，地域の中学校の理科の教師の参加があり，最先端の機能材料作製の現状やレーザー光線装置やSEMの鮮明な映像に大変強い興味を持ってもらった。インターネットでは子供たちから一般の市民まで，最先端の情報技術とその応用に直接的に触れることができて，喜んでもらった。その後，現場の理科教師グループがときどき訪問して教材作成を行っている。

【講座における教育・研究の特色】

各教官の研究スタイルは残しながら，学生の多様な要望に応えるための教育指導体制に改めて3年目を迎えた。すなわち，物質・エネルギーシステム教育(A)分野と生命・地球システム教育(B)分野の二分野制である。この間，学部生にも院生にも徐々にこの体制も理解され始めたようである。教育指導において，学生には学校教育実践に必要な理科の教材解釈と開発力を付けたいという指導理念を明確に打ち出していることが本コースの特徴である。しかし，このアイデアはコースの者以外，特に大学外にはほとんどどのような意味があるのか理解されるまでに至っていない状態である。例えば，大学院に来てからはじめて知ったと言う者が多いことからも分かる。そのひとつに理科教育と言うカテゴリーが見えないという意見は多い。これは今後の課題である。

〈芸術系教育研究部〉

⑫　芸術系教育講座（音楽）

【講座の概括】

平成10年度の講座の運営は16人の教官スタッフの協力によって行われ，学部生は1年次19人，2年次14人，3年次16人，4年次19人，大学院生は1年次11人，2年次10人が在籍し，学部生は18人，大学院生10人が卒業・修了した。

本年は上越教育大学創立20周年にあたり学内外で数多くの記念事業が行われたが，本講座も教官・学生を挙げてこれに参加し意欲的な企画構成による発表を行った。10月2日，記念式典において20周年の新たな抱負と息吹を伝える学園歌（学内公募で作成，3曲）が芸術系音楽・混声合唱団によって演奏披露された。10月3～4日には，ソプラノ，テノール及びバリトン独唱，ピアノ及びチェロ独奏，合唱作品発表，ファゴット四重奏による「教官演奏会」を行い，満員の聴衆に喜ばれた。また，「アジアの楽器の展示」にも多くの参観者があった。10月25日，「学生演奏会」を雅楽，管弦楽，合唱，吹奏楽作品発表，箏合奏，ガムラン，ソプラノ及びテノール独唱，ピアノ連弾，フルート及びトロンボーン独奏等，多彩なプログラムで催した。

【講座における教育・研究の特色】

学部では，3年次の特別研究から卒業研究を通して，声楽・器楽・作曲・音楽学・音楽科教育の5分野の研究が教育実践へ発展するように配慮した指導体制が取られている。特に，台本づくりから，作曲，演出，振付，演唱，演奏，装置，道具，衣裳，照明等まで，学生が自作自演する「音楽劇創作」の研究活動の経験は，卒業後の学校教育現場で生かされ高い評価を得ている。1月31日に「卒業演奏会」（独唱，独奏，作品発表），また，2月21日に創作音楽劇「青い鳥」公演が行われた。

大学院では，グループ研究の特質を生かした教育実践場面分析演習「音楽」，教官・学生全員で3度にわたって行う学位論文研究検討会を踏まえて各自の課題研究・論文研究における教育実践研究を深める努力が積み重

ねられている。9月10日にコンサート「Autunnale」（サムルノリ，独唱，独奏，二重奏，歌劇「あまんじゃくとうりこひめ」），また，2月10日に「修了演奏会」（独唱，独奏，作品発表）が行われた。

### ⑬ 芸術系教育講座（美術）

【講座の概括】

美術教育講座では，第4回『美と育』研究発表会を5月に行った。本研究会の活動により一層の成果と浸透を期待する機運がみられ，美術教育研究，実践の質の高揚と，広範なネットワークの構築をめざし，この研究会を母体とし，学会組織に改組するに至った。このことから，美術と教育の創造と刷新の場としての「美術教育実践学会」が設立された。今後，美術教育研究者，実践者の参加を広く要請し，現在の教育が抱える問題を見据えながら美術教育実践研究推進の拠点として，新たな地平を切り開いていきたいと考えている。

10月3日・4日創立20周年美術教育講座企画行事として，ワークショップとシンポジウムを行った。「子どもが世界をつくる」の主題のもとに，ワークショップでは，学部学生・院生・教官が参加し，地域に呼びかけ，延べ約250人の幼・小児童と共に「造形活動」を行った。4日のシンポジウムでは，講義棟301教室において，寺脇研（文部省），浜田寿美男（花園大学）をパネリストとして迎え行った。この二つの行事の主意は，教育大学において，子どもたちの教育に深くかかわる立場にある責任の一つとして，大人自身の存在の意味と現在の在りようを率直に問い直す機会とした。

10月に滋賀大学教育学部で開催された第37回大学美術教育学会において，本学院生7人，兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科院生（本学所属）2人が研究発表した。

11月には，実技教育研究指導センター（美術教育分野）のセンターセミナーを，岩村伸一（京都教育大学）講師によって行った。インスタレーションによる美術活動の実際を学んだことは，美術の意味の広がりを体験し，今後の美術教育に大きな収穫であった。

2月に，本講座教官を主とした科学研究補助金研究（代表：西野範夫教授）の公開研究会を，宇波彰（明治学院大学文学部），茂呂雄二（筑波大学心理学系）を講師に招き，講演，ディスカッションを2日にわたって行った。主題は，学際的な立場から，子どもの「生きる力」としての「つくることを表すこと」を据え直し，子どもたちの具体的な学びの事例をもとに，教育の新しい基礎理論の構築とその体系化を図るもので，参加教官・学生に示唆を与えた。

3月に平成7年度に創刊した，美術教育研究誌『美と育』第4号を発行した。

【講座における教育・研究の特色】

美術教育講座では，美術教育が厳しい状況におかれているとの認識に立ち，今日の社会状況とのかかわりを視野においた教育の再構築を目指している。このため，美術教育における従来の枠組を越えて，広く他の学問領域・分野の成果を積極的に援用・交流することに意識を向けている。教官と大学院生との教育研究に関する自由な対話・交流の機会を設け，共通認識をもって研究に当たり，互いの研究が相互に作用し合って，教官と学生がともに教育の構築を目指すことを意図している。大学院1年次の美術教育講座の秋期合宿ゼミでは，課題研究から修士論文への構想を確実なものとしており，研究内容の深化がみられている。また，教育現場と連携し協力を得て，院生による実験授業を実施し，その状況の記録を分析し，教師と子ども，子どもと子どもの行為を読み取り学習の意味を研究している。これらの成果は，教官・大学院生の美術教育実践学会，美術科教育学会，大学美術教育学会での口頭発表，論文発表に現れ，美術教育研究誌『美と育』に集約され，評価を受けている。今日の教育状況において，美術教育の重要性が大きくなっているとの認識に立ち，現在の教育現場の状況，教育界自体の閉塞的な状況に対応する美術教育学の構築を志向している。

〈生活・健康系教育研究部〉

### ⑭ 生活・健康系教育講座（保健体育）

【講座の概括】

保健体育講座は保健体育科教育（教授２，助教授１），体育学（教授兼１，助教授１，同兼１），運動学（教授４，助教授４，助手２）保健学（教授２）の各分野に分かれて16人で構成されている。そのうち保健管理センターに教授１，附属実技教育研究指導センターに教授１，助教授１が所属しているのが現状である。

残念なことであるが，丸山芳郎教授が現職教員の実技研究会講師として，福岡県に招聘されたが，平成10年11月24日宿舎前の横断歩道を渡っていて交通事故にあった。四肢麻痺の重傷で約１年間の入院加療を要すると診断された。平成11年３月現在なお病気療養中である。講座として教育・研究活動に大きな影響が発生しつつある。講座構成員全員が協力して，この損失を最小限にする努力をしている。丸山先生の教育・研究活動への早期復帰を期待している。

課外活動（運動部関係）では，多数の教官が顧問・監督・コーチとして指導に当たり，対外競技会において好成績をおさめた。

【講座における教育・研究の特色】

保健体育講座の教育・研究領域は，保健体育科教育学，体育学，運動学，保健学の４つの分野に大別することができる。

保健体育科教育学では，健康や体育・スポーツに関する専門的研究及び実践的研究に基づいて，総合的・専門的な教育・研究を行い，その目的，内容，方法のあり方等を明確にし，実践現場からの発想を極力生かした理論的枠組を提供してきた。

体育学では，体育の意義や方法・原理，運動文化の本質や機能を究明するため，スポーツ哲学，心理学，経営管理学的立場からの教育・研究を行ってきた。

運動学では，体操，器械運動，陸上運動，競技，武道，ダンス，水泳等の実習やそれらの運動方法的研究，生理学的研究，バイオメカニクス的研究，モルフォロギー的研究等を通じて運動の発生と構造を解明し，運動技術の指導方法論構築を目指し，実践現場での教育・研究を行ってきた。

保健学では，健康の本質や条件，管理の方法原理等について明確にし，それぞれ総合的・専門的な教育・研究を行ってきた。

また，附属実技教育研究指導センターと協力し，教育採用試験直前に器械運動，バスケットボール，陸上運動，水泳の実技指導を行った，多くの学生参加の下で実施し成果を上げた。

### ⑮　生活・健康系教育講座（技術）

【講座の概括】

技術科の学問領域は，中学校の技術免許状の関係で，技術科教育，木材加工，金属加工，電気，機械，栽培，情報基礎の７領域から構成されており，これを８人の教官によって担当している。また，これらのほかに，情報教育充実のための全学向けの情報関係科目の担当や，本学の情報処理センターの運営業務にも何人かが係わっている。

なお，平成10年４月１日より黎子椰助手（機械工学）が助教授に昇任した。

教育面では，各教官が大学院生の教育・研究指導を精力的に行うと同時に，学部学生のための中学校技術２種免許状のための専門科目の講義も開設しているが，20人を越える受講者がある。平成10年度終了の技術講座所属の大学院生は現職以外の者も全員新規採用となり，外国人留学生達も企業に就職し，就職率100％である。

【講座における教育・研究の特色】

科学技術の急速な進展と高度情報通信社会の到来に向けて，生活における情報化や国際化について主体的に対応する能力並びに地球環境に留意した資源及びエネルギーの有効利用と言う視点に立って，本講座では，技術に関する諸科学の知識や技能・技術の修得，さらには技術に関する教材・教具の開発及びその実践について

教育・研究を行うことを目的としている。

本年度は山崎助教授によって，カナダのアルバータ大のClerence H. Peritz博士を外国人特別聴聘教授として９月から11月の３ヶ月間，技術科に迎えた。大学院講義や県，各地域での技術教育を通じて国際理解を深めた。また，「上越教育大学技術科研究会」を年２回開催し，上越地域の企業の技術者を集めての研究発表，討議の場を提供して本学科としての地域貢献も行っている。

本講座における学問領域は，講座の概括で述べた７領域から構成されており，いずれも実験・実習を重視し，それを主体とした教育・研究を行っている。修士論文も，その学問領域に対応して技術科教育の理論と実践に関するもののほか，専門領域についても教育と直接的・間接的に関係する専門的研究や教材・教具の開発及びその実践等に関するものが多い。修士課程２年次の者は，全員が日本産業技術教育学会等の全国大会又は支部大会で発表を行い，その成果について広く批判を受けるようにしている。また，教官の研究においても鋭意行われている。

**⑯　生活・健康系教育講座（家庭）**

【講座の概括】

生活・健康系教育講座（家庭）では，毎月１回の定例家庭科会議を開催し，教授会，研究科委員会，各種委員会の報告並びに関連する事項の審議等を行った。本年度は，「上越教育大学改構想案（第２次中間報告）」に基づき，６年一貫制教科臨床コースの「家庭科教師を養成するカリキュラム」等について検討し，その概要をまとめた。また，教育システム改革推進部会におかれた各種ワーキンググループからの報告並びに関連する事項について検討するため，多数回にわたり臨時家庭科会議を開催した。

平成10年12月１日付けで渡辺彩子助教授（家庭科教育）が教授に昇任した。渡辺彩子教授は平成11年４月１日付けで群馬大学教育学部へ転任することになった。

【講座における教育・研究の特色】

生活・健康系教育講座（家庭）では，食物学，被服学，児童学，家庭経営学，家庭科教育，住居学（非常勤講師）の６分野で構成されており，家庭科教育に関わる諸科学の専門的な研究・教育を行っている。その特徴と目標は次のとおりである。家庭科教育学では，教育の原点を児童・生徒の立場から見直し，学習者の主体性の確立や学習意欲を高めることを目指した教材，授業やカリキュラムの研究を進めている。また，新しい時代の変化に対応した生活情報処理教育や消費者教育を重視している。家庭経営学では，家庭生活を経済労働，家族，社会の視点からとらえ，現代家族の諸問題と実践的課題を解明するとともに，活性化する力を養う。食物学では，栄養，食品，調理及び食事と生体機能等に関する知識を深め，食を総合的に理解する力を養い，また，課題研究を通して科学的思考力，分析力を養う。被服学では，消費科学的視点から被服材料の科学的性質および被服造形の諸特性と快適性等について検討し，衣に関する総合的な理解力を養う。児童学では，子どもの発達と生活圏内の諸要因との関連を子ども発達保障の視点から分析し，子どもの生活を力動的に理解する力を養う。住居学では，居住者の住要求や住文化に視点をおいた住教育を重視している。

**⑵　大学院学校教育研究科**

①　入学者選抜

ア　平成11年度入学者選抜の方針

平成８年度入学者選抜から，学校教育専攻のみに課していた共通科目を廃止し，すべての専攻・コースにおいて共通科目を課さず専攻科目のみによる試験を実施してきたが，これを踏襲する。

また，平成11年度入学者選抜において，受験生に配慮した試験の実施という観点から，芸術系コース（音楽）の筆記試験内容をより明確にするとともに，第２志望の取扱いについて学校教育専攻の教育方法コース

と生徒指導コースを第２志望とすることができないこととした。

イ　実施状況

(ｱ)　第１次募集

ア）募集人員　300人

イ）出願期間　平成10年７月27日(月)～８月６日(木)（消印有効）

ウ）選抜方法　学力検査の成績並びに調査書及び健康診断書の内容を総合して選抜する。

エ）学力検査の日程　平成10年８月30日(日)筆記試験，口述試験

８月31日(月)口述試験

オ）合格者の発表　平成10年９月４日(金)午前10時

カ）志願者数等　志願者237人，受験者234人，合格者226人，入学者211人

(ｲ)　第２次募集

ア）募集人員　約110人

イ）出願期間　平成10年10月26日(月)～11月４日(水)（消印有効）

ウ）選抜方法　学力検査の成績並びに調査書及び健康診断書の内容を総合して選抜する。

エ）学力検査の日程　平成10年11月28日(土)筆記試験，口述試験

オ）合格者の発表　平成10年12月４日(金)午前10時

カ）志願者数等　志願者41人，受験者41人，合格者37人，入学者31人

ウ　評価及び課題

入学者選抜試験は，前年度と同様に第１次募集，第２次募集の２回実施し，各専攻・コースの協力によって支障なく実施された。

学生定員の充足が課題であり，志願者の増大については，広報の充実という観点から，募集要項，大学院案内及び募集用ポスターを各都道府県教育委員会，各教育事務所及び大学等関係機関に積極的に配付するとともに，各専攻・コースにおいてもPR活動の充実（募集要項の配付先の拡大，大学院案内の内容の工夫，独自パンフの作成）に努めた。

また，現在，大学改革構想について検討中であるが，学生定員の充足と相まって，大学院の改組（専攻・コースの再編，専攻別入学定員の改訂，１年制コースの設定等）に伴う入学者選抜方法等の具体化に向けての検討が急務である。

②　教務関係

教務委員会は，学部及び大学院の教務に関する事項を審議するため，教授会及び大学院学校教育研究科委員会の専門委員会として設置されており，各部（系）から選出された研究科担当を命じられた教授各２人（生活・健康系教育研究部にあっては，教授３人）の計15人で構成している。

平成10年度においては，教務委員会を14回開催し，下記の事項について審議した。

ア　学生の休学，休学期間延長及び退学

イ　研究生，特別研究学生及び科目等履修生の受入れ，期間延長及び退学

ウ　既修得単位の認定

エ　シラバス利用実態調査

オ　平成11年度非常勤講師担当配分時間数

キ　平成11年度開設授業科目

ク　平成11年度ティーチング・アシスタント採用科目の選定及び時間数の配分

ケ　平成11年度学年暦の作成

コ　修了判定

サ　上越教育大学公式ホームページに掲載する教務情報

シ　自己点検・評価の実施

③　教育実習

大学院教育実習委員会は，大学院学生の教育実習に関する事項を審議するため，大学院学校教育研究科委員会の専門委員会として設置されており，障害児教育講座から選出された研究科担当を命ぜられた教授２人及び委員会の推薦により学長が指名した教授若干名の数人で構成している。

平成10年度においては，大学院教育実習委員会を１回，協力校を交えた事前打合せ会議及び評価会議を各１回開催している。

４人の大学院教育実習生が新潟県立長岡聾学校外２校で11月４日㈬～11月18日㈬の２週間教育実習を実施した。

④　学位論文

ア　審査方法・方針

学位論文審査委員会は，学位論文の審査を行うため，大学院学校教育研究科委員会の専門委員会として研究科長より論文の審査，試験の実施及び合否の判定を付託されている。

平成10年度においては５回開催し，論文審査を行う論文ごとの審査専門委員会委員及び試験を実施するため専攻・コースごとの試験委員会委員の指名，平成10年度学位論文の合否判定等について審議した。

イ　審査状況

修業年限を超えて在学していた２人から７月に学位論文の提出があり，審議の結果２人とも合格として９月の研究科委員会に報告した。また，平成10年度修了予定者238人中，231人から学位論文の提出があり，審議の結果「否」１人，「合」230人として３月の研究科委員会に報告した。

なお，平成10年度修了者の学位論文題目は，第５章資料編「大学院学校教育研究科修了者の学位論文題目一覧」に掲げるとおりである。

ウ　評価及び課題

論文の審査方法及び試験方法は学位規則に定めるもののほか，各審査専門委員会及び各試験委員会に一任しており，本委員会では論文の内容に立ち入って審議せず，学位論文審査結果及び試験結果を基に総合審査を行っている。

### ⑶　学校教育学部

①　入学者選抜

ア　平成11年度入学者選抜の方針

入学者の選抜方法は，平成４年度から分離分割方式で実施し，受験者の受験機会の複数化の要望に応えるとともに推薦入試と合わせ，３回の選抜試験を実施することにより，それぞれの試験の試験科目，配点等を工夫し，受験者を多方面にわたって総合的に評価して，初等教育教員としての適性に優れ，豊かな人間性を有する学生が入学してくることを期待した。

イ　実施状況

㈠　大学入試センター試験

ア）試験日程　平成11年１月16日㈯・１月17日㈰

イ）志願者の割当て　971人

ウ）受験者数　外国語898人，地理歴史633人，数学①690人，数学②561人，国語858人，

理科①569人，理科②295人，公民449人

(イ) 個別学力検査等による選抜

《前期日程》

ア）募集人員　98人

イ）出願期間　平成11年１月25日(月)～２月３日(水)（必着）

ウ）選抜方法　大学入試センター試験（５教科６科目）及び実技検査等の成績並びに調査書の内容及び健康診断の結果を総合して，入学者を選抜する。

実技検査等は，小論文及び実技検査（音楽，美術，体育のうちから１科目を選択）とする。

大学入試センター試験と実技検査等の配点比率は，５：１とする。

配点内訳は次のとおり。

| 大学入試センター試験 | | | | | | 実技検査等 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 国　語 | 地歴・公民 | 数　学 | 理　科 | 外国語 | 計 | 小論文 | 実　技 | 計 |
| 200 | 100 | 200 | 100 | 200 | 800 | 80 | 80 | 160 |

エ）試験日程及び試験科目　平成11年２月25日(木)　小論文，実技検査

オ）合格者の発表　平成11年３月６日(土)午前10時

カ）志願者数等　志願者477人，受験者413人，合格者112人，入学者108人

《後期日程》

ア）募集人員　42人

イ）出願期間　平成11年１月25日(月)～２月３日(水)（必着）

ウ）選抜方法　大学入試センター試験（５教科６科目）の成績並びに調査書の内容及び健康診断の結果を総合して，入学者を選抜する。

配点内訳は次のとおり。

| 大学入試センター試験 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 国　語 | 地歴・公民 | 数　学 | 理　科 | 外国語 | 計 |
| 200 | 100 | 200 | 100 | 200 | 800 |

エ）合格者の発表　平成11年３月21日(日)午前10時

オ）志願者数等　志願者482人，受験者482人，合格者64人，入学者36人（追加合格を含む。）

(ウ) 推薦による選抜

ア）募集人員　60人

イ）推薦要件　平成11年３月高等学校等を卒業見込みの者で，次のいずれにも該当し，かつ，入学を許可された場合は，必ず本学に入学することを確約できる者

a　出身学校長（高等学校長のほか高等専門学校長及び文部大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の長を含む。）が，初等教育教員になるためにふさわしい意欲，資質，能力，適性等を有する者として，責任をもって推薦する者

b　平成11年度大学入試センター試験（５教科６科目）を受験する者

c　調査書の全体の評定平均値が 3.5以上の者

ウ）推薦人員　１専修・コースについてそれぞれ１人とし，合計10人まで

エ）出願期間　平成10年12月11日㈮～12月17日㈭（必着）

オ）選抜方法　面接並びに推薦書・調査書の内容及び健康診断の結果を総合し，大学入試センター試験の成績を参考にして，入学者を選抜する。

カ）試験日程及び試験科目　平成11年２月６日㈯面接

キ）合格者の発表　平成11年２月12日㈮午前10時

ク）志願者数等　志願者272人，受験者268人，合格者60人，入学者60人

㈡　私費外国人留学生の特別選抜

ア）募集人員　若干名

イ）出願期間　平成10年12月18日㈮～12月24日㈭（必着）

ウ）選抜方法　日本語能力試験（１級），私費外国人留学生統一試験の成績，最終学校の成績，本学が実施する小論文，面接及び健康診断の結果を総合して，入学者を選抜する。

エ）試験日程及び試験科目　平成11年２月６日㈯小論文，面接

オ）合格者の発表　平成11年２月12日㈮午前10時

カ）志願者数　本年度志願者なし。

ウ　評価及び課題

平成４年度から分離分割方式を導入し，定着をみているところであるが，より多様な選抜方法を工夫するなかで，推薦入試，前期日程，後期日程の募集人員の見直しを行い，平成９年度入学者選抜から，推薦入試60人，前期日程98人，後期日程42人で実施している。

現在，大学改革構想について検討中であるが，入学定員の削減，専修・コースの再編等に伴う入学者選抜方法等の改善（選抜方法別の募集人員，推薦入試（面接）・前期日程（実技検査）・後期日程の在り方等）について，具体の検討を早急に行う必要がある。

また，私費外国人留学生の特別選抜には志願者はなかったが，日本語能力試験の利用，試験科目・内容等について，他大学の動向をも踏まえ，引き続き検討していく。

②　入学者選抜方法の研究

ア　入学者選抜方法研究部会

入学者選抜方法研究部会は，入学者選抜方法の改善に関する事項を調査研究するため入学試験委員会の下に置かれ，入学試験委員会委員のうちから学長が指名する者若干名と学長が指名する教授又は助教授若干名（平成10年度は６人（うち入学試験委員会委員３人））をもって組織されている。

平成10年度においては，部会を２回開催し，調査研究事項と担当者の決定，報告書の作成等について審議するとともに，決定された調査研究事項について調査分析を行った。

イ　調査研究事項

a　平成６年度入学者の学内成績の追跡調査（入学者選抜方法別比較）

昨年度に引き続き推薦入試，前期日程，後期日程の各選抜方法別に調査を実施した。

b　平成４～10年度志願者の入学者選抜方法別大学入試センター試験得点分布

昨年度に引き続き推薦入試，前期日程，後期日程の各選抜方法別に調査を実施した。

c　本学に対する大学説明会参加者（高校生）の意識

昨年度に引き続き大学説明会の機会を利用してアンケート調査を実施した。

d　本学に対する高校教員（進路指導担当教員）の意識

今年度は一昨年度及び昨年度の対象県以外で本学への入学者が４人以上であった福島，栃木，群馬，山梨，静岡，滋賀の各県下の全高校を対象にアンケート調査を実施した。

ウ　評価及び今後の取組み

本部会での調査研究結果は，「平成10年度入学試験委員会入学者選抜方法研究部会報告書」として取りまとめ，入学試験委員会及び教授会に報告の上，学内外に公表した。

今日，児童・生徒数の急激な減少期に入り，教員養成系大学・学部においては学生定員の縮小が強く求められる等の状況にあり，選抜方法についてさまざまな創意工夫を積極的に加えるべき時期を迎えている。今後，更に調査研究を進め，本学の入学者選抜方法改善のための基礎資料として活用したい。

③　教務関係

教務委員会の設置趣旨及び組織は，(2)大学院学校教育研究科②教務関係の項で述べたとおりである。教務委員会の開催は，平成10年度において，年間14回に及んだ。この回数は，例年とほぼ同様である。

審議し，実施した学校教育学部関係の事項を整理すると，以下のとおりである。

ア　学生の休学，休学期間延長及び退学

イ　科目等履修生の受入れ，履修期間延長及び退学

ウ　第１年次学生の専修・コース分け

エ　履修指導の在り方

オ　教員養成実地指導講師採用の基準等の一部改正

カ　平成11年度非常勤講師担当配分時間数

キ　平成11年度開設授業科目

ク　シラバス利用実態調査

ケ　卒業判定

コ　平成11年度学年暦の作成

サ　上越教育大学公式ホームページに掲載する教務情報

シ　平成11年度教員養成実地指導講師による授業実施計画

ス　自己点検・評価の実施

④　教育実地研究

教育実習委員会は，教授会に置かれる専門委員会であり，教育実習の運営及び評価等を行うことを目的に設置されており，各部から選出された教授あるいは助教授，学校教育研究センター長，学校教育研究センターの実地教育分野の教授及び助教授，各附属学校の教頭，その他学長が指名した教授又は助教授若干名の計20人で構成している。

教育実習委員会の開催は，平成10年度においては，年間５回におよび，教育実習の実施に伴う教育実習協力校との打合せ会については３回開催した。

特に，平成10年度入学生から適用される「義務教育教員志願者に対する介護等の体験の義務付け」の実施初年度に当たるため例年より多く開催している。

審議し，実施した教育実習の事項を整理すると，以下のとおりである。

ア　平成10年度教育実習の実施

実施計画と結果に基づき，大学においてオリエンテーション及び事前・事後指導等を行うとともに，教育実習協力校及び附属学校（園）において，各実習種別ごとに次のとおり教育実習を実施した。

○１年次―観察・参加（202人）は，５月25日(月)～５月28日(木)の４日間実施

・小規模小学校６校（浦川原村，牧村，三和村）

・特殊教育諸学校４校（上越市，新井市）

○２年次―観察・参加は，Ａグループ（101人）が５月25日(月)～５月30日(土)，Ｂグループ（103人）が９月

28日(月)～10月３日(土)のそれぞれ１週間実施

・幼稚園12園（上越市，新井市）

・附属幼稚園

○３年次―普通教育実習（203人）は，９月21日(月)～10月９日(金)の３週間実施

・小学校32校（上越市，新井市，柿崎町，大潟町）

・附属小学校

○４年次―中学校教育実習（172人）は，５月25日(月)～６月６日(土)の２週間実施

・中学校17校（上越市，新井市，浦川原村，牧村，柿崎町，大潟町，頸城村，板倉町，三和村）

・附属中学校

○４年次―専修教育実習（幼児教育専修）は，Ａグループ（７人）が10月29日(木)～11月11日(水)，Ｂグループ（７人）が11月16日(月)～11月27日(金)の２週間実施

・附属幼稚園

イ　教育実習協力校との打合せ会の計画・実施

ウ　教育実習協力校との学生配当

エ　教育実習成績評価

オ　介護等体験の実施

カ　次年度の教育実習実施計画等

キ　自己点検・評価項目

### (4)　教育課程の改善

教育課程検討委員会の設置趣旨及び組織は，本学の学部，大学院の教育及び教育課程の在り方について検討することを目的に設置されており，副学長，附属図書館長，各教育研究部（系）部長，教務委員会委員長，教育実習委員会委員長，学生委員会委員長，就職指導委員会委員長その他学長が指名した教授の計13人で構成している。

教育課程検討委員会の開催は，平成10年度においては，年間２回に及んだ。

審議し，実施した教育課程の改善事項を整理すると，以下のとおりである。

ア　大学院（修士課程）の新設授業科目等の担当教員審査の取扱い

イ　学校図書館司書教諭の資格取得に関する教育課程等

ウ　教員養成学部フレンドシップ事業に伴う教育課程

エ　大学入学前に一定の単位を修得した者の修業年限の通算の取扱い

### (5)　スペース・コラボレーション・システム事業

スペース・コラボレーション・システム事業実施委員会は，国立の大学，高等専門学校及び大学共同利用機関が衛生通信による映像交換を中心とした大学間ネットワークを構築し，高度情報通信社会にふさわしい教育・研究利用を推進するスペース・コラボレーション・システム事業に本学が参加することに伴い，その利用に係る具体的事項を検討することを目的に設置されており，学長，副学長，附属図書館長，学校教育研究センター長，情報処理センター長，教務委員会委員長，各部から選出された教授各１人，附属学校長のうちから学長が指名した者，事務局長その他学長が指名した者計15人で構成している。

また，本委員会のもとに，本学におけるスペース・コラボレーション・システム事業の利用計画を策定することを目的にSCS事業利用計画策定専門部会が設置されており，本委員会副委員長，情報処理センター長，教務委

員会委員長，各教育研究部（系）教官の10人で構成している。

### ⑹ 国際交流

国際交流委員会は，学術・文化の国際化に伴い，異文化に対する理解と関心を一層深めるために，主として①学術の国際交流に関する事項，②学生の留学及び外国人留学生に関する事項，③海外教育（特別）研究に関する事項，④その他国際交流の促進に関する事項を審議する委員会で，附属図書館長，各部から選出された教授又は助教授各２人，日本語・日本事情担当教官及び学長が指名した者の計17人の委員から構成されている。

審議及び実施状況は以下のとおりである。

① 前年度において審議したアイオワ大学（アメリカ）との教育・研究に関する交流協定及び学生交流に関する覚書が平成10年６月２日に締結された。また，外国人研究者に関して受入れ（１人）を審議した。

② 短期留学推進制度（派遣）に基づき，候補者を選考し，大学間交流協定締結校である韓国教員大学校へ１人の学生を派遣した。

外国人留学生に関しては，短期留学推進制度（受入れ）に基づき，韓国教員大学校から特別研究学生として１人を受入れた他，海外からの留学生の受入れを審議した。また，留学生支援体制の整備を図るため，本委員会に「留学生専門部会」を設置した。

③ 「海外教育（特別）研究」は，これまでシンガポール，カナダ，イギリス，韓国において実施してきたが，今年度は，イギリスでの実施計画について審議した。坂本委員長，森島副委員長，川村委員及び霜越庶務課課長補佐が30人の参加学生（学部学生19人，大学院学生10人，研究生１人）を引率し，９月16日から24日までの９日間，イギリスにおいて実施した。現地では，セント・アンドルーズ教育大学での講義及び同大学の協力を得て，初等・中等学校，寄宿学校の授業参観，文化交流等を行った。また，オックスフォードブルックス大学では，イングランドの教育事情についての講義を受けた他，教職員間で交流促進について意見交換した。

④ 大学創立20周年記念行事として「留学生と市民との交流会」〔歴史探訪 in 佐渡，Joetsu World Cup（サッカー），“We are the World” in Joetsu（音楽演奏会），花で演出する上越の秋（生け花）〕を８月，９月に田島委員を中心に企画•実施した。また，留学生を対象とした国際交流のつどい（留学生の体験発表及び懇親会）及び留学生スキー教室などの実施に協力した。

⑤ ３月にセント・アンドルーズ教育大学のマクゲットリック学長を本学に招へいし，講演会を行った他，卒業証書・学位記授与式に列席，懇談会（ティーパーティー）の開催など本学を紹介するとともに情報交換した。

### ⑺ 研究紀要

① 研究紀要委員会設置の趣旨（目的）

研究紀要委員会は，本学が発行する研究紀要の編集及び作成するために設置されたものである。

② 組織，開催状況

委員会の組織は，各部（系）より選出された７人の委員から構成されている。本年度の開催状況は，５月12日（１回目），７月１日（２回目），11月18日（３回目），３月３日（４回目）の計４回開催された。

③ 主な審議内容

（１回目）18巻１号の投稿申込状況，投稿要項改正案について，（２回目）投稿要項の改正，（３回目）18巻１号の経費負担，18巻２号の投稿申込状況，研究紀要編集要項の改正，（４回目）18巻２号の経費負担，自己点検・評価，19巻１号の原稿募集

④ 審議結果により実施した主な事項（企画）

印刷経費を削減し，個人負担を少なくするため，原稿提出方法を改めた。また，学内教官への紀要配付は希

望者のみとしたこと，及び他大学よりの送付辞退があり，発行部数700部を650部とした。これらの変更に伴い，研究紀要投稿要項と研究紀要編集要項の該当事項を見直し，改正した。

### ⑻ 公開講座等

① 設置の趣旨と目的　地域社会に開かれた大学を標榜するとき，公開講座及び文化講演会はその重要な一部を構成するものである。本委員会はそれらの実施に関する企画立案及び連絡調整を目的とする。

② 組織　本委員会の組織は，各部から選出された教授又は助教授各１人及び学長が指名する教授又は助教授若干名をもって構成されている。本年度の構成員は教授７人（委員長を含む）である。

③ 開催状況及び審議内容　委員会は７月，12月及び２月の３回開催した。主な審議内容は，創立20周年記念文化講演会の立案，平成11年度に開催する公開講座及び文化講演会の実施方針の検討，公開講座実施計画案の作成，公開講座の受講方法の検討及び文化講演会の講師推薦依頼，文化講演会への本学学生の参加方法と講演者のPR方法の検討，等である。

④ 企画（実施した主な企画）　一般公開講座として越の文化を探る，パソコン入門，インターネット入門，陶芸，等12講座，及び現職教育講座としてフレスコ画を描く，幼児の世界と教育，等３講座，計15講座を開講した。文化講演会は創立20周年記念講演会を含め４回実施した。

⑤ 自己点検と課題　公開講座では受講者を対象としたアンケート結果を踏まえ，参加者の多彩なニーズに応えられるよう，本年度から，公開講座では開始時間の順延や現職教員を対象とした講座を新設し，講座の拡大改善を図った。文化講演会は平成11年度から年間講演回数を２回とし，講演者紹介パンフレットのデザインを改善することとした。

今後の課題としては，公開講座参加者の追跡調査の検討，文化講演会立案段階における本学学生の参画方法の検討，等が挙げられる。

### ⑼ 研究集会等

平成10年度に本学を会場として開催された学会等のうち，主なものは次のとおりである。

① 第１回美術教育実践学会（代表：山ノ下堅一）

期　日：平成10年５月23日(土)

会　場：講義棟301教室

参加者：124人

内　容：設立総会，研究発表，設立記念シンポジウム

本学会は，美術と教育の創造と刷新の場となることを願って，制作と理論の両面を統合・総合し，美術教育実践の理論化，美術教育理論の実践化を勧め，新たな美術教育実践学の確立を目指す研究者及び実践者の研究組織として設立された。設立総会は，設立準備委員会より提案された，会則の承認及び役員の選出等組織として必要な議案を採択した。

研究発表では，「生涯教育としての絵画表現活動」永坂晃子（金沢大学大学院学生），「生涯教育としての絵画表現活動」原綾乃（上越教育大学大学院修了）の発表が行われた。設立記念シンポジウムは，講演Ⅰ「社会・個人・発達の社会－道具的構成」上野直樹（国立教育研究所教育指導研究部室長　認知科学），講演Ⅱ「子どもの哲学について」永井均（信州大学人文学部教授　哲学）の２講演の後，講演者２人をパネラーとして，西野範夫（上越教育大学芸術系教育講座（美術）教授）がコーディネイトし，トークセッションを行った。

② 日本国際理解教育学会（大会委員長：新井郁男）

期　日：平成10年６月13日(土)・14日(日)

会　場：人文棟104～107教室，人文棟205～208教室，講義棟201教室

参加者：約150人

内　容：自由研究発表（４部会，計19件）

課題別検討会「国際理解教育の学習方法，教材開発，評価方法をどうするか」

公開シンポジウム「日韓交流を通じてみた国際理解教育の課題と展望」

本学会では，第１日目に国際理解教育の理念，カリキュラム開発，実践研究及び理論的・実践的構築に関する自由研究発表が行われ，第２日目に上記タイトルの課題別検討会と公開シンポジウムを開催し，国際理解教育に関心を持つ研究者，教員及び学生による活発な討論が繰り広げられた。

課題別検討会では，国際理解教育の先駆的な実践に取り組む方々からの発表が報告され，教育現場から強い関心が集められた。公開シンポジウムでは，本学教官，日韓関係の研究者，現職小学校教員及び韓国人留学生の４人のパネリストから問題が提起され，フロアからも盛況な反響があり，韓国との交流を持つ本学の特色を活かしたシンポジウムを行うことができた。

③　上越教育大学技術科研究会（代表：川島章弘）

期　日：平成10年６月27日㈯（第１回）・12月５日㈯（第２回）

会　場：講義棟301教室

参加者：各回約70人

内　容：研究発表テーマ例「ケーブルテレビ回線を利用した遠隔授業」,「電界発光ファイバーとその活用」,「加圧用ローラ位置による加圧補正」及び「AC100V～240V 連続対応非常灯インバータユニットの設計」等，各回８件の発表及び討議を行った。

本研究会の目的は，上越地域の技術レベルを格上げするために，企業と研究所と大学が２回研究発表及び討議を行い，レベルアップを図るとともに参加者の相互交流を図り，地域に新しい情報を導入し，先進の技術を生み出していくことである。本研究会への参加は，企業人や大学人のみならず，技術に興味・関心のある人は自由に参加することができる。上越の「技術サロン」が理想である。ここに「技術」の範囲は，特に限定されていない。研究会の様子は毎回，上越ケーブルテレビや上越タイムス，新潟日報で報道されている。研究会から学会組織への発展を検討中である。

④　日本スポーツモルフォロギー学会（大会運営代表：太田昌秀）

期　日：平成10年８月22日㈯・23日㈰

会　場：体育館，トレーニング室，音楽棟101教室

講　師：太田昌秀，長澤靖夫，福島太三，柴田俊夫和，西幅孝弘，田中裕子

参加者：50人

内　容：理論研修

講　　演　　教育現場における運動の不得手な児童，生徒の運動指導法

研究発表　　児童・生徒のハードル走に関する効率的な指導法，児童・生徒の水泳に関する指導法（遊びからの導入），投運動の指導法（フリスビー遊びから野球投げへの導入），前方倒立回転とびの指導法

実技研修　　マット運動，バランス養成のための運動（インラインスケート，一輪車，スケートボードによるバランス感覚の養成法）

運動の指導法をスポーツモルフォロギー的観点からアプローチし，教育現場に還元するための指導法を構築することを目的とし，教育現場において，日頃問題となっている内容を取り上げ，研修並びにディスカッションを行い，児童の指導法について検討した。

⑤　第２回美術教育実践学会研究発表大会

期　日：平成10年11月14日(土)

会　場：講義棟201教室

参加者：80人

内　容：研究発表，講演会

本会は，秋期研究会として位置づけ，春の総会・研究発表大会とともに美術教育実践学会の年間行事としている。今回の研究発表は，「素材とのかかわりにみる子どもの造形活動の一側面」黒井美智子（上越教育大学大学院修了　新潟県立高田盲学校），「「わたしのある図工」の周辺」横内克之（上越教育大学大学院修了　小金井市立東小学校），「総合的な学習の中で子供がものをつくることの意味」立川厚生（上越教育大学学校教育学部附属小学校），大竹裕範（上越教育大学大学院修了　上越教育大学学校教育学部附属小学校）の３件の発表があった。講演は，「社会・文化の地殻変動に立ち向かう〈思想〉の現在形」吉岡洋（甲南大学　美学・現代思想）であった。

本学会の活動は，美術教育研究者及び実践者の広範なネットワークを構築し，今を見据えた美術教育を考究し，子どもの造形活動の意味生成に関する理論的構築と実践的な授業研究を推進することを志向している。混迷を増す教育の現状をより深く捉え返すために，実践に開かれた美術教育をめざして，多くの実践者及び研究者に働きかけていきたい。なお，美術教育実践学会の設立の経緯については，大嶋彰『「美術教育実践学会」設立―美術教育の新たな実践的地平をめざして―』，「美と育」第４号，1999年３月（上越教育大学美術教育講座発行）を参照されたい。

## 5　厚生補導

本学における厚生補導は，人間形成を目的として行われる正課教育以外の教育活動が，学生の資質の向上及び教養を高めるなど，豊かな人間性を涵養する上で重要であることに鑑み，これに対する援助・助言及び指導を行うことを目的としている。この目的を効果的に推進するために，厚生補導関係の各種委員会が設置され，それぞれ計画的に活動している。また，具体的な業務の実施に当たっては，関係職員が学生と意思の疎通を図りつつ適切に処理している。

### (1)　学生生活

①　活動方針

主として，次の事項について実施又は援助等を行うこととした。

ア　新入生オリエンテーションの実施

イ　課外教育

(ア)　新入生合宿研修の実施

(イ)　教員養成課程学生合宿研修の実施

(ウ)　課外活動団体リーダーズ・トレーニング研修の実施

ウ　厚生補導研究会の実施

エ　学園祭への援助等

オ　日本育英会奨学生の推薦

カ　授業料等免除該当者の選考

キ　学生生活実態調査の実施

②　学生委員会の主な審議内容

学生委員会は，８回開催し，主として次の事項について審議した。

ア　平成10年度の学生団体の設立（継続）許可及び課外活動団体の認定

イ　平成10年度新入生合宿研修の企画・立案

ウ　平成10年度教員養成課程学生合宿研修の企画・立案

エ　平成10年度厚生補導研究会の企画・立案

オ　平成10年度課外活動団体リーダーズ・トレーニング研修の企画・立案

カ　平成10年度学園祭の内容等の検討

キ　平成11年度厚生補導事業の計画

ク　平成11年度版学生生活の刊行

ケ　日本育英会奨学生の推薦

コ　授業料等免除該当者の選考

サ　学生生活実態調査の企画・立案

③　活動内容

ア　新入生オリエンテーション

新入生が，大学という新しい組織・生活環境に早く馴染み，適応することを目的として，４月10日㈮・12日㈪に本学の組織及び大学生活に必要な事項等について説明を行った。

イ　新入生合宿研修

学部の新入生を対象に，集団生活を通して新入生相互及び教職員との親和を図り，お互いの理解を深めることにより，学生生活が安定・充実することを目的として，６月４日㈭・５日㈮に国立妙高少年自然の家で１泊２日の日程で実施した。

ウ　教員養成課程学生合宿研修

学部の３年次生を対象に，教育実習での体験を相互に発表・討議し，教官の指導を得ることにより，教科外活動等に関する認識を一層深め，自己の生活における自主的な判断力を養うこと及び最終学年を迎えるに当たり，卒業研究及び進路・就職指導の徹底を図ることを目的として，10月22日㈭・23日㈮に国立妙高少年自然の家で１泊２日の日程で実施した。

エ　課外活動団体リーダーズ・トレーニング研修

課外活動団体のリーダー及びマネージャーを対象に，その任務の認識と基本的知識の習得を図るとともに，課外活動団体相互の親睦と理解に基づき，課外活動の発展向上を図ることを目的として，３月４日㈭・５日㈮に国立妙高少年自然の家で１泊２日の日程で実施した。平成10年度は特に「よりよい仲間関係」をテーマにパネルディスカッションを行った。

オ　厚生補導研究会

教務委員会委員，学生委員会委員及び厚生補導担当職員を対象に，厚生補導に関する諸問題について意見交換等を行うことにより，職員相互の理解と疎通を図るとともに，今後の指導方針の策定を目的として，９月17日㈭・18日㈮に国立妙高少年自然の家で１泊２日の日程で実施した。平成10年度は「現代学生気質と学生指導―学生の生活と意識―」をテーマにして実施した。

カ　学園祭

第16回学園祭（越秋祭）が，越秋祭実行委員会の主催により，「OVER　STYLE」をテーマとして，11月６㈮～８㈰に実施された。

この期間中の入場者は，約4,400人（一般市民を含む）であった。

キ　日本育英会奨学生の推薦

日本育英会奨学生選考基準に基づき，学業優秀で身体が健康であり，かつ，経済的困窮度が高いことにより就学が困難と認められた学部学生39人，大学院学生37人を本年度推薦した。また２次募集では学部学生９人を推薦した。

ク　授業料免除等該当者の選考

授業料の免除等選考基準に基づき，経済的困窮度が高いため授業料の納付が困難であり，かつ，学業優秀であると認められる者を，前期分は全額免除63人，半額免除８人，後期分は全額免除66人，半額免除10人を該当者とした。

ケ　学生生活実態調査の実施

学生委員会に学生生活実態調査小委員会を設け調査項目を検討し，第１回大学院学生生活実態調査を11月に実施し，３月に報告書をまとめた。

### ⑵　大学会館

①　運営方針

大学会館には，食堂を始めとした13に及ぶ業者が出店しており，学生及び教職員の福利厚生に寄与している。なお，これらの業者はサービスセンターにより統括されている。

この統括により，大学からの指導助言並びに業者側の意見意思等の伝達経路が一体化され，福利厚生事業の円滑な運営が図られている。

また，改善指導は，学生生活実態調査及び目安箱等による意見・要望を踏まえ，キャンパスアメニティーを追求した利用しやすい大学会館とする配慮のもとに行われている。

②　概要及び利用状況

大学会館の諸施設概要及び利用者数は次表のとおり。

| 区　　分 | 内　　容 | 面積(㎡) | 平成10年度利用者数(人) |
|---|---|---|---|
| 第１食堂 | 310席（朝・昼・夜の食事等）カフェテリア形式 | 477 | 114,632 |
| 第２食堂 | 28席（昼の食事等） | 48 | |
| 売　　店 | 食料品，日用品，文房具，書籍，クリーニング，チケット販売，写真現像，スポーツ用品等 | 189 | 172,109 |
| 喫茶室 | 40席（喫茶・軽食） | 77 | 12,001 |
| 理容室 | ２席（調髪等） | 13 | 1,939 |
| 美容室 | ２席（パーマネント・カット・ヘアカラー・着付等） | 13 | 2,722 |
| 第１集会室 | 30席 | 38 | 1,700 |
| 第２集会室 | 15席 | 25 | 1,650 |
| 第３集会室 | 15席 | 25 | 1,000 |
| 第４集会室 | 和室（12畳），15～20人収容 | 29 | 500 |
| 第５集会室 | 和室（６畳），５～10人収容 | 17 | 50 |

③　施設・設備の充実

第１食堂ホール及び弁天池に隣接したテラスを新設し，屋外の喫食席を設け開放的な雰囲気の中での喫食を可能とした。

また，老巧化した厨房の冷蔵庫及び食器消毒保管庫並びに売店内の冷蔵・冷凍ショーケースを更新し衛生関連設備のより一層の安全性を保った。

④　その他

昼食時の混雑緩和のため，麺コーナー，ランチコーナー，カフェテリアコーナーと３列で給膳出来る設置としている。

また，カレーフェア等の実施及び朝の焼きたてパン等，嗜好を変えたメニューのより一層の充実を図って利用者の期待に答えている。

### ⑶　学生居住施設

〈学生宿舎〉

①　運営方針

学生宿舎は，教育目的に沿い，学生に良好な勉学と生活の場を提供し，自立的な生活を体験させることを目的として設置されている。この目的に沿って，学生宿舎管理運営の重要事項については，「学生宿舎委員会」において審議の上実施する一方，入居者自身においても，単身用では各階の代表者で構成する「自治会」，世帯用においては，「自治会（町内会）」を設けて，それぞれが入居者の立場で諸問題を討議し，自立的に処理することとしている。

②　学生宿舎委員会の審議内容

ア　第１回（平成10年５月29日）

単身用学生宿舎内での諸問題について，現状認識のため，入居者に対して緊急アンケートを実施し，実態及び意向を調査することとした。

博士課程学生用として，学部１年生用居室の４室（８人）を割り振ることとした。

イ　第２回（平成10年７月３日）

緊急アンケートの集計結果を分析した。その結果，入居者自身の自覚・モラルに係る問題が多くあったことから，入居者にフィードバックし，自主的な改善を促すこととした。

なお，女子浴室のカードロックシステムについて，再度，女子入居者にアンケートを行い，引き続き検討することとした。

ウ　第３回（平成10年12月14日）

平成11年度に引き続き在学する学生の入居者選考を行い，単身用444人，世帯用44人の入居を許可した。

エ　第４回（平成11年２月10日）

大学院新入生の入居者選考を行い，単身用100人，世帯用30人の入居を許可した。

なお，学部新入生の入居者選考については，合格発表後，委員会を開催する時間的余裕がないため，委員長一任とすることとした。

③　運営状況

ア　入居状況

平成10年度は，単身用・世帯用を合わせた収容定員800人に対して789人が入居し，収容定員に対する入居率は98.6％であった。入居希望者に対する入居率は，単身用53.4％，世帯用100％，また在籍学生1,323人に対する入居率は62.6％であった。

イ　駐車違反指導

学生宿舎区域の災害の防止及び居住環境の保全のため，「学生宿舎及び国際学生宿舎入居者の車両に関する要項」により，自動車，自動二輪車，原動機付自転車の駐車違反者の調査及び指導を行うとともに，車両登録の徹底を図った。

ウ　環境整備

(ア) 宿舎内外の一斉清掃（春・秋各１回）及び宿舎周辺の放置自転車の処分（秋１回）を行い，環境整備・美化に努めた。また，防火管理上，廊下の荷物等の整理・処分の指導を行った。

(イ) 単身用学生宿舎の設備等を次のとおり整備し，居住環境の充実を図った。

a 女子浴室を専用カードによるカードロックシステムとした。

b 浴室に時間外でも使用できるシャワー設備を設置した。

c 補食室（20室）を改修するとともに，流し台等を更新した。

d 浴室の洗場水栓をサーモスタット金具（シャワー付）に更新した。

〈国際学生宿舎〉

① 運営方針

国際学生宿舎は，外国人研究者及び外国人留学生並びに日本人学生に生活の場を提供し，併せて国際交流の事業の用に供することを目的として設置されている。

この目的に沿って，国際学生宿舎管理運営の重要事項については，「国際学生宿舎委員会」において審議の上実施する。

② 国際学生宿舎委員会の審議内容

ア 第１回（平成10年12月14日）

平成11年度に引き続き在学する日本人学生及び外国人留学生（新たに入学する者を含む）の入居者選考を行い，日本人学生７人，外国人留学生16人の入居を許可した。

イ 第２回（平成11年２月10日）

新たに入学する日本人学生の入居者選考を行い，11人の入居を許可した。

また，外国人留学生には，日本人学生用夫婦室２室，外国人研究者用単身室１室及び夫婦室２室を弾力的に運用することとし，７入の入居を許可した。

③ 運営状況

ア 入居状況

平成10年度は，単身用・世帯用を合わせた収容定員42人に対して39人が入居し，収容定員に対する入居率は92.9％であった。

国別では，中国11人，韓国３人，台湾２人，イギリス１人，ロシア１人，フランス１人，メキシコ１人であった。

なお，外国人研究者１人が３か月間，夫婦室に入居した。

イ 駐車違反指導

学生宿舎区域の災害の防止及び居住環境の保全のため，「学生宿舎及び国際学生宿舎入居者の車両に関する要項」により，自動車，自動二輪車，原動機付自転車の駐車違反者の調査及び指導を行うとともに，車両登録の徹底を図った。

ウ 環境整備

(ア) 宿舎内外の一斉清掃（春・秋各１回）及び宿舎周辺の放置自転車の処分（秋１回）を行い，環境整備・美化に努めた。

### (4) 就職指導

① 就職指導委員会

就職指導委員会の発足当初(昭和58年)，委員会の所掌事項として次の４つが考えられた。「関係資料の収集」「アンケート等の実施」「説明会等の実施」「各教育委員会との折衝」である。本委員会は，その所掌内容を採

用情勢や社会の変化とともに少しずつ変化させながら今日に至っている。

現在の委員会は，各研究部から選出された13人の委員で構成されている。平成10年度の開催回数は６回で，主な審議内容は，就職指導計画の策定とそれに基づく各種行事の実施，さらには教員就職者を増やす方策の模索に費やされた。指導計画の立案に当たっては，本学創設の目的及び学生の進路希望調査に見られる全体的傾向から，教職希望者の中でも義務教育教員志望者に焦点を当てた指導を主眼においた。また，企業等を希望する者への指導については，必要に応じて個別に行うこととした。

② 実施した主な事項

ア ４年次オリエンテーション

４月９日

イ 教採模試

４月18日，５月13日，６月20日の３回にわたり実施した。

ウ 教職講座III

４月30日～７月上旬の間，学部４年次及び大学院１年次の学生を主たる対象に講義（38コマ）及び実技指導（音楽，体育）を実施した。

エ クラス担当教官との懇談会

４年次クラス担当教官との懇談会を５月20日に，３年次クラス担当教官との懇談会を10月20日に開催した。

オ 教育委員会への訪問

７月に新潟県，平成11月２月～３月の間に新潟・富山など出身学生の多い17県の教育委員会を訪問した。

カ 就職ガイダンス

７月22日，学部３年次及び大学院１年次の学生を対象に実施した。

キ 教職講演会Ⅰ

10月14日，学部２年次を対象に実施した。

ク 進路希望調査

10月，学部３年次及び大学院１年次の学生を対象に実施した。

ケ 教職講座Ⅰ

11月18日～12月16日の間，学部３年次及び大学院１年次の学生を対象に講義（11コマ）を実施した。

コ 教職講演会II

12月９日，学部１年次を対象に実施した。

サ 教職講座II

平成11年１月27日～３月11日の間，新潟，富山，長野，石川など11県の教育委員会担当者による講演と，７人の教員採用試験受験者による体験談の発表を行った。

シ 大学PRパンフレット

教員採用側である教育委員会へのPRを目的として，大学紹介パンフレットを作成し，各県等へ配付した。

## 6 大学改革

### (1) 改革構想の策定

① 上越教育大学改革構想特別委員会の設置

本学の改革構想は，第189回評議会（平成９年６月11日）における加藤章学長提案によってその第一歩を踏み出した。第214回教授会（６月25日）で特別委員会（仮称「入学定員削減対策特別委員会」）の設置が認められ，正式名称は「上越教育大学改革構想特別委員会」となる。構成委員は学長，両副学長，教授会から選出された

4人，助教授4人そして事務局長とすることも了承された。教授5人の委員については同教授会で選出され，助教授4人は委員会で選出し学長指名とされた。平成9年7月9日に「上越教育大学改革構想特別委員会」（仮称）の打合せ会がもたれ，ここで学長より本学が直面する課題について言及された。第1に，行財政改革に起因する国立大学の民営化に近い将来直面することになる，第2に，教員養成系大学・学部は少子化との定員削減に対し，いかにしてその存在理由を主張することができるか，第3に，今回の定員削減は新構想を例外としないもので本学はこれに改革をもって対応したい，というものであった。次いでスケジュール案（本学の定員削減は平成12年度になること，従って平成11年4月～6月に文部省教育大学室との協議を済ませて6月末までに概算要求書を提示すること，この作業を具体化するには改革計画の素案を平成10年3月末までに用意したいこと）が了承された。

② 改革構想案の策定

歴史的な第1回改革構想特別委員会は7月11日に開催された。席上学長より，5千人削減化は財政構造改革に起因するものであること，これに関する文部省の見解が説明された。同委員会は第2回（7月22日）以降改革構想の策定論議に着手し，第4回（10月7日）では6年制養成システムの構築を展望した「新新構想大学」の方向性が鮮明になってきた。

第5回同委員会（11月17日）は本学の改革史で記念すべきものとなった。すなわち，3委員から改革私案が提示された。3私案に共通した基本コンセプトは，目的論についてみると，第1に，「既存の養成システムの上に立脚しながら，いかに新たな改革の構想を用意することができるのか」，第2に，今日の教育諸課題に適確に対応できるプログラムを共同で開発しうる「実践的能力（＝新たな実践知・技能）」を養成すること，第3に，その実践力は，既存の教員養成系大学・学部とは異なりさらに新構想を発展させる「第三の」知とその技法の領域を構想すること，であった。制度論についてみると，第1に，6年制の養成システムの構築，第2に，独自の博士課程設置と「総合教育支援開発研究」を展望した「上越総合教育大学」の構想であり，教育課程については，第1に「教育的ヒューマニズム」をコアにした教育課程の編成，第2に，理論の実践化と実践の理論化を統合する教育課程の開発，であった。そして研究領域では，「新しい学際的な学問分野の創造と教育をプロジェクト・チームで推進する」ことであった。第6回同委員会（12月2日）では更に，子ども一人ひとりの思考過程に対処しうる「臨床的能力」の育成に論議が集中し，本委員会へ提案する原案作成のワーキング・グループ（以下大澤WG）を設置することが了承された。

第7回同委員会（12月19日）に，大澤WGから「大学構造改革案」が報告される。「改革の最重要骨子」として次の4点が挙げられた。「1）定員を持つ6年制の大学院を設立する。2）実践的人間理解，教科専門領域の基礎，実践教育研究を三つの柱とした教育実践学を構築する。3）教育現場との密接な関係を保つ。4）博士課程（学校教育実践学と教科教育実践学）の研究者を養成する。」この改革案は，後に，「上越教育大学改革構想案－学部学生入学定員削減への対策と上越教育大学の将来構想（中間報告）－」としてまとめられ，平成10年1月21日の合同部（系）教員会議に報告された（以下第1次中間報告）。

③ 上越教育大学改革構想

第9回同委員会（2月10日）から第11回同委員会（4月14日）では，「大学構造改革案」の検討と第2次中間報告の作成に向けた審議が継続され，その結果第12回同委員会（4月24日）及び第13回同委員会（5月6日）で，「上越教育大学改革構想案（第2次中間報告原案）」がとりまとめられ，上越教育大学改革構想案（第2次中間報告）として，5月13日開催の合同部（系）教員会議に加藤学長より報告された（以下第2次中間報告）。第2次中間報告の基本骨子は次の4点からなっている。「①21世紀が求める質の高い教員を養成する学部・大学院の教育体制の構築。②6年一貫制（学部・修士課程一貫）の教員養成課程の構築。③実践的人間理解，教科領域の専門性，教育実践力を三本柱とする教育実践学の構築。④教官の専門分野を超えた研究システムの制度

化および博士課程（学校教育実践学と教科教育実践学）における研究者の養成。」そして学部の教育課程においては，「人間教育学関連科目」，「人間教育学セミナー」，「情報・表現科目」，「ブリッジ科目」，「専門領域セミナー」，「実践領域セミナー」といった改革を徴憑する全く新たな科目群の開発が構想されている。

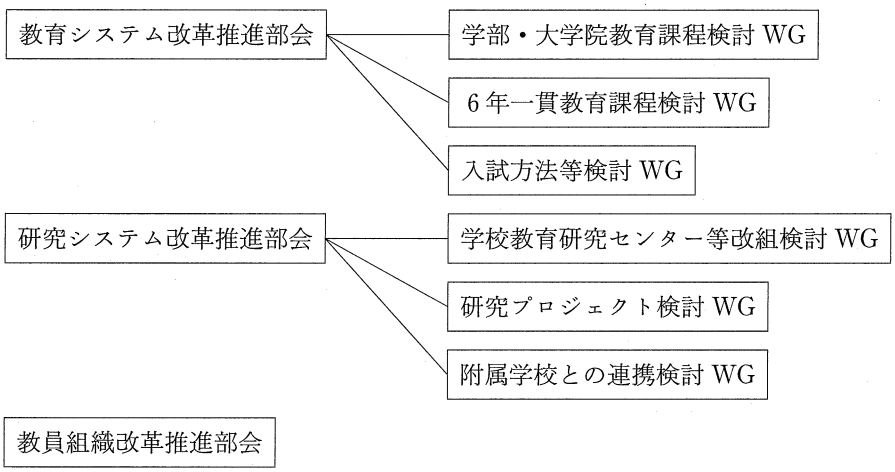
6年一貫制については，「学校臨床課程構想案」として新たな章が設けられた。6年一貫制「学校臨床課程」構想案は，個々の児童・生徒の成長とともに，学級という集団の成長を促す能力の養成を目的とする「発達臨床コース」と児童・生徒の学習過程を共感的に理解しながら学習を指導する能力と教材開発能力を養成する「教科臨床コース」から構成されている。さらに大学院の教育課程も，専門領域セミナー，実践領域セミナー及び研究プロジェクトを新設して，「現職教員の専門的実践力の養成と教育実践学の構築をはかる。」ことを骨子としている。また，「教育支援開発センター構想案」は，学校教育研究センターを「①研究プロジェクトセンター機能，②教育救急センター機能，③学内の教育開発機能」を具えた機関として改組する方向を打ち出している。

第14回同委員会（6月24日）では，ここで提案された「今後のアクション・プラン」に基づいて，9月上旬に「上越教育大学改革構想案」の説明会，教授会承認を経て，10月の創立20周年記念講演・シンポジュームを開催すること等が了承された。第15回同委員会（7月2日）は「上越教育大学改革構想案（第2次中間報告）」に対する学内教官の意見について論議し，それに基づいて第16回同委員会（8月25日）は「上越教育大学構想の基本的事項（骨子）」と「今後の進め方」について了承した。その結果，第1に，学部入学定員を160人とする，第2に，学部専修を「学校教育専修」の1専修6コース（学校臨床コース，分化教育コース，自然教育コース，芸術教育コース，生活・健康系コース）とする，第3に，大学院学校教育専攻学校臨床コースは平成13年度に開設し，平成16年度までに既存の専攻の改組を検討する，以上3点が新たに付け加えられた。

以上の論議を踏まえて，平成10年9月24日開催の第2回合同部（系）教員会議に，「上越教育大学改革構想（最終報告）」が報告された。最終報告案は，第2次中間報告に上記3点を明記するとともに，さらに6年一貫制の学校臨床課程について修正を加えている。すなわち，学部では発達臨床コースと教科臨床コースに加えて幼児教育と障害児教育から構成される発達支援コースが構想され，大学院では，発達臨床コースが生徒指導・発達臨床コース，教科臨床コースが教育方法・教科臨床コースにそれぞれ名称変更された。第2回合同部（系）教員会議では，更に，今後の改革の進め方について，改革構想特別委員会は平成10年9月末日をもって解散し，10月から改革推進特別委員会を設置する方向と，「改革のタイム・スケジュール」も同時に示された。タイム・スケジュールについては，大学院新設コースを平成13年度に開始し，大学院全体の改組を6年一貫カリキュラムと接続する平成16年度と予定している。「上越教育大学改革構想（最終報告）」は，9月24日開催の教授会において了承された。

④　改革推進特別委員会の設置

平成10年11月6日に第1回の改革推進特別委員会が開催され，同時に次に示す3部会とワーキング・グループも設置された。




第1回改革推進特別委員会では，今後の検討課題が加藤学長より提案された。すなわち，第1点は，「6年一貫のカリキュラムによる教員養成」である。これについて特に学長より，教育職員養成審議会第2次答申に6年一貫のカリキュラムによる教員養成について開発研究を進めていく方向が盛り込まれることが紹介された。第2点は，「現職教員の再教育の場としての修士課程の充実」であった。

改革推進特別委員会各部会は，第2回（平成10年12月8日）から第5回（平成11年1月11日）まで，「大学院学生の定員充足のための方策」－大学院修士課程1年制コースーについて集中審議を重ねると同時に各部会の審議結果について報告を受けた。そして第6回委員会で，教育システム改革推進部会と研究システム改革推進部会の中間報告が提出された。教育システム改革推進部会からは6年一貫教育課程WGの中間報告について説明された。この時点で各コースごとの臨床のコンセプトと6年一貫を必要とする理由付けについて今後も検討を継続することになった。研究システム改革推進部会は，学校教育研究センターを研究プロジェクトを核とした「教育支援開発センター」へ改組する構想案を提示した。

⑤　文部省教育大学室との協議開始

改革推進特別委員会のこれまでの検討結果について文部省教育大学室との打合せを行っておきたいという学長の意向を受けて，大澤副学長を中心に，特に「6年一貫のカリキュラムによる教員養成」の論点整理を事務局を交えて行う作業に入った。この検討会は，学習に関わる臨床のコンセプトを構築していくことがまず必要であるという認識のもとで，特に教科臨床コースを中心に検討を加え，「大学院進学コース「学習臨床コース」案」を作成した。本案では，「学習臨床」について，学習診断，学習治療及びカリキュラム開発力を有した「ティーチング・カウンセラー」養成を目的とし，そして学部段階では3・4年次における長期の臨床実習を構想している。

3月12日に文部省教育大学室と初の本格的な第1回の協議が持たれた。この協議では，まず「6年一貫のカリキュラムによる教員養成」について，その「アイディアは，基本的には賛成するが」，しかし「6年一貫教育が制度上認められていない」，このハードルをいかにクリアするか，この点が最大の争点となった。大学院の改組については，「学校教育専攻に需要があるのであれば」「平成12年度に実施」したほうがよいという方向で協議が行われた。そして学校教育研究センターについては，改組に伴う人員増は「非常に難しい状況にある」という感触を得た。

第7回改革推進特別委員会（3月29日）では，3月12日の文部省打合せ結果を踏まえて，大澤副学長より「上越教育大学改革計画の概要」が提示された。学部では，改組後，初等教育教員養成課程学校教育専修160人－発達臨床コース（20人），学習臨床コース（20人），発達支援コース（20人），言語・社会系教育コース（30人），自然系教育コース（20人），芸術系教育コース（20人），生活・健康系教育コース（30人）－，大学院では，改組後，学校教育専攻120人－生徒指導・発達臨床コース（60人），教育方法・学習臨床コース（60人）－，幼児教育

専攻10人，障害児教育専攻30人，教科・領域教育専攻140人－言語・社会系研究コース（50人），自然系研究コース（30人），芸術系研究コース（30人），生活・健康系研究コース（30人）－となった。この「概要」については次回に改めて検討されることになった。

⑥　改革推進新体制と「改革の概要（案）」

平成11年４月１日より，大澤健郎新学長が改革推進特別委員会の委員長に就き，第８回同委員会（４月16日）で各部長及び講座主任から構成される新たな体制がスタートすることなった。同時に入試方法等検討部会，教育システム改革推進部会，研究システム改革推進部会が設置された。

新体制発足直後の４月８日に文部省教育大学室で改革に関する聴取が行われた。ここでは，３月12日に協議した事項が再確認され，同時に今後の検討課題として次の４点が提示された。第１に，６年制コースについて，学部と修士でコースの名称が異なるのは受験者に分かりにくい，学部から上がってくる学生と修士から入学する学生とが同じカリキュラムであるならば，６年一貫と矛盾しないか，４年終了後の就職が受験生に不充分な教育との印象を与えることになることは避けるべきである。第２に，修士課程１年制コースについて，１年制と２年制の基準に関して教育委員会と大学側の両者に相違が生じないようにする必要がある。第３に，修士の定員充足については，今後改革をしても増えることがないようであった場合にどうするかを考えておく必要がある。第４に，改革の概要について，その内容に矛盾や混乱がないような制度，仕組み，方法を明確にして，文部省に提示して欲しい。

４月16日開催の第８回同委員会では，３月12日及び４月８日に行われた文部省教育大学室との協議結果を受けて，大学院修士課程の改組を平成12年４月とし，更に教科臨床を学習臨床へ変更すること，及び改革の概要案について早急に作成することが了承された。改革概要案は，「上越教育大学改革構想(最終報告)」（平成10年９月24日），学部・大学院教育課程案（平成11年３月10日），「大学院進学コース「学習臨床コース」案」（11年１月11日），及び「上越教育大学改革計画の概要」（平成12年３月12日）に基づいて，「改革の概要（案)」（４月27日）として作成された。これをもって，４月27日，文部省教育大学室との打合せに入った。

⑦　６年一貫制教育の構想と「改革の概要（案）」

文部省教育大学室との検討事項は４月８日におけるそれと基本的に変わらないが，しかしながら次の３点については継続して緊迫した協議が重ねられた。第１に，大学院の定員充足についてであるが，これについては改めて厳しく求められ－充足が実現できない場合には入学定員の削減が問題とならざるを得ないことも考慮しておくべきことも言及された－，そして第２に，６年一貫制について，これを６年制とするか或いはカリキュラムの特色として継続を図るか，明確にする必要がある，その方向性を得て関連部署と相談することになる，第３に，修士課程１年制について，これが導入されたならば教育委員会からの２年間の派遣はいずれなくなると思われるがその対応を考慮しているか，であった。

５月18日には「教育方法・学習臨床コースに係る公聴会」が開催される。これは，第１に，教科臨床を学習臨床と名称変更したことについて（平成11年３月12日の文部省教育大学室との打合せを受けて４月16日の第８回改革推進特別委員会で承認，４月27日の文部省教育大学室との協議で再確認）学内に周知を図り，第２に，従来の教科教育とは異なる全く新たなコンセプトで学習臨床を構想したことと，このコンセプトに基づいてカリキュラムを開発する必要性から担当者を公募し，第３に，その担当公募者案を改革推進推進委員会で審議し，了承する手順についての理解を得る，という３点から実施された。なお，この公聴会で，大学院「教育方法・学習臨床コース」について，そのWGから「教育方法分野，学習臨床分野，情報教育分野，総合的学習分野」の４分野を設ける案も合わせて報告された。

以上の大学院「教育方法・学習臨床コース」案は，「生徒指導・発達臨床コース」案とともに，「改革の概要（案）　大学院修士課程における多様な教育－学部・大学院一貫カリキュラムによる教育－」として整理され

た。本「改革の概要（案）」は「学部•大学院一貫カリキュラムによる教育」という基本コンセプトを再確認している。５月20日，この「改革の概要（案）」をもって直ちに文部省教育大学室との協議に臨んだ。

５月20日の文部省協議では，学部と大学院の専修・コース名が一致している方が分かりやすいという提言に基づき，学部を学校教育専修（発達臨床コース，学習臨床コース），発達支援専修（幼児教育コース，障害児教育コース），教科・領域教育専修（言語・社会系コース，自然系コース，芸術系コース，生活・健康系コース），大学院を学校教育専攻（発達臨床コース，学習臨床コース），幼児教育専攻，障害児教育専攻，教科•領域教育専攻（言語・社会系コース，自然系コース，芸術系コース，生活・健康系コース）とする方向で検討することになった。なお，その後，社会系教育講座より，学部と大学院の「言語•社会系コース」から「社会系コース」を分離・独立して欲しい旨の要望が改革推進特別委員会委員長に提出され了承された。

５月25日に文部省教育大学室で大澤学長と石井教育大学室長との間で協議がもたれ，特に発達支援専修の障害児教育コースと６年一貫カリキュラムによる教育について意見の交換が行われた。前者について，早急に解決すべき課題，すなわち附属学校を有しないで特殊教育諸学校教員の養成が可能かどうか検討する必要性が出てきた。同日引き続いて大澤学長と佐々木高等教育局長との懇談がもたれ，高等局長より，「今後大学として，どういう形で教員の実践性を高めていくか他の大学のモデルとなるようなものを考えてほしい」という要望が表明された。

⑧　「改革計画（案）」の策定と文部省教育大学室との協議

５月26日開催の第12回改革推進特別委員会は，４月27日の「改革の概要（案）」と５月20日の「改革の概要（案）大学院修士課程における多様な教育－学部•大学院一貫カリキュラムによる教育－」に上記の修正を加えた「改革計画（案）」について審議し，了承した。なおその際に「改革計画（案）」については６月８日に予定されている文部省教育大学室との協議を踏まえて，６月９日開催の評議会に付議することも合わせて了承された。その間に，５月31日，合同部（系）教員会議が開催され，ここで「改革計画（案）」が報告された。なお，同時に，本案を６月９日開催の評議会において機関決定し，そして６月下旬に「平成12年度概算要求書」を提出する日程案も示された。

６月８日に用意された文部省教育大学室との協議は，時間的にみて，両者間で基本的な了解を得るぎりぎりの局面に入っていた。ここで確認された事項は以下のとおりである。第１に，６年一貫カリキュラムによる教育については制度上の一貫は認められないが，教育上カリキュラム上の特色で学部と大学院を継続する方向で具体化する。第２に，大学院学習臨床コース４分野と発達臨床コース２分野をそのまま学部へ下ろすこと。第３に，学部の入学定員は160人とする。第４に，発達支援専修障害児教育コースはその附属学校を有しないという理由で設置できない。第５に，大学院学習臨床コースの４分野（教育方法分野・学習臨床分野・情報教育分野・総合学習分野）について，学習臨床コースに学習臨床分野があるのは紛らわしいので名称の整理が必要である。第６に，本学の改革は全く新たな専門分野を立ち上げるために設置審にはかけない。第７に，そのためにも，改組後の新２コースへの異動は教育基礎コースと教育経営コース入学者のみに，本人希望を優先して認める，第８に，大学院学校教育専攻と障害児教育専攻については追加募集を行う。以上８点である。なお，第１と２に係わる学部・大学院の学習臨床コース４分野のカリキュラム案について早急に協議することになり，これを至急教育大学室へFAXで送付することになった。

６月９日，これら８点についての対応を論議するために，直ちに，第13回改革推進特別委員会が開催された。同委員会では，第１，２の点については新コースのカリキュラム案を提示して早急に確認する，第３点については入学定員減に伴い教官は助教授定員２人を減じる，第４点については学部の発達支援専修障害児教育コースを設置しない，従って発達支援専修を幼児教育専修とし入学定員を10人とする，第５，６点については早急に検討し，具体案を作成する，第６，７，８点については了承された。

6月9日午後に開催された第212回評議会において，第12回改革推進特別委員会（5月26日）で承認された「改革計画（案）」に上記の修正を加えた改革計画案が審議に付され，機関決定された。なお，学習臨床コース分野名称と学部・大学院のカリキュラムについては，今後，学長団が文部省教育大学室と協議していくことも合わせて了承された。6月9日，学習臨床コース及び発達臨床コースの各分野名称とカリキュラムの作成について各分野責任者間の協議が深夜にまで及び，夜を徹して起案されたその具体案が6月10日に教育大学室へFAXで送付された。なお分野の名称は，学習臨床コース「教育方法臨床分野・学習過程臨床分野・情報教育分野・総合学習分野」，発達臨床コース「生徒指導分野・心理臨床分野」となった。

6月10日の午前と午後の2回，石井教育大学室長との電話による協議に入り，ここで，学習臨床コース4分野と発達臨床コース2分野の各名称と学部・大学院の対応関係，及びこの新2コースはカリキュラムで学部と大学院が継続していく点について合わせて了承された。翌6月11日，文部省教育大学室において，いよいよ，学校臨床コースカリキュラムと担当教官の授業科目概要案及び教育職員免許状取得に係る要件単位数について最終的な協議に入った。この協議で，次の2点を除き，改革計画案は基本的に了承された。すなわち，第1に，学習過程臨床分野に既開設教科以外の社会系コース，生活・健康系コースについても加えること，第2に，追加募集は4月に入って実施する方向で検討すること，の2点であった。

⑨　改革案具体化の作業

6月11日の文部省協議の結果は第14回改革推進特別委員会（6月16日）に報告され，学習臨床コースにおける社会系コース，生活・健康系コースの開設については関係講座の委員と学長に一任された。そして第15回委員会（6月23日）及び第16回委員会（6月28日）において，学習臨床コース授業科目担当者の原案と「改革に伴う運営体制について（案）」が審議される。

なお，第16回委員会では新たに改組PRパンフレット作成ワーキンググループの設置が認められた。更に第18回委員会（7月16日）で学部・大学院PRリーフレット作成ワーキンググループが設置される。本委員会は，この2つのWGの設置によって，今後，学部・大学院及び各コースごとのパンフを作成し教育委員会等に改組の情報を提示し，そして特に大学院現職教員の定員充足に努める方針を了承した。

第17回改革推進特別委員会（7月5日）は，新コースの運営に係わる本格的な協議に入り，運営会議準備会の設置を承認し，更に新設2コースへの教官再配分に関わる「大学改革に伴う学内措置による教員定員の配分計画（案）」の検討にも着手した。第18回委員会（7月16日）は，平成12年度開設授業科目案及び教員免許状の課程認定申請案を協議し，教授会と研究科委員会に付議ことを了承する。両案は第247回教授会（7月16日）及び第238回研究科委員会で承認された（なお文部省との事前協議による変更については，課程認定申請の日程上，その扱いを学長一任とされた）。そして第19回同委員会では更に課程認定申請に伴う非常勤講師手続きの日程について了承された。

研究プロジェクト推進機構の推進については，第18回改革推進特別委員会から本格的に協議される。そして第19回同委員会（7月28日）から新設2コースに関わる施設等の確保・整備の検討にも入った。第20回同委員会（8月25日）と第21回同委員会（9月2日）は「上越教育大学研究プロジェクトの推進について（案）」，「上越教育大学研究プロジェクト推進委員会規程（案）」，「平成11年度上越教育大学研究プロジェクト公募要領（案）」及び「研究プロジェクト関連科目の開設概要（案）」を審議し了承する。そして以上の案は第214回評議会（9月8日）でも了承され，第249回教授会（9月22日）に報告された。研究プロジェクトは15件採択されたが，いずれのテーマも改革に伴うカリキュラム開発に係わっている（11月24日開催の第251回教授会報告）。

第21回改革推進特別委員会では，更に，学部授業科目「人間教育学セミナー」の担当教官と学部のクラス担当教官制度・学生所属案及び大学院合格者及び第2次学生募集要項への改組計画予告掲載文案についても提案され，審議の後に了承された。前者についてはその具体化のために教務委員会審議されることになった。

第22回改革推進特別委員会では新たに修士課程１年制コース導入に関わるプロジェクトチームの設置が了承され，修士課程短期在学コースワーキンググループの名称で委員会に設置をみた。本 WG は，大学院設置基準の一部を改正する省令（平成11年８月14日交付・施行）に関わる10月１日付けの文部省高等教育局事務連絡「国立大学の大学院修士課程において２年を超える標準修業年限又は１年以上２年未満の標準修業年限を設ける際の取り扱いについて」に基づいて，２年制とは特化されたコンセプトを検討する作業に入っている（現在も継続中）。

第24回改革推進特別委員会（12月24日）では学部・大学院の改組 PR パンフレットの見本刷りが紹介されると同時にいよいよ改組に伴う追加募集要項案（「平成12年度上越教育大学学生募集要項（追加）」）が審議され，第248回研究科委員会（平成12年３月３日）で了承される。そして第25回同委員会で，懸案であった学校教育専修・専攻の新設コース担当教官とコース運営会議の設置に伴う各種委員会の選出とその方法について検討され，その案は第220回評議会で了承された。

なお学校教育専修・専攻学習臨床コースと発達臨床コースの改組に伴う施設の確保についは将来計画検討委員会で検討されている。第54回将来計画検討委員会（11月10日）では「既施設の共有化」の原則を策定し，第217回評議会（11月10日）でも承認された。第55回将来計画検討委員会（12月８日）は既存施設共有化に係わる調査結果について検討し，第56回同検討委員会で施設の整備計画小委員会（委員長大悟法滋教授）から平成12年度新設コースに必要とされる施設の確保案について報告された。本案は，その後両コースから要望された諸施設の確保（平成12年度）を含めて，平成12年３月８日開催の第26回改革推進特別委員会，第57回将来検討委員会そして第221回評議会で承認された。

⑩　概算要求と課程認定

平成12年１月12日第219回評議会で「平成12年度概算要求書」が政府予算案として決定された報告があり，そして平成12年度開設授業科目及び教員免許状の課程認定申請については，２月７日に文部省教育助成局教職員課との事前協議を経て，３月21日開催の教育職員養成審議会で了承されるに至った。

さて，本学の改革構想策定に係わる関係委員会での審議経過は以上みたとおりであるが，ここで更に事務局に設置された「大学改革に関する改革プロジェクト・チーム」及び学長団と事務局との事前検討会について付言しておくべきであろう。平成11年４月８日の文部省協議以降，改革推進特別委員会及び部会に係わる改革原案は改革プロジェクトチームと学長団で起案され，その後に事務局との事前検討会で細部にわたって検討に附された。とくに今回のような抜本的な改革が本学の歴史において初めて試みであったために，この検討会はまさしく学長団及び事務局相互の緊密な相互関係を構築し改革案の理解を深める上で極めて重要な役割を果した。

改革推進特別委員会は，以上みたように，２年８ヶ月にわたって改革構想の策定からその実施プログラムの推進に係わり，平成12年度改革に係わる運営体制について一応の整備を整えてきた。しかし，新コースにかかわる教官組織の再編，修士課程短期在学１年制コース，そして学校教育研究センター改組は平成13年度に引き継がれることになっている。なお第26回改革推進特別委員会は，平成12年３月末日をもって廃止し，４月から新体制のもとで大学改革の推進と新たな課題に万全を期していくことを承認している。

### (2)　改革の理念と基本方針

①　改革構想案

さて，ここで改めて本学の改革構想に係わる「案」一覧を整理しておく必要があろう。改革の理念と基本方針に係わる基本構想は「上越教育大学改革構想」（平成10年９月24日）（同日の教授会承認）において明示されている。そして「改革の概要（案）」（平成11年４月27日）「II　改革の理念と基本方針」は，「上越教育大学改

革構想」の「２．改革に向けた基本的課題」を具体化したものである。そして文部省教育大学室との協議でかかる具体化の内容について検討課題が加えられ，それに対応した案が作成される。「改革の概要（案）大学院修士課程における多様な教育－学部•大学院一貫カリキュラムによる教育－」（平成11年５月20日）は，副題に特化した内容構成になっている。平成11年６月９日の評議会で機関決定された「改革計画（案）」は，「１　改革の必要性」において「改革の概要（案）」（平成11年４月27日）「Ｉ　改革の必要性」の内容を４項目にわたって摘要し，「２　改革の理念と基本方針」については「改革の概要（案）」の「II　改革の理念と基本方針」をほぼそのまま転載したものになっている。

以上のように，本学改革に係わる「改革の理念と基本方針」は，「上越教育大学改革構想」（平成10年９月24日）と「改革の概要（案）」（平成11年４月27日）にその基本的内容が明記され，「改革計画（案）」（平成11年５月26日）で機関決定されている。ただし，６年一貫制にかかわる新設２コースに係わる具体的内容と学部の発達支援専修障害児教育コースはなお文部省との協議が予定されており，その対応は学長に一任されている。その結果に基づく修正は既述したとおりである。なお，学部と大学院の教科・領域教育専修・専攻における言語系コースと社会系コースの入学定員については両講座の協議に委ねられた。「平成12年度概算要求書」は「改革計画（案）」（平成11年５月26日）に基づいて作成されている。

②　改革の理念と基本方針

ここで「改革計画（案）」（平成11年５月26日）に記載された改革の必要性，改革の理念と基本方針を再録しておきたい。「１　改革の必要性」については次のように摘記されている。「①21世紀初等の教育改革を担いうる教員を養成し，教育実践の研究をリードする先端的なセンターの構築，②ヒューマニズムの理解をコアに据え，諸科学の成果と現代社会の諸課題を教材化し，子どもの行動と学習を支援•指導できる実践的教員の養成，③教科の専門性を多様な視点から教材化するカリキュラム開発能力と子どもに対する高度な臨床的実践力をもつ現職教員の再教育，④教育をめぐる緊急課題を早急に解決し，社会の国際化と情報化に対応するための学校現場との共同研究の推進」。「２　改革の理念と基本方針」は「改革の理念」と「期待される効果」から述べられている。「(1)改革の理念：「新たな時代に向けた教員養成」システムの構築　①新たな知を有し，現代的な諸課題に立ち向かう質の高い教員の養成，②実践的人間理解，教科の専門性，臨床的な教育実践力の三本柱を育成，③大学院修士課程における教育実践研究の推進・強化，④教育現場からの提案・課題に関する附属学校等との共同研究の推進，⑤個人研究と共同研究を有機的に結合した研究機能の構築，⑥部・講座を横断した学際科目群による教育システムの構築，⑦「社会の教育課題に迅速に対応できる」教員養成プログラムの開発」。「(2)期待される効果：「豊かな未来」としての個性的教員の養成　①学部　人間理解に裏付けされた領域的・複合的な教科指導力と生徒指導力を備えた初等教員と，臨床場面におけるカウンセリングと教科指導，更に一人ひとりの子どもがもつ固有の教育ニーズを理解し，それを実現するための発達的・教育的支援を行うことのできる保育者・学校職員・家庭養育者アドバイザーを養成する。②大学院　教科の専門性を備えると同時に子どもの理解・指導に関する臨床的な知識・技能を身につけ，個別・集団指導法を開発創造しカリキュラムを開発する力量を身につけた，今日最も求めらている教育現場の指導者を養成する。」

# 第二章　自己点検・評価

# 第二章　自己点検・評価

## 1　自己点検・評価の実施

自己点検・評価の目的においては，①本学が常に教育研究活動の現状を客観的に把握するとともに，学部・大学院等の理念・目的との関連において，その現状を点検・評価し，改善すべき点を明らかにし，更には，将来的改革の方向をも検討し，それに沿って不断に改善•改革を行うこと。②本学の誇るべき長所を明らかにし，これを維持•伸長していくことの２点が重要である。

本学では，平成８年度から新体制による自己点検・評価を実施しており，以下の実施要領に従い，平成10年度も引き続き自己点検・評価を実施することとした。

〔自己点検・評価実施要領〕

**自己点検・評価の実施方法**

① 自己評価等委員会（以下「委員会」という。）は，毎年度当初に，各実施組織に自己点検•評価の実施を依頼する。

② 依頼を受けた実施組織は，当該年度に自己点検•評価を実施する評価項目を委員会に申し出るものとする。

③ 実施組織は，当該年度の３月末日までに，委員会へ任意の様式による自己点検•評価実施報告書（以下「報告書」という。）を提出するものとする。

**報告内容の充実**

実施組織は，報告書を作成するに当たっては，規則別表の自己点検•評価項目（以下「項目」という。）に関し，次に掲げる事項を参照して，その内容の充実に努めるものとする。

① 各項目の実施に当たって，その目的，方針，位置付け及び在り方はどうあるべきか検討され，また，再確認がされているか。

② 各項目の実施状況，現状等はどのようになっているか，実施に当たって適切は配慮が成されているか。

③ 組織は有効に機能し，運営されているか。

④ 施設・設備は，教育研究上有効に活用されているか，適切な管理運営が成されているか。

⑤ 組織・施設等の現状は教育研究環境及び社会状況の変化に伴い見直す必要はないか，どう見直しされてきているか。

⑥ ①～⑤の結果には，問題点の指摘，その改善策の提案を含むものとする。

**結果の取りまとめ**

委員会は，実施組織からの報告の取りまとめに際し，実施組織から意見を聴く機会を設けることができる。

**結果の公表**

① 自己点検・評価結果は，原則として，年次報告書により学内外に公表する。ただし，各実施組織は，報告書の内容に関し，「部分公開」又は「非公開」とすることを委員会に申し入れることができる。

② ①の申し入れは書面により行うものとし，委員会及び評議会が正当な理由があると認めた場合には，その内容について年次報告書に掲載しないものとする。

この実施要領は，平成８年４月24に開催された自己評価等委員会においてまとめられたもので，年度当初に各実施組織に対して自己点検・評価を依頼・周知する際に添付し，自己点検・評価の方向性を示した。

## 2　自己点検・評価結果

平成８年度から新体制による自己点検・評価を実施し，平成10年度で３年目を迎え，規則に掲げる自己点検・評価結果は，以下に掲げるとおりである。

各実施組織の自己点検･評価は概ね適切に行われている。特に学生に関する事項を取り扱う実施組織においては，現状把握と共に問題点の指摘がなされ，今後改善して行くべき方向が見えている。また，問題点についての解決策や対応策等の提案まで踏み込んでいることは，良き点として評価できる。

しかし，平成９年度と同様に，活動状況の把握が十分でなく問題点が明らかにされていないものや，問題点を明らかにしたが改善策等の提案まで踏み込めなかったものなどが見受けられる。

自己評価等委員会では，このような自己点検・評価の現状を把握し，現状体制の再点検を行うため，各実施組織等に対し調査を実施し，その調査結果を反映させた自己点検・評価体制の見直しを行い，平成11年度から実施する自己点検・評価体制を確立した。その内容は，①事項を主とした体系的な点検・評価を行うための，重点事項・項目の設定。②重点事項・項目の具体的な実施方法等を検討するための専門部会の設置。の２点である。

今後は，大学審議会答申「21世紀の大学像と今後の改革方針について―競争的環境の中で輝く大学―」で提言されている自己点検・評価結果の学外者による検証及び第三者評価システムの導入に関し，具体的な検討を行う必要がある。

また，この導入に向けて，自己点検・評価の在り方についても抜本的な見直しを行い，外部評価に耐えうる体制の整備・充実が急務である。

### (1)　各実施組織における自己点検・評価結果

平成10年度に自己点検・評価を実施し，その結果を自己点検・評価実施報告書として自己評価等委員会に提出した実施組織は，次のとおりである。

| 実施組織 | 自己点検・評価項目 |
|---|---|
| **教務委員会** | 学生定員の充足状況（入学者数，在学者数，専修・コース分け等） |
| | 非常勤講師による授業実施状況 |
| | 教授方法の工夫・研究のための取組 |
| | 教員の教育活動に対する評価の工夫 |
| | 成績評価，単位認定の在り方・基準 |
| | 他大学との単位互換の方針と状況 |
| | 研究指導の方針・方法・体制 |
| | 単位互換，研究指導委託の方針と状況 |
| **教育実習委員会** | 教育実習の内容と状況 |
| **学生委員会** | 学生生活相談（健康・精神衛生）の実施体制・状況 |
| **学校教育学部入学試験委員会** | 学生募集・入学者選抜の方針・方法 |
| **大学院入学者選抜委員会** | 学生募集・入学者選抜の方針・方法 |
| **大学院教育実習委員会** | 教育実習の内容と状況 |
| **学位論文審査委員会** | 学位の授与状況 |
| | 学位論文の審査の方針・方法・体制 |
| **自己評価等委員会** | 研究成果の発表状況※ |
| | 共同研究（小・中・高等学校教員との共同研究を含む。）の実施状況※ |

| | |
|---|---|
| | 国際研究プロジェクトへの参加状況※ |
| | 学会活動への参加状況※ |
| | 国内外の学術賞の受賞状況※ |
| | 研究費の財源（学外からの資金の導入状況，科学研究費補助金の採択状況等） |
| | 教員の社会的活動状況※ |
| | 自己点検・評価の組織・実施体制 |
| | 自己点検・評価結果の学内外への公表 |
| | 自己点検・評価結果の活用（結果をフィードバックするための仕組み） |
| **スペース・コラボレーション・システム事業実施委員会** | スペース・コラボレーション・システムの利用状況 |
| **教育課程検討委員会** | カリキュラム編成方針と教育理念・目的との関係 |
| **職員レクリエーション委員会** | 職員レクリエーションの実施状況 |
| **実験廃棄物等管理委員会** | 実験廃棄物等の管理状況 |
| **公開講座委員会** | 公開講座及び文化講演会の開催状況（開催数，時期，時間帯，内容等） |
| **研究紀要委員会** | 研究紀要の発行状況・編集方針 |
| **国際交流委員会** | 留学生の受入れ状況（受入数，奨学金，宿舎，学生生活等） |
| | 留学生の教育研究指導の方法・体制 |
| | 海外からの研究者の招致状況 |
| **学生宿舎委員会** | 学生宿舎の入居状況 |
| | 入居学生の生活（施設設備の利用，居住環境の保全等）状況 |
| **国際学生宿舎委員会** | 国際学生宿舎の入居状況 |
| | 入居学生の生活（施設設備の利用，居住環境の保全等）状況 |
| **大学会館運営委員会** | 大学会館（食堂，売店等）の運営・利用状況 |
| **予算委員会** | 予算の配分方針と状況 |
| **環境委員会** | キャンパスの自然環境の保全状況 |
| | 学内交通対策・交通手段の確保 |
| **就職指導委員会** | 卒業者・修了者の就職・進学状況 |
| | 就職指導の内容・体制・取組 |
| **事務局（事務連絡会）** | 事務組織の機能・運営状況 |
| | 事務分掌の見直し，関係規程等の整備状況 |

注）1　附属図書館運営委員会，学校教育研究センター運営委員会，保健管理センター運営委員会，情報処理センター運営委員会，附属実技教育研究指導センター運営委員会，附属障害児教育実践センター運営委員会，附属小学校，附属中学校及び附属幼稚園については，**第三章「附属施設等」**の中で自己点検・評価結果として掲載したため，上記の表から除いた。

2　自己評価等委員会の自己点検・評価項目のうち※印については，**第四章「各教官の研究活動及び社会との連携」**に別途掲載した。

〔教務委員会〕

● 学生定員の充足状況（入学者数，在学者数，専修・コース分け等）（学校教育学部）

入学者数・在学者数ともに，各学年200名を若干こえる数で推移しており，入学定員200名に対して，適正な規模が維持されている。男女比は，女子がやや優位だが，偏差は小さく，初等教育教員養成の課程として理想的な形態が構成されている。なお，外国人留学生は減少する傾向にある。

専修・コース分けは，個別学力検査等による入学生に対して行われるが，従来，各専修・コースの標準学生数と決定者数との間に不均衡の生じていることが，否めない状況にあった。平成10年度から，これを是正すべく専修・コース分けの方法を整え，大学入試センター試験または実技検査等の成績を基に所属を決定した。これにより，各専修・コースともに標準学生数と同一かほぼそれに近似する結果がえられている。この方法の適否は，学習の過程や就職状況等によって今後評価される必要がある。

● 非常勤講師による授業実施状況

各講座において，教育上必要だが学内に担当者が得られない科目については，非常勤講師枠によって補わざるを得ず，各部・系への配分方針に基づき，原則として県内・隣接県，または関東・関西圏から非常勤講師を招いて，主として，７月下旬，９月中旬，２月中旬に集中講義の形で授業を実施しているのが現状であり，おおむね順調に機能していると言える。ただし，過去においても関東・関西・北陸以外の遠方から招いた例もあり，地域にあまりとらわれずに適任者を選ぶ必要性がある。また，本務校において大学院を担当していなかったり，あるいは大学以外の研究所に所属する講師候補者の審査手続きについては，より簡素化することを検討すべきである。

● 教授方法の工夫・研究のための取組

各教官は授業実践および改善に積極的に取り組み，それぞれの学問領域の最新の理論や成果を授業に取り入れようとする努力が見られる。最新の論文等の講読・紹介に加えて，図版，OHP，VTR，その他のマルチメディアを利用することにより，学生の興味を喚起するよう努力し，また，学部・院生・教官３者の共同研究およびその成果の発表にも積極的である。しかし，授業方法に対する学生の要望や学生による授業方法の評価については，まだ十分な議論，検討がなされておらず，それらの積極的導入について今後の議論，検討を要すると考えられる。

● 教員の教育活動に対する評価の工夫

教員の教育活動については，従来より上越教育大学年次報告書において，教員各自の報告として記載し学外に公表していた。しかしながら，その報告の中心は「研究」と「社会的活動」にあり，「教育」に関しては必要最小限の記載に留まっていた。

平成８年度版（第12集）年次報告書から，各教員の報告項目に新たに【大学の授業実践・改善の研究状況】の項目が設けられ，【専門分野の研究状況】と並んで研究活動の重要な領域として位置づけられた。これによって，本学の教育活動の情報公開について，格段の密度と透明度が加わることとなった。

今後は，内外から益々強い要求がみられる大学教育の教授学に関して，共同研究としての授業研究や，学際的な授業交流など，新たなファカルティ・ディベロップメントが求められており，大学教育自体の構造改革も視野に入れる必要があろう。

● 成績評価，単位認定の在り方・基準

成績評価については，『履修の手引』（「４．定期試験，成績評価及び単位の認定」の「(2). 成績評価」）に「授業担当者が定期試験の結果及び受講状況等を総合して行います。」とその明記され，評価についてはA，B，C，

Dの4ランクがそれぞれの数値化された評価基準とともに示されている。単位はA，B，Cの3ランクについてのみ与えられ，Dは単位が認められない。なお，A評価の評価基準は80点以上であり，以下，Bは70点以上79点以下，Cは60点以上69点以下，Dは不合格であり59点以下となっている。

これらの評価基準を得る具体的な方法（得点化の方法）については，各教官に委ねられている。

本年度のシラバスによってそれらの方法についてみてみると，講義による授業の場合は，授業中の小テストと期末試験によって評価するもの，小テスト・期末試験・レポートの三者によるもの，試験あるいはレポート，出席のいずれかによるものなどがみられ，また演習・実験・実技系の科目の場合は，発表や演奏による評価や，実験レポート，実技，実技と筆記試験の二者によって評価を行うものなどがある。

それぞれの授業の内容と特性に応じ，多様な方法によって成績評価と単位認定が行われていることがわかる。

● **他大学との単位互換の方針と状況（学校教育学部）**

他大学との単位互換については，「上越教育大学学校教育学部学生の既修得単位等の認定に関する規程」によって実施されている。この実際の運用については，入学前の認定の例があるが，現段階で在学中に国内の他大学との単位互換が行われた実績はない。これには，地域的な制約が作用していると思われるが，学部・学科組織のことなる大学等とのあいだで，単位互換の制度が実施されれば，教育・研究に有効な作用を相互にもたらすことが予測できる。今後，積極的に推進することが期待される。

なお，セント・アンドルーズ教育大学など海外の大学間交流協定締結校5大学との間では，相互に単位を認定する覚書等が交わされ，すでに運用されている。

● **研究指導の方針・方法・体制（大学院学校教育研究科）**

大学院設置基準によれば，研究指導は第9条に規定される教員によって行われる学位論文等に対する指導であり，授業科目の授業とともに大学院の教育の柱となるものである。

本学大学院における学位論文等に対する指導では，現職教育・研修の趣旨に鑑み，学校教育の場における今日的な課題を積極的にとりあげさせ，その成果を積み上げてきた。さらに，効果的な研究指導を行うために，各講座に一任されている方法などの整合性を確保することや，多様な修了研究等に対応した指導及び評価の開発が求められる。

● **単位互換，研究指導委託の方針と状況（大学院学校教育研究科）**

単位互換については，国内外において以下の大学との協定書等が交わされている。海外では，英国セント・アンドルーズ教育大学をはじめとした5カ国6大学，国内では，兵庫教育大学，岡山大学及び鳴門教育大学の各大学院研究科である。運用に関しては，現段階では，いずれの大学とも実績はないが，スペース・コラボレーション・システム（SCS）等の多様なメディアの導入により，講義等の交流・交換が可能となっている。今後一層の活用が期待できる。

研究指導委託については，学則第61条の2に規定されるように，教育研究上有益である場合は，他の大学院等において1年を限度として，必要な研究指導を受けることを認めている。これについても，実績は未だないが，その位置づけと運用についてさらに検討することにより，研究指導の活性化が期待できる。

〔教育実習委員会〕

● **教育実習の内容と状況**

平成10年度の教育実習は，本学の教育実習に関する基本計画に基づき，円滑に教育実習が進められた。なお，

本年度の委員会としての取り組みと成果，次年度への課題は，下記のようにまとめられる。

《取り組みと成果》

1　実習校との連携

上越教育大学の教育実習は，附属学校のみでなく，地域の学校にも委託して行っている。このような地域と大学の連携は全国的にもめずらしく，１校あたり少人数で実習に臨むことから，きめ細かな実習指導が受けられ，それによって学生の多くが教職への志望をより強いものにしている点で評価される。

①　巡回指導の充実

実習期間中において，実地教育担当者が全実習校を巡回して校長，受け入れ主任との話し合いをもち，実習状況の把握に努めた。そこで出された意見や大学としての課題は，実習委員会で検討し，平成11年度の事前指導に反映させる。

②　地域校長会との連携

従来，上越市校長会で組織される校長会教育実習連絡会と連携を図ってきたが，新井市校長会，中頸城郡校長会からも代表委員に参加してもらい，全実習校を網羅できる校長会教育実習連絡会に整備した。それによって，教育実習期間延長，教育実習の円滑な運営，教育実習の質的な向上等に関する課題について，大学が協議できる正式窓口が確保され，大学の意向を校長会を通して事前に受け入れ校に周知されるルートが確立された。

2　教員免許法の改正に伴う実習期間延長に関して

免許法改正にともなう教育実習期間の延長問題に関して，上記連絡会との協議で話し合いを積み重ねている。期間延長はやむを得ないということで快い回答を得ているが，どのように延長をするかについては，今後話し合いを積み重ねていくことが確認された。

3　介護等体験に関して

介護等体験に関しては，教育実習として一斉に展開せず，学生の自己責任において４か年間で取り組むという方針に基づき，障害児教育担当による事前指導後，本格実施に踏み切った。学生は１年次で２日間の特殊教育諸学校実習を経験し，残り５日間の施設実習を県社会福祉課で斡旋した施設，並びに，故郷等で実習に臨んだ。自ら希望する時に実習を行うという体制は，義務感での参加を軽減し，学生の自覚を促す上で意義があると考えられるが，今後，受け入れ施設側の意見も聴取し検討していく必要もあろう。

4　１年次観察・参加実習受け入れ校の拡大

１年次の観察・参加に関して，県立高田盲学校及び新井市立にしき養護学校から児童・生徒数の減少による，受け入れ人数の大幅削減の要望が出されてきていた。委員会としては，新たに県立柏崎養護学校，同さざなみ分校に受け入れに関する折衝を行い，承諾を得て平成11年度からの実習を可能にした。

5　教育実習前授業参観の導入

より教育実習の質的改善を図るため，①教育の基礎的技術を学ぶ　②実習学年の児童の実際を感じ取ることを目的として，教育実習前２週間を附属学校での「実習前授業参観週間」として設定し，その実施に踏み切った。前・後期合わせて340名の学生が参観を行った。参観後の学生アンケートによる評価では，学生達は自ら担当する学年や教科の様子が分かり，少なからず不安解消と実習への意欲向上に役立ったとしている。教育実習の期間延長がなされる平成14年度までの暫定的な措置として，今後とも展開していく。

6　教育実習での学生の参加状況の評価の定着

前述した教育実習連絡会が中心となって，全実習校を対象に参加学生の実習状況に関するアンケート調査を実施し，その集計結果をもって大学との定例協議会に臨む方法が定着した。平成10年度の評価では，実習生の礼儀正しさ，挨拶，謙虚さ等の実習姿勢は年々改善され，意欲と熱意が感じられようになってきていること，

しかし，その反面，自己表現力が乏しく，子供との接し方に若干問題がある等の指摘も得た。来年度からの事前指導や教育実地研究への指針が得られた。

《次年度への課題》

1　教育実習期間延長の基本方針の具体化

平成14年度に向け，実習期間延長をどのような形で実現するかを，次年度において大学，校長会の双方で意見を交流させ具体化する。それによって，平成12，13年度で大学，受け入れ校ともにそれに向けての事前準備を可能にする。

2　1年次観察・参加で初めて臨む柏崎養護学校，同さざなみ分校と連絡を密にして，円滑な実習ができるように努める。

〔学生委員会〕

● **学生生活相談（健康・精神衛生）の実施体制・状況**

①　学生生活相談

本学では学部学生を対象に，クラス制度が設けられており，クラス担当教官は学生の修学その他学生生活全般について，当該クラスの学生の意向の把握に努めるとともに，適切な指導助言を行うこととされている。（上越教育大学クラス制度に関する事項）

また，学内規程等の定めはないが，大学院学生については，通常指導教官が生活相談に当たっており，学生団体については，顧問教官がその活動にかかる相談に当たっている。

さらに，日常の修学，学生生活，就職，健康管理などについては，それぞれ教務課，学生課，就職資料室，保健管理センターが相談に当たっている。

このような相談体制を学生に広く周知することが必要なことから，「平成10年度版学生生活」の冊子に学生相談の項目を設け，相談窓口がすぐに分かるようにしている。

また，平成10年度の厚生補導研究会では「現代学生気質と学生指導ー学生の生活と意識」をテーマとして取り上げ，最近の学生気質を理解していく試みがなされた。

また，今年度は新たに大学院学生を対象とした学生生活実態調査を実施し，学生の生活全般について広く把握に努めるとともに，学生の生活実態を広く学内に知ってもらうため，報告書を全教官に配付する予定である。

②　健康・精神衛生相談

健康•精神衛生相談は，保健管理センターが相談窓口となり，所長（1人），准看護婦（1人）及びカウンセラー（本学教官5人）が相談に当たっている。

特に，精神衛生相談は相談件数が近年急増したこと及びカウンセラーが正課をもっているため，時間的な余裕の無さが，特に人命に関わる緊急なもの及び長時間にわたるカウンセリングへの対応を困難なものにしている。

なお，平成10年度の精神衛生相談利用状況は，巻末の資料編のとおりである。

また，学生への周知として「学生生活」の冊子に健康管理の項目をもうけてる他，「保健管理センターのしおり」を入学生全員に配付している。

課題として，精神衛生相談体制充実のため，大学改革の一環として学内措置により専任の臨床心理士を配置する必要がある。（概算要求での定員増は大学の規模として不可）

〔学校教育学部入学試験委員会〕

● 学生募集・入学者選抜の方針・方法

(1) 実施事項

① 学生募集

学生募集については，国立大学協会等関係機関からの定員比率の適正化の要望を踏まえ，募集人員の見直しを行い，平成９年度入学者選抜から，推薦入試60人，前期日程98人，後期日程42人で実施している。

② 入試広報

近年，18歳人口の長期的減少期を迎え，学生募集を周知するために選抜要項，学生募集要項，大学案内，大学紹介パンフレットの作成と都道府県教育委員会，県内高等学校，報道機関，民間の学校説明会等への積極的な配付及び大学紹介ビデオの高等学校への配付を行うことはもとより，平成５年度から大学説明会を実施し，また，民間の学校説明会等へ参加し，高い教員就職率，実践的教育内容等について積極的にアピールして，志願者の拡大のみならず，初等教育教員にふさわしい人材の確保に努めている。

さらに，平成11年度からの大学公式ホームページの開設に伴い，選抜要項，学生募集要項等の入試情報を掲載して情報提供を行い，入試広報の一層の充実に努める。

③ 入学者選抜方法

入学者選抜方法については，平成４年度から分離分割方式を導入し，受験機会の複数化の要望に応えるとともに推薦入試と合わせ，３回の選抜試験を次のとおり実施することにより，多様な選抜方法を工夫し，受験者を多方面にわたって総合的に評価することとしている。また，平成２年度から私費外国人留学生の特別選抜を実施している。

推薦入試：面接，[大学入試センター試験を課す。]

前期日程：小論文，実技検査（音楽，美術，体育のうちから１科目選択）

後期日程：個別学力検査等は課さない。

(2) 検討事項

① 入学者選抜方法の改善

現在，大学改革構想について検討中であるが，入学定員の削減，専修・コースの再編等に伴う入学者選抜方法について，具体の検討を早急に行う必要があり，次の事項をも勘案しての改善が求められる。

ア 推進入試の在り方

推薦入試の選抜方法は，面接並びに推薦書・調査書の内容及び健康診断の結果を総合し，大学入試センター試験の成績を参考にして選抜することとしているが，推薦された専修・コースの数に偏りがあり，選抜方法の在り方について検討する必要がある。

イ 前期日程の実技検査の在り方

実技検査は，平成３年度までは音楽，美術，体育の３科目とも課していたが，平成４年度からの分離分割方式の導入に伴い，３科目のうちから１科目選択に変更し，現在に至っている。

選択された各科目の割合は，次のとおり体育が60%強を占めており，科目間の選択の偏りが大きい。

| 年　度 | 音　楽 | 美　術 | 体　育 |
|---|---|---|---|
| 8 | 27.8% | 10.3% | 61.9% |
| 9 | 28.5% | 9.6% | 61.9% |
| 10 | 22.6% | 10.6% | 66.8% |
| 11 | 28.1% | 6.5% | 65.4% |

ウ　後期日程の在り方

後期日程においては，個別学力検査等を課さず，大学入試センター試験の成績等書類審査により合否を決定していることから，次のとおり合格者の辞退率が平成８年度までは約80％，国立大学が分離分割方式に統一された平成９年度以降においても約40％～60％と，国立大学（一般選抜）全体の辞退率（約10％）と比較して高く，平成６年度を除き毎年追加合格を行っている。

| 年　度 | 合格者 | 入学者 | 辞退者 | 辞退率 | 国立大学一般選抜辞退率 |
|---|---|---|---|---|---|
| 8 | 100人 | 17人 | 83人 | 83.0％ | 12.8％ |
| 9 | 48人 | 29人 | 19人 | 39.6％ | 11.2％ |
| 10 | 52人 | 32人 | 20人 | 38.5％ | 10.9％ |
| 11 | 43人 | 17人 | 26人 | 60.5％ | |

②　私費外国人留学生特別選抜試験の改善

平成９年度以降志願者はないが，日本語能力試験（２級）の利用，試験科目・内容等について，他大学の動向をも踏まえ，引き続き検討することとした。

〔大学院入学者選抜委員会〕

● **学生募集・入学者選抜の方針・方法**

⑴　実施事項

①　学生募集

学生募集については，昭和59年度以降，学校教育専攻50人，幼児教育専攻15人，障害児教育専攻25人，教科・領域教育専攻210人の募集人員とし，各専攻・コースごとに選抜を行っている。

例年，８月下旬に行う選抜試験において，合格者が入学定員300人に満たないため，第２次募集を毎年度11月下旬に実施している。

②　入試広報

募集要項，大学院案内及び募集用ポスターを各都道府県教育委員会，教育事務所，本学修了生及び大学等関係機関に積極的に配付しているが，各専攻・コースにおいても次のとおりPR活動の充実に努めている。

a　募集要項等の独自配付の拡大

b　大学院案内の掲載内容（コース紹介，学位論文題目一覧）の工夫

c　専攻・コース独自のリーフレットの作成・配付

さらに，平成11年度からの大学公式ホームページの開設に伴い，学生募集要項，大学院案内等の入試情報を掲載して情報提供を行い，入試広報の一層の充実に努める。

③　入学者選抜方法

入学者選抜方法については，専攻・コースごとに学力検査を課しているが，平成８年度入学者選抜から，学校教育専攻のみに課していた筆記試験の共通科目を廃止し，すべての専攻・コースにおいて専攻科目のみによる筆記試験と口述試験を実施してきた。

また，平成11年度入学者選抜においては，受験生に配慮した試験の実施という観点から，芸術系コース（音楽）の筆記試験内容をより明確にするとともに，第２志望の取扱いについて，過去数年間の入学者選抜状況において，教育方法コースと生徒指導コースへの応募者が多く，「第２志望」とした者から合格者がでていない状況を考慮して，両コースを第２志望とすることができないこととし，受験者の負担軽減等を図った。

(2) 検討事項

① 学生定員の充足

近年，入学定員に対する充足率は約80％前後に推移し，うち，現職教員の充足率は目標とする67％（定員の３分の２程度）に対して約50％にとどまっていることから，定員充足，特に現職教員の確保のため，入試広報の充実及び恒常的方策の検討が必要である。

② 入試広報の充実

全学的な取組みはもとより，専攻•コースにおいても独自のリーフレットを作成し，関係方面へ配付してPR活動を積極的に行う専攻・コースが増加しており，その予算化並びに大学院案内の掲載内容の改善・工夫を行う必要がある。

③ 入学者選抜方法の改善

現在，大学改革構想について検討中であるが，専攻・コースの再編，専攻別入学定員の改訂，１年制コースの設定等に伴う入学者選抜方法等の具体化に向けての検討が急務である。

〔大学院教育実習委員会〕

● **教育実習の内容と状況**

① 内容

・大学院の教育実習は教育職員免許法に基づいて，養護・聾・盲の教育実習を新潟県内の特殊教育諸学校で実施している。

期間は10月下旬～11月中旬の２週間で行っている。

この教育実習は，特殊教育に携わる教諭の免許状取得のための必修科目である。

② 状況

・今年度は養護学校実習生１名で協力校１校，聾学校実習生３名で協力校２校の計４名，３学校の協力によって実習を行った。

４名全員が無事実習を終わり，それぞれの評価を受けた。

・２週間という短期間で効果的な実習成果を収めるためには十分な知識を得てから参加させるべきであるという考えのもとに，従来１年生の後期に実施していた教育実習を今年度より２年生後期に実施するようにした。教育実習の受講条件として障害児教育講座指定の科目を履修し，臨床の経験を積ませた。その結果，短期間で効果的な実習成果を収めることができた。しかし，実習期間が11月であるため，２年生の修士論文作成の時期と重なるという新たな問題も発生した。

・盲学校，聾学校での実習先が遠隔地にあるため上越からは通えず，学生は実習校所在地のホテルなどに２週間宿泊しなければならず，経済的負担が大きい。そこで，盲・聾学校の寄宿舎や公立宿泊施設（研修センター等）があれば大学の方から斡旋するなどして，経済的負担を軽減する方策が今後検討されなければならない。

〔学位論文審査委員会〕

● **学位の授与状況**

ア 学位授与状況の点検及び評価

平成10年度までの学位授与状況は次のとおりである。

○各年度別学位授与状況

| 年度 | A　各年度の1月10日における2年次在学者（休学者，修業年限不足者除く。） | B　論文提出者数 | C　論文提出率（B/A%） | D　学位授与者数 | E　論文合格率（D/B%） | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 59 | 81 | 81 | 100.0 | 80 | 98.8 | |
| 60 | 161(2) | 155(2) | 96.3 | 154(2) | 99.4 | 2学期修了1(1)名含む。 |
| 61 | 220(4) | 217(4) | 98.6 | 217(4) | 100.0 | |
| 62 | 190(1) | 184(1) | 96.8 | 182(1) | 98.9 | |
| 63 | 187(4) | 186(4) | 99.5 | 185(4) | 99.5 | 1学期修了3(3)名含む。 |
| 元 | 197(2) | 191(2) | 97.0 | 191(2) | 100.0 | 1学期修了1(1)名含む。 |
| 2 | 216(7) | 209(5) | 96.8 | 208(5) | 99.5 | 2学期修了2(2)名含む。 |
| 3 | 215(3) | 207(2) | 96.3 | 205(2) | 99.0 | 1学期修了1(1)名含む。 |
| 4 | 226(8) | 222(6) | 98.2 | 216(5) | 97.3 | 前期修了3(3)名含む。 |
| 5 | 231(5) | 222(5) | 96.1 | 219(4) | 98.6 | |
| 6 | 245(5) | 240(5) | 98.0 | 235(4) | 97.9 | |
| 7 | 236(7) | 234(7) | 99.2 | 234(7) | 100.0 | 前期修了1(1)名含む。 |
| 8 | 242(3) | 237(2) | 97.9 | 237(2) | 100.0 | 前期修了1(1)名含む。 |
| 9 | 256(6) | 246(2) | 96.1 | 246(2) | 100.0 | |
| 10 | 240(8) | 233(6) | 97.1 | 232(6) | 99.6 | 前期修了2(2)名含む。 |
| 計 | | | | 3,041(50) | | |

※（　）内は，在籍期間が2年を超える者（休学期間を除く。）で内数である。

● **学位論文の審査の方針・方法・体制**

ア　論文の審査の体制

研究科委員会の専門委員会として学位論文審査委員会が置かれ，研究科長より論文の審査，試験の実施及び合否の判定を付託されている。

委員は，各部から選出される研究指導を担当する教授各2名。ただし，学校教育研究系にあっては教授4名，生活・健康系教育研究部にあっては教授3名をもって組織されている。

委員会には，委員長のほか副委員長を置くこととし，副委員長は委員のうちから選出する。

委員会は，委員の3分の2以上の者が出席しなければ議事を開くことができない。

委員がやむを得ず欠席する場合には，研究指導を担当する教授に限り代理出席を認める。

イ　論文の審査の方針

学位論文審査委員会は当該論文の審査を行うため，論文ごとの「審査専門委員会」を，試験を実施するため専攻・コースごとの「試験委員会」を置く。

試験は，論文の審査に合格した者に対し，当該論文を中心とし，その関連分野について，口述により，試験を行うものである。

「審査専門委員会」及び「試験委員会」は，それぞれ当該論文の審査及び試験の結果を学位論文審査委員会

に報告する。

学位論文審査委員会は，その報告に基づき，当該論文の合否を決定し，その結果を研究科委員会に報告する。

ウ　論文の審査の方法

論文の審査方法及び試験方法は，学位規則に定めるもののほか，それぞれ各審査専門委員会及び各試験委員会に一任する。

エ　評価

学位論文総合審査において「否」となった者の扱いについて，学位論文審査委員会で検討を行った結果，これまで通り，各専攻・コースの方針に従って指導を行うこととした。

なお，このことに関しては教育及び指導体制等，教務委員会が検討する内容と重なる点が多いので，将来に渡り総合的に検討する必要がある。

〔自己評価等委員会〕

● **自己点検・評価の組織・実施体制，自己点検・評価結果の学内外への公表及び自己点検・評価結果の活用（結果をフィードバックするための仕組み）**

**1　調査の実施**

本学における自己点検・評価は，昭和61年６月の第59回評議会において，自己点検・評価の必要性をも趣旨とする『年次報告書の作成』とそのための『上越教育大学年次報告書作成小委員会の設置』を決定したことにはじまり，平成３年には，大学審議会の答申「大学教育の改善について」を受けた大学（大学院）設置基準の一部改正，いわゆる「大綱化」によって，各大学が自己点検･評価制度の導入により，それぞれの大学の理念･目標に基づき多様な教育活動を自由に展開できるようになった。本学はその自己点検・評価制度を明確にするため，上越教育大学自己評価等委員会設置要項を制定し，『上越教育大学自己評価等委員会の設置』及び『点検事項の設定』を行った。また，平成８年度には，学則において自己点検・評価の義務を規定化するとともに，責任体制の明確化並びに実施手順，項目及び体制の整備を図るため，『上越教育大学自己点検･評価規則及び上越教育大学自己評価等委員会規程を制定』し，現行の自己点検・評価体制を構築した。

この新体制による自己点検・評価は，今年度で３年目を迎え，規則に掲げる自己点検・評価項目のすべてについて一応の点検・評価を行ったこととなる。ここで本委員会として現状を把握し，現行体制の再点検を行うため，各実施組織等に対し調査を実施することとした。

**⑴　調査の概要**

自己評価等委員会が実施する自己点検・評価事項「自己点検・評価体制」の具体的な項目は，次の３項目である。

①　自己点検・評価の組織・実施体制

②　自己点検・評価結果の学内外への公表

③　自己点検・評価結果の活用（結果をフィードバックするための仕組み）

調査は，この３項目に基づいた設問に対し，具体的な回答を選択する方法を主体として，各実施組織の長（本委員会にあっては，委員全員）あてに依頼した。

**⑵　調査結果**

本委員会の委員からは15人全員から回答があり，各実施組織からは37組織のうち30組織から回答（回収率81.1％）があった。

調査を取りまとめた結果は３調査結果（概要）のとおりであるが，次に主な回答を示すこととする。

**【自己点検・評価の組織・実施体制】**

現行の自己点検・評価は，各実施組織において毎年度実施し，項目が複数あるときは3年度内にすべての項目を実施することを原則としている。この原則に関しての設問については，回答数45件のうち，『妥当である』が17件（37.8%），『3年度内完了のみ妥当である』が11件（24.4%），『毎年度実施のみ妥当である』が8件（17.8%），『自己評価等委員会が一括して定める』が6件（13.3%），『各実施組織が計画的に行う』が3件（6.7%）と，回答が大きく分かれた。

また，自己評価等委員会の委員構成に関しての設問については，回答数56件のうち，『妥当である』が24件（42.9%）に対し，『自己評価等委員会と評議会の構成員が同じなのは不適当である』，『委員は各部（系）から選出すべきである』，『委員に助教授，講師などの若手の教員を入れるべきである』，『委員に実施組織から選出された者を入れる』

さらに，自己点検・評価の事項（計13）及び項目（事項を細分化したもの。計85）に関する設問については，回答数45件のうち，『細分化が妥当である』が33件（73.3%）と大勢を占めながらも，『事項を主とし，項目に細分化しない』が9件（20.0%）であったことに注目したい。

**【自己点検・評価結果の学内外への公表】**

自己点検・評価結果は，現行どおり年次報告書の形で学内外へ公表することが妥当であるという回答を得た。

なお，現在の送付先以外に教育実習協力校などに送付することや，本学の公式オームページの充実に合わせてホームページ上で公表することについて意見があった。

**【自己点検・評価結果の活用（結果をフィードバックするための仕組み）】**

自己点検・評価結果に基づく改善に当たっては，各実施組織がそれぞれ実施した点検・評価に基づき組織ごとに改善を行うほか，自己評価等委員会が全学的な観点から取りまとめた点検・評価結果に基づき必要に応じて評議会が改善事項を決定することとしている。

平成8年度から新体制による自己点検・評価を実施してきたが，平成8年度及び平成9年度の自己点検・評価結果を受けて評議会において審議したところ，両年度とも改善を要する事項は該当がなく，各実施組織内で随時改善を行うに止まっている。

自己評価等委員会委員のみの設問で，現行の仕組みが妥当であるか，また，実際に改善は行われているかという問いについて，回答数15件のうち，『現行の仕組みが妥当である』が7件（46.7%）と一番多かったが，この回答者に各実施組織の改善は十分であるか聞いてみると，『十分改善されている』という意見は半数に満たず，改善が不十分であることを指摘している。また，『自己評価等委員会が具体的改善事項を決定すべきである』が6件（40.0%），『別に定める委員会が具体的改善事項を決定すべきである』が1件（6.7%）であったことから，具体的改善事項を決定することの重要性を指摘している。

各実施組織のみの設問で，組織内で改善を行っているかという問いについて，回答数32件のうち，『随時改善を行っている』，『部分的に改善を行った』という何らか改善を行ったものは24件（75.0%）であったが，『改善を行っていない』，『改善に結び付く報告をしていない』という回答が合わせて3件（9.4%）あったことは残念である。

**【その他（自由記述）】**

自由記述については，具体的な提案等を含め，様々な意見が寄せられたので，「点検・評価に対する意識の向上」，「具体的な提案・意見等」，「外部評価及び第三者評価」に分けてみた。

「具体的な提案・意見等」には，自己点検・評価の手順や実施組織等の見直しに関するもの，重点事項・項目の設定に関するもの，総括的評価の促進に関するものなどが出された。

「外部評価及び第三者評価」には，外部評価等の導入に関して積極的な意見が多く出された。

## 2　自己点検・評価体制の見直し

### (1)　見直しの必要性

調査結果では，各設問において現行の体制が妥当であるという回答が大勢を占めているものの，「自己点検・評価の組織・実施体制」及び「自己点検・評価結果の活用（結果をフィードバックするための仕組み）」に関する部分については，見直し・改善が必要と思われる。

この調査の実施と時を同じくして，大学審議会から「21世紀の大学像と今後の改革方策について―競争的環境の中で個性が輝く大学―」（平成10年10月26日）が答申された。この答申では，「多元的な評価システムの確立―大学の個性化と教育研究の不断の改善―」として次の事項を挙げている。

①　自己点検・評価の充実

②　第三者評価システムの導入

③　資源の効果的配分と評価

今回の調査は上記の「自己点検・評価の充実」を具体化する上で有効なものであり，この調査結果を反映させた自己点検・評価体制の見直しを行い，本学における自己点検・評価の一層の充実を図らなければならない。

### (2)　具体的な見直し策

自己点検・評価体制について次のとおり提案する。

#### ①　重点事項・項目の設定

自己点検・評価の実施に当たり，実施組織が当該年度に実施する項目を選定したのでは，その項目だけの部分的な点検・評価となりやすいため，自己評価等委員会が当該年度の重点事項・項目を設定し，事項を主とした体系的な点検・評価を行うものとする。

| （現　行） | | （見直し策） |
|---|---|---|
| 各実施組織が当該年度に実施する項目を選定し，実施組織ごとに点検・評価を実施している。 | ➡ | 自己評価等委員会が当該年度の重点事項・項目を設定し，これを受けて所掌する実施組織が点検・評価を実施する。 |

#### ②　専門部会の設置

自己評価等委員会規程（第７条）では，必要に応じ専門部会を置くことができる旨を規定しているが，現在まで設置したことはない。

自己評価等委員会に専門部会を設置（常設）し，自己評価等委員会における当該年度の重点事項・項目の決定を受けて，この専門部会が当該年度の具体的な実施方法等の決定及び自己点検・評価結果の取りまとめ作業を行うものとする。

なお，専門部会は，自己評価等委員会の委員数人のほか，各部から教授又は助教授若干人を加えた形で構成する。

| （現　行） | | （見直し策） |
|---|---|---|
| （専門部会は未設置） | ➡ | 専門部会の設置（常設）<br>＊　具体的な実施方法等の決定<br>＊　点検・評価結果の取りまとめ作業（整理・分析，問題点の指摘，積極的に評価すべき特色，具体的改善策の提案を含む。） |

③　外部評価等の検討

今回の調査において外部評価等の導入に対して積極的な意見が多かったこと，並びに大学審議会答申「21世紀の大学像と今後の改革方針について―競争的環境の中で個性が輝く大学―」において自己点検・評価結果の学外者による検証及び第三者評価システムの導入に関して述べられていることから，客観的な立場からの評価の推進に当たり，自己評価等委員会において，外部評価，第三者評価等の実施について具体的な検討を行うものとする。

## 3　調査結果（概要）

(1)　自己評価等委員会委員あての調査

第32回自己評価等委員会（平成10年９月９日）において委員に依頼した。

15人全員からの回答があった。

(2)　各実施組織あての調査

平成10年９月11日付け文書で各実施組織の長あてに依頼した。

37組織のうち30組織から回答があった。（回収率81.1％）

---

### 自己点検・評価の組織・実施体制

**問１**　自己点検・評価の実施組織は，現行では次のとおりです。

評議会　教授会　学校教育研究科委員会　各種学内委員会　教員組織　事務組織
附属図書館　各センター　各附属学校

現行のままでよろしいですか？（規則第４条関係）

1　現行の「実施組織」単位で行うことが妥当である。

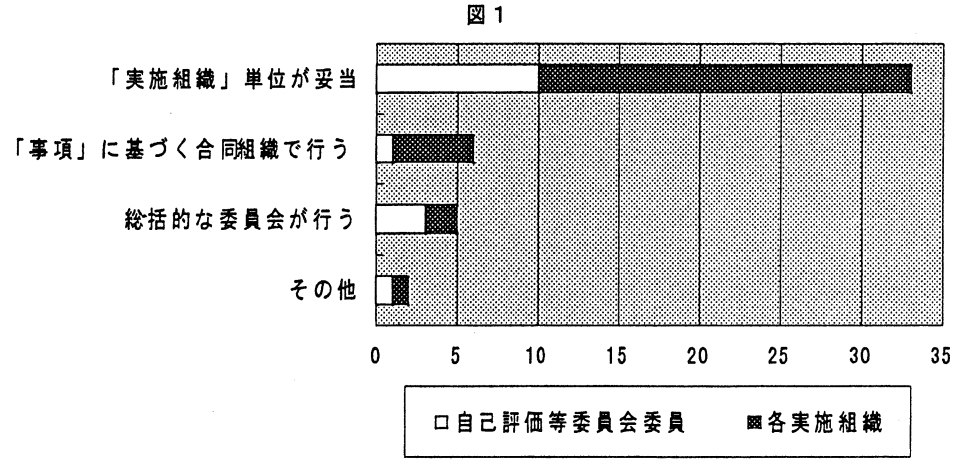
2　現行の「実施組織」単位でなく，規則第２条の「事項」に基づく合同の組織で行うべきである。（例：「教育活動」に関して，教育課程検討委員会，教務委員会，教育実習委員会，就職指導委員会など関連委員会から選出された者で構成）

3　現行の「実施組織」単位でなく，総括的な委員会を設置し，各種学内委員会等の資料提供等に基づき，一括して行うべきである。（例：自己評価等委員会が一括して行う。）

4　その他（具体的に　　）

注）　複数回答あり

図１



【付記された意見等】

1　「実施組織」単位が妥当　関連意見

- 学内各種委員会組織のこれ以上の複雑化は，極力さけるべきである。
- 点検・評価は，組織がよく機能した上でのそれであって，点検・評価自体が複雑になりすぎるのもいかがかと思う。

4　その他　具体的意見

- 各実施組織は，調査の実施や点検を行うこととし，その評価については，自己評価等委員会が総括的に行うべきである。各実施組織は，点検・評価に結び付く検討や活動状況の報告をもって実施組織の点検・評価とする。
- 実験廃棄物等管理委員会のように委員会の趣旨からして自己点検・評価になじみにくい組織もあると思われるので，実施組織自体を見直すべきではないか。

問2　自己点検・評価の事項及び項目（規則別表参照）は，現行のような細分でよろしいですか？（規則第2条，第5条関係）

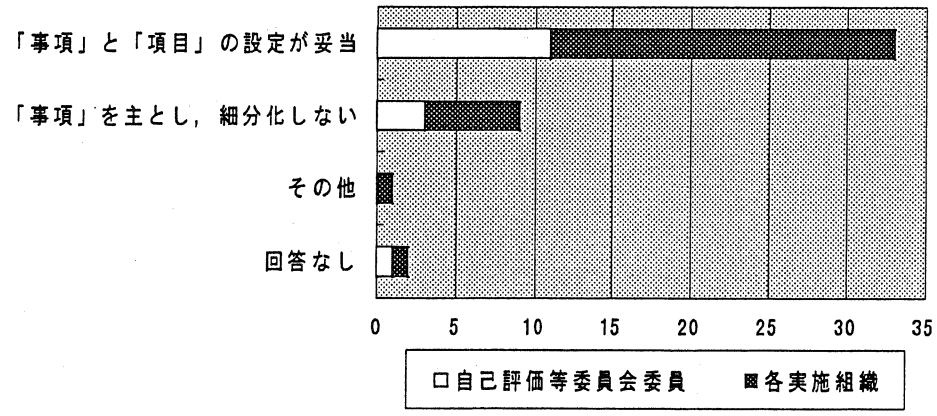
1　現行のように「事項」及び「項目」を設定することが妥当である。

※　この場合，実際の事項及び項目に疑義（分かりにくい項目があり，明確化が必要である。不要な項目がある。まとめたい項目があるなど）があれば，添付した規則別表に朱書きで修正等をしてください。

2　「事項」を主として，「項目」のような細分化はしない。

3　その他（具体的に　　）

図2




【付記された意見等】

1　「事項」と「項目」の設定が妥当　関連意見

- 点検項目は，評価の着眼点として有効であると思う。(次の設問と関連して)実施組織が主体的にその中から選択して，即応性のある点検をすべきである。
- 現行でいいと思うが，学長は，社会状況や学内情勢にかんがみ，規則第5条第3項にいう細目を定めることが必要と認めた場合は，適切に指示すべきである。

3　その他　具体的意見

- 各附属学校は，年度の重点目標をもとに運営を行っているため，「項目」以下は各附属学校に任せることにより，実質的・具体的な自己評価になると思われる。

規則修正意見

- 第２条第３号「教育活動に関すること」を「教育活動に関すること（学生による授業評価を含む。）」とする。

問３　自己点検・評価は，現行では<u>各実施組織において毎年度実施する</u>こととしています。また，点検・評価項目が複数あるときは，<u>３年度内にすべての項目を点検・評価する</u>ことを原則としています。現行の「毎年度実施」及び「３年度内完了」でよろしいですか？（規則第６条関係）

1　現行の「毎年度実施」と「３年度内完了」が妥当である。

2　「毎年度実施」は妥当であるが，「３年度内完了」は定めなくていい。

※　実施組織で比較すると現行の項目数に大きな差があるため，一律に年数を定めることは不適当であるため

3　「３年度内完了」は妥当であるが，「毎年度実施」は義務づけなくていい。

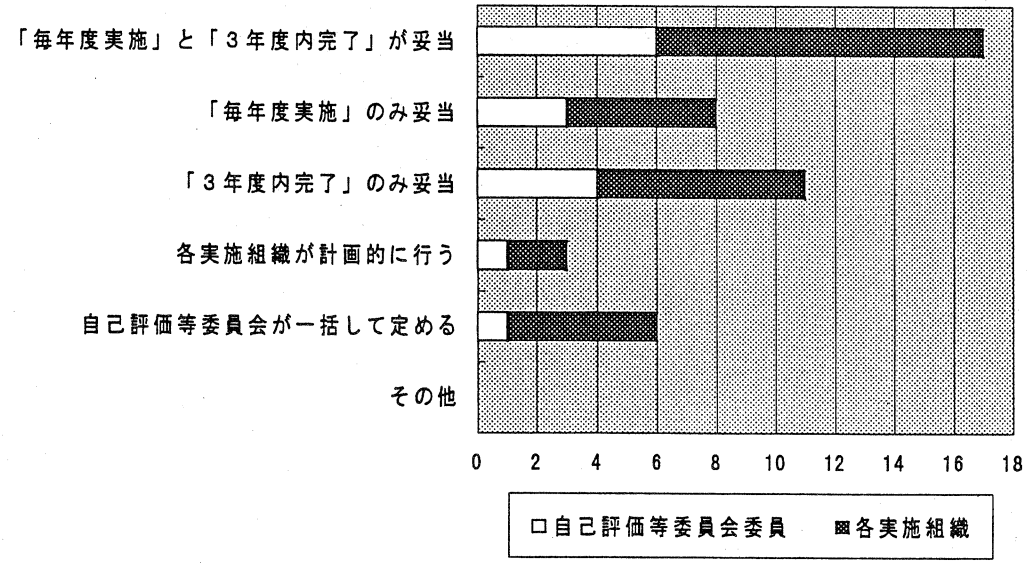
※　項目が１つしかない実施組織は，新規項目を設定する以外は毎年同じ項目を続けて実施することとなり，不適当であるため

4　各実施組織が計画的に行うこととし，「毎年度実施」も「３年度内完了」も定めなくていい。

5　自己評価等委員会が一括して定めればいい。

6　その他（具体的に　　）

図３




【付記された意見等】

2　「毎年度実施」のみ妥当　関連意見

- （前の設問と関連して）実施組織がその年度にとりあげた項目が妥当であるかどうかを含めて，委員会が改善意見を出すようにする。その意味で「毎年度実施」でいい。
- 教育実習委員会としては項目が１つであるが，「毎年度実施」以外には考えにくい。常に新たな課題が生じているため。

5　自己評価等委員会が一括して定める　関連意見

- 自己評価等委員会が，その年度に行う「事項」及び「項目」を設定し，実施組織に依頼する。例えば，平成10年度は「教育活動」，平成11年度は「研究活動」，平成12年度…など。
- 「毎年度実施」も「３年度内完了」も，いわば内容なしの通過義務になりやすい。例えば，人事

委員会に関した限りでいえば，毎年度実施する必要を感じない。

- 毎年度実施すべき項目と，３年（又は４年）に１回実施すればいい項目に分割した方がいい。

問４　自己評価等委員会の構成は，このままでよろしいですか？（委員会規程第２条）

1　現行のままが妥当である。

2　自己評価等委員会と評議会の構成員が同じ（事務局長を除く。）なのは不適当である。

3　委員は，各部（系）から選出するべきである。

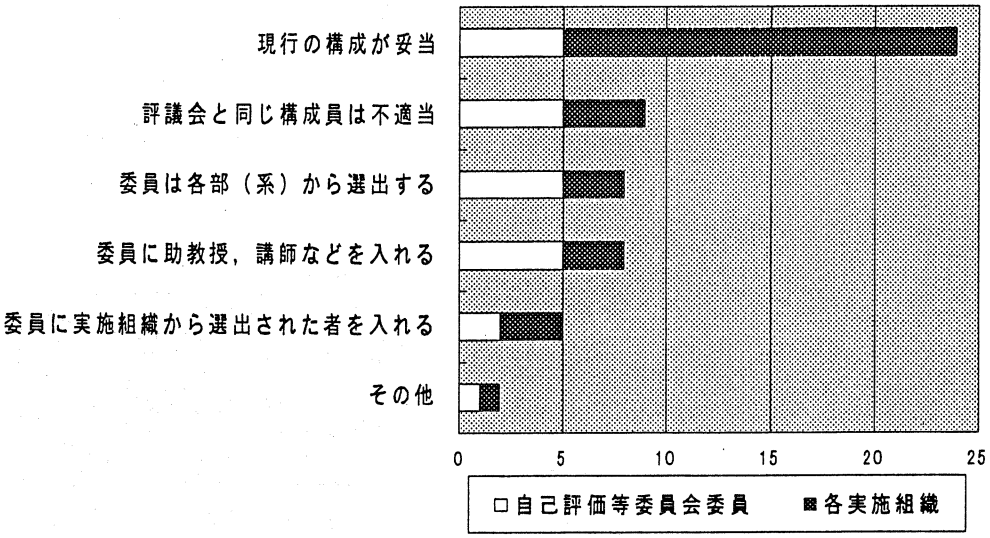
4　委員には助教授，講師などの若手の教員を入れるべきである。

5　実施組織から選出された者を委員に入れるべきである。

6　その他（具体的に　　）

注）　複数回答あり

図４




【付記された意見等】

1　現行の構成が妥当　関連意見

- 委員会規程第２条第７号「その他学長が指名した者」を有効に活用して，その都度（年度ごと）の特色を出せばいい。

6　その他　具体的意見

- 評議会の名で行えばいい。

問５　自己評価等委員会の所掌事項は，現行では次のとおりです。

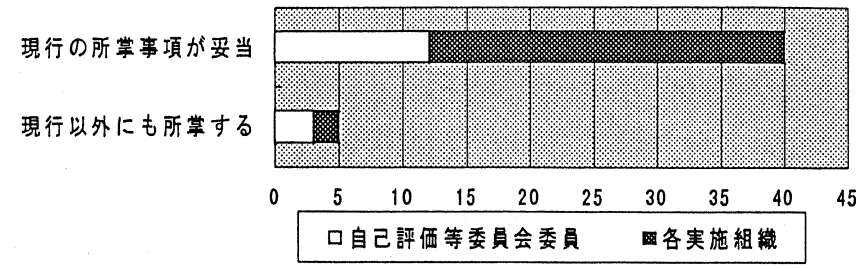
自己点検・評価の実施項目及び実施方法に関すること
自己点検・評価の取りまとめに関すること
自己点検・評価結果の公表に関すること

現行のままでよろしいですか？（規則第３条関係）

1　妥当である。

2　上記以外にも行うべきである。（具体的に　　）

図５




【付記された意見等】

2　現行以外にも所掌する　関連意見

- 学生による授業評価
- 改善の確認
- 総括的な評価（取りまとめだけでなく，各実施組織からの報告に基づき総括的な評価を行う。）
- 外部評価（実施の検討）
- 第三者評価

問６　自己点検・評価の実施報告は，実際にどのように作成していますか？〈各実施組織のみの設問〉

1　実施組織の長（委員長，センター長，附属学校長等）が原案を作り，委員会等で審議又は報告の上，自己評価等委員会に提出している。

2　実施組織の長が原案を作り，そのまま自己評価等委員会に提出している。

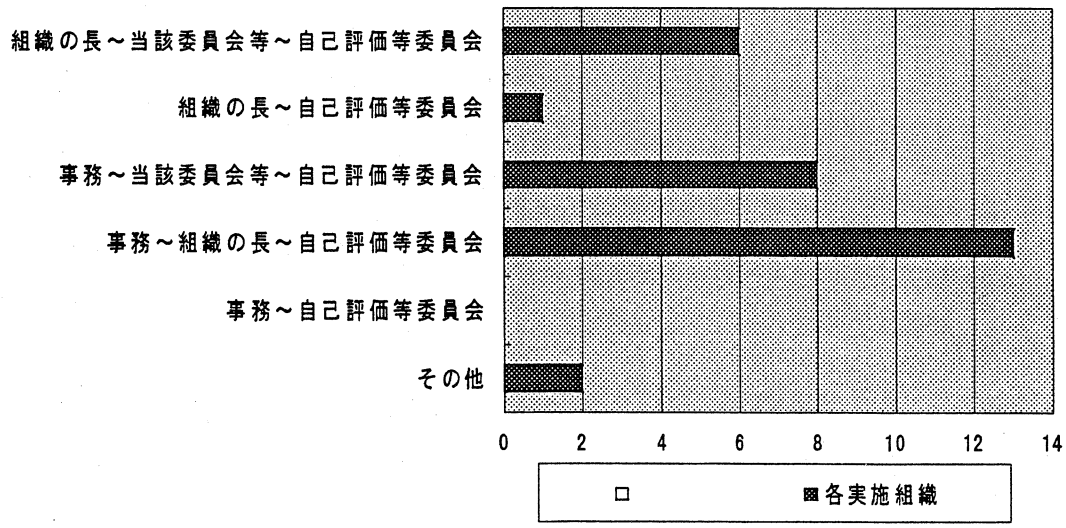
3　事務担当課が原案を作り，委員会等で審議又は報告の上，自己評価等委員会に提出している。

4　事務担当課が原案を作り，実施組織の長が確認の後，自己評価等委員会に提出している。

5　事務担当課が原案を作り，そのまま自己評価等委員会に提出している。

6　その他（具体的に　　）

図６




【付記された意見等】

1　組織の長～当該委員会等～自己評価等委員会　関連意見

- 委員長が原案作成にあたって，各委員から意見提出を求めるなどしている。

4　事務～組織の長～自己評価等委員会　関連意見

- 事務担当課が原案作成の前に，委員会で意見を聴いた。

6　その他　具体的意見

- 委員長になって１年目であり，まだまとめていない。
- 事務担当課（係）が原案を作り，組織（センター）全体で検討してから，自己評価等委員会に提出している。最初から，組織（センター）で検討して，原案作成の担当者を決めることもある。

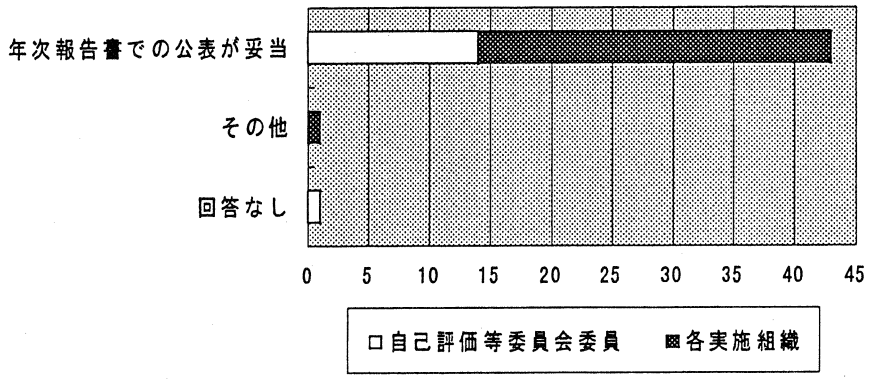
## 自己点検・評価結果の学内外への公表

問７　自己点検・評価結果は，学内外に対して年次報告書等により公表することとしています。公表の形態は現行のままでよろしいですか？（規則第９条関係）

1　現行のように年次報告書で公表することが妥当である。

2　その他（具体的に　　）

図７




【付記された意見等】

1　年次報告書での公表が妥当　関連意見

- 自己点検・評価を毎年度実施と３年（又は４年）に１回実施の分割にした場合は，報告書を分割する必要がある。

2　その他　具体的意見

- 年次報告書に加え，ホームページによる公表を考慮する。

問８　年次報告書の送付先は，例年次のとおりとしています。

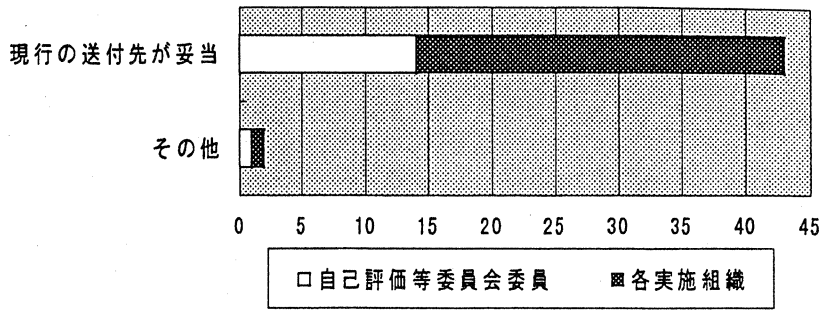
参与　名誉教授　文部省　国立大学・国立短期大学　大学共同利用機関　文部省所轄機関等　都道府県及び政令指定都市教育委員会　新潟県庁　上越市役所　国立大学協会　大学基準協会　国立国会図書館　新聞社　国立妙高少年自然の家

送付先は現行のままでよろしいですか？（規則第９条関係）

1　現行の送付先が妥当である。

2　その他（具体的に　　）

図８




【付記された意見等】

1　現行の送付先が妥当　関連意見

- 果たしてどれだけ他機関で読まれているか。他大学のものも特別関係深いもの以外に読むことができない。

2　その他　具体的意見

- 財団法人大学セミナーハウス（八王子市）
- 教育実習協力校（校長は，大学が教育実習をどう評価しているか知りたいと希望している。）

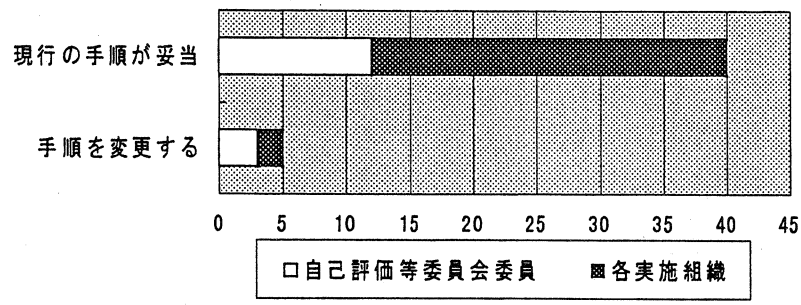
## 自己点検・評価結果の活用（結果をフィードバックするための仕組み）

問９　自己点検・評価実施の手順（「自己点検・評価の進め方」参照）は，現行のままでよろしいですか？

1　現行の手順が妥当である。

2　現行の手順を変更すべきである。（具体的に　　）

図９




【付記された意見等】

2　手順を変更する　具体的意見

- 点検・評価は別組織で行うこととし，併せて改善事項を決定する手順にすべきである。
- 自己評価等委員会の役割を具体化する。
- 評議会への付議については，改善の指示の際に必要に応じてのみ行えばいい。
- 総括し，学内の運営に反映させる方法を検討する。

問10　自己点検･評価結果は，現行の仕組みで有効に活用されていると思いますか？（規則第10条関係）〈自己評価等委員会委員のみの設問〉

1　現行のように各実施組織が結果に基づき改善し，必要があれば評議会が改善事項を決定する仕組みが妥当である。

※　この場合，実際の改善は行われていると思いますか？

a　各実施組織で十分改善されている。

b　各実施組織の改善は不十分である。

c　改善に結び付く報告をしていない実施組織がある。

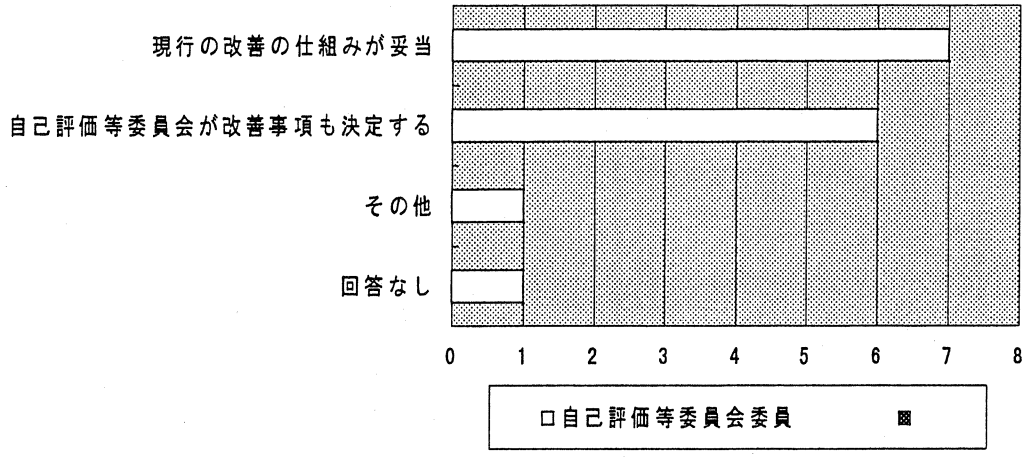
d　学長（評議会）が改善を要する事項を積極的に指示すべきである。

e　その他

2　自己評価等委員会は，取りまとめだけでなく具体的改善事項を決定し，学長に報告すべきである。

3　その他（具体的に　　）

図１０




【付記された意見等】

1　実際の改善についての回答（複数回答あり）

a　十分改善されている……3件

b　改善は不十分である（ただし，これを判断する場が不明）……1件

c　改善に結び付く報告をしていないものがある……3件

d　学長（評議会）が改善事項を積極的に指示すべきである……0件

e　その他の意見：問題の所在は分かると思う……1件

3　その他　具体的意見

・　別に定める委員会が，取りまとめ及び具体的改善事項を指摘・検討し，学長に報告すべきである。

問11　自己点検・評価結果に基づき，貴組織内で改善を行っていますか？（規則第10条関係）

〈各実施組織のみの設問〉

1　随時改善を行っている。

2　部分的に改善を行った。

3　改善は行っていない。

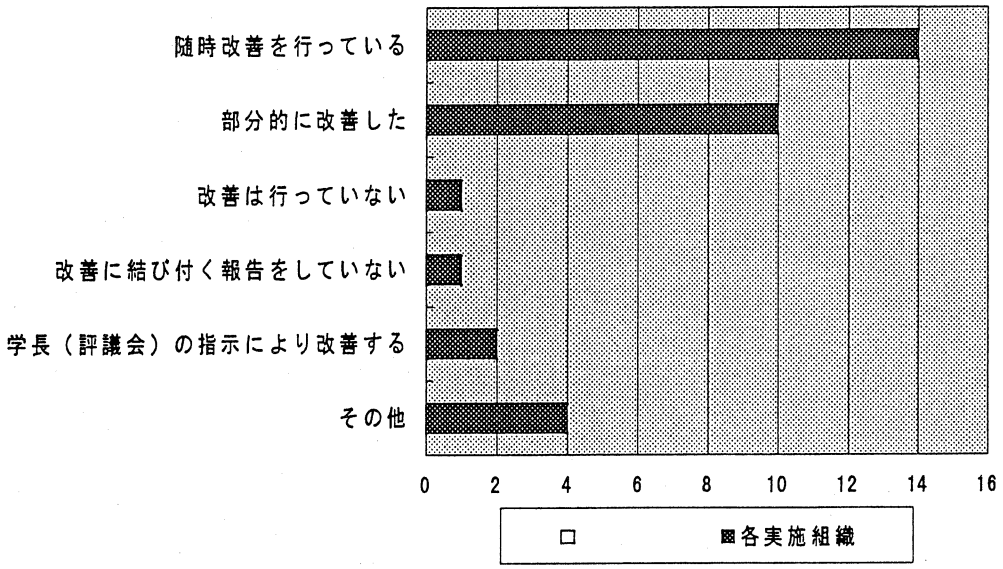
4　改善に結び付く報告をしていない。

5　学長（評議会）から改善事項の指示があれば，改善を行う予定である。

6　その他（具体的に　　）

注）　複数回答あり

図１１




【付記された意見等】

6　その他　具体的意見

- 自己点検・評価結果に基づいては行っておらず，問題があれば，その都度改善をしている。
- 本年度の場合，前年度の大学院教育実習の実施がなかったため，該当しない。通例としては，随時改善を行うことが当然である。
- 随時改善を行う予定である。
- 実験廃棄物等の管理状況については，改善を要するような点検・評価結果は生じていない。

## その他（自由記述）

問12　現行の自己点検・評価体制に関して，問題点あるいは具体的な改善案等を自由に記入してください。

【意見等】

（点検・評価に対する意識の向上）

① 問題は，自己点検・評価体制のシステムが先行し，その実質的意義が十分に浸透していないことである。教授会や部会で，その重要性について理解を深める検討会をやってみる必要がある。

また，フィードバックすることによって活動しやすくなったというメリットをはっきりさせることも大切で，その辺がよくみえないのもやる気を失う（？）一つの原因であろう。

定例会議のあとに自己評価等委員会を開催するのでは，せっかくの意図が生かされない。他の会議の前に行うことがたまにあっていい。フレッシュな論議ができることが期待できる。

② 自己点検・評価内容，改善すべき事柄について全学的に周知する。あるいは，討議し，共通認識を持つ場を設定し，改善に向けて強力な体制を構築する。特に，教育実習，教員採用・合格率向上に向けた強力な体制・実施組織の構築を急ぐことが必要である。

③ 委員会の委員の熱意と誠実さが基本だと痛感する。ほとんどの委員会を何かと理由をつけて欠席する委員もいる現状では，まずそのことを指摘しておきたい。

その上で，任期中の委員の熱意と事務サイドとの連絡•情報交換をより緻密にしていくことが，点検•評価のベースを作っていくことになる。

（具体的な提案・意見等）

④　実施組織と点検評価組織は別組織とし，点検評価は年１～２項目にしぼって実施し，改善を提案する。

⑤　間口を拡げて形式的に行うのでなく，改善すべき点，改善できる点を確実に処理して，それを確認することが自己点検・評価の意義と考える。そのために，手順，実施組織，各部門の担当内容の再検討が必要である。

⑥　各実施組織による主体的な自己評価の方向を保障するために，自己評価等委員会の必要以上の介入がないように配慮し，「自己評価」の本来の意義を損なわないようにしたい。現行は，概ねその方向にあるとみている。

⑦　現行のように各実施組織がその年度に行う点検・評価の「項目」を設定し，毎年度多岐にわたる「事項」について点検・評価を行うのではなく，自己評価等委員会が主体となり，その年度に重点的に点検・評価を行う「事項」及びその「項目」を設定（例えば，平成11年度は「教育活動について」，平成12年度は「研究活動について」など。）し，「事項」に関係する実施組織に調査の実施や点検を依頼し，その報告に基づいて，自己評価等委員会が総括的に評価を行うべきである。そのためには，自己評価等委員会を実質的評価ができる体制にする必要がある。

上記のほか，各実施組織は，点検・評価に結び付く検討や活動報告を，年度末に開催している「学長と各種委員会委員長・副委員長との懇談会」（名称は変更する）に提出し，審議することによって各実施組織の点検・評価とする。

⑧　現行の実施組織には各委員会等が網羅されているが，実験廃棄物等管理委員会のように，その性格上，自己点検・評価になじみにくい実施組織もあるので，実施組織を見直すべきである。そのためには，自己点検・評価の「事項」を主とし，「項目」のような細分化は設けない方がいい。

⑨　項目が規則で規定されているが，それ以外にも随時必要な項目を点検・報告できるようにした方がいい。現行では，毎年かわりばえしない紋切り型になりやすい。

⑩　報告書の要点をまとめたものを作り，関係機関に送付する。

**（外部評価及び第三者評価）**

⑪　自己点検・評価体制として，現行のやり方以外とするならば，外部者による点検を行う必要がある。他大学や文部省自身が大学に入って行うべきである。

⑫　自己点検・評価に関しては，自己反省も含めて，今後の改善に大いに役立つものであり，必要不可欠なものである。

評価の方法としてもう一つ大切なものは，他者からの評価である。特に教育活動面における評価については，他者からの評価の方法があまりなされていない。

教育学部においては，授業を通して，学生の人格，実践力を高めることが主たる目的であり，研究も自ずとその目的を達成するためのものであり，教育界において社会に還元されるものでなければならない。研究面において他者からの評価を受けることはあるが，勤務の状況や授業に関する工夫・努力などについて他者から評価を受けることが少ない。

研究活動，教育活動の両面における自己評価，他者評価が必要である。

⑬　今後は，自己点検・評価に加え，外部からの評価も検討すべきである。

⑭　自己点検・評価体制は，第三者からの厳しい評価を得られにくい。そのために，独善的な評価の傾向になりやすい。

附属幼稚園の場合も管理と指導の面から全職員で具体的に評価をしている。さらに保護者や大学の関係教官から評価をしてもらってもいいと考える。

年次報告書は，あまりにもお金をかけすぎている割に効果が少ないのでないかと思う。簡素化し，もっ

とページ数を減らすことが必要である。

## ● 研究費の財源（学外からの資金の導入状況，科学研究費補助金の採択状況等）

### 1 各種研究経費等の現状（図１参照）

(1) 本学に導入された各種研究経費等は，総額74,210千円であり，その内訳は次のとおりである。

| | | |
|---|---|---|
| ① | 高度化推進特別経費・大学院重点特別経費（研究科共同研究経費） | 1件 23,385千円 |
| ② | 教員養成学部フレンドシップ事業促進等経費 | 1件 1,253千円 |
| ③ | 大学改革推進等経費・教養特別講義プログラム推進経費 | 1件 280千円 |
| ④ | 奨学寄附金 | 89件 43,740千円 |
| ⑤ | 受託研究経費 | 2件 5,552千円 |

総額では，平成９年度より21,939千円増加し，1.4倍の金額となっている。この理由としては，①の経費が平成９年度に引き続き配分されたほか，④奨学寄附金が平成９年度より件数で77件，金額で33,190千円の大幅な増加があったことによるものである。

(2) 上記(1)の①～③の経費は文部省から配分されるものであり，平成９年度まで配分されていた特定研究経費，カリキュラム改革調査研究経費・教育方法等改善経費及び学外体験学習等実践支援経費は廃止された。これらの経費を継続的に確保することは極めて困難な状況である。

(3) 奨学寄附金は，本学の創立20周年を契機として地元企業等から教育研究活動等への助成が82件・25,290千円あったことにより大幅な増額となった。外部資金の導入を積極的に推進した結果であるが，この資金を有効に使用し，今後も奨学寄附金や受託研究経費を確保していくことが望まれる。

### 2 科学研究費補助金の現状（図２・３参照）

(1) 平成10年度に採択された科学研究費補助金は，本学全体で35件，金額にして56,000千円であり，その内訳は次のとおりである。

| | | |
|---|---|---|
| ① | 基盤研究(A) | 1件 14,800千円 |
| ② | 基盤研究(B) | 3件 10,900千円 |
| ③ | 基盤研究(C) | 21件 21,800千円 |
| ④ | 萌芽的研究 | 1件 500千円 |
| ⑤ | 奨励研究(A) | 9件 8,000千円 |

採択件数は，平成９年度に比べて９件，総額で平成９年度より23,400千円増加しており，過去３年間の平均採択額が約38,000千円であることからすれば，大幅に増加している。これは，申請件数がほぼ例年どおりであったものの，申請件数に対する採択率が46.1％で，平成９年度に比べて10ポイント増加しており，平成10年度の全国平均37.8％からしても高い数字といえる。

申請件数は，兵庫教育大学の86件（過去３年間の平均は78件），鳴門教育大学の83件（同101件）という結果から，本学の76件（同67件）は明らかに少ないことがわかる。

(2) 平成10年度における科学研究費補助金全体の予算額（全国ベース）を見ると，前年度に対して57億円増の1,179億円が計上されている。しかし，過去５年間は２桁（10％以上）であった対前年度伸び率は，平成10年度は5.1％となっている。

### 3 研究費の財源確保に向けて

(1) 外部資金については，本学の教育研究に関する情報公開を推進し，産業界や地域との交流・連携を図ることが重要である。特に奨学寄附金については，地元企業等の理解を得ながら，継続して資金を確保する必要である。

(2) 科学研究費補助金については，前年度に引き続き，①個人的な研究種目の申請件数の拡大，②各部にわたる領域及び各センターを活用した研究プロジェクトによる大型の研究種目（基盤研究(A)，国際学術研究等）の獲得，を目指して全学的に取り組む必要がある。

図１　各種研究経費等の状況（平成６年度～平成10年度）

（金額単位：千円）

| 区　　分 | 平成６年度 | | 平成７年度 | | 平成８年度 | | 平成９年度 | | 平成10年度 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 件数 | 金　額 | 件数 | 金　額 | 件数 | 金　額 | 件数 | 金　額 | 件数 | 金　額 |
| 特定研究経費 | 2 | 7,560 | 2 | 7,075 | 2 | 9,133 | 1 | 4,347 | — | — |
| 高度化推進特別経費・大学院重点特別経費（研究科共同研究経費） | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 22,860 | 1 | 23,385 |
| カリキュラム改革調査研究経費・教育方法等改善経費 | (1) 5 | (142) 5,944 | (2) 5 | (643) 4,892 | (2) 6 | (1,664) 6,937 | (1) 5 | (185) 8,155 | — | — |
| 教員養成学部フレンドシップ事業促進等経費 | — | — | — | — | — | — | — | — | 1 | 1,253 |
| 大学改革推進等経費・教養特別講義プログラム推進経費 | — | — | — | — | — | — | — | — | 1 | 280 |
| 学外体験学習等実践支援経費 | — | — | — | — | — | — | 1 | 684 | — | — |
| 奨学寄附金 | 7 | 7,750 | 7 | 5,320 | 8 | 5,650 | 12 | 10,550 | 89 | 43,740 |
| 受託研究経費 | 1 | 3,000 | 1 | 3,000 | 2 | 5,600 | 2 | 5,675 | 2 | 5,552 |
| 計 | (1) 15 | (142) 24,254 | (2) 15 | (643) 20,287 | (2) 18 | (1,664) 27,320 | (1) 22 | (185) 52,271 | 94 | 74,210 |

（注）１　（　）内は，他大学の研究分担者で，内数である。
　　２　平成10年度の奨学寄附金及び受託研究経費は，平成11年１月31日現在である。

図２　科学研究費補助金の申請及び採択状況（平成７年度～平成11年度）

（金額単位：千円）

| 研究種目 | | 平成７年度 | | 平成８年度 | | 平成９年度 | | 平成10年度 | | 平成11年度 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 件数 | 金　額 | 件数 | 金　額 | 件数 | 金　額 | 件数 | 金　額 | 件数 | 金　額 |
| 特別推進研究 | 申　請 | | | | | | | | | | |
| | 採　択 | | | | | | | | | | |
| 重点領域研究 | 申　請 | 1 | 2,234 | 1 | 2,180 | | | | | | |
| | 採　択 | | | | | | | | | | |
| ※総合研究(A) | 申　請 | 3 | 13,686 | 3 | 12,373 | | | | | | |
| | 採　択 | 1 | 2,400 | | | | | | | | |
| ※総合研究(B) | 申　請 | | | | | | | | | | |
| | 採　択 | | | | | | | | | | |
| ※一般研究(A) | 申　請 | 3 | 34,502 | 3 | 27,659 | | | | | | |
| | 採　択 | 2 | 20,000 | | | | | | | | |
| ※一般研究(B) | 申　請 | 8 | 30,690 | 6 | 27,501 | | | | | | |
| | 採　択 | 2 | 1,500 | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ※<br>一般研究(C) | 申　請 | 38 | 54,791 | 34 | 50,181 | | | | | | | |
| | 採　択 | 12 | 11,700 | | | | | | | | | |
| ※<br>試験研究(A) | 申　請 | | | | | | | | | | | |
| | 採　択 | | | | | | | | | | | |
| ※<br>試験研究(B) | 申　請 | 1 | 6,427 | | | | | | | | | |
| | 採　択 | | | | | | | | | | | |
| 基盤研究(A) | 申　請 | | | | | 2 | 5,100 | 1 | 21,146 | 1 | 8,300 | |
| | 採　択 | | | 3 | 12,800 | 2 | 5,100 | 1 | 14,800 | | | |
| 基盤研究(B) | 申　請 | | | | | 7 | 38,191 | 10 | 65,945 | 13 | 83,656 | |
| | 採　択 | | | 2 | 6,300 | 1 | 1,100 | 3 | 10,900 | | | |
| 基盤研究(C) | 申　請 | | | | | 39 | 68,352 | 42 | 70,910 | 37 | 61,857 | |
| | 採　択 | | | 13 | 12,600 | 18 | 20,400 | 21 | 21,800 | | | |
| 萌芽的研究 | 申　請 | | | | | 1 | 1,900 | 3 | 2,997 | 5 | 7,698 | |
| | 採　択 | | | | | 1 | 1,200 | 1 | 500 | | | |
| 奨励研究(A) | 申　請 | 15 | 16,237 | 14 | 15,894 | 23 | 34,621 | 20 | 27,414 | 19 | 24,085 | |
| | 採　択 | 5 | 4,300 | 5 | 4,500 | 4 | 4,800 | 9 | 8,000 | | | |
| 奨励研究(B) | 申　請 | | | 1 | 210 | | | 1 | 300 | | | |
| | 採　択 | | | 1 | 210 | | | | | | | |
| 国際学術研究 | 申　請 | 2 | 6,109 | 2 | 32,127 | 1 | 25,127 | 1 | 9,100 | 1 | 6,450 | |
| | 採　択 | 1 | 5,100 | | | | | | | | | |
| 計 | 申　請 | 71 | 164,676 | 64 | 168,125 | 73 | 173,291 | 78 | 197,812 | 76 | 192,046 | |
| | 採　択 | 23 | 45,000 | 24 | 36,410 | 26 | 32,600 | 35 | 56,000 | | | |

（注）1　平成８年度採択から，総合研究，一般研究及び試験研究は，基盤研究(A)～(c)に統合された。よって，平成８年度については，申請時の研究種目と採択時の研究種目において異なる欄に記載しているものがある。（※印は，平成７年度以前の研究種目を示す。）

2　萌芽的研究は，平成８年度に新設された。

図３　新教育大学における科学研究費補助金の申請及び採択状況（平成７年度～平成11年度）

| 年度<br>大学 | 平成７年度 | | | 平成８年度 | | | 平成９年度 | | | 平成10年度 | | | 平成11年度 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 申請 | 採択 | 採択率 | 申請 | 採択 | 採択率 | 申請 | 採択 | 採択率 | 申請 | 採択 | 採択率 | 申請 | (新規) | (継続) |
| | 件 | 件 | % | 件 | 件 | % | 件 | 件 | % | 件 | 件 | % | 件 | 件 | 件 |
| 上越教育大学 | 69 | 22 | 31.9 | 61 | 23 | 37.7 | 72 | 26 | 36.1 | 76 | 35 | 46.1 | 75 | 58 | 17 |
| 教官数（人） | 182 | | | 182 | | | 180 | | | 188 | | | 189 | | |
| 申請率（%） | 37.9 | | | 33.5 | | | 40.0 | | | 40.4 | | | 39.7 | | |
| 兵庫教育大学 | 79 | 27 | 34.2 | 77 | 29 | 37.7 | 78 | 30 | 38.4 | 86 | 32 | 37.2 | 91 | 70 | 21 |
| 鳴門教育大学 | 103 | 36 | 35.0 | 101 | 32 | 31.9 | 99 | 36 | 36.4 | 83 | 35 | 42.2 | 97 | 75 | 22 |
| 全国平均 | | | 29.4 | | | 35.1 | | | 33.9 | | | 37.8 | | | |

（注）1　国際学術研究及び奨励研究Ｂ（附属学校教官の研究）を除く。

2　申請・採択件数には，継続課題を含む。

3　教官数は，申請年度（表中年度欄の前年）の10月１日現在の現員であり，学長及び副学長を含む。

〔スペース・コラボレーション・システム事業実施委員会〕

● スペース・コラボレーション・システムの利用状況

平成７年12月に，国立の大学，高等専門学校及び大学共同利用機関が衛星通信による映像交換を中心とした大学間ネットワークを構築し，高度情報通信社会にふさわしい教育・研究利用を推進するスペース・コラボレーション・システム事業に本学が参加することに伴い，その利用に係る具体的事項を検討することを目的に本委員会が設置され，平成８年10月から本事業の運用を開始し現在に至っている。

平成10年度の利用状況については，本学が議長局として利用したものが10件，他大学が議長局となるものに参加したものが33件の計43件であった。また，利用回数については，延べ123回であった。

平成10年度の本学の利用実績は，平成９年度と同様，本事業参加機関の中でも上位にランクされている。

今後は，多様なメディアを高度に利用した授業を大学設置基準上授業方法として位置付けられたこと等，制度の弾力化が図られたことを機会に，更に多くの職員から本事業を教育・研究等へ有効活用してもらうための方策等について検討しなければならない。

〔教育課程検討委員会〕

● カリキュラム編成方針と教育理念・目的との関係

本学では，従来より学部においては，４年間を通じ全体（教養教育と専門教育）の調和と総合性に配慮し，「教養教育科目」及び「専門教育科目」に区分しカリキュラムが編成されている。また，大学院においては，学校教育に関する理論と方法の研究能力及び教育の実践の場における教育研究の推進者となることができる能力を養い，初等中等教育諸学校教員としての高度の資質や力量の涵養を図るため，「共通科目」，「専攻科目」及び「自由科目」に区分しカリキュラムが編成されている。

しかし，平成７年度時点では，カリキュラムの編成方針及びカリキュラムの編成方法等については確立されておらず，本委員会としては，その必要性を認識し，カリキュラムの編成方針等について，平成７年度に審議・検討し，平成８年度の教授会及び研究科委員会において承認され，カリキュラムの編成方針等について確立することができた。

平成９年度及び平成10年度の教育課程については，平成８年度に確立されたカリキュラムの編成方針等に基づき編成した。

〔職員レクリエーション委員会〕

● 職員レクリエーションの実施状況

ア　実施方針

職員レクリエーション行事は，本学職員が健全な文化，教養，体育等の活動を通じて，心身の健康と職員相互の緊密度を高め勤務能率の発揮及び増進に資するものでなければならない。このような考えのもと職員レクリエーション委員会では，誰でも参加でき，楽しめるものをということで，企画立案等をし，円滑な実施に関与した。

イ　実施状況

本年度は球技大会，スキー講習会，チケットの配付，職員活動補助，厚生物品等の充実を実施したが，委員をはじめとする関係者の協力により各行事を円滑におこなうことができた。行事名称，参加者数等は，次のとおりである。

○　職員レクリエーション行事実施状況

| 行事名称 | | 実施（利用）期間 | 参加（利用）者数 | 実施場所 |
|---|---|---|---|---|
| 球技大会 | ソフトボール | 7月17日㈮～7月24日㈮ | 110人 | 本学野球場 |
| | ソフトバレーボール | 9月30日㈬ | 54 | 本学体育館 |
| | 綱引き | 9月30日㈬ | 41 | 本学体育館 |
| | テニス | 9月30日㈬ | 39 | 本学テニスコート |
| | 卓球 | 9月30日㈬ | 21 | 本学体育館 |
| | ボウリング | 11月16日㈪，17日㈫ | 100 | 中央ボウル |
| スキー講習会 | | 平成11年2月27日㈯ | 30 | 妙高高原赤倉温泉スキー場 |
| チケットの配付 | 市内映画館 | 平成10年7月18日㈯から<br>平成11年3月10日㈬まで | 72 | 高田中劇会館 |
| | 水族館 | 平成10年7月18日㈯から<br>平成11年3月31日㈬まで | 32 | 上越市立水族館 |
| | プール | 平成10年7月18日㈯から<br>平成11年3月31日㈬まで | 15 | リージョンプラザ上越 |
| | | | 8 | オールシーズンプール |

ウ　評価及び課題

球技大会においては，昨年度と同じ種目数であったが創立20周年記念式典を翌々日に控えての開催であったためか参加者数が若干減ってしまった。なるべく，参加したい人が参加できるよう開催時期を考慮する必要があろう。

また，その他の行事については昨年度と同様にいずれの行事も例年並の参加者及び利用者であったが，市内映画館の利用者とスキー講習会の参加者が若干減少しているため，より幅広い年齢層の者が，より参加しやすい行事及び実施機関等を検討する必要があると思われる。

〔実験廃棄物等管理委員会〕

● **実験廃棄物等の管理状況**

平成3年度から取扱規程を制定し，実験廃棄物，実験廃液，実験廃水の適切な処理に当たってきた。

平成10年度においても，実験小動物遺体や塩素系溶剤，可燃性溶剤等の実験廃液について，以下により処理を行った。

①　実験廃液による排出水の水質検査（資料1～3参照）

実験廃液による排出水の水質検査については，水質汚濁防止法に基づき，毎月1回生活排水処理施設の水質検査を行うとともに，総合排水口の排水水質検査を年1回財団法人上越環境センターへ排水基準が定められている39項目について計量測定を依頼している。

また，同法に基づく自治体（上越保健所）の立ち入り検査が，概ね年1回実施され，汚水等の処理方法及び，排出水の測定検査を受け，適正な維持管理に努めている。なお，排出水の水質基準については，水質汚濁防止法施行規則に定められており，平成10年度は，いずれの測定時においても基準値をクリアしている。

②　実験廃液等の処理（資料4参照）

実験廃液の処理については，水銀系廃液，シアン系廃液，フッ素・リン酸系廃液，酸系廃液，アルカリ系廃液，重金属系廃液，廃油・可燃性有機廃液，難燃性有機溶剤・写真廃液，フッ素系有機廃液の9項目に分類し，実験廃液専用のポリタンクに所定のラベルを貼り，所定の貯留庫に搬入した後，業者による委託処分を行っている。また，実験小動物遺体についても，業者による委託処分を行っている。

資料１　平成10年度　生活排水処理施設運転管理集計表

| 月 | 水質 | | | | | | 使用量 | | | | 余剰汚泥 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 流入水 | | 放流水 | | | | 電気 | 汚水量 | 水道 | 滅菌剤 | |
| | PH | BOD | PH | BOD | SS | 大腸菌 | kW | m³ | m³ | kg | m³ |
| 4 | 7.4 | 176 | 5.9 | 1.0 | 2.0 | 0 | 10,860 | 5,869 | 4 | 85 | 150 |
| 5 | 7.2 | 221 | 6.6 | 1.0 | 1.0 | 0 | 11,890 | 7,306 | 2 | 80 | 160 |
| 6 | 7.2 | 234 | 7.0 | 1.5 | 1.0 | 0 | 12,140 | 7,511 | 2 | 55 | 180 |
| 7 | 7.0 | 455 | 7.0 | 0.5 | 9.0 | 170 | 11,760 | 8,006 | 1 | 55 | 180 |
| 8 | 6.9 | 91 | 6.6 | 1.0 | 3.0 | 0 | 12,760 | 7,434 | 15 | 65 | 160 |
| 9 | 6.6 | 142 | 6.2 | 0.5 | 2.0 | 0 | 11,470 | 8,396 | 3 | 45 | 160 |
| 10 | 7.4 | 215 | 6.0 | 2.7 | 1.0 | 0 | 12,660 | 8,003 | 2 | 85 | 170 |
| 11 | 7.3 | 141 | 6.6 | 0.5 | 2.0 | 0 | 11,990 | 9,214 | 2 | 75 | 160 |
| 12 | 7.5 | 214 | 6.9 | 0.5 | 1.0 | 6 | 12,290 | 6,914 | 2 | 75 | 160 |
| 1 | 7.3 | 143 | 6.2 | 0.5 | 2.0 | 0 | 14,330 | 7,614 | 2 | 55 | 160 |
| 2 | 7.1 | 239 | 6.3 | 0.5 | 1.0 | 0 | 16,280 | 8,064 | 2 | 80 | 140 |
| 3 | 6.1 | 162 | 7.2 | 0.5 | 1.0 | 0 | 13,690 | 7,402 | 5 | 75 | 180 |
| 計 | 上限値 7.5<br>下限値 6.1 | 加重平均 203 | 上限値 7.2<br>下限値 5.9 | 加重平均 0.9 | 加重平均 2.2 | 加重平均 15 | 152,120 | 91,733 | 42 | 830 | 1,960 |
| | | | | | | | 月平均値 | (12,677) | (7,644) | ( 69) | (163) |
| | | | | | | | 日平均値 | ( 417) | ( 251) | (2.3) | (5.5) |

資料２　計量証明書

平成10年10月29日付け御依頼いただきました試料の計量結果を下記の通り証明します。

試料採取者：受託者

試　料　名：総合排水口

採　水　日：10月29日

※（　）内は排出基準

| 計量項目 | 単位 | 計量結果 | 計量項目 | 単位 | 計量結果 |
|---|---|---|---|---|---|
| pH(　)内測定液温℃ | pH | 6.9(24)　(5.8～8.6) | PCB | mg/ℓ | 0.0005未満(0.003) |
| BOD | mg/ℓ | 0.6　(30) | トリクロロエチレン | mg/ℓ | 0.001未満 (0.3) |
| SS | mg/ℓ | 1　(70) | テトラクロロエチレン | mg/ℓ | 0.001未満 (0.1) |
| ＊大腸菌群数 | 個/cm³ | 1　(3,000) | 四塩化炭素 | mg/ℓ | 0.002未満 (0.02) |
| n-ヘキサン抽出物質 | mg/ℓ | 0.5未満　(5) | ジクロロメタン | mg/ℓ | 0.02未満　(0.2) |
| 銅 | mg/ℓ | 0.01未満　(3) | 1, 2-ジクロロエタン | mg/ℓ | 0.004未満 (0.04) |
| 亜鉛 | mg/ℓ | 0.05　(5) | 1,1,1-トリクロロエタン | mg/ℓ | 0.001未満 (3) |
| 溶解性鉄 | mg/ℓ | 0.29　(10) | 1,1,2-トリクロロエタン | mg/ℓ | 0.006未満 (0.06) |
| 溶解性マンガン | mg/ℓ | 0.11　(10) | 1, 1-ジクロロエチレン | mg/ℓ | 0.02未満　(0.2) |
| フェノール類 | mg/ℓ | 0.01未満　(5) | シス-1,2-ジクロロエチレン | mg/ℓ | 0.04未満　(0.4) |
| シアン化合物 | mg/ℓ | 0.01未満　(1) | 1, 3-ジクロロプロペン | mg/ℓ | 0.002未満 (0.02) |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 鉛 | mg/ℓ | 0.01未満 (0.1) | チウラム | mg/ℓ | 0.006未満 (0.06) |
| カドミウム | mg/ℓ | 0.005未満 (0.1) | シマジン | mg/ℓ | 0.003未満 (0.03) |
| 六価クロム | mg/ℓ | 0.02未満 (0.5) | チオベンカルブ | mg/ℓ | 0.02未満 (0.2) |
| 全クロム | mg/ℓ | 0.01未満 (2) | ベンゼン | mg/ℓ | 0.01未満 (0.1) |
| ふっ素 | mg/ℓ | 0.5未満 (15) | セレン | mg/ℓ | 0.01未満 (0.1) |
| 砒素 | mg/ℓ | 0.01未満 (0.1) | ＊透視度 | 度 | 30以上 |
| 有機りん | mg/ℓ | 0.1未満 (1) | 採水水温 | ℃ | 21.5 |
| アルキル水銀 | mg/ℓ | 0.0005未満(0) | 採水時刻 | | 14：08 |
| 総水銀 | mg/ℓ | 0.0002未満(0.005) | | | |

備考　＊印の項目は計量対象外または計量証明単位外を示します。

○　計量方法

| 項　目 | 計　量　方　法 | 項　目 | 計　量　方　法 |
|---|---|---|---|
| pH | JIS K 0102 12.1 ガラス電極法 | ジクロロメタン | |
| BOD | JIS K 0102 21 及び<br>JIS K 0102 32.3 隔膜電極法 | 1, 2-ジクロロエタン<br>1,1-ジクロロエチレン<br>シス1, 2-ジクロロエチレン<br>1,3-ジクロロプロペン(D-D)<br>ベンゼン | JIS K 0125 5.2 ヘッドスペース<br>GC-MS 法 |
| COD(Mn) | JIS K 0102 17 滴定法 | | |
| DO(溶存酸素) | JIS K 0102 32.1<br>ウインクラー―アジ化ナトリウム変法 | | |
| SS(浮遊物質) | 環境庁告示第59号　付表 8　ろ過重量法 | チウラム | 環境庁告示第59号　付表 6　HPLC 法 |
| 大腸菌群数(MPN) | 環境庁告示第59号　別表 2　最確数による定量法 | シマジン(CAT) | 環境庁告示第59号　付表 7 (第 1 ) |
| 大腸菌群数 | 厚生省・建設省令第 1 号　別表第 1　平板法 | チオベンカルブ | GC-MS 法 |
| 全窒素 | JIS K 0102 45.1 総和法<br>45.5 熱分解法 | ニッケル(Ni) | JIS K 0102 59.3 ICP 発光分析法 |
| | | カルシウム(Ca) | JIS K 0102 50.3 ICP 発光分析法 |
| 全りん | JIS K 0102 46.3 吸光光度法 | マグネシウム(Mg) | JIS K 0102 51.3 ICP 発光分析法 |
| n-ヘキサン抽出物質 | 環境庁告示第59号　付表 9　抽出分離重量法<br>環境庁告示第64号　付表　抽出分離重量法 | ナトリウム(Na) | JIS K 0102 48.2 フレーム原子吸光法 |
| | | カリウム(K) | JIS K 0102 49.2 フレーム原子吸光法 |
| カドミウム(Cd) | JIS K 0102 55.4 ICP 発光分析法 | 硫酸イオン($SO_4^{2-}$) | JIS K 0102 41.1 吸光光度法<br>41.3 イオンクロマトグラフ法 |
| シアン化合物(CN) | JIS K 0102 38.1.2及び38.3吸光光度法 | | |
| 有機りん | 環境庁告示第64号　付表 1　GC 法 | りん酸イオン($PO_4^{3-}$) | JIS K 0102 46.1.1 吸光光度法 |
| 鉛(Pb) | JIS K 0102 54.4 ICP 発光分析法 | 電気伝導率(EC) | JIS K 0102 13 |
| 六価クロム($Cr^{6+}$) | JIS K 0102 65.2.1 吸光光度法 | 有機体炭素(TOC) | JIS K 0102 22.1 |
| ひ素(As) | JIS K 0102 61.2 水素化物発生原子吸光法 | アンモニウムイオン($NH_4^+$) | JIS K 0102 42.1 及び42.2吸光光度法 |
| セレン | JIS K 0102 67.2 水素化物発生原子吸光法 | 亜硝酸イオン($NO_2^-$) | JIS K 0102 43.1 吸光光度法 |
| 総水銀(T-Hg) | 環境庁告示第59号　付表 3　原子吸光法 | 硝酸イオン($NO_3^-$) | JIS K 0102 43.2 吸光光度法 |
| アルキル水銀(R-Hg) | 環境庁告示第59号　付表 4　GC 法 | 有機体窒素 | JIS K 0102 44.1 及び44.2吸光光度法 |
| PCB | 環境庁告示第59号　付表 5　GC 法 | 陰イオン界面活性剤 | JIS K 0102 30.1.1 吸光光度法 |
| フェノール類 | JIS K 0102 28.1 吸光光度法 | 全蒸発残留物 | JIS K 0102 14.2 重量法 |
| 銅(Cu) | JIS K 0102 52.4 ICP 発光分析法 | 全硬度 | JIS K 0101 15.1(2)フレーム原子吸光光度法 |
| 亜鉛(Zn) | JIS K 0102 53.3 ICP 発光分析法 | 塩化物イオン($Cl^-$) | JIS K 0102 35.1 滴定法<br>35.3 イオンクロマトグラフ法 |
| 溶解性鉄(S-Fe) | JIS K 0102 57.3 ICP 発光分析法 | | |
| 鉄(Fe) | JIS K 0102 57.3 ICP 発光分析法 | M-アルカリ度 | JIS K 0101 14.2 滴定法 |
| 溶解性マンガン(S-Mn) | JIS K 0102 56.4 ICP 発光分析法 | けい酸($SiO_2$) | JIS K 0101 44.3 吸光光度法 |
| マンガン(Mn) | JIS K 0102 56.4 ICP 発光分析法 | 炭酸水素イオン($HCO_3^-$) | JIS K 0101 25.2 赤外線吸収法 |
| クロム(T-Cr) | JIS K 0102 65.1.4 ICP 発光分析法 | MLSS | 下水試験法 |
| ふっ素(F) | JIS K 0102 34.1 吸光光度法 | アルブミノイド体窒素 | 下水試験法 |
| トリクロロエチレン<br>テトラクロロエチレン<br>四塩化炭素<br>1, 1, 1-トリクロロエタン<br>1, 1, 2-トリクロロエタン | JIS K 0125 5.2 ヘッドスペース<br>GC-MS 法 | 透視度 | JIS K 0102 9 |
| | | 濁度 | JIS K 0101 9 |
| | | 色度 | JIS K 0101 10.1 |
| | | 河川流量 | JIS K 0094 流速計法 |
| | | 水温，気温 | JIS K 0102 ガラス製棒状温度計 |

資料３　立入検査結果について（通知）

１　工場（事業場）の名称及び所在地

上越教育大学

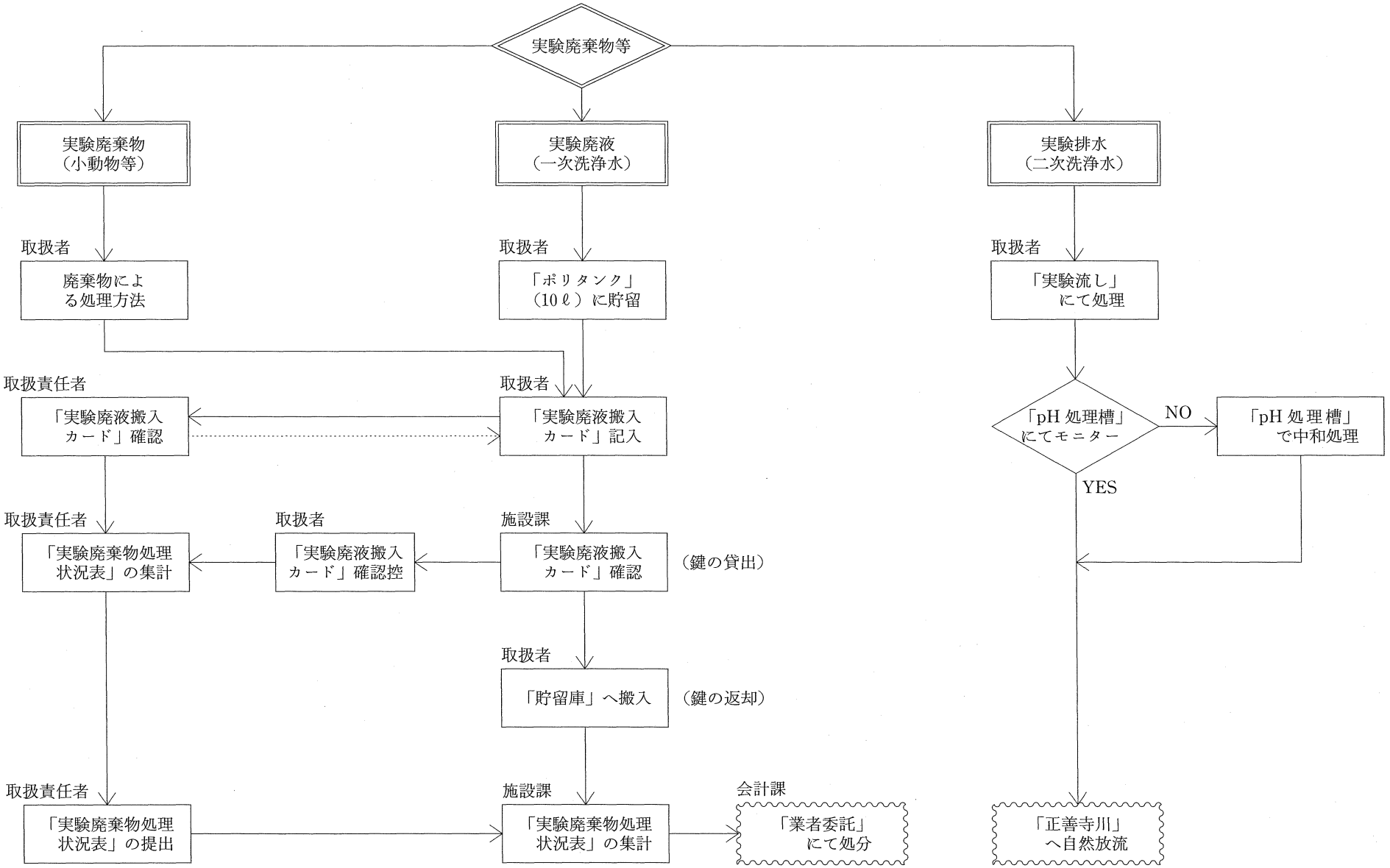
上越市山屋敷１番地

２　排出水の検査結果

| 検　査　項　目 | 排水基準 | 検査結果 |
|---|---|---|
| pH | 5.8～8.6 | 6.8 |
| 生物化学的酸素要求量（BOD） | 40(30) | 1 |
| 浮遊物質量（SS） | 90(70) | 3 |
| 大腸菌群数 | (3000) | 100未満 |
| トリクロロエチレン | 0.3 | 0.03未満 |
| テトラクロロエチレン | 0.1 | 0.01未満 |
| １，１，１―トリクロロエタン | 3 | 0.3未満 |

単位：大腸菌群数は［個/㎤］，それ以外はpHを除き［mg/ℓ］とする。
（　）内は日間平均値

資料４　実験廃棄物等の貯留方法フローチャート



〔公開講座委員会〕

● 公開講座及び文化講演会の開催状況（開催数，時期，時間帯，内容等）

公開講座は，一般公開講座として，パソコン入門，インターネット入門，陶芸等12講座及び現職教育講座として，フレスコ画を描く，幼児の世界と教育等３講座，計15講座を実施した。

文化講演会は，「ともに働く社会の実現を目指して」，「環境学入門」，「『やまとことば』から見たユーラシア大陸」及び創立20周年記念講演会を含め計４回実施した。

公開講座及び文化講演会の詳細な実施状況等については，平成10年度年次報告書の巻末の「第五章資料編」に掲載してあるので，参照願いたい。

公開講座では，受講者を対象としたアンケート結果を踏まえ，参加者の多彩なニーズに応えられるよう，本年度から，公開講座の開始時間の順延や現職教員を対象とした講座を新設することにより，講座の拡大改善を図った。

また，文化講演会では，講演者紹介のパンフレットのデザインを芸術系教官の協力により改善することとした。

今後の課題としては，公開講座参加者の追跡調査の検討及び文化講演会への本学学生の参加者拡大のための参画方法等について検討する必要がある。

〔研究紀要委員会〕

● 研究紀要の発行状況・編集方針

研究紀要刊行のねらいは，大学における研究活動の成果を内外に公表することにある。それは，即ち，本学の研究活動の状況を端的に表す指標にもなる。従って，研究紀要の編集は，質の高い論文を数多く集め掲載することになる。具体的な役割は，年２回刊行する研究論文の募集・編集・配付等一連の仕事とその意志決定にある。以上のような要件に照らして，自己点検・評価を行うことが求められる。

ア　総括的評価と具体的評価事項

投稿論文の数は，年々増加傾向にあり，本年度提出された論文は全て受理・掲載され，その数は各号とも30編を超えた。刊行に必要な作業は，おおむね順調・適正・敏速に処理することができ，本委員会の任務，役割は十分達成できたといえる。評価すべき具体的事項は以下の通りである。

(ｱ) 投稿論文数が増加し，予算額が一定に決められているため，制限枚数内の投稿者も一定の個人負担が生じることになった。その個人負担額も昨年度各号とも３万円以上と高額になり問題となった。そのため，昨年度の委員会では，この個人負担をできるだけ少なくするための方策を様々な角度から検討・審議してきた。この結果，本年度は学内教官の同意を得て，原稿の入力されたフロッピーディスクを原稿と併せて提出するような方法に変更した。このため１頁単価は，昨年度発行した18巻１号と本年度の19巻１号を比較すると13.5％も経費が安くなっている。また，これにより，個人負担額も昨年と比較し大幅に減少した。このことは本年度の委員会の仕事として大きな成果といえるものである。

(ｲ) 印刷経費の削減の一環といえるものであるが，印刷部数の見直しを行った。従来，学内の各教官には一部ずつ配付していたが，中にはその必要がないという意見もあり，本年度は，学内教官には，事前の照会により，希望者のみに配付することにした。また，公立大学附属図書館等から送付の辞退があったこと，さらに予備用の部数の見直しを行った結果，従来の700部から50部削減し，650部にした。

(ｳ) 原稿提出方法の変更により，研究紀要投稿要項を，さらに，発行部数変更により研究紀要編集要項の必要事項を一部改正し，実状に合うようにした。

イ　今後とも継続的に改善に努力すべき事項

(ｱ) 学内紀要の必要性やその評価については，専門分野によってだいぶ異なり，一概に評価を下すことは妥当

ではない。しかし，大学における紀要刊行の趣旨を尊重し，今後とも充実させていくことが求められている。そのための方策を今後も継続して検討していかなくてはならない。

(イ) 投稿者数の増加により，掲載論文数も30編を超え１冊が分厚い紀要になってきた。そのため，取扱いに不便という意見もあり，本年度の委員会で検討したが，分野ごとに分冊化すると印刷経費の増加を招くことから，当分の間見送ることにした。しかし，今後，費用等と合わせて別冊化を考えていくことも必要となろう。

〔国際交流委員会〕

● **留学生の受入れ状況（受入数，奨学金，宿舎，学生生活等）**

外国人留学生の受入数は，平成９年度（23人）に一時落ち込んだものの平成10年度（27人）は増加に転じ，昭和60年度に受け入れて以来，増加傾向が続いている。

ただし，学部入試に対する外国人の応募は３年連続で見られず，明年度の学部留学生は４年次に１人を残すだけになる。留学生の学部教育では日本語の高度な能力が要求されるために，学部留学生が少ないことはやむを得ないものと考えられる。

私費留学生の奨学金の根幹である学習奨励費は，平成10年４月では前年度に較べ受給人数は７人から５人へと減少しだが後期に２人の追加受給を得た。また，地元のロータリー米山奨学金は平成10年４月では前年度の１人から２人へと増加を得た。

留学生の住居では，本学では国際学生宿舎に留学生用居室を18人分確保してあるが，国際学生宿舎委員会の配慮を得て，日本人学生用の一部を留学生用に転用してもらい，平成10年４月では留学生27人中22人が国際学生宿舎に入居できている。

また，平成10年６月には日本人学生と留学生との交流・親睦を目的として本学の学生団体「国際交流クラブ」が有志学生により設立され，各種交流を企画実施することにより，留学生の生活等の支援となってきている。

なお，本年度は創立20周年記念事業の一環として，「留学生と市民との交流会」を行ったが，留学生の企画・参加による本事業は留学生の活性化に大きく寄与した。

● **留学生の教育研究指導の方法・体制**

留学生の教育面では，留学生の指導教官（受入教官）及び日本語・日本事情担当教官が指導に当たっているほか，学外講師（川室京子氏）による日本語課外補講を実施した。

留学生への指導に対して組織的な取組みが必要なことから，国際交流委員会内に留学生部会を設置し，体制を整備してきた。

留学生の受入体制として，平成９年度概算要求から継続要求している留学生受入に伴う専門教育教官の配置が課題となっている。

● **海外からの研究者の招致状況**

平成10年度の海外からの研究者の受入数は１人（外国人特別招へい教授 PREITZ, CLARENCE HAROLD 平成10年９～11月）である。本年度，本学として初めて外国人客員教授を受け入れたが，今回の経験を元に客員教授に対する大学の対応について今後検討する必要がある。委員会では，外国人研究者を受入れようとする教官の所属教育研究部長からの申し出に基づき外国人研究者の受入れについて審議することとしており，平成10年度は上記１人の他に，平成11年度受入予定の２人について審議し受け入れることとした。

なお，本年度は創立20周年記念事業の一環として，協定校４大学の学長が10月及び３月に招かれ，講演会が開催された。

〔学生宿舎委員会〕

● 学生宿舎の入居状況（平成10年度）

（現状と問題点，改善策）

① 単身用学生宿舎

ア 学部１年次用（２人部屋）は，募集人員172人に対し，入居者は166人で，収容人員に対する入居率は96.5%，入居希望者（167人）に対する入居許可率は99.4%であった。生活様式の変化に伴い，２人部屋に対する抵抗があるものと思われ，男子居室に空室が生じた。

イ 学部２年次以上用（個室）は，募集人員360人に対し，入居者は360人で，収容人員に対する入居率は100%，入居希望者（381人）に対する入居許可率は94.5%であった。

ウ 大学院（修士）用（個室）は，募集人員180人に対し，入居者は180人で，収容人員に対する入居率は100%，入居希望者（199人）に対する入居許可率は90.5%であった。

エ 従来，特に設けていなかった大学院（博士）用は，学部１年次用（２人部屋）４室を使用することとした。入居者は３人で，収容人員に対する入居率は37.5%，入居希望者（３人）に対する入居許可率は100%であった。

なお，女子用については，今後検討することとした。

オ 入居者選考の際の収入の評価方法が，従来のままでよいのかどうか，再検討することが今後の課題とされた。

② 世帯用学生宿舎は，募集人員80人に対し，入居者は82人で，収容人員に対する入居率は102.5%，入居希望者（82人）に対する入居許可率は100%であった。特例として，２人１組で入居を許可したことからこのようになった。

● 入居学生の生活（施設設備の利用，居住環境の保全等）状況

（現状と問題点，改善策）

① 単身用学生宿舎

ア 第１共用棟（昭和56年３月設置）及び第２共用棟（昭和59年３月設置）に男女各１室の計４室の浴室が設置され，毎日午後５時から午後10時まで利用可能（夏期及び春期休業期間，年末年始は，制限がある）である。

設置後17年が経過し，使用頻度も高いことから，脱衣室の床も含め汚損があったため，平成８年度以降順次，改修工事を行い，居住環境の整備を図っている。

平成９年度及び平成10年度に，時間外でも使用できるシャワー設備（各室２か所）を設置するとともに，洗場水栓をサーモスタット金具（シャワー付）に更新した。

イ 補食室が各棟各階に１か所（12人で使用）設置され，簡単な食事の調理等に利用している。

油による換気扇・壁の汚れ，流し台の老朽化が著しかったことから，平成10年度に20か所の補食室の壁の塗り替え，換気扇及び流し台を新しく更新した。残りの40か所についても，平成11年度以降，順次更新していくこととした。

また，永年の使用により，排水管が詰まり水はけが悪くなっているため，隔年で排水管の洗浄を行っている。

ウ 入居者用として，建物周辺の空き地に約350台の駐車スペースが確保されている。しかし，冬期間は，降雪により必要台数分の確保が難しい状況である。

駐車スペースが限られているため，平成10年度から，学部１・２年生の自動車持ち込みを禁止した。

② 世帯用学生宿舎

A棟が昭和58年3月，B棟が昭和59年3月に設置された。設置から15～16年が経過し，湿気の多い土地柄結露等による居室内の壁の損傷が多く見られる。そのため，改修工事を行う必要がある。

〔国際学生宿舎委員会〕

● **国際学生宿舎の入居状況（平成10年度）**

（現状と問題点，改善策）

平成10年度の入居状況及び入居率は，単身用・世帯用を合わせて収容人員42人（外国人研究者用4人を含む。）に対し，39人が入居しており，収容人員に対する入居率は92.9%で，外国人研究者用を除くと102.6%と高い数字となっている。

夫婦用居室は，日本人学生用2室を弾力的に外国人留学生用に運用することとし，入居希望者5人全員を入居させた。

また，国別の入居状況は，日本人17人，中国11人，韓国3人，台湾2人及びその他3人であった。

なお，外国人研究者用1人が夫婦室に入居した。外国人研究者用として4室を確保してあるが，年度当初に受け入れ予定を把握うることが困難なため，空室としておかざるを得ない。

● **入居学生の生活（施設設備の利用，居住環境の保全等）状況**

（現状と問題点，改善策）

第1研修室及び第2研修室が設けられており，主に外国人留学生の日本語教育に利用されている。

特に，第1研修室は，週1回外国人留学生（宿舎入居者以外の考も含む）のために，日本語教室を開催してる。

第2研修室は，主として入居者の交流の場として，毎日利用されている。

単身室入居者用として，コイン式のシャワー室及び洗濯室が設置され，いつでも利用できるようになっている。

〔大学会館運営委員会〕

● **大学会館（食堂・売店等）の運営・利用状況**

ア 大学会館の運営

大学会館は，学長の管理運営のもと，本学の学生及び教職員の福利厚生に資するとともに，学生の課外活動を促進することを目的として設置されている。

また，大学会館に関する重要事項の審議のため，学長の指名した副学長を議長とし，学生委員会委員長，学生委員会委員2名，事務局長及び教務部長により構成された「大学会館運営委員会」が置かれ，学長の諮問に応じ委員を召集出来ることとされている。

なお，利用者の声が反映された，キャンパスアメニティーに貢献する福利厚生施設となるよう，センスや雰囲気等も考慮した施設設備面での改修並びにサービスセンターを通した各出店業者への助言指導が行われ，より一層の改善充実に努められている。

イ 利用状況

前年度までのホール照明器具等の改修，サイン及び観葉植物等の新設による雰囲気の改善並びに喫茶室及び美容室の業者を含めた模様替また，食堂の茹麺器等更新を始めとした各穫施設・設備面を含むサービス向上が効を奏してか，前年度比で食堂が1.1倍，喫茶が1.5倍，美容室が2倍の利用者数になり，全体では1万人を超える，利用者の増があった。

〔予算委員会〕

● 予算の配分方針と状況

予算委員会は，平成２年12月12日開催の第114回評議会において，評議会の付託に基づき学内予算配分等について審議することを目的として設置された。

委員は，副学長，附属図書館長，学校教育研究センター長，７部（系）選出の教授各１名，連合研究科幹事及び事務局長の計13名で構成されており，審議事項は次のとおりとなっている。

(ア) 学内予算配分・調整等に関すること

(イ) その他予算に関し，学長が必要と認めた事項

委員会は，平成10年度において３回開催された。主な審議内容等は次のとおりである。

(ア) 平成10年度連合研究科歳出予算学内配分方針（案）及び同配分計画（案）を策定した。その結果を平成10年７月８日開催の第201回評議会に提案し，原案どおり承認された。

(イ) 平成11年度歳出予算学内配分方針（案）を策定した。その結果は平成11年度に開催の評議会に提案されることとなる。

(ウ) その他学内予算に関して，種々意見交換を行った。

〔環境委員会〕

● キャンパスの自然環境の保全状況及び学内交通対策・交通手段の確保

建物施設専門部会，緑化保全専門部会，交通安全専門部会の３部会を持ち，緑化対策のみならず，建物施設計画を含む環境整備を総合的に審議することを目的として設置されているが，平成10年度の委員会開催はなかった。

建物施設専門部会，緑化保全専門部会については平成10年度に部会の開催はなかったが，今後，山屋敷団地施設長期計画の見直し及び大学改革に基づいた建物利用，設置構想，緑化保護等について検討を進める必要がある。

交通安全専門部会を平成10年７月に開催し，構内の交通安全対策及び指導方法について審議し，平成10年９月に交通安全専門部会による巡回指導を実施した他，適宜警備員による入構違反車両の排除及び駐車違反車両に輪止めの措置等の対策を講じたことにより，一応の成果を得ることができたが，今後とも自転車置き場の増設も併せて抜本的対策について検討する必要がある。

〔就職指導委員会〕

● 卒業者・修了者の就職・進学状況

① 平成10年７月実施の公立学校教員採用試験の受験状況

学部では卒業予定者の72%弱が受験して，合格率は約14%であった(合格者22人)。これは昨年度より約10ポイント減（41人），一昨年度より約13ポイント減（46人）であり，合格率は，年々減少の一途をたどっている。しかし，極めて厳しい教員採用試験と言われる中で，受験率が大幅に落ちていないことは救いであろう。

大学院では修了予定者の52%強が受験して，合格率は約18%であった(合格者８人)。これは，昨年度の約26%（15人），一昨年度の約33%（16人）に比べ，こちらも合格者数及び合格率ともに減少傾向にある。

教員以外の就職状況も景気の影響を受け，いまだ好転しない現状からより一層の対応が必要と考える。

② 平成10年９月１日現在の進路状況

学部では，204人の卒業者に対して，期限つき採用者を含めて教職50.5%（103人），官庁•企業等19.1%（39人），そして進学6.4%（13人）であった。その他未就職者24%（49人）について言えば，教員を目指して準備している者がその半分以上をしめており，この他研究生等で勉強している者も含まれている。この結果，教員就職者を昨年と比較すると，14.5ポイントの減少ではあるが，採用枠の減少等を考慮すると健闘しており，国

立教員養成大学・学部（49校）の中第二位であった。結果だけでみれば喜ばしい事だが，期限つき採用者を含んでの結果であることを思えば，今後の課題は多い。

大学院では，現職者を除く87人の修了者に対して，期限つき採用者を含めて教職46％（40人），官庁・企業等12.6％（11人），そして進学2.3％（２人）であった。その他未就職者39.1％（34人）には外国人留学生６人の他，研究生や他大学聴講生５人，教員希望者６人などが含まれている。今後教員採用が厳しくなるにつれ大学院への希望者の増加が予想されることから，学部と同様により一層の指導の充実が求められる。

● **就職指導の内容・体制・取組**

① 指導内容

学部約80％，大学院約60％の学生が教員を希望している現状から，教員採用試験に一人でも多く合格させるための方策として，教職講座を中心に多くの時間を教職向けの指導に費やしている。その効果については一概には結論しがたいが，学生の意識を高め学力を増す手助けにはなっているものと思われる。

今後，より有効な指導を実現するために，教員採用試験についての情報収集及び学生の希望を綿密に把握するためのアンケート等の実施を通じて，指導内容のさらなる充実に努めたい。

また，幼稚園教諭の採用に際して保育士資格の取得を求められることが多い現状から，保母資格取得に関連した講座を今年度から実施している。

公務員や企業などを希望するものについては，小人数でもありかつ希望も多様なため，指導は個別的な対応が必要となっている。

なお，進学については，各大学等の資料を基に，各人が指導教官などと相談の上，適宜選択している。

② 指導体制

就職指導委員会と就職指導専門職員等が一丸となって協力して，各種指導プログラムの企画と実施に当たっている。その詳細については，従来から委員を通して各部・講座の教官にも報告され，全学的な協力を得ている。今後は，様々な情報を学生のみならず，全教官にもより積極的に提供すると共に，教官からも学生からも情報の提供を受けるという，全学を挙げての双方向的な取組が不可欠である。

学部でのクラス担当教官制度は，これが有効に機能すれば学生たちの勉学や生活に一定の貢献をなしうるであろう。また，３年次に決まるゼミ教官とクラス担任が協力体制を組むことで，進路指導面でより一層の効果が期待できるであろう。この点で今後に残された課題も多いといえる。

③ 指導の取組

就職指導委員会では，平成10年７月実施の公立学校教員採用試験の受験結果を踏まえて，各部・講座の話し合いを行い，今後取り組まなければならない課題について検討した。

それらを総合すると，これまで実施してきた一連の努力に加えて，就職指導のみならず全学的問題として，学生に関する情報収集及び活用の一元化を図り，彼等の入り口（入学）から出口（卒業・就職）までについて，関係組織が連携しながら促え直す必要性が浮上している。

平成11年度以降は，これについての検討に入りたいと考えている。

〔事務局〕

● **事務組織の機能・運営状況及び事務分掌の見直し，関係規程等の整備状況**

事務局の自己点検・評価については，平成７年９月の大学審議会答申「大学運営の円滑化について」の提言を踏まえ，本学の「管理運営」に係る自己点検評価項目として，「事務組織の機能・運営状況」及び「事務分掌の見直し，関係規程等の整備状況」の２点に関し点検・評価に係る具体的事項を掲げ，平成８年度から３か年に渡り

点検・評価を実施してきた。

平成８年９月の事務連絡会において，上記２点の評価項目について次の点検・評価事項として６つの柱とその実施組織である検討部会の編成が決定され，現状・問題点の把握・整理を行い，改善策の策定を行うこととした。

| | 事　　項 | メ　ン　バ　ー |
|---|---|---|
| 第１部会 | ①事務組織の機能・運営 | ※総務部長，教務部長，各課長，主幹及び各課補佐 |
| 第２部会 | ②事務処理体制の整備<br>③職員の資質向上<br>④職員の健康保持<br>⑤職場環境の整備 | ※庶務課長，会計課長，施設課長及び各補佐 |
| 第３部会 | ⑥学生・利用者へのサービス | ※教務課長，学生課長，図書課長，入学主幹及び各補佐 |

※印は部会長を示す。

各部会においては，上記の６つの柱についてさらに個々に具体的細目（計37）を設定し，それぞれ短期，中期，長期的観点から３か年にわたり点検・評価を実施することとした。第１部会の事項「事務組織の機能・運営」については，事項の性質上，２部会，３部会の点検・評価事項と関連する部分があるため，最終年度に具体的検討を行うことになり，平成10年度における事務局の自己点検・評価として報告するものである。

なお，「事務組織の機能・運営」に関連する２部会，３部会の点検・評価おいては，次のような点に関し報告されている。

- 窓口業務態勢に関し，対内外的に責任ある対応という観点からの「名札」の着用，簡易応対マニュアルの作成，各種申請，届出書類の明確化，簡素化等
- 効率的又は円滑な事務処理に関し，各課所有データの電子情報化にる共有化，文書保存規程の整備等による文書保管の見直し，業務マニュアルの作成，決裁の簡略化
- 職員の資質向上に関し，勉強会的学内研修の実施，留学生の指導等の充実のための英会話能力の向上
- その他，学生指導に当たっての，教務課，学生課の連携を密にした指導体制，インターネットによるガイダンス及び広報の充実

（第１部会）

○事務組織の機能・運営

事務組織の機能・運営状況については，次の５つの細目に関し点検・評価を行うこととし，２部会，３部会の点検・評価及び平成10年10月の大学審議会答申における事務組織に関する提言にある「教学組織との機能分担の明確化及び連携協力の確立，大学運営の複雑化，専門化に対応した人材養成及び適正な職員の配置，業務の効率性，柔軟性の向上等の事務の合理化」等についてを踏まえた点検・評価を行っている。

- 最適な事務局組織の体制
- 事務局各課の本来の役割と事務分掌の適合
- 事務局各課の所掌事務量と構成規模・定員
- 適切な人事配置
- 広報の充実

ア）最適な事務局組織の体制

・現　状

事務局組織は，本学創設以来一元化が図られており，事務局長の下に総務部，教務部の２部を組織し，各部に部長を置き各々が各課を総括している。総務部には，庶務課，会計課，施設課を置き，主に大学の管理・運営に関する業務を所掌する。教務部には，教務課，学生課，図書課，入学主幹を置き，教育研究学生の厚生補導，入学試験等の教学面の業務を所掌する。

また，附属小・中・幼稚園及び教官の研究棟には，それぞれ庶務課所属の職員を置き各々の事務を処理している。

事務局長以下組織の一元化により，指揮命令系統が一本化されていることで縦の組織系としてはスムーズな業務の運営が図られている。

総務部と教務部あるいは各部の各課との連携，横の組織系では，補佐以上で構成される月１回の事務連絡会において，各課の主要な業務について周知するとともに検討を行っている。その他，必要に応じて，各課を代表する係長で構成する連絡係長会議を設け，共通課題の協議や業務の連携協力の調整を図っている。

また，学内の各種課題を審議検討する各種委員会には，各課題を所掌する部課が事務局として担当し，必要に応じて他課を出席させる体制をとる。

以上，事務局組織は概ね体制的な整備はできている。

・問題点・改善策

現在，新たに生じている課題に対する対応又は効率的な機能という面で十分でないところがある。例えば，事務情報化に係る組織体制の整備，定員削減の関係から個々へのサービスから全体に対する合理的サービスを提供できる体制への移行，教学事務の観点から教務課と学生課を統合した「学生センター」のような組織転換等による指導体制の充実，入試業務の多様化・複雑化に対応した組織の充実が課題として挙げられる。また，総務部と教務部との間，各課の間での細かな連絡調整において不十分な点が見受けられる。今後は事務のネットワーク化の推進などにより各部課の持つ情報周知体制の充実を図っていく必要がある。

※事務情報化推進委員会を設置

イ）事務局各課の役割と事務分掌の適合（事務量と構成規模等を含む）

○総務部

（庶務課）

【現　状】

庶務課においては，学内全体の連絡調整，全体に係る事業，会議の等の運営事務，職員の任免，服務，給与等の人事関係事務，職員の研修及び健康管理等の福利厚生事務，学内諸規程の整備，学内改革及び自己評価のとりまとめ等に係る事務，その他，附属学校園に関する事務を所掌する。これらの所掌事務に関し，総務係，人事係，職員係，企画・法規係，附属学校係を配置している。

また，教官に関連する事務処理の効率化を図るため，研究棟に棟事務室を設け総務係職員を配置している。

各係の事務量については，当然，年度や時期によって差が生じるが，これまでの実績を踏まえた職員の配置を行っている。

【問題点・改善策】

大学審議会答申を踏まえた大学改革関連事務，情報公開法の施行に伴う対外的事務，人事交流の推進，職員研修の充実，また，附属学校と大学の連携強化，附属学校相互間の連携体制の充実等に係る事務量の増大が予想されるが，事務職員の定員増が困難な現状においては，個々の職員の資質向上による専門性の確保と併せて事務の効率化を図る必要がある。

よって，現在，事務情報化によるペーパーレス化の推進や決裁の簡素化を図る方向を検討している。その他職員の資質能力向上のための英会話研修等を継続し充実させることも必要であるし，個々の事務についての業

務マニュアルを策定することも業務効率性の確保のための一つの方法である。

また，業務の効率化とともに，今後の定員削減を見越して，各部署の事務量に応じたフレキシブルな定員配置を図っていく。具体的には，人事係と職員係の所掌事務の見直しを行い定員を削減する。将来的には棟事務室体制の見直しによる定員削減についても検討している。

なお，事務分掌，事務量，定員規模等に関して次のような意見が出されている。

●非常勤講師（実地指導講師），外国人教師の関連で教務課との事務分掌の見直し

●出張関係業務（勤務時間に係るもの以外）について会計課との所掌の見直し

●安全管理に関する職指定の範囲の見直し

●大学改革に関連し事務量の増加に伴う専門員等の配置の必要性

●連合大学院事務に関する所掌の見直し

●棟事務室の業務内容の見直し

（会計課）

【現　状】

会計課においては，会計事務に関する学内の連絡調整，概算要求をはじめとする各種予算要求及び学内配分，国有財産の維持・管理，物品の調達契約及び物品管理，給与等の支払い，授業料及び寄宿料等の徴収，事務用電算機運用，共済組合に関する事務等を所掌しており，これに対する係の構成は，総務係，司計係，管財係，用度係，給与係，出納係及び情報処理係７係体制をとっている。

平成４年度に新汎用システムによる事務の電算処理の効率化・合理化を図るため係の編成の見直しを行い情報処理係を設置した。また，平成９年度には，パソコンの普及に伴う事務処理の効率化や職員の資質向上を図るため，従来の学内事務電算研修に変えてパソコン研修を実施，さらに，平成10年度は，個人レベルに応じたコース分けによるパソコン研修を実施したほか，事務局 LAN の整備を行うなど，今後の事務処理の高度情報化に対応するための組織や設備の整備を行ってきたところである。

【問題点，改善策】

近年，社会の急激な変化や経済状況の停滞等により，概算要求においては，大学審議会答申に対応した既存組織の見直し廃止・転換が強く求められ，契約事務においては政府調達契約，総合評価落札方式等の採用により文部省等他機関とのインターネットによる迅速な事務処理が求められるなど，会計事務においてもその複雑化，迅速化が急速に進展してきている。

このような状況に対応するため，会計課における組織，業務内容，定員について不断の見直しを行い，個々の事務処理能力の向上に努めるとともにこれらを専門的に処理する担当官の配置を検討する必要がある。

また，新たな定員増が見込めない現状においては，既存の定員枠内において事務内容の見直し，事務情報化を推進することにより量的負担の軽減を図る一方，係の枠にとらわれない柔軟かつ弾力的に対応できるフレキシブルな組織体制と人員の養成を行っていく必要がある。さらに会計制度（関係法令）の見直し・合理化について検討し，関係方面へ積極的に働きかけるよう努めていく必要がある。

（施設課）

【現　状】

施設課の本来の役割は施設整備等に関することであり，事務分掌の適合に関しては特に問題はない。また，業務量については，施設整備がほぼ完了した本学にあっては以前に比較して減少している。

【問題点・改善策】

構成規模・定員に関し，企画係を除いては専門性を有する技術系職員であるため，別に考慮する必要がある。また，技術系事務を除いては，事務の合理化，効率化及び減量化を進め，その上で構成規模・定員の検討を行う必要がある。

○教務部

（教務課）

【現状・問題点】

●研究協力係が教務課所属であるが，所掌業務内容は庶務課と連携するものが多い。

・所掌するセンター所属教官の出張関係事務

・在外研究員等での教官の身分関係事項

・公開講座，文化講演会等の地域と関係する事項

・今後，一層拡充が求められる大学開放（生涯学習，施設開放，大学開放子どもプラン等）での学内外の調整業務

●科目等履修生及び研究生の入学選抜に関することは，事務分掌の上では入学試験係の所掌となっているが，教務課で扱っている。

●大学全体に係る業務を，特定した観点から教務課で担当しているケースがある。例えば

・海外の交流協定締結校の学長等来学時の対応業務

・都道府県教育委員会との懇談会および訪問に関する業務

・スペース・コラボレーション・システムの管理

【改善策】

本学の運営が学内外とも円滑にいくよう，事務組織規程等関係法規を見直す（この結果によっては，定員の再配置）とともに，規定上明確に示されていない業務の担当については関係する部課間で十分検討する。

（学生課）

【現　状】

学生課の事務分掌については，多少問題があっても現状では特に不適合はない。

【問題点・改善策】

窓口業務を始め学生相手のマニュアルがほとんどない現業用務が大切な業務であるため，単に机上の業務量だけに焦点を当てた職員の構成，配置は適切ではない。よって，人でなければやれない業務を見極めた上での定員配置が必要である。

（図書課）

【現　状】

図書課においては，図書館資料の選択及び資料収集，契約事務，受入・登録・除籍，目録・所蔵情報の構築，閲覧・貸出・返却，配架・保存，文献複写，学術情報センター等とのネットワークの形成，図書館及び図書館資料の相互利用等に関するか教育研究支援の充実を図っているが，さらに図書館機能の高度化，サービ事務を所掌する。これらの所掌事務に関し管理係，目録情報係，情報サービス係を配置している。

【問題点】

教育研究支援の充実を図っているが，さらに図書館機能の高度化，サービス機能の強化が必要である。また，新たな課題として，電子図書館的機能の充実，情報リテラシー教育への支援，レファレンスの専門化等がある。

このため，事務の改善，自動化を図っていかなければならない。

（入学主幹）

【現　状】

入学主幹の事務組織は，主幹のもとに入学試験係（３人）の体制で，学部及び大学院の入学者選抜並びに大学入試センター試験等の業務を所掌している。

事務分掌の中の科目等履修生及び研究生の入試事務について，現状では教務課で行っている。その他，分掌上規定されていないが，入試広報の関係から大学説明会の関催，大学（院）案内の発行を行っている。

業務量に関しては，入学者選抜，大学入試センター試験の前後にピークになるか，試験実施に当たっては全学的協力体制で実施している。

【問題点・改善策】

入試業務については従来にも増して増大かつ複雑化しているとともに，その方法等について改善していく必要がある。このため，事務処理の円滑化を図るため入試担当部門の充実（入試課の設置）を引き続き要求していく必要がある。

ウ）適切な人事配置

・現　状

事務組織の人事配置については，「事務系職員の人事異動方針」に基づき，個々の職員の能力•適性，経験に応じた適切な配置を行うとともに，人事の硬直化を避け円滑化を図るため，妙高少年自然の家及び新潟県下の国立大学等との人事交流を積極的に推進している。

人事配置に当たっては，各課からの人事に関する事情聴取を踏まえながら，個々の職員の希望も考慮し，同一職に長期に在職することなく職員が幅広い業務を経験できるよう適正な配置を図っている。

・問題点・改善策

事務職員の年齢層が高まるにつれて，能力と経験に応じた相応のポストを確保する必要があるため，所掌事務の見直しを行いながら必要な要求をおこなっていく。また，人事配置において，職員の専門性という観点からのプロパーの必要性が言われるが，流動的人事を阻害している面がある。このことと関連し多面的専門性を備えた職員の養成を図る必要がある。

今後の定員削減に対応するため，各課の事務の合理化，効率化を図りながら各課定員の全体的見直しを行い，適正な定員の再配分を進める必要があるが，その際，特に学生サービスの低下をまねくことが無いよう配慮することが重要である。また，大学全体の動きに配慮したフレキシブルな配置も必要となる。

エ）　広報の充実

・現　状

本学の広報体制は，10年度に情報•広報委員会を組織し，学内情報の処理についての基本的方針を定め，また，広報の窓口として庶務課内に広報室を設け学内外情報に対応している。また，これまでの情報の発信は主に印刷物によるものであったが，11年度からは本学公式のホームページを開設し，情報提供の充実を図ることとしている。

・問題点・改善策

広報窓口は広報室の設置により組織的には一本化したが，各課の所有する情報は多様であるため，全てを集中管理する事は不可能である。このため，広報室では，各課が広報した重要なものについて，その事項，内容を把

握し，各課においては，必要に応じ関連組織へ情報提供するなどの迅速な対応が必要である。

また，各課においては情報化による広報の充実に対応するための要員の養成に努めることも必要である。

なお，関連で，情報公開法が施行されることにより，各課は情報の整理，管理を十分に行うとともに，公開の基準等を明確にすることが課題となる。

### ⑵ その他の自己点検・評価

**〔学長と各種委員会委員長・副委員長との懇談会〕**

学長と各種委員会委員長・副委員長との懇談会が，平成11年３月11日に開催され，各種委員会の運営に関し，懇談が行われた。

各種委員会委員長・副委員長から，当該委員会の運営，問題点，課題等について，次のとおり報告があった。

**〔教務委員会〕**

○ 人事凍結により，平成11年度非常勤講師配分時間数から非常勤講師４人分を手当しなければならなくなり，数回の審議を要した。

○ シラバスの学外への公表の是非について，一部反対意見があったが委員会として公表については了承された。

○ 平成10年度の自己点検・評価の８項目については，各委員が分担し自己点検・評価を実施した。

**〔教育実習委員会〕**

○ 平成10年度から新たに介護等体験が実施され，204名中160名が希望し順調に進んでいる。なお，残りの44名については，平成11年度の実施となる。

○ 特殊教育学校から負担が大きいという要望があり，平成11年度から柏崎市の２校を新たに協力校とした。なお，その２校まで１時間程度かかるため，実習生の送り迎えの手段について検討する必要がある。

○ 校長会との懇談会において，小学校実習及び中学校実習に係るアンケート結果の説明があり，よいこと悪いことが半々であった。その中で，たばこのマナーが悪いという指摘があったことが気になった。

○ 協力校から，指導教官や担当関係教官に実習を見に来てほしいという要望があった。

**〔学生委員会〕**

○ 例年，５件の厚生補導事業を計画し実施しているが，今年度変更した点は，従来６月に実施していた新入生合宿研修を４月に移行し，オリエンテーションの一環として位置付け，研修内容に電子シラバスの検索方法を含む教育課程と履修方法等を加えた。

また，飲酒については法律に基づき禁止とした。その効果として，10月に実施した教員養成課程合宿研修及び３月に実施した課外活動リーダーズ・トレーニング研修においては，マナーがよかった。

○ 学生指導の連続性を保持するために，平成11年度から本委員会の委員を半数改選とした。

○ ２年に１回実施している学生生活実態調査を，本年度は大学院学生を対象に11月に実施し，現在とりまとめており，４月に報告書を作成する予定である。

○ 最近，学生の態度・マナーが悪いので，学生宿舎生活を含め学生生活について，検討する時期にきている。

**〔入学試験委員会〕**

○ 今年度，受験者が増加した。

○ 前期日程試験の実技試験科目中，体育の受験者が全体の３分の２を占めた。従来からこの傾向はあったが，今

年度は特に顕著であった。

○　推薦入試の在り方，前期日程試験の実技試験の在り方及び従来から言われている後期日程合格者の不本意入学等について，学部改革と連動して検討する必要がある。

〔大学院入学者選抜委員会〕

○　本年度は，試験日を１日短縮して実施した。これは，受験者にとって負担軽減になったのではないかと思われる。

○　今回の入学予定者は244人で，入学手続時点で19人が辞退したが，例年の40～50人の辞退者数に比べ一番少なかった。入学予定者244人中，現職教員が152人で学部卒業者が92人であった。委員会では，現職教員数の増加策及び他大学へのPR活動の活発化について検討した。その中で，一部のコースでは独自にパンフレットを作成しPR活動を実施しているが，そのパンフレット作成に係る予算を配慮してほしい旨の要望があった。

〔学位論文審査委員会〕

○　本委員会は，順調に運営がなされたと思われる。なお，学位論文が「否」なった者の取扱いについては，明日開催の委員会において審議する予定である。

〔教育課程検討委員会〕

○　学校図書館司書教諭の資格取得に係る授業科目の開設について了承された。

○　各講座にまたがった授業科目については，本委員会から出すことができないので，改革していく中でこのような科目をどのように確保していくか改革推進特別委員会で検討していく必要がある。

〔職員レクリエーション委員会〕

○　特に問題等となることはなかった。

〔実験廃棄物等管理委員会〕

○　特に問題等となることはなかった。

〔公開講座委員会〕

○　文化講演会は３回実施したが，集客及び講師への手当をどうするかという問題もあり，平成11年度については，２回とすることで計画が進んでいる。

○　公開講座については，今年度15講座を開講し，平成11年度についても15講座開講を計画している。
地域との連携をどのようにすすめていくか，中でも生涯学習の観点で行政との連携が重要である。上越市との連携は，スムーズにいっているが，新潟県との連携が薄い状況にあり，新潟県からも要望がだされている。この点が平成11年度の検討課題となる。

〔研究紀要委員会〕

○　本委員会で２年間取り組んだことは，いかに経費を削減するかということであった。研究紀要は，年２回発行で，その予算は500万円である。自己負担が多く，１回の投稿に３万円を超える時があった。経費削減方策として，一つは原稿の提出方法をフロッピーディスクによる原稿提出としたこと，二つめは発行部数を700部から650部に変更し，希望者への配布とした。また，これらに関係し，投稿要項の見直しも行った。

〔国際交流委員会〕

○　今年度，例年にない行事として，20周年に関連し市民との交流を中心に留学生の発案・主導型による４つの行事を企画した。留学生は，これらの行事をやる前と後では全く変わった。教育的効果があったと思われる。

○　前年度の本委員会で，留学生支援のための小委員会が設置され，支援策を検討されたようだが，本年度は，部会を設置したが一度も開催しなかった。これは，事務職員が１名減ったため，事務量が増大したための要因ではないかと思われる。

〔学生宿舎委員会〕

○　ここ数年，入居者の男女比が問題となっている。男子学生で収入が少ないのに入居できない。一方，女子学生は収入が多いのに入居できるといったアンバランスが生じている。

○　大学院の現職教員を優先的に入居させているが，学部学生と大学院学生が同じ入居基準で計算すると，学部学生に比べ現職教員の方が収入が多い。その場合，学部学生や学卒の院生入居が優先され，現職教員が入居できなくなり，学外的にPRしてきたことに対し矛盾が生じてしまうので，今後，学部と大学院の入居に関する基準等の見直しが必要である。

○　学部学生の宿舎での生活マナーが悪い。

〔国際学生宿舎委員会〕

○　留学生の増加がないため，現在はほぼ入居できているが，今後，増加した場合は混住の比率等の見直しが必要である。

〔大学会館運営委員会〕

○　事務局の努力で，色々改善・工夫等をしているが，苦情がでるのは仕方ない。

○　あまり利用しないで，苦情を言われても対処できない。

〔附属図書館運営委員会〕

○　自動入退館システム及び自動貸し出し装置が稼動した。

○　マルチメディアコーナーを設置した。

○　前期期末試験期間中及び普通教育実習期間中の休日に特別に開館した。なお，来年度についても考慮したい。

○　第３次図書整備計画が平成12年度で終了し，平成13年度からは予算配分がなくなるので，今後の予算措置について検討願いたい。

〔学校教育研究センター運営委員会〕

○　学校教育研究センターの人事については，学校教育研究センター運営委員会の教授の委員及び学校教育研究系の教授で構成する組織で検討しているが，本委員会の委員のうち，各部から選出される委員は教授とは限らず，年度によっては教授数が変動するので，規程の見直しが必要であると考えられる。

〔保健管理センター運営委員会〕

○　臨床心理士の資格をもったカウンセラー１名を学内措置できないか。

〔附属実技教育研究指導センター運営委員会〕

○　20周年記念事業に４分野全部が参加した。

○　センターセミナーを２回実施した。

○　教員採用試験に役立つようオルガン等の利用拡充を図った。

〔予算委員会〕

○　実質的な審議を評議会から本委員会に付託してもらった。

○　留学生経費の改善を図った。

○　連合大学院共通経費の増額について検討中である。

〔就職指導委員会〕

○　就職活動の充実策として，教職講座Ｉの中で保母資格についての講座を設けた。

○　都道府県教育委員会訪問を実施し現実の動き・情報を把握・収集し，学生に最新情報を提供できるようにした。

○　平成９年度の教員就職率が第１位，平成10年度が第２位であったが，今後もより指導を充実させトップの座をとりもどせるよう努力したい。

〔生涯学習実践研究センター設立準備委員会〕

○　趣旨を改革構想の中にどういかしていくか。

〔改革推進特別委員会〕

○　各システム部会の報告書を３月20日㈯までにとりまとめていただき，３月29日㈪開催予定の本委員会で確認していただく予定である。

〔セクシャル・ハラスメント対策ガイドライン等制定委員会〕

○　本委員会は，平成10年２月に発足し，平成10年11月に解散した。

○　本委員会では，ガイドラインを策定し，学生には新入生オリエンテーションにおいて周知する。なお，教官等については，実体にあった組織を作っていただき啓蒙活動を促進していただきたい。

〔自己評価等委員会〕

○　本学としては前進したが，客観的にみるとまだ不十分かもしれない。

○　内部評価だけでなく外部評価も必要となってくる。

〔情報・広報委員会〕

○　大学の公式ホームページを作成し，学外発信ができるよう整備した。

〔スペース・コラボレーション・システム事業実施委員会〕

○　利用率が全国第２位にランクされたが，今後もより一層の利用拡大のための方策等について検討しなければならない。

〔創立20周年記念行事準備委員会〕

○　各委員会等も参加していただき，盛大なものとなった。

# 第三章　附 属 施 設 等

# 第三章　附 属 施 設 等

## 1　附属図書館

附属図書館は，「研究及び教育の活動に資するため，図書，雑誌，その他の資料を一元的に収集し，整理し，及び保存して上越教育大学の職員及び学生の利用に供することを目的とする。」として設置された。開学以来，図書館資料の整備については，文部省配当の新設設備費（図書費）をベースに長期年次計画により収集に務めてきた。この計画も今年度，第３次図書整備計画の６年次目となり平成12年度には終了の予定になっている。教育系大学図書館の蔵書構成としてはまだ十分とはいえないが，平成10年度末の蔵書数は，図書24万１千冊，雑誌2,248種になり順調に延びている。引き続き図書館資料の整備を行うための，学内措置による恒常的な財源の確保が急務の課題となっている。

本学の創設の趣旨・目的にある「初等中等教育教員に研究・研鑽の機会を提供することを趣旨とする大学院修士課程と，初等教育教員を養成する学部」を持ち，さらに，平成８年度から博士課程（大学院連合学校教育学研究科）が新設され，学生を受け入れたことにより学習図書館機能と研究図書館機能の充実が求められている。

また，近年の大学図書館を取りまく環境は，従来の紙による資料だけでなく電子ジャーナルを始め，CD-ROM 等の電子媒体による学術資料が急増し，利用者への提供も多様化している。新しい情報サービス機能の一端を担うために，将来構想を意識した運営計画の策定が必要となっている。

### (1)　運営委員会

運営委員会は，「附属図書館の運営に関する重要事項を審議するため」に設置されている。委員会は，各部の教授，助教授で構成されており，平成10年度は３回開催し，図書整備計画，図書館サービスの拡大，予算・決算，図書館運営に関する自己点検・評価について審議を行った。

また，運営委員会の下に「選書部会」と「図書館将来検討部会」の２つの専門部会を置き具体的検討を行った。

①　選書部会

平成10年度は，「上越教育大学附属図書館運営委員会選書部会の設置及び選書要項」に基づき一般の学習•教育上必要な図書館資料の選書を行った。また，蔵書構成で不足している分野については，館長裁定で「図書館資料選択基準」，「分野別選択基準」に基づき補充を行った。

②　図書館将来計画検討部会

本部会は，平成10年度に新たに設けられたもので，平成９年度附属図書館の自己点検・評価において「新築以来16年経過した附属図書館について，将来構想に基づく増築案を早急に立てること」及び「平成12年度をもって文部省から予算配分されている図書購入費が終了するため，学内措置による図書整備計画を立てること」の２項目について指摘を受け，検討を開始したものである。学内では，「改革構想特別委員会」が設置され国立大学における教員養成課程の学生定員削減に端を発した大学改革が構想されている。附属図書館においても動向を注視しながら図書館の将来構想にも反映させることを目的として，２年の期間をかけて検討することになった。

平成10年度は，３回にわたり増築について検討を行った。その結果，①電子図書館的機能に対応した学術情報提供の基盤整備が重要な課題となってきていること，②蔵書の増加に伴う狭隘化が進み収容スペースの確保が急務となっていること，③今後実施される定員削減に対応して図書館の自動化運営等の環境整備を行い職員の業務量の軽減を図ること，④上越地域の学術情報提供の拠点として，生涯学習推進に積極的に寄与することが求められており，開かれた利用しやすい大学図書館にすること，等の問題提起があった。一方，利用者から

の要望も取り入れることにし，本学の教職員，学生を対象にアンケート調査を行い以下のように取りまとめた。

『基本的考え方』

(ア) 学習図書館機能及び研究図書館機能の充実

(イ) 資料収容スペース等の確保

(ウ) 学術文献・文献検索提供の機能充実

(エ) セルフサービス化に向けた図書館環境の整備

(オ) 地域住民利用のための環境整備

『具体的に必要な施設内容』

○優先して必要なもの

(ア) 50万冊収容規模の書架

(イ) マルチメディア・コーナーの拡大

(ウ) 雑誌コーナーの拡大

(エ) 文献複写コーナーの拡大

(オ) 視聴覚コーナーの拡大

(カ) 参考調査コーナーの拡大

(キ) ゼミ室，グループ学習室

(ク) マイクロリーダー室

(ケ) 研究個室

○必要なもの

(ア) 郷土資料コーナー

(イ) 特殊資料コーナー

(ウ) 地域情報コーナー

(エ) 多目的ホール 等

### (2) 自己点検・評価結果

運営委員会では，附属図書館の管理運営及び利用者サービスの改善について，平成10年度は以下の項目について実現を図った。

① 管理運営

ア 期末試験及び普通教育実習期間中の日曜日・祝日開館の試行

9月6日(日)から10月4日(日)までの期間を対象に日曜日及び祝日開館を試行的に実施し必要性を調査した。調査結果を基に附属図書館運営委員会で審議した結果，期末試験及び普通教育実習期間中の日曜日・祝日開館が必要であるとの結論に達し，平成11年度からは本実施することになった。

イ 附属図書館電子計算機システムの更新

次期システムの更新（平成12年2月）に向けて仕様書策定委員会を設置し，仕様書策定作業を行った。

仕様では，Windows NT サーバー（クライアントサーバー方式）による最新の図書館システムを導入し，業務の迅速化，省力化及びマルチメディアも含む多様な情報提供により利用者サービスの向上を図ることとしている。

ウ 大型コレクション

文部省に要求していた「ペスタロッチコレクション（148タイトル，全227冊）が採択され，整備することができた。

エ　CD-ROM サーバーシステムの更新

図書館利用者からの多種多様なネットワークでのサービス要求に応えるため，大幅な機能強化を図った。具体的には，大容量 CD-ROM データをハードディスクに蓄積することで，Web 閲覧ソフトからの検索が高速かつ簡易に行えるようになった。

また，より高度な情報としての画像等のマルチデータも提供が可能になった。

オ　図書課職員の W.G.活動

既存の選書，電子図書館，修士論文，広報 W.G.のほかに，新たに増築 W.G.を設置し，全職員がいずれかに所属しそれぞれ活動した。

② 利用者サービス

ア　自動入退館システムの導入

平成 9 年度末に導入し，平成10年度から本稼働したこのシステムは，入退館ゲートと制御用パソコンから構成され，入館者に関する情報の蓄積及び図書館資料の不正持ち出しをチェックできる。また，蓄積した情報は各種統計の基礎資料として利用者サービスの向上に活用することができる。

イ　自動貸出・返却装置の導入

資料の貸出・返却手続きの簡素化と迅速化を図るため，平成 9 年度末に導入し，平成10年度から本稼働した。この装置により貸出については，利用者のセルフサービスとすることで業務の省力化にも貢献している。

ウ　マルチメディア・コーナーの設置

ネットワークを介したマルチメディア機能を利用した電子図書館システムの構築が急務であったため，デスクトップ型パソコン10台，ノート型パソコン 9 台，レーザプリンター 1 台による構成でコーナーを設置した。マルチメディアコーナー専用のホームページから本学の蔵書検索をはじめ，電子資料として，ERIC(教育学関係文献), PsycLIT(心理学文献), Education: The Complete Encyclopedia 等の提供が可能になった。

エ　附属図書館ホームページのリニューアル

平成 8 年度開設し，情報発信，広報活動の活動に努めてきたが，さらに改善しサービスの向上を図った。主な改善点は，①ホームページの階層構造を簡略化し使いやすくしたこと，②最新情報の更新頻度を高め，より速報性を高めたこと，③電子シラバス，研究紀要目次速報の検索等のリンクの充実を図ったことであった。

③ その他

学外者の附属図書館の利用については，時間外開館中も含めて，平成10年度において，620人の一般市民，本学の修了生•卒業生及び他大学の学生等が利用しているところであるが，創立20周年記念行事「大学施設公開•展示」の一環として，平成10年10月 3 日(土)，4 日(日)の 2 日間附属図書館を一般公開し，市民の来館者が60人あった。

また，創立20周年記念誌編集委員会小委員会作成部会の事務局を担当し，2 カ年にわたり編集作業に加わり平成10年 9 月に刊行することができた。

### (3) 今後の課題として

① 図書館資料の増強

現在，図書館資料費の大半は文部省からの新設設備費（図書費）によるが，平成12年度にはこの資料費も終了する。今後も継続的に図書館資料を整備するための財源の確保を学内共通経費に依存することから，教官研究費に与える影響も大きく全学の合意を得る必要がある。

② 電子図書館機能の整備・充実

学内・外の端末からインターネットを介して附属図書館のホームページから本学図書館の蔵書検索，利用案内，電子シラバス，学術情報センター及び他大学図書館の所蔵検索が可能になっている。

また，CD-ROMによるERIC，PsycLIT等を中心にネットワークで学内に提供している。しかし，マルチメディアを意識した，高速通信が可能なATM-LANによる画像・音声を統合した多様な情報提供が課題となっている。特に，近年電子ジャーナルの出版も本格化され，他の国立大学でも導入が多くなっている。

今後も，リニューアルを行い，より利用しやすいホームページを作成する。また，教育系大学として，利用の多いCD-ROMの充実を図る。さらに，電子ジャーナルの導入においても課内設置の電子図書館ワーキンググループで検討に入っている。

これらの「マルチメディア図書館システム」構築の実現に向けて学内及び文部省に対して関係予算の要求を行っていく必要がある。

③　視聴覚コーナーの充実

利用者環境整備として現在，仮設の視聴覚コーナーに3台のブースで運用しているが，既に6年が経過しており，機器の消耗や利用者が増加していること。また，アンケート調査においても視聴覚機器類の充実が多く求められていることから，新たなコーナーの設置と充実を早急に図る必要がある。

## 2　学校教育研究センター

### (1)　運営委員会

①　設置の趣旨（目的）

学校教育研究センターの運営に関する基本方針を審議する。

②　組織

学校教育研究センター長，教育実習委員会委員長，学校教育学部附属学校・園長，各部から選出された教官の計12人

③　開催状況・主な審議内容

平成10年度は2回開催し，次の事項について審議した。

第1回　平成10年度研究計画・事業計画，運営経費予算

第2回　平成10年度における自己点検・評価，平成11年度研究計画・事業計画，平成10年度研究報告・事業報告

④　活動の概要（詳しくは，学校教育研究センター年報第14号に掲載）

ア　研究関係

(ア)　各分野の研究プロジェクト

〈教育資料・交流分野〉

・マルチメディア教材データベースの開発とその利用に関する研究

・授業記録情報電子ファイリングシステムの活用に関する研究

・教師による学校カウンセリングに関する研究

〈教育工学分野〉

・情報教育に関する実証的研究

・コミュニケーションの評価に関する研究

・インターネットの教育利用研究

〈実地教育分野〉

・国語科の指導内容に関する研究

・新しい学力観に根ざす授業開発の研究

(イ) 公募研究プロジェクト

・英語教育における方略に関する基礎的研究

・生活科教育に関する実践的研究

・英文読解を支える構成要素に関する研究

(ウ) 他大学との共同研究プロジェクト

〈国立大学教育実践研究関連センター協議会共同研究プロジェクト〉

・衛星通信（SCS）を用いた授業改善に関する研究

(エ) 文部省科学研究費補助金による研究プロジェクト

・情報活用過程における状況認知と処理方略に関する実証的研究

・SCS と ISDN を組み合わせた多地点遠隔共同学習の開発とその有効性の検討

・逐語記録にもとづく質的な授業分析への量的手法の統合に関する研究

(オ) 学内教育改善推進費による研究プロジェクト

・SCS とテレビ会議システムを用いた学校図書館司書教諭対象遠隔共同研修システムと研修プログラムの開発と試行

・グループ討論におけるコミュニケーション能力の分析と指導法に関する研究

・附属小学校・中学校におけるネットワークを利用した情報教育カリキュラムと情報教育を専門とする教員の育成プログラムの開発

・実践的人間理解科目としての「体験学習」カリキュラム開発研究

イ 事業関係

(ア) 公募研究の推進

a 「英語教育における方略に関する基礎的研究」

研究代表者 言語系教育講座助教授 北條 礼子

b 「生活科教育に関する実践的研究」

研究代表者 幼児教育講座教授 南舘 忠智

c 「英文読解を支える構成要素に関する研究」

研究代表者 言語系教育講座教授 平野 絹枝

(イ) 学部・大学院教育改善のための事業の推進

a 授業ビデオテープライブラリーの整備充実

b 授業記録電子ファイリングシステムの利用の推進

c 学部・大学院生に対する施設・設備・機器利用の指導

d 教員養成実地指導講義「教育機器の利用法」の実施

(ウ) 附属小・中学校との連携による情報教育の推進・支援

(エ) 公開講演会等の実施

a 公開講演会

期 日 平成11年2月13日(土)

演 題 「学校における環境教育の実践－ネットワークを利用した共同学習の観点から－」

講 師 お茶の水女子大学附属中学校教諭 佐藤 道幸

受講者 27人

b 客員研究員講演会

(a) 期　日　平成10年６月20日(土)

演　題　「教育実践研究の事例とその特徴」

講　師　赤堀　侃司　（東京工業大学教育工学開発センター教授）

受講者　12人

(b) 期　日　平成10年７月18日(土)

演　題　「情報通信ネットワークを用いた学習環境」

講　師　村瀬　康一郎　（岐阜大学教育学部附属カリキュラム開発センター助教授）

受講者　８人

(c) 期　日　平成10年９月11日(金)

演　題　「授業設計と学習方略」

講　師　赤堀　侃司　（東京工業大学教育工学開発センター教授）

受講者　86人（内 SCS 受信局で70人）

(d) 期　日　平成11年２月６日(土)

演　題　「テレビ会議システムを用いた教育・学習環境の構築－多様な交流学習の実現を目指して－」

講　師　村瀬　康一郎　（岐阜大学教育学部附属カリキュラム開発センター助教授）

受講者　12人

(e) 期　日　平成11年２月20日(土)

演　題　「言語技術教育批判について」

講　師　鶴田　清司　（都留文科大学文学部教授）

受講者　10人

c　衛星通信を活用した研修講座

(a)　「ボランティア活動推進セミナー」を受講して

期　日　平成10年７月28日(火)

メイン配信会場　国立教育会館学校教育研修所

受講者　５人

(b)　「いじめ問題等対策研修講座」を受講して

期　日　平成10年７月30日(木)

メイン配信会場　国立教育会館学校教育研修所

受講者　16人

b　ビデオ教材制作技術講習会

期　日　平成11年３月18日(木)

内　容　「ビデオ教材制作の理論と電子編集の方法」

講　師　ビデオ東京代表取締役　横田　栄治

受講者　20人

(オ)　施設・設備の利用サービス

a　保管する機器，教材，資料の貸出，閲覧

b　施設・設備の利用

・ビデオ機器関係・・・・編集，コピー，教材制作，メディア変換等

・コンピュータ関係・・・データ処理等

c　公開講座，各種研究会，委員会及び会議等への施設・設備の利用

d　CS放送（放送大学）の視聴

(カ)　教育・研究関係資料の収集・整備充実

a　当センター発行の研究物との資料交換の推進

b　授業研究及び教育情報処理関係図書・雑誌等の整備

(キ)　刊行物の発行

a　センターニュースNo.51・52

b　学校教育研究センター年報第14号（平成10年度版）

c　'98要覧

d　平成10年度客員研究員研究報告

e　教育実践研究第9集

f　インターネットによる情報の公開（http://www.educ.juen.ac.jp/）

## (2)　自己点検・評価結果

①　学校教育研究センターの教育研究・管理運営の状況

ア　センター全体の運営の状況

(ア)　組織

教授1人，助教授3人，講師2人，助手1人の7人

(イ)　来館者数

8,268人（内訳　本学教官57，附属学校教官22，大学院学生1,117，学部学生6,461，現職教員265，その他346）

(ウ)　機器利用状況

総件数2,357件（内訳　パソコン2,086，ビデオカメラ40，VTR101，OHP64　他）

(エ)　機器貸し出し状況

総件数44件（パソコン，マイクロフォン，ビデオカメラ，三脚　他）

(オ)　お茶の水女子大学附属中学校の佐藤道幸氏を講師にむかえ，「学校における環境教育の実践－ネットワークを利用した共同学習の観点から－」と題する公開講演会を実施した。

イ　教育資料・交流分野

(ア)　教育

学部「体験学習A」，「基礎情報処理」，「教育実地研究II」，「情報教育演習」，大学院教育方法講座の専門教育科目「教育工学演習」，大学院生徒指導講座の専門教育科目である「心理療法特論」，連合大学院博士課程における専門科目「教育工学教育情報学特別研究」を担当した。

(イ)　研究

研究プロジェクトとして，「マルチメディア教材データベースの開発とその利用に関する研究」，「授業記録情報電子ファイリングシステムの活用に関する研究」，「教師による学校カウンセリングに関する研究」を進めた。また，公募研究として，「英文読解を支える構成要素に関する研究」を支援している。

また，国立大学教育実践研究関連センター協議会共同研究プロジェクトである，「衛星通信（SCS）を用いた授業改善に関する研究」を，研究開発担当幹事である村瀬康一郎氏（学校教育研究センター客員研究員，岐阜大学）と南部助教授が中心となって行った。さらに，学内教育改善経費の研究プロジェクトとして，「SCSとテレビ会議システムを用いた学校図書館司書教諭対象遠隔共同研修システムと研修プログラムの開発と試行」を行った。

(ウ) 事業

「教育相談室」において，周辺地域の児童・生徒，その保護者及び教員に対して，教育相談のサービスを行った。また，全国の大学及び教育研究機関との資料交換業務によって提供された資料を，教育資料閲覧室に整理保管し，その二次情報をデータベースに登録した。さらに，授業記録情報電子ファイリングシステムの整備を進めた。

客員研究員である岐阜大学カリキュラム開発研究センター助教授村瀬康一郎氏による講演会を，2回開催した。

ウ　教育工学分野

(ア) 教育

学部教育に関しては，「体験学習A」，「教育実地研究II」，「基礎演習」，「基礎情報処理」，「情報と学校教育」，「教育情報学」，「情報教育演習」を担当した。また大学院教育に関しては，教育方法講座の専門教育科目「教育情報学演習」，連合大学院博士課程における専門科目「教育工学教育情報学特別研究」を担当した。

(イ) 研究

教育工学分野の研究プロジェクトとして，3つの研究を実施した(「情報教育に関する実証的研究」，「コミュニケーションの評価に関する研究」，「インターネットの教育利用研究」)。また，インターネットの教育利用研究では，文部省の海外子女教育課に協力し，「水に学ぶ環境」のプロジェクトを継続した。

センター運営経費で公募研究を募り教育工学分野として本学の言語系北條礼子助教授より応募のあった「英語教育における方略に関する基礎研究」を継続した。

学内教育改善経費の研究プロジェクトとして，「附属小学校・中学校におけるコンピュータネットワークを利用した情報活用能力育成カリキュラムの開発と評価」，「グループ討論におけるコミュニケーション能力の分析と指導法に関する研究」を行った。

赤堀侃司東京工業大学教授を客員研究員として迎え，年8回の研究期間の中で計20回以上の研究会学習会を実施した。

(ウ) 事業

教育工学の研究方法を紹介するために教育工学分野として客員研究員講演会を2回実施した。

地域との交流では，各研究プロジェクトの研究を通して地域の教員や学校と協力して教育上の問題解決にあたった。ネットワーク上での研究協力も教育工学分野のサービスの1つの側面である。平成7年度から新潟インターネット教育利用研究会(NICE)の活動に参加し，上越地域の学校と協力してネットワーク上の教育研究活動を推進してきた。また地域の教員研究団体である上越情報教育研究会との協力によって，上越地域の教育の情報化の推進に協力している。さらに全国組織の「教育とコンピュータ利用研究会(ACE)」の活動をインターネット上ならびに運営面で支援し，情報教育の推進に協力した。

エ　実地教育分野

(ア) 教育

教育実習の1年次観察・参加の事前・事後指導，2年次幼稚園実習の事前指導，3年次普通実習の事前・事後指導，4年次中学校実習の事前・事後指導を担当した。さらに，「教育実地研究II」，「体験学習A」，「情報教育演習」，「教育情報学」を担当した。

(イ) 研究

当分野としては，「国語科の指導内容に関する研究」，「新しい学力観に根ざす授業開発の研究」の2つの研究プロジェクトを進めた。

また，学内教育改善経費の研究プロジェクトとして，「人間教育学セミナーとしての「体験学習」カリキュラムの開発研究」を行った。

(ウ) 事業

教育実習の充実と円滑な運営を目指して，受入れ校への事前訪問を毎年実施する一方，事前・事後指導に小・中学校教員を実地指導講師に依頼し，教育実習終了後の実習生に対する実習校の評価に関して情報収集に努め，次年度の課題を明確にして教育実習委員会へ資料を提供している。

また，実地教育分野の研究を推進するために，国語科教育に関連した最先端のテーマで客員研究員（都留文科大学教授）鶴田清司氏の講演会を実施した。

② 学校教育研究センターの活性化・充実のためのこれまでの取り組み

ア 教育資料・交流分野での取り組み

(ア) 「教育相談室」を開設し，周辺地域の児童・生徒，その保護者及び教員に対して，教育活動への支援を行った。

(イ) 国立教育会館が主催する衛星通信を用いた教員研修事業に参加し，本学大学院・学部学生及び近隣の学校現場の教師を対象とした研修講座を開催した。

(ウ) 平成10年1月22日から放送大学の番組が全国で視聴できるようになり，学校教育研究センターでも受信できるようになった。大学教官はもとより大学院・学部学生にもその利用を広めるための広報活動を行った。

(エ) ビデオ教材制作専門技術講習会を，平成11年3月18日に，テレビ東京株式会社取締役横田栄治氏を講師に招聘し，本学教官・大学院・学部学生及び近隣の現職教員を対象として開催した。

(オ) 公開講座として「親子マルチメディア教室」を開講した。5月から11月までの，第2・4土曜日の休日に，親子がペアを組んで，家族新聞や地域紹介マルチメディア作品，地域紹介ホームページ，家族ホームページを共同で作成した。

(カ) 本学大学院・学部学生の視聴覚教育機器の操作技術及び教材制作技術の習得を図るために，教員養成実地指導特別講義「教育機器の利用法」を，4回にわたり開催した。講師は，上越地域の校長・教頭・教諭及び上越視聴覚教育協議会の視聴覚教育主事の方をお願いした。受講者は，141人で，上越視聴覚教育協議会から，「16ミリ発声映写機操作技術認定証」が全員に交付された。

イ 教育工学分野での取り組み

(ア) 活性化・充実のための取り組みとしては，上越地域の情報教育研究を推進するためにネットワーク上に情報サーバを4台設置して，その管理運用にあたっている。

(イ) 公開講座として年6回の講座を開催した。「パソコン入門」，「インターネット入門」それぞれを夕方（会社員等対象）の講座と午前中（主婦等対象）の講座として開講した。

ウ 実地教育分野での取り組み

(ア) 教育実習改革に関係して，教育実習委員会の方針の下，実習期間延長や実習校の拡大に関わる教育現場との意見交流，各市町村社会教育との意見交流を進め，大学と地域との連携のための条件づくりに努めてきた。

(イ) 本年度から，本学でフレンドシップ事業が始まり，センターとしてこの事業の立ち上げに積極的に関与した。学部科目の体験学習の開講，学生と子どもとの触れあい活動「学びの広場オンキャンパス」の実施，シンポジウムの開催，学校教育・社会教育機関との連絡調整等を行った。

③ 大学の理念・目的に沿った学校教育研究センターの目的（機能）の見直し・将来構想

現在全学的な見地から学校教育研究センターの改革構想が進められているが，特に次のような改革が必要で

あると考える。

ア　分野の新設

(ア)　いじめや不登校，非行，校内暴力等の問題行動及びそれらに対する教育相談・カウンセリングという教育臨床課題に関する実践研究を推進する分野（仮称「教育臨床研究分野」）を新設することが強く望まれる。また，教育相談・カウンセリングの実践教育を行うために，相談室等の拡充が必要である。まずは重点的にこの分野の新設にむけて取り組む必要がある。

(イ)　その他改革構想案においては，国際理解研究部門，生涯学習研究部門などの新分野（部門）の構想があるが，全学の中でのセンターの位置付けや実際の運営組織面等を考慮しながら，さらに検討する必要があると考える。

イ　既存分野の見直し

(ア)　既存の３分野も，近年の学校，教育，社会をめぐる変化に対応し，これまでの実績をふまえながら，さらに研究活動を充実させる必要がある。これについては，分野名の変更も含め検討している(「教育情報環境開発分野」，「教育工学・情報教育研究分野」，「教師教育分野」)。

ウ　解決すべき問題

(ア)　今後，センターと大学院の連携をはかるために，平成12年度の学部改組と合わせて学校教育研究センターの体制についても見直しが図られるので，その中でセンター教官の大学院担当問題を解決していく必要がある。

## 3　保健管理センター

### (1)　運営委員会

①　活動方針

保健管理センターは，本学における保健管理に関する専門的業務を行い，学生及び職員の心身の健康の保持及び増進を図ることを目的としており，保健管理センター所長，学生委員会委員長，各部から選出された教官，事務局長，教務部長の計11人で構成している。

当センターの運営は，保健管理センター運営委員会の議を経て，所長が管理・運営に当たっている。

平成10年度においては，２回開催し，第１回が11月18日(水)で，平成８・９年度版「保健管理センター年報」第７号の発行について及び年々増加していく精神衛生相談を充実させるべく臨床心理士の要求等について審議した。第２回が平成11年３月９日(火)で，平成11年度学生・職員の健康診断計画について審議した。

業務については，定期健康診断を中心に，日常的には，内科・外科的にできる範囲で応急措置を行い，希望する学生には精神衛生相談を行っている。平成10年度の活動方針としては，学生及び職員の健康管理を重点に定期健康診断を行うとともに，研究のため特別健康診断として前年度同様，学部１年次学生全員に心電図検査を，学部４年次学生全員に保健教育・保健指導を兼ねて，心電図検査・血液生化学検査及び血液検査を実施した。

②　活動の概要

ア　業務の概要

学生の定期健康診断は，新学期開始と同時に実施し，検査の時間帯については，授業時間との関係から昼食時の休憩時間が利用できるよう配慮し，学生の所属する専修・コース等別に実施した。健診については，学生各自が記入した健康調査票を参考にして問診を行うとともに，聴打診などによる内科健診を全員に実施した。その他，眼科及び耳鼻咽喉科のスクリーニング健診を実施し，異常所見者及び希望者については，眼科及び耳鼻咽喉科の専門医である各学校医により精密健診を実施した。胸部Ｘ線検査については，上越地域

総合健康管理センターの検診車による間接撮影を行い，検診担当医が診断した。

定期健康診断の受診状況は極めて良好といえよう。学校医等の専門医による健診の結果，受診者中における有所見者は47人（4.0%）であり，これらのうち，要治療者は2人（0.2%），要精密検査者は18人（1.5%）であった。

精神衛生に関しては，新入生に対し，UPI（University Personality Inventory，大学生精神健康調査）の調査による所見の多かった者について，面接・相談を行った。

イ　研究の概要

教養基礎科目の体育実技科目として，学部1年次学生にスキー実習を，学部2年次学生に水泳実習を課しているが，当該実習中及び課外活動中の健康管理の観点から，学部1年次学生全員に心電図検査を実施し，事故発生の防止に努力している。また，学部4年次学生全員に対し生活習慣病予防の保健教育・保健指導を兼ねて，心電図検査及び血液生化学（GOT・GPT・γ-GTP・血液脂質），血液検査を実施し，有所見者には所見に応じて事後措置を行った。

ウ　利用状況

保健管理センターの利用については，職員の勤務時間内において，常に対応できるようにしている。精神衛生相談は学生からの申し込みがあった時点で，担当者に引き継いでいる。利用者総数は，1,556人（学生1,270人，職員286人）であった。

エ　エイズ講演会の開催及び保健管理センター年報（第7号）の発行

学生及び職員を対象として，平成10年12月2日㈬に「若者の性とエイズ」と題したエイズ講演会を実施した。講師は東京大学教育学研究科健康教育学専攻博士課程に在籍の兵藤智佳さんにお願いした。講演は，ジェンダー（Gender）をテーマにした迫力あるものであった。

平成8・9年度2か年の業務報告書「保健管理センター年報」第7号を作成した。

### (2)　自己点検・評価結果

①　大学の理念・目的に沿ったセンターの目的（機能）の見直し・将来構想

センターの管理運営を更に実効のあるものにするために，学生及び職員の健康管理に関する認識の向上に努めるとともに，今後増加していくと予想される精神衛生相談の一層の充実を図るために専任のカウンセラーの配置を考慮するなどして，センターの活性化を図るとともに学生及び職員の心身の健康管理に万全を期す必要がある。

## 4　情報処理センター

### (1)　運営委員会

①　設置の趣旨（目的）

情報処理センターは，学内共同利用施設として，本学の学術研究及び情報処理教育に資するほか，学内の情報処理の推進を図ることを目的として設置された。

②　運営組織

情報処理センター長，各部から選出された教授又は助教授1人，その他学長が指名したもの若干人で構成されている。

③　開催状況

平成9年度に続き，委員会をマンスリーに開催し，第23回から32回まで通算10回開催した。

④　主な審議内容及び審議結果

ア　平成12年度の概算要求について

第30回委員会において，平成12年度の概算要求についての議論が行われ，現在の情報処理センターを総合情報処理センターに改組するため要求活動を開始することを決定した。

イ　パンフレットの作成について

第28回委員会において，情報処理システムの導入（平成10年10月）に伴った新しいセンターパンフレットの作成について現在のセンターパンフレットを基に議論が行われた。

その結果，各委員の意見を基に新しいパンフレットを作成することとした。

ウ　ダイアルアップ接続の利用及びホームページの開設について

第29回委員会において，新たにサービスを開始するダイアルアップ接続サービスとホームページ開設サービスの利用に関する方針等について議論が行われた。

エ　その他

上記のほか，予算に関わる審議等が行われた。

### ⑵　自己点検・評価結果

①　センターの活性化・充実のためのこれまでの取り組み

当センターは，平成９年度来，管理運営体制を見直して，利用時間の延長，質問受付コーナーの設置，マンスリーレポートの作成等，利用者への支援体制の整備を進めてきた。今年度，更なるセンターの活性化のため，新たに自宅等からでもネットワークに接続して研究・教育等が行える「ダイアルアップ接続サービス」と個人がホームページを開設できる「ホームページ開設サービス」を開始した。

上述の運営体制整備及びサービス充実の実施を眼目において，平成10年10月１日，情報処理システムを更新した。平成14年９月30日まで運用されるシステムを導入するに当たっては，ネットワークの構成や機器の仕様等，仕様策定の段階から納入まで，本学教官を初めとする学内外の多くの関係各位にご尽力願った。この更新にともなう設計方針の検討，スペックの決定，運営方針等によってネットワーク環境は高性能化し，利用しやすいシステムが構築できた。このシステムは新たな教育環境を作り出すとともに，事務処理の合理化・効率化をも促進し，全学的な情報サービスシステムとして十分に機能すると考えられる。また，情報処理システムの更新に同期して，キャンパスとして離れている西城地区の附属施設等との間の光ケーブルでの接続及び教育情報訓練室２の拡張整備を実施し，以前より問題視されていた事柄についての改善を図った。

今後とも，当センターとしては，センター活性化・充実のため，より良い環境作りに努めたいと考えているが，より積極的に活性化・充実させるために，本年度第30回の当センター運営委員会において，現在の情報処理センターを総合情報処理センターに改組するための概算要求活動を開始することを決定した。総合情報処理センター化により，当センターの機能及びサービスをより高度化して学内の研究・教育支援に資するだけでなく，学内の図書館や諸センター，研究室等に蓄積されている知識・技術を学校教育現場を中心とする地域社会に広く還元するとともに，学内の全学学生を対象とする情報教育を施す機関となることを目指している。

## 5　附属実技教育研究指導センター

### ⑴　運営委員会

①　活動方針

生涯にわたる人間教育の基礎を培う初等教育教員には，各教科・領域の専門的知識は勿論，すべての教科・領域に関わる優れた実践的指導力が要請されているが，特に，実技を伴う音楽・美術・体育・外国語及び書写書道の分野では，それらの実技指導能力の向上が求められている。このような社会的要請に応えるために，実

技センターは，音楽・美術・体育・外国語及び書写書道の各分野に係る教育研究及び指導技術の開発を行い，併せて，それらの成果を具体的に教育運営に生かす実践的指導能力を身につける場と機会を，学生たちに提供することを目的としている。

実技センターの教員構成は，併任のセンター長の他に，８人の教官(音楽教育分野２人，美術教育分野２人，体育教育分野２人，言語教育分野２人）が配置されている。また，センターの管理運営の基本方針に関する事項等を審議するために，センター長を含めた11人から成る運営委員会が設けられている。上記４分野の具体的活動の概要は以下に示すとおりである。

② 活動の概要

〈音楽教育の分野〉

ア 初等教員養成のための音楽技能の育成を目指して，前年に引き続き６人の教官で小委員会を設け，音楽A・音楽B関係教官との密接な連携のもと，音楽技能の指導を行った。

イ 教員採用試験受験者のための音楽実技（ピアノ，リコーダー，弾き歌い）の指導を行った。

ウ ピアノとソルフェージュの認定を行って，学生の技能力の育成と，音楽的理解力の向上を図った。

エ 創作音楽劇公演，卒業演奏会，修了演奏会等，音楽技能研究成果の発表会を開催した。

〈美術教育の分野〉

ア 前年度に行った「図画工作A」等のセンター関連授業及びセンター課題の内容を検討し，本年度の計画を立案し実施した。

イ 各領域のセンター課題は，以下の内容で指導し認定を行った。

【絵画関係】手を入れた自画像水彩画

【彫塑・工芸関係】切り込みと折りによる立体造形（ケント紙）

ウ 平成10年度教育改善推進費によるプロジェクト研究「総合学習における造形表現活動の内容構成と実践に関する研究」(２か年計画の２年目)を実施。教員養成教育では未開拓の領域である本研究は，幼児教育講座・松本健義助教授及び本学附属小学校・立川厚生，大竹裕範両教諭との共同研究として，また大学院授業科目との連携も図りながら，造形表現活動の横断的，実践的諸相の解明を目指した。

エ センターセミナーを次のように実施した。

平成10年11月25日㈬，美術棟第１造形実習室，講師：岩村伸一（京都教育大学助教授），テーマ：「葦（アシ）をつなぐ…作業とその周辺」

〈体育教育の分野〉

学部４年次生及び大学院２年次生を対象に，教員採用試験対策を兼ねて，実技指導を６月下旬から７月上旬実施した。器械運動，バスケットボール，陸上運動，水泳の４種目を５人の教官で指導にあたった。

ア 器械運動（マット運動，鉄棒，跳び箱）をトレーニング室及び実験自習室で実施した。また，希望者には数回の個別指導も行った。

イ 陸上運動（障害走）を体育館で実施した。

ウ 水泳（クロール，背泳ぎ，平泳ぎ，バタフライの４泳法）を学内プールで実施した。また，泳力に応じて随時個別指導を行った。

エ ボール運動（バスケットボール）を体育館で実施した。また能力に応じて個別指導を行った。

この他に，器械運動実技，野外実習等関連授業において，なわとび，一輪車，スキー，ダンス，インラインスケート等の自学自習のためのガイダンス及び実技指導を行った。

〈言語系教育の分野（外国語)〉

ア 前年度と同様，学部学生の英語によるコミュニケーション能力の育成を行った。特にリスニング能力を育

成するため，すでに設置されているマルチメディア語学学習システムの活用を図った。また，大学院では英語科教育関連の授業などにおいて教材作成の実習をするため，マルチメディア教室のコンピュータシステムを活用した。

イ　前年度に引き続き，反応分析装置などの周辺機器を加えることにより，マルチメディア語学学習室の機能の拡充をはかった。

ウ　「海外教育（特別）研究」の事前指導として，外国人教師による英語会話の指導を行った。

エ　本学情報処理センターのJUENシステムの支援を受けて，インターネットによる英語のメッセージの発信・受信をより積極的に行った。

オ　文京女子大学助教授アレン玉井光江氏による「幼稚園・小学校などにおける早期英語教育の理論と実践」と題するセンターセミナーを，平成11年2月4日に本学言語系会議室にて実施した。

〈言語系教育の分野（書写書道）〉

ア　前年度に引き続き，教科専門科目の「事写書道Ⅰ」「書写書道Ⅱ」及び教養基礎科目の「国語（書写を含む）」の授業において，基本的用筆の習熟徹底を図り，「書写書道の技能認定」（教師用控えの個人カード）を活用した。さらに学生自身が自己の弱点に気付き，自学自習の拠とすべく「技能力自己確認票」（学生個人用カード）を作成し使用した。これによって，受講者の自己評価力の育成や自ら学ばうとする意欲的態度の高揚がみられた。また，継続的な個別観察や助言にも，大いに役立てることができた。

イ　前年度同様，TA（ティーチング・アシスタント）の採用認可があり，授業の展開を効率的に行えるようになった。毛筆書写の授業は，授業者も受講者も毛筆用具の準備や後片付けだけでも時間がかかる。そのうえ，教材提示装置・OHP・スライド・VTR等の視聴覚機器類を使用することが多いので，その準備にも時間を要する。TAの任用によって，授業が非常に円滑に行うことができた。

ウ　昨年同様に留学生の受講希望者を授業に受け入れた。留学生たちはいずれも書写書道への関心が高く，実に意欲的に取り組んだ。また，一般学生と留学生の交流により，一般学生自身の日本の文化への理解関心が高まったことも，相乗効果としてあげられる。

エ　前年度から課題としてあげられている問題点，すなわち講義棟202教室の場合，他の授業が前後に入ると授業者が準備・後かたづけに時間が取れないこと，準備室への出入口が教室側にしかないため他の授業があると準備に使えないこと，学生の自習のために同教室が使いにくいなどの点を，本年度も解決できなかった。特に三点目は学生らの学習意欲ともつながる問題であり，次年度以降検討すべき点である。

### (2) 自己点検・評価結果

① 教員採用は近年厳しい状況にある。実技教育研究指導センターでは，本学学生が教員採用試験において実技能力を充分に発揮できるよう，特別指導を積極的に実施している。各教育委員会の実技試験内容に応じた指導を行った結果，本学学生の教員採用に結び付く成果が得られた。

② センター所属教官とコース所属教官との協力により，上越教育大学創立20周年記念の各種事業を展開した。各事業には多くの市民の参加があり，大学と市民の交流や大学公開に寄与することができた。

③ センター予算の減額により，備品の充実や学生の発表の場に若干の影響があった。

## 6 附属障害児教育実践センター

### (1) 運営委員会

障害児教育実践センター運営委員会は，センター運営に関わる事項を審議するが，平成10年度は2回開催された。

第１回の議題は，平成10年度予算，自己点検・評価，センター紀要編集，その他報告として，平成11年度概算要求，特別設備費要求，各種予算要求の報告がなされた。

第２回の議題は，以下に報告する主として活動実績を中心に行われた。

### ⑵ 自己点検・評価結果

センターの業務は，「臨床」「研修」「研究」の３部門を設置し，それぞれ関連させながら運営している。

臨床部門は，地域の障害児や父兄の教育相談とその指導及び障害児教育専攻の院生の臨床指導である。研修部門は，指導者研修セミナーを開催したり，臨床活動に必要な各種の教具の選抜・開発を行っている。また，研究部門は，教育実践に関する実証的な研究を行い，センター紀要に発表するようにしている。

その運営特色としては，障害児教育講座の教官と一体となって，その効率があがるよう，人事交流や設備充実を行っている。

今後の自己点検・評価については，今進行中の大学改革の意向にそった評価が求められていることを理解しつつ，活動実績をあげることに全力をつくしている。

① 活動内容

ア 教育相談

平成10年４月から平成11年３月までの教育相談実績は，次の表Ａ～Ｃのとおりである。

表Ａ 年間相談件数

| 障害種別（主訴別） | 新規相談 | 継続相談 | 計 |
|---|---|---|---|
| 肢体不自由・重症心身 | 0 | 5 | 5 |
| 精神遅滞・ダウン症 | 4 | 12 | 16 |
| 難聴・聾 | 3 | 4 | 7 |
| 言語障害 | 5 | 6 | 11 |
| 自閉症・情緒障害 | 6 | 3 | 9 |
| 学習障害 | 0 | 0 | 0 |
| 視覚障害 | 1 | 5 | 6 |
| 合 計 | 19 | 35 | 54 |

表Ｂ 年間相談回数（延べ指導回数）

| 指導内容 | 新規相談 | 継続相談 | 計 |
|---|---|---|---|
| 初期相談（検査） | 9 | － | 9 |
| 定期相談（検査） | 8 | 8 | 16 |
| 継続指導 | 107 | 437 | 544 |
| 合 計 | 124 | 445 | 569 |

表Ｃ 年間相談時間（延べ指導時間）

| 指導内容 | 新規相談 | 継続相談 | 計 |
|---|---|---|---|
| 初期相談（検査） | 18 | － | 18 |
| 定期相談（検査） | 9 | 8 | 17 |
| 継続指導 | 107 | 639 | 746 |
| 合 計 | 134 | 647 | 781 |

教育相談実績は，藤原教授の１年間にわたるアメリカ出張のため，昨年度と比較すると減少した。しかし，他の教官と院生による指導は，従来どおり継続して行われた。

イ　教育臨床

臨床授業は，基礎実習，診断法実習，心理学実験，総合診断法演習が行われ，センターでの実習・演習を通して，指導者の指導の下に院生が障害児の臨床体験をした。それらの一部は，センター紀要に臨床論文として報告されている。

ウ　指導者研修

平成10年度実施したセミナーは3件あり，学内外からの多数の参加者があり，盛会であった。そのセミナーの要旨の一部がセンター紀要に紹介されている。予算の上から，今年度は3件であったが，人気あるセンターセミナーのことにて，今後とも増やすお願いをしていくつもりである。

各種研究会，講習会の中で特筆すべきことは，センターが地域と共に成長・発展するよう配慮していることである。地域の特殊教育諸学校の校長，教頭，研究主任から，諸学校の課題を発表してもらい，その研究協議は，充実しつつある。

その他，新潟県免許認定講習会，上越特殊教育研修会，上越言語治療教育研究会等に，センターの教官が障害児教育講座の教官と共に関与していて，成果をあげている。

エ　教材・教具の開発

障害児の能力をひき出すコミュニケーション用の教具の選抜，開発のための研究会を行っている。少額ではあるが，そのための研究費が学長から認められた。センターセミナーでも，そうした分野の研究をしている和歌山大学の教官を，センターセミナーの講師に招くことができた。

オ　研究活動

センター紀要は，センターでの臨床活動に関する論文や学外での臨床活動によって得られたデータをもとにした論文を紹介するようにつとめた。その紀要は，前年度と異なり，今年度中に出版できる予定である。

また，センターにおける教育，研究，研修活動は，全国のセンター連絡協議会で報告することになっている。

②　今後の課題

ア　運営経費が非常に少なく，障害児教育講座教官の研究費を使って，教育・研究・研修活動を行っている。今後，諸活動のために，外部からの研究費獲得に努力する必要がある。

イ　インターネット等による情報交換システムの導入を，センター間，地域の教育・福祉関係機関と行うことが必要である。

ウ　H大学センターから，セミナー交換会を，TVで行う要請があり，他大学にある予算を使った可能性を探りたい。

エ　障害児の生活力向上のための生活訓練棟の建設や教育相談，教育臨床担当教授の任用への要望は，今後も続けていきたい。

## 7　附属小学校

### (1)　本校の活動

①　附属小学校ではあるが公立学校と同じく，文部省の定める学習指導要領に則って，義務教育を行う。

②　教育の新しい理論や方法について大学と協力して実験や実証を行う。対象が児童であるので，慎重な配慮の基に実施する。

③　上越教育大学学校教育学部学生の教育実習を指導し，次代を担う教育者の育成に努める。

④　大学と共同で行う実証的研究のほかに，本校の主体的立場から，研究主題を設定して，教育活動に関する各種の研究を展開し，地域の教育現場に寄与できる資料を提供する。

⑤　教育誌「教育創造」を発刊し，本校教官の研究をはじめ県内外の教師の研究発表の場としている。

### ⑵　平成10年度の活動方針

①　教育目標

生き生きとした子供

②　教育目標具現のための方策

ア　教育課程及び学習指導法の改善研究とその実践

イ　子供理解と多様な指導法の確立

ウ　家庭や地域の人々との連携の強化

### ⑶　活動の概要

①　教育課程改善研究の推進

「生き生きとした子供」という一般目標を設定し，ビルドアップの手法による学校づくりの研究を進めてきた。

ア　研究を進める基本的な考え

(ア)　教師一人一人が日常の教育実践を問い直し，問題意識を鮮明にして実践を継続していく。

(イ)　一般目標のみを設定し，「まず，実践ありき」の構えで自分のやりたい教育活動の実践記録をとり，レポートすることを重視する。

イ　研究の方法

(ア)　日々の取り組みを大切にし，教育活動を充実したものにするため，問題意識に基づいた各自の実践を継続し，その取り組みの状況をレポートした。

(イ)　自分の主張を授業研究により鮮明にする。授業案の事前検討をなくして事後検討を重視した。その際，検討の観点をなくし様々な見方から多様な評価を行ってきた。

(ウ)　大学教官には研究協力者として，理論面での整理の仕方，授業展開の在り方等について指導を受け，より実りある研究になるようにした。

(エ)　子供の日々の記録，調査活動のまとめ，作文，作品等を分析し，集積しながらその変容をとらえ，継続的な指導に生かしてきた。

(オ)　5月21日に春の研究会，12月4日に冬の研究会と年2回の研究会を開催し，研究の一端を広く学校関係者に紹介するとともに，様々な意見をいただき，さらに研究の深化を図った。

②　生徒指導のための職員・父母の協力体制の確立

子供を見つめ，その実態をとらえながら機を逸しないように指導していくことが生徒指導の基本であるとの認識に立って，情報交換を密にし全校体制で指導に当たることとした。そこで，年間計画に基づいて学級活動などで継続的に実施してきた。また，「生徒指導レポート」を提出し，各自の学級経営や指導の具体策を情報交換し，検討してきた。

さらに，父母との連携を密にするため，連絡帳や学年便り等を有効に活用したり学級PTA，学年懇談会などを実施したりして理解を深めてきた。

③　体験的な活動への家庭や地域の人々の協力

ア　総合単元，総合教科，心の活動では，積極的に地域へ出かけ，人やものに直接働きかけながら体験的に学習を進めることを重視し，地域の協力を得た活動の展開を図った。

イ　総合単元，総合教科，学校行事などに，父母もPTA活動の一環として参加し，子供と一緒に活動できる協

力体制を確立した。

ウ　総合単元，総合教科，心の活動では，関係機関や地域の人材を活用した活動展開を図っている。

④　教育誌「教育創造」の発行

今年度は，2002年から小学校，中学校，高等学校で創設される「総合的な学習の時間」にどう対応するかをテーマに，大学教官の論文，附属小学校の主張や実践例，県内公立小・中学校の実践等で編集，発行し，高い評価を得た。

⑤　初任者研修等に係る宿泊研修の実施

体験活動やへき地校参観など附属小学校や地域の特色を生かした内容の研修を実施し，受講者から教育観や指導観を見直す研修であったとの評価を得ている。

・へき地校参観や同和教育研修を通して，教育観や人生観が問い直される。
・具体的な体験や操作による研修内容が，主体的参加を促している。
・全学を上げての運営が，参加者に好感をもって受け入れられている。
・少人数で十分な話し合いができる。

**⑷　自己点検・評価結果**

①　教育実践研究の成果

ア　継続的なレポート提出により，「子供の事実から語る」姿勢が定着してきた。子供の様子がよく見えてき，当たり前のことを継続する価値を再確認できた。

イ　研究と日常教育活動が一体化するようになり，学校運営全体に機能する「学校づくり」としての研究手法を開発できた。

ウ　「生き生きとした子供」を具現する上で，体験的・総合的な教育活動を中核に据えた各学級ごとのカリキュラムを充実させることが必要であることを確認した。

「やらされている研究」から「自分がやりたい研究」へと変わっていくことを重視している。そのために，３つの「そうい」を大事にしたい。一つは，違いのある相違である。相違があれば人と違っているから，自分から創意工夫していく。そういうものが寄り集まってくると，お互いのよさが分かって，共通に理解し合えるところが出てくる。それが総意となってくるのである。しかし，この総意が形成されるまでは，時間がかかり，焦らず，楽しみながらゆっくり進もうとする心構えが必要である。

教育の仕事は，日々のひたむきで地味な取り組みの継続である。したがって，一人一人の教師の問題意識の中から生まれた取り組みをなにより大切にする。そして，研究の成果は，取り組みの中での子供の姿の変容として語らなければならない。

②　生徒指導にかかわる指導体制の確立

年度始めに，各学年の経営方針を提示し，学期末や年度末には，個々の子供がどのように変容してきたかを多面的に評価するとともに指導の在り方について，「生徒指導レポート」等を通して情報交換を図った。学級の子供たちの実態を把握し，改善の策の効果を互いに実践し報告するのである。こうした取り組みの成果は，次のとおりである。

・何でも報告し合える雰囲気が醸成され，「内に開かれた学校」が具現できた。
・各学級において，次々と具体策が講じられるので，創造的な学校生活が生み出される。
・互いの学級の問題事例も報告され，全校体制で指導に当たる場面が多くなった。
・教師間で日常的に情報交換する場面が増してきた。

また，PTA や地域の関係諸団体との連携を深め，指導に生かしていくことが重要である。当校の教育に対す

る父母の関心は高く，協力的である。家庭における教育も，学校側の方針を踏まえて実践していることがうかがえる。しかし，特定の学区をもたない本校の実態から，地域における子供の生徒指導について意志の疎通を欠く面も見られる。

情報交換を密にして協力体制を確立し，共通理解を図りながら指導を進めていく必要がある。具体的には，これまでの学年便りや連絡帳の充実を図るとともに，学級便りや学校便りの定期的な発行を検討し，内容の工夫を図っていかなければならない。

③　家庭，地域との連携強化

総合単元，総合教科，心の活動，学校行事などに対する父母や地域の人々の積極的な協力が得られ，成果を得ている。具体的には動物飼育や畑作への農家の人たちや農業共同組合等の協力，学校行事に対するPTAの総力を上げての協力などがあり，教育活動の充実のために大きな力となっている。

また，今年度後半から，学校の所在する西城町１丁目町内会にPTA広報誌「ポプラ」を配布し，学校の取り組みや子供たちの様子を町内に広報し理解と協力を仰ぐようにした。

今後も，より一層，子供の具体的な姿が見える教育活動を通して，家庭・地域との連携を図っていく必要がある。

④　教育実習の充実

教師への道は，現状の採用状況からいって益々狭まってきている。しかし，教育実習を通して，ほとんどの実習生は教師になることへの期待を膨らませ，子供のすばらしさを実感して大学へ帰っていく。

その意味では，教員養成の改革という視点から，附属学校と大学の研究・協力体制を見直し，改善を図ることが緊急に必要である。教員の免許取得のための「形式的な学習」から「主体的・能動的参加の実習」にしていかなければならなく，その具体策を述べる。

ア　児童の自主的な活動に参加したり，学校行事に参加したりする。

イ　実習期間中，大学教官も，定期的に学生と行動を共にし，事後指導を充実させ，実習生が教育事象の意味付けができるようにする。

ウ　実習を通して，より実践的な体験を希望する学生に対する実習メニューを開発する。

こうした実習を可能にしていくためには，学校教育研究センターと附属小学校との更なる密接な連携を深めていくべく教育実習の組織体制の確立が必要である。

## 8　附属中学校

### (1)　設置の趣旨（目的）

①　附属中学校ではあるが公立中学校と同じく，文部省の定める学習指導要領に則って，義務教育を行う。

ア　教育目標

「民主社会の発展に寄与する，人間性豊かな，たくましい生徒を育成する。」

(ｱ)　美しいものや崇高なものに感動する心をもち，真理を不断に追求しようとする生徒を育てる。

(ｲ)　広い心と向上心をもち，求めてともに実践する生徒を育てる。

(ｳ)　自ら目標をもち，気力，体力の充実に努める生徒を育てる。

イ　教育目標具現のための方策

(ｱ)　教育課程や学習指導などの教育研究の推進

(ｲ)　教員の資質向上のための研修の充実

(ｳ)　多面的な生徒理解と触れ合いを大切にした生徒指導の確立

(ｴ)　家庭・地域との連携の強化

② 大学教官と連携を図り，教育に関する実証的研究を推進する。

ア 大学教官からの指導

(ア) 本校の研究主題に関する指導

(イ) 本校教官の個人研究に関する指導

イ 大学教官への資料提供

(ア) 大学教官の研究に関する授業の実施

(イ) 大学教官の研究の資料取り

ウ 大学教官との共同研究

③ 学部学生の教育実地研究を指導し，次代を担う教育者の育成に努める。

ア 基礎的な資質を具備した4年次学生の教育実習

第1～3年次の教育実地研究の経験を積み，中学校教員の免許状の取得を希望する学生の教育実地研究の指導を行う。

(ア) 中学生の発達特性についての的確な実態把握と理解

(イ) 中学生の心理を生かし，自己指導力を高める生徒指導の研究と実践

④ 大学学部生の講義を担当したり，卒業論文や修士論文作成に協力し資料を提供する。

ア 3・4年生を中心とした実地研究の講座の担当

イ アンケート協力や授業データの提供

⑤ 教育活動に関する各種の研究を展開し，地域の教育現場に寄与できる資料を提供する。

ア 年1回の教育研究協議会の開催

研究の成果を公開することによって，中学校教育の情報発信の場となるように努める。

イ 研究物の出版

研究成果を冊子にまとめ，印刷物として資料提供できるようにする。

ウ 学校訪問の受け入れ

教育委員会，教育団体，学校等からの学校訪問を積極的に受け入れるよう努める。

### (2) 管理運営組織と教員配置の状況

① 管理運営組織

ア 研究を中心に据えた組織の編成

イ 教育活動が円滑に運営される組織の編成

ウ PTA，地域に開かれた組織の編成

② 教員配置数

ア 校長，副校長，教頭，教諭14人，養護教諭1人

イ 講師5人

### (3) 実施した主な事項

① 教育課程の開発研究

「21世紀の教育課程の開発」を研究テーマに掲げ，教育課程についての研究を進めている。第4年次の研究成果を発表すべく，5月22日㈮に550人を超える参会者を得て研究協議会を実施した。

② 国際交流の推進

文部省から「姉妹校交流研究推進校」の指定（平成9・10年度の2年間）を受け，平成6年度より進めてき

た韓国の蘆原中学校との交流を更に発展させるよう努めてきた。蘆原中学校の２人の生徒が，５月16日㈯～23日㈯の７泊８日の日程で来日し，当校の教育活動に参加した。また，当校の生徒34人が８月25日㈫～28日㈮の３泊４日の日程で韓国を訪問し，史跡見学を取り入れた交流活動を行った。

③　教育実習の実施

学部４年生中学校教育実習を，49人の実習生を迎え５月25日㈪～６月６日㈯の２週間実施した。なお，実習前２週間は，実習生のために授業を公開している。

④　情報発信の場としての可能性の模索

情報発信の場として，ホームページを充実させるとともに，インターネットを通じて保護者をはじめ地域の人々との情報交換の可能性を探った。

### ⑷　自己点検・評価結果

①　大学の理念・目的に沿った附属中学校の目的

ア　大学との連携

現在，当校の研究の面でも大学の講座の面からも，大学の各研究室と当校との間に緊密な連携が図られている。また，当校の教官が中心となっている地元の研究サークルの指導者として，大学の教官からも積極的に例会に参加してもらっている。

大学の附属学校として，大学教官による中学校における授業や大学院生の研究授業の受け入れを実施している。また，学部生や院生の卒論・修論にかかわるアンケートに協力している。

一方，連携が関係教官範囲でとどまっており，各教官が連携の全体像をつかみきれていないことが課題となっている。

イ　教育実習

教科によって実習生の人数にばらつきがあることと，本校教官数との兼ね合いから，実習生によって担当時数の片寄りが予想されたので，実習生同士のティーム・ティーチングによる実習を取り入れた。

今後，大学改革に伴い教育実習も大きく変わろうとしている現状を踏まえ，実施時期の検討と実習カリキュラムの開発を，教育支援開発センターと連携し，早急に進めていく必要がある。

②　附属中学校の活性化・充実のためのこれまでの取り組み

ア　総合的な学習の時間の先取り

平成12年度から実施される新学習指導要領に盛られている「総合的な学習の時間」を，どのように展開するか平成６年度より研究に取り組んでいる。この研究は，教科の垣根を低くし，関連が強いと考えられる内容や活動を持ち寄った学習を構想しようとしたところから始まっている。

教科を横断する国際理解，環境，情報，福祉等の学習を，当校では「グローバルセミナー」と称し，実践を積み重ねてきた。教材開発の手続き，運営，評価等について，その成果を研究誌にまとめることができた。

イ　国際理解教育の推進

平成６年度から始まった韓国ソウル市立蘆原中学校との交流も本年度で５年目を迎えた。韓国の国内情勢から今年度は韓国からの訪問団の来日が困難となったので，総合学習「グローバルセミナー」の学習とのかかわりで蘆原中学校の生徒を招待することにした。来日した２人の生徒は，それぞれの受け入れ学級に所属し，その学級の生徒と同じ活動を行った。特に，総合学習「グローバルセミナー」の授業では，両国の生徒がそれぞれ進めてきた学習を踏まえ，中学生レベルでの日韓の交流の在り方について議論した。

８月には，全校生徒から希望者を募り訪問団を組織した。蘆原中学校の受け入れ生徒と慶州を訪れ，交流を深めた。ホームスティを通して日本との相違点，共通点に気付くことができた。この経験が，善隣教育に

役立つものと考えられる。

今後の課題は，間接交流にも力を入れ，一部の生徒だけの交流にならないよう配慮していくことである。

ウ　情報教育の充実

生徒は，総合学習「グローバルセミナー」をはじめ，各教科や選択教科の授業で，インターネットを通じて検索や資料収集を行っている。また，技術家庭の授業では，電子メールの送信や，ホームページの作成を取り入れている。9月には，EUの「net days」に参加するため，学校のことだけでなく日本の生活・文化を紹介するホームページづくりを3年生が中心となって行った。

エ　家庭・地域との連携の強化

(ア)　学校開放の実施

保護者が，学校での生徒の様子を自由に参観できるように，終日学校を開放する日を設定している。

(イ)　インターネットの活用

学校と家庭を結ぶ新しい手段として，教師と保護者でつくる電子メーリングリスト「桜城ネット」を開設している。また，「グローバルPTA」の名の基に，国内外を問わず保護者の視点で情報交換を目的とした電子メーリングリストの実験運用を始めている。

(ウ)　地域社会との連携

校外学習や総合学習「グローバルセミナー」，選択学習「桜城セミナー」において，積極的に近隣の施設設備の利用や施設への訪問取材を行っている。また，地域社会で活躍している人を招いての講演会を授業の中で実施している。

## 9　附属幼稚園

### (1)　本園の任務

①　幼児を保育し，適当な環境を与えてその心身の発達を助長するとともに，保育に関する研究を行う。

ア　中教審の「生きる力」の園としての受けとめ

(ア)　自ら学び，自ら考える指導の転換

幼児主導を重視した保育形態に努めるとともに，自発活動を引き出す環境構成の工夫を図る。

(イ)　体験を大切にした豊かな人間性の育成

園の地域性を活用した体験活動を充実するとともに，異年齢交流を重視した各種行事を実施する。

(ウ)　一人一人の個性を生かす教育の堆進

カルテづくりを通して個のよさを引き出すとともに各種調査，検査を実施し客観的な視点からみる。

(エ)　園，学校週五日制を指向した園，家庭，大学，地域等との連携

園と家庭，地域，大学との教育の同軸化に努めるとともに，地域の教育力を活用する。

イ　長期的な展望にたった研究体制（態勢）

(ア)　研究の重点年次の設定

平成5年度より研究重点年次を設定。平成10年度は，領域「環境」を重点領域とする。

(イ)　教育課程，指導計画の工夫，改善を図った研究体制

②　学部学生及び大学院生の実地教育，実地研究の実施にあたる。

ア　学んだ教育理論や方法と教育現場での確かめを行う2年次学生の教育実習

イ　専門的知識や技能を深める4年次専修教育実習

ウ　大学院生の修士論文にかかわる教育実地場面の提供

③　大学における保育に関する実証的研究に協力する。

幼児教育講座の教官のみならず，幼児にかかわる研究をしている教官と情報交換を図り，本園の研究推進の充実を図る。

④　地域社会における幼児教育の振興に寄与する。

ア　幼児教育研究会の実施

(ア)　保育を公開し，それをもとに研究協議を行い，その後，講演会をもつ。

(イ)　幼児教育講演会の実施

イ　小学校，幼稚園，保育所三者の連携を図る核となる。

(ア)　「幼児を語る会」等を通して，情報交換をし，三者の連携，調整にあたる。

### (2)　平成10年度の活動方針

①　教育目標

ア　元気な子　（体）

イ　やさしい子　（徳）

ウ　考えぬく子　（知）

②　年度の重点目標とその方策

ア　のびのびと体を動かし精一杯遊ぶ子

- 四季を通した環境づくりの工夫
- 異年齢交流の促進
- 安全点検の日とあわせた環境構成の工夫

イ　自然に親しみ友達と仲良く遊ぶ子

- 「緑の小道」の積極的な活用
- 地域の教育力の活用（妙高少年自然の家，エプロンシアター，ジャンボ紙芝居，人形劇，影絵劇，謙信流陣太鼓の演奏，トンボの語，琴の演奏）
- 畑，花壇，リサイクルステーション等の計画的な活用

ウ　感じたことや考えたことを自分なりに高める子

- 幼児図書，教師用図書の充実
- 「賞賛」，「激励」，「見守り」
- ワンポイント記録の集積と検討

### (3)　活動の概要

①　第6回幼児教育研究会の実施

- 幼稚園，小学校，保育所の先生方，大学教官，学生，院生の約180人参加
- 幼，保一体の教育や幼小連携等についても話し合われた。

②　第4回幼児教育に関する講演会の実施

- 塚田子ども医院長の塚田次郎先生を招いて「子どもの病気の見方」について講演していただいた。
- 幼稚園，保育所の教師の他に保護者，地域の家庭の主婦等も出席した。

③　学部2年生の教育実習

- 春と秋の2回の他に，病気等で実習できなかった学生を2月にも2人受け入れた。

④　学部4年生の教育実習

- 14人の学生を前期・後期に分けて受け入れた。

⑤　他大学の学生の教育実習の受け入れ

・県外の学校で学ぶ地元出身の学生の教育実習等を受け入れた。

⑥　学部や大学院生の調査，研究活動の場の提供

・学部学生の卒業論文にかかわる調査等に協力した。幼児教育講座の学生他８人を受け入れた。

・大学院生の修士論文にかかわる調査等に協力した。約６人

⑦　幼児教育講座の教官と本園教官との情報交歓会

・教育実習を含む幼稚園の在り方についても意見交換を行った。

⑧　障害児教育講座の教官との共同研究

・学長裁量の経費をいただき障害児教育講座から６人，幼稚園から５人の構成で研究に取り組んだ。

・テーマは「自己表現力の獲得を促すための指導方法に関する共同研究」

・３回の研究会議の場をもち，研究を深めた。

⑨　PTA との共催による「ふぞくフォーラム」（子育て学習会）の実施

・年間２回の講演会をもった。参加率はおよそ80％で，意見交換するなど好評であった。

・１回目は「子どもの健康」について，２回目は「わが家はわが家」

・この会に附属小学校，中学校の他，上越市の幼稚園の保護者にも案内をし，参加してもらっている。

⑩　上越市学校教育研究会幼稚園部会にて講演会の実施

・人権相談員から「心の糸を紡ぐ」という演題で講演をしていただいた。

⑪　国公立の幼稚園の先生方の研修視察の受け入れ

・県外からの教職員の研修の受け入れ態勢を整え，要望に答えている。

### ⑷　自己点検，評価結果

①　幼稚園教育の機能の見直しと将来の構想

ア　学校教育法77条の幼稚園教育の目的を十分果たすとともに，保育に関する研究を鋭意取り組んだ。この両者の調和のとれた運営は相乗効果をもたらしているが，研究だけが先行しないよう配慮している。研究発表は２年に１回でもよいし，または逆に１年に２回もってもよい。

イ　教育実習の受け入れは附属としての大切な本務の一つであるので，地域の幼稚園に協力をお願いしている現状を見据え，とりわけ，受け入れ人数について無理にならぬよう協議していきたい。

ウ　専修実習については，質の高い実習になるよう人数，期間，内容について，参加した学生の意見も大切にしながら検討していきたい。とりわけ，指導教官と配属された人数について，もう少し少なくしたほうが効果があがるのではという意見がある。

エ　学生や院生の調査研究に協力しているが，その結果についてはどうなったのかわからない状態である。昨年は「修士論文発表会」をもち，教官の意見もいれてもらい大変好評であった。是非，大学との連携を図りながらこの会を継続していきたい。

オ　新幼稚園教育要領が告示され，これからの幼児教育の在り方についての論議が高まっているこの時期に，保育所を交えた学習会を園が中心になって開催していきたい。

カ　障害児教育講座の教官との共同研究は両者にとって有意義であった。予算の裏付けがなくとも是非，継続していきたい。大学改革構想にものっとり，両者が話し合い，その基盤づくりに努めていきたい。

キ　中教審の答申にもあるように，子育て支援センターの開設が保護者や地域から期待されている。幼児教育講座や障害児教育講座との連携を図りながら早急に開設にこぎつけるよう努力したい。

ク　大学のみならず，行政や子育てボランティア等の連携を深め，こちらから積極的にアプローチしていきた

い。

② 附属幼稚園の教育・管理運営の状況

ア 平成10年度の教育研究の実際

(ア) 幼児の自発活動の実態を領域「環境」の側面から見直し（2年次），身近な環境にかかわる幼児の姿をもとに，教育課程，指導計画の改善，補正を行った。

(イ) 前年度の幼児の実態の把握を中心とした研究結果から，水遊びへの興味や関心を深め，水生環境との触れ合いを目的とした「ドーナツ池」を設置する。また，今年度より話題提供者を募り，幼稚園のみならず，保育所，小学校からも参加いただき，視野を広げ深まりのある協議会とすることができた。

(ウ) 情報交換，講師の招聘，学習会等を通して，大学，附属小，附属中，家庭，地域との連携に努めた。

(エ) 幼児教育研究会，「幼児を語る会」，幼児教育講演会等を実施することにより，園全体の活性化を図るとともに，地域に開かれた園となるよう努めた。

イ 管理運営の状況

(ア) 研究推進のための体制（体勢づくり）

a 幼児教育研究会に向けた年4回の研究保育の実施（園外の指導者招聘）

第1回は7月に園の環境や研究の全体計画，研究の方向等，第2回は10月に全国公開に向けての協議題や運営方式について，第3回は10月に全国公開し約180人参加。第4回は講師を園外から招聘し，2月に幼児の健康にかかわる講演会を開催した。約110人の参加。

b 週1回，研究主任を中心に全員で研究推進会の実施

研究推進に無理，むら，無駄のないように，研究主任を中心に計画的，継続的に研究を進めている。また，小規模・少人数の特性をいかして，柔軟に対応できるようにしている。

c 2週間に1回，「幼児を語る会」を開き，保育のVTR，事例を持ち寄りながら保育にかかわるカンファレンス，情報交換をするとともに，時には，大学の教官から専門的な立場から意見交換を実施。この会を通して，一人一人の幼児の発達特性を見る目を養い，実践的指導力を身に付けるように努力している。

d 一人一人の指導過程や発達特性がわかるカルテファイルの作成

身体的発達や日々の指導の記録のみならず，幼児を語る会や参観者等の多角的な情報などをファイルし，保護者との教育相談や指導計画の作成の参考資料としている。

③ 附属幼稚園の活性化・充実のためのこれまでの取り組み

ア 月毎の教育計画を作成し，月末には全職員が評価内容を記録，集積し，来月または次年度に生かせるようにしてきた。

(ア) 教育計画に取り上げた項目

園行事，クラス別期のねらいと月毎の主な内容，研修内容，教育実習関係，保健関係，交通安全関係，安全点検日の作業，動植物の世話，清掃分担，大学との連絡関係，PTA活動計画，その他

(イ) 様々な面から幼稚園の活動を共通理解し，見通しを持って行うことができた。

イ 園庭の教育環境の見直しと充実

(ア) 水生動物に親しみ，水と遊ぶ池（ドーナツ池）の設置と活用

(イ) 体力づくりをねらったターザンロープ，登り棒付きのリサイクルステーションの設置

(ウ) 連続性のある既存遊具の活用を図るために築山の奥に手づくりタイヤロープとヒューム管3本組の設置

(エ) 附属パティオの活用方法と飼育小動物の検討，幼児とのかかわりを深めるカメ，ザリガニの飼育

ウ 自然体験を重視し，年間を通した「緑の小道」の活用と学年に応じた活用方法についての検討

エ 地域の教育力の活用

園行事に地域の人材を交えることにより幼児の興味関心を高めることができた。

オ　他園との交流，園内異年齢交流の促進

(ア)　柏崎常磐高等学校付属幼稚園との交流

(イ)　園行事と関連付けて意図的に交流の場を多く設定してきた。年少中児は年長児の行動様式を学び，遊びの面でよい刺激を受け，年長児はリーダー性を発揮する機会となり，年少中児に思いやりの気持ちをもって接することもでき，互いに望ましい関係を築いていきつつある。

カ　家庭，地域に開かれた園を目指して幼児教育研究会の他に，２月に幼児教育講演会を実施し，県内小学校，幼稚園，保育所，本園及び他園の保護者の方々にも参加していただき，幼児の健康について研修し，情報交換をすることができた。

キ　確かな連続性を図った附属小学校との連携

(ア)　互いの研究会への参加を通した相互理解と連続した研究推進

(イ)　連絡入学についての綿密な打ち合わせと入学後の対応の仕方についての検討

ク　実践と理論とのかかわりを重視した大学との連携

幼児教育講座教官の指導助言及び障害児教育講座教官との合同学習会の実施

# 第四章　各教官の研究活動及び社会との連携

# 第四章　各教官の研究活動及び社会との連携

## 1　各教官の研究活動及び社会との連携に関する状況調査の概要

各教官の研究活動及び社会との連携については，自己評価等委員会が行う自己点検・評価項目に基づき，下記の項目に関して各教官に調査を実施して，これを取りまとめた。

(1)　研究活動

①　現在の研究状況

②　研究成果の発表状況

③　共同研究（小・中・高等学校教員との共同研究を含む。）の実施状況

④　国際研究プロジェクトへの参加状況

⑤　学会活動への参加状況

⑥　国内外の学術賞の受賞状況

(2)　社会との連携

①　社会的活動状況

調査対象期間は平成10年４月１日から平成11年３月31日までとし，調査対象教官数は187人(学長，副学長及び平成10年度途中転出者を除く。）である。このうち，調査票を提出した教官は176人（回収率94.1%）であった。

## 2　調査のデータ集計結果

(1)　研究成果の発表状況

| 区　　分 | 調査対象教官数 | 研究成果の発表状況 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | ①<br>著　書 | ②<br>論　文 | ③<br>作品・演奏発表，競技歴等 | ④<br>教育実践に関する業績 | ⑤<br>学会等における口頭発表 | ⑥<br>その他 |
| 教育基礎 | 8 | 7(　0) | 11(　11) | | | 3 | 4 |
| 教育経営 | 6 | 1(　0) | 9(　8) | | | 2 | 3 |
| 教育方法 | 6 | 4(　0) | 16(　16) | | 1(　1) | | 6 |
| 生徒指導 | 5 | 1(　0) | 4(　1) | | | 2 | 4 |
| 学校教育研究センター | 7 | 6(　0) | 18(　2) | | 1(　0) | 13 | 9 |
| 幼児教育 | 8 | 2(　1) | 17(　9) | | 8(　4) | 5 | 4 |
| 障害児教育 | 13 | 6(　1) | 21(　13) | | | 26 | 2 |
| 言語系（国語） | 11 | | 30(　27) | 3 | 6(　6) | 6 | 6 |
| 言語系（外国語） | 11 | 5(　1) | 21(　19) | | 2(　0) | 6 | 1 |
| 社会系 | 18 | 7(　2) | 22(　12) | | 4(　0) | 20 | 3 |
| 自然系（数学） | 11 | | 20(　12) | | | 11 | 5 |
| 自然系（理科） | 18 | 8(　1) | 30(　9) | | 15(　0) | 40 | 4 |
| 芸術系（音楽） | 16 | 5(　2) | 11(　11) | 42 | 1(　1) | 2 | 12 |
| 芸術系（美術） | 15 | 2(　1) | 8(　8) | 165 | | | 3 |
| 生活・健康系(保健体育) | 15 | 6(　0) | 25(　3) | 5 | 9(　3) | 16 | 4 |
| 生活・健康系（技術） | 8 | 3(　0) | 12(　3) | 2 | 1(　0) | 27 | 4 |
| 生活・健康系（家庭） | 11 | 11(　0) | 26(　3) | | 4(　1) | 41 | 3 |
| 合　　計 | 187 | 74(　9) | 301(167) | 217 | 52(　16) | 220 | 77 |

注）著書，論文，教育実践に関する業績については，単著を（ ）書き内数で示す。

(2) 共同研究の実施状況等

| 区　　分 | 調査対象教官数 | 共同研究の実施状況 | 国際研究プロジェクトへの参加状況 | 学会活動への参加状況 | 国内外の学術賞の受賞状況 | 社会的活動状況 | そ の 他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教育基礎 | 8 | | | 14 | | 25 | |
| 教育経営 | 6 | 3 | | 9 | | 7 | |
| 教育方法 | 6 | 1 | | 12 | | 29 | |
| 生徒指導 | 5 | 5 | | 14 | | 42 | |
| 学校教育研究センター | 7 | 15 | | 15 | | 43 | |
| 幼児教育 | 8 | 14 | | 13 | | 28 | |
| 障害児教育 | 13 | 12 | | 25 | 1 | 63 | 3 |
| 言語系（国語） | 11 | 4 | 1 | 24 | | 20 | |
| 言語系（外国語） | 11 | 4 | 2 | 25 | | 10 | |
| 社会系 | 18 | 18 | 2 | 44 | | 61 | |
| 自然系（数学） | 11 | 8 | | 10 | 1 | 9 | |
| 自然系（理科） | 18 | 22 | 2 | 51 | 1 | 59 | |
| 芸術系（音楽） | 16 | 2 | 1 | 5 | 1 | 37 | |
| 芸術系（美術） | 15 | 10 | 1 | 25 | | 43 | |
| 生活・健康系(保健体育) | 15 | 4 | 1 | 29 | 1 | 55 | |
| 生活・健康系（技術） | 8 | 5 | 3 | 14 | 1 | 23 | |
| 生活・健康系（家庭） | 11 | 10 | 1 | 31 | | 28 | |
| 合　　計 | 187 | 137 | 14 | 360 | 6 | 582 | 3 |

## 3　各教官のデータ

**【凡例】**

(1) 掲載は，各講座等ごとに，教授，助教授，講師，助手の順とし，それぞれ五十音順とした。

(2) 職名は，平成11年３月31日現在である。

(3) 研究成果の発表状況の該当項目は，次のとおり省略した。

著】…著書

論】…論文

作】…作品・演奏発表，競技・指導・審査歴

業】…教育実践に関する業績

発】…学会等における口頭発表

他】…上記以外の研究成果の発表状況

(4) 共同研究には，小・中・高等学校教員との共同研究を含むこととした。

(5) 本学附属学校の研究会指導者は，掲載しないこととした。

(6) 他大学等の非常勤講師は，掲載しないこととした。

(7) 上記のほか，原則として各教官から提出されたデータのとおり掲載した。

＜教育基礎講座＞

新　井　郁　男（教　授）

現在の研究状況

①　専門分野の研究状況

学校における時間，特に，休み時間における子どもの行動に関するエスノグラフィー的研究や歴史的に業績をあげた人材，その他多様な人物についての自伝・表田によって，青少年期の体験，他者との出会いなどについて分析を従来の継続として行った。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

社会教育主事の資格付与にかかわる授業科目，特に，社会教育計画においては，国立妙高少年自然の家の専門スタッフなどの協力を得て，同自然の家において体験的な活動を中心にして行った。

研究成果の発表状況

著】平成10年６月：『こうしてつくった総合学習』（監修）教育開発研究所，平成10年６月：『人はなぜいじめるのか』（単訳）教育開発研究所，平成10年６月：『特色ある学校の創造』（編著），平成10年８月：『子どもと教師の関係づくり』（編著）教育開発研究所，平成10年10月：『ゆとりある学校の創造』（編著）教育開発研究所，平成10年12月：『保護者と教師の新しい関係づくり』（編著）教育開発研究所，平成11年２月：『柔軟な教育課程の編成（編著）教育開発研究所

論】平成10年11月：『心の健康と地域の健康』（単著）社会教育 pp.8-11，平成10年12月：『高等学校に求められる者』（単著）中等教育資料 pp.10-13，平成11年２月：『“開かれた学校”で特色を出す―どんな交流が可能か―』（単著）学校運営研究 pp.14-16，平成11年２月：『ユネスコにおける国際協力の理念』（単著）社会教育 pp.32-33，平成11年２月：『「学校評議員制度」の意義を考える』（単著）教育展望 pp.4-13

他】平成10年12月～：『ゆとりの文化』新潟日報（毎月第２金曜日連載），『「持つ」文化と「ある」文化』野外文化（２か月に１回連載）

学会活動への参加状況

日本教育社会学会，日本生涯教育学会，日本学校教育学会，日本国際理解教育学会，教育実践学会，関東教育学会，アメリカ教育学会，教育と時間研究会などの年次研究大会に出席

社会的活動状況

学術審議会専門委員（文部省），富山県生涯学習審議会委員（富山県），アメリカ教育学会会長，日本学校教育学会会長，関東教育学会会長，教育と時間研究会会長，日本教育社会学会・日本生涯教育学会・日本国際理解教育学会理事，上越市生涯学習構想策定委員長，上越市学校適正配置審議会委員長，上越市環境影響評価会最主宰者，上越市女性政策推進委員会委員，新潟県安塚町生涯学習長期計画策定委員会委員長，新潟県名立町生涯学習推進委員会顧問，新潟県中郷村生涯学習推進会議アドバイザー

前　田　　幹（教　授）

現在の研究状況

①　専門分野の研究状況

教育人間学の研究を継続している。特に，QOL を中心概念としてユーモアの生にとっての意味を考察してきた。

研究成果の発表状況

他】平成10年４月：『四季想』（深堀印刷）

**社会的活動状況**

新潟県社会福祉協議会委員，新潟県社会福祉審議会委員(児童福祉専門分科会会長)，新潟県保健医療推進協議会委員，新潟県UPO参加社会推進のための意見交換会委員，社会教育主事講習（新潟大学)，板倉町生涯学習アドバイザー，新潟県社会福祉「地方財政」配分委員（委員長)，新潟県長寿社会振興財団運営委員

## 増　井　三　夫（教　授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

・平成７年～平成９年度科学研究費補助金基盤研究(C)「学区の行政的団体化と公共性に基づくドイツ（プロイセン）学区制度成立史の実証的研究」にひき続いて，継続研究平成10年～平成13年度同基盤研究(C)「ドイツ近代社会の学区編成にともなう文化変容と社会的規律化の実証的研究」に着手している。

・ドイツの若者文化論

②　教育活動の実施・改善の研究状況

学部の教育史（２年次）と外国史II（３年次）は，講義ノートについて歴史的図版を利用しながら全頁を学生に提供し，理解を確かめ，更に受講態度について極めて厳しい条件を求め講義した。大学院の教育史特論と教育史演習Ⅰ・IIについては，学校・教室における「規律化」と「公共性」の実現可能性について論じた。

**研究成果の発表状況**

論】平成11年３月：『現代ドイツにおけるネオナチ•ユーゲントの文化(5)』（単著）上越教育大学研究紀要第18巻第２号 pp.806-825

他】書評　遠藤孝夫著『近代ドイツ公教育体制の再編過程』（創文社1996年)『法制史研究』47　法制史学会年報，書評　別府昭郎著『ドイツにおける大学教授の誕生―職階制の成立を中心に』（創文社1998年)『教育学研究』第66巻２号　日本教育学会

**学会活動への参加状況**

10月３～４日：教育史学会出席，10月16～18日：社会思想学会出席

## 杵　淵　俊　夫（助教授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

J.Deweyの「論理学＝探究の理論」における日常的な目的＝手段関係の思考と因果関係の科学的分析との混同の批判，郷土教育運動の教育民俗学的考察，学習過程における気づきの過程の意味文脈的な構造の分析，を行っている。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

「教育学特論」（大学院）では，学校教育とムラの成員形成の民俗との交渉過程を分析する，教育民俗学の視点からの考察を試みて，院生と議論した。

「教育本質論」（学部一年必修）においては，学問的興味への導入と就職試験への準備という，異質な観点の統合を試みつつ，試験問題の構成に工夫して，３回の大試験を行った。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年５月：『「状況」判断への問いにめざめるということ―J.Deweyの「経験」再構成の哲学の核心―』（単著）によって「博士（教育学)」の学位を取得，平成10年６月：『J.Deweyにおける「探究」と「評価」

の関係』（単著）日本デューイ学会紀要　第39号 pp.79-85，平成10年９月：『教育民俗学の試み―「もう一つの教育」から学校教育を相対化して見ること―』（単著）上越教育大学研究紀要　第18巻１号 pp.1-23

発】平成10年９月：『教育民俗学の試み―農村経済更生運動と郷土教育―』（単）東北教育哲学教育史学会第31回大会　研究発表，平成10年９月：『「手段―目的」関係の追究と因果関係の探究の違いについて―J.Deweyの「評価の理論」を中心として―』（単）日本デューイ学会第42回研究大会　研究発表

**学会活動への参加状況**

平成10年９月12日：東北教育哲学教育史学会第31回大会出席，９月19日～20日：日本デューイ学会第42回研究大会出席，10月17日～18日：教育哲学会第41回大会出席

**内　藤　美　加**（助教授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

心的表象の理解能力の発達に関する研究を継続して行っている。今年度は，特にこの能力と言語発達との関係について諸研究の展望を行った。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

教育心理学実験（学部）の授業では，心理学の基礎的な実験法を内容として構成し，心理学の研究方法と報告書の作成に関する知識と技能を高めた。また教育心理学演習（大学院）では，最近の認知心理学の成果を取り込んだ文献を講読し内容を受講者に口頭発表してもらうことで，内容の理解と口頭発表の技能を高めた。

**社会的活動状況**

12月12日：日本自閉症協会研修講師（「自閉症の心理学」を講演）

**若　林　明　雄**（助教授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

パーソナリティをキーワードとする理論的及び実証的研究を引き続き行っている。今年度は，子どもによるパーソナリティ概念の理解に関する実証的データの収集と分析を行い，その成果をイギリスで開催された第９回欧州パーソナリティ学会において報告した。また，自伝的記憶とパーソナリティの関係について実証的研究をするための基礎として関連する先行研究について理論的に展望を行った。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

人格心理学特論の授業では，欧米の研究論文を中心に最新の研究成果を十分に考慮した上で講義の内容構成を検討し，内容の理解を深める努力をした。また，教育調査統計法特論の授業では，各受講者の課題研究に即した研究計画の作成やデータの処理，解釈の理解を目的として，理論的基礎を十分に理解させるとともに，実践的応用を実例に即して提示する工夫を試みた。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年９月：『パーソナリティと記憶の関係についての基礎的検討：記憶過程における個人差研究の動向』（単著）上越教育大学研究紀要　第18巻第１号 pp.25-45，平成11年３月：『自伝的記憶の構造と特徴に関する基礎的検討：自伝的記憶への個人差アプローチへの序論』（単著）上越教育大学研究紀要　第18巻第２号 pp.827-851

発】平成10年７月：『Children's use and comprehension of trait terms』（単）9th European Conference on

Personality University of Surrey U.K.

**大　前　敦　巳**（助　手）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

フランスの社会学者，ピエール・ブルデューのプラティック（慣習行動）理論を基礎に，日仏両国の学校教育をめぐるプラティックに関する調査研究を継続して行っている。本年度は9月より文部省在外研究員として，フランス国立社会科学高等研究院教育文化社会学センターに派遣され，ブルデュー氏の共同研究者であるドミニック・メルリエ氏の下で，特にフランスの教育と社会移動の問題について研究した。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

本年度は，9月以降は在外研究のため教育活動に携わることができなかったが，本学の教官及び学生とは，インターネットの電子メールを用いて連絡を取りながら，学生の質問等に答えられるようにした。在外研究の出発前には，学部1年次生の基礎演習，大学院生の課題研究等に加わることにより，教育活動に貢献することに努めた。

**学会活動への参加状況**

6月13日～14日：日本国際理解教育学会第8回大会（於上越教育大学）に大会準備委員会幹事として参加

**＜教育経営講座＞**

**西　　穣　司**（教　授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

教師の職能発達の機序と過程に関する研究を継続して行っている。今年度は，特にイギリス（イングランドとウェールズ）の教育課程開発についての事例研究に焦点を当てて分析・考察した。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

大学院修士課程の「学校経営演習」及び「学級経営演習」の授業では，特に研究方法の検討・吟味の重要性を指摘し，さらに研究過程や研究成果における「理論知」と「実践知」の異同に十分留意することを受講者に要請して，授業効果を高めるよう努めた。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年3月：『「校務分掌」見直しの今日的課題―学校の変わりにくい組織特性を見据えて―』（単著）学校経営　第43巻第4号所収 pp.6-14，平成10年3月：『教師の個人特性に深く配慮した現職教育プログラムの必要性と課題―現職教師対象の遠隔教育の実り多い展開のために―』（単著）代表者　西之園晴夫（鳴門教育大学教授）「（平成8・9年度文部省科学研究費補助金研究成果報告書）インターネットを利用した現職教育のための遠隔教育に関する基礎研究」所収 pp.78-86，平成10年6月：『児童・生徒の家庭の実態を把握する視点』（単著）新井郁男編「特色ある学校の創造―21世紀型課題への対応―」教育開発研究所所収 pp.64-69，平成11年1月：『いつの時代も教員に求められる資質能力』（単著）pp.28-29　『今後特に教員に求められる具体的資質能力』（単著）pp.30-33　『得意分野を持つ個性豊かな教員の必要性』（単著）pp.34-37　高倉翔編「新時代の教員養成・採用・研修システム」教育開発研究所所収，平成11年2月：『教職員研修の見直しと研修休業制度の創設をどう進めるか』（単著）教職研修　第27巻第6号所収 pp.54-57

**共同研究の実施状況**

教職課程における教育内容・方法の開発研究（教職の意義等に関する科目）　代表者：西　穣司　文部省教

育助成局委嘱研究

**学会活動への参加状況**

6月5日～7日：日本教育経営学会第38回大会出席，7月4日～5日：日本カリキュラム学会第9回大会出席，8月1日～2日：日本学校教育学会第13回大会出席

**社会的活動状況**

日本教育経営学会理事・紀要編集委員，日本学校教育学会理事・機関誌編集委員，北海道立教育研究所研修講座講師（「教育課程経営の課題と展望」及び「学校教育の課題と学校経営」を講義）

## 古　賀　一　博（助教授）

**現在の研究状況**

① 専門分野の研究状況

米国教員人事行政制度に関する研究を継続して行っている。本年度は，9月1日よりそのための長期調査研究として米国カリフォルニア大学バークレー校教育大学院へ文部省在外研究員として出張した。（10ヶ月）

② 教育活動の実施・改善の研究状況

（学部）教育制度学の授業では，戦後我が国の教育制度を学校種，目的別に分類整理した上で概説し，我が国教育制度に関する基礎的知識の効果的修得のための工夫を行った。

（大学院）比較制度学特論の授業では，比較教育制度学的視点から最近の米国教育改革に関する関係一次資料を使用しつつ，教育制度を取り巻く今日的な改革動向の理解を高める工夫を行った。教育制度特論及び教育制度演習の授業では，前述した最新の研究成果に基づきつつ，米国公立学校教員人事行政の今日的態様とその内包する課題について討論し，あわせて我が国教員人事行政への示唆という点から内容の深まりに努めた。

**研究成果の発表状況**

著】平成10年8月：『新時代の学校管理職必修法規』第1巻（共著）教育開発研究所

論】平成11年3月：「『自由の地』教科書紛争後におけるカリフォルニア州教科書行政の態様と問題点―州教育課程委員会の活動と専門家援助の必要性―」（単著）上越教育経営研究会編『教育経営研究』第5号　pp.5-18

**学会活動への参加状況**

平成10年4月25日：上越教育経営研究会第5回大会出席，平成10年6月5日～7日：日本教育経営学会第38回大会出席，平成10年8月1日～2日：日本学校教育学会第13回大会出席

**社会的活動状況**

アメリカ教育学会理事，上越教育経営研究会紀要編集副委員長，日本学校教育学会理事

## 荻　原　克　男（講　師）

**現在の研究状況**

① 専門分野の研究状況

現代日本の教育政策・行政の展開過程に関する研究を継続中。具体的には，①1960年代における構造的社会変容（就業人口構成の変動，職業と教育との接合様式の変容，教育機会の急速な拡大等）と教育政策展開との関連性に関する研究，②教育勅語体制（法制）と教育基本法体制（法制）との史的比較研究。いかんながら，いずれも公表に値する成果を得るには至らなかった。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

できるだけ具体的な素材（事実）を提示し共有しながら，教育事象を理論的に捉えるとはどういうことか

をともに考えようとしている。学部の授業は昨年の反省をふまえ(学生の自発的探求心を喚起しえていない，自分なりの判断や意見を作る力が不足しているのではないか等）ディベート形式を導入。今年度はいちおう自発性は高まり，討議力・プレゼンテーション技術は身についたようではあるが，内容的知識や丹念な思考課題はほとんど扱われなかった。とうぶん（いつまでも？）続く試行錯誤。

**研究成果の発表状況**

他】1996年の著書が書評に取り上げられ（『日本教育行政学会年報24号』），それへのリプライを掲載

**安　藤　知　子**（助　手）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

教師の教育行為のメカニズムに関する研究を継続して行っている。特に今年度は，行為の選択基準として規定要因となる他者からの「期待のまなざし」について，教育委員会及び社会一般の期待する教師像に焦点を当てた分析・検討を行った。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年５月：『教員採用試験の現状と教育委員会の意識―教育委員会アンケート調査報告―』(共著)　教員採用選考の現状と改善課題（全国私立大学教職課程研究連絡協議会「教員採用問題検討委員会」ワーキンググループ報告書）　pp.13-24

発】平成10年５月：『教員採用試験の現状と教育委員会の意識』（共）　全国私立大学教職課程研究連絡協議会第18回研究大会　分科会発表，平成10年６月：『教育委員会が新任教員に期待する「教員の社会性」に関する考察』　日本教育経営学会第38回大会　自由研究発表

他】平成10年９月：『教員採用試験―社会情勢を如実に反映―』　教員養成セミナー別冊　pp.58-59，平成11年３月：『学習指導要領の変遷―「試案」から完全学校週５日制へ―』　教員養成セミナー別冊　pp.89-95

**共同研究の実施状況**

人口構造の変容に伴う教員養成・採用の現状と課題に関する総合的調査研究　代表者：三輪定宣（千葉大学教授）　科学研究費補助金，教職課程における教育内容・方法の開発研究　代表者：西　穣司（上越教育大学教授）　文部省委嘱研究

**学会活動への参加状況**

５月22日～23日：全国私立大学教職課程研究連絡協議会第18回研究大会出席，６月６日～７日：日本教育経営学会第38回大会出席，８月１日～２日：日本学校教育学会第13回研究大会出席

**社会的活動状況**

教員採用問題検討委員会ワーキンググループ調査員（全国私立大学教職課程研究連絡協議会）

**＜教育方法講座＞**

**高　田　喜久司**（教　授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

授業理論の歴史的展開及び授業改善をめざす理論と実践の統合に関する研究を継続して行っている。今年度は特に，中教審答申にみる「生きる力」や教課審の「答申」の内容に関わる諸問題の基本的観点について検討を行い，年報や雑誌論文として発表した。もう一つの研究課題であるパーカーの教授理論については，「表現論」の資料が整えつつあるので執筆に取りかかる段階にきている。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

学部，大学院とも中教審答申「生きる力」や教課審答申の背景に関わる内容も取り込んだ授業構成を企図した。授業の実施にあたっては学習意欲の喚起・維持に腐心している。学部では主としてVTR教材の導入等で好結 果を得たが，受講生の多い院生の授業については苦慮している。研究室ゼミは例年どおり，学部生のみのゼミ，院生のみのゼミ，学部・院生合同ゼミの3形態で文献の読み深めを行ったが，その際ブレーン・ストーミングの技法を導入し，参加型討論を可能にし好結果を得た。今後もこの技法を継続していきたい。

**研究成果の発表状況**

著】平成10年10月：『ゆとりある指導方法を工夫する上でのリーダーシップ―小学校―』（共著）新井郁男編集「ゆとりある学校の創造」所収　教育開発研究所

論】平成10年4月：『実践教育改革キーワード集（29項目）』（単著）小学館「総合教育技術」付録，平成10年4月：『学校間の連携・交流をどう進めていくか』（単著）教育開発研究所「教職研修4月号」，平成10年7月：『「修養・教材研究・学問研究」の重要性』（単著）明治図書「現代教育科学7月号」，平成10年7月：『教育内容の厳選は可能か』（単著）「週刊教育資料No.548」，平成10年9月：『教課審答申―そのポイントと解説―『子どもが輝き・子どもの学びが生きる』教育課程の改善』（単著）第一法規「学校経営9月号」，平成10年10月：『中学校段階の役割の基本をどうとらえるか』（単著）教育開発研究所「教職研修10月号」，平成10年11月：『今日的な『問題解決学習』の様相』（単著）教育公論社「週刊教育資料No.600」，平成11年1月：『一斉指導で期待される学習習慣の確立』（単著）明治図書「授業研究21」，平成11年3月：『プロジェクト法』（単著）学校教育研究所「年報・第43号」，平成 11年3月：『小・中学校社会のキーポイントと学習指導の充実』（単著）教育調査研究所「教育展望3月号」，平成11年3月：『基礎的・基本的な内容と学習指導の工夫』（単著）高田教育研究会「教育創造・131号」

**学会活動への参加状況**

8月1日～2日：日本学校教育学会第13回研究大会（埼玉短期大学）出席，9月27日：アメリカ教育学会大会（上越教育大学）出席，11月7日～8日：関東教育学会第46回大会（筑波大学・学校教育部）出席，11月14日～16日：日本教育実践学会（岡山大学）出席

**社会的活動状況**

新潟県NIE（新聞活用教育）推進協議会会長，文部省委嘱事業「子どもたちの『生きる力』を育むための学習プログラムの研究開発」調査検討委員会委員長（新潟県），日本学校教育学会常任理事・機関誌編集副委員長，関東教育学会常任理事・事務局長，アメリカ教育学会事務局幹事，日本教育実践学会副会長

なお，以下の研修会講師として指導・講演を行った（講演のテーマは省略）。

沼津市3校合同研修会，上越市立八千浦小学校校内研修会（3回），新潟県新任教頭研修会，新潟県小・中・特殊新任研究主任研修会，富山県新任教務主任研修会，南蒲原郡PTA協議会講演会，大町小学校校内研修会，上越地区生徒指導研究会，新潟県新任教務主任研修会，氷見市立東小学校校内研修会（2回），富山県高校初任者研修会，中越社会科教育研究会，長野市教育大綱指定研究会，松本市幼年教育研究会，氷見市教育フォーラム，NIE上越地区ネットワーク部会等々

## 平　山　満　義（教　授）

**現在の研究状況**

① 専門分野の研究状況

授業での指導効果要因を探索するための調査・実験研究を行っている。今年度は特に，量的研究と質的研究の統合を図って，より真に近い効果要因の探索のための研究方法モデルの開発を行っている。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

大学院の授業分析法演習では，小学校の授業に現職派遣院生を送り込み，２週間にわたる参与観察法を継続的に行わせ，子どもたちの学習のつまずきの要因を質的に探索させた。

**研究成果の発表状況**

著】平成11年３月：『マルチメディア社会と情報教育』（編著）紫峰図書出版

論】平成10年10月：『新学習指導要領と教育方法の変遷』（単著）小学館　総合教育技術 pp.34-35

**学会活動への参加状況**

９月26日～28日：日本教育工学会出席，10月３日～４日：日本教育方法学会　課題研究のコーディネーター

小　林　　恵（助教授）

**現在の研究状況**

① 専門分野の研究状況

アメリカにおけるカリキュラムの動向について時代を追って研究している。今年度は，特に1890年代の「大学入学要件委員会」から当時のカリキュラムの編成とその結果について考察を一次資料から試みた。これは研究紀要「『大学入学要件委員会』に関する研究」にまとめることができた。並行して現在の動向，すなわちチャーター・スクールに関する資料の分析をしている。またカリキュラムの統合について現在の日本の教育課程を検討中。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

学部では教育課程論，大学院では教育課程特論，教育課程演習を担当。学部授業においては主として教育課程の基礎的事項，学習指導要領について講義。大学院の特論では現職教員から問題点を聞きつつ，教育課程編成の工夫を指導。演習ではhumanistic educationに関わるカリキュラムと商業高校におけるカリキュラムを現在の学校教育に関する問題から掘り起こし，広い視野を与えるような指導上の配慮をした。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年９月：「『大学入学要件委員会』に関する研究」（単著）上越教育大学紀要 pp.47-60

**学会活動への参加状況**

７月４～５日：日本カリキュラム学会第９回大会出席，９月26～27日アメリカ教育学会第10回大会出席

**社会的活動状況**

アメリカ教育学会事務局幹事（会計担当）

田　中　　敏（助教授）

**現在の研究状況**

① 専門分野の研究状況

心理分析・教育評価に関する研究を継続して行っている。

**研究成果の発表状況**

論】平成11年３月：『新教育課程の評価のあり方を考える――評価を実務面から考える――』（単著）　指導と評価 pp.42-45

業】平成10年４月：『大学の教育改革から発想する』（単著）　学校教育（広島大学附属小学校学校教育研究会）pp.18-23

他】平成10年９月～12月：『教師のためのやさしい教育統計学』（単著）　理科の教育（月１回，計６回連載）

**学会活動への参加状況**

平成10月７月17日～19日：教育心理学会第40回総会出席

**社会的活動状況**

平成11年３月：第９回心の健康会議シンポジスト（臨床心理士資格認定協会）

**中　山　勘次郎**（助教授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

児童・生徒の学習動機づけに対する社会的文脈の影響に関する研究を継続して行っている。今年度は，特に児童の学習動機づけの内在化について研究を行い，両親との関係性の影響について探索的な検討を開始した。中学校の授業場面における生徒の学習目標と動機づけとの関係についての研究も継続中である。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

大学院『学習心理学特論』では，最新の動機づけ研究の成果をとり入れながら，原因帰属理論や内発的動機づけ理論，目標理論等代表的な動機づけ理論に関して，できるだけオリジナルな実験結果を解説しながら，理解を高める工夫を行った。

**研究成果の発表状況**

著】平成10年７月：『学習（スクールカウンセラー事例ファイル第５巻）』（分担執筆）　福村出版，平成10年９月：『スクールカウンセラーと学校心理学』（分担執筆）　教育出版

論】平成11年３月：『あきっぽい子をつくる教師』（単著）　児童心理 pp.49-54，平成11年３月：『親の関与行動と児童の関係性欲求の測定』（単著）　上越教育大学研究紀要 pp.853-864

**学会活動への参加状況**

10月８日～10日：日本心理学会第62回大会出席

**社会的活動状況**

日本教育心理学会編集委員

**尾　島　　卓**（助　手）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

相互主体的関係の成立を視座として「授業成立」構造と展開に関する研究を行っている。特に今年度は，戦後我が国の教授学研究において「授業成立」の思想と方法を構想する際に重要な役割を果たした「矛盾」概念の見直し及びこれまでの授業指導論が前提としていた世代間落差ではなく世代間協同を射程に入れた現代先進実践の構造化を通して授業の過程的性格についての検討を行った。

**共同研究の実施状況**

新潟・千葉・金沢・茨城各大学の教育方法学研究者が参加する「北関越授業研究さーくる」において「学習集団論の新しい展開」に関する理論的検討を行っている。

**学会活動への参加状況**

10月３日～４日：日本教育方法学会出席，３月27日：日本教育方法学会・研究推進の会出席

**社会的活動状況**

新潟県下の教員による自主的な授業研究サークル「北陸授業研究会」及び「糸魚川サークル」における研究推進のための指導・助言，新潟・金沢・千葉・茨城各大学の教官・学生の参加する「４大学合同授業研究」で

の指導・助言，民間研究団体「現代学習集団授業研究会」理事

＜生徒指導講座＞

**松　元　泰　儀**（教　授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

昨年までに引き続き，児童•生徒の不適応行動のアセスメント及びトリートメントに関し，自検事例，県•市の教育センター，小・中・高教師・院生へのスーパービジョン事例の積み重ねの方法で，不適応行動の心理機制，治療（指導）•援助の在り方，学校教師•親の対応の在り方についてのとりまとめの作業を行っている。本年度は，登校拒否，家庭内暴力，傷害，集団万引，性非行に見られる親子関係の病理を明らかにしたうえで，親への指導・援助の在り方についてまとめた。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

大学院における生徒指導演習・心理診断演習において，文献講読に加えて，院生自身の事例に基づき，理解•援助の在り方につき検討し，深めるようにした。また，学部の臨床心理学において，心理検査を施行し，それを手がかりに自分自身を考えさせ，自己理解を深めた。

**研究成果の発表状況**

著】平成10年５月：『スクールカウンセラー事例ファイル』（共著）福村出版

論】平成10年７月：『青年心理学概論』（共著）誠信書房

**学会活動への参加状況**

７月18日～20日：日本教育心理学会出席　共同発表，９月18日～21日：日本心理臨床学会出席

**社会的活動状況**

新潟県教育委員会スクールカウンセラー派遣事業の訪問カウンセラー，新潟県教育センターのカウンセリング研修講師，上越市教育センター登校拒否研修講師，日本犯罪心理学会編集委員

**犬　塚　文　雄**（教　授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

児童生徒の情意・社会面の発達援助プログラムの開発研究を継続して行っている。今年度は，特に文部省委嘱研究の第１年目として，「心の教育と教員養成カリキュラム」に関連する資料収集を重点的に行った。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

心の教育の実践的な支援の手立てとして，学校カウンセリングと学校グループワークの在り方と方向性を総合的に検討してきた。関連授業では，できるだけ演習形式を取り入れた展開になるように努めている。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年４月：『女子中学生に対する行動目録法の適用に関する事例研究』(共著)　学校教育相談研究　第７・８合併号 pp.48-55，平成10年４月：『書記的方法を用いた教育相談手法の開発に関する一研究』（共著）スクールカウンセリング越佐　第１号 pp.10-18

発】平成10年８月：『女子中学生に対するLAC法適用に関する研究（その３）（その４）』（共）　日本カウンセリング学会第31回大会　研究発表

他】平成10年６月：坂本昇一監修『心の教育をめざす学校教育』（教育開発研究所）に分担執筆，平成10年６月～12月：新井郁男編集『新しい学校を創るリーダーシップ第１巻～第４巻』（教育開発研究所）に分担執筆，

平成10年12月：『分かち合いと練り上げの深化』（単著）　特別活動研究　第31巻13号　pp.12-13，平成11年1月：『子どもたちの心は今』（単著）　教職課程　第25巻第１号 pp.66-69

**共同研究の実施状況**

「心の教育」に着目した教員養成カリキュラムの開発研究　代表者：犬塚文雄　文部省委嘱教職課程における教育内容・方法の開発研究事業

**学会活動への参加状況**

８月１日～２日：日本学校教育学会第13回大会出席，８月19日～20日：日本特別活動学会第７回大会出席，11月８日：関東教育学会第46回大会出席

**社会的活動状況**

国立教育会館学校教育研修所主催シンポジウムにシンポジストとして協力，新潟県教育委員会「カウンセラー派遣」事業に訪問カウンセラーとして協力，新潟県教職５年・12年経験者研修会に講師として協力，富山県城端中学校（文部省指定研究校）にて指導助言，上越市立教育センター主管カウンセリング研修会に講師として協力，その他，石川県高等学校生徒指導研究会・上越生徒指導研究会・頸城村教育委員会・清里村教育委員会・北城高校・関根学園高校・福井県敦賀高校・東京都都立大学附属高校・城西中学校・直江津中学校・八千浦中学校・蟹谷中学校・春日小学校・南川小学校・大手町小学校・高田幼稚園等の研修会に講師として協力

**勝　倉　孝　治**（助教授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

カウンセリングの過程及びその効果に関する研究を継続して行っている。今年度は，特に継続的なカウンセリング実習の効果についてのデータの収集及び分析を試みた。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

カウンセリング演習の授業を，大学院学生の要望により，後期も継続して行った。また，本学保健管理センターにおいて，学部・大学院学生に対するカウンセリングを実施した。

**共同研究の実施状況**

教師による学校カウンセリングに関する研究　代表者：井上忠典（上越教育大学学校教育研究センター），生徒指導の理論と方法　代表者：犬塚文雄（上越教育大学）

**学会活動への参加状況**

８月２日～３日：日本カウンセリング学会出席，９月18日～21日：日本心理臨床学会出席

**社会的活動状況**

文部省スクールカウンセラー活用調査事業（１回８時間／週），新潟県スクールカウンセラー派遣事業（１回２時間×３回），地域の生徒・保護者に対する教育相談，新潟県臨床心理士会研修会主催（１回３時間×２回），妙高村立原通小学校研修指導者（主に構成的グループエンカウンターの指導・助言；２回／月），初級産業カウンセラー資格認定試験委員（２日），新井市養護教員研修会（２回），富山県学校カウンセリング講座（初級）講師（４日），上越市カウンセリング研修会講師（２日），地域の児童・生徒・保護者に対する教育相談

**林　　泰　成**（助教授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

分析哲学的手法による道徳教育の研究を継続して行っている。今年度も，昨年に続き道徳教育における実

践三段論法の役割の解明に取り組んだ。また，ケアリング倫理に基づく道徳教育の在り方について研究を継続している。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

道徳教育論の授業では，最近の研究成果を取り込んで内容構成を研究し，学生自らが考え，作業する授業になるように工夫した。また，授業とは別に，道徳教育に関する研究会を主宰し，教育活動を行った。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年10月：『実践三段論法による道徳的推論の指導としての道徳教育』（単著） 上越教育大学研究紀要第18巻第1号 pp.63-76

**学会活動への参加状況**

6月13日～14日：日本道徳教育方法学会出席，10月17日～18日：教育哲学会出席，10月24日～25日：日本道徳教育学会出席，1月10日：日本道徳教育学会新潟支部第2回大会出席

**社会的活動状況**

新潟県道徳的実践活動推進会議委員（新潟県），青少年健全育成講演会講師（「地域社会と学校との連携による思いやり共同体の創造～ケアリングコミュニティの構築へ向けて～」を講演）

**田 中 輝 美**（助 手）

**現在の研究状況**

① 専門分野の研究状況

行動的カウンセリングに関する研究を継続して行っている。今年度は，特に継続的なカウンセリング実習の効果についてのデータの収集及び分析を試みた。

②教育活動の実施・改善の研究状況

本学保健管理センターで，学部・大学院学生に対するカウンセリングを実施した。

**共同研究の実施状況**

「教師による学校カウンセリングに関する研究」 代表者：井上忠典（上越教育大学学校教育研究センター），「生徒指導の理論と方法」 代表者：犬塚文雄（上越教育大学生徒指導講座）

**学会活動への参加状況**

8月1日～3日：日本カウンセリング学会及び学会主催研修会参加，9月18日～21日：日本心理臨床学会及び学会主催研修会参加，11月25日～27日：日本行動療法学会及び学会主催研修会参加

**社会的活動状況**

文部省スクールカウンセラー活用研究事業（1回4時間／週），新潟県スクールカウンセラー派遣事業（1回2時間×2回），地域の生徒・保護者に対する教育相談，新潟県臨床心理士会研修会主催（1回3時間×2回），妙高村立原通小学校研修指導者（主に構成的グループエンカウンターの指導・助言；2回／月）

**＜学校教育研究センター＞**

**中 野 靖 夫**（教 授）

**現在の研究状況**

① 専門分野の研究状況

コンピュータ操作過程の研究を継続している。今年度は特にプログラミングにおける状況認知と処理方略を解明した。この研究では操作履歴と学習者の発話を統合し，分析を行った。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

「学校と情報教育」を新規に開講，情報教育の必要性と，学校教育の対応について解説した。

**研究成果の発表状況**

論】平成11年３月：『学習者相互のコミュニケーション過程における内容と機能の分析―談話内容の構造化と発話カテゴリーの分析―』（共著）上越教育大学研究紀要　第18巻第２号 pp.901-917，平成11年３月：『情報教育を支える背景の諸要因に関する検討』（共著）上越教育大学研究紀要　第18巻第２号 pp.865-869

他】平成10年11月：『文書修正における状況認知と処理過程』（共著）日本教育工学会研究報告集 JET98-6 pp.7-12，平成10年11月：『プログラミングにおける状況認知と処理過程』（共著）電子情報通信学会技術研究報告 Vol.98 No.433 pp.21-28，平成10年11月：『プログラミング過程の認知面からの考察』（共著）電子情報通信学会技術研究報告 Vol.98 No.433 pp.29-36，平成10年12月：『コンピュータ操作過程の記録・分析支援ツール』（共著）ヒューマンインタフェース 81-2　情報処理学会 pp.7-12，平成11年３月：『インターネット上の情報探索行動の分析』（共著）電子情報通信学会技術研究報告 Vol.98 No.643 pp.1-8，平成11年３月：『「情報活用過程における状況認知と処理方略に関する実証的研究」（代表者　中野靖夫）研究成果報告書』

**共同研究の実施状況**

情報活用過程における状況認知と処理方略に関する実証的研究　代表者：中野靖夫　協力者：山形大学附属中学校 和泉嘉則　武蔵野市立第五中学校 小岩寿之　科学研究費補助金

**社会的活動状況**

電子情報通信学会教育工学研究会研究専門委員，日本教育実践学会　監事

**菅　岡　強　司**（助教授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

ア　算数・数学の概念・技能の習得と教材構成との関係について，従来から継続して研究している。本年度は，特に中学校数学における確率概念の指導のあり方について検討した。

イ　実地教育課程について，主として調査研究によって研究している。

ウ　国語科教育について，方法論を中心に研究している。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

「教育実地研究II」では，＜教材構成＞というテーマで，教材研究の力を高めることも可能なように配慮した，算数の教材づくりの演習を行った。

**研究成果の発表状況**

著】平成10年９月：『完全学校五日制下の教育課程』（分担）　教育開発研究所

論】平成10年９月：「中学校数学における確率概念の指導」（単著）　上越教育大学研究紀要　第18巻第１号 pp.77-90

発】平成10年７月：日本カリキュラム学会第９回大会　課題研究（単）発表

**共同研究の実施状況**

国語科の指導内容に関する研究　代表者：菅岡強司　学校教育研究センター研究プロジェクト

**学会活動への参加状況**

７月４日～５日：日本カリキュラム学会第９回大会出席

## 南　部　昌　敏（助教授）

### 現在の研究状況

① 専門分野の研究状況

SCS と ISDN を組み合わせた多地点遠隔共同学習の開発とその有効性の検討を行った。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

学部１年対象の基礎情報処理演習では，情報リテラシーを育成するためのカリキュラム開発に取り組んだ。また，学部２，３年全員対象の教育実地研究（授業基礎研究）では，視聴覚メディアの特性とその機能の理解及び操作技法の習得，映像教材の分析構造化法の習得をめざした指導プログラムの開発に取り組んだ。さらに，大学院修士課程対象の教育工学演習では，SCS を用いた大学間遠隔共同講義「教育工学特別講義」のプログラムと遠隔教育システムの開発に取り組んだ。

### 研究成果の発表状況

著】平成11年３月：教育方法改善シリーズ『教育メディア利用の改善』（共著）　国立教育会館，平成11年３月：学校の創意工夫を生かす「総合的な学習」の展開　『情報，環境の展開』（共著）　ぎょうせい

論】平成10年10月：『SCS とマルチメディアを用いた遠隔協同学習の試みとその影響』（共著）　教育情報研究（日本教育情報学会誌）　第14巻２号 pp.21-30，平成11年３月：『SCS を活用した大学教育方法の改善に関する研究(2)～遠隔共同学習「教育工学特別講義」の試みとその分析』（共著）　上越教育大学研究紀要　第18巻２号 pp.887-899，平成11年３月：『情報教育を支える背景の諸要因に関する検討』（共著）　上越教育大学研究紀要　第18巻２号 pp.865-885，平成11年３月：『学習者相互のコミュニケーション過程における内容と機能の分析～談話内容の構造化と発話のカテゴリー分析』（共著）　上越教育大学研究紀要　第18巻２号 pp.901-917，平成11年３月：『多地点遠隔共同授業のための SCS 環境とその利用における課題』（共著）　岐阜大学カリキュラム開発研究センター研究報告　Vol.17 NO.2 pp.1-11

発】平成10年８月：『小中学校における系統的情報活動内容の策定と情報教育プログラムの試行』（共）『SCS を用いた大学間遠隔共同講義の実施と課題』（共）　『生涯学習を支援するための社会教育施設の情報化・活性化の方策～学習資源のマルチメディアデータベース化と遠隔学習の試み～』（共）以上３件　日本教育情報学会第14回年会研究発表，平成10年９月：『通信システムを用いた大学間遠隔協同講義の可能性と課題』（共）『グループ討論のカテゴリー分析における現職教員の判断』（共）以上２件　日本教育工学第14回大会研究発表，平成10年11月：『教師としての情報教育実践力及び情報リテラシーを育成するためのカリキュラムの開発と試行(1)』（共）日本教育実践学会第１回研究大会研究発表

### 共同研究の実施状況

SCS と ISDN を組み合わせた多地点遠隔共同学習の開発とその有効性の検討　代表者：南部昌敏（上越教育大学助教授）科学研究費補助金（基盤研究（(C)(2)）による共同研究（研究代表者），情報アクセスに関わる教育カリキュラムと技術的課題の体系化　代表者：岡本敏雄（電気通信大学大学院教授）科学研究費補助金（基盤研究(C)(1)）による共同研究（研究分担者），高度情報通信社会での教師教育に関わる内容・制度・形態の総合的研究　代表者：岡本敏雄（電気通信大学大学院教授）科学研究費補助金（基盤研究(A)(1)）による共同研究（研究分担者），SCS 多地点遠隔授業における教授学習情報交換の多様化に関する基礎的研究　代表者：村瀬康一郎（岐阜大学助教授）科学研究費補助金（基盤研究(C)(1)）による共同研究（研究分担者）

### 学会活動への参加状況

平成10年８月３日：日本教育情報学会第14回年会出席研究発表，平成10年９月26日～27日：日本教育工学会第14回大会出席研究発表，平成10年10月24日～25日：第５回日本視聴覚・放送教育学会出席，平成10年11月15日：日本教育実践学会第１回研究大会出席研究発表，平成10年11月27日～28日：第24回全日本教育工学研究協

議会岐阜大会コーディネータ，平成11年１月23日～24日：日本教育工学会冬の合宿研究会企画運営

**社会的活動状況**

日本教育工学会会員・評議員・企画委員会委員，日本視聴覚・放送教育学会会員・理事，日本科学教育学会会員・編集委員，日本理科教育学会会員，日本教科教育学会会員，日本教育工学協会・理事，生涯学習審議会委員（新潟県），新潟県社会教育施設情報化活性化事業実行委員会委員（新潟県），上越地域広域視聴覚教育協議会運営委員，上越教育ネットワーク研究会・理事，岡山県教育センター研修講座指導講師，鳥取大学教育学部附属中学校研究協議会研究講演会講師，国立教育会館学校教育方法改善研修分科会指導講師，第13回長野県佐久視聴覚教育研究大会講演会講師，東京都町田市学校保健会栄養士部会講演会講師，大阪教育大学 SCS 利用に関する講演会講師，新潟県青海町立田沢小学校校内研修指導講師，公開講座「家族ホームページ作成教室」指導講師，図書館司書教諭講習指導講師

**井　上　忠　典**（講　師）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

「青年期の心理的発達とその障害」に関する研究を継続して行っている。今年度は，特に青年期における両親との関係の発達的変化について研究を進めた。また，教師による学校カウンセリングに関する研究を進め，スクールカウンセラーの導入による教師の指導態度の変化について検討した。

②　教育活動の実践・改善の研究状況

学部学生対象の「教育実地研究II」では，「グループ・エンカウンター」について教育実習の事前指導を行い，学校教育における人間関係づくりの方法を体験的に実習させて，内容の理解を高める工夫を行った。また，大学院学生対象の「心理療法特論」では，身近な例を取り上げたり，図表を用いて概念的なものを具体化したりして，心理療法やカウンセリングの体験のない学生に講義内容を理解させるための工夫を行った。

**研究成果の発表状況**

著】平成10年10月：『ゆとりある学校の創造』（共著）　教育開発研究所，平成11年１月：『心理学を学ぶ，活かす。』（共著）　日本実業出版

**共同研究の実施状況**

教師による学校カウンセリングに関する研究　代表者：井上忠典（上越教育大学講師）　上越教育大学学校教育研究センター研究プロジェクト，生徒指導の理論と方法　代表者：犬塚文雄（上越教育大学教授）　教職課程における教育内容・方法の開発研究

**学会活動への参加状況**

７月18日～20日：日本教育心理学会第40回総会出席，10月24日～25日：日本催眠医学心理学会第43回大会出席

**社会的活動状況**

日本催眠医学心理学会研究委員会委員，文部省スクールカウンセラー派遣事業（１回８時間／週），新潟県カウンセラー学校派遣事業カウンセラー（上越地区小中学校２校全４回），新潟県立教育センター小・中学校カウンセリング研修講師（「学校カウンセリングの意義と方法」を講演），新潟県上越教育事務所教職５年経験者研修講師（「いじめ問題と指導のあり方」を講演），新潟県教育委員会「心の教室相談員」研修会講師（「相談員としての関わり方について」講演），新潟県中頸城郡学校保健会養護教諭部研修会講師（「ミニカウンセリング」の実習を指導），上越市立教育センターカウンセリング研修会講師（「児童期の発達と心理的理解」を講演），上越市立教育センター適応指導教室指導員事例研修会講師３回，上越教育大学附属中学校 PTA 講演会講師（「親

から見えない子どもの心」を講演）

**濁　川　明　男**（講　師）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

・実地教育分野として，体験的カリキュラム開発研究を継続している。今年度は，特に大学改革方針の下，人間理解科目に位置付ける上でのフレンドシップ事業の方向を探り，そのプログラム開発を行った。

・日本の汽水湖の珪藻群集解析を継続している。今年度は，福島県相馬市松川浦及び青森県六カ所村鷹架沼の調査，分析に取り組んだ。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

・教育実習の質的向上を目指して，その事前・事後指導としての教育実地研究IIの改善に努めた。特に，実習前の附属学校での観察・参加の位置づけ及び事前指導の内容の再検討を行った。

・本学としてのフレンドシップ事業を立ち上げ，体験学習，社会教育活動への参加，学内での子どもとの触れ合い活動を3本柱にした体制づくりに取り組んだ。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年9月：『教員養成課程における体験実習の意義―自然体験実習の試みを通して―』（共著）上越教育大学研究紀要　pp.91-104，平成11年3月：『小学校理科授業における観察・実験の意義と授業実践』（共著）教育実践研究集録　上越教育大学学校教育研究センター　pp.11-20，平成11年3月：『生徒の興味・関心によって展開する理科授業の構想』（共著）教育実践研究集録　上越教育大学学校教育研究センター　pp.21-30

業】平成10年10月：『新しい学校を創るリーダーシップ No.3 ゆとりある学校の創造』（共著）教職研修総合特集　教育開発研究所　pp.172-177

発】平成10年5月：『青森県六カ所村鷹架沼の水質と珪藻群集』（共）第19回　日本珪藻学会，平成10年11月：『福島県相馬市松川浦の水理的環境と珪藻群集』（共）第20回　日本珪藻学会

他】平成11年3月：上越教育大学フレンドシップ事業報告書（共）

**共同研究の実施状況**

新しい学力観に根ざす授業開発の研究 代表者：濁川明男　学校教育研究センタープロジェクト研究

**学会活動への参加状況**

5月20日～21日：日本珪藻学会出席，11月10日～11日：日本珪藻学会出席

**社会的活動状況**

上越市史自然編調査研究員（上越市），中頸城郡三和村村史自然編編集委員（三和村），東頸城郡牧村「心の教育フォーラム」コーディネーター，国立妙高少年自然の家「自然観察ガイドブック」編集委員長，新井市社会教育施設「わくわくランドあらい」運営委員（新井市）

**柴　田　好　章**（助　手）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

授業逐語記録を対象とした授業分析手法に関する研究を継続している。今年度は，手法の開発及び事例分析を継続するとともに，これまでの研究成果を学位論文にまとめた。また，SCS（スペース・コラボレーション・システム）の活用に関する研究，コミュニケーションにおける評価に関する研究などの共同研究を進めた。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

学部1年次対象の「基礎情報処理」及び2年次学生対象の「情報教育演習」の補助として，個別指導等にあたった。また，学部2年次対象の「教育実地研究II（授業基礎研究）」の補助として，授業分析の実習を担当した。3年次の教育実習をひかえた学生が，授業展開についての理解を深められるような工夫を行った。また，フレンドシップ事業に参加し，授業科目「体験学習A」の補助や，「学びのひろば」などの活動の支援を行った。

**研究成果の発表状況**

著】平成11年2月：『授業分析の方法と課題』（分担執筆）黎明書房

論】平成10年4月：『多地点遠隔共同授業のためのSCS環境とその利用における課題』（共著）岐阜大学カリキュラム開発研究センター研究報告　第17巻第2号 pp.1-11, 平成10年9月：『教員養成課程における体験実習の意義―自然体験実習の試みを通して―』（共著）上越教育大学研究紀要　第18巻第1号 pp.94-104, 平成11年3月：『小学校理科授業における観察・実験の意義と授業実践』（共著）教育実践研究（上越教育大学学校教育研究センター）　第9集 pp.11-20,　平成11年3月：『情報教育を支える背景の諸要因に関する検討』（共著）上越教育大学研究紀要　第18巻第2号 pp.865-885, 平成11年3月：『SCSを活用した大学教育方法の改善に関する研究(2)―遠隔共同講義「教育工学特別講義」の試みとその分析―』（共著）上越教育大学研究紀要　第18巻第2号 pp.886-899, 平成11年3月：『学習者相互のコミュニケーション過程における内容と機能の分析―談話内容の構造化と発話のカテゴリー分析―』（共著）上越教育大学研究紀要　第18巻第2号 pp.901-917, 平成11年3月：『授業分析における量的手法と質的手法の統合に関する研究』（単著）博士（教育学）学位論文　名古屋大学

発】平成10年6月：『SCSを用いて多地点をむすんだ研究発表会の試み』（共）科学教育学会研究会，平成10年9月：『グループ討論のカテゴリー分析における現職教員の判断』（共）日本教育工学会第14回大会，平成11年3月：『中学校社会科グループ討論におけるコミュニケーション過程の分析』（共）日本教育工学会研究会

他】平成10年6月：『情報収集における時間の問題』　教育科学　社会科教育　明治図書　第456号 p.10, 平成11年3月：『地域が生きる学校・授業と情報化』　考える子ども（社会科の初志をつらぬく会）　第251号 pp.19-20

**共同研究の実施状況**

コミュニケーションにおける評価に関する研究　代表者：中野靖夫（本学教授）　上越教育大学学校教育研究センター研究プロジェクト，新しい学力観に根ざす授業開発の研究　代表者：濁川明男（本学講師）　上越教育大学学校教育研究センター研究プロジェクト，グループ討論におけるコミュニケーション能力の分析と指導法に関する研究　代表者：柴田好章　教育改善推進費（学長裁量経費），人間教育学セミナーとしての「体験学習」カリキュラムの開発研究　代表者：濁川明男（本学講師）　教育改善推進費（学長裁量経費），SCSとISDNを組み合わせた多地点遠隔共同学習の開発とその有効性の検討　代表者：南部昌敏（本学助教授）　科学研究費補助金，体系的な教員養成カリキュラムの在り方　研究代表者：渡邊隆（本学教授）　教職課程における教育内容・方法の開発研究

**学会活動への参加状況**

平成10年6月：科学教育学会研究会出席，平成10年9月：日本教育工学会第14回大会出席，平成11年1月：日本教育工学会合宿研究会出席，平成11年3月：日本教育工学会研究会出席

**社会的活動状況**

平成10年6月～12月：上越教育大学公開講座講師（「Macintoshでパソコン入門」，「Windowsでパソコン入門」，「インターネット入門」，各2期実施で計6講座），平成11年3月：大阪教育大学でSCS利用に関する講演

＜幼児教育講座＞

大　山　美和子（教　授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

幼児の自発的な音楽表現活動と音楽構成の関連について継続して研究を行っている。今年度は特に幼児が自発的に作り出す旋律が保育者援助によって変化する様相を，保育実践場面の観察による資料収集及び分析•検討を行った。また幼児の音楽リズムの形成に関する研究については3歳児を対象として継続中である。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

大学院では領域教育学特論及び演習「音楽表現」等を担当。幼児の音楽活動の内容及び保育者援助についての理解をより高めるために，保育形態の異なる保育実践現場での観察及び資料収集を行い，それをもとに検討を試みた。学部では保育内容「表現・音楽」保育実践「音楽的活動」等を担当。特に最近幼児の音楽活動場面で使われる様々な新しい楽器を通して即興演奏や創作を行い，幼児の音楽活動の理解をより高める工夫を行った。

**研究成果の発表状況**

著】平成11年2月：『保育・幼児教育シリーズ　表現』（共著）　川島書店

他】平成10年10月：『幼稚園の音楽は今？』（単著）　ペース・メソッド研究ジャーナル　pp.9-11

**共同研究の実施状況**

『幼稚園児の自発活動を支える指導の在り方に関する基礎的研究(2)』 代表者：大山美和子　上越教育大学学校教育学部幼児教育講座　教育研究学内特別経費による研究報告書

**学会活動への参加状況**

5月23日～24日：日本保育学会第51回大会出席，11月21日：比較舞踊学会第9回大会出席，11月15日：幼児音楽研究会「ドイツの幼稚園の音楽状況」出席

**社会的活動状況**

比較舞踊学会評議委員，東日本幼児音楽研究会講師，上越市社会教育すくすく子育てセミナー講師

鈴　木　情　一（教　授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

幼児の連想と比喩に関するデータ整理とモデル化に関する研究を継続して行っている。また，乳幼児期から幼児期における共振行動についての文献整理を行っている。今年度は，観察データを紀要に執筆した。その他。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

学生の自発性・主体性を尊重し，その意欲をニーズとして引き出す方向を考えている。授業では，学習・指導内容の理解にふさわしい教材呈示の技法を引き続き模索している。さらに，一部の授業では独自のVTR教材を使用した講義をこれまた引き続き行ってきた。

**研究成果の発表状況**

論】平成11年3月：『絵本の読み聴かせ事態における母子の音声同期化現象について』（単著）　上越教育大学研究紀要　第18巻第2号 pp.483-501

**学会活動への参加状況**

3月26日～30日：日本発達心理学会第10回大会出席

## 細　井　房　明（教　授）

### 現在の研究状況

① 専門分野の研究状況

ペスタロッチー（Pestalozzi,J.H.,1746-1827）に関する研究の一区切りとして「ペスタロッチーに於ける『母の書』構想の思想的背景に関する研究」を出版したいとおもい，その準備を進めるとともに，教育に関する彼の思想形成に対して多大な影響を及ぼしたと解されるノイホーフに於ける彼の活動・経験についての研究にも手を着けている。なお，幼稚園教育の方法原理に関する研究の推進も，従前同様，継続的に行なっている。

② 教育活動の実践・改善の研究状況

学部学生対象の授業科目としては「幼児視聴覚教育」，「幼児教育課程論」，「幼児・障害児教育原理」，「保育内容『人間関係』」等を，大学院生対象の授業科目としては「教育思想史特論」，「幼児児童教育学特論」，「幼児児童教育学演習」，「教育実践場面分析演習」，「課題研究」等を担当した。

### 研究成果の発表状況

業】平成10年10月：『幼児の依存行動に関する一研究―登園直後の三歳児の行動の分析を中心に―』（単著）　上越教育大学学校教育学部幼児教育講座・平成９年度教育研究学内特別経費による研究報告書：幼稚園児の自発活動を支える指導の在り方に関する基礎的研究(2) pp.1-12，平成11年３月：『幼稚園に於ける教育の形態と教師の行動に関する一研究』（単著）「教育実践学の構築」兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科 pp.31-50

### 社会的活動状況

地域の公民館で家庭教育学級等の講師を担当した。

## 南　舘　忠　智（教　授）

### 現在の研究状況

① 専門分野の研究状況

幼児児童の発達及びその教育に関わる従前からの研究活動を，次のような試みをも含めながら拡大深化させるよう努力した。学校教育学部附属小学校長併任を機に，学校構成メンバーの一員として振る舞いながら，学校生活場面における児童の実態について理解を深めた。その際，児童とその背後にあって多くの相互作用を展開しているはずの保護者との関連，地域社会との関連にも留意するよう努めた。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

平成11年度新規開講予定の「保育者の心理」のための準備作業を進めた。また，本年度開講の講義についても，教育改善推進経費（学長裁量経費）教育研究改革・改善プロジェクト経費を得て「大学における生活科教育カリキュラムの研究」に取り組むなど，一層の充実・改善に努めた。なお，鳴門教育大学大学院学校教育研究科において，９月15～18日，集中講義「幼児・児童の人間関係発達論特講」を担当した。

### 研究成果の発表状況

論】平成10年７月：『教師が果たしている役割について―私たちの実践を振り返りつつ―』（単著）教育創造　第129号 pp.4-5，平成11年３月：『子供にとって学校とは―学校が担う多面性を再確認しよう―』（単著）教育創造　第131号 pp.4-5，平成11年３月：『＜こんなことしよう！　子供たちを迎えたら＞』（単著）大学における＜＜生活科教育＞教育＞の探究　第７集 pp.33-44，平成11年３月：『社会科学習から発展した体験活動の取り組みについて―地域探検から「子ども朝市」の活動へ―』（共著）上越生活科実践研究会報告書 pp.29-37，平成11年３月：『探検活動を繰り返すことにより培われる力について―「校区の秋を探検しよう」の実践から―』（共著）上越生活科実践研究会報告書 pp.93-102

業】平成10年５月：『WanCha―生き生きとした子供が育つ学校―』（共著）上越教育大学学校教育学部附属小学校，平成10年12月：『WanCha―みんなで総合しよう―』（共著）上越教育大学学校教育学部附属小学校

**共同研究の実施状況**

上越生活科実践研究会による実践研究活動を昨年度に引き続き精力的に続行し，その成果を「生活科の新生を求めて―実践者と研究者による新しい共同研究の試み―」のタイトルのもとに刊行した。

**学会活動への参加状況**

５月23日～24日：日本保育学会出席，６月27日～28日：日本生活科教育学会出席，７月４日～５日：国際幼児教育学会出席，８月３日：日本理科教育学会に招聘されSCSを介して出席

**社会的活動状況**

学位授与機構審査会専門委員，全国国立大学附属学校連盟副理事長，国際幼児教育学会理事

木　村　吉　彦（助教授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

幼児教育の思想や実態の研究および生活科の教育学的研究という２本柱のもとでの研究を継続的に行っている。今年度は，「幼児・児童教育内容特論」での受講者とのやりとりをもとにして，『現代人の教育的課題』の改訂版『エミール教育学入門』を刊行できた。また，「上越生活科実践研究会」のコーディネイターとして，現場実践と大学研究の橋渡し役を果たし，『生活科の新生を求めて』刊行にこぎつけた。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

学部２年次用「教科に関する専門科目＜生活＞」については，担当回数の制限から，網羅的な講義内容を改め，「評価」に焦点化した授業を展開し，受講生からの支持を得た。この結果は，『大学における＜＜生活科教育＞教育＞の探究 第７集』に報告されている。すべての授業について，学生との意見交換を最重要視しており，「共に創る授業」を実施している。学内フレンドシップ事業にも参画した。

**研究成果の発表状況**

著】平成11年３月：『エミール教育学入門』（単著）　個人研究費による刊行

論】平成11年３月：「飼育活動を支える話し合い活動の意義について」（共著）『生活科の新生を求めて』所収，平成11年３月：「活動を創り出す子ども」（共著）『生活科の新生を求めて』所収

業】平成11年３月：『文部省検定小学校１年生活科教科書』（共著） 学校図書 ，平成11年３月：『文部省検定小学校２年生活科教科書』（共著）学校図書，平成11年３月：「教師も学び，育つ」（単著）『教育創造131号』pp.77-78　上越教育大学附属小学校・高田教育研究会編，平成11年３月：「『評価』にこだわった『生活科とはなにか』」（単著）『大学における＜＜生活科教育＞教育＞の探究 第７集』所収

**共同研究の実施状況**

上越生活科教育実践研究会　代表者：南舘忠智　上越教育大学教育実践研究センター・プロジェクト研究，「生活科を生かした総合的な学習の在り方」　山形県上山市立西郷第二小学校　上山市教育委員会指定研究

**学会活動への参加状況**

平成10年６月27日～28日：日本生活科教育学会第７回全国大会参加，平成10年８月１日～２日：日本学校教育学会第13回研究大会参加

**社会的活動状況**

日本生活科教育学会地域世話人，日本学校教育学会事務局幹事，小学校生活科教科書編集委員（学校図書），新潟県高等学校教育研究会家庭科部会夏期講習会講師（「子育ての現在（いま）」を講演），財団法人モラロジー研究所

東北ブロック・ファミリーセミナー講師（「今どきの子ども」を講演），上山市立西郷第二小学校校内研究会講師（「生活科の発想を生かした総合的な学習」を講演），頸城村立大濱小学校校内研究会講師（「生活科から総合的な学習へ」を講演），上山市学校教育研究会「生活」部会講師（「アンケート調査をふまえた総合的な学習の在り方」を講演），上山市立本庄小学校PTA教育講演会講師（「アンケートにみる今どきの子どもと子育てについて」を講演），上山市社会福祉協議会「ふれあいのまちづくり事業準備委員会」委員，上山市東（あずま）地区公民館「ゆうゆう探検隊」（地域学習教室）活動推進員

**松　本　健　義**（助教授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

幼児の造形行為のエスノメソドロジー研究について，遊びのできごとの協同形成過程と遊びで用いる場と道具の構築過程との相互的関係について，幼児の遊びのできごとを単位とした相互行為分析により研究を進めた。

子どもの学習や遊びのできごと成立過程について，「つくること表すこと」という視点から，小学校での「総合的な学習の時間」の開発的研究事例等をもとに，エスノメソドロジー及び状況的認知の視点より事例研究を進めた。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

学部授業科目「保育内容　表現・造形」においては，他者と共につくり表す行為を相互的・状況的に行うことにより，遊びのできごとをつくり上げていく幼児の造形的な行為の在り方が，体験的に理解できること。又，人間における造形行為の本質的な在り方が理解できることを目的として，小造形演習を開発展開した。大学院では，幼児の造形的行為を伴う遊びのできごと場面の事例分析研究の実際と，その基礎理論及び研究方法のもつ教育実践開発上の意義について，フィールドワークをもとに授業を進めた。

**研究成果の発表状況**

論】平成11年３月：『芸術学習の実践的遂行過程におけるできごとの構築と記述について』（単著）日本芸術教授学研究会紀要　芸術教授学　第２号 pp.75-85,『砂場における幼児の造形行為のエスノメソドロジー』（共著）上越教育大学研究紀要　第18巻第２号 pp.517-536

発】平成10年６月：『幼児における遊びと造形行為の協同的構築』（単）　第５回日本子ども社会学会　研究発表，平成10年10月：『芸術学習の実践的遂行過程におけるできごとの構築と記述について』（単）　日本芸術教授学研究会第２回研究発表大会　研究発表，平成10年12月：『子どもの相互行為の意味と教育実践学』（単）第２回芸術教育実践学会　研究発表

他】『子どもの相互行為の意味と世界の成立―できごとの協同形成と造形行為―』平成10年度研究成果報告書子どものつくる・表す行為と学び　平成10～12年度科学研究費補助金（基盤研究(B)(1)）つくること表すことによる「生きる力」としての学びの基礎理論の構築と教育の体系化[Ｉ]　研究代表者：西野範夫（上越教育大学教授）

**共同研究の実施状況**

つくること表すことによる「生きる力」としての学びの基礎理論の構築と教育の体系化　代表者：西野範夫（上越教育大学教授）　科学研究費補助金基盤研究(B)(1)，体系的な教員養成カリキュラムの在り方　文部省教育助成局委託研究　代表者：渡邉　隆（上越教育大学教授），芸術による学習の統合―美術教育から総合学習へ―　日本芸術教授学研究会プロジェクト研究　代表者：長町充家（大阪教育大学教授），幼稚園の自発活動を支える指導の在り方に関する基礎的研究(3)　上越教育大学教育改善推進費　代表者：細井房明（上越教育大学教

授），総合学習における造形表現活動の内容構成と実践に関する研究(2)　上越教育大学教育改善推進費　代表者：大嶋　彰（上越教育大学助教授），つくること表すことによる「生きる力」としての学びの実践的カリキュラムの構築(1)　上越教育大学教育改善推進費　代表者：西野範夫（上越教育大学教授）

**学会活動への参加状況**

平成10年６月12～14日：第５回日本子ども社会学会出席，10月９日～10日：第２回日本芸術教授学研究会出席，12月４日～５日：第２回芸術教育実践学会出席，平成11年３月26日～28日　第21回美術科教育学会出席

**丸　山　良　平**（助教授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

幼児の数概念の形成に関する研究と幼児・児童の遊びに関する研究などを継続している。今年度は幼稚園におけるオニごっこの実態，保育実践に対する評価，そして生活科の遊び単元にについて検討した。また研究者と教育実践者との共同研究のあり方について考察した。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

大学院，学部の授業において最新の研究成果，今日的な話題を取り上げ，さらにビデオで情報を提供し，それを基にして討論させ，能動的に深く思考するように配慮した。また子どもが遊ぶ玩具やゲームなどを実際に作り遊んで検討させ，実践力の育成を考慮した。教科に関する専門科目「生活」では，討論終了後に各自の意見をリポートして提出させ，次回までに集計した結果をプリントにして配布し解説した。その授業の実践を生活科教育の授業報告書に発表した。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年９月：『大学教員などが実施する保育研究と保育者の協力の実態について』（共著）上越教育大学研究紀要 第18巻第１号 pp.105-118，平成10年10月：『幼稚園におけるオニごっこの実態と教師の援助の検討』（単著）上越教育大学幼児教育講座平成９年度教育研究学内特別経費による研究報告書 pp.23-37，平成11年３月：『大学生の自分の幼児期の保育実践に対する評価』（単著）上越教育大学研究紀要 第18巻第２号 pp.503-516，平成11年３月：『子どもが仲間と積極的にかかわり活動できる遊び単元の検討』（共著）平成９・10年度上越教育大学学校教育研究センタープロジェクト研究報告書 pp.79-91，平成11年３月：『児童の遊ぶ力，仲間関係を育てる遊び活動の検討』（共著）平成９・10年度上越教育大学学校教育研究センタープロジェクト研究報告書 pp.19-28

発】平成10年５月：『子どもを捉える前提：保育者と研究者の信頼関係の確立』（単）日本保育学会自主シンポジューム11「どのように子どもを『捉える』か―21世紀の保育と発達研究への提言―」にて提案発表

**共同研究の実施状況**

生活科に関する実践的研究　代表者：南舘忠智（上越教育大学教授）　上越教育大学学校教育研究センター公募研究

**学会活動への参加状況**

５月23日～24日：日本保育学会出席，３月27日～29日：日本発達心理学会出席

**社会的活動状況**

新潟県家庭教育子育て支援推進事業企画推進委員会委員（新潟県），同委員会主催「上越地区家庭教育指導者研究協議会」パネルディスカッションのコーディネーター，新潟県幼稚園連盟教育研究大会指導者（新潟県西頸城郡青海町），文部省指定研究「特色教育モデル園」事業の指導（新潟県豊栄市ゆたか幼稚園），上越市私立保育園協会夏季研修講師（『滑らかな人間関係』を講演），上越市いずみ幼稚園保護者研修講師（『幼児期におけ

る家庭教育と父親の役割』を講演）

**杉　浦　英　樹**（助　手）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

プロジェクト法理論の視点から幼稚園・小学校生活科における幼児・児童の活動過程の分析と指導過程の検討を行っている。今年度は関連文献や推進校へのアンケート調査をもとに生活科教育における「総合」化の実態を検討し，指導過程構成の現状と問題点について発表を行った。また附属幼稚園で抽出児の活動過程の継続的な観察・記述を始めた。

**研究成果の発表状況**

論】平成11年２月：「生活科教育における『総合』化の検討―平成８・９年度文部省生活科教育推進校の実践を中心に―」（単著）　日本生活科教育学会『せいかつか』第６号 pp.100-107，平成11年３月：「生活科における『総合』化の現状と総合的な学習の時間」（単著）　上越教育大学教科教育プロジェクト『教員養成における教科教育の現状と展望』 pp.55-60

発】平成10年６月：「生活科教育における『総合』化の検討―平成８・９年度文部省生活科教育推進校の実践を中心に―」（単）　日本生活科教育学会第７回全国大会

他】平成10年10月：「総合的な学習の時間　『総合』の意味と創意工夫―生活科との関連で―」（単著）　『授業づくりネットワーク』No.148　pp.34-36，平成11年３月：「遊びを通して友達とのかかわりを深める―S夫の姿を追って―」（共著）　上越生活科実践研究会『上越生活科実践研究会報告書 生活科の新生を求めて』pp.39-48

**共同研究の実施状況**

生活科教育に関する実践的研究　代表者：南舘忠智（上越教育大学教授）　平成10年度上越教育大学学校教育研究センター補助金，大学における生活科教育カリキュラムの研究　代表者：南舘忠智（上越教育大学教授）　平成10年度教育改善推進費（学長裁量経費），幼稚園児の自発活動を支える指導の在り方に関する基礎的研究(3)　代表者：大山美和子（上越教育大学教授）　平成10年度教育改善推進費（学長裁量経費）

**学会活動への参加状況**

６月27日～28日：日本生活科教育学会第７回大会出席

**＜障害児教育講座＞**

**大　野　由　三**（教　授）　※附属障害児教育実践センター

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

知的障害児・者の進路指導及び卒業後のアフターケアに関する研究を継続して行っている。今年度は，特に1997（平成９）年から1998（平成10）年にわたって調査した全国の知的障害養護学校の実態について，結果を分析し，報告書としてまとめた。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

「教育実践場面分析演習」の授業では，前年度と同様，県立高田養護学校と上越養護学校の児童を対象にして実際の授業を計画・実施し，授業の創造と改善を視点に分析・評価を行い，その成果を「障害児教育における授業分析X」として報告書にまとめた。

「障害児教育課程特論」では，教育現場の授業場面のビデオや研究資料等を多用し，単なる知識理解にと

どまらず，教育現場で生かせる力を養うよう努めた。

**研究成果の発表状況**

発】平成10年８月：『特殊教育諸学校における介護体験学生受け入れ態勢と教師の意識』（共）　第13回日本学校教育学会　研究発表，平成10年９月：『知的発達障害養護学校の進路・アフターケアの現状と可能性―関東地区のアフターケアの現状―』（共）　第36回日本特殊教育学会　研究発表

**共同研究の実施状況**

介護体験を実施した上での大学における指導の改善に関する基礎研究　代表者：大野由三　教育改善推進費（学長裁量経費）教育研究改革・改善プロジェクト経費

**学会活動への参加状況**

５月23日～24日：日本保育学会第51回大会出席，６月13日～14日：日本発達障害学会第33回研究大会出席，９月13日～15日：日本特殊教育学会第36回大会出席

**社会的活動状況**

新潟県就学指導委員会委員，交流教育地域推進事業運営協議会委員（新潟県），新潟県教育職員免許法認定講習講師，新潟県教育センター現職講座講師，新潟県就学指導関係委員研修会講師，長野県教育職員免許法認定講習講師，上越特殊教育研究会顧問

## 小　宮　三　彌（教　授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

平成８年度から３年間，科学研究費補助金基盤研究(C)の交付を受け，今年度が３年目にあたり，「ダウン症者の加齢に伴う運動機能の変化：心理面と生理面からの検討」についての研究成果報告書をまとめた。また，３年目の今年度は，高齢のダウン症者と知的障害者を対象に運動機能と聴性脳幹反応の測定を行った。ダウン症者の早期老化に伴う機能低下に対応するために，加齢に伴う運動機能の実態と脳幹部の機能的変化について検討してきたが，さらに，動作分析や種々の場面での検討など，この研究を継続する。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

大学院の講義では，最新の研究成果を取り入れながら講述するようにした。また，障害児教育の授業には，教職免許の関係から専攻の学生だけでなく，他専攻の受講生も多いため，心理学の基礎知識を取り入れ，VTR教材を導入したり，具体例を提示しながら講義内容の理解ためるように工夫をしている。演習は，学生が関心のある文献をまとめ・発表させ，討論する事で，実践的研究能力を高めるように努めた。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年８月：『自閉症者人物刺激に対する心拍反応―自己像と未知像での検討―』（共著）　発達障害研究　第20巻２号 pp.141-149

発】平成10年６月：『精神養護学校における学習環境（その１）』（共）　日本発達障害学会第33回大会　研究発表，平成10年９月：『精神薄弱養護学校における学習環境（その２）』（共）　日本特殊教育学会第36回大会研究発表

**学会活動への参加状況**

６月12日～14日：日本発達障害学会第33回大会出席，９月13日～15日：日本特殊教育学会第36回大会出席

**社会的活動状況**

日本発達障害学会理事，日本応用教育心理学会常任理事，日本応用教育心理学会第10回大会で講演（「知的障害児の運動機能について」を講演），ダウン症親の会の教育相談と指導

## 藤 原 義 博（教 授）

### 現在の研究状況

① 専門分野の研究状況

自閉症児を含む知的発達障害児・者の問題行動の改善と社会生活への参加と向上を目指したPositive Behavioral Suporrtに関する研究を継続して行っている。今年度は在外研究の機会を得て，オレゴン大学教育学部Special Training Programにおいて，Dr.Horner教授の元でこのテーマの研究を行った。

### 研究成果の発表状況

著】平成11年3月：『発達障害の理解と援助』（共著）コーレル社

発】平成10年5月：『Improving daily living skills for child with mentally handicap during summer vacation： Planning and evaluation of supported program for mother』（共）Association for Behavior Analysis 24th Annual Convention研究発表

他】平成11年3月：『重度知的障害への挑戦』（共訳）二瓶社

### 学会活動への参加状況

5月22日～26日：Association for Behavior Analysis 24th Annual Convention出席，12月2日～5日：TASH Conference '98出席

### 社会的活動状況

日本特殊教育学会編集委員，日本発達障害学会評議員，日本発達障害学会編集委員，平成10年度富山大学教育学部附属養護学校教育実践研究会講師（『教育的支援の目的とその構造』を講演）

## 星 名 信 昭（教 授）

### 現在の研究状況

① 専門分野の研究状況

聴能学の立場から障害児の聴覚的情報の受信と発信に関する研究を継続している。本年度は聴覚障害児の補聴器活用と発音指導，聴覚障害児の音楽聴取と歌唱，聾学校の校歌等について調べた。この成果をまとめて北京で開催されたアジア太平洋地区聾教育会議で報告した。また，障害児を持つ両親への援助に関連して補聴器の評価と耳なおし信仰について研究を継続した。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

聴覚障害児教育に関する講義，演習，実習，臨床指導を院生と研究生を対象に実施した。また，院生の修士論文作成を中心とした研究指導を行った。障害児教育特論及び重複障害児教育特論等の講義では主題に関連す論文を紹介し討論する形で進めた。また，聴能学特論では「ことばの科学入門 Borden,G.J. & Harris, K.S.著」をテキストにして主として聴覚障害児の発音発語に焦点を絞って測定機器実習を含めて講義を行った。

### 研究成果の発表状況

論】平成10年4月：『聾学校児童生徒の「動物・生き物」に関する概念の階層構造の獲得について』（共著） ろう教育科学 pp.221-233

発】平成10年9月：第36回日本特殊教育学会において院生や他の研究者との共同研究として以下を発表した。『聾学校小学部児童による補聴器活用の意識調査』（共），『聴覚障害児の算数文章題解決過程における問題理解に関する事例研究』（共），『中学生吃音児における対人場面のSelf-Efficacy向上効果』，『聾学校児童生徒の生き物に関する概念の階層構造の獲得について』（共）

平成10年10月：第32回全日本聾教育研究大会にて院生の連名発表者として『聾学校小学部児童の補聴器活

用に関する調査』(共),『A 聾学校中学部生徒の感情の特性と感情語の理解に関する研究』(共)を発表した。

平成10年 8 月：『Musical education in schools for the deaf in Japan』（単）The Sixth Asia Pacific Congress on Deafness（北京）で講演した。

**学会活動への参加状況**

8 月 3 日～ 7 日：第 6 回アジア太平洋地区聾教育会議参加，9 月13日～15日：日本特殊教育学会第36回大会出席，10月14日～17日：第32回全日本聾教育研究大会参加

**国内外の学術賞の受賞状況**

平成10年12月 9 日：特殊教育功労　文部大臣賞受賞

**社会的活動状況**

院生とともに障害児教育実践センターにて主に聴覚障害児の検査と教育相談に従事した。一方，国立特殊教育総合研究所，新潟県や市町村教育委員会及び特殊教育諸学校にて講義と指導を行った。

国立妙高少年自然の家の主催事業「妙高ふれあいスクール」の企画委員として長野聾学校児童生徒と地元小・中学校児童生徒の交流合宿及び研修会の企画立案実施に参画した。

## 森　島　　慧（教　授）

**現在の研究状況**

① 専門分野の研究状況

著書「個別教育プログラムの作成―指導の個別化とはどうすることか―」のまとめを行っている。その一部を対話方式でまとめ，障害児教育実践センターの紀要に出版する予定である。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

セミナーでの討論のやりとりが活発となり，その横の広がりである「量」と「質」の高まりが形成されるよう配慮している。そのやりとりの一部を「読みたくなる対話」4 号として出版した。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年 4 月：『大学の特徴化と教育研究の活性化』（単著）　障害児教育方法研究会　pp.1-11

**学会活動への参加状況**

平成10年10月：日本特殊教育学会第36回大会出席

**社会的活動状況**

新潟県・福井県特殊教育初任者研修会講師（『教師の生き方と指導法の基礎』を講演），新潟県新井市職員研修会講師（『フロンティア精神に学ぶ』を講演），山口県教職員リーダーシップ研修会講師（『アメリカ人に見られる価値観とリーダーシップ』を講演），新潟県上越市どんぐりクラブ講師（『生きる価値追求―欧米人から学ぶ―』を講演），新潟県くびき村研修会講師（『プラス思考で生きる』を講演），新潟県柏崎養護学校さざなみ分校講師（『個別化の理念と実践』を講演）等

**その他**

新潟日報にエッセイ「プラス思考」を連載，雑誌「灯台」で「親子の絆と家庭行事」について対談，聖教新聞にエッセイ「青年を育む」等を発表した。

## 我　妻　敏　博（助教授）

**現在の研究状況**

① 専門分野の研究状況

聴覚障害児の言語指導に関する研究を継続して行っている。また，聾学校児童生徒の語彙の獲得について

も研究を行った。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

聴覚障害児言語指導の授業では特論と演習の連携をはかり，特論では基礎的，一般的な内容を講義し，演習では最新の研究成果や現在話題になっている事項を取り上げ，学習をより深めるようにした。

**研究成果の発表状況**

著】平成10年12月：『聴覚障害児の文理解能力の研究』（単著） 風間書房

論】平成10年７月：『聾学校児童生徒の「生き物」に関する概念の階層構造の獲得について（その４）』（共著）ろう教育科学 pp.69-94，平成10年10月：『聾学校児童生徒の「生き物」に関する概念の階層構造の獲得について（その５）』（共著） ろう教育科学 pp.155-173，平成11年１月：『聾学校児童生徒の「生き物」に関する概念の獲得について』（共著） ろう教育科学 pp.221-233

**学会活動への参加状況**

９月12日～14日：日本特殊教育学会出席，10月14日～16日：全日本ろう教育研究大会出席

**社会的活動状況**

新潟県立長岡聾学校教員研修講師（『聾学校における教育の展望』を講演），富山県立高岡聾学校教員研修講師（『聴覚障害児の言語指導』を講演），富山県言語障害児親の会講演（『ことばを育てる』を講演），富山県言語障害児親の会主催教育相談会

## 安 藤 隆 男（助教授）

**現在の研究状況**

① 専門分野の研究状況

肢体不自由児の指導法開発に関する研究を引き続き行っている。特に，肢体不自由養護学校に在籍する児童生徒の障害が重度・重複化する現状を踏まえ，養護・訓練における個別の指導計画作成に関わる方法論の検討を行った。

統合教育に関する研究では，中学校教師の肢体不自由児の受け入れに及ぼす態度の分析を行った。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

肢体不自由児指導法特論では，研究で得た知見に基づいた実習により，個別の指導計画作成の目的論・方法論の理解を促した。障害児診断法基礎実習Ｃ及び障害児臨床基礎実習Ｃでは，教育臨床の対象児５人について，養護・訓練を想定した個別の指導計画を作成させ，構成概念などを考究させた。教育実践場面分析演習では，授業の創造と改善について，地元養護学校での実地授業を通して体験的に学ばせ，「障害児教育における授業分析Ｘ」にまとめた。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年12月：『重複障害児の個別の指導計画作成に関する方法論的検討』（共著） 筑波大学学校教育論集 第21巻 pp.13-23，平成11年３月：『養護学校教職経験が教師の養護・訓練に対するイメージに及ぼす影響』（単著） 上越教育大学研究紀要 第18巻２号 pp.439-446，平成11年３月：『特殊教育諸学校における介護等体験受け入れ態勢と実施上の課題』（共著） 上越教育大学研究紀要 第18巻２号 pp.459-469，平成11年３月：『動作不自由を伴う幼児への歩行動作の改善に関する実践事例』（共著） 上越教育大学障害児教育実践センター紀要 第５巻 pp.1-10

発】平成10年７月：『特殊教育諸学校における介護等体験学生の受け入れ態勢と教師の意識』（共） 第13回学校教育学会 研究発表，平成10年９月：『肢体不自由養護学校の集団授業における記述記録のわかりやすさⅠ―わかりやすさの構造―』（共） 第36回日本特殊教育学会 研究発表，平成10年９月：『肢体不自由養護

学校の集団授業における記述記録のわかりやすさII—記録のわかりやすさを高める手続きの検討—』（共）第36回日本特殊教育学会　研究発表，平成10年９月：『重度・重複障害児の養護・訓練指導計画作成過程における集団討議のあり方』（共）　第36回日本特殊教育学会　研究発表

**学会活動への参加状況**

９月13日～15日：日本特殊教育学会第36回大会出席

**社会的活動状況**

幼稚園，小学校，中学校，高等学校，盲学校，聾学校及び養護学校の学習指導要領等の改善に関する調査研究協力者（文部省初等中等教育局），学位授与機構審査研究部調査研究協力者（学位授与機構），新潟県教科用図書選定審議会委員（新潟県），文部省特殊教育教育課程研究指定校研究発表会（愛媛県立第一養護学校）講演講師（『養護・訓練における個別指導計画作成の意義』を講演），新潟県免許法認定講習講師（新潟県），長野県免許法認定講習講師（長野県），新潟県初任者研修講師（『養護・訓練の指導と実際』を講演）（新潟県立教育センター），富山県初任者研修講師（『養護・訓練の基本的な考え方』を講演）（富山県立総合教育センター），第35回関東甲越地区肢体不自由教育研究協議会講演会講師（『養護・訓練の個別指導計画作成の現状と課題—複数教師が関わることに着目して—』を講演），新潟県立はまぐみ養護学校教員研修会講師（『児童生徒の実態把握とその活用の仕方について』を講演），山形県立ゆきわり養護学校教員研修講師（『これからの肢体不自由教育を展望する～養護・訓練の指導の現状と課題を踏まえて～』を講演），埼玉県立越谷養護学校教員研修会講師（『複数教師による養護・訓練の指導計画作成について』を講演），新井市立にしき養護学校教員研修会（『指導計画作成に伴う記録の整理と発達課題の捉え方』を講演）

## 大　庭　重　治（助教授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

空間認知機能の発達と障害に関する教育心理学的研究を継続して行っている。具体的には，科学研究費の援助を受けて，初期表現活動，書字，移動空間における方向定位に関する発達と障害について検討した。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

演習では研究分野が近い教官と連携して院生の指導にあたった。また障害児を対象とした実習に関する授業では，障害児教育実践センター及び盲学校において継続して子どもに関わる場を提供し，院生間で臨床研究に関して議論する機会を多く設けた。

**研究成果の発表状況**

著】平成10年10月：『視覚障害と発達』（共訳）二瓶社

論】平成11年３月：『就学前幼児における言語教示に伴う最大筆圧の変化』（単著）上越教育大学障害児教育実践センター紀要，平成11年３月：『視覚障害児の描画過程における最大筆圧調整機能』（単著）科学研究費研究成果報告書

発】平成10年９月：『視覚障害児の歩行空間における方向定位特性』（共）日本特殊教育学会第36回大会研究発表，平成10年９月：『重度・重複障害児における対象選択反応の形成』（共）日本特殊教育学会第36回大会研究発表，平成10年９月：『中学校特殊学級における校内交流教育の実施とその支援体制』（共）日本特殊教育学会第36回大会研究発表

他】平成11年１月：心理出版社（台北市）が『障害児の発達と学習』（共著，コレール社）を中国語に翻訳出版

**共同研究の実施状況**

障害の重度・重複化とニーズの多様化に対応し得る訪問教育の在り方に関する実践的検討　代表者：片桐和

雄（金沢大学教授）科学研究費補助金，自己表現力の獲得を促すための指導方法に関する共同研究　代表者：大庭重治（上越教育大学助教授）教育改善推進費，障害児教育におけるコンピュータを活用した学習指導に関する研究　代表者：惠羅修吉（上越教育大学講師）教育改善推進費，幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程　代表者：河合康（上越教育大学助教授）教職課程における教育内容・方法の開発研究事業，視覚障害児の認知機能の発達に関する研究(富山県立盲学校)，中学校特殊学級における校内交流教育に関する研究(大宮市立植竹中学校)

**学会活動への参加状況**

9月13日～15日：日本特殊教育学会第36回大会出席

**社会的活動状況**

上越教育大学公開講座講師，免許法認定講習講師(新潟県，山形県)，新潟県教育相談運営会議委員長，新潟県教育研究集会講師，大山町立大庄小学校障害児教育校内研修会講師（富山県），うめだ・あけぼの学園夏季セミナー講師（東京都）他

## 河　合　　康（助教授）

**現在の研究状況**

① 専門分野の研究状況

障害児教育の行政・制度に関する比較教育学的研究を継続して行っている。今年度は特に，イギリスにおける特別な教育的ニーズをめぐる親の教育権の問題を中心に，分析を行った。

② 教育活動（授業以外のものも含む。）の実施・改善の研究状況

「幼児・障害児教育原理」の授業では，授業最終日に学生にアンケート調査を行い，来年度以降の授業の改善に役立てる試みを行った。また，平成10年度からの入学者に実施が義務づけられた社会福祉施設等での介護等体験に関与し，学生及び受け入れ校の教職員に対してアンケート調査を行い，来年度以降の参考資料とした。

**研究成果の発表状況**

著】平成10年5月：『障害学入門』（共著）　福村出版，平成10年10月：『わかりやすい社会福祉学』（共著）文化書房博文社

論】平成10年9月：『イギリスにおける特別な教育的ニーズをめぐるオンブズマン提訴事例』（単著）上越教育大学研究紀要　第18巻第1号 pp.119-129，平成11年2月：『イギリスにおける特別な教育的ニーズをめぐる親の学校選択権』（単著）発達障害研究　第20巻第4号 pp.64-70

**学会活動への参加状況**

9月13日～15日：日本特殊教育学会第36回大会出席，9月17～18日：日英教育研究フォーラム第7回大会出席

**社会的活動状況**

新潟県免許法認定講習会（盲学校教諭免許状）講師（新潟県），上越地区就学指導地方協議会講師（『就学指導をめぐる国際的動向』を講演），日本学校教育学会編集幹事

## 惠　羅　修　吉（講　師）　※附属障害児教育実践センター

**現在の研究状況**

① 専門分野の研究状況

発達障害児の認知機能に関して，脳波・事象関連電位を指標とした神経心理学的研究を継続して行ってい

る。今年度は，事象関連電位 P3を指標として養護学校高等部に在籍する生徒の記憶機能に関する研究を進めるとともに，聴性脳幹誘発反応を指標としてダウン症者の脳幹機能における加齢の効果について検討した。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

「障害児生理・心理学特論 C」では，最新の研究成果を随時授業内容に取り込み，その理解に必要な基礎的知見へ振り返るという工夫を行った。また，不定期的にではあるが，最近の研究用および教育用コンピュータ・ソフトの紹介を行うとともに，障害児向けに開発された機器の紹介を行った。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年 3 月：『事象関連電位 P3の再現性と臨床応用』（単著）上越教育大学障害児教育実践センター紀要 4 巻 pp.17-24

発】平成10年 5 月：『聴覚 missing stimulus paradigm における後期陽性成分の出現について：リズム認知と P3』（共）日本生理心理学会第16回学術大会　研究発表，平成10年 6 月：『精神薄弱養護学校における学習環境：物理的学習環境に対する教師の評価（その 1）』（共）日本発達障害学会第33回研究大会　研究発表，平成10年 9 月：『精神薄弱養護学校における学習環境：校舎竣工別に見た学習時の環境について（その 2）』（共）日本特殊教育学会第36回大会　研究発表，平成10年 9 月：『視覚障害児の歩行空間における方向定位特性』（共）日本特殊教育学会第36回大会　研究発表，平成10年 9 月：『重度・重複障害児における対象選択反応の形成』（共）日本特殊教育学会第36回大会　研究発表，平成10年10月：『語想起課題における語彙検索の半球間非対称性：損傷側と検索効率の時間的変動の関係について』（単）第62回日本心理学会　研究発表

**共同研究の実施状況**

発達障害児の注意・認知機能の診断，評価とその指導に関する実験的，実践的研究　代表者：諸冨隆（北海道大学教授）　科学研究費補助金基盤研究 A，ダウン症者の加齢に伴う運動機能の変化：心理面と生理面からの検討　代表者：小宮三彌（上越教育大学教授）　科学研究費補助金基盤研究 C，障害児教育におけるコンピュータを活用した学習指導に関する研究　代表者：惠羅修吉（上越教育大学講師）　教育改善推進費（学長裁量経費），自己表現力の獲得を促すための指導方法に関する共同研究　代表者：大庭重治（上越教育大学助教授）　教育改善推進費（学長裁量経費）

**学会活動への参加状況**

5 月23～24日：日本生理心理学会第第16回大会出席，9 月13～15日：日本特殊教育学会第36回大会出席，10 月 8 ～10日：日本心理学会第62回大会出席

**社会的活動状況**

平成10年度上越教育大学公開講座『子どもの理解を深める検査法実習入門』講師

**笠　原　芳　隆**（助　手）

**現在の研究状況**

① 専門分野の研究状況

教育課程・指導法，特に養護・訓練に関する研究と，個別の指導計画の作成に関する研究を継続して行っている。また，重複障害児の卒後の余暇活動についての研究も併せて行っている。今年度は，特殊学級担任の養護・訓練のとらえ等に関するデータ収集，教育相談来所児への個別の指導計画の作成・活用，重度障害者通所施設についての資料収集を行った。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

重複障害児指導法特論では，病弱児，特に進行性筋疾患児と重症心身障害児の養護・訓練個別指導計画作成手順について，児童の実例を提示し，それに基づいて実際に指導計画を作成する作業を行って，理解が深

まるよう工夫した。また，今年度から始まった介護等体験について，特殊教育諸学校の受け入れ態勢や実施上の課題等を調査し，まとめた。

**研究成果の発表状況**

論】平成11年３月：『特殊教育諸学校における介護等体験学生受け入れ態勢と実施上の課題』（共著）　上越教育大学研究紀要　第18巻第２号 pp.459-469，平成11年３月：『個別の指導計画を作成・活用したＡ児への歩行動作の指導』（共著）　上越教育大学学校教育学部附属障害児教育実践センター紀要　第５巻 pp.11-18

発】平成10年８月：『特殊教育諸学校における介護等体験学生受け入れ態勢と教師の意識』（共）　日本学校教育学会第13回研究大会　自由研究発表

**共同研究の実施状況**

介護等体験を実施した上での大学における指導の改善に関する基礎的研究　代表者：大野由三　平成10年度教育改善推進費

**学会活動への参加状況**

８月１日～２日：日本学校教育学会第13回研究大会出席，９月13日～15日：日本特殊教育学会第36回大会出席

**社会的活動状況**

新潟県教育相談運営会議委員及び教育相談員(新潟県教育委員会)，平成10年度新潟県免許法認定講習講師(新潟県教育委員会)，上越市公民館家庭教育講座講師（上越市），地域の児童の教育相談・指導

**藤　井　和　子**（助　手）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

言語障害を持つ子どもの指導に関する研究を継続して行っている。今年度は，矯正歯科分野で舌癖を持つ患者に行われている口腔筋機能療法に着目し，舌癖や歯列不正を伴う構音障害に対する指導への応用について検討を行った。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

新潟県教育委員会派遣の研究生に対し，言語障害を持つ子どもの指導の実際について指導を行った。その際，実際に子どもに指導を行う実習場面を継続して取り入れ，言語障害を持つ子どもの教育的診断，評価について特に検討を行った。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年９月：『我が国における言語障害教育の成立過程について―揺籃期における取り組み―』（単著）上越教育大学研究紀要 pp.131-144，平成11年３月：『口腔筋機能療法の応用による構音指導』（共著）上越教育大学研究紀要 pp.447-457

**学会活動への参加状況**

９月13日～15日：日本特殊教育学会出席

**社会的活動状況**

新潟県特殊教育研究会下越地区言語・難聴教育研究協議会研修会講師（『言語障害を持つ子どもの通級指導について』を講演），上越特殊教育研究会言語・難聴部研修会講師（『側音化構音の指導』を講演），上越市こども発達相談室講師，新潟県保健所療育教室講師

村　中　智　彦（助　手）　※附属障害児教育実践センター

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

知的障害児の教育，主にコミュニケーション指導法に関する基礎的・臨床的研究を継続して行っている。今年度は，特に重度知的障害児の要求選択行動の分析・検討と，知的障害児の地域に根ざした教育について文献検討及びデータの収集を行った。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

教育実践場面分析の授業では，知的障害養護学校における実習やそのまとめについて，授業の補助を行った。

**研究成果の発表状況**

著】平成10年２月：『こころのコミュニケーション』（共著）全国社会福祉協議会

論】平成10年10月：『自傷・攻撃行動を示す重度知的障害児の事例研究：援助方法の変容による改善』（単著）上越教育大学研究紀要 pp.471-482，平成11年３月：『重度知的障害児の要求選択行動における好みの影響』（単著）　上越教育大学障害児教育実践センター紀要 pp.19-25

**学会活動への参加状況**

６月13日～14日：日本発達障害学会出席，９月13日～15日：日本特殊教育学会出席

**社会的活動状況**

大潟町第２保育所講師（保育者の研修と障害園児の指導１回／月），かなやの里更正園講師（職員研修１回／月）

**＜言語系教育講座（国語）＞**

**有　澤　俊太郎**（教　授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

修辞学の国語教育学的研究，国語科実践場面に関する研究を行った。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

学部，大学院の授業（修士課程演習）において，教員養成実地指導講師を任用したり博士課程の学生をティーチング・アシスタントやリサーチ・アシスタントに任用したりして，実践的側面の教育の充実を図った。

連合大学院の教育については，主指導教官として受け持った院生２人の指導を副指導教官，授業担当教官との連携の下で行った。３月，院生のうち１人に博士（学校教育学）が授与された。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年12月：「記事文における事実：剣岳遭難の記事について」（単著）『月刊国語教育』 pp.4-9，平成11年１月：「金子みすゞの「さびしい」について」（単著）『実践国語教育研究』 pp.13-17 ，平成11年２月：「国語における教育課程の柔軟化を図るリーダーシップ」（単著）『柔軟な教育課程の編成』所収 pp.119-124，平成11年３月：「言語学習の三角形再論」（単著）『教育実践場面「国語」の研究』所収 pp.1-10

**学会活動への参加状況**

８月３～４日，10月17～18日：全国大学国語教育学会出席（研究発表司会），８月１～２日：日本国語教育学会出席，８月５～６日：日本読書学会出席（研究発表司会），９月12日：上越教育大学国語教育学会「私たちの敬語を考える」（パネルディスカッション・コーディネーター，『上越教育大学国語研究』第13号，平成11年２月　所収）

**社会的活動状況**

①学会：全国国語教育学会理事（学会誌編集委員），日本読書学会理事（学会誌編集委員），日本国語教育学会理事，人文科教育学会理事，英国読書学会会員

②講演・講義など：6月11日（県教育センター），11月6日（下保倉小学校），12月4日（市振小学校），いずれも国語教育に関しての講演・講義

③会議など：上越市立図書館協議会委員長として諸会議等を開催，国語教科書編集委員として諸会議等に出席

**下　西　善三郎**（教　授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

日本中世文学に関する研究及び近代作家・作品における古典の受容と変容に関する研究を継続して行っている。今年度は，特に伝説の後代における変容的受容に関していくつかの謡曲作品の解読にあたり，また，芥川龍之介における古典の影響について検討した。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

講義科目では，一つのテーマを通時的に眺めわたす工夫をし，最近の研究成果を盛り込んで内容構成を図った。講読・演習の科目では，各人に事前に発表の指針を与え，レジュメの作成の仕方，読んでおくべき書籍等について指示し，個人の事前学習における効果や内容の理解を深める工夫を行った。ただ，演習形式でおこなう科目においては，受講者数が多かったため，一人にかける時間が不足するという反省点が残った。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年8月：「古典典拠に言及する小説の語り」（単著）『筑波大学　日本語と日本文学』第27号 pp.55-64，平成11年2月：「生田川伝説の変奏ー能＜浮舟＞と＜求塚＞」（単著）『金沢大学　国語国文』第24号 pp.34-43，平成11年2月：「中世隠者文学の世界」（単著）『上水内教育』第81号 pp.48-61　長野県上水内教育会

他】平成10年9月：「文学イメージのなかの＜上越＞」（単著）『広域・上越圏ぶん録』文化篇第2章 pp.11-29 上越地域広域行政組合

**学会活動への参加状況**

9月19日～20日：筑波大学国語国文学会出席（於筑波大学）

**社会的活動状況**

7月30日：信濃教育会主催　野尻湖夏季大学講師（「中世隠者文学の世界」を集中講義），10月～11月：上越市立図書館　文学講座（「頸城野の文学」を講義）

**前　川　幸　雄**（教　授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

「中唐文壇」に関する研究を継続して行っている。今年度は，特に元稹と白居易の「酔」の詩についての分析・検討を行った。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

大学院の「漢文学特論」で『文選』を，「漢文学演習」で『白氏文集』を取り上げ，講義と演習をし，院生（現職教員）の漢文の理解力を高めるよう工夫した。学部の「漢文学講読」A・同IIの授業では，訓読の個別

指導をした。学部の「中国語・中国事情」では，『初級中国語教本』を使用し，授業の研究を進めた。

**研究成果の発表状況**

論】平成11年２月：『白居易「酔」詩初探』（単著）　上越教育大学『国語研究』第13号 pp.1-23，平成11年３月：『元稹の「酔」の詩について』（単著）　上越教育大学研究紀要第18巻第２号 pp.920-934

発】平成11年２月：『元稹，白居易「酔」詩初探』（単）　上越教育大学国語教育学会第36回　研究発表，平成11年３月：『白楽天の酒の詩と酔の詩』（単）　上越国語同好会平成10年度第５回例会　研究発表

他】『元・白唱和詩』の訳注を「文芸たかだ」（高田文化協会発行）に掲載している。

**共同研究の実施状況**

教育改善推進費のプロジェクト「中国語教材の創造的開発の研究（『楽しく学ぶ中国語・中国文化』教科書の編集）」では，『楽しく学ぶ中国語・中国文化』（120頁）を王承云氏と共同で編集した。３月末日付け発行。

## 押　木　秀　樹（助教授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

国語科書写教育研究の基礎としての手書き文字に関する研究，特にその方法論とその方法を用いた調査等の研究を継続して行っている。今年度は，特に字形の分析方法としての概形に関する基礎的研究と教科書体及び同コンピュータフォントについての検討を行った。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

国語（書写を含む）・書写書道Ⅰの授業では，視聴覚機器を用いた実技の師範方法に加え，児童・生徒自らの文字からスタートする書写学習という視点により内容構成を研究し，硬筆毛筆書写に関する実習効果や内容の理解を高める工夫を行った。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年８月：『Linee di recerca relative alla scrittura dei bambini in Giappone』（単著）Scrittura -Rivista di problemi grafologici- 106/ Istituto Grafologico GIROLAMO MORETTI，平成11年３月：『手書き文字の概形特徴に関する基礎的研究』（共著）　書写書道教育研究　第13号，平成11年３月：『教科書体フォントの状況及び小学校用コンピュータへの同フォント導入の必要性について』（共著）　書写書道教育研究　第13号

作】平成10年７月：『煙花三月下揚州』　第37回書象展　朝日生命ギャラリー（新宿センタービル），平成10年８月：『衛カ銘文』　第14回読売書法展　東京都美術館，平成11年３月：『宗周鐘銘文』　第61回謙慎書道展　東京都美術館

発】平成10年11月：『情報化と書写書道教育』（共）書写書道教育学会兵庫大会　研究発表

他】平成10年７月：『パソコンとインターネットで広がる書の世界』　雑誌『墨』（連載　計７回）

**共同研究の実施状況**

これからの書写書道教育に向けて-情報化と総合的な学習　金沢市立浅野川中学校八田和幸教諭らとの共同研究（第九回石川県書写書道教育研究大会にて報告）

**学会活動への参加状況**

９月４日～５日：全日本書写書道教育研究大会出席，11月29日：全国大学書写書道教育学会出席

**社会的活動状況**

新潟県書写書道教育研究会副会長，石川県書写書道教育連盟副会長，高知県書写教育研究会大会講師(『これからの書写教育を考える』を講演)，東京都盲ろう養護学校書道展講師

小　埜　裕　二（助教授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

日本近・現代文学研究のうち，以下の項目について重点的に研究を行った。(1)三島由紀夫の戯曲作品研究（「サド侯爵夫人」「薔薇と海賊」その他），(2)宮沢賢治の童話作品研究（「オツベルと象」「雁の童子」その他），(3)昭和初年代の文学状況についての研究，(4)太宰治の中期文学研究，(5)昭和五〇年代の文学状況についての研究，(6)三島由紀夫に関する研究動向調査。(1)(2)は継続研究，(3)(4)(5)(6)は新規研究。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

(1)「国文学講読Ⅰ」，(2)「総合科目宮沢賢治」，(3)「国文学演習Ⅰ」，(4)「国文学研究法」，(5)「国文学特論B」，(6)「国文学演習A」の各授業では，学生の積極的かつ主体的な授業参加をもとめるため，(1)(2)では研究対象に関する学生の意見交換を中心に授業を構成，(3)(4)(5)(6)においては学生の予習指導に重点を置いた授業を構成するよう配慮した。また，国文学実地踏査研究として佐渡・鎌倉の文学史跡を学生とともに調査した。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年６月：「めぐる鹿・西へ行く人―『鹿踊りのはじまり』論―」（単著）イミタチオ　pp.41-55，平成11年２月：「母なる自然・父なる自然―『オツベルと象』論―」（単著）金沢大学国語国文　pp.77-84

他】平成10年10月：「学会展望・三島由紀夫」（単著）文学・語学　pp.54-55，平成11年２月：「三島由紀夫『橋づくし』解説」（単著）『近代小説＜都市＞を読む』双文社　pp209-210

**学会活動への参加状況**

５月23日～24日：日本近代文学会春季大会出席，10月17日～18日：日本近代文学会秋季大会出席

**社会的活動状況**

日本海文学大賞選考委員（中日新聞社）

髙　本　條　治（助教授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

日本語の構造と使用との相互関係に関する研究，日本語の発話解釈の可能性と優先度に関する研究，言葉が介在する相互誤解と相互不達（ディスコミュニケーション）に関する研究を，互いに関連づけながら継続的に行っている。そのうち，今年度は，異なった解釈者間で解釈成果を交換し比較するための「解釈記録」について，そのフォーマットとプロトコルに関する基礎的な研究を中心に行った。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

学部向けの授業では，言語学の基礎的知識と応用的思考の両面を重視し，特に，解釈の可能性と優先度の問題を各自が十分自覚できるように配慮した。修士課程向けの授業では，語用論の最近の研究成果を取り上げ，それを具体的事例に適用して批判できる能力の育成を重視した。いずれの授業でも，各自の思考を文章化したレポートを毎回作成させ，受講者全員にフィードバックした。そのため，インターネット・メールも積極的に利用した

**研究成果の発表状況**

論】平成10年９月：「金子みすゞ『積つた雪』の語用論的分析―非平行的解釈を動機づける構造的条件」（単著）上越教育大学研究紀要　第18巻第１号 pp.165-180，平成11年３月：「文節関係解析木（文節木）について」（単著）　上越教育大学研究紀要　第18巻第２号　pp. 538-554

業】平成10年４月：「『言語感覚』という用語の捉え直しに向けて」（単著）　教育実践場面分析演習「国語」

の研究III　pp.1-10

発】平成10年10月：「言語表現の語用論的解釈とその記録形式」（単）　日本教育大学協会北陸地区会国語科・書道科合同研究協議会　研究発表，平成10年11月：「解釈記録のフォーマットとプロトコル」（単）　大学英語教育学会談話行動研究会　研究発表

他】平成10年６月・９月・12月・平成11年３月：「インターネット言語学情報」　月刊言語（連載）

**国際研究プロジェクトへの参加状況**

東西言語文化の類型論特別プロジェクト研究　代表者：原口庄輔（筑波大学教授）　筑波大学特別プロジェクト（客員研究員として参加）。

**学会活動への参加状況**

５月30日～31日：国語学会春季大会出席，４月20日・11月２日～３日：デジタル日本語学研究会出席，10月29日～30日：日本教育大学協会北陸地区会国語科・書道科合同研究協議会出席，11月26日：大学英語教育学会談話行動研究会出席

**社会的活動状況**

筑波大学国語国文学会学外評議員，ジャストシステムデジタル文化研究所ATOK監修委員，上越市職員試験等実施協力

**野　村　眞木夫**（助教授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

ａ．『日本語のテクスト― 関係・効果・様相（日本語研究叢書第３期・１）』（平成11年中に，ひつじ書房から刊行の予定。単著，約300頁）のテーマで，テクストの組織をコミュニケーションに即して動態的に研究している。システム理論の考え方を導入し，パラグラフのしくみと，総称表現，描出表現を具体例とする。

ｂ．言語人類学および文学人類学の理論と方法を，システム理論の側面から検討している。特に，柳田国男，川田順造，野村純一，菅原和孝らの仕事を批判的にとらえなおし理論的に再構成することをすすめている。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

ａ．学部の授業では，現代日本語の文法的な事実を，受講者各自の言語直観を資料としてどのように記述説明するかについて実践的かつ相互交流的な講義を行い，また演習では，類義語の記述分析を資料調査によって展開すること，会話分析の実証的な調査を指導した。新聞の見出しの表現類型とその読み取り方に関する卒業論文を指導した。

ｂ．大学院の授業では，社会システム理論とオートポイエーシス理論の考え方を批判的に組み込み，言語的コミュニケーションを考える方法を検討している。日本近代文学作品の文体論的な分析に関する修士学位論文を指導した。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年９月：『テクストの記述フレーム：参加者と観察者の範疇を視座として』（単著）　上越教育大学研究紀要　第18巻第１号 pp.145-163

**学会活動への参加状況**

５月30日～31日：国語学会出席，６月６～７日：表現学会全国大会出席

**松　本　　修**（助教授）　※附属実技教育研究指導センター

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

国語科文学教材の教材分析におけるナラトロジー導入のあり方についての検討を継続的に行っている。また，授業場面における学習者の読みの交流の様相についての検討，授業場面におけるディスコミュニケーションに関する研究を行っている。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

「国語科特講」の授業では，研究発表会などにおける授業ビデオを用いて，教材分析がどのように具体的な学習指導と結びついているのかについて，批判的検討を行わせることによって，教材と学習を総合的観点から見ることができるよう工夫した。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年７月：「コミュニケーション教育のあり方と心の教育」（単著）　日本語学17巻８号　明治書院 pp.37-44，平成10年７月：「生涯教育から見た各科教育(2)―保護者の評価に対する教師の評価を中心に―」（共著）　学校教育研究13「魅力ある学校」の創造　日本学校教育学会　pp.124-138，平成10年７月：「「ごんぎつね」における自由間接話法」（単著）　読書科学164　日本読書学会　pp.41-46，平成10年12月：「短歌教材の朗読指導」　月刊国語教育研究320　日本国語教育学会　pp.42-47，平成10年12月：「「握手」小論」（単著）　Groupe Bricolage 紀要 No.16　pp.61-66，平成10年12月：「「こころ」の語り」（単著）　Groupe Bricolage 紀要 No.16　pp.67-71

業】平成10年９月―平成11年３月：『文学教材のナラトロジー』（単著）　月刊国語教育211-216，東京法令出版（６回連載），平成11年１月：「「握手」における指言葉の意味をめぐって」（単著）　学図教科研究国語159 pp.5-8，平成11年３月：「国語科教材研究における教材内容と授業分析」（単著）　上越教育大学教科教育に関するプロジェクト研究，平成11年３月「プロジェクトの研究テーマと方法について」（単著）　『総合学習に生きる国語科練習単元の開発』　上越教育大学学校教育研究センタープロジェクト研究，平成11年３月：「詩歌教材の教材化における「言語感覚」」（単著）　『教育実践場面分析演習「国語」の研究IV』　上越教育大学言語系教育研究系国語コース

**共同研究の実施状況**

学校教育における教科書の体様とその教育効果に関する調査研究　代表者：藤村和男（教科書研究センター研究部長）科学研究費補助金，国語科の教科内容に関する研究　代表者：菅岡強司　上越教育大学学校教育センタープロジェクト研究

**学会活動への参加状況**

５月16日：日本国語教育学会高校部会出席，８月１・２日：日本国語教育学会出席，８月３・４日：全国大学国語教育学会出席，10月17・18日：全国大学国語教育学会出席，11月14日：日本国語教育学会高校部会出席

**渡　部　洋一郎**（講　師）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

作文教育史及び教師の意思決定に関する授業分析の研究を継続して行っている。今年度は，刺激回想法によって得られる情報や分析の利点およびその限界についての検討を行うとともに，授業実施過程における学習者研究についての成果や課題を整理し，その展望を略述した。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

大学院修士課程の授業では，１年生対象の「国語科教材分析演習」において，実際の授業記録などに基づきながら，教師の意思決定に関する分析を行った。また，「国語科教育特論Ａ」では，大正時代における随意選題論争に関する資料をもとに，作文指導法の検討を行った。２年生対象の「実践場面分析演習」では，院生による解釈班を組織し，附属中学校における授業記録をもとに，分析の仕方について指導助言を行った。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年３月：「教師の児童認知と教師期待効果―個人差の要因とその影響―」（単著）　『教育実践場面分析演習「国語」の研究III―「詩歌教材で子どもの言語感覚」をどうとらえどう育てるか―』　平成９年度教育研究特別経費研究成果報告書　上越教育大学言語系教育研究系国語コース　pp.183-190，平成10年５月：「■国語■【小学校】わが国の文化と伝統を尊重し，生涯にわたって古典に親しむ態度を育てる」（単著）『教職研修』５月号臨時増刊『「豊かな人間性・社会性の育成」全課題徹底理解』（「新教育課程の論点徹底理解」シリーズ第２巻）　教育研究開発所　pp.130-131，平成11年３月：「教師の心理―刺激回想法による授業時の意思決定解釈―」（単著）　『月刊国語教育研究』No.323　日本国語教育学会　pp.54-59，平成11年３月：「教師の横断的連携と生徒の創造的思考―新教育課程をめぐるいくつかの問題―」（単著）　『月刊国語教育』VOL18　No.13　pp.36-37，平成11年３月：「刺激回想法によって得られる情報とその分析―授業実施過程における教師の思考と意図と行動の矛盾―」（単著）　『教育実践場面分析演習「国語」の研究IV―詩歌教材の学習における学習者の言語感覚の変容―』　平成10年度教育研究特別経費研究成果報告書　上越教育大学言語系教育研究系国語コース　pp.81-88，平成11年３月：「学習者研究における反応効果と内的過程の把握」（単著）　『教育実践場面分析演習「国語」の研究IV―詩歌教材の学習における学習者の言語感覚の変容―』　平成10年度教育研究特別経費研究成果報告書　上越教育大学言語系教育研究系国語コース　pp.124-128，

**学会活動への参加状況**

10月17日～18日：第95回全国大学国語教育学会熊本大会出席

**迎　　勝　彦**（助　手）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

国語科における音声言語指導及び対話指導に関する研究を継続して行っている。今年度は，特に教室における談話の構造及び発話解釈の行為的側面に関する分析を行うことにより，「話す・聞く」といった学習活動の相互性を保証するための指導方略について研究・考察を行った。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

学部の授業では，４年生対象の「国語科研究法」において，卒業論文作成のための助言と指導補助を行った。

また，修士課程の授業では，「教育実践場面分析演習『国語』」において授業補助を行った。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年８月：「発話解釈モデルに基づく『聞くこと』の指導の有効性」（単著）　『人文科教育研究』第25号　人文科教育学会　pp.105-117，平成10年11月：「教室内談話におけるメタコミュニケーション―言語表現の遂行的機能に基づく発話分析―」（単著）　『国語と教育』第23号　長崎大学国語国文学会　pp.20-29

発】平成10年９月：「音声言語指導における学習条件の設定」（単）　平成10年度日本国語教育学会新潟支部研修会発表

**学会活動への参加状況**

８月１日～２日：日本国語教育学会第61回全国大会出席，８月３日～４日：第94回全国大学国語教育学会東

京大会出席，10月17日～18日：第95回全国大学国語教育学会熊本大会出席

＜言語系教育講座（外国語）＞

池　内　正　幸（教　授）

現在の研究状況

①　専門分野の研究状況

生成文法理論の枠組みに拠る現代英語の統語論・意味論及び言語理論の研究を継続して行っている。今年度は，特に極小主義に拠る経済性の問題について研究・考察した。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

特に，生成文法特論の授業では最新の成果に触れながら授業内容を構成した。

研究成果の発表状況

論】平成10年９月："An Analysis of *an Angel of a Girl* Type NPs (II)"（単著）『上越教育大学研究紀要』第18巻第１号　pp.203-218，平成11年３月：『ミニマリスト・プログラムにおける経済性の条件の研究』（単著）平成９～10年度科学研究費補助金（基盤研究(C)(2)）研究成果報告書，平成11年３月："An Analysis of *an Angel of a Girl* Type NPs (III)"（単著）『上越教育大学研究紀要』第18巻第２号　pp.585-595

発】平成10年６月：「よくわかるミニマリズム」（単）科学研究費補助金特定領域研究(A)「心の発達：認知的成長の機構」第１回全体会議　講演，平成10年12月："Some Comments from a Minimalist Point of View"（単）Workshop on Neuroscience　研究発表

学会活動への参加状況

５月23日～24日：日本英文学会年次大会出席

社会的活動状況

日本英文学会編集委員，日本英語学会評議員，日本英語学会大会準備委員（副委員長）

加　藤　雅　啓（教　授）

現在の研究状況

①　専門分野の研究状況

談話における照応表現及び強調構文に関する研究を継続して行っている。今年度は，特に関連性理論の立場から英語の分裂文及び疑似分裂文についての分析・検討を行った。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

［大学院］

英語学特論IV及び英語学特論Vの授業では，機能文法理論，情報構造理論及び関連性理論の最近の成果を取り込んで，英語の談話構造の分析を多角的に行った。この過程において，規則の羅列ではなく，学習者の「なぜ」という疑問に答えることのできる英文法の効果的な指導について，理解を高める工夫を行った。また，修士論文（２編）の指導を担当した。

［学部］

マルチメディア教室において英語II A，英語II B，英語IVを担当し，コミュニケーション能力の養成に努めた。特に英語によるスピーチの指導を行い，英語表現能力の育成につとめた。

研究成果の発表状況

論】平成10年６月："Processing Constraints on Wh-clefts in Discourse"（単著）『英語表現研究』第15号　日本英語表現学会　pp.48-59，平成10年10月：『分裂文と Wh 分裂文の排他性含意』（単著）*International Jour-*

*nal of Pragmatics* Vol. 8　日本プラグマティックス学会　pp.33-48, 平成11年3月：Review of Barbara Fox(ed.): *Studies in Anaphora,* Amsterdam: John Benjamins Publishing Company 1996.xi+517 pp. *Studies in English Literature*　Englishs Number 1999. 日本英文学会 pp.84-89

発】平成10年10月：『分裂文の排他性含意再考』（単）日本プラグマティックス学会1998年度研究大会　研究発表

**学会活動への参加状況**

平成10年5月23～24日：日本英文学会第70回大会出席，平成10年10月31日：日本プラグマティックス学会1998年度研究大会出席，平成10年11月7～8日：日本英語学会16回大会出席

**社会的活動状況**

日本プラグマティックス学会評議員・編集委員，日本英語検定協会面接委員（財団法人日本英語検定協会）

**齋　藤　九　一**（教　授）　※附属実技教育研究指導センター

**現在の研究状況**

① 専門分野の研究状況

19世紀英文学，特にディケンズ，アーノルド，トロロプに関する研究を継続して行っている。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

学部の「コミュニケーション英語」では，時事問題や電子メール関連する英文の読解訓練と英文作成の基礎力養成に留意した。総合科目「ことばと人間」では，言葉による人生の記述，すなわち物語（ナラティブ）の多様性について論じた。大学院修士課程では，ディケンズとマードックについて講義した。

**研究成果の発表状況**

著】平成10年11月：スティーブン・カーン『愛の文化史：ヴィクトリア朝から現代へ』（上・下）（共訳）　法政大学出版局

論】平成10年9月：「Dickens の *Sketches by Boz* における “Our Parish” の構成について」（単著）　上越教育大学研究紀要第18巻第1号　pp.181-190

**学会活動への参加状況**

10月3日：ディケンズ•フェロウシップ日本支部秋季大会（東京女子大学）出席，2月14日：JALT（全国語学教育学会）バイリンガル教育シンポジウム（北里大学）出席

**平　野　絹　枝**（教　授）

**現在の研究状況**

① 専門分野の研究状況

ESL/EFL の習得，方略，読解力の評価に関する研究を継続して行っている。今年度は，特に日本人中学生，高校生，大学生の読解方略と読解力の関係，及び読解リコールについての分析，検討を行った

② 教育活動の実施・改善の研究状況

学部の授業では最近の研究成果を取り込んだ形での英文の読解とコミュニケーション能力の育成に努めた。また，大学院(英語科教育原理特論，英語科教育教材分析演習，教育実践場面分析実習)では，ESL/EFL及び応用言語学の理論と指導，多角的な視点にもとずいた教材分析に焦点をあてた。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年9月：『採点基準の違いが読解のリコールに及ぼす影響—高校生（下位者）の場合—』（単著）上越教育大学研究紀要　第18巻第1号　pp.191-201，平成10年11月：“Japanese students’ metacognitive

awareness and EFL reading (recall): comparisons among high school, undergraduate, and graduate students"（単著）*JACET Bulletin* No.29 pp.33-50，平成11年3月："Japanese high shool students' metacognitive awareness of EFL reading: The effect of grade difference"（単著）上越教育大学研究紀要第18巻第2号 pp.571-584

発】平成10年6月：『読解のリコールテストの分析』（単）中部地区英語教育学会 研究発表，平成10年8月：『読解のリコール—採点基準，英語学力，英語学習経験年数の影響』（単）第24回全国英語教育学会 研究発表

**共同研究の実施状況**

英文読解を支える構成要素に関する研究 代表者：平野絹枝 学校教育研究センター公募研究補助金，英語学習におけるマルチメデイア活用と学習者要因との関係について(1) 代表者：赤松信彦 教育改善推進費

**学会活動への参加状況**

6月27日：中部地区英語教育学会出席，7月26日：外国語教育評価学会第2回全国研究大会出席，9月11日～13日：第37回大学英語教育学会全国大会出席

**社会的活動状況**

中部地区英語教育学会運営委員，紀要編集委員

熊 井 信 弘（助教授）

**現在の研究状況**

① 専門分野の研究状況

英語のリスニングに関して，英語学習者はどのように聞こえてきた英語を知覚し，情報を処理するか，実証的に研究を行った。また，リスニング能力を高めるための具体的方策について分析および考察を行った。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

学部のコミュニケーション英語の授業では，最近のリスニングに関する知見を取り込んだ教材を開発し，それを用いて実践的なコミュニケーション能力を高めるための工夫を行った。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年9月：『マルチメディア教室におけるリスニング指導について』（単著）上越教育大学研究紀要 第18巻第1号 pp.233-243，平成11年1月：『英語教育における方略に関する基礎的研究』（共著）上越教育大学学校教育研究センター 教育実践研究第9集 pp.1-10

業】平成11年3月：『文部省検定中学校1年2年3年英語科教科書 *New Horizon English Course*』（共著）東京書籍

**共同研究の実施状況**

英語教育における方略に関する基礎的研究 代表者：北條礼子 上越教育大学学校教育研究センター補助金

**学会活動への参加状況**

大学英語教育学会大会出席，語学ラボラトリー学会全国大会出席，全国語学教師学会大会出席

**社会的活動状況**

文部省英語科指導者講座研修講師（『リスニングの指導』を講演）

平 野 七 濤（助教授）

**現在の研究状況**

① 専門分野の研究状況

フリードリッヒ・ヘルダーリンに関する研究を継続して行っている。今年度は，特にテュービンゲン時代の賛歌について分析し，読みを深めた。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

ドイツ語•ドイツ事情Ⅰ•Ⅱの授業では，ドイツの民謡，クラッシック歌曲，ドイツ語による日本歌曲（エルンスト・ヘフリガー）等を段階的に聴かせ，ドイツ語音声の特徴，及びドイツ音楽文化の一端を提示し，かつ解説し学生の興味を喚起できた。

**研究成果の発表状況**

論】平成11年３月：『Hölderlin: Mein Eigentum について』（単著）上越教育大学研究紀要　第18巻第２号 pp. 597-606

**学会活動への参加状況**

５月30日～31日：日本独文学会1998年春季研究発表会に出席

**北　條　礼　子**（助教授）

**現在の研究状況**

① 専門分野の研究状況

日本人EFL学習者の言語（英語，国語）学習における学習方略に関する研究を継続して行っている。今年度は，平成９～10年度科学研究費補助金基盤研究(C)「日本人学習者の言語（国語・英語）学習における学習方略のモデル構築に関する研究」を受け，日本人EFL学習者が英語学習と国語学習において用いている学習方略を明らかにし，その上で英語と国語における学習方略の共通点，相違点を検討した。その他にも，赤松信彦講師と共同で，早期英語教育関連の資料の収集を開始した。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

大学院（修士課程）では「英語科教育評価持論」，「英語科教育研究法演習」，「教育実践場面分析演習『英語』（分担）」を担当した。特に，演習科目では，アンケート項目作成からその分析まで，特に分析ソフトウェアを実際に用いる演習の時間を確保するように努めた。学部では「コミュニケーション英語ＡⅡ」，「コミュニケーション英語ＢⅠ」，「英語Ⅳ（英米文化）」を担当したが，多人数のクラスでは読解力の向上を目指し，少人数のクラスではリスニングや口頭練習の機会を多く設けた。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年９月：「日本人EFL学習者の学習方略に関する研究(5)」（単著）上越教育大学研究紀要　第18巻第１号　219～230頁，平成11年３月：「英語教育における方略に関する基礎的研究」（共著）教育実践研究第９集　上越教育大学学校教育研究センター発行　１～10頁，平成11年３月：「日本人EFL学習者の学習方略に関する研究(6)」（単著）　上越教育大学研究紀要　第18巻第２号　607～619頁，平成11年３月：「日本人学習者の言語（国語・英語）学習における学習方略のモデル構築に関する研究」（単著）平成９・10年度科学研究費基盤研究(C)報告書（全102頁）

発】平成10年９月27日：「言語（国語）学習において日本人学習者が用いる学習方略に関する研究」（単）1998年日本教育工学会第13回大会（同大会講演論文集（第一分冊）549～550頁）

**共同研究の実施状況**

英語教育における方略に関する基礎的研究　代表者：北條礼子　平成10年度学校教育研究センター公募研究（平成９年度より継続），英語学習におけるマルチメディア活用と学習者要因との関係について(1)　代表者：赤松信彦　平成10年度教育改善推進費（学長裁量経費）教育研究改革・改善プロジェクト経費

**国際研究プロジェクトへの参加状況**

1998年度アジア・太平洋地域教育工学東京セミナーAPEID第6期事業2回にパーティシパントとして出席（1998年10月14日～10月20日，東京学芸大学において開催，日本ユネスコ国内委員会・教育工学センター連絡協議会・東京学芸大学主催）

**学会活動への参加状況**

平成10年9月26日～27日：1998年教育工学会第13回全国大会出席，平成10年24日～25日　第5回日本視聴覚・放送教育学会出席

**社会的活動状況**

日本視聴覚・放送教育学会編集委員

## 前　川　利　広（助教授）

**現在の研究状況**

① 専門分野の研究状況

アーネスト・ヘミングウェイの創作方法に関する研究，並びにアメリカ地方作家と自然に関する研究を継続して行っている。今年度は特に，これまで漠然とした理解しかなされていなかったヘミングウェイの「氷山の理論」にできるだけ明確な形をつける作業に集中した。そしてその結果を英文でまとめた。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

大学院の講義では，1）ヘミングウェイの生涯・時代・作品を紹介し，その上で実際に作品を読み，行間を読むことはどういうことなのかを平明に解説した，2）文学作品のなかで自然を扱う意義を考察した論文を週に一本の割で材料にし，さまざまに吟味する機会を提供した。学部の授業では，アメリカの大学生活について書かれたものを教材とし，日米学部生の日常生活の比較を考えさせる内容の授業を試みた。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年11月：『海老沢泰久とヘミングウェイ』（単著）*Kyushu American Literature*　No.39　pp.79-90

業】平成11年1月：*"Screen Vocal Listening"*（共著）金星堂

**学会活動への参加状況**

5月25日—31日：The Eighth International Hemingway Conference出席，10月：日本アメリカ文学会出席

## 赤　松　信　彦（講　師）

**現在の研究状況**

① 専門分野の研究状況

第二言語における英語読解メカニズムに関する研究を継続している。今年度は，特に日本人大学生の読解能力を構成する要素と英語学習スタイルとの関係について，分析・考察を行った。また，過去25年に公表された早期英語教育に関する文献を研究し，現在，各都道府県にある公立小学校研究指定校の3年間の研究成果報告書を分析している。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

少人数英語クラスでは，プロセス・ライティングに関する最近の研究成果を取り込み，授業内容・構成を研究し，e-mailによる英文の添削や個人指導を行い，各学生の英語におけるライティング能力を高める工夫を行った。

**研究成果の発表状況**

著】平成11年３月：The contribution of listening to reading acquisition in English as a second/foreign language. In Jungheim, N., & Robinson, P. (Eds.), Second language acquisition, Vol. 2: Pragmatics and pedagogy: The proceedings of the third Pacific Second Language Research Forum. Tokyo: PacSLRF.（分担執筆），平成11年３月：『日本人大学生の読解メカニズム研究（平成９年～10年度科学研究助成金・奨励研究(A)研究成果報告書)』（単著）

論】平成10年８月： L1 and L2 reading: The orthographic effects of Japanese on reading in English.（単著）*Language, Culture, and Curriculum,* Vol.11 pp. 9-27，平成11年３月：『第二言語単語認識におけるAutomaticityの重要性について』（単著）上越教育大学研究紀要第18巻第１号

発】平成10年７月：『第二言語学習者の単語認識におけるAutomaticityについて』（単）第２回上越教育大学英語教育学会　研究発表

**学会活動への参加状況**

平成10年７月：第２回上越教育大学英語教育学会出席，平成11年３月：Seminar on Individual Differences出席

**野　地　美　幸**（講　師）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

生成文法（統語論）の研究を継続して行っている。語順と格の問題を研究課題として取り組むとともに，Chomsky（1995）のミニマリスト・プログラムの概要をまとめる作業を行った（＜英語学文献解題＞『文法II』（研究社）に所収の予定)。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

学部の授業では，コミュニケーション英語ＣＩ，コミュニケーション英語ＢII，コミュニケーション英語ＡIIを担当し，学部生の英語力，コミュニケーション能力の育成に努めた。

また，大学院の授業では英語学特論，言語学を担当し，英語の統語構造を他言語と比較したり，自然言語の一般的特性について検討を行った。

**研究成果の発表状況**

著】平成10年１月『英語学用語辞典』（共著）三省堂

**国際研究プロジェクトへの参加状況**

11月16～18日：言語と脳科学に関する国際シンポジウム，ワークショップに出席

**学会活動への参加状況**

５月23日～24日：日本英文学会出席

**若　山　真　幸**（助　手）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

通事的・共時的量観点から英語の語順の研究を中心に行っている。今年度は，ヘルシンキコーパスを用いた非人称構文の歴史的推移の計量調査と前置詞残留構文の通言語的変異に関する理論的研究を行ってきた。

**研究成果の発表状況**

著】平成11年１月：「言語学用語辞典」（共著）三省堂

論】平成11年３月：“English Impersonal Constructions Revisited: An Investigation of Helsinki Corpus” 上越教育大学研究紀要

他】平成10年６月：愛知淑徳短期大学公開講座「コンピューターと英語で楽しもう：電子情報活用法」

**学会活動への参加状況**

４月18日：名古屋大学英文学会出席，５月22日：近代英語学会出席，５月23～24日：第50回日本英文学会出席，10月23～24日：第50回日本英文学会中部地方支部大会出席，11月６～７日：第16回日本英語学会出席

**社会的活動状況**

日本英語検定協会面接委員

＜社会系教育講座＞

**赤　羽　孝　之**（教　授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

地方の工業に関する研究を続けている。今年度は，新潟県上越地方の諸工業の内，農機具工業の歴史と生産構造，上越市の酒造業の歴史と工場分布・生産構造などについての研究を，各工場での聴取調査，地域資料・統計などに基づいて行った。

他に，東洋地理学・風水思想についての研究を演習・講義などを通じて，また，調査を国立国会図書館・新潟大学などで行った。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

学部では地理学概説・地理学Ｂ・地理学実験・地域調査法・演習，修士課程では人文地理学特論・演習・課題研究，博士課程では人間の歴史と地域・社会認識教育課程特別研究・演習などを行った。

**研究成果の発表状況**

発】平成10年５月：『上越地方における農機具工業の変遷』（単）上越市史•現代史部会，平成10年11月：講演『上越地方の工業…その立地と歴史…』（単）新潟県社会科教育研究会•秋期研究大会，平成10年12月：『上越市における酒造業の現状と歴史的変遷』（単）上越市史・現代史部会

**学会活動への参加状況**

平成10年４月：日本地理学会春季学術大会（東京都世田谷区），平成10年８月：新潟経済地理学会

**社会的活動状況**

上越市環境情報センター設置構想検討委員会（委員長），上越商工会議所政策委員会委員（委員長），上越市環境条例検討委員会委員，上越市エコタウンプラン策定検討委員会委員，上越市地場産業ネットワーク交流委員会委員（地場産業ネットワーク構築事業），上越市史編集委員（現代史部会）

**大　嶽　幸　彦**（教　授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

明治21年頃欧米を巡回し，取り調べにあたった記録「欧米巡回取調書」の分析を継続して行っている。今年度は，特にドイツ国の事例を分析した。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

学部の授業では単に口頭・板書による講義ではなく，作業学習や発表形式も取り入れた。小レポートをこまめに出し，試験も行った。回を重ねる毎に書く内容が充実した。学部３年生には教員採用試験を視野に入

れた国勢図会を用い，毎回課す小論文を添削した後に返却した。大学院は主に発表形式を取り，報告者を中心に討議するとともに，野外巡検を休日に行った。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年６月：『EUの動向―ライン空間の国境地域を例として―』（単著）　地理月報　pp.13-15，平成11年３月：『地理学から見た欧米巡回取調書―ドイツ国の場合―』（単著）　上越教育大学紀要　pp.645-654

**共同研究の実施状況**

上越教育大学米国理解プロジェクト「米国理解のための教材開発研究」代表者：加藤　章（上越教育大学学長）　米日財団

**学会活動への参加状況**

11月13日～15日：人文地理学会出席，３月25日～27日：日本地理学会出席

**社会的活動状況**

新潟県高等学校教育研究会地理分科会講師，新潟県社会科研究会巡検部会講師

神　成　嘉　光（教　授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

法律の理念の現代的展開に関する研究を継続して行っている。今年度は，特に「最大多数の最大幸福」から「人類全般の生々発達」に向けて問題を展望した。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

法律学・法律学Ⅰ・法律学Ⅱの授業では，最近の研究成果を取り込んで内容構成を研究し，法律の理解を高める授業をした。

**学会活動への参加状況**

法哲学会出席，日本法社会学会出席

澁　谷　　久（教　授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

生命倫理学の研究がようやく軌道に乗ってきた。前年度まで推し進めてきたカント哲学に関する研究も引き続き行った。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

学部の授業では，高校教育とのつながりの在り方を研究し，基礎的学力の涵養に意を用いた。大学院の授業にあっては，学生の将来を慮り，教育哲学や教育史に関する事柄をも授業内容に盛り込む工夫をして，教育実践の裏付けとなる学力の向上を図った。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年９月：『患者の自己決定権をめぐる諸問題』（単著）　上越教育大学研究紀要　第18巻第１号　pp.245-258

**学会活動への参加状況**

５月23日～24日：日本哲学学会第50回総会・第57回大会出席

## 真　野　俊　和（教　授）

### 現在の研究状況

① 専門分野の研究状況

平成10年度に行った専門分野に関する主な調査研究は次のとおりである。ア．上越市および石川県七尾市をフィールドとして民俗調査を実施した。上越市においては共同調査方式による，七尾市においては個人の調査による，総合的な民俗誌のありかたを模索しつつ作業を進めている。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

ア．「民俗学演習」（大学院前期）「広益国産考」輪読。イ．「民俗学特論」（大学院後期）民俗学関係の論文の講究。ウ．「民俗学」（学部前期）民俗学の概説。エ．「民俗学演習（学部４年）上越市内をフィールドとして民俗調査を行い，その結果の報告書作成を通して民俗への理解を深めていった。

### 研究成果の発表状況

著】『桑取谷民俗誌』（編著）（上越市）

### 共同研究の実施状況

1998年から開始された共同研究プロジェクト「東アジア地域の歴史学と歴史教育のマルチ・メディア教材の開発に関する総合的研究」（文部省科学研究費補助金基盤研究Ａ　代表：下里俊行）に参加して，民俗学の立場から研究を深めた。

### 学会活動への参加状況

平成10年10月：日本民俗学会年会出席，平成10年11月：日本山岳修験学会三峯大会出席

### 社会的活動状況

ア．上越市史民俗部会長として民俗調査団を組織し，その企画をたてるとともに，市民からなる調査員に対して指導を行った。また民俗誌の編集を行った。イ．新潟県立博物館展示専門委員，ウ．日本民俗学会代表理事，エ．日本山岳修験学会理事

## 鈴　木　敏　紀（教　授）

### 現在の研究状況

① 専門分野の研究状況

市場価格論の理論的研究及び現代企業の成長条件の調査研究を継続して行っている。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

学部教育における「経済学」，「経済学Ⅰ」，「経済学Ⅱ」，「自然と人間」，「アメリカ事情」においては，最新の情報を新聞及び専門誌等を活用して授業を展開し，各授業ごとに授業内容の感想文を書かせ，興味関心の度合いと内容，理解度等を分析し，それを授業に生かした。経済学演習では企業の広告活動，商店街の電子マネー，新潟県の優良企業に関する現地調査を行った。

大学院での経済学特論では現代の経済理論による分析手法を専門誌等を通して授業を行い，現代社会論では聴講生の現代社会に対する問題意識を中心に各自に発表させ，議論を深める授業方法を取った。

### 学会活動への参加状況

10月23日：上越教育大学社会科教育学会の研究大会に学会会長として出席

### 社会的活動状況

新潟県地域づくりアドバイザーとして三和村の地域づくりアドバイザーを勤める。新潟県公共事業再評価委員会委員，上越市史編さん委員会委員，同専門委員会委員，現代史部会長，上越市行政改革・地方分権推進委員会会長，大潟町情報公開検討委員会委員長，新潟県上中越地区社会保険事務所幹部研修会講師（『上越地域の

経済動向』を講演），板倉町地域振興審査会委員長，地域の児童・生徒の柔道指導（週２回）

## 二　谷　貞　夫（教　授）

### 現在の研究状況

①　専門分野の研究状況

歴史教育に関する国際的比較研究では，教科書における比較研究を続行中である。今年度は，特に韓国・中国の歴史教科書の分析・検討を続行中である。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

大学院の社会科教育演習Ｂの授業では，受講生自身の社会に対する洞察力をレポートなどを通じて深め，歴史意識を鋭利にする効果をあげている。学部の地理歴史教材論の授業では，VTR 教材による，教材の授業における位置づけの批判的検討を試みた。院生と読み手の意識変化に着目しながら，上原専祿著作集の読書会は続行している。

### 研究成果の発表状況

著】平成10年８月：『歴史教育・社会科教育年報1998年版』（分担）三省堂

論】平成10年11月：『教科書の“国際化の課題”日中歴史教育交流の立場から』（単著）日中教育研究交流会議会報第９号　pp.28-32

業】平成10年４月：『文部省検定新版高校現代社会教科書』（共著）一橋出版，平成10年４月：『文部省検定中学社会歴史的分野教科書』（共著）日本書籍，平成11年１月：『文部省検定世界史Ｂ新訂版教科書』（共著）一橋出版，平成11年１月：『教師用指導書世界史Ｂ新訂版』（共著）一橋出版

発】平成10年４月：『歴史表象分析と歴史認識』（単）近現代史研究会講演，平成10年６月：『日韓交流からみた国際理解教育の課題』（共）日本国際理解教育学会第８回大会公開シンポジウム

### 共同研究の実施状況

東アジア地域の歴史学と歴史教育のマルチメディア教材の開発に関する総合的研究　代表者：下里俊行（上越教育大学助教授）科学研究費補助金，自らの学びを総合化する生徒の育成（第１年次）：上越教育大学学校教育学部附属中学校

### 学会活動への参加状況

６月13日～14日：日本国際理解教育学会第８回大会参加，８月２日～４日：歴史教育者協議会第50回大会参加，９月２日：平成10年度日本教育大学協会研究集会参加，10月10日～11日：1998年度社会科教育学会全国大会第48回日本社会科教育学会第47回全国社会科教育学会合同研究大会参加，11月29日：歴史学会研究大会参加，12月21日：日韓フォーラム参加

### 社会的活動状況

上越市立公民館運営審議会委員，三和村農村環境計画検討委員会委員，島根県立松江教育センター平成10年度高等学校地理歴史科教育講座講師（『歴史科目の授業実践上の課題』を講演），歌外波町立歌外波小学校教員研修講師（『総合学習と社会科』を講演），日本学術会議（第17期）歴史学歴史学研究連絡委員会歴史研究と教育専門委員会歴史教育小委員会委員

## 藤　澤　郁　夫（教　授）

### 現在の研究状況

①　専門分野の研究状況

プラトンの『国家』を中心に研究をすすめた。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

大学院の倫理学持論と学部の倫理学概説において，初学者にも倫理学の話題が理解しやすいように，また教育現場でも応用できるような話題を精選するように努力した。

**研究成果の発表状況**

論】平成11年３月：「アテナイ民主制の諸成果から見たソクラテスの刑死」（単著）　本学紀要第18巻第２号 pp.655-666，平成11年３月：「プラトンの『国家』における市民の生存益に関する基礎的研究」平成９年度～平成10年度科学研究費補助金［基盤研究(C)(2)］研究成果報告書　全46頁

発】平成10年９月：「アテナイ民主制の諸成果から見たソクラテスの刑死」第33回弘前大学哲学会公開講演（人文学部408視聴覚室）

**共同研究の実施状況**

プラトンの『国家』における市民の生存益に関する基礎的研究　代表者：藤澤郁夫（本学）　研究分担者：田中伸司（静岡大学人文学部）　科学研究費補助金（基盤研究(C)）

**学会活動への参加状況**

平成10年５月23日～24日：日本哲学会出席，５月30日～31日：日本西洋古典学会出席，９月19日～20日：ギリシャセミナー出席

**社会的活動状況**

本学の就職指導委員会の委員長として，新潟県教育委員会，鳥取県教育委員会，島根県教育委員会のそれぞれの担当者と面会のうえ，教員採用の現状について各種の意見交換ならびに情報の提供をお願いする機会をもった。

## 山　本　友　和（教　授）

**現在の研究状況**

① 専門分野の研究状況

環境教育，国際理解・多文化教育及びオーストラリアの社会科教育に関する研究を継続して行っているが，今年度はオーストラリアの歴史教科書の分析も行った。また，「食文化」に着目した教材開発及び「食」の国際的なネットワークに着目した教材開発のあり方についても検討した。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

大学院の「社会科教育特論Ａ」では，社会科教育におけるキーワードについて原語をもとに検討するとともに，オーストラリアで開発されたシミュレーション・プログラムを援用した模擬授業を行った。学部の授業では，レポートの作成と課題発表を取り入れ，能動的に授業に臨めるように工夫した。また，教育実習における研究授業の再現と分析により，教育実践の定着化を図った。

**研究成果の発表状況**

著】平成10年７月：『子どもの側に立つ社会科授業の創造』（共著）　東洋館出版社

論】平成11年３月：『教科教育学教育の実際・専修教育実地研究「社会」』（単著）　上越教育大学教科教育に関するプロジェクト研究・「教科教育学」教育の方法と教育実践学的研究　pp.119-122

**共同研究の実施状況**

これからの教科書における体様及び新しいメディアの対応のあり方（教科書研究センター研究委員会）

**学会活動への参加状況**

６月13日～14日：日本国際理解教育学会第８回全国大会出席，７月５日：日本公民教育学会第９回全国大会出席，10月10日～11日：1998年度社会科教育学全国大会出席

**社会的活動状況**

日本公民教育学会理事，日本社会科教育学会評議員・幹事，教科書研究センター研究委員会委員，新潟県立教育センター「中学校社会科実践講座３」講師，愛知県豊田市教育委員会指定豊田市立古瀬間小学校研究大会講師（『総合学習をどう進めるか』を講演），青海町立田沢小学校研修講師（『総合学習の進め方』を講演）

## 浅　倉　有　子（助教授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

近世における北方史研究を継続して行っている。これまでの研究の一つのまとめとして，平成11年２月に清文堂出版から著書『北方史と近世社会』を，平成10年度科学研究費補助金「研究成果公開促進費」の交付を受けて刊行した。また，科学研究費基盤研究(A)「東アジア地域の歴史学と歴史教育のマルチ・メディア教材の開発に関する総合的研究」（代表：下里俊行）に関わる調査・研究を行った。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

大学院の「日本史特論Ａ」では，科学研究費による研究成果など，最新の歴史研究の成果を紹介することにつとめた。また学部の担当講義・演習では，近現代史担当の河西助教授，外国史担当の下里助教授，音楽学担当の植村講師と連携して共通テーマによる授業を行った。「日本史概説」ではジェンダー史を，「日本史Ａ」では地域史を共通テーマとして授業を行い，年度末に担当教官全員によるミニ・シンポジウムを行った。

**研究成果の発表状況**

著】平成11年２月：『北方史と近世社会』（単著）　清文堂出版

論】平成10年６月：「近世日韓関係史に関する日本の研究動向」（単著）　『歴史研究の動向と歴史教科書の著述―古代・近世を中心として―』　ソウル市立大学校　pp.149-155

発】平成10年６月：「近世日韓関係史に関する日本の研究動向」（単）　第２回韓日歴史教科書シンポジウム「歴史研究の動向と歴史教科書の著述―古代・近世を中心として―」　ソウル市立大学校，平成10年９月：「寛政改革期における北方情報」（単）　北海道・東北史研究会青山シンポジウム　青山学院大学

他】科学研究費基盤研究(A)「東アジアにおける歴史学と歴史教育の基礎的研究」（代表：浅倉）の報告書の刊行

**共同研究の実施状況**

科学研究費基盤研究(A)「東アジア地域の歴史学と歴史教育のマルチ・メディア教材の開発に関する総合的研究」（代表：下里俊行）

**学会活動への参加状況**

平成10年５月：歴史学研究会大会，６月：第２回韓日歴史教科書シンポジウム，９月：北海道・東北史研究会青山シンポジウムへ参加

**社会的活動状況**

青森県史専門委員，上越市文化財審議会委員，上越市史専門委員，長野県財審議会委員，他

## 河　西　英　通（助教授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

(1)　近代日本における地域思想に関する研究を主に北海道・東北・北陸を対象としておこなった。

(2)　文部省科学研究費交付・基盤(A)(2)「東アジア地域の歴史学と歴史教育のマルチ・メディア教材の開発に関する総合的研究」（研究分担者）について，資料の調査・収集・分析をおこなった。

(3) 文部省科学研究費交付・基盤(C)(2)「近代日本形成期における『東北論』の基礎的研究」(研究代表者)について，資料の調査・収集・分析をおこなった。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

学部「日本史概説」の授業では，最近の研究動向をふまえながら，ビデオ・CDなどの視聴覚教材を用いて，講義内容の理解を高めた。また，大学院「歴史学演習B」における受講生のレポートをもとに，報告集「戦争と映画」(第2集)を刊行した。

**研究成果の発表状況**

著】平成10年4月：『近代日本と北海道―「開拓」をめぐる虚像と実像―』(共著)　河出書房新社

論】平成11年3月：『民衆思想史の意識論』(単著)　歴史学研究　pp. 23-30,62

発】平成10年5月：『＜国民国家＞論と＜裏日本＞』(単)　歴史学研究会近代史部会・日本史研究会近現代史部会交流会

**学会活動への参加状況**

平成10年5月23日～24日：歴史学研究会出席，9月12日～13日：北海道・東北史研究会シンポジウム出席

**社会的活動状況**

新潟県黒埼町史執筆委員，新潟県立文書舘運営協議会委員，新潟県上越市史編さん委員，新潟県上越市史専門委員，青森県史専門委員

## 佐　藤　芳　徳(助教授)

**現在の研究状況**

① 専門分野の研究状況

地下水流動，地下水水質の形成機構，及び湖水の流動に関する研究を継続して行っている。今年度は，特に地下水水質の形成機構について地下水流動と関連させての調査研究を行った。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

自然地理学特論(大学院)では，最新の研究成果を取り入れて授業内容を構成している。また，学部の授業では，特に実験科目を中心に，学生が地理的現象を直接取り扱えるよう授業内容を工夫した。演習では，現職の大学院生と学部学生が触れ合える機会を設けた。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年6月：「関川水系における河川からの地下水涵養に関する研究」(単著)河川整備基金助成事業報告書　82p

他】平成10年3月：「牧村史　通史編，自然，気候・水文」(単著)pp.27-44，平成10年3月「広域・上越圏ぶん録」(共著)pp.112-125

**共同研究の実施状況**

スキー場において雪面硬化剤として使用される硫安の土壌・地下水・植生への影響　代表者：田瀬則雄(筑波大学教授)日本生命財団研究助成

**学会活動への参加状況**

6月20～21日：日本水文科学会出席，3月26～27日：日本地理学会春季学術大会出席

**社会的活動状況**

日本水文科学会評議員，日本地下水学会編集委員，上越地区地下水管理協議会顧問(建設省)，新潟県自然環境保全審議会専門調査委員(新潟県)，上越市環境審議会委員(上越市)，上越市水道水源保護審議会委員(上越市)，上越市史専門委員，三和村史編集委員，柿崎町史編さん委員会委員

## 下　里　俊　行（助教授）

### 現在の研究状況

① 専門分野の研究状況

ロシア思想史に関する研究を継続して行っている。今年度は，とくに地方都市における歴史表象の分析をおこなった。

② 大学の授業実践・改善の研究状況

「外国史概説」「外国史A」では，マルチ•メディア教材の提示•解説に割り当てる時間数を充実した。「外国史概説」では，史料読解の方法に関する理解を深めさせるために毎回，資料読解の実習を導入し理解度の検証をおこなった。「歴史学演習」および大学院授業では，学部生•院生•卒業生の投稿論文からなる研究室紀要『世界史研究』第3号を発行した。

### 研究成果の発表状況

発】平成10年11月：『歴史表象としての「ブラゴヴェシチェンスク」』（単）環日本海学会・第4回研究大会

### 共同研究の実施状況

東アジア地域の歴史学と歴史教育のマルチ•メディア教材の開発に関する総合的研究　代表者：下里俊行（上越教育大学助教授）　科学研究費補助金

### 学会活動への参加状況

10月24日～25日：ロシア史研究会・年次大会出席，10月26日：ロシア文化史研究会・研究合宿出席，11月1日：環日本海学会・第4回研究大会出席

## 田　部　俊　充（助教授）

### 現在の研究状況

① 専門分野の研究状況

社会科教育，特に地理的分野の実践的・理論的研究を行っている。本年度は，特にアメリカ合衆国のカリキュラム，学習活動の内容について分析・検討を行った。米日財団プロジェクト「米国理解のための教材開発研究」では報告書の編集を行った。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

初等社会科教育法では参加者全員（一人2分間）の小学校社会科に関する内容のプレゼンテーションを指導した。

### 研究成果の発表状況

論】平成10年6月：アメリカ合衆国における『地理ナショナルスタンダード(1994年版)』の概要と18スタンダードの全訳(3)（共著）

### 共同研究の実施状況

東アジア地域の歴史学と歴史教育のマルチ•メディア教材の開発に関する総合的研究　代表者：下里俊行（上越教育大学助教授）　科学研究費補助金

### 国際研究プロジェクトへの参加状況

米国理解のための教材開発研究　代表者：加藤章（上越教育大学学長）米日財団プロジェクト

### 学会活動への参加状況

6月12日～14日：日本国際理解教育学会出席，6月20日～21日：人文地理学会特別例会出席，8月1日～2日：日本地理教育学会出席，9月27日：アメリカ教育学会出席，10月10日～11日：日本社会科教育学会出席，11月14日～15日：人文地理学会出席，3月26日～27日：日本地理学会出席

**社会的活動状況**

日本社会科教育学会幹事，日本地理教育学会編集委員・評議員，上越教育大学附属小学校研究協力者，上越市史現代史部会調査執筆委員，新潟県社会科教育研究会講師

**安　田　　尚**（助教授）

**現在の研究状況**

① 専門分野の研究状況

フランスの社会学者ピエール・ブルデューに関する研究を継続して行っている。今年度は，とくにブルデュー社会学における権力論を中心に分析・検討を加えた。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

学部の専門科目（社会学Ⅰ）では，デュルケム研究の最新の成果を踏まえ，『自殺論』を検討し，日本の社会統計も検討するなど工夫した。

**研究成果の発表状況**

著】平成10年12月：『ブルデュー社会学を読む』（単著）　青木書店

論】平成10年９月：『P.ブルデューにおける支配の論理』（単著）　上越教育大学紀要　pp.805-816，平成10年10月：『リセにおける哲学教育』（単著）　上越社会研究　pp.1-10

**共同研究の実施状況**

近代社会理論の再検討と現代社会理論の刷新の構想　代表者：藤山嘉夫（横浜市立大学教授）　科学研究補助金

**葛　西　賢　太**（助　手）

**現在の研究状況**

① 専門分野の研究状況

現代社会における宗教性のありかたについての研究を他大学の若手研究者と共同で継続して行っている。本年度は特にアルコール依存症者の自助団体 Alcoholics Anonymous についての調査・分析を行い，その成果を博士学位請求論文にまとめた。なお，この研究に際しては，平成10-11年度科学研究費補助金(奨励研究(A)）を受けている。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

大学院生に論文作成についての指導を行っている。平成10年度には，社会系修士論文構想発表会において，論文作成上の具体的な手続き・手順について詳細に教示した。

**研究成果の発表状況**

著】F.X.チャレット著『ユングとスピリチュアリズム』第三文明社　1998年10月を，渡辺学，堀江宗正，高橋原との共訳で刊行。

論】平成10年９月：博士学位請求論文「心的空間における宗教性―Alcoholics Anonymous の研究」（単著）を東京大学大学院人文社会系研究科に提出，受理される（平成11年３月，文学博士号授与）。

**共同研究の実施状況**

国学院大学日本文化研究所平成10年度専任プロジェクト「情報化と宗教に関する研究―Computer-Mediated Communication を中心に―」（研究担当者：黒崎浩行）に取り組む。この研究は，電気通信普及財団の平成９年度研究助成をも受けて行われた。

国際基督教大学社会科学研究所「グローバル化とアイデンティティ」プロジェクトに参加。この成果は2001

年に刊行予定である。

**学会活動への参加状況**

平成10年７月：「宗教と社会」ワークショップ「精神世界の構図２」を企画，司会

**社会的活動状況**

「宗教と社会」学会において，常任委員をつとめる。

**山　縣　耕太郎**（助　手）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

カムチャッカ半島における海外学術研究に参加して，最終氷期以降の古環境変化，土壌生成過程，植生と土壌の相互作用に関する調査を行った。東アジアの歴史に関するマルチメディア教材の開発に関する共同研究に参加している。このほか，羊蹄火山，洞爺火山の噴火史に関する調査；北アルプス，西頸城山地の山地形成史に関する研究；日高山脈・十勝平野における古環境復元に関する研究；火山泥流の編年学的研究などをおこなっている。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

情報科学および，地理学に関わる実験，演習，調査法の授業補助を行った。情報科学においては，パソコンを用いたプレゼンテーション技術の収得を心がけた。地理学実験においては，地図やリモートセンシング画像などのビジュアル素材を多く提示することを心がけた。

**研究成果の発表状況**

論】平成11年３月：Lichenometric Studies of Moraines in Kronotsky Peninsula, Kamchatka, Russia.（共著）Cryospheric Studies in Kamchatka II，76-78，平成11年３月：Holocene Glacier Advances in Koryto Glacier, Kamchatka, Russia.（共著）Cryospheric Studies in Kamchatka II，79-84，平成11年３月：Soil Development in Relation to Vegetation and Topography at the Koryto Glacier Basin, Kamchatka.（共著）Cryospheric Studies in Kamchatka II，86-92，平成11年３月：Late Holocene Vegetation and Climate History in the Central Kamchatka from Fossil Pollen Record.（共著）Cryospheric Studies in Kamchatka II，125-130，平成11年３月：Landform Development in a Cirque on Mountains in the Vicinity of Esso, Central Kamchatka.（共著）Cryospheric Studies in Kamchatka II，131-137，平成11年３月：Stratigraphy and Cryogenic Structures on Coastal Terraces along the Sea of Okhotsk Coast, Southwestern Kamchatka.（共著）Cryospheric Studies in Kamchatka II，138-148，平成10年６月：「アメリカ合衆国における『地理ナショナル・スタンダード（1994年版）』の概要と18スタンダードの全訳(3)」（共著）新地理　pp. 56-68，平成10年：Meteorological observations by automatic weather stat-ions（AWS）in alpine regions of Kamchatka, Russia, 1996-1997.（共著）Low Temperature Science, Ser. A., 56 Data Report. 53-68.

発】平成10年９月：カムチャッカ半島中央部，エッソ東方のカールにおける土壌の形成過程（共）日本地理学会秋季学術大会，平成10年９月：17世紀北海道における火山噴火と人文環境（共）日本地理学会秋季学術大会，平成11年３月：カムチャッカ半島中央部ビルチェノック氷河におけるサージ変動と氷河地形（共）日本地理学会春季学術大会，平成11年３月：カムチャッカ半島ビルチェノック氷河の氷河変動に関する火山灰編年学的検討（共）日本地理学会春季学術大会，平成11年３月：カムチャッカ半島ウシュコフスキー火山ビルチェノック氷河周辺の永久凍土分布　（共）日本地理学会春季学術大会，その他，平成11年１月 International Workshop on Cryospheric Studies in Kamchatka にて（共）５件

**共同研究の実施状況**

日高山脈・十勝平野における最終氷期の古環境復元に関する研究　代表者：平川一臣（北海道大学教授）科学研究費補助金，山地形成史の研究-第四紀の火山噴出物を手がかりにして—　代表者：山崎晴雄(東京都立大学教授)，カムチャッカ半島における現生および古環境に関する研究　代表者：山縣耕太郎(上越教育大学助手)北海道低温科学研究所共同研究経費，東アジア地域の歴史学と歴史教育のマルチメディア教材の開発に関する総合的研究．代表者：下里俊行（上越教育大学助教授）科学研究費補助金，寒冷陸域における植生，水，土壌の相互作用　代表者：原登志彦（北海道大学教授）北海道低温科学研究所共同研究経費

**国際研究プロジェクトへの参加状況**

カムチャッカ半島における植生動態と環境変動の相互作用過程の解明　代表者：原登志彦(北海道大学教授)国際学術研究

**学会活動への参加状況**

5月26日～27日：地球惑星関連科学合同学会出席，9月26日～27日：日本地理学会秋季大会出席，1月25～26日：International Workshop on Cryospheric Studies in Kamchatka 出席，3月26～27日：日本地理学会春季学術大会出席

**社会的活動状況**

上越市史調査執筆委員，日本第四紀学会 PAGES-PEP II対応委員会委員，日本学術会議 PAGES 小委員会委員

**＜自然系教育講座（数学）＞**

**黒　木　伸　明**（教　授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

半群の代数的構造を研究している。特にファジィ集合，ラフ集合の概念を半群論に導入し，その構造を研究している。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

教育現場での実験授業を3校計14時間行い，子どもの算数・数学の理解の過程の分析などの研究を行い，その成果を「算数」（2学年）の授業や，大学院生の修論指導に生かしている。

**共同研究の実施状況**

「知識集合の代数的構造とそのラフ集合による表現」　代表者：黒木伸明　科学研究費補助金（萌芽的研究）

**田　中　　博**（教　授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

非線形ポテンシャル論の研究において，主として，P—放物性と曲率の関係の研究を継続している。特に，P—可解性とP—放物性との関係を調べた。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

数学を必ずしも専門としない学生に対する，微分積分学の授業のあり方を継続的に検討している。

**研究成果の発表状況**

発】P—放物性と曲率について，日本数学会（平成10年9月），およびポテンシャル論の研究集会（平成10年10月）で発表した。(単)

**学会活動への参加状況**

7月18日～21日：関数論シンポジュウム，9月30日～10月2日：日本数学会，11月10日～15日：ポテンシャル論シンポジュウム，平成11年3月26日～28日：日本数学会

**社会的活動状況**

上越数学教育研究会の会長として，直江津大会（国府小，直江津中）を，平成10年11月26日に開催した。

溝　上　武　實（教　授）

**現在の研究状況**

① 専門分野の研究状況

層型空間と超空間，写像空間について継続的に研究している。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

連合大学院博士課程院生の最終学年の指導を完結した。

**研究成果の発表状況**

論】On perfect mappings between hyperspaces of compact subsets, Far East J. Math. Sci.6(1998) 391-399.(joint), On D-paracompact p- and Σ-spaces, Tsukuba J. Math.22(1998) 379-292.(joint), Near metric properties of hyperspaces, Top. Proc.22, 197-211.(joint)

発】M3. M1問題のひとつの進展について（単）数理解析研究所研究集会　1999.3

他】層型空間に関する論文で　Top. Pro., Topology Appl.に採用済み計3篇

**学会活動への参加状況**

Editor of Questions and Answera in Genaral Topology, Reviewer of Math. Soc.

森　　博（教　授）

**研究成果の発表状況**

論】From Sasakian 3-structures to quaternionic geometry,（共著）Archivum Math.(Brno) vol.34(1998)

**共同研究の実施状況**

ロバチェフスキー空間内の部分多様体に関する研究　代表者：森　博（上越教育大学教授）　科学研究費補助金基盤研究(C)

熊　谷　光　一（助教授）

**現在の研究状況**

① 専門分野の研究状況

社会学的観点から算数・数学の授業の過程に関する研究を継続して行っている。今年度は，特に，社会的相互作用論の立場から算数の授業過程についての実証的研究を進めた。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

大学院カリキュラムの再編にともない，研究方法論，データ分析にかかわる講義内容の検討を行った。また，教材開発にかかわる講義のためにグラフ電卓を用いた新しい教材の開発を試みた。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年8月：In-service teacher education in Japanese mathematics education: a case of Jouetsu University of Education.（単著）Proceedings of ICMI-East Asia Regional Conference on Mathematics Education, Vol.3, 37-47, 平成10年11月：『導入期における子どもの除法概念に関する研究：インタビュー

調査をもとに』（単著）第31回数学教育論文発表会論文集（論文発表の部），51-56，平成10年11月：『高度情報化社会に対応する数学教育カリキュラムの開発に関する研究』（共著） 第31回数学教育論文発表会論文集（論文発表の部），293-298，平成11年３月：『装置を用いた関数の考えの実現を目指した授業の構成に関する覚書き：リアリティの観点から』（単著）上越数学教育研究第13号，pp.1-12，平成11年３月：『インタビュー調査による算数学習の評価の試み：３年生の除法を例として』（単著）平成８年度～平成10年度科学研究費研究補助金（基盤研究(A)）研究成果報告書　研究代表者　澤田利夫　「数学教育における新しい評価方法の開発に関する国際比較」　pp.43-51，平成11年３月：『教材開発の視点：素材から教材へ　―缶の問題の開発をてがかりにして―』（単著）平成８年度～平成10年度科学研究費研究補助金（基盤研究(A)）研究成果報告書　「高度情報化社会に対応する数学教育カリキュラムの開発に関する総合的研究」（研究代表者　杉山吉茂）pp.25-38

発】平成10年11月：『社会的相互作用論の立場からの数学教育研究への示唆』（単） 第31回数学教育論文発表会・テーマ別分科会発表集録　相互作用・解釈学的研究部会発表，pp.51-56.

**共同研究の実施状況**

高度情報化社会に対応する数学教育カリキュラムの開発に関する総合的研究　研究代表者：杉山吉茂（東京学芸大学教授）　科学研究費研究補助金，数学教育における新しい評価方法の開発に関する国際比較　研究代表者：澤田利夫（東京理科大学教授）科学研究費研究補助金

**学会活動への参加状況**

平成10年11月14日～15日第31回日本数学教育学会論文発表会出席

**社会的活動状況**

日本数学教育学会渉外部幹事，第14回小学校算数教育研究全国（新潟）大会特別公開授業授業者，平成10年度小学校教育課程研究集会算数部会講師（富山県教育委員会），小学校教育方法研修会講師（新潟県立教育センター），中学校数学科実践講座講師（新潟県立教育センター）

## 中　川　　仁（助教授）

**現在の研究状況**

① 専門分野の研究状況

代数体の判別式の密度に関する研究を継続して行っている。特に，２個の３元２次形式の組と３次体のイデアル類群の2-torsion 部分群との関係について調べた。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

代数学IIと代数学IIIでは，具体例を多く挙げて解説することによって，線形代数，群論に関する抽象的内容の理解を高める工夫を行った。

また，演習問題を解いてレポート提出させることによって，計算力の養成を目指した。

## 松　本　健　吾（助教授）

**現在の研究状況**

① 専門分野の研究状況

作用素環とその位相力学系に関する研究を継続して行っている。年度は特に，記号力学系と作用素環の関連を調べた。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

統計学特講IIの授業では，最近の研究成果をとりこんで，内容構成を研究し，マルコフチェーンに関する

学習効果や，内容の理解を高める工夫をおこなった。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年：K-theory for C*-algebras associated with subshifts, Math. Scandinavica（単著）82巻 pp. 237-255, Simple C*-algebras arising from beta-expansions of real numbers, Ergodic Theory and Dynamical System（共著）18巻 pp.937-962, KMS-states for gauge action on the C*-algebras associated with subshifts, Math. Zeitscrift（共著）228巻 pp.489-509

**岩 﨑　　浩**（講　師）

**現在の研究状況**

① 専門分野の研究状況

数学教育におけるメタ知識に関する研究を継続して行っている。今年度は，特に，メタ知識の視点からみてより実り豊かと考えられる授業における教授行為の特徴を明らかにすることを試みた。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

数学教育学Aと数学科教育法Iの授業では，研究成果の一部を教材として利用するだけでなく，その基となるデータである授業のビデオ記録を適宜活用することにより，現場の実践との関係を深める工夫を行った。

**研究成果の発表状況**

論】平成11年3月：『余韻の残る授業」についての一考察』（単著）上越数学教育研究 第14号 pp.21-28，平成10年6月：『メタ知識」を視点とした授業改善へのアプローチ：「指示の文脈」と「記号体系」との間の相互作用』（単著） 全国数学教育学会誌 数学教育学研究 第4巻 pp.83-103

発】平成11年1月：『メタ知識を意識した授業構成に関する研究：「考え方」と「問題」との間の緊張関係の創造』（単）第10回全国数学教育学会研究発表会

**共同研究の実施状況**

ロバチェフスキー空間内の部分多様体に関する研究　代表者：森　博（上越教育大学教授）　科学研究費補助金，算数・数学教員養成のための六年一貫教育課程の開発研究　代表者：熊谷光一（上越教育大学助教授）　学長裁量経費補助金

**学会活動への参加状況**

6月27日～28日：第9回全国数学教育学会学研究発表会出席，11月14日～15日：第31回数学教育論文発表会出席，1月30日～31日：第10回全国数学教育学会学研究発表会出席

**国内外の学術賞の受賞状況**

1月31日：全国数学教育学会学会賞（学会奨励賞）受賞（全国数学教育学会）『「メタ知識」を視点とした授業改善へのアプローチ：「指示の文脈」と「記号体系」との間の相互作用』

**布 川 和 彦**（講　師）

**現在の研究状況**

① 専門分野の研究状況

数学的問題解決における生徒への支援の研究を継続して行っている。今年度は，米国ヴァンダービルト大学の客員研究員として，認知的側面と社会的側面との相互作用についての検討を行った。

**研究成果の発表状況**

論】平成11年3月：『算数•数学の授業における意外性：解決過程の図式を視点として』（単著）上越数学教育研究　pp.11-20，印刷中：『Heuristic Strategies and Probing Problem Situations』（単著）Jose Carrillo

& Luis C. Contreras (Eds.), Problem-soling in the beginning of the 21st century: An international overview from multiple perspectives and educational levels. Huelva, Spain: Hergué.

他】平成11年3月：『翻訳：心理学的観点と社会文化的観点との関係について（by P. Thompson & P. Cobb)』上越数学教育研究　pp.161-180, 平成11年3月：『翻訳：教育における数学をコミュニケーションの方法として正当化することについて（by C. Winslow)』上越数学教育研究　pp.181-189

**岡　崎　正　和**（助　手）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

小学校の算数から中学校の数学への移行における教授学的•認知的研究を継続して行っている。今年度は，特に，図形の分野に焦点を当て，小学校での図形の性質の探究から中学校での図形の論証への移行を促す教材の理論的研究，及びその授業実践における子どもの理解過程に関する研究を行った。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

実践場面分析演習，大学院のゼミ，数学教育学演習，計算機数学の授業において，助手として補助を行った。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年11月：『算数から数学への移行とその指導に関する研究(2)—図形学習の転換点—』（共著）　日本数学教育学会　第31回数学教育論文発表会論文集　pp.165-170, 平成11年3月：『算数から数学への移行期における子どもの論理の発達の特徴—除法の一般化を事例として—』（単著）　上越数学教育研究　pp.39-48

発】平成10年6月：『中学生の図形の相互関係の理解に関する調査の分析と，図形の相互関係の位置づけに関する一考察』（単）　第9回全国数学教育学会　研究発表，平成11年1月：『算数から数学への移行とその指導に関する研究(3)—図形の性質の対象化と序列化—』（共）　第10回全国数学教育学会　研究発表

**共同研究の実施状況**

「算数，数学教員養成のための六年一貫教育課程の開発研究」代表者：熊谷光一（上越教育大学助教授）　平成10年度教育改善推進費（学長裁量経費）教育研究改革•改善プロジェクト経費，「小学校から中学校への移行を促す算数・数学のカリキュラム，指導法の開発研究」　代表者：岡崎正和（上越教育大学助手）　平成10年度教育改善推進費（学長裁量経費）教育研究改革・改善プロジェクト経費

**学会活動への参加状況**

6月27～28日：全国数学教育学会第9回研究発表会出席，8月17日～21日：第1回東アジア数学教育国際会議出席，11月14日～15日：日本数学教育学会第31回数学教育論文発表会出席，1月30～31日：全国数学教育学会第10回研究発表会出席

**社会的活動状況**

上越数学教育研究会講師　（『子どもの理解に基づく算数・数学指導』）

**髙　橋　　等**（助　手）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

数学的知識に関する比喩の研究を継続して行っている。今年度は，小学6年生を対象とし，分数の知識に介入し，支えとなっている内面の存在を，比喩による数学的知識の獲得のしくみを一応の枠として分析し，明らかにした。

また，高校数学と大学数学との間にある乖離を幾つかの視点により分析し，これらの視点のうちの算数・数学教育の目標の考察から，この乖離を結び付けるための条件を導いた。

**研究成果の発表状況**

論】平成11年３月：『或る小学６年生の持つ分数の知識に介入している内面の存在と潜在化』（単著）上越数学教育研究　第14号　pp.29-38

発】平成10年11月：『児童の持つ数学的知識の変容：分数の知識に介入している内面の存在と潜在化』（単）第31回数学教育論文発表会　研究発表

**学会活動への参加状況**

平成10年11月14日～15日：第31回数学教育論文発表会出席，及び発表

**社会的活動状況**

平成11年２月：総合学習に係る座談会への出席（上越教育大学付属小学校），平成10年４月から平成11年３月：上越地区の算数・数学教育研究会（Σ会）への参加（毎月１回から２回）

＜自然系教育講座（理科）＞

大悟法　　滋（教　授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

植物の繁殖戦略の多様性について，生態と形態の関連に関する研究を行っている。また，種々の画像の取り扱いを中心にした生物教材開発に関する研究に取り組んだ。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

フレンドシップ事業に取り組み，上越市教育委員会や国立妙高少年自然の家等と連携して，学生の体験活動や子供との触れ合い実践を高めるための工夫と，関連授業科目「体験学習」のあり方等の研究を行い，「博物館学概論」等で，生涯学習と学校教育の関りについての理解を深める授業内容の改善と工夫を行った。また，平成10年教育研究協議会指導者（上越教育大学付属中学校および付属幼稚園）として教育実践を行った。

**研究成果の発表状況**

著】平成10年10月：「茶花野草の四季図鑑」上，下巻（分担執筆）世界文化社

発】平成11年３月：「ヒロハカツラの種子形成過程と花部形態におけるカツラとの比較」（共）第29回日本植物分類学会　研究発表

他】平成10年12月：「緑のゆたかさ」公報じょうえつ

**共同研究の実施状況**

現職教員再教育の場としての大学院における自然環境教育の在り方に関する共同研究　代表者：大澤健郎（上越教育大学副学長）高度化推進特別経費，人間教育学セミナーとしての「体験学習」カリキュラム開発研究　代表者：濁川明男（上越教育大学講師）　教育改善推進費，「上越教育大学の自然」の改定と教材化　代表者：大悟法滋（上越教育大学教授）教育改善推進費

**学会活動への参加状況**

平成10年６月14日：日本植物学会北陸支部大会参加，平成10年８月10日～12日：日本生物教育学会第65回全国大会（夏期研修会）参加，平成10年９月21日～23日：日本植物学会第62回大会参加，平成11年３月16日～３月18日：日本植物分類学会第29会大会参加

**社会的活動状況**

新潟県社会教育委員（新潟県社会教育委員会），上越市生涯学習推進会議委員（上越市），上越市史専門委員

（上越市史編纂室），上越市環境審議会委員（上越市），上越市環境影響評価会議委員（上越市），美しい町づくりアドバイザー（上越市），上越市緑の基本計画策定検討委員会委員（上越市），リージョンプラザ上越運営協議会委員長（上越市），上越市文化財調査審議会委員（上越市教育委員会），上越わんぱくラリー実行委員会委員（上越市教育委員会），河川水辺の国勢調査アドバイザー（北陸地方建設局），関川の河川環境を考える懇談会委員（北陸地方建設局高田工事事務所），三島地区河川環境管理協議会委員長（新潟県土木部）三和安塚道路環境調査&対策検討委員会委員長（上越土木事務所），中郷村立中郷中学校建設検討委員会委員長（中郷村），妙高高原生涯学習推進プラン策定委員（妙高高原町），森林•林業教育推進会議委員（上越流域活性化センター）

**戸　北　凱　惟**（教　授）

**現在の研究状況**

① 専門分野の研究状況

理科教育に関する研究を継続している。理科カリキュラム比較研究に関しては，科学研究費による諸外国の科学技術教育カリキュラム調査（フランス・オルレアン師範大学のカリキュラム）を実施し，学会並びに研究会において報告した。科学教育学会に設置した基本問題研究組織の一員として今後の理科教育に関する提案を行い，理科教育学会においても課題研究等において理科カリキュラムの改善に対する提案を行ってきた。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

大学院では，現在関心の的である教育課程改革の問題点を取り上げ，現職側の意見を求めながら学会の動向や今後のあり方について討論を行った。新しい試みとして，現職教員のいる他大学とのSCSによる討論に参加した。学部では，教材論や理科教育特講において学生にとって興味ある実験を演示しながら講義を行っている。学部でも出先大学からSCSによる講義を行い普段の授業との違いについて学生の印象を聞いた。

**研究成果の発表状況**

著】編著『理科教育の基礎と新たな展開』　東洋館　1998.10

論】1）中学校理科の内容をどう改善していくか（単著）「教職研修」 1998.3　pp.70-71，2）アメリカの州レベルにおける環境教育行政の動向（単著）「科学教育研究」 Vol.22 No.2　1998.6　pp.69-77，3）葛藤教材の同時提示による溶解時の質量保存に関する学習者の理解（単著）「日本理科教育学会研究紀要」 Vol.39 No.1　1998.7　pp.31-39，4）戦後のフランスにおける初等理科教育にみられる学力観の変遷（単著）「フランス教育学会研究紀要」 第10号　1998.9　pp.53-62，5）フランスの理科教科書に見られる学習指導要領の具体化と知的受容の教育（単著）「理科の教育」　Vol.48　1999.1　pp.17-20

**共同研究の実施状況**

「現代フランスにおける21世紀を展望した教育課程の大規模編成に関する総合的研究」代表者：小林順子（清泉女子大学教授）科研•基盤研究，「21世紀に向けての科学技術教育政策に関する国際比較研究」代表者：秋山幹雄（広島大学教授）科研•国際学術研究，「理科の現代的課題に対応できる資質の育成を図るSCSを利用した教員養成方法の開発」代表者：橋本建夫（長崎大学教授）科研・基盤研究

**学会活動への参加状況**

平成10年5月23日～24日：日本環境教育学会（大阪教育大学）参加，平成10年7月29日～31日：日本科学教育学会第22回年会（東京学芸大学）課題研究　個人研究発表，平成10年8月3日～5日：日本理科教育学会第48回全国大会（長崎大学）課題研究　個人研究発表，平成10年9月26日：平成10年度日本国立大学協会研究集会（金沢大学）課題研究発表，平成10年10月24日：日本理科教育学会北陸支部大会（富山大学）個人研究発表

**社会的活動状況**

平成10年度小学校理科実験講座講師（新潟県教育センター），新潟県児童生徒科学研究発表会審査委員（新潟県教育センター），第37回教職員理科研究発表会講師（講演）「問題解決を支援する理科教育の方法」学校教育研究センター

## 中　川　清　隆（教　授）

**現在の研究状況**

① 専門分野の研究状況

科学技術振興調整費「GPS 気象学」二年度に参加し，その一環として，11年１月に新潟県上越地方においてGPS 特別気象観測を実施した。科学研究費「都市表面放射収支の都市表面形状依存性」二年度の交付を受け，前年度導入した設備を利用した衛星データの処理システムを構築した。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

前年度に引き続き基礎情報処理「理科」演習を担当し，学部１年生が各自のホームページを開設することをテーマに指導方法を工夫した。大気科学特論，大気科学実験，地学野外実習，地学，気象学，地学実験，気象学実験，地学原書講読，地学演習を例年通り担当した。大学院１年生１人，学部４年生２人，３年生２人の指導教官となり，卒業論文２編を完成させた。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年：『Regional hydrological responses to global warming』（共著）*Global Environ. Res.* vol.1 No.1&2　pp.11-18

発】平成10年10月：『ストリートキャニオンのアルベドの数値シミュレーション』（単）　『高知県足摺岬における山本の大気混濁係数 $\beta$ の最近50年間の変動』（共）　日本気象学会秋季大会，平成10年11月：『建蔽率と道路中央天空率のみからストリートキャニオンのアルベドを求める方法による Aida（1982）の実験結果の再現』（単）　都市熱環境の形成プロセスとモデリングに関するシンポジューム（九州大学），平成10年11月：『水蒸気量勾配と GPS 可降水量の推定誤差―1998年夏の事例解析―』（共）　GPS 気象学ワークショップ（京都大学），平成11年３月：『1996年秋～1997年春の日本海海岸地域における３時間平均 GPS 可降水量時系列の解析』（共）　日本地理学会春季大会

**共同研究の実施状況**

GPS 気象学：水蒸気情報システムの構築と気象学，測地学，水文学への応用に関する研究　科学技術振興調整費

**学会活動への参加状況**

平成10年５月：日本気象学会春季大会出席，平成10年10月：日本気象学会秋季大会出席，平成10年11月：都市熱環境の形成プロセスとモデリングに関するシンポジューム（九州大学）出席，平成10年11月：GPS 気象学ワークショップ（京都大学）出席，平成11年３月：日本地理学会春季大会出席

**社会的活動状況**

上越市史調査執筆委員（上越市）

## 西　山　保　子（教　授）

**現在の研究状況**

① 専門分野の研究状況

ラマン散乱による物質の表面状態および原子・分子の結合状態の研究を継続して行っている。主として，

タングステンやジルコニウムなどの金属の黒鉛炉表面への吸着状態及び生成化合物の解明を中心としてラマン分光法により研究した。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

学部学生の授業では，高等学校の物理の未履修者が多く，物理学の基礎を理解させるのに苦慮している。そこで，昨年度に引き続き，物理学の授業において，学生の興味・関心や到達度を考慮して，演習や演示実験を多く取り入れた講義内容の検討を行い，実践した。また，学部１年次生を対象とし，理科，特に物理や化学分野の実験を通して，自然現象や環境に興味をもたせ，初等教育教員に必要な物質の取扱いや環境中の物質の循環などを修得させるための集中体験型実験のカリキュラム開発の検討と２，３の実験課題に対する予備実験を行った。この研究は学長裁量経費『「集中体験型物質科学実験」カリキュラム開発の試み』（プロジェクト代表者：西山）により行った。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年４月：『Yield and Pore-Size Distribution of Pyrolysis Products of Organic Compounds as Chemical Modifiers in Electrothermal Graphite Furnace Atomic Absorption Spectrometry』（共著）J. Chem. Res., Synop. pp.218-219，平成10年８月：『Effect of Surface Treatment of a Graphite Furnace with a Refractory Element (Hafnium, Titanium, Tungsten and Zirconium) by a One-Drop Coating Method on the Atomization Mechanism of Indium in Electrothermal Atomic Absorption Spectrometry』（共著）Anal. Sci. Vol.14 pp.768-778，平成10年８月：『Atomization Mechanisms of Gold from Thermally Decomposed and Crudely Roughened Pyrolytically Coated Graphite Furnaces using Electrothermal Atomization』（共著）Anal. Sci. Vol.14 pp.831-834

発】省略

**学会活動への参加状況**

６月27日：日本物理教育学会新潟支部第3回総会出席，12月５日：日本物理学会北陸支部・応用物理学会北陸・信越支部合同講演会出席，12月12日：日本物理学会新潟支部第27回例会出席，３月28日～31日：日本物理学会第54回年会出席

**社会的活動状況**

リージョンプラザ上越運営委員会委員（上越市）

林　　康　久（教　授）

**現在の研究状況**

① 専門分野の研究状況

従来からの研究すなわち，原子力及び分子スペクトルに関して，また，化学教育についても継続して研究を行っている。

**研究成果の発表状況**

著】１冊（共著）

論】外国の学会誌に１編の論文を発表

**学会活動への参加状況**

省略

**社会的活動状況**

省略

室　谷　利　夫（教　授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

半導体超格子等機能材料の物性に関する研究のスタートに当たり，研究設備の整備を行っている。今年度は分子線エピタキシー装置の導入を行い，装置の立ち上げを実施した。また，本学創立20周年にあたり，設備を公開した。

**学会活動への参加状況**

9月15日～18日：応用物理学会講演会出席，12月5日：日本物理学会・応用物理学会北陸・信越支部講演会出席，3月28日～31日：応用物理学会講演会出席

**社会的活動状況**

新潟インテリジェント・コスモス推進委員会

森　川　鐵　朗（教　授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

ベンゼノイド炭化水素化合物の物理化学的な性質に関する研究を継続している。今年度は，特にコロノイドへの適用と検討をすすめた。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

化学の授業では，物理量の定め方，測定方法，単位の選択まで，中等高等化学教科書にみられる各種の導入法を比較吟味しながら，理解を高める工夫をした。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年：Determination of Essentially Disconnected Sites in the Boundary of Coronoid Subgraphs（共著）Polycyclic Aromatic Compounds, 12, pp. 269-279，平成10年：Determination of Essential Single Bonds in Benzenoid Hydrocarbons（共著）Polycyclic Aromatic Compounds, 12, pp.261-267

発】平成10年10月：『教育的効果を期待する「選択式演習問題集」作成のためのアルゴリズムとデータ構造』（共）化学ソフトウェア学会98研究討論会　研究発表，平成10年10月：『仮想原子を用いたWWW上における化学結合教材の開発』（共）化学ソフトウェア学会98研究討論会　研究発表

**社会的活動状況**

化学ソフトウェア学会理事

渡　邉　　隆（教　授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

粘土鉱物の結晶化学的研究を継続して行っている。特に今年度は，粘土粒子とその構造についての研究に注目した。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

総合科目「宮沢賢治」の授業では，鉱物の視覚的資料をたくさん取り入れ，賢治の表象としての絵の具の役割を分かりやすく解いた。

**研究成果の発表状況**

論】平成11年3月：『新しい初等・中等教員養成（理科）とこれからの大学カリキュラムの対応』（単著）　理

科の教育　pp.24-27

業】平成10年12月：『中学校学習指導要領（平成10年12月）解説　理科編』（共著）　大日本図書

発】平成10年10月：第42回粘土科学討論会　1）合成2：1マーガライト・バイデライト規則型混合層の構造解析(共)，2)粒子構造物として見た混合層構造(共)，3)山形県月布ベントナイト鉱床中の炭酸塩のジュールについて(共)，　平成10年10月：日本鉱物学会　1)新潟県関温泉におけるつらら状鉄酸化物について(共)

**共同研究の実施状況**

動力炉・核燃料開発事業団の受託研究を受け入れ，その研究成果を報告した。

**学会活動への参加状況**

10月8日～10日：日本鉱物学会と日本岩石鉱物鉱床学会との合同学会に参加，10月6日～8日：第42回粘土科学討論会に参加

**社会的活動状況**

㈱原子力環境整備センター放射性廃棄物処分高度化システム確証試験委員会委員，同ベントナイト系充填剤検討委員会（主査），日本学術振興会第111委員会（鉱物新活用）委員，日本学術会議第4部会第18期鉱物学連絡協議会委員，日本鉱物学会評議員，日本粘土学会常務委員，国際粘土研究連合（AIPEA）鉱物命名委員会委員（日本代表），教育とコンピュータ利用研究会（会長），中学校学習指導要領（理科）の改善に関する調査研究協力者（文部省）

## 天　野　和　孝（助教授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

平成9年度文部省の海外研究開発動向調査に採用され，3月～4月にカリフォルニア大学デービス校にて，北太平洋における軟体動物の起源と移動に関する研究を行った。帰国後，その研究成果を下記の3編の論文にまとめた。また，それに関連して，*Kaneharaia* 属（二枚貝）の起源と絶滅についても研究を行った。

②　教育活動の実践・改善の研究状況

「地圏環境進化学」「地圏環境進化学特論」の授業では，最新の研究成果，アメリカでの体験等を取り入れ授業を行なった。また，学生から，理解困難な点や授業に対する要望を調査し，それらの結果を考慮して，授業を進めた。秋田大学工学資源学部附属鉱業博物館の非常勤講師，新潟県高等学校理科指導講座（地学）の講師も勤めた。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年9月：Taxonomy and evolution of the genus *Ocinebrellus* (Gastropoda: Muricidae) in Japan (共著), *Palentological Research,* vol. 2, no. 3, pp. 199-212.　平成10年10月：Origin and biogeographic history of *Ceratostoma* (Gastropoda: Muricidae) (共著), *Venus* (*Jap. Jour. Malac.*), vol. 57, no. 3, pp. 209-223.　平成10年12月：First discovery of fossil *Humilaria* (Bivalvia: Veneridae) from Japan (単著) *Venus* (*Jap. Jour. Malac.*), vol. 57, no. 4, pp. 271-280.

発】平成10年6月：Taxonomy of *Ocinebrellus* (Gastropoda: Muricidae) in Japan (共)　日本古生物学会第147回例会，平成10年10月：新潟県の鮮新統鍬江層より産出した *Humilaria* (二枚貝) の古生物地理学的意義（共）日本地質学会第105年学術大会，　平成11年1月：*Kaneharaia* 属（二枚貝：マルスダレガイ科）の起源と絶滅（共）　新潟県上越市の鮮新統名立層より環形動物化石の発見（共）　日本古生物学会1999年年会

**学会活動への参加状況**

平成10年6月28日～29日：日本古生物学会第147回例会，平成10年9月25日～27日：日本地質学会第105年学

術大会（世話人），平成11年１月29日～１月31日：日本古生物学会1999年年会（座長）

**社会的活動状況**

上越市史編集委員，柿崎町史調査執筆委員，板倉町史編集委員，上越市環境影響評価会議委員，広域・上越圏ぶん録編纂事業専門委員，フォッサマグナ・ミュージアム協議会委員，飯山トンネル特別委員会委員兼幹事

小　川　　茂（助教授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

緑藻類の細胞分裂と葉緑体の母性遺伝について研究を行っている。今年度は，接合藻のミカヅキモを材料として，ゴルジ体の分裂と細胞分裂の関係，並びに受精後の葉緑体の挙動について研究を行った。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

大学院の「細胞学特論」と学部の「細胞学」では，簡単な実験を行いながら授業を進め，講義内容がより理解できるように工夫した。大学院の「細胞学実験」と学部の「生物学実験」では，昨年度に導入された低真空走査型電子顕微鏡をプランクトンの観察・実験にとりこみ，生物の形態と機能の関係を理解できるよう改善した。

**研究成果の発表状況**

発】平成10年９月：『接合藻ミカヅキモ（*Closterium*）の接合子形成期における葉緑体の崩壊』（共）第62回日本植物学会　研究発表

**学会活動への参加状況**

９月21日～23日：日本植物学会第62回大会出席

**社会的活動状況**

上越地区理科教育センター研究協議会「平成10年度理科教育センター等研修員近代化研修会」講師（低真空走査型電子顕微鏡の原理と使用法を講義）

定　本　嘉　郎（助教授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

プラズマの輸送過程・応用およびばね等の振動に関する研究を継続して行っている。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

電磁気学，電磁物性特論では，最近の成果を取り込んだ講義を行った。

**研究成果の発表状況**

論】“Magnetic trap for confinement of hot plasma,”（共著）Trans. Fusion Tech. 35, 263 (1999).（米国原子力学会）

**学会活動への参加状況**

９月26～28日：日本物理学会1998年秋の分科会出席，12月12日：日本物理学会新潟支部総会・例会出席，平成10年３月30～31日：日本物理学会第54回年会出席

**社会的活動状況**

日本物理学会第53・54期委員，日本物理学会新潟支部委員，上越物理化学同好会顧問

髙津戸　　秀（助教授）

**現在の研究状況**

① 専門分野の研究状況

新しいステロイド系の植物ホルモンであるブラシノステロイドに関する研究を継続して行っている。今年度は，特に化学合成・生合成・微量分析及び生理活性に関する研究を行った。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

化学及び有機化学の講義では，講義内容に直結した練習問題を多く取り入れ，内容の理解を深める工夫を継続して行っている。また，大学院の物質化学実験と卒業研究のための練習実験，さらに，修士課程の課題研究では，開発した教材の有効性の検討を行った。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年10月：The Arabidopsis *DIMINUTO/DWARF1* Gene Encodes a Protein lnvolved in Steroid Synthesis（共著）Plant Cell（アメリカ植物生理学会）. 10. 1677-1690, 平成10年12月：Synthesis and Biological Activity of 2, 3-Diol Stereoisomers of 28-Homobrassinolide and Brassinolide（共著）J. Chem. Res.（イギリス王立化学会）(S)：744-745　(M)：3301-3328

**学会活動への参加状況**

10月14日～15日：植物化学調節学会第33回大会出席

**社会的活動状況**

長野県総合教育センター教職員研修事業「高校の化学」講座の講師をし，「新しい植物ホルモン，ブラシノステロイドについて」と題して講義した。

中　村　雅　彦（助教授）

**現在の研究状況**

① 専門分野の研究状況

鳥類の婚姻形態，繁殖戦略，個体群動態，社会構造に関する研究を継続している。今年度は，特にイワヒバリの個体群動態，カブトムシの配偶者選択，ツバメの親による子への投資量の雌雄差，地表性昆虫群集の生態学的解析と教材化の検討，オナガガモのつがい形成，ツバメの配偶者選択，ツバメの個体群動態に関する調査・検討を行なった。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

修士課程講義の動物学特論では，学生の要望，最近の研究成果を取り込んで内容構成を研究し，学習効果や内容の理解を深める工夫を行なった。学部講義の生態学では，最近の研究成果を取り込むとともに，実際に野外で身近な生物を対象とすることで学習効果や内容の理解を高める工夫を行なった。

**研究成果の発表状況**

著】平成10年4月：『安曇村村誌　第一巻　自然　「乗鞍岳のイワヒバリ」』（分担）安曇村 pp.581-587

論】平成10年6月：『Food supply in early spring and stability of pair bonds in the Varied Tit *Parus varius*』（共著）Journal of Avian Biology 29: 201-205,『Effect of Site Fidelity on Cooperative Breeding in the Long-tailed Tit *Aegithalos caudatus*』（共著）Bulletin of Joetsu University of Education 18: 301-308,『Effects of supplemental food on intra- and inter-specific behaviour of the Varied Tit *Parus varius*』（共著）The Ibis（in press）。

発】平成10年11月：『イワヒバリの雌は，交尾相手にどのような雄を選ぶか？』（単）日本鳥学会1998年度大会，平成10年11月：『カブトムシの雌雄はどのような相手と交尾するか？』（共）日本動物行動学会第17回大会，

『ツバメの給餌回数を決定する要因は何か？』（共）日本動物行動学会第17回大会，平成11年２月：『イワヒバリ繁殖個体群と越冬個体群の維持機構』（単）環境庁地球環境総合推進費による野生生物集団の絶滅プロセスに関する研究発表会，平成11年３月：『14年間の標識結果：イワヒバリの生涯繁殖成功度は全ての個体で等しいか？』（単）第46回日本生態学会　研究発表

他】平成11年11月：新潟県国立大学施設課合同会議にて「上越教育大学の自然」という演題で講演，平成11年11月：平成10年度新潟県高等学校教育研究会理科部会の生物分科会にて演題「鳥の結婚」で講演，平成11年11月：第16回上越の理科を語る会にて演題「上越のカラスとツバメは日本一」で講演

**共同研究の実施状況**

野生生物集団の絶滅プロセスに関する研究　代表者：椿宜高（国立環境研究所上席研究官）　環境庁受託研究，地理的隔離と集団サイズがイワヒバリ地域個体群の遺伝的多様性に与える影響に関する研究　代表者：中村雅彦（上越教育大学助教授）科学研究費補助金，現職教員再教育の場としての大学院における自然環境教育の在り方に関する共同研究　代表者：大澤健郎（上越教育大学副学長）文部省科学研究費補助金高度化推進特別経費

**学会活動への参加状況**

11月20日～24日：日本鳥学会出席，２月１日～２日：環境庁地球環境総合堆進費による野生生物集団の絶滅プロセスに関する研究発表会出席，３月27日～30日：日本生態学会出席

**社会的活動状況**

日本鳥学会常任評議員，上越市史専門委員，河川水辺の国勢調査アドバイザー(建設省北陸地方建設局)，水源地生態研究会議貯水池生態研究委員会委員（財団法人ダム水源地環境整備センター)，上越鳥の会代表

**西　川　　純**（助教授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

従来の認知科学の手法を取り入れた研究方法に，プロトコル分析等の質的研究の手法を融合した研究を進めている。本年度は，学習者相互作用を分析することによって，コミュニケーション能力を育成し，学び合う教室文化創造の方略を開発する研究を進めている。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

学部・大学院教育に関しては，昨年度の講義における学生・院生のレポート，授業中のエピソードを教材として取り込む試みを行った。個人指導としては，本年度は修士３名，学部学生６名の修士論文，卒業研究指導を行った。学会活動を中心として，学び合う研究室文化の創造を目指した。院生研究はコミュニケーション研究を中心とした。学部学生は，概念研究３件，環境教育１件，教師教育１件，相互作用研究１件である。

**研究成果の発表状況**

著】10年６月：『地学教育実践集』（分担)，日本地学教育学会(編集）トータルメディア出版／10年８月：キーワードで探るこれからの理科教育（分担)，日本理科教育学会（編集）東洋館出版社／11年１月：『実証的教育研究の技法』（単著)，大学教育出版／11年３月：『教科教育学研究17巻』（分担)，日本教育大学協会第二常置委員会（編集)，サンプロセス　以上４件

論】10年８月：『生涯教育から見た各科教育学(その２)』（共著)，学校教育研究，V.13，124-136／10年６月：『銅粉の酸化実験の改良』（共著)，科学教育研究，V.22,87-95／『保護者から見た理科への評価』（共著)，科学教育研究，V.23,50-58　以上３件

業】平成９年４月～平成10年３月（連載)：『学校で教えるべき知とは何か』，楽しい理科授業，明治図書／平

成11年１月：『理科における教育課程の柔軟化を図るリーダーシップ』，教職研修『柔軟な教育課程の編成』，137-142／　以上14件

発】平成10年７月：『理科における学び合いの形成過程』（単）／平成10年７月：『小学生の理科授業における対話の分析的検討』（共）／平成10年７月：『コミュニケーション指導を通した中学校理科における学び合いの育成（その１）』（共）／平成10年８月：『小学生の理科授業における話し合い活動に関する研究』（共）／平成10年８月：『コミュニケーション指導を通した，中学校理科における学び合いの育成』（共）／平成10年９月：『教員養成・再教育の検討（その１）』（共）／平成10年９月：『教員養成・再教育の検討（その２）』（共）／平成10年10月：『コミュニケーション指導を通した中学校理科における学び合いの育成（その３）』（共）／平成10年10月：『小学生の理科授業における話し合い活動に関する研究（その２）』（共）／平成10年10月：『小学生の理科授業における話し合い活動に関する研究（その３）』（共）／平成10年10月：『コミュニケーション指導を通した中学校理科における学び合いの育成（その４）』（共）／　以上11件

**共同研究の実施状況**

学校教育における教科書の体様とその教育効果に関する調査研究，代表者：藤村和男（教科書研究センター常務理事），科学研究費補助金／理科の現代的課題に対応できる資質の育成を図るSCSを利用した教員養成方法の開発，代表者：橋本健夫(長崎大学教授)，科学研究費補助金／科学教育における思考力，判断力の育成と評価の研究，代表者：西川純(上越教育大学)，科学研究費補助金／理科カリキュラムの現状と到達度との関連に関する国際比較研究，代表者：三宅征夫(国立教育研究所)，科学研究費補助金／生涯教育から見た国語，理科，社会の教科内容の評価，代表者：新井郁男(上越教育大学教授)，学内特別経費／教科教育学研究における実践学的接近の方法，代表者：戸北凱惟（上越教育大学教授），学内特別経費　以上６件

**学会活動への参加状況**

平成10年７月29日～31日：日本科学教育学会　第22回年会（東京）出席／平成10年８月３日～５日：日本理科教育学会第48回全国大会（長崎）出席／平成10年９月26日：平成10年度日本国立大学協会研究集会／平成10年10月３日～４日：日本教科教育学会　第24回全国大会（鳴門）出席／平成10年10月24日：日本理科教育学会北陸支部大会（富山）出席／　以上５件

**国内外の学術賞の受賞状況**

平成10年８月：日本理科教育研究奨励賞（日本理科教育学会）　以上１件

**社会的活動状況**

『これからの教科書における体態及び新しいメディアへの対応の在り方に関する研究』委員会委員（教科書協会研究委嘱）／関東教育学会幹事／学校教育学会幹事／日本地学教育学会評議員兼常務委員員／　以上４件

**庭　野　義　英**（助教授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

１）自然観，科学観，自然科学の教育的価値・倫理的側面の研究　２）「理工系離れ，環境問題，学校の多くの問題」の解決に寄与する理科教育学の研究　３）小学校・中学校の教員養成の研究

②　教育活動の実施・改善の研究状況

１）自分の意見を持って，物事を多角的に分析できるような学生の育成を目指して授業を行った。２）学部２年の「理科」の授業では総合学習的観点を導入した。３）教員養成に関して，アメリカの実情を調査した。４）小・中学校や県教育委員会を訪問した。

**研究成果の発表状況**

論】平成11年３月31日：『新しい小学校教員の養成に関する研究―知的成就感，知的満足感の重要性―』（単著）上越教育大学研究紀要第18巻第２号

発】平成10年４月１日：Science Education: The Japan Experience,（単）Science Education Seminar, University of Iowa, Science Education Center, April 1, 1998

**国際研究プロジェクトへの参加状況**

Collaboration in Science Education Research 1998（代表者 Dr.Robert E.Yager,The University of Iowa）

**学会活動への参加状況**

８月３日～５日，日本理科教育学会第48回全国大会出席

**社会的活動状況**

日本理科教育学会研究紀要査読委員，日本学校教育学会選挙管理委員，アメリカ教育学会選挙管理委員

**五百川　　裕**（助　手）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

アジア温帯域における植物の生き様の解明をめざした研究を継続して行っている。今年度は，特に東アジア固有のカツラ科２種の比較形態学的研究，およびマメ科植物におけるアジア熱帯域と温帯域を比較した植物地理学的研究を行った。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

生物学実験の授業において，身近にあり入手が容易な材料を使用することにより，教育現場に出た時に，すぐに実践に役立てられるような，基礎的な実験の展開を試みた。また，体験学習・フレンドシップカリキュラム開発研究プロジェクトにおいて，体験学習の授業の効果的実施形態の実践研究に参加した。

**研究成果の発表状況**

発】平成11年３月：『ヒロハカツラの種子形成過程と花部形態におけるカツラとの比較』（共）日本植物分類学会第29回大会　研究発表

**共同研究の実施状況**

現職教員再教育の場としての大学院における自然環境教育の在り方に関する共同研究　代表者：大澤健郎（上越教育大学副学長）　高度化推進特別経費

**国際研究プロジェクトへの参加状況**

日本からオーストラリアまで分布するアジア熱帯系マメ科植物の系統分類学的研究　代表者：大橋広好（東北大学大学院理学研究科教授）　国際学術研究

**学会活動への参加状況**

９月21日～23日：日本植物学会第62回大会出席，３月17日～19日：日本植物分類学会第29回大会出席

**社会的活動状況**

上越市史調査執筆委員（上越市），地球環境学校基本構想検討委員（上越市）

**大　場　孝　信**（助　手）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

上越市周辺の南葉山，米山を形成する塩基性から酸性岩貫入岩における岩石化学および年代を明らかにし

た。さらに西に貫入した鉾ケ岳，権現岳の貫入時期を明らかにした。今年度は，科学研究費（基礎研究　C）のテーマである『閃長岩および花崗岩に産する角閃石による圧力推定』のまとめをおこなった。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

野外実習で小川の水を使ってカレーライスをつくっている。小川の水はまだ煮炊きに使え，地獄谷の水は温泉水なのでかなりの酸性が強く飲めないことを実体験させている。岩石学・鉱物学実験では名前は知っているが，実物を知らない学生が多いことに気づくので，観察実験から始めることにしている。また群馬大学の岩石概論の非常勤講師をおこなっているが，学内を歩きながら岩石の説明をすると，理解をより深いものにすることができる。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年4月：『群馬県中之条町に分布する関東ローム層中の大隈石-(Mg).』（共著）　群馬大学研究紀要第47巻　103-112., 平成10年9月：『Note on rock-forming minerals in the Joetsu district, Niigata Prefecture, Japan. (13) Tremolite-actinolite from the Kotaki-Omi district.』（単著）Bull.Joetsu Univ. Educ. Vol.18, No.1, 309-318., 平成10年3月：『Chemistry of chromian spinel in picrite sill from Ogi, Sado island, Niigata Prefecture, Japan.』（共著）Bull. Joetsu Univ. Educ. Vol.18, No.2. 687-695.

発】平成10年9月：『新潟県上越市周辺の中性貫入複合岩体の岩石化学的研究。』（単）10年度日本地質学会，研究発表，　平成10年10月：『新潟焼山の岩石化学的研究』（共）10年度日本火山学会，研究発表，　平成10年10月：『新潟県第3紀米山火山岩類のK-Ar年代と化学組成変化について』（単）10年度日本鉱物学会・岩鉱学会連合学会，研究発表，平成10年10月：『東南極セル・ロンダーネ山脈西部の酸性片麻岩中のhastingsiteの安定領域について』（共）　第18回南極地質シンポジューム，研究発表

**共同研究の実施状況**

ナピア地域太古代リソスフェアーの地球科学的研究　代表者：有馬真（横浜国立大学教授）国立極地研究所共同研究

**学会活動への参加状況**

平成10年9月25日～27日：日本地質学会出席，平成10年10月4日～6日：日本火山学会出席，平成10年10月8～12日：日本鉱物学会・岩鉱学会連合学会出席，平成10年10月20日～21日：第18回南極地質シンポジューム出席

**社会的活動状況**

上越市史編纂（執筆委員）

## 下　村　博　志（助　手）

**現在の研究状況**

① 専門分野の研究状況

昨年度に引き続き水熱条件下における金属イオンの反応について検討を行った。Co, P, Oによる無機一次元鎖を有機骨格が連結した新しい有機無機複合高分子を新たに合成しその構造を明らかにした。構造解析は新潟大学理学部分析化学研究室との共同研究として行った。学長裁量経費を得て新たに構造解析用データー処理装置を研究室に構築した。また，新しい原子化機構による金属の定量方法に関する研究に着手した。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

助手として学部学生の指導の補助を行った。危険物取扱者資格（乙種第4類）取得。化学物質の性質に関する学習の一環として，無機分析化学研究室所属の学部学生4名も国家試験を受験し危険物取扱者資格（乙種第1～4類）を取得した。「生物無機化学の基礎」他を学部学生と輪読。金属のイオン化傾向に関する実験

の検討，物質科学の観点からの環境教育に用いる実験としてゼオライトによる有害金属除去実験を昨年度に引き続き検討中。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年６月：「銅粉酸化実験の改良」（共著）科学教育研究 pp.87-95

発】平成11年３月：「$Co(O_3PCH_2NH(C_3H_4)_2NHCH_2PO_3)$の水熱合成と結晶構造」（共）日本化学会春季年会研究発表

**共同研究の実施状況**

物質の微視的構造に関する研究―構造解析用データ処理装置の構築―　学長裁量経費，　学部２・３年生を対象とする，環境教育に用いる教材の開発　学長裁量経費，「集中体験型物質科学実験」カリキュラム開発の試み　学長裁量経費

**学会活動への参加状況**

平成10年４月10日：日本分析化学会関東支部新潟地区部会幹事会出席，平成10年６月９日：日本化学会関東支部新潟地域懇談会運営委員会（林康久教授の代理）・講演会，平成10年９月18日：日本分析化学会関東支部新潟地区部会研究発表会出席，平成10年11月27日：日本分析化学会関東支部新潟地区部会幹事会出席，平成11年３月28～３月30日：日本化学会春季年会出席

＜芸術系教育講座（音楽）＞

**工　藤　智　昭**（教　授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

声楽における歌唱法及び音楽劇における演技・演出の研究。特に声楽発声における共鳴のあり方，音色の特性と表現の関係。声楽演奏効果に関する理論及び実践研究。音楽劇表現のための演技法及び演出の技法に関する検討を加え，既成の音楽劇作品を用いた実践的な研究。聴覚的要素と視覚的要素の相乗効果に関する総合研究。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

声楽関係の授業では，独唱，合唱，演唱ともに，学習者がよりよい歌唱を実現するための発声法，発語法，楽曲分析法等基礎から応用に至るまで，個人の特性に応じて教育実践を行った。音楽劇関係の授業では，歌唱と演技に共通した総合的な要素として，ボディーワーク，呼吸法，感情移入法を総括的に演習することにより習得を効果的にした。

**研究成果の発表状況**

作】平成10年10月：教官演奏会（独唱）　上越教育大学講堂，平成10年11月：高田木曜会合唱団第45回定期演奏会（指揮）　上越文化会館大ホール，平成11年１月：オペラ「ドン・ジョヴァンニ」（演出）　新潟市民芸術文化会館，平成11年２月：オペラ「猫の事務所」（初演・演出）　塩尻市文化会館大ホール，平成11年３月：スプリングコンサート（指揮）　上越文化会館大ホール

**学会活動への参加状況**

平成10年５月：日本声楽発声学会　東京芸術大学。

**重　嶋　　博**（教　授）　※附属実技教育研究指導センター

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

音楽科教育において，授業時数の削減を視野に入れた基礎・基本とは何かを追究するとともに，自国の文化としての音楽とアジアを中心にした民族音楽を取り入れた授業の内容・方法に関する実践的・理論的な研究を継続した。特に，音楽科が教科として子どもに指導しなければならない内容について，実際の授業観察と授業分析を通して追究した。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

小・中学校の音楽授業の削減と「総合的な時間」の学習と音楽科の関連について，実践報告と研究が盛んに見られるようになった学校教育現場の状況について，情報の収集を行うとともに，具体的な授業内容の設定や授業過程の設定と授業展開の在り方について試案を検討した。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年12月：『教課審「答申」の徹底分析と具体化への課題(4)「音楽」の改善のポイントは何か』（単著）『教職研修』 pp.42-43，平成11年３月『小・中学校新学習指導要領のポイントと対応課題 中学校「音楽」のポイントと対応課題』（単著） 『教職研修』 pp.98-99

作】平成10年８月：『平成10年度（第65回）NHK全国学校音楽コンクール新潟県大会』審査員 長岡市立劇場

他】平成10年10月：『音楽教育研究ジャーナル第10号読者の声（音楽授業の研究について）』東京芸術大学音楽教育研究室 pp.55-57，平成11年２月：『卓話（音楽科教育実践学への私考）』（提案発表） 日本音楽教育学会第14回北陸地区例会 富山大学

**学会活動への参加状況**

９月19日～20日：日本音楽教育学会出席広島大学

**社会的活動状況**

日本音楽教育学会常任理事・編集委員・30周年記念論文集編集委員，10月より会計監事・30周年記念論文集編集委員，大島村音楽協会顧問（新潟県東頸城郡大島村）

## 伊 達 博（教 授）

**現在の研究状況**

① 専門分野の研究状況

器楽アンサンブル及び管楽器，吹奏楽の実践的研究とその指導法について研究を継続して行っている。年齢とともに低下する体力に応じた演奏法，とりわけ腹筋の活用を考慮した呼吸法の研究を行い，アンサンブルの実践に結びつけた。吹奏楽の分野では，リムスキーニコルサコフ作曲ウインターボトム編曲スペイン奇想曲を研究演奏し，管弦楽との響きの差異を追及した。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

音楽特別研究の授業では，履修学生の専攻楽器が多岐にわたり苦労の多いところであるが，金管楽器の発音原理，ダイナミックレンジ，音のつながり，音楽の流れ等の課題について研究し，学生が創立20周年記念演奏会で発表の場を持った。附属小学校において本学吹奏楽団による吹奏楽鑑賞会を行い，その響きと個々の楽器の形や音色を実際の楽器を通して解説を行った。

**研究成果の発表状況**

作】平成10年10月：本学創立20周年記念教官演奏会（ファゴット４本による四重奏）本学講堂，平成11年１月：「第16回山本正人記念聖徳学園吹奏楽の夕べ」（シンフォニックバンド指揮山本真）聖徳学園川並記念講堂

**社会的活動状況**

平成10年９月：「第４回東関東吹奏楽コンクール」大会の指導・審査，千葉県文化会館。平成11年１月：「第４回東関東アンサンブルコンテスト」大会の指導・審査，厚木市文化会館。上越市文化会館企画委員会委員長

（平成９年10月から継続）。

## 茂手木　潔　子（教　授）

### 現在の研究状況

① 専門分野の研究状況

日本の伝統的な音文化研究の継続として，声（越後の酒屋唄）と楽器（様々な伝統音楽における発音具）に焦点を当てて，現状調査と研究を行い，研究成果の発表として執筆活動に加えてCD・VTRの制作，展覧会・舞台公演を行った。また，９月末には元弘前大学教授笹森健英氏のご協力のもとに，バンベルク大学教授Dr.Baumann，日本音楽研究のDr.Fujie両氏と共に，イタコの口寄せ，御陣乗太鼓などの調査を行った。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

今年度の特別な教育活動としてはメキシコからの教員留学生，テルマ・マルタ・ゴメス・ムリリョの研究テーマ『日本の伝統音楽と演劇』の研究指導。また，開学20周年記念展示として10月２－３日「アジアの楽器」の展示を学生たちと共に音楽棟102教室で開催。200人の市民が訪れた。その他，部活動として新たに三味線クラブが発足し顧問になった。

### 研究成果の発表状況

著】平成11年２月26日：「国立劇場における伝統の創造の経緯と背景」（共著）日本芸術文化振興会ほか監修・編集『現代の日本音楽』シリーズ　春秋社

論】平成10年４月20日：「平安朝の女流文学に記述された自然音と楽器音・声との響き合い―『枕草子』『紫式部日記』『源氏物語』の分析から―」（単著）皆川達夫先生古希記念論文集発行委員会編『音楽の宇宙』pp.460-469 音楽之友社，11月：「“復元”（複製）―再現隠蔵在楽器内的聲音概念」（単著）国際研討會論文集　『循環するシルクロード　絲綢之路的迴響』pp.9-17 国際交流基金監修・出版，平成11年２月：「日本の「うた」の特徴と指導のためのポイント」（単著）『中学校音楽教育実践指導全集　1　中学校の歌唱指導』pp.49-73　（株）アカデミープロモーション

作】平成10年４月21日：CD『越後酒造り唄の世界』監修・解説　60分　日本コロムビアCOCF-15050，８月：VTR『新潟の芸能Ⅰ　酒造り唄―蔵人たちの仕事唄』監修　120分　新津市美術館編。

業】平成10年３月：「歌舞伎囃子」（単著）『最新　高校生の音楽指導の手びき』p.117 音楽之友社

発】平成10年10月29日第17回亜州芸術祭～アジア21・遥かなるユーラシア大陸音楽創造～シンポジウムパネリスト（国際交流基金＆香港臨時市政局主催）

他】平成10年６月27日：『新潟の芸能Ⅰ　酒造り唄―蔵人たちの仕事唄』（単著）全14頁　新津市文化振興財団，12月１日：『音を開く―多様な日本音楽の世界―』（共著）全47頁　アサヒビール株式会社環境文化推進部，平成10年12月１日：「人間を中心にした演奏がほしい」（共著）NTT出版『COMMUNICATION 76』座談会記録 pp.3-10，平成11年２月27日：レクチャーコンサート「日本の聲　気～息～肚～そして声が始まる」企画構成司会およびプログラム執筆４頁。アーツフォーラム・ジャパン主催　六本木オリベホール，平成11年１月１日：演奏会報告「“アジアの響き”を具現した「ユーラシアオデッセイ」『邦楽ジャーナル vol.144』p.48　邦楽ジャーナル発行，２月：「伝統芸能の継承と発展」（単著）pp.3-12/パネルディスカッション報告「人と文化を活かす地域づくり」（共著）『地方拠点都市シンポジウム』報告書 pp.13-34　長岡地域広域行政組合発行，３月９日：「日本の楽器と音の文化」（単著）毎日新聞夕刊文化欄，３月９日：『音のはじめ　音楽の創まり―日本の音を聴く―』（単著）全22頁　新津市文化振興財団

### 国際研究プロジェクトへの参加状況

平成10年10月29日：「第17回亜州芸術祭～アジア21・遥かなるユーラシア大陸音楽創造～」シンポジウムパ

ネリスト（国際交流基金＆香港臨時市政局主催）

**社会的活動状況**

平成10年４月：「文化財を支える用具・原材料の確保に関する調査研究協力者会議」委員（文化庁伝統文化課），４月：出光音楽賞推薦委員，５～７月：アサヒビール音楽講座レクチャーコンサートシリーズ全３回「音を開く―多様な日本音楽の世界―」企画監修解説（「声のダイナミズム―真言声明の世界―」５月25日，「おもちゃになった日本の音―おもちゃが奏でる音の世界―」６月22日，「酒を造る唄の話―越後野積杜氏の世界―」７月13日）（Asahi スクエア A），９月25日：長唄協会定期演奏会講演（虎ノ門イイノホール），10月東洋音楽学会理事(平成12年９月まで)，10月22日：長岡地域広域行政組合主催「地方拠点都市シンポジウム地域を創る―伝統文化への新たな視点―」全体構成・基調講演・シンポジウム司会（越路町町民体育館），12月11日：富山県高校音楽教諭のための日本音楽指導概論（上越教育大学音楽棟102教室），平成11年２月２日：群馬県高校音楽教育研究会講師（群馬県教育センター），３月：新津市美術館展示の監修（平成11年５月31日まで開催）

## 山　形　忠　顯（教　授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

ドイツ歌曲及び日本歌曲の演唱表現法に関する研究を継続して行っている。今年度は，ヨハン・ゼバスティアン・バッハの歌曲，リヒャルト・シュトラウスとアルノルト・シェーンベルクのメロドラマ，山田耕筰と信時潔の連作歌曲集について，「作品がつくられた時の創造的時間」に視点を当てた楽曲分析研究と演唱表現法研究を行った。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

学部の「声楽基礎Ⅰ」，「声楽基礎Ⅱ」の授業では，独唱の基礎技法，特に声楽発声法と日本歌曲・イタリア古典歌曲の歌唱表現の実習を通して，独唱学習についてのパースペクティブの把握及び学習者各個人に相応した独唱学習方法の構築を図った。「歌唱法」の授業では，声楽曲における詞章の取り扱いに配慮させるため舞台語発唱法について基礎実習を行い，作品内容のレアリティを把握した明確な主張を持つ演唱表現法の習得を図った。大学院の「児童発声研究」の授業では，声楽発声における音響表象と聴覚を重視した学習指導実践事例の検証を行った。

## 池　田　　操（助教授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

ベルカント・オペラ，ドイツ・ロマン派歌曲，日本歌曲の演奏法について研究を継続して行っている。今年度はヘンデル，モーツアルト，ドニゼッテイ，ヴェルデイの作品からベルカントの系譜をたどって演奏研究を行った。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

学部「歌唱法」の授業では，基本的な発声法と歌唱法とのバランスを工夫して指導した。大学院「重唱」の授業では，新しい分野における，より高度な演奏技能の習得を目標として選曲，指導した。

**研究成果の発表状況**

作】平成10年７月：第33回新潟県音楽コンクール声楽部門審査員　新潟県民会館，平成10年10月：『ランメルモールのルチアより―狂乱の場―』他演奏　上越教育大学講堂

発】平成10年８月：『歌唱支援システム構築のための歌声の分析と評価』（共）1998―音楽情報科学―26　情報

処理学会

**学会活動への参加状況**

8月7日～9日：情報処理学会出席（北海道大学）

**後　藤　　丹**（助教授）

**現在の研究状況**

① 専門分野の研究状況

昨年度に引続きオペラについての研究を行なった。今年度はモーツァルトの「魔笛」に焦点をあてて分析をした。

作品制作ではいくつかの合唱曲，合奏曲，ピアノ曲などを完成させた。また，フォーレのピアノ連弾組曲「ドリー」の独奏ピアノ版の編曲をおこない，その問題点を論文にまとめた。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

大学院の「音楽劇分析」では毎回異なる視点から分析をおこない，総合芸術であるオペラやミュージカルの特質を理解させようと努力した。

**研究成果の発表状況**

著】平成10年5月：混声合唱組曲『気球の上る日』（単著）　音楽之友社，平成10年9月：フォーレ『ドリー組曲』独奏版（共著）　全音楽譜出版社，平成11年3月：ピアノ小曲集『こどもたちへ』（共著）　カワイ出版

論】平成11年3月：『フォーレの組曲ドリーのピアノ独奏用編曲について』（単著）　上越教育大学紀要第18巻第2号　pp.697-710

作】平成10年10月：『海へ出る小道』（弦楽合奏）　新潟中央高校音楽科定期演奏会　新潟市音楽文化会館，平成10年11月：『六段』（箏と弦楽四重奏への編曲）リジェ弦楽四重奏団演奏会　だいしホール，平成10年11月：上越教育大学学園歌　開学20周年式典　上教大講堂，平成10年12月：『Old Christmas Songs』（Cl, Trp, Vn, Vc, Pno）北星学園大学，平成11年3月：女声合唱組曲『ささやかなあいさつ』　オルガンと合唱の祭典　新潟市民芸術文化会館，平成11年3月：『海へ抜ける小道』（ピアノ曲）　第14回「こどもたちへ」（42人の作曲家による自作自演コンサート）紀尾井ホール

**社会的活動状況**

新潟県音楽コンクール審査員，チューリップ愛唱歌審査員（新潟市），新潟県アート・プロデュース講座講師（新潟県），新潟市立宮浦中学校竣工記念式典の音楽作曲，上越市立大手町小学校児童6年生の共同作品の編曲，新潟日報の音楽欄での執筆活動，いくつかのコンサートのプログラム・ノートの執筆

**酒　井　　創**（助教授）

**現在の研究状況**

① 専門分野の研究状況

浪漫派から近代にかけてのピアノ作品における演奏表現領域の拡大に関する研究を継続して行っている。今年度は特に，ガーシュウイン生誕100周年にあたり『ラプソディー・イン・ブルー』に関する新たな視点による分析・検討を行った。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

「卒業研究」，大学院「独奏」，「伴奏法」の各授業では学生各人の表現技術の弱点を克服し飛躍させるべく工夫を行った。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年９月：『リスト：《メフィスト・ワルツ第１番》の成立とその構成』上越教育大学研究紀要　pp. 319-334

作】平成10年６月：ルーマニヤ・ボトシャニ国立管弦楽団定期演奏会において『ラプソディー・イン・ブルー』を協演，平成10年10月：上越教育大学創立20周年記念教官演奏会においてピアノ独奏，アンサンブル

**社会的活動状況**

上越器楽コンクール審査員

**平　野　俊　介**（助教授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

バルトーク，シューマン，フランクのピアノ作品，及びリストのピアノのための編曲作品に関する研究を継続して行っている。今年度は，特にシューマンの op.6と op.15及びフランクの「プレリュード，コラールとフーガ」の作品分析と演奏研究を行った。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

学部の授業では，基本的な奏法の習得に重点を置いて指導にあたった。また，学部の「卒業研究」，大学院の「独奏」「伴奏法」の授業では，各学生の問題点や改善点を慎重に見極めた上で研究課題を設定し，演奏指導にあたった。

**研究成果の発表状況**

作】平成10年10月：上越教育大学創立20周年記念教官演奏会でピアノ独奏，ピアノ伴奏

**社会的活動状況**

上越器楽コンクール審査員，糸魚川市立根知小学校，及び栗島浦小・中学校の音楽鑑賞会でピアノ独奏，ピアノ伴奏

**山　本　茂　夫**（助教授）　※附属実技教育研究指導センター

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

管楽器奏法及び管楽器による音楽表現法について研究を継続して行っている。本年度はアンサンブルにおける演奏法と表現法について演奏を通して研究した。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

音楽Ａに係わるピアノ指導では，懇切丁寧を心がけて指導にあたった。リコーダー指導では限られた時間で指導効果を上げるため，教材を厳選して授業にあたった。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年４月：『モーツァルト作曲ファゴット協奏曲 K.V.191にみるアクセントとその表現』（単著）　日本吹奏楽学会研究紀要　pp.72-82

作】平成10年10月：『フォーゲル作曲　ファゴット四重奏曲　ヘ長調』　上越教育大学創立20周年記念教官演奏会II　上越教育大学講堂，平成11年１月：『ストラヴィンスキー作曲　兵士の物語』　シンフォニック新潟ロシアの風　新潟市民芸術文化会館コンサートホール

他】平成10年12月：上越教育大学吹奏楽団第16回定期演奏会の指揮

**学会活動への参加状況**

2月20日：日本音楽教育学会北陸地区例会出席

**社会的活動状況**

上越地区吹奏楽連盟理事，上越器楽コンクール審査員，本学吹奏楽団を率いての出張演奏

**阿　部　亮太郎**（講　師）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

オーケストラ作品の制作を開始した（2～3年かける予定）。

日本の現代作品に関する研究を継続して行っている。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

「楽曲分析」の授業では，対象と体験を頻繁に往復しながらの楽譜の書写などの手法によって，「表現としての分析」に近づく分析の在り方を習得させた。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年9月：「三善晃論について―その前提の意識化についての考察―」（単著）　上越教育大学研究紀要第18巻第1号　pp.335-346，平成11年3月：「創造の過程と目的意識」（単著）『―子どものつくる・表す行為と学び―』平成10年度～平成12年度科学研究費補助金（基盤研究(B)(1)）　平成10年度報告書　pp.127-132

作】平成10年10月：《2群の吹奏楽のための3つのファンファーレ》上越教育大学20周年記念，平成10年12月：《児童合唱，混声合唱，管弦楽のためのクリスマスメドレー》（編曲・武蔵野市民交響楽団委嘱）武蔵野市民文化会館

**植　村　幸　生**（講　師）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

(ア)今までの研究成果に基づいて，韓国・朝鮮の伝統音楽の歴史と現状を概観する著書を執筆・刊行した。

(イ)「朝鮮時代吹打音楽の社会史的研究」の一環として前年度に執筆した論考（今年度刊行）に基づき，韓国で口頭発表を行った。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

(ア)本年度より「韓国文化論」を担当し，前年度に実施した韓国語自主ゼミの成果をそこに応用することにつとめた。また「日本史概説」「ロシア事情」との合同でミニ・シンポジウムを実施した。(イ)前年度に充分果たせなかった「音楽学概説」「音楽文化論B」における構成と内容のさらなる改訂につとめた。

**研究成果の発表状況**

著】平成10年11月：『韓国音楽探検』（単著）音楽之友社，186頁

論】平成10年6月：「19世紀末の吹鼓手と細楽手」（単著）『韓国音楽史学報』20輯，651-674頁［本文韓国語］

発】平成10年11月7日：「19世紀末の吹鼓手と細楽手」第2回国際音楽学シンポジウム（ソウル・国立国楽院）

**共同研究の実施状況**

音楽の概念と行動の比較研究　代表者：櫻井哲男（阪南大学教授）　国立民族学博物館共同研究，東アジア地域の歴史学と歴史教育のマルチ・メディア教材の開発に関する総合的研究　代表者：下里俊行（上越教育大学）　科学研究費（基盤研究A2）補助金

**学会活動への参加状況**

11月6日～7日：韓国音楽史学会主催　第2回国際音楽学シンポジウム（ソウル・国立国楽院）出席

**社会的活動状況**

平成10年10月まで：㈳東洋音楽学会制度委員会委員，平成11年2月12日：足利市織姫公民館にて「冬の市民学校：民族音楽から世界が見える」第2回講師

## 上　野　正　人（助　手）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

声楽作品全般の演奏法に関する研究を継続して行っている。今年度は，特にJ.S.バッハ作曲の「マタイ受難曲」，またドイツ歌曲や日本歌曲，そしてオペラではモーツァルトの作品についての分析研究・演奏研究発表を行った。

②　教育活動の実践・改善の研究状況

卒業研究の授業では，学生の演奏技術に応じた演奏楽曲を選択した。そして，最近の研究成果を盛り込んだ楽曲分析法を指導することによって学生の演奏表現が深まるよう工夫を行なった。

**研究成果の発表状況**

作】平成10年6月：『能生町立木浦小学校音楽会』　木浦小学校体育館，平成10年9月：J.S.バッハ『マタイ受難曲』演奏会　新潟県民会館大ホール，平成10年10月：『室内楽コンサート』　柿崎町上下浜奏々舎，平成10年10月：『中頸城郡中郷村ホール「ハートピア」招待演奏』　ハートピア，平成10年10月：W.A.モーツァルト『ドン・ジョヴァンニ』演奏指導　新潟市音楽文化会館，平成10年11月『青海町立市振小学校音楽会』市振小学校体育館，平成10年11月：W.A.モーツァルト『コシ・ファン・トゥッテ』　岐阜サラマンカホール，

**国内外の学術賞の受賞状況**

1月8日：第11回大曲新人音楽祭コンクール奨励賞受賞（大曲市）『バリトン独唱』

**社会的活動状況**

平成10年度第28回上越市民芸能祭合唱のつどい　講師（上越市教育委員会）

## 宇　野　哲　之（助　手）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

弦楽器に関する研究を継続して行っている。ベートーヴェンのチェロ・ソナタ第4番についての研究も継続して分析・検討を行っている。また国際交流基金の派遣により，ルーマニア・ボトシャニ市において指揮者として国立オーケストラの定期演奏会に出演するなどの研究演奏を発表した。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

「卒業研究」においては，技術面に偏らずに音楽性との両立を重視した個別指導を行った。「指揮法Ⅰ」においては指揮の実践的な技術を習得し，「指揮法II」ではより高度な楽曲で音楽表現ができるように授業を行った。「音楽A」においては指揮法の講義，及びピアノの個別指導を行った。

**研究成果の発表状況**

作】平成10年5月：第4回「アカンサス」新潟市音楽文化会館，平成10年6月：「国立ボトシャニ・フィル管弦楽団定期演奏会」　ルーマニア・ボトシャニ市エミネスク劇場，平成10年6月：新潟県音楽コンクール予選弦楽部門審査員　新潟市県民会館，平成10年7月：新潟県音楽コンクール本選弦楽部門審査員　新潟市県民

会館，平成10年10月：上越教育大学創立20周年記念教官演奏会，平成10年10月：「ドルチェ・エ・ムジカ」横浜イギリス館，平成10年11月：「チェロとピアノによる根知小オータムコンサート」糸魚川市根知小学校体育館，平成10年11月：「チェロとピアノのコンサート」粟島小中学校体育館，平成10年12月：「岡礼子室内楽シリーズⅠ・ピアノトリオ」新潟市だいしホール，平成11年３月：「宇野哲之チェロ・リサイタル」　新潟市だいしホール

**社会的活動状況**

新潟県音楽コンクール実行委員（新潟県），平成10年５月：岩乃原葡萄園第２号石蔵健造100年記念式典における演奏発表，平成10年10月：中郷村総合文化会館完成記念式典における演奏発表

**＜芸術系教育講座（美術）＞**

**太　田　將　勝**（教　授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

現代の美術教育の根底において一定の意味をもつと思われる，イタリア未来派やダダイスムを中心にした20世紀美術を総括的に研究しようとしている。他方，日本古来の伝統美術の意味を再考し，欧文でまとめる作業を始めている。日本の絵巻物や関連粉本について，美術の教材開発という視点から研究を併せ進めつつある。今年度は，上記諸項目のうち，20世紀美術の現存作家や美術教育について一部をエッセイのかたちにまとめるにとどまった。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

造形教育法の授業では，42年前，公立小学校（東京）生徒だった筆者の当時の担任（のち校長，横浜在住）に来学を仰ぎ，往時と現在の教育全般のちがいや，今日の教育観にもとづく斬新な提言をいただいた。美術科教育法では，アメリカの小中学校視察の折寄贈された資料や写真を教材として，日米の現場の違いや今後の方向について討論する機会を得た。博物館資料論では，書画・刀剣の現物を使用し，学芸の実務について，講述した。

**研究成果の発表状況**

著】平成10年４月：『美術科教育概説講義』（単著）造形芸術研究所

論】平成10年12月：「エッセイ：クリスト芸術の構想と展開をめぐって」（単著）　『美と育』　pp.21-26

作】平成11年３月：『SPACE １―26』（26点）METAPHISICS 展

他】平成11年２月：『柔軟な教育課程の編成』（共著）教育開発研究所　など

**国際研究プロジェクトへの参加状況**

12月13日～29日：国際ジュニア美術館開設準備に係る調査

**学会活動への参加状況**

10月７日～９日：大学美術教育学会滋賀大会出席，11月14日：美術教育実践学会研究発表大会出席，２月１日：美術史学懇話会出席，３月14日：美術史学会例会出席

**社会的活動状況**

第39回新潟県児童生徒絵画・版画コンクール審査員，平成10年度新潟県高等学校教育研修講師，上越市美術資料収集委員，第29回新井市展幼児・ジュニア部門審査員，平成10年度三和村商工会議所講師，MOA 美術館青少年美術展審査員，国際ジュニア造形協会理事，高田文化協会理事，造形芸術研究所理事

## 風 巻 孝 男（教 授）

### 現在の研究状況

① 専門分野の研究状況

C.G.カールスのフリードリヒ風様式についての研究を継続している。今年度は，フランクフルト・ゲーテ博物館所蔵《葦の中の白鳥》とドレースデン銅版画館所蔵《埋葬の情景のみえるエルデナの廃墟》についての論考を2篇の論文にまとめた。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

「西洋美術史」（大学院）では，フリードリヒとカールスに関する最近の研究成果を取り入れた授業内容を構成し，19世紀初頭のドイツ美術の多様な動向を理解させるべく工夫した。「教養教育科目・芸術」（学部）では，資料の配布や作品の展示等によって関心が深まるよう工夫した。

### 研究成果の発表状況

論】平成10年9月：『フランクフルト・ゲーテ博物館の《葦の中の白鳥》についての考察』（単著） 上越教育大学研究紀要 第18巻第1号 pp.347-364

平成11年3月：『ドレースデン銅版画館のセピア画《埋葬の情景のみえるエルデナの廃墟》についての考察』（単著）上越教育大学研究紀要 第18巻第2号 pp.733-750

### 学会活動への参加状況

5月23日：美術教育実践学会出席

### 社会的活動状況

美術教育実践学会理事，10月30日：講演「美術家の少年時代」（於群馬県立女子大学）

## 西 村 俊 夫（教 授）

### 現在の研究状況

① 専門分野の研究状況

立体造形作品の制作と工作教育の基礎理論に関する研究を継続して行っている。作品制作では今年度は，特に作品の空間性の向上と設置の作業性の向上を目的とするユニットのジョイント方法の研究を行った。理論研究では，特にものづくり教育（工作・工芸教育）において機軸となるデザイン方法論（デザイン・プロセス理論）を代表する3つの理論の基本的構造の比較検証を行った。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

学部の演習・実習の授業では，一人一人の興味関心を尊重し，各自が自ら「つくりたいもの」を見つけ出すためのプロセスを工夫した。工芸理論，デザイン理論の授業では，最近の研究成果を取り入れて学生の学習に対する興味及び理解が高まるように工夫した。大学院の授業では，実習を中心とした授業内容ではあるが，制作活動する以前の「考える」段階を特に重視した授業内容とした。

### 研究成果の発表状況

論】平成10年9月：『デザイン・プロセス理論に基づくものづくり教育の構築（Ⅰ）』（単著） 上越教育大学研究紀要 第18巻第1号 pp.365-376

作】平成10年9月：『ARCH II98』 第62回新制作展 東京都美術館

### 共同研究の実施状況

つくること表すことによる「生きる力」としての学びの基礎理論の構築と教育の体系化に関する研究 代表者：西野範夫（上越教育大学） 科学研究費補助金

**学会活動への参加状況**

10月７日～９日：第37回大学美術教育学会出席，12月５日～６日：第2回芸術教育実践学会出席，３月26日～28日：第21回美術科教育学会出席

**社会的活動状況**

上越市マイスター選定委員（上越市），国立妙高少年自然の家主催事業「いきいき家族ふれ愛キャンプ」の指導

**福　岡　奉　彦**（教　授）　※附属実技教育研究指導センター

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

西洋画と日本絵画の表現性の止揚というテーマで，油彩画制作および作品発表をもって研究を継続して行っている。今年度は，特に制作で空間性の問題として装飾性の表現を加えて試作を行った。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

学部授業では，絵画表現の多様性をオリジナル作品で知らせ，表象のおもしろさや表現の分析など新たな鑑賞と制作の往復を具体化し，学校教育に関する実習効果を高める工夫を行った。

大学院の授業では，それぞれの研究成果をとりこんだ新たな知覚の発生を体験させ，内容の理解を高める工夫を行った。

**研究成果の発表状況**

作】平成10年４月：『翅音』（F150号）―日本海独立展―　富山県民会館美術館へ油彩画を出品する。平成10年６月：『牡丹』（F15号）・『牡丹』（S ４号）―逸品会展―　ホテル・ニューオータニ本館へ油彩画２点を出品する（日本橋・三越美術画廊主催）。平成10年７月：『東へ』（変形50号）・『薔薇』（41×19㎝）・『牡丹』（SM）―Présent―時―展―　ギャラリーヒルゲート（京都）へ油彩画３点を出品する。平成10年10月：『海鳴り』（F200号）―第66回独立美術協会展―　東京都美術館へ油彩画を出品する。平成10年11月：『牡丹』（F15号）・『薔薇』（M10号）・『薔薇』（41×19㎝）・『牡丹』（S ４号）・『カサブランカ』（F ４号）・『鳩』（F ３号）・『薔薇』（SM）・『薔薇』（０号）―銀画展―　銀座・三越美術画廊主催で油彩画８点を出品する。平成11年２月：『趯』（F50号）・『牡丹』（F ８号）―第３回独楽の会展―　日本橋・高島屋美術画廊主催へ油彩画２点を出品する（なんば高島屋美術画廊・大阪，丸栄美術画廊・名古屋へ巡回する）。平成11年３月：『海鳴り』（F200号）―彩象 '99―ハイブリット絵画・埼玉―　埼玉県立近代美術館へ油彩画を出品する。平成11年３月：『鳩』（F ３号）―彩象'99WEST―　西武所沢美術画廊へ油彩画を出品する。

**社会的活動状況**

平成10年５月：絵手紙コンクール審査　信越郵政局主催，平成10年10月：第66回独立美術協会展　審査および展覧会委員　東京都美術館，長岡市美術展審査　長岡市国際文化課主催，平成10年11月：第29回新潟県ジュニア美術展審査　新潟日報社主催，平成11年１月：第48回年賀状版画・絵手紙コンクール審査　信越郵政局主催，平成11年２月：第39回新潟県児童生徒絵画・版画コンクール審査　上越美術教育連盟主催

**増　谷　直　樹**（教　授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

絵画制作および西洋画技法，組成に関する研究を継続して行っている。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

昨年のイタリー研修旅行の成果を生かしテンペラ，フレスコ等の古典技法の実習内容の一層の高度化を計った。

**研究成果の発表状況**

作】平成10年４月：『Bufon』F20 『ヴェニス』F12等９点　３人展　ふかみ画廊（上越市），平成10年６月：『La Roche-Vineuse』F30等９点　プシケ展　ロイヤル美術館（銀座），平成10年９月：『ヴェニス』F20等10点　山崎和代，増谷直樹２人展　アトリエスズキ（銀座），平成11年３月：『赤と黄色の館』F4　ラ・プリマヴェーラ展　アトリエスズキ（銀座）

**社会的活動状況**

上越市市展運営委員，新井市市展審査員，妙高を描く展審査員

## 山ノ下　堅　一（教　授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

昨年度に引続き，高画質画像編集・加工システムによるデジタル画像処理の実験を進めた。デジタル画像データの印刷適性について，印刷処理実験を行い，データを分析研究した。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

教育実践場面分析演習，デザイン実習において，コンピュータを取入れ美術教育，デザイン教育の新たな方法を提示し学習効果や内容の理解を高める実践を行った。

**共同研究の実施状況**

作ること表すことによる「生きる力」としての学びの基礎理論の構築と教育内容の体系化　代表者：西野　範夫（上越教育大学教授）　科学研究費補助金

**学会活動への参加状況**

５月23日：美術教育実践学会第１回研究発表大会出席，10月７日～９日：第37回大学美術教育学会出席，11月14日：第２回美術教育実践学会研究発表大会出席，

**社会的活動状況**

大学美術教育学会理事（前開催大学代表），美術教育実践学会理事長代理，上越市景観デザイン賞審査委員（上越市），新潟広告賞審査委員（新潟広告協会），上越市美術展覧会運営委員（上越市）

## 阿　部　靖　子（助教授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

美術教育における環境造形教育についての研究を継続し行っている。今年度は，理論的研究として継続的に「まちづくり」をテーマに環境教育と生涯学習にかかわる美術教育のあり方について研究を深めた。又，実践的研究として，公園の屋外空間にブロンズの立体作品を設置し，環境造形の方法について研究した。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

学部の授業では昨年度から担当した基礎情報処理「図画工作」の授業内容についての検討と，指導方法についての研究を行った。又，専門教育科目図画工作Ｂ（２年次）と造形教育法（３年次）の関連について再検討し，さらに教育実習とのかかわりも考慮した授業の内容構成について研究した。

**研究成果の発表状況**

著】平成10年４月：『一般教科教育学序説』（分担）　大学教育出版

作】平成10年５月２日～31日：第３回木内克大賞野外彫刻展　東海村

平成10年４月１日～９月30日：The 13th Biennal International Bronzework Competition（ラベンナ，イタリア）

平成10年８月：ボレアス横浜展　横浜市

**共同研究の実施状況**

上越教育大学附属小学校研究協力員，第48次新潟県教職員組合教育研究集会共同研究者

**学会活動への参加状況**

平成10年５月23日：第１回美術教育実践学会，平成10年８月20日～24日：InSEA（国際美術教育学会）アジア地区会議東京大会，平成11年３月26日～28日：美術科教育学会

**社会的活動状況**

上越市美術教育研究会講師（『子ども・美術・環境のかかわりと教育』を講演），新潟県安塚町雪国文化村デザイン委員会景観部会委員（平成３年より継続）及び雪像コンテスト審査委員，上越市景観条例検討委員会委員

**大　嶋　　彰**（助教授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

モダニズムに発する絵画の空間構造の問題を継続して研究している。特に知覚上事後的に生成する虚焦点的な空間性は，単にモダニズムの問題に留まらず多義的な空間生成に関わることから，その今日的な可能性を試みている。また，今年度は20周年記念事業や大学改革などのこともあって子どもの造形活動を実践的に考え直す機会にめぐまれ，他者や状況に埋め込まれた意味と関係によって絵画（私自身）を改めて相対化することができた。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

基本的には，明治以来行われてきた技術者＝制作者養成としての美術教育に対し，その身体的基盤を問いつつ，美術をどのように社会的関係の中に位置づけ「考える美術」に向かうか，その可能性をテーマとしている。そのために，通常の実技授業においても記号論をベースに近代・現代美術の変遷が人間と社会にいかに深く関わっているのかを問い，卒業研究や大学院のゼミにおいては，他分野のテキストなども盛り込みながら絵画の横断的な理解を促す工夫を行っている。

**研究成果の発表状況**

作】平成11年２月：『見えない内部／出られない外部』　身体学展２　新潟市・アトリエ我廊［画廊企画展］

他】平成９年９月～平成10年８月：『美術時評』　新潟日報（月１回，計12回連載），平成10年12月６日：芸術教育実践学会シンポジウム『芸術教育実践学の探求』パネリスト

**共同研究の実施状況**

総合学習における造形表現活動の内容構成と実践に関する研究　代表者：大嶋彰　教育改善推進費，つくること表すことによる「生きる力」としての学びの基礎理論の構築と教育の体系化　代表者：西野範夫　科学研究費補助金，体系的な教員養成カリキュラムの在り方　代表者：渡邊隆　教職課程における教育内容・方法の開発研究事業　他

**学会活動への参加状況**

５月23日・11月14日・２月27日～28日：美術教育実践学会出席，10月８日～９日：大学美術教育学会出席，等

**社会的活動状況**

6月24日～25日：新潟県立教育センター高等学校芸術科「美術」指導講座講師，平成10年7月25日：ジェンダーネットワーク•公開シンポジウム『現代の子どもとジェンダー』パネリスト（主催•新潟県女性センター），8月28日：文部省•小学校実技指導者講座講師（西部地区），2月4日：第38回新潟県児童生徒絵画•版画コンクール審査員

岡　　充　夫（助教授）

**現在の研究状況**

① 専門分野の研究状況

彫塑制作及びそれに関わる表現技法・材料の研究を継続して行っている。今年度は塑造において形態と表面処理に関する研究を行った。この結果は平成11年4月第29回日彫展（於・東京都美術館）に発表予定。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

基礎造形IIでは受講生のほとんどが未体験である故，モデリングとカーヴィングを取りあげ，素材の特性及び形態と表面処理の関係を理解し易く，興味をもてる内容になるよう工夫した。

**研究成果の発表状況**

作】平成10年4月：「俯く男」第28回日彫展　東京都美術館

**学会活動への参加状況**

5月23日：第1回美術教育実践学会出席，11月14日：第2回美術教育実践学会出席

**社会的活動状況**

上越市美術展覧会運営委員

髙　石　次　郎（助教授）

**現在の研究状況**

① 専門分野の研究状況

教育や社会との関係性を重視した陶芸作品制作を行うと共に，その関係性について研究を継続して行っている。今年度は，論文において研究成果を発表した。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

陶芸実習（学部3年），陶芸研究1（大学院1年）において，陶芸技術や陶芸文化の伝承に偏りがちな陶芸教育を改め，陶芸の素材やプロセスを探求する内容の授業を展開し研究している。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年12月：『陶芸制作と教育の通路-陶芸制作の展開の論理による考察-』（単著）　上越教育大学美術教育研究誌「美と育」pp.33-40，平成11年2月：『陶芸教育の再考と実践』（単著）大学美術教育学会誌　pp.33-40

作】平成10年4月：『思考形態'98-5』朝日現代クラフト展　招待出品　阪急百貨店うめだ本店•有楽町阪急，平成10年6月：『Form through Conception』第22回フレッチャー・チャレンジ国際陶芸展　ニュージーランドオークランド美術館　入選，平成10年10月：『思考形態98-10』個展　目黒陶芸館（四日市），平成11年1月：『茶碗』机上空間の為のアートワークス展　招待出品　東京銀座コンテンポラリーアートNIKI，平成11年1月：『思考形態99-1』個展　ギャラリー酉福（東京）

**共同研究の実施状況**

研究題目『つくること表すことによる「生きる力」としての学びの基礎理論の構築と教育の体系化』　代表

者：西野範夫　科学研究費補助金

**学会活動への参加状況**

平成10年５月23日：第１回美術教育実践学会の開催及び出席，平成10年11月14日：第２回美術教育実践学会の開催及び出席

**社会的活動状況**

上越教育大学公開講座講師（「陶芸一型を使って皿と壺を作る」），上越市マイスター制度選定委員（上越市），上越教育大学講堂レリーフ制作（共同製作），上越教育大学創立20周年記念事業・美術講座企画-造形活動ワークショップ「子どもが世界をつくる」-の企画・実施

**洞　谷　亜里佐**（助教授）　※附属実技教育研究指導センター

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

日本画の支持体と顔料の素材研究を基に制作を行った。今年度は，特に墨と顔料の相乗効果を狙った独自の空間表現を試み作品を発表した。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

演習Ｉでは，ものを見ること，対象と対話することからの写生描写を重点において，日本画の素材による表現方法を行った。絵画制作，絵画実習では素材を生かした独創的な絵画表現へと発展させ大作での自由制作を行った。日本画研究Ｉ・IIでは，古典作品の模写を通して，東洋的な造形思考を追求し，独自の絵画制作の組み立てを行った。

**研究成果の発表状況**

作】平成10年４月：『あやめ』（F10号）他６点日本画　３人展　フカミ美術，平成10年５月：『風を呼ぶ』（F20号）日本画　第14回愛松会　銀座松坂屋画廊　名古屋に巡回，平成10年８月：『幻奏譜』（150.0×130.5cm）墨彩画　第２回総社墨彩画展'98　岡山天満屋画廊，平成10年８月：『凍蓮』（F30号）墨彩画　現代•墨への挑戦'98　愛知県美術館，平成10年８月：『アッシジ』（F30号）フレスコ画他７点　ギャラリー妙，平成11年１月：『暁鐘』（F30号）日本画　うづら会　日本橋三越ギャラリー

**社会的活動状況**

上越市美術展覧会運営委員，新井市美術展覧会審査員

**小　谷　　充**（助　手）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

エディトリアルデザインのプロセスに関する研究を継続して行っている。本年度は，コンピュータ上での画像処理に加えて，印刷する際の特殊インクの選択などによる効果について検討した。これらの処理は，上越教育大学20周年記念事業のポスター等に展開した。また，コンピュータ関連機器の解説書が使用者にとって読み難いものであるという現状から，頁割りや頁の情報量，画像，造本装丁等について検討し，作品に展開した。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

図法は，従来の幾何形態作図法に加え，ロットリングを使用したプレゼンテーション及び博物図画のコラージュによる空間認識に視点をおいた。学生の技術的負担を軽減するために烏口からロットリングへ道具の変更を行ったが，今後課題が残る。デザイン演習では，写真実習，レタリング，タイポグラフィ，画像処理を

行った。視覚デザイン研究では，空間認識が形態同士の関係性によって生じるという基盤に立ち，タイポグラフィを中心に書籍の制作を行った。

**研究成果の発表状況**

作】平成10年４月：『入学者配布用手提げ紙袋』グラフィックデザイン　クライアント：上越教育大学，平成10年６月：『大学概要』編集デザイン　発行：上越教育大学，平成10年９月：『学園だより No.6』編集デザイン及び表紙写真　発行：上越教育大学10年10月：『上越教育大学創立20周年記念ペーパーウエイト』グラフィックデザイン　クライアント：上越教育大学，平成10年10月：『上越教育大学創立20周年記念事業ポスター及びチラシ』グラフィックデザイン　クライアント：上越教育大学，平成10年10月：『上越教育大学創立20周年記念手提げ紙袋』グラフィックデザイン　クライアント：上越教育大学，平成10年10月：『上越教育大学創立20周年記念文化講演会ポスター』グラフィックデザイン　クライアント：上越教育大学，平成10年10月：『上越教育大学創立20周年記念音楽演奏会ポスター及びチラシ』グラフィックデザイン　クライアント：上越教育大学芸術系音楽，平成10年10月：『大学院だより No.49』フォーマットデザイン　発行：上越教育大学，平成10年11月：『マルチパス B-10の羅針盤』造本及び装丁　発行：キヤノン株式会社／キヤノン販売株式会社，平成11年１月：『上越教育大学美術教育研究誌　美と育』編集デザイン　発行：上越教育大学芸術系美術，平成11年３月：『学園だより No.7』編集デザイン及び表紙写真　発行：上越教育大学

**学会活動への参加状況**

平成11年３月25日～27日：第21回美術科教育学会福島大会に参加した。

**社会的活動状況**

上越市広報ビデオの制作に，上越市まちづくり推進課の依頼により，アドバイザーとして参加した。

## 佐　藤　賢　司（助　手）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

染色（蠟防染による後染）の作品制作を継続して行っている。特に本年は和紙を素材とした平面作品と，照明を用いた作品を，個展などで発表した。またもう一つの研究テーマである工芸概念と工芸教育の再考については，中学校における造形思考の在り方，及び民芸にまつわる近代的工芸概念の諸問題について，それぞれ実践研究，論文発表を行った。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

＜図画工作Ａ＞＜同Ｃ＞（分担担当），及び＜工芸基礎＞（岩手大学•非常勤）では，従来の固定的価値観に捕らわれない造形教育の在り方について，素材から発想する実制作を通して理解を深めるよう努めた。＜工芸理論＞（分担担当）では，近年の研究成果である近代工芸概念の変遷について，具体的な作品を通して理解を深めるよう取り組み，＜工芸理論＞（岩手大学・非常勤）では，近代工芸史の通説の抜本的再考のため，様々な工芸思想の批判的検証に取り組んだ。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年９月：「工芸概念の再考と工芸教育（II）-近代批判を内在させた近代思想としての民芸-」（単著）上越教育大学研究紀要第18巻第１号　pp377-388，平成11年２月：「方法-行為としての染め」（単著）『工作工芸 No5』美術科教育学会工作工芸領域部会　pp2-5

作】平成10年８月：「WORKS ON PAPER '98」他25点　個展　盛岡クリスタル画廊，平成10年８月：「蒔蠟染風炉先屏風」「染あかり」他20点　個展『染め-あかりとびょうぶ』　大丸東京店ギャラリーてん，平成10年10月：「WORKS ON PAPER '98 -PLATE-」他１点　『第10回 TEXTILE 展』　盛岡第一書店ギャ

ラリー

**共同研究の実施状況**

「つくること表すことによる［生きる力］としての学びの基礎理論の構築と教育の体系化」 代表者：西野範夫　科学研究費補助金，「教育課程における教育内容•方法の開発研究」　代表者　渡邊隆　文部省教育助成局嘱託

**学会活動への参加状況**

平成10年５月23日：第１回美術教育実践学会出席，平成10年10月８日～９日：第37回大学美術教育学会滋賀大会出席，平成10年11月14日：第２回美術教育実践学会出席，平成11年３月26日～27日：第21回美術科教育学会副島大会出席

**社会的活動状況**

平成10年９月：新潟県立教育センター平成10年度中学校美術科実践講座　講師

**＜生活・健康系教育講座（体育）＞**

**今　泉　和　彦（教 授）**

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

骨格筋の可塑性とその調節機構およびエタノール代謝の内分泌調節に関する研究を行っている。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

担当の授業では最近の研究成果を多数加え，生理学や運動生理学をより理解できるよう工夫した。

**研究成果の発表状況**

著】１）平成10年７月：『最新運動生理科学実験法－分子•細胞•組織レベルからのアプローチー』（共編著），大修館書店・東京，２）平成10年８月：『The 1997 Nagano Symposium on Sports Sciences』（Edited by Nose, H. , Nadel, E.R. and Morimoto, T. ), Cooper Publishing Company, USA（分担執筆），３）平成10年９月：『呼吸―運動に対する応答とトレーニング 効果』（宮村美晴他編集），NAP 出版 •東京（分担執筆），４）平成10年10月：『活性酸素と運動』（大野秀樹編集），杏林書院•東京（分担執筆），５）平成10年10月：運動生理・生化学辞典（Field editor），印刷中　大修館書店 ・東京

論】１）Effect of sex hormones on rat liver cytosolic alcohol dehydrogenase activity（共著） Journal of Nutritional Science and Vitaminology, 44(5)：625-639（1998），２）スポーツ活動と赤血球機能（共著）臨床スポーツ医学 15(12)：1333-1338（1998），３）水中運動と血液粘度（共著），日本医事新報　3912, pp. 115-116（1999）

業】１）Ethanol and isoniazid-induced changes of cytochrome P450 2E1 in liver microsomes of rats（共）Japanese Journal of Physiology 48（Supplement): S211（1998），２）Sex-difference of cytochrome P450 2E1 contents in liver microsomes of rats（共), Japanese Journal of Physiology 48（Supplement): S211（1998），３）ラット肝臓内 alcohol dehydrogenase と aldehyde dehydrogenase の活性は下垂体除去で上昇し，dexamethasone 投与で低下する（共），第76回日本生理学会予稿集 p.164（1999），４）ラット骨格筋と内臓サイズに及ぼす下垂体除去および dexamethasone 投与の影響（共），第76回日本生理学会予稿集 p. 167（1999），５）ラット肝臓 cytosol 内 alcohol dehydrogenase 活性の性差の出現時期とその機構（共），体力科学 47(6)：857（1998），６）ラット肝臓 cytosol 内 alcohol dehydrogenase 活性に及ぼす下垂体除去の影響（共），体力科学 47(6)：857（1998）

**共同研究の実施状況**

1）グルココルチコイドによる骨格筋容積の可塑的変化とその分子機構，代表者：今泉和彦，平成８～９年度科学研究費補助金（基盤研究(B)）研究成果報告書 pp.1-75（1998），２）中枢神経系による肝臓のエタノール分解の調節作用―脳下垂体の関与―，代表者：今泉和彦，平成10年度学長裁量経費による研究プロジェクト報告書（1999）

**学会活動への参加状況**

９月28日～10月１日：第53回日本体力医学会出席，３月27日～３月30日：第76回日本生理学会出席，他

**社会的活動状況**

１）GSSI Sports Science Network Forum in Nagano 1999（於軽井沢プリンスホテル）国際シンポジウムの副実行委員長として開催の準備，委員・招待者・発表者の人選・交渉など，２）愛媛大学医学部における学術招待講演，３）国内・国外学術雑誌の査読者として活動，４）日本運動生理学会理事として活動，等。

## 太　田　昌　秀（教　授）

**現在の研究状況**

① 専門分野の研究状況

運動形態発生に関する研究を継続して行っている。今年度は特に遊びからスポーツへの運動発生論について検討を行った。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

器械運動の跳び箱運動において，つばさ式跳び箱を考案し，授業実践に役立つ研究を行った。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年６月：「一輪車の伝承論」（共著）スポーツ運動実践研究第61号　pp.1～16　日本スポーツモルフォロギー学会，平成10年６月：「スポーツ運動の学習転移に関する研究」（共著）スポーツ運動実践研究第61号 pp.36～51　日本スポーツモルフォロギー学会，平成10年６月：「倒立運動の形態発生的指導方法論」（共著）スポーツモルフォロギー研究第４号　pp.80～97　日本スポーツモルフォロギー学会，平成10年11月：「運動の形態発生に基づく指導に関する一考察（跳び箱運動の場合）」（共著）新潟体育研究第16号　pp.19～25 新潟体育学会

業】平成10年４月：「器械運動の必要性」（単著）教課審中間まとめ体育改善案の検討　pp.45～48　明治図書，平成10年12月：「運動の学び方をどう指導するか」（単著）新教育課程でこう変る体育保健授業　pp.96～97 明治図書，平成11年３月：「中学校において体育，健康に関する指導の充実をどう図るか」（単著）教職研究 pp.40～41　教育開発研究所

発】平成10年10月：「投運動における運動発生形態をもとにした伝承論―あそびから投運動へ―（共）第49回大会号 p.540　日本体育学会，平成10年10月：「前方倒立回転とびに関する運動形態学的研究」（共著）　第49回大会号 p.546　日本体育学会

**社会的活動状況**

平成10年10月：「文部省体力つくり推進校」研究発表会講師　演題「遊びからスポーツへの発展」　福井県三国町立三国小学校，平成11年２月：「器械運動を通して子供たちがすぐに学習の向上を図れる運動理論及び実践」　平成10年度東京都板橋区体育部管外研修講師　於：上越教育大学

**砥 堀 雅 信**（教　授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

健康意欲と行動，体型と運動能力，小•中学校保健学習教材の開発，等について調査と研究を継続して行っている。今年度は，特に青年期の女性の痩身願望と健康観及び幼児期の体型と遊び内容について分析・検討を行った。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

学部の講義では，視聴覚機器を活用して講義内容の理解を深める工夫をした。大学院の講義では，理論から実践への問題解決を課題として内容を精選し，理解を深める工夫をした。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年９月：「成人女子における運動時皮膚温の部位差について」（共著）上越教育大学研究紀要　第18巻第１号　pp.389-395，平成11年３月：「若者とアルコールについて～本学学生の実態調査を参考にして～」（共著）保健管理センター年報第７号

**学会活動への参加状況**

11月21日～22日：第45回日本学校保健学会出席

**社会的活動状況**

いきいき県民カレッジ企画委員（新潟県）

**長 澤 靖 夫**（教　授）　※附属実技教育研究指導センター

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

スポーツの動きの発生を考えた指導技術の研究を継続している。特に滑走運動の技術の抽出を試み，滑走運動の技術構造を再検討した。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

スポーツ運動学特論の授業では，最近の研究成果および体育・スポーツ現場での問題点を取り上げた内容構成を研究し，運動観察法演習の授業での運動技術構造の見直しの理解を深める工夫を行った。

学部の授業では，動きの指導者としての考え方を見直すために，基本的な運動観察を中心に内容展開をした。

**学会活動への参加状況**

８月22日～23日：スポーツモルフォロギー学会出席，10月５日～７日：日本体育学会出席，11月14日～15日：KJ法学会出席

**社会的活動状況**

日本体育学会評議員，体操競技研究会論文審査委員，スポーツモルフォロギー学会論文審査委員

**三 浦 望 慶**（教　授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

身体運動における動作の習熟と指導及び体力科学に関する研究を継続して行っている。今年度は特にスキーにおける荷重位置の分析と指導およびジュニア・スキー選手の体力について分析・検討を行った。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

バイオメカニクスの講義では，我々の研究を含む最近の研究成果を取り込んで内容構成を研究し，結果の図をOHPや資料に作成し，学生の理解を深める工夫を行った。スキー実習の授業ではスキーのバイオメカニクス研究及び安全に関する研究成果を取り込んだ内容構成を研究し，指導した。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年4月：「スキー斜滑降と山まわりターンにおける荷重位置の分析と指導」（共著） 日本スキー学会誌 pp.143-151，平成10年8月：「Analysis of Stable Movement during Ski Turn over the Bumps」（共著） Proceedings of International Meeting of Sports Science Commemorating the 1998 Winter Olympics in Nagano pp.81-86

発】平成10年10月：「スノースポーツにおける安全対策について」（共） 日本スキー学会第9回大会発表，平成10年10月：「ジュニア・クロスカントリースキー選手の体力とトレーニング強度」（共） 同上

他】平成10年4月：「Ski Teaching to Biginners and Intermediate Students on the Basis of Biomechanical Principles」 Newsletter des Internationalen Verbandes Skilauf an Schulen und Hochschulen pp.26-28，平成10年12月：「全日本スキー連盟教育本部オフィシャルブック」編集役員，平成11年1月：「日本スキー教程」編集役員

**学会活動への参加状況**

6月13日～14日：冬季スポーツ科学研究フォーラム開催運営，9月24日～26日：第14回日本バイオメカニクス学会出席，10月5日～7日：日本体育学会第49回大会出席，10月24日～26日：日本スキー学会第9回大会出席

**社会的活動状況**

日本スキー学会副会長，日本体力医学会評議員，冬季スポーツ科学研究フォーラム運営委員，新潟県スポーツ振興審議会委員(新潟県)，全日本スキー連盟教育本部学校体育スキー専門委員会委員長，新潟県スキー連盟理事，国立磐梯青年の家主催事業講師，A Member of Steering Group for Winter Sports (UNESCO)

## 山　本　　保（教　授）　※保健管理センター

**現在の研究状況**

① 専門分野の研究状況

ヘルスプロモーションに関する研究を継続して行っている。今年度は，特に生活習慣病の予防とヘルスプロモーションについて考究した。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

生活習慣病の予防には，二次予防もさることながら一次予防，すなわちヘルスプロモーションが最も重要である。ヘルスプロモーションは，従来の健康教育と異なり，個人のライフスタイルとともに環境を重視する。環境には，社会的次元，政治的次元，経済的次元等を考慮しなければならない。21世紀への政策的健康科学の重要性を強調し，具体的な実践的課題について説いた。

**学会活動への参加状況**

3月30日～4月1日：第38回日本呼吸器学会総会出席，4月16日～17日：第73回日本結核病学会総会出席，7月24日～25日：第36回全国大学保健管理協会関東甲信越地方部会出席，11月25日～26日：第36回全国大学保健管理研究集会出席

**社会的活動状況**

新潟県看護協会訪問看護婦養成講習会講師，上越市介護保険事業計画策定委員会委員長，生活習慣病予防週間特別講演

**市　川　真　澄**（助教授）　※附属実技教育研究指導センター

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

a．ヒトの姿勢制御に関する視覚関与の研究を行っている。視運動刺激に対する姿勢応答から運動能力評価を行う方法を開発するために必要な基礎的研究を継続的に行った。

b．起立負荷時の心拍過渡応答に関する研究。本年度は，自分自身の意思で起立する場合と，他動的に仰臥位から立位へと姿勢変換した場合の循環応答を，自律神経の指標のひとつである心拍応答から検討した。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

本年度は，基礎情報処理演習を担当した。事前に，小学校および中学校の情報処理機器導入の現状や，実際の情報処理に関する教育法について視察および研究を行った。実際の授業においては，将来教師になってから，直ちに情報処理関係の授業が担当できるような，実践的な授業内容を設定し，実践した。また，大学院の授業である運動方法学Ｂ（陸上競技）および学部の授業である運動方法学II（陸上競技）の授業において，力発揮の段階分け（grading）の考え方を導入する試みを昨年に引き続き行った。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年８月：「剣道の面打突時における打撃部位の高さが間合いと左足足底力に及ぼす影響」（共著）武道学研究，第31巻１号，PP.38-48

発】平成10年９月：「視運動刺激による自己運動感覚が姿勢調節系に与える影響」（共）　第53回日本体力医学会大会，平成10年９月：「スプリント走中のラットヒラメ筋•長指伸筋内での各錘内筋線維の動員様式」（共）第53回日本体力医学会大会

**学会活動への参加状況**

平成10年９月16～18日：第52回日本体力医学会大会出席，平成10年11月15日：日本教育実践学会第１回研究大会出席

**社会的活動状況**

愛知県スキー連盟専門委員(愛知県)，全本日本スキー連盟公認指導員として基礎スキーの普及および指導を行う，日本陸上競技連盟公認審判員として各種陸上競技大会の審判を行う。

**伊　藤　政　展**（助教授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

認知と反応を仲介する動作の準備過程（反応プログラミング過程）に関する研究を継続して行っている。今年度は，特に，高速反復動作において観察されるrepetition効果の主たる原因が，反応プログラミング過程の処理のスピードアップにあるか否かについて分析・検討を行った。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

体育心理学，体育心理学特論の授業では，文脈干渉と要約フィードバックの相互作用，付加的フィードバックの最適頻度等の運動学習における最新の理論と研究成果を取り込み，体育・スポーツの指導における付加的フィードバックの効用と限界について問い直す努力をした。

**研究成果の発表状況**

著】平成10年11月：『コーチングの心理　Q&A』（共著）　不昧堂出版

論】平成10年６月受理：Imagined movement and response programming.（単著）*Journal of Mental Imagery*（USA），平成11年３月受理：Relation of repetition effect and response programming in a speeded

choice task.（単著）*Perceptual and Motor Skills*（USA）

**学会活動への参加状況**

11月12日～13日：日本スポーツ心理学会第25回大会出席

**社会的活動状況**

日本スポーツ心理学会理事（編集委員長），日本体育学会評議員，日本体育協会認定講習会心理学部門講師，日本体育協会Ｃ級コーチ養成講習会講師（『スポーツ心理学』を講義），長野県体育協会スポーツ指導者養成講習会講師（『スポーツ心理学』を講義）

**加　藤　泰　樹**（助教授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

体育授業の存在論に関する研究を継続して行っている。今年度は，特に運動学習時における「身体への目覚め」を促すための新しい方法論の開発を行った。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

「体育学研究法」の授業では，現職院生たちが研究活動へスムーズに移行できるような内容構成を工夫し，自己認識や自己開示に関わる演習を組み込みながら行った。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年６月：『内部感覚に着目したインラインスケートの指導法』（共著）　スポーツ運動・実践研究　日本スポーツモルフォロギー学会　61号　pp.17-35

発】平成10年10月：『教科体育の原理を考える―教科内容の観点から』（単）　日本体育学会第49回大会　体育原理専門分科会シンポジウムＢ　シンポジスト

**学会活動への参加状況**

８月17日～19日：日本体育・スポーツ哲学会第20会大会出席，10月５日～７日：日本体育学会第49会大会出席

**社会的活動状況**

日本体育・スポーツ哲学会理事長，リフレッシュビレッジ推進部会部会長（上越市），上越バイシクル協会会長

**榊　原　　潔**（助教授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

サッカーの技能発達とゲーム様相の関連について，小学生を対象に縦断的研究を行っている。今年度は，もう一度基本的概念を整理するために技能の捉え方について検討を行った。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

大学院「運動方法学演習Ｃ」，学部「体育実技Ａ」，「運動方法学Ⅲ」の授業において，サッカー発生当時のゲーム及びルール制定当時のゲームの実践によって，サッカーの特性理解に役立てようとした。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年９月：『成人女子における運動時皮膚温の部位差について』（共著）　上越教育大学研究紀要　pp.389-395，平成11年３月：『球技における戦術的行動についての研究(1)―サッカーのサポートについて―（共著）　上越教育大学研究紀要　pp.767-776

作】平成10年12月：上越教育大学女子サッカー部監督として７年連続全国大会出場　第７回全日本大学女子サッカー選手権大会　神戸総合運動公園ユニバー記念補助競技場

**社会的活動状況**

高齢者スポーツ指導者講習会講師（新潟県教育委員会），全日本大学サッカー連盟理事，公認少年•少女指導員養成講習会講師（新潟県サッカー協会）

**清　水　富　弘**（助教授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

「水治療法・水中運動療法」に関する研究を継続している。今年度は，特に中高年の水中歩行の効果についての実験・検討を行った。また，小学生および成人を対象とした水泳技能の習熟過程に関する研究を検討した。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

「運動方法学演習（水泳）」では，最近の研究成果である水中歩行時および着衣泳運動時における体温変動を含めた内容構成を研究し，さらに授業では環境体験を伴った実習を加え，学習者の理解を深める工夫を行った。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年８月：『海水塩類濃度が温浴時の体温変動に及ぼす影響』（共著）　日本温泉気候物理医学会雑誌第61巻第４号　pp.195-201，平成10年11月：『Thermoregulatory responses during prolonged walking in water at 25℃，30℃ and 35℃』（共著）European Journal of Applied Physiology vol.78　pp.473-478，平成11年１月：『Development of Ergometer Attachment for Power and Maximum Anaerobic Power Measurement in Swimming』（共著）Applied Human Science Journal of Physical Anthropology Vol.18，pp.13-21。平成11年３月：『水中運動を実施している中高年女性の体力，血液および骨密度』（共著）健康科学第21巻　pp.1-6

作】平成10年９月：『第53回国民体育大会』新潟県選手団コーチング・スタッフ　神奈川県相模原市立総合水泳場

発】平成10年７月：『海水含有成分が温浴時の体温変動に及ぼす影響』（共）　㈶ソルト•サイエンス研究財団第10回助成発表会　研究発表，平成11年１月：『海水温浴における塩類濃度が心拍応答に与える影響』（共）第37回日本生気象学会大会　研究発表

他】新聞連載『自然療法サイエンス（新潟日報・毎水曜日）』（新潟日報社）

**共同研究の実施状況**

高齢者を対象とした水中歩行の運動処方に関する縦断的研究　代表者：清水富弘（上越教育大学）　藤島和孝（九州大学教授）他10名＜平成10年度科学研究費補助金基盤研究(B)(1)＜課題番号09680095＞，新潟県内ジュニア水泳選手の測定評価　代表者：清水富弘（上越教育大学）他８名

**国際研究プロジェクトへの参加状況**

自然療法および水中運動処方に関する研究　代表者：クラインシュミット（ドイツミュンヘン大学教授）他４名

**学会活動への参加状況**

平成10年９月16～18日：第53回日本体力医学会大会出席

**社会的活動状況**

文部省認定・日本体育協会公認Ａ級スポーツ指導者養成講習会講師（日本体育協会），㈶日本水泳連盟競技力向上コーチ委員会委員（日本水泳連盟），平成10年度新潟県教育庁青少年野外体験事業「自然学習村」実行委員会委員（新潟県教育委員会），平成10年度新潟県教育庁上越教育事務所事業「婦人スポーツ指導者講習会」講師（新潟県教育委員会），平成10年度上越教育大学公開講座「シェイプアップ・アクアフィットネス」講師（上越教育大学），平成10年度「健康増進指導事業」講師（新潟県上越保健所）

**直　原　　幹**（助教授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

現代武道の構え，姿勢および体さばきの運動構造と機能に関する研究を継続して行っている。今年度は特に言語指示と構え姿勢の関係や正中線意識の有無が姿勢調節に及ぼす影響について分析・検討を行った。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

運動方法学および運動方法学演習（武道）において，古流剣術にみられる対人的運動構造が現代武道の技術に及ぼした影響について理解できるようさらに工夫した。今年度は，特に間合と入り身に力点をおき理論理解と実践を試みた。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年８月：「剣道の面打撃時における打撃部位の高さが間合と左足足底力に及ぼす影響」（共著）武道学研究 pp.38-48，平成10年12月：「剣道高齢者の骨量に関する研究」（共著）武道学研究 pp.20-29

発】平成10年９月：「剣道具規格化のための身体形態計測調査研究」（共）第31回日本武道学会 研究発表，平成10年９月：「視運動刺激による自己運動感覚が姿勢調節系に与える影響」（共）第53回日本体力医学会 研究発表

**学会活動への参加状況**

９月４～５日：第31回日本武道学会出席，９月16～18日：第53回日本体力医学会出席

**国内外の学術賞の受賞状況**

９月４日：平成９年度優秀論文賞受賞（日本武道学会）「剣道における足構えと重心動揺の解析」

**社会的活動状況**

北信越学生剣道連盟評議員，日本武道学会評議員，全日本女子学生剣道優勝大会審判員（全日本学生剣道連盟），全日本学生剣道オープン大会審判員（全日本学生剣道連盟），全国教育系大学剣道ゼミナール講師（全国教育系大学学部剣道連盟），上越市健康つくり体操教室講師（上越市），上越市初心者剣道教室講師（上越市），新潟県夏季剣道講習会講師（新潟県剣道連盟）

**窪　田　奈希左**（助　手）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

「舞踊」概念について継続的に研究している。本年度は特に，「舞踊譜の自律性」の問題に焦点を当てて考察を進めた。

また，一昨年のシンポジウム，昨年の一般発表に続いて，「エアロビクスのレッスン」についても考察を進めた。その際には，ムーブメントとエクササイズの視点から，問題を検討した。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

1）「体育実技B（表現運動）」「運動方法学V（ダンス）」では，身体の形と動きの形を主体的に体験する課題を設定した。特にそのなかで，身体の気づきを重視した。また，「体育C(ダンス)」では，動きの質を追求する課題を設定した。

2）「マリンスポーツ実習」・「マウンテンスポーツ実習」・「野外運動A（クロカン・アルペンスキー実習）」の指導補助を行った。

**研究成果の発表状況**

作】平成10年6月：新潟県高校ダンスフェスティバル　創作コンクール部門審査員，12月：全国創作舞踊研究発表会　指導作品『無所属恐怖症』発表

発】平成10年8月：「エアロビクスのレッスンに関する考察―エクササイズとムーブメントをめぐって―」(単)日本体育・スポーツ哲学会　第20回大会研究発表，8月：「初心者向き動きのエクササイズ」(単)　「エアロビクスのレッスンの可能性―その形態に着目して―」(単)　日本スポーツモルフォロギー学会　実技研修会，10月：「舞踊における作品に関する考察―舞踊譜の自律性をめぐって―」(単)　日本体育学会第49回大会　研究発表

他】平成11年1月　筑波大学大学院　体育科学研究科　博士論文報告会II（研究計画段階）　合格

**学会活動への参加状況**

8月17～19日：日本体育・スポーツ哲学会第20回大会　出席，8月22・23日：日本スポーツモルフォロギー学会　実技研修会　出席，10月7～9日：日本体育学会第49回大会　出席，10月24・25日：ソーマ研究会　出席，12月19・20日：日本教育大学協会全国保健体育・保健部門　第18回全国創作j舞踊研究発表会　出席

**社会的活動状況**

附属中学校および新井中学校において，PTAを対象にエアロビクスの指導を行った。

## 土　田　了　輔（助　手）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

スポーツ・ルール（特に球技）に関する研究並びに運動選手の視野に関する研究を継続して行っている。今年度は特に球技選手の技術獲得と視野の発達についての検討を行った。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

体育実技Aの授業では，子供の世界観形成に果たす球技教育の役割等を取り込んで内容構成をし，各種パス技術等の獲得に関する内容の理解を深める工夫を行った。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年9月：『成人女子における運動時皮膚温の部位差について』(共著)上越教育大学研究紀要　pp.389-394，平成11年1月：『バスケットボールの技術獲得と生きる力』(単著)体育思想研究第4号　pp.129-137

作】平成10年7月：『全国男子学生選抜大会北信越地区選抜チーム・アシスタントコーチ』守口市

発】平成10年8月：『バスケットボールの技能獲得と視野の広がり』(単)日本体育・スポーツ哲学会第20回記念大会シンポジウム　発表

**学会活動への参加状況**

8月17日～19日：日本体育・スポーツ哲学会出席，10月5日～7日：日本体育学会出席

**社会的活動状況**

北信越学生バスケットボール連盟理事，甲信越学生バスケットボール連盟理事，長岡科学技術大学課外活動リーダーズ研修講師，長岡科学技術大学特別講演講師(『これからの大学体育について～客観知と実践知の統合

～』を講演）

＜生活・健康系教育講座（技術）＞

石　田　文　彦（教　授）

現在の研究状況

①　専門分野の研究状況

日本近代技術史・技術教育史に関する研究を継続して行っており，技術教育史に関する論文４件を学会誌に掲載した。本年度から科学技術に関する日中関係史の研究を開始し，戦前に理・工学を専攻した中国人留日学生を，約30の留学機関の卒業者名簿等を基に約1400人リストアップし，統計的処理及び個別追跡調査の両面から研究を進めている。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

大学院の「技術史持論」の授業では，中国人留学生の希望を取り入れ，中国の近代科学技術史に関する文献を講読した。２人の留学生を研究指導しているが，日本語の読解・作文教育を各人のレベルに合せて行った。学部の「金属加工法」の授業では，講義と実習から成る構成にし，前者ではレポート，後者では製作品の提出を頻繁に求め，授業内容の定着を心がけた。

研究成果の発表状況

論】平成10年５月：『棚橋源太郎と手工教育―棚橋の手工教育における活動―』（共著）　日本産業技術教育学会誌　第40巻第２号　pp.71-79，平成10年８月：『棚橋源太郎と手工教育―「手工科教授書」の執筆分担と手工教育史上における評価―』（共著）　日本産業技術教育学会誌第40巻第３号　pp.131-137，平成10年11月：『棚橋源太郎と手工教育―棚橋の手工教育理論―』（共著）　日本産業技術教育学会誌　第40巻第４号　pp.189-194，平成11年３月：『棚橋源太郎と手工教育―棚橋が手工教育に傾斜した背景―』（共著）　日本産業技術教育学会誌　第41巻第１号　pp.1-8

発】平成10年５月：『明治前期中等技術教育の萌芽(1)―新潟学校百工化学科の創設―』（共）　日本科学史学会第45回年会，平成10年５月：『明治前期中等技術教育の萌芽(2)―新潟学校百工化学科の挫折』（共）日本科学史学会第45回年会，平成10年10月：『技術史に関する修士論文の指導』（単）　技術史教育学会1998年度全国大会

学会活動への参加状況

５月30日～31日：日本科学史学会第45回年会出席，10月31日：技術史教育学会1998年度全国大会出席，３月29日～３月31日：日本金属学会1999年春期大会出席

川　崎　直　哉（教　授）

現在の研究状況

①　専門分野の研究状況

制御理論及びその応用に関して研究中。特に極配置問題を中心とした線形制御系のロバスト安定化設計問題や双線形システムの安定化問題などについて検討している。前者については，$H_\infty$制御問題を用いたロバスト安定な極配置法を中心に検討しており，また後者については，観測器を含む双線形システムの出力レギュレータ問題を中心に検討している。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

制御理論の応用および実例も兼ねて，コンピュータで制御を行なう制御機器の製作および制御教育用教材の開発も行っている。教育系大学においても比較的簡単に製作・利用できるように安価な入手しやすい材料

を用いて製作を行い，学部および大学院の授業で活用をはかっている。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年４月：『むだ時間による漸近的極配置』（共著）　電気学会論文誌Ｃ　Vol.118　pp.615-616

**学会活動への参加状況**

電気学会論文集委員会幹事，電気学会編修委員会委員

川　島　章　弘（教　授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

マルチメディアデータベースの構築と新手法に関する研究を継続して行っている。今年度は，特に音について検討を行った。また，地理情報システムARC／INFOを使っての都市設計を行い，具体的提案を行った。そして映像教材の様式の検討と製作も行った。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

「電子工学概論及び演習」の授業では，生徒の完全理解を狙って新規テキストの採用，多量の問題を解答するホームワークの添削を徹底して行った。

**研究成果の発表状況**

論】平成11年３月：『上越地域の教育ネットワークの構築』（共著）上越教育大学研究紀要第18巻　第２号　pp.777-788

作】平成10年10月：『漢字筆順教材』『表紙画像入り書籍データベース』本学20周年記念展示・公開

発】平成10年７月：『小型ロボットSTIQUITO』（単）　『デジタイザによる年輪の計測』（共）日本産業技術教育学会第41回全国大会，平成10年11月：『地理情報システムソフトウェアARC/INFOの活用例』（共）日本産業技術教育学会第12回北陸支部大会，平成10年12月：『地理情報システムソフトウェアARC／INFOの利用』（共）　『看護教育における情報教育とその演習』（共）第２回上越教育大学技術科研究会

他】平成11年３月：『ケニアに高電圧実験室を作る』（単）'99.2海外技術協力NIIGATANo.4新潟県JICA帰国専門家連絡会　pp.4-8

**学会活動への参加状況**

平成10年７月30日～７月31日：日本産業技術教育学会第41回全国大会出席，平成10年11月14日：日本産業技術教育学会第12回北陸支部大会出席，平成11年２月22日：IEEE-DEIS Tokyo Chapter　出席，平成11年３月９日：第123回高電圧技術研究会出席（シニア会員）

**社会的活動状況**

上越テレトビア推進協議会委員，上越テレトビア計画推進委員会委員長，上越市中小企業開発等支援資金融資委員会委員長，上越CATV情報ハイウェイ実験協議会会長，上越教育ネットワーク研究会会長，在宅看護研究会会員（設立提案者），平成10年６月26日：北信越技術教育研究会（工業高校）　『上越の教育ネットワーク』を講演　於国民年金健康センター，平成10年９月10日：越後春日山ロータリークラブ例会　『情報とは』を講演　於プラザホテル，平成10年６月：第１回上越教育大学技術科研究会開催，平成10年12月：第２回上越教育大学技術科研究会開催，日本産業技術教育学会編集委員　北陸支部理事

平　田　晴　路（助教授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

以前より行ってきた手びきのこぎりに関する研究を『手びきのこぎりびきに関する研究』としてまとめ，博士（農学）の学位を取得した。また，『パソコンを利用した木材粗さ計開発と技術・家庭科の授業のおける適用について―その２―』と題した研究を本学教官と共同で行い，中学生でも容易に扱える木材用粗さ計を開発し，その効果を確かめた。なお，平成８年に特許出願していた『木材用携帯型ブリネル硬さ計』が特許登録された。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

大学院の技術科教育方法特論，技術科教育教材分析演習の授業では，実践に直接関係して役立ち，具体的な内容となるよう，鋭意心がけた。

学部の木材加工法Ⅰ，Ⅱの授業では，学生が中学校に技術科教師として就職したときに実際に役立つよう，技術・家庭科に直接関係する指導内容とし，また，特にその基礎に重点を置いて指導した。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年６月：『手びきのこぎりびきに関する研究』（単著）東京大学博士論文　全102頁

発】平成10年７月：『デジタイザによる年輪の計測』（共）日本産業技術教育学会第41回全国大会　研究発表，平成10年12月：『木材用携帯型ブリネル硬さ計』（単）第２回上越教育大学技術科研究会　研究発表

他】６月22日：博士（農学）（東京大学，第13906号）の学位を取得，11月20日：特許登録（日本国特許庁，第2853029号）『木材用携帯型ブリネル硬さ計』

**学会活動への参加状況**

７月30日～31日：日本産業技術教育学会第41回全国大会出席

**社会的活動状況**

日本教育大学協会全国技術教育部門全国委員及び常任委員（７月まで），日本産業技術教育学会評議員，平成10年度新潟県免許法認定講習講師（８月19日～22日），上越CATV情報ハイウェイ事業における動画ベースの教育指導書・教材の開発に参加（２・３月）

**山　崎　貞　登**（助教授）

**現在の研究状況**

① 専門分野の研究状況

ア．技術科教育カリキュラムの国際比較研究を継続して行っている。本年度は，特に連合王国のホール・カリキュラム，カナダ・アルバータ州のカリキュラムについて，分析，検討を行った。イ．上越市立直江津中学校，大潟町中学校，全日本中学校技術・家庭科研究会，日本産業技術教育学会課題研究委員会等との共同研究による，技術科教育の学校基盤カリキュラム研究とアクション・リサーチを継続して行っている。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

受講者の主体的な課題解決能力を育成するために，昨年度に続いてポートフォリオ（学習ファイル）学習を導入した。文部省外国人招へい制度で，プライツ教授（カナダ）を平成10年９～11月に本学に招へいした。

**研究成果の発表状況**

著】平成11年１月：『技術における教育課程の柔軟化を図るリーダーシップ』新しい学校を創るリーダーシップNo.5柔軟な教育課程の編成（所収）（分担執筆）　教育開発研究所，平成11年３月：『近代日本の科学技術と教育課題』上越教育大学創立20周年記念出版小委員会（編集）21世紀地球社会と教師教育ビジョン（所収）（分担執筆）教育開発研究所（印刷中）

論】平成11年３月："A comparative study between U.K., Canada and Japan on the structure of problem solving with creative designing and in technology education, Proceedings of International Conference on

Integrated Thinking in Technology in Technology Education, Taitung, Taiwan, pp.83-102, 平成11年：“Linkage between Science, technology and “period for integrated study” in new Japanese national curriculum, International Organization of Science and Technology Education, Durban, South Africa, pp. 719-725

業】平成11年3月：『文部省検定中学校技術・家庭科教科書』（共著）開隆堂

発】平成10年4月：『2002年からの技術教育を創造する』第1回全日本中学校技術・家庭科研究会・日本教育大学協会・日本産業技術教育学会合同研究集会　研究発表，平成10年5月：ホールカリキュラム構想に基づく中学校技術・家庭科の「エネルギー変換活用」学習の教育実践的研究，March,1999: Japanese Technology Teacher Education- An International Perspective, International Technology Education Association 61st Annual Conference, Indianapolis, Indiana, U.S.A., March,1999: Cross Curriculum in Japanese Technology Education, International Technology Education Association 61st Annual Conference, Indianapolis, Indiana, U.S.A.他7件

**共同研究の実施状況**

教員養成大学における教科教育学カリキュラムの開発　代表者：二谷貞夫（上越教育大学教授）科学研究費補助金，上越市立直江津中学校（大岩治教諭）及び大潟町中学校（松風嘉男教諭）とのアクション・リサーチ，人間生活における科学技術観の実態解明に基づいた新しい科学技術観の構築　代表者：長洲南海男（筑波大学教授）日産科学財団研究助成，技術教育課程の基本的枠組み　代表者：橘田紘洋（愛知教育大学教授）日本産業技術教育学会課題研究委員会

**国際研究プロジェクトへの参加状況**

カナダ・アルバータ州と日本の技術教育カリキュラムの国際比較研究　代表者：C. Preitz（平成10年9月～11月文部省外国人招聘教授：アルバータ大学名誉教授），技術教育の推進に関する国際比較研究　代表者：B. Lindsay（スコットランド・ストラスクライド大学），技術教育制度と教師教育の国際比較研究　代表者：T. Wright（アメリカ・ボール州立大学）

**社会的活動状況**

日本産業技術教育学会編集委員，日本科学教育学会編集委員，新潟県技術教育の会，エコトピア上越

## 黎　　子　椰（助教授）

**現在の研究状況**

① 専門分野の研究状況

自動車用エンジンの異常診断に関する研究を継続して行っている。今年度は，特にウェーブレット解析法によるエンジン自動診断のアルゴリズムについて検討した。

また，人間機械協調システムに関する研究を継続して行っている。本年度では，冗長のリンク機構における内力剛性の解析方法を提案し，その有効性と実用性をシミュレーション及び実験により検討した。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

機械実習の授業では，製作した「旋盤のシミュレータ」を取り入れ，安全に機械操作の技術を身に付けさせる工夫を行った。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年10月：『NOx Reduction with EGR in a Diesel Engine Using Emulsified Fuel』（共著）International Fall Fuels and Lubricants Meeting and Exposition, The Society of Automotive Engineers(USA) Technical Paper 982490 pp.1-8, 平成10年12月：『Autonomous Navigation of Mobile Robot in Searching

of Lighting Installation by Using Hierarchical Fuzzy Inference』(共著) Proceedings of The Fifth International Conference on Control, Automation, Robotics and Vision, Vol.2 of 2 pp.1086-1090.

発】平成10年7月：『機械加工学習用旋盤シミュレータの開発』(共)日本産業技術教育大学第41回全国大会　研究発表，平成11年3月：『ハイブリッドメカニズム型工作機械の精度検定法』(共) 日本機械学会第1回生産加工・工作機械部門講演会　研究発表

他】平成10年11月：『物理化学用語にみる中国語と日本語との相違について』(共) 化学教育ジャナル，Vol.2 No.2

**共同研究の実施状況**

『人間との機械的親和性を重視した生活支援ロボティクス』　代表者　川村貞夫（立命館大学教授）　未来開拓事業研究

**学会活動への参加状況**

平成10年7月30～31日：日本産業技術教育大学第41回全国大会出席，平成10年3月31日～平成11年4月1日：日本機械学会第1回生産加工・工作機械部門講演会出席

**国内外の学術賞の受賞状況**

平成10年5月13日：日本舶用機関学会論文賞(日本舶用機関学会)『乳化燃料使用ディゼル機関の燃焼変動に及ぼす水比率の影響』

**社会的活動状況**

日本機械学会北陸支部拠点代表委員

## 大　森　康　正（講　師）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

知識モデリング，教育支援システム，地域IXなどに関する研究を行っている。今年度は特に中学校等を対象にしたプログラミング教育支援システムについての検討，試作システムの開発およびケーブル網を利活用した地域IXについての分析と検討を行った。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

認知科学特論の授業では，最近の研究成果を取り込んで内容構成を研究し，コンピュータにおける知識の構成に関する内容の理解を高める工夫を行った。その他，情報に関する授業では，情報およびコンピュータの基本が理解できるように内容の工夫を行った。

**研究成果の発表状況**

著】平成11年3月：『建築新素材の設計システムとその応用』(共著) 技術書院

発】平成10年7月：『プログラム作成過程に着目したプログラミング教育の支援について』(共)　第41回日本産業技術教育学会全国大会　研究発表，平成10年7月：『情報基礎領域における授業評価システムの開発』(共)　第41回日本産業技術教育学会全国大会　研究発表，平成10年12月：『情報基礎領域における授業評価システムの開発とその評価』(共)日本産業技術教育学会第15回情報分科会　研究発表，平成10年12月：『プログラム作成過程に着目したプログラミング教育支援方法について』(共)日本産業技術教育学会第15回情報分科会　研究発表

**学会活動への参加状況**

7月30日～31日：日本産業技術教育学会第41回全国大会出席，12月12日：日本産業技術教育学会第15回情報分科会出席

**社会的活動状況**

上越市のびやかスクールプロジェクト推進事業(上越市中ノ俣小学校コンピュータ学習講師　5回／年)，上越市立教育センターコンピュータネットワーク研修会講師，先進的教育用ネットワークモデル地域事業モデル地域推進会議委員

**髙　野　浩　志**（講　師）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

物理分野における低次元物性理論の研究を行っている。特に高温超伝導や量子ホール効果に関する基礎理論について温度効果を取り入れたウィルソン繰りこみ群を応用し分析した。

人工知能分野においては分散協調システムの研究を行っている。特にRoboCup(サッカーシュミレーション）に焦点をあてプログラムの構築を行っている。

**研究成果の発表状況**

論】Finite-Temperature Renormalization-Group Study of a Dissipative Gauge Thory with Fermion（共著）Nuclear Physics B[FS] 542（1999）p581-p620

**＜生活・健康系教育講座（家庭）＞**

**大　瀧　ミドリ**（教　授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

「親の保育要求の充足と子どもの保育補償に関する実証的研究（科学研究費補助金)」及び研究室の継続研究である「母子間距離に関する研究（３年目)」,「幼児が情緒的安定を得る過程とその発達的変容（平成10年度教育研究改革•改善プロジェクト経費)」について研究を行った。特に今年度は，一時的保育を利用することで子どもが体験する親からの分離体験が子どもにどのような影響を与えるかを明らかにするため，実験的状況での子どもの行動観察を行い，子どもの情緒的混乱を軽減するための方策について検討した。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

昨年度に引き続き，保育学および児童学特論では,「子どもの権利条約」に明記されている子どもの権利を，子どもの生活環境に保障してゆくための方途及びその必要性を理解し，授業実践化を図ることができる教員を養成するための授業実践を試みた。また，基礎演習（家庭）では，家庭科の主要領域である家族の問題，特に子どもへの関心を喚起するため，投影的手法を使い子どもとの心理的距離を縮める授業実践を試み，この手法の有効性を確認することができた。

本学の20周年記念事業の１つである大学公開に，講座として参加した「１日大学生」と「生活の中のミラクル体験」の企画•運営の責任を果たした。延べ人数200名を超える市民の参加を得た。参加した市民からは，「学ぶ楽しさを知った」「大学が身近に感じられた」「また参加したい」など肯定的な感想が多く寄せられた。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年７月：『Strange-Situation Procedureにおける子どものストレスと母子間距離』（共著）　日本家政学会誌　vol.49 no.7 pp.769-774, 平成10年10月：『ロサンゼルスとの比較にみる日本の父母関係』(共著）国際幼児教育研究　第５号　pp.25-34，平成10年10月：『ロサンゼルスとの比較にみる日本の母親の養育態度』（共著）　国際幼児教育研究　第５号　pp.35-43，平成11年３月：『親の保育要求の充足と子どもの保育補償に関する実証的研究』（単著）　平成８年度～平成10年度科学研究費補助金（基盤研究(C)(2)）研究成果報

告書

**共同研究の実施状況**

母子間距離に関する研究　代表：大瀧ミドリ　これは中塚綾子（大分大学教授）との共同研究である。実験的手法を用いて子どもの情緒的体験を客観化することを試みた。

子育てにおける比較文化的研究　代表者：金崎芙美子（宇都宮大学教授）　日本，アメリカ，中国における子育てに関する比較文化的研究である。日本の子育ての文化的特異性を明らかにすることを目的としたものである。結果の一部は，今年度の国際幼児教育研究に掲載されている。

**学会活動への参加状況**

7月4日・5日：国際幼児教育学会出席

**社会的活動状況**

新潟県上越地区労働協議会公益委員（新潟県），ベビー健康プラザ相談員（上越市）

## 大　山　秀　夫（教　授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

イネ発芽時における糖質代謝とアミノ酸代謝に関する研究を継続して行っている。今年度は，イネ発芽時にみられる培養液のpH低下作用が如何なる代謝産物によって起こるのかを，高速液体クロマトグラフィーを用いて検討した。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

学部「生活の科学」では化学領域を担当し，日常生活は化学物質と化学反応で成り立っていることが理解できるように工夫した。大学院「食物学特論II」では，食品の第3の機能とされる生体調節機能について最新のデータをもとに解説した。

**研究成果の発表状況**

著】平成10年9月：『Detection of proteins binding to the promotor regions DNA using nonradioactive gel-retardation assay』　（共著）　Biosci. Biotech. Biochem.　pp.1812-1814

**学会活動への参加状況**

3月31日～4月3日：日本農芸化学会大会出席，10月14日～17日：日本生化学会大会出席，3月6日：日本栄養・食糧学会関東支部大会出席

## 坂　本　宗　仙（教　授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

「繊維の難燃加工の基礎的研究」（共同研究）を継続して行った。今年度は，特に，繊維の熱分解についてのこれまでの研究をまとめた。また，伝統染織についての調査を行った。この他，学生とともに，高校家庭科教科書被服分野について調査，分析した。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

被服学実験および被服学特別実験改善のための研究（学長裁量経費，共同研究）を行った。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年4月：『綿セルロースの熱分解に及ぼすビニルホスホナートオリゴマー及び$N$—メチロールアクリルアミドのグラフト共重合の影響』（共著）　繊維学会誌　54巻 pp.185-197，平成10年：『Reaction　of

Bromodeoxycellulose』(共著)　ACS Symp. Ser. 688巻　pp.83-93, 平成10年11月：『クロロデオキシセルロースのキューリーポイント熱分解における揮発性生成物』(共著)　繊維学会誌　54巻 pp.597-609, 平成10年12月：『Synthesis and Reduction of Azidodeoxy Derivatives of Chitin』(共著)　Sen'i Gakkaishi 54巻 pp.647-653, 平成11年1月：『日本の繊維加工技術の現状と将来』(単著)　科学と工業　73巻 pp.3-8, 平成11年3月：『アパレル用途進出を可能にしたジュートおよびジュート混用製品の化学加工』(抄訳)　染色加工　47巻 pp.122-124

発】平成10年12月：『Curie-point Pyrolysis of Bromodeoxycellulose』(共)　Int. Symp. Wakayama on Dyeing and Finishing of Textiles　研究発表

**社会的活動状況**

4月：繊維加工研究会第12回研究会講師，8月：新潟県高等学校教育研究会家庭科部会夏季講習会講師，11月：高分子学会北陸支部　ポリマーワークショップ'98　講師，秋田県鹿角市ふるさと大使，国民生活センター原因究明分析・評価委員，繊維学会評議員・同繊維加工研究委員会委員長，学術振興会繊維・高分子機能加工第120委員会委員

## 佐　藤　文　子(教　授)

**現在の研究状況**

① 専門分野の研究状況

家庭科教育における意思決定能力育成に関する研究を継続して行っている。今年度は特に中学生，高校生の意思決定に関わる価値意識について，日々の生活における認識と行動の側面から検討を試みた。また，家庭科男女共修•共学の視点から，指導者側の性差に関する研究を，全国の男性家庭科教師の協力のもとに行った。また，家庭科教育学の構造化に関わる研究を継続して行い，特に研究分野，研究方法の視座から10年余をかけて行ってきた研究を集大成して出版物とし，さらにこの成果を踏まえて，教育現場における実証的研究を試みている。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

教育実践場面分析演習「家庭」の授業のあり方を追究して，研究プロジェクトを組んで検討し，その成果を冊子にまとめた。これを参考文献として授業で活用し，学生の理解を深めることを試みている。

**研究成果の発表状況**

著】平成10年10月：『Asset1 —21世紀を生きる子どもを育てる新しい時代の家庭科教育—』(共著) 家庭科教育実践講座刊行会，平成10年10月：『Asset10 —生活に生かす力を育てる家庭科の学習指導—』(共著) 家庭科教育実践講座刊行会，平成10年10月：『Asset12 —教材•教具の開発と活用—』(共著) 家庭科教育実践講座刊行会，平成10年11月：『家庭科教育学研究の構想』(共著) 家政教育社，平成11年2月：『柔軟な教育課程の編成』(共著) 教育開発研究所

論】平成10年6月：『公的高齢者福祉サービスに関する意識研究』(共著)家政教育研究第9号 pp.33-41，平成10年12月：『中学生•高校生の食生活における価値意識』(共著) 日本家庭科教育学会誌第41巻4号 pp.9-16，平成11年3月『中学校家庭科教育における指導者の性差に関する研究』(共著) 上越教育大学研究紀要第18巻2号 pp.789-803

業】平成10年6月：『リフレッシュ教育』(共著) 消費者教育事典 p.43，平成11年3月：『教育実践場面分析演習「家庭」の研究』(共著) 教育実践場面分析演習「家庭」研究プロジェクト，平成11年3月：『家庭科教育学の展望』(単著)「教科教育学」教育の方法と教育実践学的研究 pp.51-54他

発】平成10年5月：『大学における家政教育の現状と課題』(共)日本家政学会第50回大会，平成10年6月：『中

学校家庭科教育における指導者の性差に関する研究』(共)日本家庭科教育学会第41回大会，平成10年６月：『高等学校家庭科教育における生活情報教育(１報)』(共)日本家庭科教育学会第41回大会，平成10年11月：『高等学校家庭科教育における生活情報教育（２報)』(共）日本家庭科教育学会平成10年度例会

**共同研究の実施状況**

「子どもの家庭生活実態と生活意識」に関する研究　代表者：長島和子（千葉大学教授）日本家庭科教育学会補助金，「欧米カリキュラム」の研究　代表者：田部井恵美子（北海道教育大学教授）日本学術会議教育連合会

**学会活動への参加状況**

５月29日～31日：日本家政学会出席，６月27日～28日：日本家庭科教育学会出席，７月18日～28日：国際家政学会評議委員会出席(プエルトリコ)，８月８日：家政教育学会出席，11月21日：日本家庭科教育学会例会出席，12月５日：日本家政学会関東地区会総会・シンポジウム出席，平成11年３月27日：日本家庭科教育学会セミナー出席他

**社会的活動状況**

日本家庭科教育学会理事，日本家政学会評議員，日本家政学会関東支部幹事，日本家政学会誌編集委員，日本家政学会国際交流委員会委員，家政教育学会理事，アジア地区家政学会日本大会実行委員会委員，日本家庭科教育学会シンポジウムコーディネーター，新潟県教育センター講師他

## 渡　邊　彩　子（教　授）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

家庭科における福祉教育と環境教育の教育内容及び方法に関する研究を行っている。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

平成10年度大学改革推進等経費（教育特別講義プログラム推進経費）交付を受けて，教養基礎教育の「家庭」の授業に社会人講師等を招き，福祉に関する専門的授業内容を深めることができた。専門科目「生活と福祉」を複数教官担当により開設し，福祉施設訪問等を取り入れて講義に社会との接点をもたせる工夫をした。

**研究成果の発表状況**

著】平成11年３月：『高校生が学ぶ社会福祉シリーズ７高齢者の生活と衣食住「高齢者はどのような人生を送ってきたか，高齢者と安全，高齢者の生活と法」』(共著)　教育出版　pp.3-6,20-28

論】平成10年９月：「児童・生徒の生活的自立行動と意識との関連」(共著)　上越教育大学研究紀要　第18巻第１号　pp.415-424

発】平成10年５月：『小・中・高校における「まち（環境)」学習に関する研究』(共)　日本環境教育学会　研究発表，平成10年７月：「新潟県小・中学校における福祉教育の現状一学校及び家庭科担当者への調査一」日本家庭科教育学会第41回大会　研究発表，平成10年10月：「高校生と高齢者の世代間交流と老いに対する考え方の相違」(共)　第15回日本家庭科教育学会北陸地区会　研究発表

他】平成11年３月：『教育実践場面分析演習「家庭」の研究』(共著)　平成10年度教育改善推進費研究報告書

**共同研究の実施状況**

高齢社会における児童・生徒の積極的な福祉観を培う問題解決型学習プログラムの開発　代表者：渡邊彩子科学研究費補助金，小・中・高校家庭科における学習内容と学習方法に関する理論的・実践的研究　代表者：渡邊彩子・荒井紀子（福井大学）　日本家庭科教育学会北陸地区会，家庭科からの総合学習へのアプローチ　代

表者：鶴田敦子　日本家庭科教育学会総合学習研究グループ

**学会活動への参加状況**

5月23日～24日：日本環境教育学会，5月29～30日：日本家政学会，7月2日～4日：日本家庭科教育学会，10月23日～24日：日本家庭科教育学会北陸地区会，10月29日：日本雪工学会大島雪シンポジウム，11月21日：日本家庭科教育学会例会，3月27日：日本家庭科教育学会セミナー，以上に出席・発表・司会等

**社会的活動状況**

日本家庭科教育学会理事，日本家庭科教育学会北陸地区会会長，横浜市家庭科教員研修講師(「1枚の布から衣服へ」講演)，上越市市民オブザーバー会議副委員長，上越市地球環境学校基本構想検討委員会委員，住文化協議会住教育フォーラム（ファシリテータ）

## 佐　藤　悦　子（助教授）

**現在の研究状況**

① 専門分野の研究状況

衣服の着脱に関する研究を継続して行っている。今年度は，科学研究費補助金基盤研究(C)が採択され，「衣服の着脱に関する研究―下衣服の着脱時における動作特性と動作過程モデル―」について研究を行った。

一連の着脱動作の研究として，上衣服の明きの処理法の違いが着脱動作と着用感におよぼす影響について研究成果の一部を学術論文としてまとめ学会誌に投稿した。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

今年度は，学部では「被服実習」の授業において，被服の構成理論から製作～着装による評価に至るまでのシステム化を心がけ，被服の生産方式と着装の関係に対する理解が深まるよう工夫した。

大学院は，被服構成学特論，被服衛生学特論の授業内容に関する最近の研究成果を紹介できるよう資料収集につとめ，授業構成を検討した。また，授業内容の一環として，ニードルワークに関する演習を加え，実践的な教材開発の工夫をした。教育研究改革・改善プロジェクトの経費補助を受け，被服学領域の実験・実習科目の内容について検討を行った。

**研究成果の発表状況**

発】平成10年5月：『ブラウスの明きが着脱動作と官能評価におよぼす影響』（共）　日本家政学会第50回大会研究発表

**共同研究の実施状況**

「コンピュータシステムによるアパレル教育の効果とその評価法」　代表者：綾田雅子（共立女子短期大学助教授），共立女子大学総合文化研究所，一般研究プロジェクト（継続研究）

**学会活動への参加状況**

5月30～31日：日本家政学会第50回大会出席，8月27～28日：日本家政学会被服構成学部会総会・夏期セミナー出席，11月13日～14日：日本官能評価学会1998年度大会出席

## 立屋敷　かおる（助教授）

**現在の研究状況**

① 専門分野の研究状況

食と飲酒に関する研究及び食肉のサイズに関する研究を継続している。今年度は，特にエタノール代謝及び骨格筋のサイズの内分泌調節に関する研究を行った。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

学生の授業内容に対する理解の程度に漸次低下傾向がみられるため，今年度は従来の授業内容を工夫した。

学部１年次の調理実習レポートは数年来ワープロによる作成を義務づけてきたが，今年度はそれを義務づけず，２年次以降のワープロ操作習熟の経過をみる予定である。

「学校給食論」では板倉中学校の協力を得て学校給食の指導及び給食室の作業等を見学した。

**研究成果の発表状況**

著】１）『タンパク質濃度の測定法』（共著） pp.37-40 最新運動生理科学実験法 —分子・細胞・組織レベルからのアプローチ—（今泉和彦・石原昭彦編集） 大修館書店（1998），２）『RNA, mRNA, DNA の分離・定量法』（共著），pp. 46-56，最新運動生理科学実験法—分子・細胞・組織レベルからのアプローチ—（今泉和彦・石原昭彦編集） 大修館書店（1998），３）『ウエスタンブロット法によるタンパク質・酵素の測定法』（共著） pp.57-62 最新運動生理科学実験法—分子・細胞・組織レベルからのアプローチ—（今泉和彦・石原昭彦編集） 大修館書店（1998），４）『Growth-related changes in DNA, RNA, and protein levels in the hindlimb skeletal muscles of rats』（共著） pp.163-167 The 1997 Nagano Symposium on Sports Sciences (ed. by Nose, H., et al.) Cooper Publishing Company, USA (1998)，５）『Changes in visceral organ size and skeletal muscle mass during the whole body suspension and recovery in rats』（共著） pp.168-172 The 1997 Nagano Symposium on Sports Sciences (ed. by Nose, H. , et al.) Cooper Publishing Company USA (1998)

論】１）『Effect of sex hormones on rat liver cytosolic alcohol dehydrogenase activity』（共著） Journal of Nutritional Science and Vitaminology 44(5)：625-639 (1998)

業】１）高校生が学ぶ社会福祉シリーズ第７巻「高齢者の生活と衣食住」「高齢者の生活と管理」（仮称）第２章 食生活と栄養（編著） 執筆頁数約70頁 中央法規出版（1999年４月）

発】１）『Ethanol and isoniazid-induced changes of cytochrome P450 2E1 in liver microsomes of rats』（共） Japanese Journal of Physiology 48 (Supplement): S211 (1998)，２）『Sex-difference of cytochrome P450 2E1 contents in liver microsomes of rats』（共） Japanese Journal of Physiology 48 (Supplement): S211 (1998)，３）『ラット肝臓内アルコール脱水素酵素活性の性差に対する性ホルモンの影響』（共） 第50回日本家政学会研究発表要旨集 p.65 (1998)，４）『ラット肝臓内アルコール脱水素酵素活性の性差が生ずる時期とその要因』（共） 第50回日本家政学会研究発表要旨集 p.161 (1998)，５）『ラット肝臓 cytosol 内 alcohol dehydrogenase 活性の性差の出現時期とその機構』（共） 体力科学 47(6)：857 (1998)，６）『ラット肝臓 cytosol 内 alcohol dehydrogenase 活性に及ぼす下垂体除去の影響』（共） 体力科学 47(6)：857 (1998)，７）『ラット肝臓内 alcohol dehydrogenase と aldehyde dehydrogenase の活性は下垂体除去で上昇し，dexamethasone 投与で低下する』（共） 第76回日本生理学会予稿集 p.164 (1999)，８）『ラット骨格筋と内臓サイズに及ぼす下垂体除去および dexamethasone 投与の影響』（共） 第76回日本生理学会予稿集 p.167 (1999)

**共同研究の実施状況**

１）グルココルチコイドによる骨格筋容積の可塑的変化とその分子機構 代表者：今泉和彦（上越教育大学教授） 平成８～９年度科学研究費補助金（基盤研究(B)）研究成果報告書 pp.1-75 (1998)，２）中枢神経系による肝臓のエタノール分解の調節作用—脳下垂体の関与— 代表者：今泉和彦（上越教育大学教授） 平成10年度学長裁量経費による研究プロジェクト報告書 (1999)

**学会活動への参加状況**

５月29日～31日：第50回日本家政学会出席，９月28日～10月１日：第53回日本体力医学会出席，３月27日～30日：第76回日本生理学会出席

## 得 丸 定 子（講 師）

### 現在の研究状況

① 専門分野の研究状況

生命科学を基礎に置く，家庭科教育の展開を研究している。生命の誕生から死に至るまでの生命観，環境問題，健康と医療問題，食生活と健康の各観点から考察している。特に，「生と死の教育」については，日本における学校教育での取扱はまだ確立されておらず，この点について検討を深めている。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

家庭科教育論の授業では，「生と死の教育」に関して，まず，知識レベルの学習を行い，さらにロールプレイによって各自の価値観，感情レベルの認識を行うことを試みた。人間の一生を取り扱う教科である家庭科を担当する者にとって，「生と死」は重要な観点であることを検討した。

### 研究成果の発表状況

論】1）Increase of lipid hydroperoxides in liver mitochondria and inhibition of cytochrome oxidase by carbon tetrachloride intoxication in rats. K. Ikeda, M. Toda, K. Tanaka, S. Tokumaru and S. Kojo, *Free Radic. Res.*, 28, 403-410 (1998), 2) Increase of lipid hydroperoxides in the rat liver and kidney after ferric nitrilotriacetate administration. K. Ikeda, F. Sun, K. Tanaka, S. Tokumaru and S. Kojo, *Biosci. Biotechnol. Biochem.*, 62, 1438-1439 (1998), 3) Change in the level of sialic acid in plasma, brain and liver of inherently scorbutic rats during vitamin C and E deficiencies. K. Tanaka, S. Tokumaru and S. Kojo, *Biosci. Biotechnol. Biochem.*, 62, 1592-1593 (1998), 4) Change in tissue concentrations of lipid hydroperoxides, vitamin C and vitamin E in the streptozotocin diabetic rat. F. Sun, K. Iwaguchi, R. Shudo, Y. Nagaki, K. Tanaka, K. Ikeda, S. Tokumaru and S. Kojo, *Clin. Sci.*, 96, 185-190 (1999), 5) Facil degradation of apolipoprotein B by radical reaction and the presence of cleaved proteins serum. K. Tanaka, H. Iguchi, S. Taketani, R. Nakata, S. Tokumaru, T. Sugimoto and S. Kojo, *J. Biochem.*, 125, 173-176 (1999),

発】平成10年4月：『LDL酸化によるシアル酸の減少』『四塩化炭素によるラット肝ミトコンドリア機能障害』『熱処理を施した脱塩処理大豆抽出液の機能性』（共）日本農芸化学会1998年度大会　研究発表，平成10年4月：『LDLの過酸化によるシアル酸の修飾』『四塩化炭素による肝臓ミトコンドリアの機能障害』（共）第52回日本栄養・食糧学会大会　研究発表，平成10年5月：『環境汚染物質，四塩化炭素によるラット肝機能障害の再検討』『LDL過酸化における糖鎖の修飾』（共）日本家政学会第50回大会研究発表　研究発表，平成10年6月：『学校教育と「死の教育」―死にたいする意識調査と家庭科での取り組みの可能性―』（共）第41回日本家庭科教育学会大会　研究発表，平成10年10月：『LDLのラジカル反応による蛋白質分解の解析』『糖尿病ラットにおける酸化的ストレスの解析』『HL-60細胞のアポトーシスに関与するラジカル種の検討』（共）第71回日本生化学会大会　研究発表，平成10年11月：『学校教育におけるDeath Educationの取り組み方』第22回日本死の臨床研究会　研究発表，平成10年11月：『種々の病態におけるラット臓器脂質ヒドロペルオキシドの動態』（共）第31回酸化反応討論会　研究発表

他】ビタミンCとEの相互作用は遺伝的にビタミンCを合成できないラットの組織で観察できる　田中恭子・橋本朋子・得丸定子・井口弘・小城勝相　Vitamins (Japan) 72(9) 443-444 (1998)

### 社会的活動状況

新潟県技術・家庭科研究会　家庭科，技術・家庭科を語る会　講師（『技術・家庭における「生と死の教育」』を講演）

## 細　江　容　子（講　師）

### 現在の研究状況

① 専門分野の研究状況

大学生の持つ高齢者イメージと老親扶養の意識に関して平成10年度は日本と韓国に関しての国際比較調査を実施した。現在，中国，台湾との国際比較調査を実施準備中である。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

学部，大学院における家族関係学，家庭経営学の授業においては，夏期の学会主催セミナーやインターネットによる国内，国外の情報収集により，授業の実践・改良を試みた。

### 研究成果の発表状況

論】平成10年９月：『退職教員における生活満足度の規定要因』（単著）上越教育大学研究紀要　第18巻１号 pp.425-437

### 国際研究プロジェクトへの参加状況

大学生の持つ高齢者イメージと老親扶養の意識：代表　SOU Piyonsuku（Hanyang University Professor）

### 学会活動への参加状況

５月29～31日：日本家政学会出席

### 社会的活動状況

教科調査官：新教科『福祉』の指導要領作成（文部省初等中等教育局），新潟県女性問題研究委員会委員（新潟県），上越女性大学院講師（上越市）

## 藤　木　一　浩（助　手）

### 現在の研究状況

① 専門分野の研究状況

新潟大学工学部機能材料工学科，坪川紀夫教授の研究室と，「グラフト重合による高分子機能材料の合成」に関する共同研究を，本年度も継続して行った。平成10年度は，ガラス繊維，炭素繊維などの無機繊維表面へのレドックス反応によって開始されるポリマーのグラフト化反応や，カーボンブラックなどの無機超微粒子表面へのポリマーの２次グラフト化反応について重点的に検討し，研究成果を学会にて発表した。

② 教育活動の実施・改善の研究状況

１．卒業論文及び修士論文に関して，高分子材料に関する基礎知識の習得や，界面活性剤による水／油のエマルションの生成実験に対して，科学的側面からの指導補助を行った。

２．学部３年生対象の授業科目「被服学実験」において，上記の「界面活性剤による水／油のエマルションの生成実験」の研究成果を取り込んで，界面活性剤の性質を理解する「乳化の型の判別」や「乳化力」の実験項目について，望ましい結果が得られるように，実験操作の見直しを行った。

### 研究成果の発表状況

論】平成10年４月：「Preparation of a silica gel-carbon black composite by the sol-gel process in the presence of polymer-grafted carbon black」（共著）*J. Mater. Sci.* Vol.**33** pp.1871-1879, 平成10年８月：「Preparation of amphiphilic carbon black by postgrafting of polyethyleneimine to grafted polymer chain on the surface」（共著）*Polym. Bull.* Vol.**41** pp.85-90, 平成10年10月：「Grafting of 'dendrimer-like' highly branched polymer onto ultrafine silica surface」（共著）*React. Funct. Polym.* Vol.**37** pp.75-82.

発】平成10年５月：「Grafting of Polymers with Controlled Molecular Weight onto Inorganic Fiber Surface」（共）The Seventh International Conference on Composite Interfaces　研究発表，平成10年５

月：「粉体表面のグラフトポリマー鎖への２次グラフト(1)グラフト鎖へ導入したアゾ基からの２次グラフト重合」(共),「粉体表面のフラフトポリマー鎖への２次グラフト(2)グラフト鎖へのポリエチレンイミンの２次グラフト反応」(共)　いずれも第47回高分子年次大会　研究発表，平成10年10月：「無機繊維表面へのレドックス開始系を用いたラジカルグラフト重合」(共),「カーボンブラック表面のグラフト鎖への２次グラフト反応による粒子表面への両親媒性の付与」(共)　いずれも第47回高分子討論会　研究発表，平成10年10月：「ガラス繊維表面へのラジカルグラフト重合に及ぼす重合開始基の影響」(共)　第47回北陸支部研究発表会　研究発表，平成11年３月：「カーボンブラック表面へ導入したポリエチレンイミンへの疎水性ポリマーの２次グラフト反応」(共),「炭素繊維表面へ導入したトリクロロアセチル基と $Mo(CO)_6$ 系で開始されるビニルモノマーのグラフト重合」(共)　いずれも日本化学会第76春季年会　研究発表。

他】平成10年７月：「イオノフォアを有するポリマーのグラフト化によるカーボンブラックへのカチオン認識能の付与」(単著)　江野科学振興財団研究報告書 Vol.1 pp.216-218.

**学会活動への参加状況**

上記『研究成果の発表状況』の「学会等における口頭発表」の項に記した各学会に出席した。(５学会)

**光　永　伸一郎**（助　手）

**現在の研究状況**

①　専門分野の研究状況

イネを中心とした穀類の糖代謝および食味関連遺伝子に関する研究を継続して行っている。今年度は，特にモチ米に特異的に含まれるデンプン分解酵素・$\beta$-アミラーゼに関する，生化学的・生理学的解析を行った。また，穀類糖代謝の中心的役割を担う $\alpha$-アミラーゼの遺伝子について，その染色体上の座乗位置を細胞生物学的手段を用いて視覚的に明らかにすることを試みた。

②　教育活動の実施・改善の研究状況

助手として，学部および大学院の食物学実験の授業においては実験補助を行った。基礎情報処理の授業では，学生が将来的に利用すると思われるPCソフトウエアについて，その基本操作をレクチャーした上で，各人のデモンストレーション用のカラースライド画面の作成を試みた。

**研究成果の発表状況**

論】平成10年９月：『Detection of proteins binding to the promoter regions DNA using a nonradioactive gel-retardation assay』(共著) Biosci. Biotech. Biochem. 62：1812-1814，平成10年12月：『レーザー光を用いた植物細胞の操作』(共著) オプトロニクス 17：141-145

発】平成10年10月：『イネ発芽時におけるデンプン分解酵素の発現制御』(共)日本応用糖質科学会　研究発表，平成11年１月：『Three dimensional characterization of highly acetylated regions in barley nuclei』(共)Plant and Animal Genome VII　研究発表，平成11年１月：『Biochemical characterization of highly acetylated regions in barley nuclei』(共) Plant and Animal Genome VII　研究発表

**学会活動への参加状況**

10月１日～３日：日本応用糖質科学会平成10年度大会（第47回）および糖質関連酵素化学シンポジウム（第６回）出席

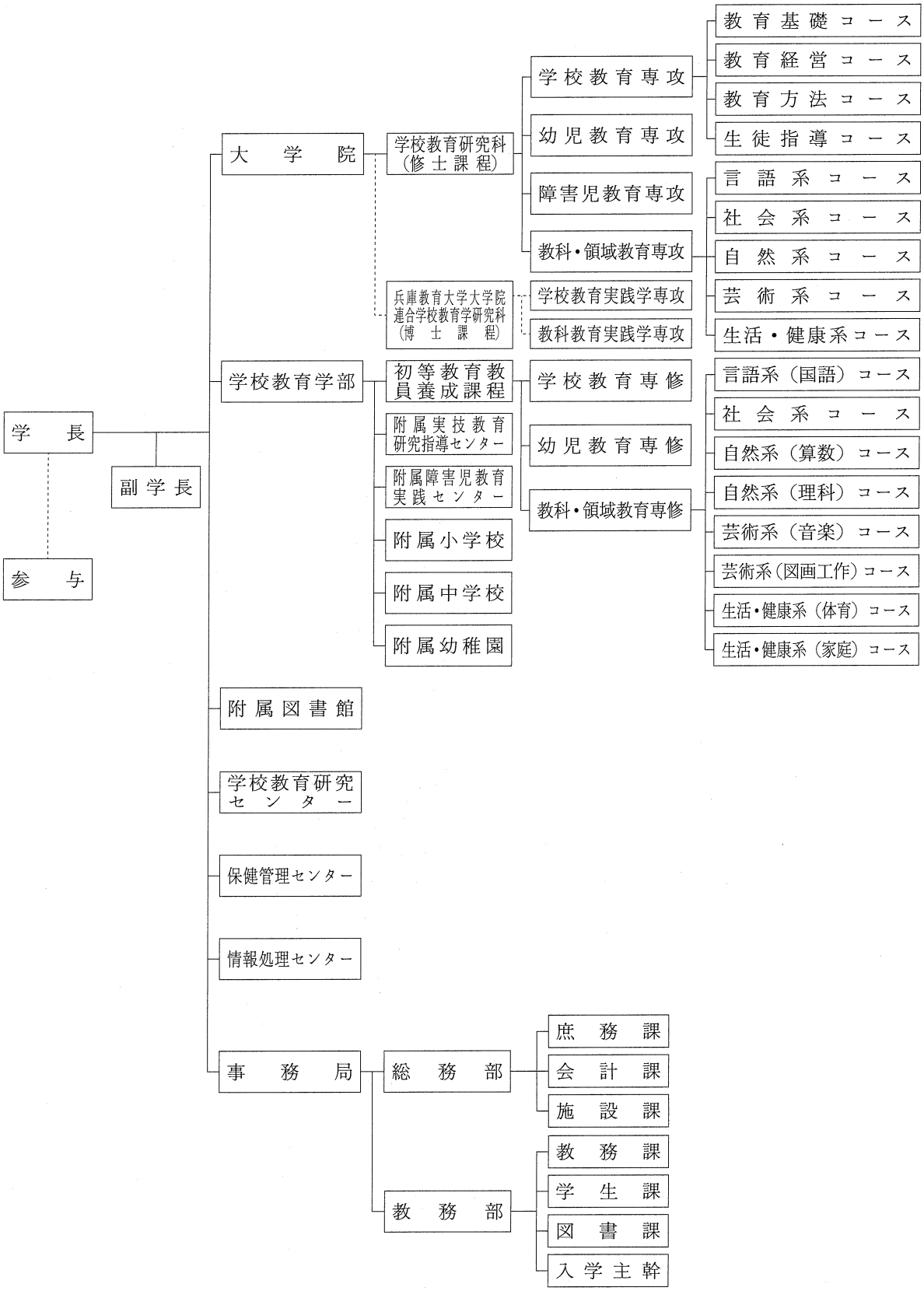
# 第五章　資　　料　　編

# 第五章　資　　料　　編

## 1　管理運営

### (1)　管理運営機構

#### ①　組織図



② 運営図

※平成10年５月１日現在



## (2) 職員数等

### ① 定員・現員

平成10年５月１日現在

| 区　分 | 学　長 | 副学長 | 教　授 | 助教授 | 講　師 | 助　手 | 計 | 教　頭 | 教　諭 | 養護教諭 | 小　計 | 事務局職員 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 定　員 | 1 | 2 | 93 | 75 | | 26 | 197 | 3 | 33 | 3 | 236 | 119 | 355 |
| 学　長 | 1 | | | | | | 1 | | | | 1 | | 1 |
| 副　学　長 | | 2 | | | | | 2 | | | | 2 | | 2 |
| 学校教育学部 | | | 66 | 66 | 13 | 22 | 167 | | | | 167 | | 167 |
| 学校教育研究センター | | | 1 | 3 | 2 | 1 | 7 | | | | 7 | | 7 |
| 保健管理センター | | | 1 | | | | 1 | | | | 1 | | 1 |
| 附属実技教育研究指導センター | | | 3 | 4 | 1 | | 8 | | | | 8 | | 8 |
| 附属障害児教育実践センター | | | 1 | | 1 | 1 | 3 | | | | 3 | | 3 |
| 附属小学校 | | | | | | | | 1 | 15 | 1 | 17 | | 17 |
| 附属中学校 | | | | | | | | 1 | 15 | 1 | 17 | | 17 |
| 附属幼稚園 | | | | | | | | 1 | 3 | 1 | 5 | | 5 |
| 事　務　局 | | | | | | | | | | | | 116 | 116 |
| 現　員　計 | 1 | 2 | 72 | 73 | 17 | 24 | 189 | 3 | 33 | 3 | 228 | 116 | 344 |
| 欠　員<br>（欠員率（%）） | | | 21<br>(22.5) | 2<br>(2.6) | △17 | 2<br>(7.6) | 8<br>(4.0) | | | | 8<br>(3.3) | 3<br>(2.5) | 11<br>(3.0) |

② 教員の任用状況

| 発令年月日 | 区分 | 異動事項 | 氏名 | 現旧（官）職 |
|---|---|---|---|---|
| 10. 4. 1 | 併任 | 教授(障害児教育)（～11. 3. 31） | 湧井豊 | 副学長 |
| 〃 | 昇任 | 〃（生徒指導） | 犬塚文雄 | 助教授（生徒指導） |
| 〃 | 〃 | 〃（言語系教育） | 平野絹枝 | 〃（言語系教育） |
| 〃 | 〃 | 〃（〃） | 加藤雅啓 | 〃（〃） |
| 〃 | 採用 | 〃（自然系教育） | 室谷利夫 | 菱電セミコンダクタシステムエンジニアリング株式会社技術第一部長 |
| 〃 | 昇任 | 助教授（幼児教育） | 丸山良平 | 講師（幼児教育） |
| 〃 | 転任 | 〃（言語系教育） | 押木秀樹 | 金沢大学教育学部助教授 |
| 〃 | 昇任 | 〃（生活・健康系教育） | 黎子椰 | 助手（生活・健康系教育） |
| 〃 | 〃 | 講師（言語系教育） | 渡部洋一郎 | 〃（言語系教育） |
| 〃 | 転任 | 〃（〃） | 赤松信彦 | 高知大学人文学部講師 |
| 〃 | 昇任 | 〃（〃） | 野地美幸 | 助手（言語系教育） |
| 〃 | 転任 | 助手（教育経営） | 安藤知子 | 筑波大学教育学系助手 |
| 〃 | 採用 | 〃（自然系教育） | 岡崎正和 | 広島県賀茂郡黒瀬町立黒瀬中学校教諭（臨時的任用） |
| 10. 6. 1 | 〃 | 〃（言語系教育） | 迎勝彦 | |
| 10. 8. 1 | 〃 | 〃（〃） | 若山真幸 | |
| 10. 9. 1 | 昇任 | 教授（芸術系教育） | 福岡奉彦 | 助教授（芸術系教育） |
| 〃 | 招へい | 外国人特別招へい教授（生活・健康系教育）（招へい期間10. 9. 1～10. 11. 30） | クラレンス・ハロルド・プライツ | |
| 10. 11. 1 | 配置換 | 教授（附属実技教育研究指導センター） | 福岡奉彦 | 学校教育学部教授 |
| 〃 | 〃 | 助教授（芸術系教育） | 大嶋彰 | 〃 附属実技教育研究指導センター助教授 |
| 10. 12. 1 | 昇任 | 教授（生活・健康系教育） | 渡邊彩子 | 助教授（生活・健康系教育） |
| 10. 12. 9 | 命 | 学部主事事務代理 | 大山秀夫 | 教授（〃） |
| 11. 1. 1 | 昇任 | 教授（芸術系教育） | 西村俊夫 | 助教授（芸術系教育） |
| 11. 3. 31 | 免 | 学部主事事務代理 | 大山秀夫 | 教授（生活・健康系教育） |
| 〃 | 退職 | 辞職 | 池内正幸 | 学校教育学部教授 |
| 〃 | 〃 | 〃 | 塚本伸一 | 〃 助教授 |
| 11. 4. 1 | 〃 | 任期満了 | 加藤章 | 学長 |
| 〃 | 〃 | 停年 | 松元泰儀 | 学校教育学部教授 |
| 〃 | 〃 | 〃 | 神成嘉光 | 〃 〃 |
| 〃 | 〃 | 〃 | 澁谷久 | 〃 〃 |

### ⑶ 予算及び決算

#### ① 国立学校特別会計

ア 歳入

| 区分 | 平成10年度 | |
|---|---|---|
| | 予算額 | 決算額 |
| 授業料及入学検定料 | 728,145,000 円 | 739,402,900 円 |
| 授業料 | 578,290,000 | 578,792,800 |
| 入学料及検定料 | 147,029,000 | 158,783,500 |
| 講習料 | 2,826,000 | 1,826,600 |
| 産学連携等研究収入 | 5,552,000 | 5,552,000 |
| 産学連携等研究収入 | 5,552,000 | 5,552,000 |
| 雑収入 | 106,815,000 | 104,145,631 |
| 学校財産貸付料 | 10,889,000 | 8,693,227 |
| 公務員宿舎貸付料 | 11,646,000 | 11,578,642 |
| 寄宿料 | 38,823,000 | 38,804,500 |
| 用途指定寄附金受入 | 43,740,000 | 43,740,000 |
| その他 | 1,717,000 | 1,329,262 |
| 計 | 840,512,000 | 849,100,531 |

イ 歳出

| 区分 | 平成10年度 | |
|---|---|---|
| | 予算額 | 決算額 |
| 国立学校 | 4,233,480,000 円 | 4,225,736,353 円 |
| 人件費 | 3,016,642,000 | 3,010,100,952 |
| 物件費 | 1,216,838,000 | 1,215,635,401 |
| 産学連携等研究費 | 4,629,000 | 4,602,000 |
| 物件費 | 4,629,000 | 4,602,000 |
| 施設整備費 | 171,380,000 | 171,380,000 |
| 計 | 4,409,489,000 | 4,401,718,353 |

#### ② 一般会計（歳出）

| 区分 | 平成10年度 | |
|---|---|---|
| | 予算額 | 決算額 |
| 文部本省 | 21,420,000 円 | 21,420,000 円 |
| 学校教育振興費 | 1,015,000 | 1,013,720 |
| 計 | 22,435,000 | 22,433,720 |

### (4) 広報刊行物一覧

| 名　称 | 発行内容（概要） | 発行部数 | 配布先 |
|---|---|---|---|
| 上越教育大学概要（平成10年度） | 大学全般にわたっての概略を統計的にまとめたもの | 部<br>4,500 | 文部省，各国立大学，教育関係機関，来学者，職員 |
| 上越教育大学学報第64号～第66号，号外 | 学内の運営等について，必要な事項を学内外に周知するため，学内規則，人事異動，一般通報事項等を掲載したもの | 65号まで<br>700<br>66号から<br>710 | 文部省，各国立大学，教育関係機関，職員 |
| 大学院だより No.49，No.50 | 教育委員会等教育関係者に大学院の研究・教育活動及び学生生活の状況を紹介するためまとめたもの | 4,300 | 文部省，教育関係機関，各国立大学，職員，大学院学生 |
| 学園だより 第6号，第7号 | 学部学生の視点に立った学生生活に係る情報の提供及び全学的行事，企画等の紹介 | 3,000 | 文部省，各国立大学，各教育委員会，職員，学部学生，学部学生保護者 |
| 平成11年度上越教育大学案内 | 学部受験生向けに大学の教育活動及び学生生活に関する事項をまとめたもの | 6,500 | 各国立大学，各高等学校，教育関係機関，受験希望者 |
| 平成11年度上越教育大学大学院案内 | 大学院受験生向けに大学の教育活動及び学生生活に関する事項をまとめたもの | 12,200 | 各国立大学，教育関係機関，受験希望者 |
| 就職広報用大学紹介パンフレット | 学部・大学院学生の就職についての意欲を紹介 | 4,000 | 文部省，教育関係機関，民間企業 |
| 上越教育大学年次報告書（平成９年度版） | 大学全般にわたっての活動状況をまとめたもの | 650 | 文部省，各国立大学，教育関係機関，職員 |
| 上越教育大学附属図書館概要（平成10年度） | 附属図書館全般にわたっての概要を統計的にまとめたもの | 500 | 文部省，各国立大学附属図書館，国立国会図書館，図書館関係機関，来館者，職員 |
| '98要覧（学校教育研究センター） | センターの事業概要を紹介したもの | 500 | 教育関係機関等，来所者，職員 |
| 上越教育大学学校教育研究センターニュース No.51，No.52 | センターの活動状況を紹介したもの | 600 | 文部省，各国立大学教育センター，教育関係機関，大学院学生，職員 |
| 学校教育研究センター年報第14号（平成10年度版） | センターの研究報告及び事業報告をまとめたもの | 600 | 文部省，各国立大学教育センター，資料提供教育関係機関，職員 |
| 学校要覧（附属小学校） | 教育目標，校歌，活動，沿革，職員，児童，学校行事，研究，校舎配置図，PTA 等をまとめたもの | 400 | 教育関係機関，来校者，職員 |
| 学校要覧（附属中学校） | 教育目標，沿革，任務，研究年譜，校事表，学校運営組織，年間行事計画，生徒会，部活動・クラブ，校舎・施設等をまとめたもの | 600 | 文部省，教育関係機関，来校者，職員 |
| 幼稚園要覧（附属幼稚園） | 設立の概略，本園の使命，教育目標，重点目標，園児，職員，施設・設備等をまとめたもの | 550 | 文部省，教育関係機関，来園者，職員 |
| 上越教育大学創立20周年記念誌 | 20年間の概略を大学全般にわたって，統計的・視覚的にまとめたもの | 4,000 | 文部省，各国立大学，教育関係機関，式典参加者，職員，卒業生・修了生 |

### (5) 土地・建物の概要

| 区分 | 建物 名称 | 建面積 ㎡ | 延面積 ㎡ | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 山屋敷地区 (356,131㎡) | 本部事務局 | 733 | 2,156 | |
| | 附属図書館 | 945 | 3,196 | |
| | 講義棟 | 828 | 2,193 | |
| | 実験棟 | 573 | 1,152 | |
| | 大学会館 | 1,641 | 2,217 | |
| | 講堂 | 1,045 | 1,078 | |
| | 自然棟 | 912 | 6,393 | |
| | 第2講義棟 | 354 | 796 | |
| | 情報処理センター | 241 | 483 | |
| | 人文棟 | 1,516 | 9,153 | |
| | 音楽棟 | 741 | 2,829 | |
| | 美術棟 | 1,526 | 3,858 | |
| | 体育棟 | 594 | 1,723 | |
| | 小体育館 | 636 | 1,214 | |
| | 体育館 | 1,404 | 1,404 | |
| | スポーツ科学実験棟 | 320 | 834 | |
| | 職員研修センター | 402 | 402 | |
| | 附属障害児教育実践センター | 660 | 1,159 | |
| | 学生宿舎 | 4,451 | 17,856 | 世帯…40戸用2棟，60人用3棟<br>単身…60戸用3棟，80人用1棟，100人用1棟，120人用3棟 |
| | 国際学生宿舎 | 472 | 1,918 | |
| | 職員宿舎 | 380 | 1,814 | 1棟30戸（B型15戸，C型15戸） |
| | 附属幼稚園 | 563 | 563 | |
| | 課外活動共用施設 | 203 | 397 | |
| | 設備機械棟 | 438 | 688 | |
| | その他 | 1,343 | 1,522 | |
| | 計 | 22,921 | 66,998 | |
| 西城地区 (36,390㎡) | 学校教育研究センター | 893 | 1,864 | |
| | 附属小学校校舎 | 2,292 | 4,750 | |
| | 附属小学校体育館 | 600 | 600 | |
| | その他 | 433 | 433 | |
| | 計 | 4,218 | 7,647 | |
| 本城地区 (50,124㎡) | 附属中学校校舎 | 1,636 | 3,737 | |
| | 附属中学校体育館 | 934 | 2,157 | |
| | その他 | 427 | 427 | |
| | 計 | 2,997 | 6,321 | |
| 赤倉地区 (1,871㎡) | 赤倉野外活動施設 | 282 | 529 | |
| | 計 | 282 | 529 | |
| その他 (7,340㎡) | 西城研修所 | 73 | 98 | |
| | 西城宿舎 | 926 | 1,955 | 9棟33戸（B型15戸，C型18戸） |
| | 北城宿舎 | 452 | 1,341 | 1棟12戸（E型12戸） |
| | その他 | 19 | 19 | |
| | 計 | 1,470 | 3,413 | |
| 合計 | | 31,888 | 84,908 | |

## 2　教育・研究活動

### (1)　平成11年度入学者選抜試験状況

#### ①　大学院学校教育研究科

ア　専攻・コース別

| 区分 | | | 入学定員 | 1次 応募者 | 1次 受験者 | 1次 合格者 | 1次 入学者 | 2次 募集人員 | 2次 応募者 | 2次 受験者 | 2次 合格者 | 2次 入学者 | 合計 応募者 | 合計 受験者 | 合計 合格者 | 合計 入学者 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学校教育専攻 | 教育基礎コース | | 約15 | ( 5) 10 | ( 5) 10 | ( 7) 10 | ( 7) 9 | 約 5 | ( 1) 3 | ( 1) 3 | ( 1) 3 | ( 1) 3 | ( 6) 13 | ( 6) 13 | ( 8) 13 | ( 8) 12 |
| | 教育経営コース | | 約15 | ( 8) 14 | ( 8) 14 | ( 8) 16 | ( 8) 15 | — | — | — | — | — | ( 8) 14 | ( 8) 14 | ( 8) 16 | ( 8) 15 |
| | 教育方法コース | | 約10 | ( 19) 22 | ( 19) 22 | ( 18) 20 | ( 18) 19 | — | — | — | — | — | ( 19) 22 | ( 19) 22 | ( 18) 20 | ( 18) 19 |
| | 生徒指導コース | | 約10 | ( 23) 29 | ( 23) 28 | ( 20) 21 | ( 20) 21 | — | — | — | — | — | ( 23) 29 | ( 23) 28 | ( 20) 21 | ( 20) 21 |
| | 計 | | 50 | ( 55) 75 | ( 55) 74 | ( 53) 67 | ( 53) 64 | 約 5 | ( 1) 3 | ( 1) 3 | ( 1) 3 | ( 1) 3 | ( 56) 78 | ( 56) 77 | ( 54) 70 | ( 54) 67 |
| 幼児教育専攻 | | | 15 | ( 3) 10 | ( 3) 10 | ( 3) 10 | ( 2) 9 | 約 5 | 3 | 3 | 3 | 2 | ( 3) 13 | ( 3) 13 | ( 3) 13 | ( 2) 11 |
| 障害児教育専攻 | | | 25 | ( 18) 33 | ( 17) 32 | ( 18) 33 | ( 18) 31 | — | — | — | — | — | ( 18) 33 | ( 17) 32 | ( 18) 33 | ( 18) 31 |
| 教科・領域教育専攻 | 言語系コース | 国語 | 約40 | ( 8) 13 | ( 8) 13 | ( 8) 13 | ( 8) 10 | 約25 | 2 | 2 | 2 | 2 | ( 8) 15 | ( 8) 15 | ( 8) 15 | ( 8) 12 |
| | | 英語 | | ( 3) 5 | ( 3) 5 | ( 3) 5 | ( 3) 4 | | 2 | 2 | 2 | 2 | ( 3) 7 | ( 3) 7 | ( 3) 7 | ( 3) 6 |
| | 社会系コース | | 約30 | ( 14) 23 | ( 14) 23 | ( 14) 22 | ( 14) 19 | 約10 | 3 | 3 | 3 | 2 | ( 14) 26 | ( 14) 26 | ( 14) 25 | ( 14) 21 |
| | 自然系コース | 数学 | 約50 | ( 6) 7 | ( 6) 7 | ( 6) 7 | ( 6) 7 | 約30 | | | | | ( 6) 7 | ( 6) 7 | ( 6) 7 | ( 6) 7 |
| | | 理科 | | ( 12) 15 | ( 12) 15 | ( 12) 14 | ( 12) 14 | | 3 | 3 | 2 | 2 | ( 12) 18 | ( 12) 18 | ( 12) 16 | ( 12) 16 |
| | 芸術系コース | 音楽 | 約50 | ( 12) 22 | ( 12) 22 | ( 12) 22 | ( 12) 21 | 約20 | 8 | 8 | 7 | 5 | ( 12) 30 | ( 12) 30 | ( 12) 29 | ( 12) 26 |
| | | 美術 | | ( 4) 9 | ( 3) 8 | ( 3) 8 | ( 3) 8 | | 3 | 3 | 3 | 3 | ( 4) 12 | ( 3) 11 | ( 3) 11 | ( 3) 11 |
| | 生活・健康系コース | 保健体育 | 約40 | ( 12) 14 | ( 12) 14 | ( 12) 13 | ( 12) 13 | 約15 | 4 | 4 | 2 | 2 | ( 12) 18 | ( 12) 18 | ( 12) 15 | ( 12) 15 |
| | | 技術 | | ( 5) 5 | ( 5) 5 | ( 6) 6 | ( 6) 6 | | 3 | 3 | 3 | 2 | ( 5) 8 | ( 5) 8 | ( 6) 9 | ( 6) 8 |
| | | 家庭 | | ( 2) 6 | ( 2) 6 | ( 2) 6 | ( 2) 5 | | 7 | 7 | 7 | 6 | ( 2) 13 | ( 2) 13 | ( 2) 13 | ( 2) 11 |
| | 計 | | 210 | ( 78)119 | ( 77)118 | ( 78)116 | ( 78)107 | 約100 | 35 | 35 | 31 | 26 | ( 78)154 | ( 77)153 | ( 78)147 | ( 78)133 |
| 合計 | | | 300 | (154)237 | (152)234 | (152)226 | (151)211 | 約110 | ( 1) 41 | ( 1) 41 | ( 1) 37 | ( 1) 31 | (155)278 | (153)275 | (153)263 | (152)242 |

（注）1　（ ）内は現職教員（3年以上の教職経験を有する者）で内数である。

2　応募者及び受験者欄は第1志望のみの数であり，合格者及び入学者欄は第2志望の合格・入学者を含めた数である。

3　定員外：国費外国人留学生（教科・領域教育専攻社会系コースの2人及び芸術系コース（美術）の1人）3人は含まない。

イ　都道府県別

| 区分 | 1次 | | | | 2次 | | | | 合計 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 応募者 | 受験者 | 合格者 | 入学者 | 応募者 | 受験者 | 合格者 | 入学者 | 応募者 | 受験者 | 合格者 | 入学者 |
| 北海道 | (1) 3 | (1) 3 | (1) 2 | (1) 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | (1) 4 | (1) 4 | (1) 3 | (1) 3 |
| 青森 | (4) 6 | (4) 6 | (4) 6 | (4) 6 | | | | | (4) 6 | (4) 6 | (4) 6 | (4) 6 |
| 岩手 | (5) 5 | (5) 5 | (5) 5 | (5) 5 | | | | | (5) 5 | (5) 5 | (5) 5 | (5) 5 |
| 宮城 | (5) 8 | (5) 8 | (5) 8 | (5) 7 | | | | | (5) 8 | (5) 8 | (5) 8 | (5) 7 |
| 秋田 | (3) 5 | (3) 5 | (3) 5 | (3) 4 | | | | | (3) 5 | (3) 5 | (3) 5 | (3) 4 |
| 山形 | (1) 1 | (1) 1 | (1) 1 | (1) 1 | | | | | (1) 1 | (1) 1 | (1) 1 | (1) 1 |
| 福島 | (2) 2 | (2) 2 | (2) 2 | (2) 2 | | | | | (2) 2 | (2) 2 | (2) 2 | (2) 2 |
| 茨城 | (2) 4 | (2) 4 | (2) 4 | (2) 4 | | | | | (2) 4 | (2) 4 | (2) 4 | (2) 4 |
| 栃木 | (4) 5 | (4) 5 | (4) 4 | (4) 4 | | | | | (4) 5 | (4) 5 | (4) 4 | (4) 4 |
| 群馬 | (5) 6 | (5) 6 | (5) 6 | (5) 6 | 1 | 1 | 1 | 1 | (5) 7 | (5) 7 | (5) 7 | (5) 7 |
| 埼玉 | (13) 15 | (13) 15 | (13) 14 | (12) 13 | 1 | 1 | 1 | 1 | (13) 16 | (13) 16 | (13) 15 | (12) 14 |
| 千葉 | (3) 6 | (3) 6 | (3) 6 | (3) 5 | 1 | 1 | 1 | | (3) 7 | (3) 7 | (3) 7 | (3) 5 |
| 東京 | (16) 34 | (16) 34 | (16) 32 | (16) 30 | 7 | 7 | 7 | 4 | (16) 41 | (16) 41 | (16) 39 | (16) 34 |
| 神奈川 | (2) 4 | (2) 4 | (2) 4 | (2) 4 | 2 | 2 | 2 | 2 | (2) 6 | (2) 6 | (2) 6 | (2) 6 |
| 新潟 | (43) 64 | (42) 63 | (42) 63 | (42) 60 | 17 | 17 | 14 | 14 | (43) 81 | (42) 80 | (42) 77 | (42) 74 |
| 富山 | (2) 3 | (2) 3 | (2) 2 | (2) 2 | | | | | (2) 3 | (2) 3 | (2) 2 | (2) 2 |
| 石川 | (6) 7 | (6) 7 | (6) 7 | (6) 6 | 3 | 3 | 3 | 3 | (6) 10 | (6) 10 | (6) 10 | (6) 9 |
| 福井 | (2) 4 | (1) 3 | (1) 2 | (1) 2 | | | | | (2) 4 | (1) 3 | (1) 2 | (1) 2 |
| 山梨 | (3) 3 | (3) 3 | (3) 3 | (3) 3 | | | | | (3) 3 | (3) 3 | (3) 3 | (3) 3 |
| 長野 | (14) 14 | (14) 14 | (14) 14 | (14) 14 | 2 | 2 | 2 | 1 | (14) 16 | (14) 16 | (14) 16 | (14) 15 |
| 岐阜 | (3) 3 | (3) 3 | (3) 3 | (3) 3 | | | | | (3) 3 | (3) 3 | (3) 3 | (3) 3 |
| 静岡 | (6) 7 | (6) 7 | (6) 7 | (6) 7 | (1) 2 | (1) 2 | (1) 1 | (1) 1 | (7) 9 | (7) 9 | (7) 8 | (7) 8 |
| 愛知 | (2) 5 | (2) 5 | (2) 5 | (2) 5 | | | | | (2) 5 | (2) 5 | (2) 5 | (2) 5 |
| 三重 | (1) 1 | (1) 1 | (1) 1 | (1) 1 | | | | | (1) 1 | (1) 1 | (1) 1 | (1) 1 |
| 滋賀 | 2 | 2 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 3 | 3 | 3 | 2 |
| 京都 | 6 | 5 | 4 | 3 | | | | | 6 | 5 | 4 | 3 |
| 大阪 | 1 | 1 | 1 | | | | | | 1 | 1 | 1 | |
| 兵庫 | | | | | 1 | 1 | 1 | | 1 | 1 | 1 | |
| 奈良 | | | | | | | | | | | | |
| 和歌山 | | | | | | | | | | | | |
| 鳥取 | | | | | | | | | | | | |
| 島根 | | | | | | | | | | | | |
| 岡山 | | | | | | | | | | | | |
| 広島 | | | | | | | | | | | | |
| 山口 | | | | | | | | | | | | |
| 徳島 | 1 | 1 | 1 | | | | | | 1 | 1 | 1 | |
| 香川 | | | | | | | | | | | | |
| 愛媛 | 1 | 1 | 1 | | | | | | 1 | 1 | 1 | |
| 高知 | 1 | 1 | 1 | 1 | | | | | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 福岡 | (3) 3 | (3) 3 | (3) 3 | (3) 3 | | | | | (3) 3 | (3) 3 | (3) 3 | (3) 3 |
| 佐賀 | | | | | | | | | | | | |
| 長崎 | (1) 1 | (1) 1 | (1) 1 | (1) 1 | | | | | (1) 1 | (1) 1 | (1) 1 | (1) 1 |
| 熊本 | | | | | | | | | | | | |
| 大分 | | | | | | | | | | | | |
| 宮崎 | | | | | | | | | | | | |
| 鹿児島 | | | | | | | | | | | | |
| 沖縄 | (2) 2 | (2) 2 | (2) 2 | (2) 2 | | | | | (2) 2 | (2) 2 | (2) 2 | (2) 2 |
| 外国 | 4 | 4 | 4 | 4 | 2 | 2 | 2 | 2 | 6 | 6 | 6 | 6 |
| 計 | (154) 237 | (152) 234 | (152) 226 | (151) 211 | (1) 41 | (1) 41 | (1) 37 | (1) 31 | (155) 278 | (153) 275 | (153) 263 | (152) 242 |

（注）1　（　）内は現職教員（3年以上の教職経験を有する者）で内数である。
　　2　定員外：国費外国人留学生3人は含まない。

ウ　現職教員（教職経験年数３年以上）の教職経験年数別

| 教職経験年数 | 応募者 | 受験者 | 合格者 | 入学者 |
|---|---|---|---|---|
| 3 | | | | |
| 4 | | | | |
| 5 | (1) 2 | (1) 2 | (1) 2 | (1) 2 |
| 6 | 4 | 4 | 4 | 4 |
| 7 | 4 | 4 | 4 | 4 |
| 8 | (1) 7 | (1) 7 | (1) 7 | (1) 7 |
| 9 | (2) 11 | (2) 10 | (2) 10 | (2) 10 |
| 10 | (4) 12 | (4) 12 | (4) 12 | (4) 12 |
| 11 | (4) 17 | (4) 17 | (4) 17 | (4) 17 |
| 12 | (3) 18 | (3) 18 | (3) 18 | (3) 18 |
| 13 | (4) 22 | (3) 21 | (3) 21 | (3) 21 |
| 14 | (3) 12 | (3) 12 | (3) 12 | (3) 11 |
| 15 | (6) 18 | (6) 18 | (6) 18 | (6) 18 |
| 16 | (1) 7 | (1) 7 | (1) 7 | (1) 7 |
| 17 | (2) 12 | (2) 12 | (2) 12 | (2) 12 |
| 18 | (1) 4 | (1) 4 | (1) 4 | (1) 4 |
| 19 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| 20 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 21 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 22 | | | | |
| 23 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 24 | | | | |
| 25 | | | | |
| 26 | | | | |
| 27 | | | | |
| 28 | | | | |
| 29以上 | | | | |
| 計 | (32) 155 | (31) 153 | (31) 153 | (31) 152 |

（注）（　）内は女子で内数である。

エ　現職教員（教職経験年数３年以上）の年齢別

| 年　齢 | 応募者 | 受験者 | 合格者 | 入学者 |
|---|---|---|---|---|
| 25 | | | | |
| 26 | | | | |
| 27 | (1) 2 | (1) 2 | (1) 2 | (1) 2 |
| 28 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 29 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| 30 | (1) 3 | (1) 3 | (1) 3 | (1) 3 |
| 31 | (1) 8 | (1) 8 | (1) 8 | (1) 8 |
| 32 | (1) 10 | (1) 10 | (1) 10 | (1) 10 |
| 33 | (2) 7 | (2) 7 | (2) 7 | (2) 7 |
| 34 | (3) 16 | (3) 16 | (3) 16 | (3) 16 |
| 35 | (2) 20 | (2) 19 | (2) 19 | (2) 19 |
| 36 | (8) 19 | (7) 18 | (7) 18 | (7) 18 |
| 37 | (3) 17 | (3) 17 | (3) 17 | (3) 16 |
| 38 | (2) 10 | (2) 10 | (2) 10 | (2) 10 |
| 39 | (2) 13 | (2) 13 | (2) 13 | (2) 13 |
| 40 | (4) 9 | (4) 9 | (4) 9 | (4) 9 |
| 41 | (1) 9 | (1) 9 | (1) 9 | (1) 9 |
| 42 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| 43 | (1) 4 | (1) 4 | (1) 4 | (1) 4 |
| 44 | | | | |
| 45 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 46 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 47 | | | | |
| 48 | | | | |
| 49 | | | | |
| 50以上 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 計 | (32) 155 | (31) 153 | (31) 153 | (31) 152 |

| 平均年齢 | (36.1) 36.1 | (36.1) 36.1 | (36.1) 36.1 | (36.1) 36.1 |
|---|---|---|---|---|

（注）（　）内は女子で内数である。

オ　現職教員（教職経験年数３年以上）の学校種別

| 区分 | | 応募者 | | | | | | | 受験者 | | | | | | | 合格者 | | | | | | | 入学者 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 計 | 小 | 中 | 高 | 特 | 幼 | 他 | 計 | 小 | 中 | 高 | 特 | 幼 | 他 | 計 | 小 | 中 | 高 | 特 | 幼 | 他 | 計 | 小 | 中 | 高 | 特 | 幼 | 他 |
| 学校教育専攻 | 教育基礎コース | 6 | 4 | 1 | 1 | | | | 6 | 4 | 1 | 1 | | | | 8 | 5 | 1 | 2 | | | | 8 | 5 | 1 | 2 | | | |
| | 教育経営コース | 8 | 3 | 2 | 3 | | | | 8 | 3 | 2 | 3 | | | | 8 | 3 | 2 | 3 | | | | 8 | 3 | 2 | 3 | | | |
| | 教育方法コース | 19 | 11 | 6 | 2 | | | | 19 | 11 | 6 | 2 | | | | 18 | 11 | 5 | 2 | | | | 18 | 11 | 5 | 2 | | | |
| | 生徒指導コース | 23 | 13 | 7 | 3 | | | | 23 | 13 | 7 | 3 | | | | 20 | 11 | 7 | 2 | | | | 20 | 11 | 7 | 2 | | | |
| | 計 | 56 | 31 | 16 | 9 | | | | 56 | 31 | 16 | 9 | | | | 54 | 30 | 15 | 9 | | | | 54 | 30 | 15 | 9 | | | |
| 幼専 | 幼児教育攻 | 3 | 3 | | | | | | 3 | 3 | | | | | | 3 | 3 | | | | | | 2 | 2 | | | | | |
| 障専 | 障害児教育攻 | 18 | 3 | 2 | | 13 | | | 17 | 2 | 2 | | 13 | | | 18 | 3 | 2 | | 13 | | | 18 | 3 | 2 | | 13 | | |
| 教科・領域教育専攻 | 言語系コース | 11 | 2 | 5 | 4 | | | | 11 | 2 | 5 | 4 | | | | 11 | 2 | 5 | 4 | | | | 11 | 2 | 5 | 4 | | | |
| | 社会系コース | 14 | 3 | 8 | 3 | | | | 14 | 3 | 8 | 3 | | | | 14 | 3 | 8 | 3 | | | | 14 | 3 | 8 | 3 | | | |
| | 自然系コース | 18 | 6 | 9 | 3 | | | | 18 | 6 | 9 | 3 | | | | 18 | 6 | 9 | 3 | | | | 18 | 6 | 9 | 3 | | | |
| | 芸術系コース | 16 | 4 | 9 | 3 | | | | 15 | 4 | 8 | 3 | | | | 15 | 4 | 8 | 3 | | | | 15 | 4 | 8 | 3 | | | |
| | 生活・健康系コース | 19 | 7 | 9 | 2 | 1 | | | 19 | 7 | 9 | 2 | 1 | | | 20 | 7 | 10 | 2 | 1 | | | 20 | 7 | 10 | 2 | 1 | | |
| | 計 | 78 | 22 | 40 | 15 | 1 | | | 77 | 22 | 39 | 15 | 1 | | | 78 | 22 | 40 | 15 | 1 | | | 78 | 22 | 40 | 15 | 1 | | |
| 合計 | | 155 | 59 | 58 | 24 | 14 | | | 153 | 58 | 57 | 24 | 14 | | | 153 | 58 | 57 | 24 | 14 | | | 152 | 57 | 57 | 24 | 14 | | |

（注）１　小－小学校，中－中学校，高－高等学校，特－特殊教育諸学校，幼－幼稚園，他－その他
２　応募者及び受験者欄は第１志望のみの数であり，合格者及び入学者欄は第２志望の合格・入学者を含めた数である。

② 学校教育学部

ア 都道府県別

| 区分 | 推薦による選抜（募集人員 60人） | | | | 個別学力検査等による選抜（募集人員 140人） | | | | 私費外国人留学生特別選抜（募集人員 若干人） | | | | 計（募集人員 200人） | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 応募者 | 受験者 | 合格者 | 入学者 | 応募者 | 受験者 | 合格者 | 入学者 | 応募者 | 受験者 | 合格者 | 入学者 | 応募者 | 受験者 | 合格者 | 入学者 |
| 北海道 | | | | | (2) 9 | (2) 9 | (1) 2 | (1) 2 | | | | | (2) 9 | (2) 9 | (1) 2 | (1) 2 |
| 青森 | (2) 6 | (2) 6 | | | (4) 5 | (4) 5 | (1) 1 | (1) 1 | | | | | (6) 11 | (6) 11 | (1) 1 | (1) 1 |
| 岩手 | (6) 9 | (6) 9 | (1) 3 | (1) 3 | (3) 5 | (2) 3 | (2) 2 | (2) 2 | | | | | (9) 14 | (8) 12 | (3) 5 | (3) 5 |
| 宮城 | (1) 3 | (1) 3 | (1) 1 | (1) 1 | (1) 5 | 4 | | | | | | | (2) 8 | (1) 7 | (1) 1 | (1) 1 |
| 秋田 | (2) 2 | (2) 2 | | | (1) 5 | (1) 5 | | | | | | | (3) 7 | (3) 7 | | |
| 山形 | (11) 17 | (11) 16 | (1) 3 | (1) 3 | (16) 26 | (14) 22 | (4) 5 | (4) 5 | | | | | (27) 43 | (25) 38 | (5) 8 | (5) 8 |
| 福島 | (7) 10 | (7) 10 | 1 | 1 | (15) 29 | (15) 29 | (4) 8 | (4) 8 | | | | | (22) 39 | (22) 39 | (4) 9 | (4) 9 |
| 茨城 | (2) 2 | (2) 2 | (1) 1 | (1) 1 | (5) 6 | (3) 4 | (2) 2 | (2) 2 | | | | | (7) 8 | (5) 6 | (3) 3 | (3) 3 |
| 栃木 | (2) 7 | (2) 7 | | | (8) 26 | (8) 26 | 3 | 3 | | | | | (10) 33 | (10) 33 | 3 | 3 |
| 群馬 | (7) 8 | (7) 8 | (1) 1 | (1) 1 | (13) 25 | (12) 24 | 2 | 2 | | | | | (20) 33 | (19) 32 | (1) 3 | (1) 3 |
| 埼玉 | (2) 4 | (2) 3 | | | (3) 5 | (3) 5 | | | | | | | (5) 9 | (5) 8 | | |
| 千葉 | 1 | 1 | 1 | 1 | (3) 8 | (3) 7 | (2) 2 | (2) 2 | | | | | (3) 9 | (3) 8 | (2) 3 | (2) 3 |
| 東京 | (2) 4 | (2) 4 | (1) 1 | (1) 1 | (4) 9 | (3) 8 | (1) 2 | 1 | | | | | (6) 13 | (5) 12 | (2) 3 | (1) 2 |
| 神奈川 | | | | | (1) 8 | (1) 8 | 1 | 1 | | | | | (1) 8 | (1) 8 | 1 | 1 |
| 新潟 | (39) 67 | (39) 67 | (11) 18 | (11) 18 | (133) 224 | (123) 209 | (19) 28 | (18) 25 | | | | | (172) 291 | (162) 276 | (30) 46 | (29) 43 |
| 富山 | (28) 31 | (28) 31 | (13) 14 | (13) 14 | (77) 100 | (66) 87 | (15) 17 | (11) 12 | | | | | (105) 131 | (94) 118 | (28) 31 | (24) 26 |
| 石川 | (6) 9 | (6) 9 | 2 | 2 | (65) 97 | (64) 94 | (18) 27 | (16) 21 | | | | | (71) 106 | (70) 103 | (18) 29 | (16) 23 |
| 福井 | (5) 9 | (5) 9 | (1) 1 | (1) 1 | (27) 43 | (26) 40 | (6) 9 | (5) 8 | | | | | (32) 52 | (31) 49 | (7) 10 | (6) 9 |
| 山梨 | (2) 2 | (2) 2 | | | (7) 9 | (7) 9 | (2) 3 | (1) 1 | | | | | (9) 11 | (9) 11 | (2) 3 | (1) 1 |
| 長野 | (32) 41 | (31) 40 | (5) 5 | (5) 5 | (64) 97 | (59) 92 | (12) 14 | (9) 11 | | | | | (96) 138 | (90) 132 | (17) 19 | (14) 16 |
| 岐阜 | 2 | 2 | | | (1) 9 | (1) 9 | | | | | | | (1) 11 | (1) 11 | | |
| 静岡 | (7) 15 | (7) 15 | 1 | 1 | (14) 32 | (13) 31 | (1) 3 | (1) 3 | | | | | (21) 47 | (20) 46 | (1) 4 | (1) 4 |
| 愛知 | (3) 4 | (3) 4 | | | (18) 45 | (17) 44 | (3) 11 | (3) 5 | | | | | (21) 49 | (20) 48 | (3) 11 | (3) 5 |
| 三重 | | | | | (2) 2 | (2) 2 | | | | | | | (2) 2 | (2) 2 | | |
| 滋賀 | (3) 4 | (2) 3 | (1) 2 | (1) 2 | (12) 15 | (11) 13 | (2) 3 | (1) 2 | | | | | (15) 19 | (13) 16 | (3) 5 | (2) 4 |
| 京都 | | | | | (4) 5 | (4) 5 | (3) 4 | (3) 4 | | | | | (4) 5 | (4) 5 | (3) 4 | (3) 4 |
| 大阪 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 兵庫 | (2) 2 | (2) 2 | | | (14) 22 | (13) 19 | (3) 5 | (3) 5 | | | | | (16) 24 | (15) 21 | (3) 5 | (3) 5 |
| 奈良 | | | | | (1) 2 | (1) 2 | | | | | | | (1) 2 | (1) 2 | | |
| 和歌山 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 鳥取 | 1 | 1 | | | (1) 4 | (1) 4 | 2 | 2 | | | | | (1) 5 | (1) 5 | 2 | 2 |
| 島根 | (1) 3 | (1) 3 | (1) 1 | (1) 1 | (8) 14 | (6) 11 | (2) 5 | (1) 3 | | | | | (9) 17 | (7) 14 | (3) 6 | (2) 4 |
| 岡山 | (1) 1 | (1) 1 | (1) 1 | (1) 1 | (7) 10 | (6) 9 | 1 | 1 | | | | | (8) 11 | (7) 10 | (1) 2 | (1) 2 |
| 広島 | (1) 2 | (1) 2 | | | (2) 2 | (2) 2 | | | | | | | (3) 4 | (3) 4 | | |
| 山口 | | | | | 2 | 2 | | | | | | | 2 | 2 | | |
| 徳島 | (1) 2 | (1) 2 | (1) 1 | (1) 1 | (2) 6 | (1) 5 | | | | | | | (3) 8 | (2) 7 | (1) 1 | (1) 1 |
| 香川 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 愛媛 | 1 | 1 | 1 | 1 | (2) 6 | (2) 5 | | | | | | | (2) 7 | (2) 6 | 1 | 1 |
| 高知 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 福岡 | | | | | (3) 4 | (3) 4 | (2) 2 | (2) 2 | | | | | (3) 4 | (3) 4 | (2) 2 | (2) 2 |
| 佐賀 | | | | | (1) 2 | (1) 2 | | | | | | | (1) 2 | (1) 2 | | |
| 長崎 | 1 | 1 | | | (5) 16 | (5) 16 | (4) 6 | (3) 5 | | | | | (5) 17 | (5) 17 | (4) 6 | (3) 5 |
| 熊本 | 1 | 1 | 1 | 1 | (2) 7 | (2) 7 | | | | | | | (2) 8 | (2) 8 | 1 | 1 |
| 大分 | | | | | 1 | 1 | 1 | | | | | | 1 | 1 | 1 | |
| 宮崎 | (1) 1 | (1) 1 | | | (3) 7 | (3) 7 | (1) 3 | 2 | | | | | (4) 8 | (4) 8 | (1) 3 | 2 |
| 鹿児島 | | | | | (1) 3 | (1) 3 | 2 | 2 | | | | | (1) 3 | (1) 3 | 2 | 2 |
| 沖縄 | | | | | (1) 2 | (1) 2 | (1) 1 | (1) 1 | | | | | (1) 2 | (1) 2 | (1) 1 | (1) 1 |
| その他 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計 | (176) 272 | (174) 268 | (40) 60 | (40) 60 | (556) 959 | (512) 895 | (111) 177 | (94) 144 | 0 | － | － | － | (732) 1,231 | (686) 1,163 | (151) 237 | (134) 204 |

（注） 1 課程は，初等教育教員養成課程である。

2 （ ）内は女子で内数である。

イ　高等学校卒業年度別

| 高等学校卒業年度 | 平成11年3月高校卒 | 平成10年3月高校卒 | 平成9年3月高校卒 | 平成8年3月高校卒 | 平成7年3月以前高校卒 | 外国の学校卒 | 専修学校高等課程卒 | その他(検定等) | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 応募者数 | (670)<br>1,080 | (58)<br>134 | (2)<br>12 | 3 | (2)<br>2 | | | | (732)<br>1,231 |
| 入学者数 | (116)<br>167 | (17)<br>31 | 5 | | (1)<br>1 | | | | (134)<br>204 |

(注)(　)内は女子で内数である。

## ⑵ 在学者数

### ① 大学院学校教育研究科

#### ア 専攻・コース別

平成10年５月１日現在

| 区分 | | | 1年次 現職教員 | 1年次 外国人留学生 | 1年次 その他 | 1年次 計 | 2年次 現職教員 | 2年次 外国人留学生 | 2年次 その他 | 2年次 計 | 合計 現職教員 | 合計 外国人留学生 | 合計 その他 | 合計 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学校教育専攻 | 教育基礎コース | | (1) 6 | | (2) 2 | (3) 8 | (2) 11 | | (1) 1 | (3) 12 | (3) 17 | | (3) 3 | (6) 20 |
| | 教育経営コース | | (4) 12 | 1 | 3 | (4) 16 | 11 | (1) 1 | 3 | (1) 15 | (4) 23 | (1) 2 | 6 | (5) 31 |
| | 教育方法コース | | 19 | | (1) 1 | (1) 20 | (2) 23 | | | (2) 23 | (2) 42 | | (1) 1 | (3) 43 |
| | 生徒指導コース | | (1) 20 | | | (1) 20 | (1) 18 | | 1 | (1) 19 | (2) 38 | | 1 | (2) 39 |
| | 計 | | (6) 57 | 1 | (3) 6 | (9) 64 | (5) 63 | (1) 1 | (1) 5 | (7) 69 | (11) 120 | (1) 2 | (4) 11 | (16) 133 |
| 幼児教育専攻 | | | 1 | 1 | (2) 8 | (2) 10 | 1 | | (10) 16 | (10) 17 | 2 | 1 | (12) 24 | (12) 27 |
| 障害児教育専攻 | | | (1) 10 | | (9) 14 | (10) 24 | (2) 14 | | (5) 7 | (7) 21 | (3) 24 | | (14) 21 | (17) 45 |
| 教科・領域教育専攻 | 言語系コース | 国語 | (1) 10 | | 4 | (1) 14 | (2) 11 | 1 | (2) 6 | (4) 18 | (3) 21 | 1 | (2) 10 | (5) 32 |
| | | 英語 | (2) 6 | | (2) 5 | (4) 11 | (1) 5 | | (4) 5 | (5) 10 | (3) 11 | | (6) 10 | (9) 21 |
| | 社会系コース | | (1) 22 | (1) 1 | (1) 4 | (3) 27 | (1) 14 | | (2) 6 | (3) 20 | (2) 36 | (1) 1 | (3) 10 | (6) 47 |
| | 自然系コース | 数学 | 12 | | (1) 3 | (1) 15 | 9 | | 2 | 11 | 21 | | (1) 5 | (1) 26 |
| | | 理科 | 10 | 1 | 3 | 14 | 13 | | 4 | 17 | 23 | 1 | 7 | 31 |
| | 芸術系コース | 音楽 | 1 | | (5) 10 | (5) 11 | (5) 6 | | (3) 4 | (8) 10 | (5) 7 | | (8) 14 | (13) 21 |
| | | 美術 | 2 | (2) 3 | (3) 7 | (5) 12 | (2) 7 | 1 | (5) 7 | (7) 15 | (2) 9 | (2) 4 | (8) 14 | (12) 27 |
| | 生活・健康系コース | 保健体育 | (1) 7 | | (2) 6 | (3) 13 | (2) 10 | | (6) 9 | (8) 19 | (3) 17 | | (8) 15 | (11) 32 |
| | | 技術 | 1 | (1) 1 | (1) 1 | (2) 3 | 4 | (1) 2 | (1) 2 | (2) 8 | 5 | (2) 3 | (2) 3 | (4) 11 |
| | | 家庭 | (1) 1 | | (4) 6 | (5) 7 | (1) 1 | | (5) 7 | (6) 8 | (2) 2 | | (9) 13 | (11) 15 |
| | 計 | | (6) 72 | (4) 6 | (19) 49 | (29) 127 | (14) 80 | (1) 4 | (28) 52 | (43) 136 | (20) 152 | (5) 10 | (47) 101 | (72) 263 |
| 合計 | | | (13) 140 | (4) 8 | (33) 77 | (50) 225 | (21) 158 | (2) 5 | (44) 80 | (67) 243 | (34) 298 | (6) 13 | (77) 157 | (117) 468 |

（注）（ ）内は女子で内数である。

イ　都道府県別

平成10年５月１日現在

| 区分 | １年 | ２年 | 合計 |
|---|---|---|---|
| 北海道 | 6 | 6 | 12 |
| 青　森 | 3 | 6 | 9 |
| 岩　手 | 5 | 5 | 10 |
| 宮　城 | 8 | 7 | 15 |
| 秋　田 | 3 | 4 | 7 |
| 山　形 | 3 | 2 | 5 |
| 福　島 | 3 | 3 | 6 |
| 茨　城 | 2 | 3 | 5 |
| 栃　木 | 2 | 4 | 6 |
| 群　馬 | 6 | 6 | 12 |
| 埼　玉 | 12 | 14 | 26 |
| 千　葉 | 6 | 10 | 16 |
| 東　京 | 29 | 23 | 52 |
| 神奈川 | 4 | 11 | 15 |
| 新　潟 | 64 | 70 | 134 |
| 富　山 | 6 | 2 | 8 |
| 石　川 | 8 | 8 | 16 |
| 福　井 | 1 | 2 | 3 |
| 山　梨 | 4 | 6 | 10 |
| 長　野 | 17 | 16 | 33 |
| 岐　阜 | 1 | 1 | 2 |
| 静　岡 | 7 | 7 | 14 |
| 愛　知 | 3 | 6 | 9 |
| 三　重 | | | |
| 滋　賀 | | 1 | 1 |
| 京　都 | | | |
| 大　阪 | 2 | 3 | 5 |
| 兵　庫 | | 1 | 1 |
| 奈　良 | | | |
| 和歌山 | | | |
| 鳥　取 | | 1 | 1 |
| 島　根 | 1 | 1 | 2 |
| 岡　山 | | 1 | 1 |
| 広　島 | | | |
| 山　口 | 1 | | 1 |
| 徳　島 | | | |
| 香　川 | 1 | | 1 |
| 愛　媛 | 1 | | 1 |
| 高　知 | | | |
| 福　岡 | 2 | 3 | 5 |
| 佐　賀 | | | |
| 長　崎 | 1 | 1 | 2 |
| 熊　本 | | | |
| 大　分 | | | |
| 宮　崎 | | | |
| 鹿児島 | 1 | 1 | 2 |
| 沖　縄 | 3 | 3 | 6 |
| 外　国 | 8 | 5 | 13 |
| 合　計 | 224 | 243 | 467 |

ウ　現職教員の年齢・教職経験年数・学校種別

平成10年５月１日現在

| 年齢 | 教職経験年数 | | | | | 学校種別 | | | | | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 3～5年 | 6～10年 | 11～15年 | 16～20年 | 21年以上 | 幼稚園 | 小学校 | 中学校 | 高等学校 | 特殊学校 | |
| 24才以下 | | | | | | | | | | | |
| 25 | | | | | | | | | | | |
| 26 | 1 | | | | | | 1 | | | | 1 |
| 27 | 2 | | | | | | 1 | 1 | | | 2 |
| 28 | 3 | 5 | | | | | | 4 | 2 | 2 | 8 |
| 29 | | 7 | | | | | 2 | 5 | | | 7 |
| 30 | | 11 | | | | | 8 | 1 | 2 | | 11 |
| 31 | | 20 | | | | | 10 | 6 | 3 | 1 | 20 |
| 32 | | 19 | | | | | 11 | 5 | 2 | 1 | 19 |
| 33 | | 12 | 18 | | | | 13 | 13 | 2 | 2 | 30 |
| 34 | | 9 | 20 | | | | 8 | 16 | 5 | | 29 |
| 35 | | 5 | 25 | | | | 12 | 15 | 2 | 1 | 30 |
| 36 | | 5 | 28 | | | 2 | 13 | 14 | 2 | 2 | 33 |
| 37 | | 2 | 27 | | | | 15 | 11 | 2 | 1 | 29 |
| 38 | | 2 | 19 | 6 | | | 7 | 11 | 3 | 6 | 27 |
| 39 | | | 6 | 9 | | | 5 | 6 | 1 | 3 | 15 |
| 40 | | 1 | 4 | 8 | | | 4 | 1 | 7 | 1 | 13 |
| 41才以上 | | | 4 | 14 | 6 | | 8 | 3 | 11 | 2 | 24 |
| 計 | 6 | 98 | 151 | 37 | 6 | 2 | 118 | 112 | 44 | 22 | 298 |

② 学校教育学部

ア 専修・コース別

平成10年5月1日現在

| 区分 | | | 1年次 | | | 2年次 | | | 3年次 | | | 4年次 | | | 合計 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 |
| 学校教育専修 | | | 16 | 12 | 28 | 12 | 17 | 29 | 12 | 16 | 28 | 16 | 18 | 34 | 56 | 63 | 119 |
| 幼児教育専修 | | | 9 | 8 | 17 | 4 | 16 | 20 | 5 | (1) 15 | (1) 20 | 9 | 9 | 18 | 27 | (1) 48 | (1) 75 |
| 教科・領域教育専修 | 言語系国語コース | | 6 | 14 | 20 | 8 | 17 | 25 | 10 | 14 | 24 | 5 | (1) 14 | (1) 19 | 29 | (1) 59 | (1) 88 |
| | 社会系コース | | 15 | 5 | 20 | 19 | 6 | 25 | 16 | 9 | 25 | (1) 22 | 5 | (1) 27 | (1) 72 | 25 | (1) 97 |
| | 自然系 | 算数コース | 12 | 8 | 20 | 15 | 10 | 25 | 16 | 9 | 25 | 16 | 9 | 25 | 59 | 36 | 95 |
| | | 理科コース | 9 | 12 | 21 | 12 | 13 | 25 | 13 | 12 | 25 | 15 | 11 | 26 | 49 | 48 | 97 |
| | 芸術系 | 音楽コース | 6 | 13 | 19 | 2 | 12 | 14 | 5 | 10 | 15 | 5 | 14 | 19 | 18 | 49 | 67 |
| | | 図画工作コース | 10 | 9 | 19 | 3 | 4 | 7 | 4 | 7 | 11 | 2 | 8 | 10 | 19 | 28 | 47 |
| | 生活・健康系 | 体育コース | 10 | 12 | 22 | 12 | 11 | 23 | 8 | 12 | 20 | 17 | 8 | 25 | 47 | 43 | 90 |
| | | 家庭コース | 1 | 17 | 18 | 1 | 10 | 11 | 1 | 9 | 10 | 0 | 15 | 15 | 3 | 51 | 54 |
| | 計 | | 69 | 90 | 159 | 72 | 83 | 155 | 73 | 82 | 155 | (1) 82 | (1) 84 | (2) 166 | (1) 296 | (1) 339 | (2) 635 |
| 合計 | | | 94 | 110 | 204 | 88 | 116 | 204 | 90 | (1) 113 | (1) 203 | (1) 107 | (1) 111 | (2) 218 | (1) 379 | (2) 450 | (3) 829 |

（注）（ ）は外国人留学生で内数である。

イ　都道府県別

平成10年５月１日現在

| 区分 | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | 4年次 | | 合計 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 人数 | 比率 | 人数 | 比率 | 人数 | 比率 | 人数 | 比率 | 人数 | 比率 |
| 北海道 | 1 | 0.5% | 1 | 0.5% | | % | | % | 2 | 0.2% |
| 青森 | | | 2 | 1.0 | 3 | 1.5 | 4 | 1.8 | 9 | 1.1 |
| 岩手 | | | 5 | 2.5 | 7 | 3.4 | 11 | 5.0 | 23 | 2.8 |
| 宮城 | | | | | | | | | | |
| 秋田 | 3 | 1.5 | 5 | 2.5 | 3 | 1.5 | 2 | 0.9 | 13 | 1.6 |
| 山形 | 6 | 2.9 | 7 | 3.4 | 8 | 3.9 | 9 | 4.1 | 30 | 3.6 |
| 福島 | 5 | 2.5 | 6 | 2.9 | 2 | 1.0 | 3 | 1.4 | 16 | 1.9 |
| 茨城 | 3 | 1.5 | 1 | 0.5 | 2 | 1.0 | 2 | 0.9 | 8 | 1.0 |
| 栃木 | 9 | 4.4 | 4 | 2.0 | 5 | 2.5 | 12 | 5.5 | 30 | 3.6 |
| 群馬 | 4 | 2.0 | 3 | 1.5 | 5 | 2.5 | 5 | 2.3 | 17 | 2.1 |
| 埼玉 | | | | | 2 | 1.0 | 1 | 0.5 | 3 | 0.4 |
| 千葉 | 3 | 1.5 | 1 | 0.5 | | | 1 | 0.5 | 5 | 0.6 |
| 東京 | 1 | 0.5 | 2 | 1.0 | 1 | 0.5 | | | 4 | 0.5 |
| 神奈川 | | | | | | | | | | |
| 新潟 | 52 | 25.5 | 35 | 17.2 | 38 | 18.7 | 32 | 14.7 | 157 | 18.9 |
| 富山 | 12 | 5.9 | 18 | 8.8 | 28 | 13.8 | 30 | 13.8 | 88 | 10.6 |
| 石川 | 18 | 8.8 | 21 | 10.3 | 15 | 7.4 | 20 | 9.2 | 74 | 8.9 |
| 福井 | 7 | 3.4 | 12 | 5.9 | 11 | 5.4 | 17 | 7.8 | 47 | 5.7 |
| 山梨 | 4 | 2.0 | 1 | 0.5 | 2 | 1.0 | | | 7 | 0.8 |
| 長野 | 31 | 15.2 | 18 | 8.8 | 25 | 12.3 | 19 | 8.7 | 93 | 11.2 |
| 岐阜 | 3 | 1.5 | 3 | 1.5 | | | 2 | 0.9 | 8 | 1.0 |
| 静岡 | 6 | 2.9 | 4 | 2.0 | 6 | 3.0 | 3 | 1.4 | 19 | 2.3 |
| 愛知 | 11 | 5.4 | 13 | 6.4 | 6 | 3.0 | 7 | 3.2 | 37 | 4.5 |
| 三重 | 2 | 1.0 | | | 1 | 0.5 | | | 3 | 0.4 |
| 滋賀 | 4 | 2.0 | 4 | 2.0 | 2 | 1.0 | 4 | 1.8 | 14 | 1.7 |
| 京都 | | | 3 | 1.5 | 2 | 1.0 | 1 | 0.5 | 6 | 0.7 |
| 大阪 | | | 1 | 0.5 | | | 1 | 0.5 | 2 | 0.2 |
| 兵庫 | 1 | 0.5 | 4 | 2.0 | 2 | 1.0 | 7 | 3.2 | 14 | 1.7 |
| 奈良 | | | | | 1 | 0.5 | | | 1 | 0.1 |
| 和歌山 | 1 | 0.5 | | | | | | | 1 | 0.1 |
| 鳥取 | 1 | 0.5 | 2 | 1.0 | 1 | 0.5 | 3 | 1.4 | 7 | 0.8 |
| 島根 | 3 | 1.5 | 8 | 3.9 | 11 | 5.4 | 5 | 2.3 | 27 | 3.3 |
| 岡山 | 3 | 1.5 | 2 | 1.0 | 2 | 1.0 | 1 | 0.5 | 8 | 1.0 |
| 広島 | 1 | 0.5 | | | | | 1 | 0.5 | 2 | 0.2 |
| 山口 | | | 1 | 0.5 | | | | | 1 | 0.1 |
| 徳島 | 2 | 1.0 | 1 | 0.5 | 2 | 1.0 | 1 | 0.5 | 6 | 0.7 |
| 香川 | | | | | | | | | | |
| 愛媛 | | | 3 | 1.5 | 2 | 1.0 | 1 | 0.5 | 6 | 0.7 |
| 高知 | 1 | 0.5 | | | | | | | 1 | 0.1 |
| 福岡 | 1 | 0.5 | 1 | 0.5 | 1 | 0.5 | 2 | 0.9 | 5 | 0.6 |
| 佐賀 | | | | | | | | | | |
| 長崎 | 2 | 1.0 | 4 | 2.0 | 3 | 1.5 | | | 9 | 1.1 |
| 熊本 | | | 1 | 0.5 | | | | | 1 | 0.1 |
| 大分 | | | 1 | 0.5 | | | 3 | 1.4 | 4 | 0.5 |
| 宮崎 | 1 | 0.5 | 4 | 2.0 | 1 | 0.5 | 1 | 0.5 | 7 | 0.8 |
| 鹿児島 | 1 | 0.5 | 2 | 1.0 | 1 | 0.5 | 5 | 2.3 | 9 | 1.1 |
| 沖縄 | 1 | 0.5 | | | 1 | 0.5 | | | 2 | 0.2 |
| 外国 | | | | | 1 | 0.5 | 2 | 0.9 | 3 | 0.4 |
| 合計 | 204 | － | 204 | － | 203 | － | 218 | － | 829 | － |

（注）比率は，小数点第２位を四捨五入で算出したものである。

③　科目等履修生等

ア　科目等履修生

平成10年５月１日現在

| 区　　分 | 男 | 女 | 計 |
|---|---|---|---|
| 大学院学校教育研究科 | 4 | 4 | 8 |
| 学校教育学部 | 19 | 7 | 26 |

イ　研究生

平成10年５月１日現在

| 男 | 女 | 計 |
|---|---|---|
| 13<br>(3) | 13<br>(5) | 26<br>(8) |

（注）（　）内は外国人留学生で内数である。

④　外国人留学生

ア　国・地域別

| 国・地域名 | 大学院(修士課程)学生 | | 学部学生 | | 科目等履修生 | | 特別研究学生 | | 研究生 | | 合計 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 国費 | 私費 | 国費 | 私費 | 国費 | 私費 | 国費 | 私費 | 国費 | 私費 | 国費 | 私費 | 計 |
| 中国 | 1 | 7 | | 1 | | | | | 2 | 6 | 3 | 14 | 17 |
| 台湾 | | 1 | | 1 | | | | | | 1 | | 3 | 3 |
| 韓国 | | 1 | | 1 | | | | 2 | | | | 4 | 4 |
| 香港 | | 1 | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| マレーシア | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 |
| ヴィエトナム | | | | | 1 | | | | | | 1 | | 1 |
| アメリカ合衆国 | | | | | 1 | | | | | | 1 | | 1 |
| メキシコ | | | | | | | | | 2 | | 2 | | 2 |
| パナマ | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 |
| ブラジル | | | | | 1 | | | | | | 1 | | 1 |
| フランス | 1 | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| ロシア | 1 | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| イギリス | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 1 |
| 計 | 3 | 10 | | 3 | 3 | | | 2 | 7 | 7 | 13 | 22 | 35 |

イ　在籍者一覧

| 国費・私費の別 | 国・地域名 | 氏名 | 性別 | 年齢 | 在籍身分 | 在籍期間 | 専攻 | 指導教官<br>クラス担当教官 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 国費 | 中国 | 鄧　麗濤<br>とう・れいとう | 女 | 29 | 大学院２年 | 平成８．１～平成11．３ | 教育経営 | 西教授 |
| 私費 | 韓国 | 厳　大漢<br>オム・デハン | 男 | 27 | 大学院２年 | 平成９．４～平成11．３ | 国語 | 小埜助教授 |
| 私費 | 台湾 | 蔡　志英<br>さい・しえ | 男 | 40 | 大学院２年 | 平成８．５～平成11．３ | 美術 | 山ノ下教授 |
| 国費 | ロシア | KHENNER, KARL EVGUENI<br>ヘンネ・カール・ユーゲニー | 男 | 27 | 大学院２年 | 平成８．10～平成11．３ | 技術 | 大森講師 |
| 私費 | 中国 | 劉　艶春<br>りゅう・えんしゅん | 女 | 32 | 大学院２年 | 平成８．10～平成11．３ | 技術 | 川島教授 |
| 私費 | 中国 | 牛　志奎<br>ぎゅう・しかい | 男 | 35 | 大学院１年 | 平成８．11～平成12．３ | 教育経営 | 若井教授 |
| 私費 | 香港<br>(イギリス国籍) | 黄　志泉<br>こう・しせん | 男 | 33 | 大学院１年 | 平成８．10～平成12．３ | 幼児教育 | 木村助教授 |
| 私費 | 中国 | 曹　雯<br>そう・ぶん | 女 | 30 | 大学院１年 | 平成９．４～平成12．３ | 社会 | 二谷教授 |
| 私費 | 中国 | 趙　新尼根<br>ちょう・しんにごん | 男 | 50 | 大学院１年 | 平成10．４～平成12．３ | 理科 | 戸北教授 |
| 私費 | 中国 | 費　明宇<br>ひ・めいう | 男 | 34 | 大学院１年 | 平成10．４～平成12．３ | 美術 | 大嶋助教授 |

| 国費・私費の別 | 国・地域名 | 氏名 | 性別 | 年齢 | 在籍身分 | 在籍期間 | 専攻 | 指導教官<br>クラス担当教官 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 国費 | フランス | MASURE, BLANDINE<br>マズーレ・ブロンディーヌ | 女 | 33 | 大学院１年 | 平成８．10～平成12．３ | 美術 | 髙石助教授 |
| 私費 | 中国 | 張　輝<br>ちょう・き | 女 | 30 | 大学院１年 | 平成６．４～平成12．３ | 美術 | 西野教授 |
| 私費 | 中国 | 王　海兵<br>おう・かい　へい | 女 | 29 | 大学院１年 | 平成10．４～平成12．３ | 技術 | 石田教授 |
| 私費 | 中国 | 徐　磊<br>じょ・らい | 男 | 26 | 研究生 | 平成10．４～平成11．３ | 教育経営 | 西教授 |
| 私費 | 中国 | 劉　迪<br>りゅう・てき | 女 | 28 | 研究生 | 平成10．４～平成11．３ | 幼児教育 | 細井教授 |
| 私費 | 中国 | 金　嫦娥<br>きん・じょうや | 女 | 27 | 研究生 | 平成９．10～平成10．９ | 国語 | 前川(幸)教授 |
| 私費 | 台湾 | 李　若筠<br>り・じゃくいん | 女 | 25 | 研究生 | 平成10．４～平成11．３ | 国語 | 田島講師 |
| 国費 | イギリス | HUTTON, NICOLA<br>ハットン・ニコラ | 女 | 27 | 研究生 | 平成９．10～平成11．３ | 社会 | 浅倉助教授 |
| 国費 | メキシコ | LOZANO, REYES JOSE GERMAN<br>ロサノ・レイエス・ホセ・ヘルマン | 男 | 33 | 研究生 | 平成10．10～平成12．３ | 社会 | 二谷教授 |
| 私費 | 中国 | 徐　晨陽<br>じょ・しんよう | 男 | 32 | 研究生 | 平成６．10～平成10．９ | 美術 | 増谷教授 |
| 国費 | パナマ | HACKIN CASTRO, NELSON<br>ハッキン・カストロ・ネルソン | 男 | 35 | 研究生 | 平成10．10～平成11．３ | 美術 | 西野教授 |
| 国費 | 中国 | 陳　華偉<br>ちん・かい | 男 | 23 | 研究生 | 平成10．10～平成12．３ | 技術 | 黎助教授 |
| 私費 | 中国 | 王　静<br>おう・せい | 女 | 34 | 研究生 | 平成10．10～平成11．９ | 技術 | 石田教授 |
| 国費 | マレーシア | JOHNNY, GARY<br>ジョニー・ゲリー | 男 | 25 | 研究生 | 平成10．10～平成10．12<br>平成11．１～平成12．３ | 学校教育研究センター<br>英語 | 中野教授<br>熊井助教授 |
| 国費<br>(教員研修) | 中国 | 罗　朝猛<br>ら・ちょうもう | 男 | 35 | 研究生 | 平成10．４～平成11．３ | 教育方法 | 田中助教授 |
| 国費<br>(教員研修) | メキシコ | GOMEZ, MURILLO TELMA MARTHA<br>ゴメス・ムリロ・テルマ・マルタ | 女 | 32 | 研究生 | 平成10．４～平成11．３ | 音楽 | 茂手木教授 |
| 私費<br>(短期留学推進制度) | 韓国 | 鄭　然奎<br>チョン・ヨウンキュ | 男 | 26 | 特別研究学生 | 平成９．９～平成10．８ | 教育経営 | 西教授 |
| 私費<br>(短期留学推進制度) | 韓国 | 金　賢貞<br>キム・ヒョンジョン | 女 | 26 | 特別研究学生 | 平成10．９～平成11．８ | 教育基礎 | 前田教授 |
| 私費 | 中国 | 邢　永軍<br>けい・えいぐん | 男 | 28 | 学部４年<br>研究生 | 平成６．４～平成10．９<br>平成10．10～平成11．３ | 社会 | 二谷教授<br>鈴木教授 |
| 私費 | 韓国 | 白　鍾美<br>ベク・ジョンミ | 女 | 25 | 学部４年 | 平成７．４～平成11．３ | 国語 | 小埜助教授 |
| 私費 | 台湾 | 張　國麗<br>ちょう・こくれい | 女 | 25 | 学部３年 | 平成８．４～平成12．３ | 幼児教育 | 木村助教授 |
| 国費<br>(日本語・日本文化) | アメリカ合衆国 | MORGAN, CHARLES VINCENT JUNIOR<br>モーガン・チャールズ・ビンセント・ジュニア | 男 | 25 | 科目等履修生<br>(学部) | 平成９．10～平成10．９ | 国語 | 田島講師 |
| 国費<br>(日本語・日本文化) | ブラジル | TANAKA, LUCIENE<br>タナカ・ルシエネ | 女 | 24 | 科目等履修生<br>(学部) | 平成９．10～平成10．９ | 国語 | 田島講師 |
| 国費<br>(日本語・日本文化) | ヴィエトナム | LUONG, BINH THANH<br>ロング・ビン・タン | 女 | 21 | 科目等履修生<br>(学部) | 平成10．10～平成11．９ | 国語 | 田島講師 |

（注）本表における氏名の表記は，文部省の国費外国人留学生申請書の様式に準じ，姓，名，（ミドルネーム）の順に統一する。

### (3) 修了者・卒業者数

① 大学院学校教育研究科（専攻・コース別）

平成11年３月31日現在

| 区分 | | | 昭和59年度～平成９年度 | | | | 平成10年度 | | | | 累計 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 現職教員 | 外国人留学生 | その他 | 計 | 現職教員 | 外国人留学生 | その他 | 計 | 現職教員 | 外国人留学生 | その他 | 計 |
| 学校教育専攻 | 教育基礎コース | | (12) 116 | (4) 5 | (21) 42 | (37) 163 | (2) 11 | | (1) 1 | (3) 12 | (14) 127 | (4) 5 | (22) 43 | (40) 175 |
| | 教育経営コース | | (6) 103 | (3) 5 | (5) 26 | (14) 134 | 11 | (1) 1 | 1 | (1) 13 | (6) 114 | (4) 6 | (5) 27 | (15) 147 |
| | 教育方法コース | | (9) 236 | 1 | (4) 9 | (13) 246 | (2) 23 | | | (2) 23 | (11) 259 | 1 | (4) 9 | (15) 269 |
| | 生徒指導コース | | (11) 183 | | (10) 14 | (21) 197 | (1) 18 | | 1 | (1) 19 | (12) 201 | | (10) 15 | (22) 216 |
| | 計 | | (38) 638 | (7) 11 | (40) 91 | (85) 740 | (5) 63 | (1) 1 | (1) 3 | (7) 67 | (43) 701 | (8) 12 | (41) 94 | (92) 807 |
| 幼児教育専攻 | | | (4) 10 | (3) 3 | (30) 58 | (37) 71 | 1 | | (9) 13 | (9) 14 | (4) 11 | (3) 3 | (39) 71 | (46) 85 |
| 障害児教育専攻 | | | (16) 131 | (1) 1 | (64) 143 | (81) 275 | (2) 14 | | (5) 7 | (7) 21 | (18) 145 | (1) 1 | (69) 150 | (88) 296 |
| 教科・領域教育専攻 | 言語系コース | 国語 | (22) 128 | (5) 8 | (35) 63 | (62) 199 | (2) 11 | 1 | (2) 6 | (4) 18 | (24) 139 | (5) 9 | (37) 69 | (66) 217 |
| | | 英語 | (4) 59 | | (16) 47 | (20) 106 | (1) 5 | | (3) 4 | (4) 9 | (5) 64 | | (19) 51 | (24) 115 |
| | 社会系コース | | (7) 197 | (2) 2 | (16) 92 | (25) 291 | (1) 14 | | (1) 5 | (2) 19 | (8) 211 | (2) 2 | (17) 97 | (27) 310 |
| | 自然系コース | 数学 | (9) 133 | 1 | (12) 42 | (21) 176 | 9 | | 2 | 11 | (9) 142 | 1 | (12) 44 | (21) 187 |
| | | 理科 | (9) 196 | | (12) 53 | (21) 249 | 13 | | 4 | 17 | (9) 209 | | (12) 57 | (21) 266 |
| | 芸術系コース | 音楽 | (17) 58 | (1) 2 | (51) 72 | (69) 132 | (5) 6 | | (3) 4 | (8) 10 | (22) 64 | (1) 2 | (54) 76 | (77) 142 |
| | | 美術 | (10) 72 | (10) 18 | (53) 119 | (73) 209 | (2) 7 | 1 | (5) 7 | (7) 15 | (12) 79 | (10) 19 | (58) 126 | (80) 224 |
| | 生活・健康系コース | 保健体育 | (9) 165 | 2 | (15) 69 | (24) 236 | (2) 10 | | (6) 8 | (8) 18 | (11) 175 | 2 | (21) 77 | (32) 254 |
| | | 技術 | 47 | 3 | 27 | 77 | 4 | (1) 2 | (1) 2 | (2) 8 | 51 | (1) 5 | (1) 29 | (2) 85 |
| | | 家庭 | (13) 13 | | (34) 35 | (47) 48 | (1) 1 | | (4) 4 | (5) 5 | (14) 14 | | (38) 39 | (52) 53 |
| | 計 | | (100) 1,068 | (18) 36 | (244) 619 | (362) 1,723 | (14) 80 | (1) 4 | (25) 46 | (40) 130 | (114) 1,148 | (19) 40 | (269) 665 | (402) 1,853 |
| 合計 | | | (158) 1,847 | (29) 51 | (378) 911 | (565) 2,809 | (21) 158 | (2) 5 | (40) 69 | (63) 232 | (179) 2,005 | (31) 56 | (418) 980 | (628) 3,041 |

（注）（ ）内は女子で内数である。

② 学校教育学部（専修・コース別）

平成11年３月31日現在

| 区分 | | | 昭和59年度～平成９年度 | | | 平成10年度 | | | 累計 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 |
| 学校教育専修 | | | 146 | 255 | 401 | 15 | 18 | 33 | 161 | 273 | 434 |
| 幼児教育専修 | | | 18 | (1) 139 | (1) 157 | 5 | 9 | 14 | 23 | (1) 148 | (1) 171 |
| 教科・領域教育専修 | 言語系国語コース | | 79 | (1) 266 | (1) 345 | 5 | (1) 13 | (1) 18 | 84 | (2) 279 | (2) 363 |
| | 社会系コース | | 195 | 156 | 351 | (1) 20 | 5 | (1) 25 | (1) 215 | 161 | (1) 376 |
| | 自然系 | 算数コース | 146 | 175 | 321 | 11 | 9 | 20 | 157 | 184 | 341 |
| | | 理科コース | 141 | 136 | 277 | 15 | 10 | 25 | 156 | 146 | 302 |
| | 芸術系 | 音楽コース | 45 | 193 | 238 | 5 | 13 | 18 | 50 | 206 | 256 |
| | | 図画工作コース | 73 | (2) 119 | (2) 192 | 1 | 8 | 9 | 74 | (2) 127 | (2) 201 |
| | 生活・健康系 | 体育コース | 147 | 180 | 327 | 14 | 8 | 22 | 161 | 188 | 349 |
| | | 家庭コース | 2 | 166 | 168 | 0 | 13 | 13 | 2 | 179 | 181 |
| | 計 | | 828 | (3) 1,391 | (3) 2,219 | (1) 71 | (1) 79 | (2) 150 | (1) 899 | (4) 1,470 | (5) 2,369 |
| 合計 | | | 992 | (4) 1,785 | (4) 2,777 | (1) 91 | (1) 106 | (2) 197 | (1) 1,083 | (5) 1,891 | (6) 2,974 |

（注）（ ）は外国人留学生で内数である。

## ⑷ 休学者・退学者数

### ① 大学院学校教育研究科（専攻・コース別）

| 区分 | | | 休学者 | | | | | | | | | | | | 退学者 | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 1年次 | | | | 2年次 | | | | 合計 | | | | 1年次 | | | | 2年次 | | | | 合計 | | | |
| | | | 現職教員 | 外国人留学生 | その他 | 計 | 現職教員 | 外国人留学生 | その他 | 計 | 現職教員 | 外国人留学生 | その他 | 計 | 現職教員 | 外国人留学生 | その他 | 計 | 現職教員 | 外国人留学生 | その他 | 計 | 現職教員 | 外国人留学生 | その他 | 計 |
| 学校教育専攻 | 教育基礎コース | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 教育経営コース | | | | | | | | 1 | 1 | | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | |
| | 教育方法コース | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | 1 | | | | | 1 | | | 1 |
| | 生徒指導コース | | | | | | | | 1 | 1 | | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | |
| | 計 | | | | | | | | 2 | 2 | | | 2 | 2 | 1 | | | 1 | | | | | 1 | | | 1 |
| 幼児教育専攻 | | | 1 | | | 1 | | | | | 1 | | | 1 | 1 | | | 1 | | | 2 | 2 | 1 | | 2 | 3 |
| 障害児教育専攻 | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 2 | | | 1 | 1 | | | 3 | 3 |
| 教科・領域教育専攻 | 言語系コース | 国語 | | | 1 | 1 | | | | | | | 1 | 1 | | | 1 | 1 | | | | | | | 1 | 1 |
| | | 英語 | | | | | | | (2)2 | (2)2 | | | (2)2 | (2)2 | | | | | | | | | | | | |
| | 社会系コース | | | | | | | | (1)1 | (1)1 | | | (1)1 | (1)1 | | | | | | | | | | | | |
| | 自然系コース | 数学 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 理科 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 芸術系コース | 音楽 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 美術 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 生活・健康系コース | 保健体育 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 技術 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 家庭 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 計 | | | | 1 | 1 | | | (3)3 | (3)3 | | | (3)4 | (3)4 | | | 1 | 1 | | | | | | | 1 | 1 |
| 合計 | | | 1 | | 1 | 2 | | | (3)5 | (3)5 | 1 | | (3)6 | (3)7 | 2 | | 3 | 5 | | | 3 | 3 | 2 | | 6 | 8 |

（注）（　）内は女子で内数である。

② 学校教育学部（専修・コース別）

| 区分 | | | 1年次 | | | 2年次 | | | 3年次 | | | 4年次 | | | 合計 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 |
| 学校教育専修 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | 1 | | 1 | | | | | | | 1 | | 1 |
| 幼児教育専修 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | 1 | | 1 |
| 教科・領域教育専修 | 言語系国語コース | | 1 | | 1 | | | | | | | | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 |
| | | | 1 | | 1 | | | | | | | | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 |
| | 社会系コース | | 1 | | 1 | | | | 1 | | 1 | | | | 2 | | 2 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 自然系 | 算数コース | | | | | | | | | | 1 | | 1 | 1 | | 1 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 理科コース | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | 1 | 1 |
| | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | 1 | 1 |
| | 芸術系 | 音楽コース | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | 1 | 1 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 図画工作コース | 1 | | 1 | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 生活・健康系 | 体育コース | | | | 1 | | 1 | | | | 1 | | 1 | 2 | | 2 |
| | | | | | | 1 | | 1 | | | | | | | 1 | | 1 |
| | | 家庭コース | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | 1 | 1 |
| | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | 1 | 1 |
| | 計 | | 3 | | 3 | 1 | | 1 | 1 | | 1 | 2 | 4 | 6 | 7 | 4 | 11 |
| | | | 1 | | 1 | 1 | | 1 | | | | | 3 | 3 | 2 | 3 | 5 |
| 合計 | | | 3 | | 3 | 1 | | 1 | 1 | | 1 | 2 | 4 | 6 | 7 | 4 | 11 |
| | | | 1 | | 1 | 2 | | 2 | | | | 1 | 3 | 4 | 4 | 3 | 7 |

（注）上段は休学者数，下段は退学者数である。

## (5) 各教員の担当授業科目・授業時間数一覧

（平成10年5月1日現在）

〈副学長〉

| 職名 | 氏名 | 授業科目名（△印は大学院の授業科目を示す。） | 毎週授業時数 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 講義 | 演習 | 実験実習実技 | 計 |
| 副学長 | 大澤健郎 | 自然A | 0.5 | | | 0.5 |
| | | エネルギーと環境 | 0.33 | | | 0.33 |
| | | 計 | 0.83 | | | 0.83 |
| 副学長 | 湧井豊 | △障害児臨床基礎実習B | | | 0.5 | 0.5 |
| | | △障害児診断法基礎実習B | | | 0.5 | 0.5 |
| | | △障害児教育観察・参加B | | | 0.33 | 0.33 |
| | | △言語障害児指導法特論 | 1 | | | 1 |
| | | △言語障害児指導法演習 | | 1 | | 1 |
| | | △障害児臨床実習B | | | 0.5 | 0.5 |
| | | △障害児診断法実習B | | | 0.5 | 0.5 |
| | | △教育実践場面分析演習「障害児」 | | 0.09 | | 0.09 |
| | | 計 | 1 | 1.09 | 2.33 | 4.42 |

〈教育基礎講座〉

| 職名 | 氏名 | 授業科目名（△印は大学院の授業科目を示す。） | 毎週授業時数 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 講義 | 演習 | 実験実習実技 | 計 |
| 教授 | 新井郁男 | 基礎演習 | | 0.04 | | 0.04 |
| | | 教育社会学 | 1 | | | 1 |
| | | 教育社会学特講 | 1 | | | 1 |
| | | 生涯学習概論A | 1 | | | 1 |
| | | 社会教育計画A | 1 | | | 1 |
| | | 社会教育演習I | | 1 | | 1 |
| | | △教育基礎研究法 | 0.14 | | | 0.14 |
| | | △教育社会学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △教育社会学演習I | | 1 | | 1 |
| | | △教育社会学演習II | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「教育基礎」 | | 0.14 | | 0.14 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 5.14 | 5.18 | | 10.32 |
| 教授 | 前田幹 | 基礎演習 | | 0.04 | | 0.04 |
| | | 教育哲学 | 1 | | | 1 |
| | | △教育人間学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △教育基礎研究法 | 0.14 | | | 0.14 |
| | | △教育人間学演習I | | 1 | | 1 |
| | | △教育人間学演習II | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「教育基礎」 | | 0.14 | | 0.14 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 2.14 | 4.18 | | 6.32 |
| 教授 | 増井三夫 | 基礎演習 | | 0.04 | | 0.04 |
| | | 教育史 | 1 | | | 1 |
| | | 外国史II（教育史を含む。） | 1 | | | 1 |
| | | △教育基礎研究法 | 0.14 | | | 0.14 |
| | | △教育史特論 | 1 | | | 1 |
| | | △教育史演習I | | 1 | | 1 |
| | | △教育史演習II | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「教育基礎」 | | 0.14 | | 0.14 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 3.14 | 4.18 | | 7.32 |
| 助教授 | 阿部勲 | 基礎演習 | | 0.04 | | 0.04 |
| | | 発達心理学 | 1 | | | 1 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 児童心理学 | 1 | | | 1 |
| | | 教育事例研究法 | | | 2 | 2 |
| | | △教育基礎研究法 | 0.14 | | | 0.14 |
| | | △発達心理学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △発達心理学演習Ⅰ | | 1 | | 1 |
| | | △発達心理学演習Ⅱ | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「教育基礎」 | | 0.14 | | 0.14 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 3.14 | 4.18 | 2 | 9.32 |
| 助教授 | 杵淵俊夫 | 基礎演習 | | 0.04 | | 0.04 |
| | | 日本教育思想 | 1 | | | 1 |
| | | 教育本質論 | 1 | | | 1 |
| | | △教育基礎研究法 | 0.14 | | | 0.14 |
| | | △教育学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △教育学演習Ⅰ | | 1 | | 1 |
| | | △教育学演習Ⅱ | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「教育基礎」 | | 0.14 | | 0.14 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 3.14 | 4.18 | | 7.32 |
| 助教授 | 内藤美加 | 基礎演習 | | 0.04 | | 0.04 |
| | | 教育心理学 | 1 | | | 1 |
| | | 心理学実験 | | | 1 | 1 |
| | | 心理学演習 | | 0.5 | | 0.5 |
| | | △教育心理学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △教育基礎研究法 | 0.14 | | | 0.14 |
| | | △教育心理学演習Ⅰ | | 1 | | 1 |
| | | △教育心理学演習Ⅱ | | 1 | | 1 |
| | | △心理学実験 | | | 1 | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「教育基礎」 | | 0.14 | | 0.14 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 2.14 | 4.68 | 2 | 8.82 |
| 助教授 | 若林明雄 | 基礎演習 | | 0.04 | | 0.04 |
| | | 教育心理統計Ⅰ | 1 | | | 1 |
| | | 社会心理学 | 0.5 | | | 0.5 |
| | | △教育基礎研究法 | 0.14 | | | 0.14 |
| | | △人格心理学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △人格心理学演習Ⅰ | | 1 | | 1 |
| | | △人格心理学演習Ⅱ | | 1 | | 1 |
| | | △教育調査・統計法特論 | 1 | | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「教育基礎」 | | 0.14 | | 0.14 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 3.64 | 4.18 | | 7.82 |

〈教育経営講座〉

| 職名 | 氏名 | 授業科目名<br>(△印は大学院の授業科目を示す。) | 毎週授業時数 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 講義 | 演習 | 実験<br>実習<br>実技 | 計 |
| 教授 | 西穣司 | 基礎演習 | | 0.04 | | 0.04 |
| | | 教師論 | 1 | | | 1 |
| | | 教育経営学 | 0.5 | | | 0.5 |
| | | 学校経営論 | 0.5 | | | 0.5 |
| | | 教育事例研究法 | | | 2 | 2 |
| | | △学校経営学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △学級経営演習 | | 1 | | 1 |
| | | △学校経営演習 | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「教育経営」 | | 0.2 | | 0.2 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 3 | 4.24 | 2 | 9.24 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 教　授 | 若　井　彌　一 | 基礎演習 | | 0.04 | | 0.04 |
| | | 教育法規・行政学 | 1 | | | 1 |
| | | 法律学III（教育法規を含む。） | 1 | | | 1 |
| | | 教育法規演習 | | 1 | | 1 |
| | | 教育行財政 | 1 | | | 1 |
| | | 教育事例研究法 | | | 2 | 2 |
| | | △教育法規特論 | 1 | | | 1 |
| | | △教育行政学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「教育経営」 | | 0.2 | | 0.2 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 5 | 3.24 | 2 | 10.24 |
| 助教授 | 古　賀　一　博 | 基礎演習 | | 0.04 | | 0.04 |
| | | 教育制度学 | 1 | | | 1 |
| | | 教育事例研究法 | | | 2 | 2 |
| | | △教育制度特論 | 1 | | | 1 |
| | | △教育制度演習 | | 1 | | 1 |
| | | △比較教育学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「教育経営」 | | 0.2 | | 0.2 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 3 | 3.24 | 2 | 8.24 |
| 助教授 | 塚　本　伸　一 | 基礎演習 | | 0.04 | | 0.04 |
| | | 学級心理学 | 1 | | | 1 |
| | | 社会心理学 | 0.5 | | | 0.5 |
| | | 教育事例研究法 | | | 2 | 2 |
| | | △社会心理学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △学級集団心理学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △社会心理学演習 | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「教育経営」 | | 0.2 | | 0.2 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 3.5 | 3.24 | 2 | 8.74 |
| 講　師 | 荻　原　克　男 | 基礎演習 | | 0.04 | | 0.04 |
| | | 教育経営学 | 0.5 | | | 0.5 |
| | | 学校経営論 | 0.5 | | | 0.5 |
| | | △教育政策特論 | 1 | | | 1 |
| | | △教育政策演習 | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「教育経営」 | | 0.2 | | 0.2 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 2 | 3.24 | | 5.24 |

〈教育方法講座〉

| 職　名 | 氏　　名 | 授　業　科　目　名<br>（△印は大学院の授業科目を示す。） | 毎　週　授　業　時　数 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 講　義 | 演　習 | 実　験<br>実　習<br>実　技 | 計 |
| 教　授 | 高　田　喜久司 | 基礎演習 | | 0.04 | | 0.04 |
| | | 教育方法学 | 1 | | | 1 |
| | | 教育事例研究法 | | | 2 | 2 |
| | | △教育方法学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △教授学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「教育方法」 | | 0.14 | | 0.14 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 3 | 2.18 | 2 | 7.18 |
| 教　授 | 平　山　満　義 | 基礎演習 | | 0.04 | | 0.04 |
| | | 教育工学演習 | | 1 | | 1 |
| | | 教育工学（視聴覚教育メディア論を含む） | 1 | | | 1 |
| | | △教育工学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △授業分析法特論 | 1 | | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「教育方法」 | | 0.14 | | 0.14 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 3 | 3.18 | | 6.18 |
| 助教授 | 小林　恵 | 基礎演習 | | 0.04 | | 0.04 |
| | | 教育課程論 | 1 | | | 1 |
| | | △教育課程特論 | 1 | | | 1 |
| | | △教育課程演習 | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「教育方法」 | | 0.14 | | 0.14 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 2 | 3.18 | | 5.18 |
| 助教授 | 田中　敏 | 基礎演習 | | 0.04 | | 0.04 |
| | | ことばと人間 | 0.2 | | | 0.2 |
| | | 教育心理統計II | 1 | | | 1 |
| | | 教育評価論 | 1 | | | 1 |
| | | 教育事例研究法 | | | 2 | 2 |
| | | 学習情報論 | 0.5 | | | 0.5 |
| | | △教育研究法特論 | 1 | | | 1 |
| | | △心理解析・教育評価 | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「教育方法」 | | 0.14 | | 0.14 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 3.7 | 3.18 | 2 | 8.88 |
| 助教授 | 中山　勘次郎 | 基礎演習 | | 0.04 | | 0.04 |
| | | 学習心理学 | 1 | | | 1 |
| | | 学習情報論 | 0.5 | | | 0.5 |
| | | 心理学演習 | | 0.5 | | 0.5 |
| | | 教育事例研究法 | | | 2 | 2 |
| | | △学習心理学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △学習心理研究法 | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「教育方法」 | | 0.14 | | 0.14 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 2.5 | 3.68 | 2 | 8.18 |

〈生徒指導講座〉

| 職名 | 氏名 | 授業科目名（△印は大学院の授業科目を示す。） | 毎週授業時数 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 講義 | 演習 | 実験実習実技 | 計 |
| 教授 | 犬塚文雄 | 基礎演習 | | 0.04 | | 0.04 |
| | | 教育事例研究法 | | | 2 | 2 |
| | | 教育実地研究IV（特別活動研究） | 1 | | | 1 |
| | | △生徒指導特論 | 1 | | | 1 |
| | | △特別活動特論 | 1 | | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「生徒指導」 | | 0.2 | | 0.2 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 3 | 2.24 | 2 | 7.24 |
| 教授 | 松元泰儀 | 基礎演習 | | 0.04 | | 0.04 |
| | | 臨床心理学 | 0.5 | | | 0.5 |
| | | 生徒指導論演習・教育相談演習 | | 1 | | 1 |
| | | 教育事例研究法 | | | 2 | 2 |
| | | 教育実地研究V（生徒指導・教育相談研究） | 0.5 | | | 0.5 |
| | | 生徒指導・教育相談・進路指導論 | 0.5 | | | 0.5 |
| | | △生徒指導演習 | | 1 | | 1 |
| | | △心理診断演習 | | 1 | | 1 |
| | | △進路指導特論 | 1 | | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「生徒指導」 | | 0.2 | | 0.2 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 2.5 | 5.24 | 2 | 9.74 |
| 助教授 | 勝倉孝治 | 基礎演習 | | 0.04 | | 0.04 |
| | | 臨床心理学 | 0.5 | | | 0.5 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 生徒指導論演習・教育相談演習 | | 1 | | 1 |
| | | 教育事例研究法 | | | 2 | 2 |
| | | 教育実地研究Ⅴ（生徒指導・教育相談研究） | 0.5 | | | 0.5 |
| | | △カウンセリング特論 | 1 | | | 1 |
| | | △カウンセリング演習 | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「生徒指導」 | | 0.2 | | 0.2 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 2 | 4.24 | 2 | 8.24 |
| 助教授 | 林　泰成 | 基礎演習 | | 0.04 | | 0.04 |
| | | 道徳教育論演習 | | 1 | | 1 |
| | | 道徳教育論 | 1 | | | 1 |
| | | 教育事例研究法 | | | 2 | 2 |
| | | △道徳教育特論 | 1 | | | 1 |
| | | △道徳教育演習 | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「生徒指導」 | | 0.2 | | 0.2 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 2 | 4.24 | 2 | 8.24 |

〈学校教育研究センター〉

| 職名 | 氏名 | 授業科目名（△印は大学院の授業科目を示す。） | 毎週授業時数 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 講義 | 演習 | 実験実習実技 | 計 |
| 教授 | 中野靖夫 | 基礎演習 | | 0.04 | | 0.04 |
| | | 教育情報学 | 1 | | | 1 |
| | | 教育実地研究Ⅱ（授業基礎研究） | | 1.5 | | 1.5 |
| | | 情報と学校教育 | 1 | | | 1 |
| | | 体験学習（学校と野外活動） | | | 0.4 | 0.4 |
| | | 教育事例研究法 | | | 2 | 2 |
| | | △教育情報学演習 | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「教育方法」 | | 0.14 | | 0.14 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 2 | 4.68 | 2.4 | 9.08 |
| 助教授 | 小川　亮 | 基礎演習 | | 0.04 | | 0.04 |
| | | 基礎情報処理 | 0.25 | 0.25 | | 0.5 |
| | | 情報教育演習 | | 0.33 | | 0.33 |
| | | 教育実地研究Ⅱ（授業基礎研究） | | 1.5 | | 1.5 |
| | | 計 | 0.25 | 2.12 | | 2.37 |
| 助教授 | 菅岡強司 | 基礎演習 | | 0.04 | | 0.04 |
| | | 情報教育演習 | | 0.33 | | 0.33 |
| | | 教育実地研究Ⅱ（授業基礎研究） | | 1.5 | | 1.5 |
| | | 計 | | 1.87 | | 1.87 |
| 助教授 | 南部昌敏 | 基礎演習 | | 0.04 | | 0.04 |
| | | 基礎情報処理 | 0.25 | 0.25 | | 0.5 |
| | | 教育実地研究Ⅱ（授業基礎研究） | | 1.5 | | 1.5 |
| | | 体験学習Ａ（学校と野外活動） | | | 0.4 | 0.4 |
| | | △教育工学演習 | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「教育方法」 | | 0.14 | | 0.14 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 0.25 | 4.93 | 0.4 | 5.58 |
| 講師 | 井上忠典 | 基礎演習 | | 0.04 | | 0.04 |
| | | 教育実地研究Ⅱ（授業基礎研究） | | 1.5 | | 1.5 |
| | | 教育事例研究法 | | | 2 | 2 |
| | | 情報教育演習 | | 0.33 | | 0.33 |
| | | △心理療法特論 | 1 | | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「生徒指導」 | | 0.2 | | 0.2 |
| | | △課題研究 | | 1 | | 1 |
| | | 計 | 1 | 3.07 | 2 | 6.07 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 講　師 | 濁　川　明　男 | 体験学習Ａ（学校と野外活動） | | | 0.4 | 0.4 |
| | | 基礎演習 | | 0.04 | | 0.04 |
| | | 教育実地研究Ⅰ（観察・参加） | 0.16 | | | 0.16 |
| | | 教育実地研究Ⅱ（授業基礎研究） | | 1.5 | | 1.5 |
| | | **計** | **0.16** | **1.54** | **0.4** | **2.1** |

〈幼児教育講座〉

| 職　名 | 氏　　名 | 授　業　科　目　名<br>（△印は大学院の授業科目を示す。） | 毎　週　授　業　時　数 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 講　義 | 演　習 | 実　験<br>実　習<br>実　技 | 計 |
| 教　授 | 大　山　美和子 | 基礎演習 | | 0.14 | | 0.14 |
| | | 音楽Ⅱ Ａ（幼稚園演習） | | 0.5 | | 0.5 |
| | | 音楽Ⅱ Ｂ（幼稚園講義） | 0.5 | | | 0.5 |
| | | 幼児文化 | 0.33 | | | 0.33 |
| | | 幼児教育実践学 | 0.14 | | | 0.14 |
| | | 保育内容「表現・音楽」 | | 1 | | 1 |
| | | 保育実践・音楽的活動 | 1 | | | 1 |
| | | 教育実地研究Ⅰ（観察・参加） | 0.16 | | | 0.16 |
| | | △領域教育学特論「音楽表現」 | 1 | | | 1 |
| | | △領域教育学演習「音楽表現」 | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「幼児教育」 | | 0.14 | | 0.14 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | **計** | **3.13** | **4.78** | | **7.91** |
| 教　授 | 鈴　木　情　一 | 基礎演習 | | 0.14 | | 0.14 |
| | | 基礎情報処理 | | 0.17 | | 0.17 |
| | | 幼児心理学特講 | 1 | | | 1 |
| | | 幼児心理学実験 | | | 1 | 1 |
| | | 幼児教育実践学 | 0.14 | | | 0.14 |
| | | 保育内容「言葉」 | 1 | | | 1 |
| | | 幼児理解 | 1 | | | 1 |
| | | △幼児児童言語心理学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △幼児児童言語心理学演習 | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「幼児教育」 | | 0.14 | | 0.14 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | **計** | **4.14** | **3.45** | **1** | **8.59** |
| 教　授 | 細　井　房　明 | 基礎演習 | | 0.14 | | 0.14 |
| | | 幼児視聴覚教育 | 1 | | | 1 |
| | | 幼児教育実践学 | 0.14 | | | 0.14 |
| | | 幼児・障害児教育原理 | 0.5 | | | 0.5 |
| | | 幼児教育課程論 | 1 | | | 1 |
| | | 保育内容「人間関係」 | 1 | | | 1 |
| | | 教育実地研究Ⅰ（観察・参加） | 0.16 | | | 0.16 |
| | | △幼児児童教育学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △教育思想史特論 | 1 | | | 1 |
| | | △幼児児童教育学演習 | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「幼児教育」 | | 0.14 | | 0.14 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | **計** | **5.8** | **3.28** | | **9.08** |
| 教　授 | 南　舘　忠　智 | 基礎演習 | | 0.14 | | 0.14 |
| | | 基礎情報処理 | | 0.17 | | 0.17 |
| | | 生活 | 0.66 | | | 0.66 |
| | | 幼児心理学演習 | | 1 | | 1 |
| | | 幼児心理学実験 | | | 1 | 1 |
| | | 幼児教育実践学 | 0.14 | | | 0.14 |
| | | 幼児心理学 | 1 | | | 1 |
| | | △幼児児童心理学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △幼児児童心理学研究法特論 | 1 | | | 1 |
| | | △幼児児童心理学演習 | | 1 | | 1 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | △教育実践場面分析演習「幼児教育」 | | 0.14 | | 0.14 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 3.8 | 4.45 | 1 | 9.25 |
| 助教授 | 木村吉彦 | 基礎演習 | | 0.14 | | 0.14 |
| | | 生活 | 0.66 | | | 0.66 |
| | | 幼児教育方法論 | 1 | | | 1 |
| | | 幼稚園経営論 | 1 | | | 1 |
| | | 幼児教育実践学 | 0.14 | | | 0.14 |
| | | 体験学習B（野外活動の指導法） | | | 0.4 | 0.4 |
| | | △幼児児童教育内容特論 | 1 | | | 1 |
| | | △幼小教育特論 | 1 | | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「幼児教育」 | | 0.14 | | 0.14 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 4.8 | 2.28 | 0.4 | 7.48 |
| 助教授 | 松本健義 | 基礎演習 | | 0.14 | | 0.14 |
| | | 幼児文化 | 0.33 | | | 0.33 |
| | | 幼児教育実践学 | 0.14 | | | 0.14 |
| | | 保育内容「表現・造形」 | | 1 | | 1 |
| | | 保育実践・造形的活動 | 1 | | | 1 |
| | | △領域教育学特論「造形表現」 | 1 | | | 1 |
| | | △領域教育学演習「造形表現」 | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「幼児教育」 | | 0.14 | | 0.14 |
| | | △課題研究 | | 1 | | 1 |
| | | 計 | 2.47 | 3.28 | | 5.75 |
| 助教授 | 丸山良平 | 基礎演習 | | 0.15 | | 0.15 |
| | | 基礎情報処理 | | 0.17 | | 0.17 |
| | | 生活 | 0.67 | | | 0.67 |
| | | 幼児文化 | 0.33 | | | 0.33 |
| | | 遊びの研究 | 1 | | | 1 |
| | | 幼児教育実践学 | 0.15 | | | 0.15 |
| | | 保育内容「環境」 | 1 | | | 1 |
| | | △領域教育学特論「環境」 | 1 | | | 1 |
| | | △領域教育学演習「環境」 | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「幼児教育」 | | 0.14 | | 0.14 |
| | | △課題研究 | | 1 | | 1 |
| | | 計 | 4.15 | 2.46 | | 6.61 |

〈障害児教育講座〉

| 職名 | 氏名 | 授業科目名（△印は大学院の授業科目を示す。） | 毎週授業時数 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 講義 | 演習 | 実験実習実技 | 計 |
| 教授 | 大野由三 | 幼児・障害児教育原理 | 0.17 | | | 0.17 |
| | ※附属障害児教育実践センター | △障害児教育特論C | 1 | | | 1 |
| | | △障害児教育行政制度論C | 1 | | | 1 |
| | | △障害児教育課程特論 C | 1 | | | 1 |
| | | △障害児教育観察・参加C | | | 0.25 | 0.25 |
| | | △障害児教育演習C | | 1 | | 1 |
| | | △障害児教育課程演習 C | | 1 | | 1 |
| | | △重複障害児指導法演習C | | 0.2 | | 0.2 |
| | | △障害児研究法演習 | | 0.2 | | 0.2 |
| | | △障害児臨床実習C | | | 0.25 | 0.25 |
| | | △障害児診断法実習C | | 0.25 | | 0.25 |
| | | △教育実践場面分析演習「障害児教育」 | | 0.09 | | 0.09 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 3.17 | 4.74 | 0.5 | 8.41 |
| 教授 | 小宮三彌 | △障害児心理学総論 | 0.25 | | | 0.25 |
| | | △精神遅滞児心理学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △障害児心理・生理検査法 C | | | 0.5 | 0.5 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | △障害児教育観察・参加C | | | 0.25 | 0.25 |
| | | △精神遅滞児心理学演習 | | 1 | | 1 |
| | | △重複障害児指導法演習C | | 0.2 | | 0.2 |
| | | △障害児研究法演習 | | 0.2 | | 0.2 |
| | | △障害児総合診断法演習C | | 0.25 | | 0.25 |
| | | △障害児臨床実習C | | | 0.25 | 0.25 |
| | | △教育実践場面分析演習「障害児教育」 | | 0.09 | | 0.09 |
| | | △課題研究 | | 1 | | 1 |
| | | 計 | 1.25 | 2.74 | 1 | 4.99 |
| 教授 | 藤原義博 | △情緒障害児指導法特論 | 1 | | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「障害児教育」 | | 0.09 | | 0.09 |
| | | 計 | 1 | 0.09 | | 1.09 |
| 教授 | 星名信昭 | △障害児教育学総論 | 0.33 | | | 0.33 |
| | | △障害児教育特論B | 0.5 | | | 0.5 |
| | | △障害児教育行政制度論B | 1 | | | 1 |
| | | △聴覚言語障害児心理学特論 | 0.5 | | | 0.5 |
| | | △障害児心理・生理検査法 B | | | 0.5 | 0.5 |
| | | △障害児教育課程特論B | 1 | | | 1 |
| | | △障害児教育観察・参加B | | | 0.33 | 0.33 |
| | | △障害児教育演習B | | 0.5 | | 0.5 |
| | | △障害児聴能学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △障害児聴能学演習 | | 1 | | 1 |
| | | △重複障害児指導法特論B | 0.5 | | | 0.5 |
| | | △教育実践場面分析演習「障害児教育」 | | 0.09 | | 0.09 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 4.83 | 3.59 | 0.83 | 9.25 |
| 教授 | 森島慧 | △障害児教育学総論 | 0.33 | | | 0.33 |
| | | △障害児教育観察・参加C | | | 0.25 | 0.25 |
| | | △精神遅滞児指導法特論 | 1 | | | 1 |
| | | △精神遅滞児指導法演習 | | 1 | | 1 |
| | | △重複障害児指導法演習C | | 0.2 | | 0.2 |
| | | △障害児研究法特論 | 0.5 | | | 0.5 |
| | | △障害児研究法演習 | | 0.2 | | 0.2 |
| | | △障害児臨床実習C | | | 0.25 | 0.25 |
| | | △障害児総合診断法演習C | | 0.25 | | 0.25 |
| | | △教育実践場面分析演習「障害児教育」 | | 0.09 | | 0.09 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 1.83 | 3.74 | 0.5 | 6.07 |
| 助教授 | 我妻敏博 | 幼児・障害児教育原理 | 0.17 | | | 0.17 |
| | | △障害児心理学総論 | 0.25 | | | 0.25 |
| | | △障害児教育特論B | 0.5 | | | 0.5 |
| | | △聴覚言語障害児心理学特論 | 0.5 | | | 0.5 |
| | | △障害児心理・生理検査法B | | | 0.5 | 0.5 |
| | | △障害児臨床基礎実習B | | | 0.5 | 0.5 |
| | | △障害児診断法基礎実習B | | | 0.5 | 0.5 |
| | | △障害児教育観察・参加B | | | 0.33 | 0.33 |
| | | △障害児教育演習B | | 0.5 | | 0.5 |
| | | △聴覚言語障害児心理学演習 | | 1 | | 1 |
| | | △聴覚障害児言語指導法特論 | 1 | | | 1 |
| | | △聴覚障害児言語指導法演習 | | 1 | | 1 |
| | | △重複障害児指導法特論B | 0.5 | | | 0.5 |
| | | △障害児臨床実習B | | | 0.5 | 0.5 |
| | | △障害児診断法実習B | | 0.5 | | 0.5 |
| | | △教育実践場面分析演習「障害児教育」 | | 0.09 | | 0.09 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 2.92 | 5.09 | 2.33 | 10.34 |
| 助教授 | 安藤隆男 | △障害児心理学総論 | 0.25 | | | 0.25 |
| | | △障害児心理・生理検査法 C | | | 0.5 | 0.5 |
| | | △障害児臨床基礎実習C | | | 1 | 1 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | △障害児診断法基礎実習 C | | | 1 | 1 |
| | | △障害児教育観察・参加 C | | | 0.25 | 0.25 |
| | | △肢体不自由児指導法特論 | 1 | | | 1 |
| | | △肢体不自由児指導法演習 | | 1 | | 1 |
| | | △重複障害児指導法特論 C | 1 | | | 1 |
| | | △重複障害児指導法演習 C | | 0.2 | | 0.2 |
| | | △障害児研究法演習 | | 0.2 | | 0.2 |
| | | △障害児臨床実習 C | | | 0.25 | 0.25 |
| | | △障害児診断法実習 C | | 0.25 | | 0.25 |
| | | △教育実践場面分析演習「障害児教育」 | | 0.09 | | 0.09 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 2.25 | 3.74 | 3 | 8.99 |
| 助教授 | 大庭重治 | △障害児心理学総論 | 0.25 | | | 0.25 |
| | | △視覚障害児心理学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △障害児心理・生理検査法 A | | | 1 | 1 |
| | | △障害児臨床基礎実習 A | | | 0.5 | 0.5 |
| | | △障害児診断法基礎実習 A | | | 0.5 | 0.5 |
| | | △障害児教育観察・参加 A | | | 0.33 | 0.33 |
| | | △視覚障害児発達学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △視覚障害児指導法演習 | | 1 | | 1 |
| | | △重複障害児指導法特論 A | 0.5 | | | 0.5 |
| | | △重複障害児指導法演習 A | | 0.5 | | 0.5 |
| | | △障害児臨床実習 A | | | 0.33 | 0.33 |
| | | △障害児診断法実習 A | | | 0.33 | 0.33 |
| | | △教育実践場面分析演習「障害児教育」 | | 0.09 | | 0.09 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 2.75 | 3.59 | 2.99 | 9.33 |
| 助教授 | 河合康 | 幼児・障害児教育原理 | 0.17 | | | 0.17 |
| | | △障害児教育学総論 | 0.33 | | | 0.33 |
| | | △障害児教育特論 A | 1 | | | 1 |
| | | △障害児教育行政制度論 A | 1 | | | 1 |
| | | △障害児教育課程特論 A | 1 | | | 1 |
| | | △障害児臨床基礎実習 A | | | 0.5 | 0.5 |
| | | △障害児診断法基礎実習 A | | | 0.5 | 0.5 |
| | | △障害児教育観察・参加 A | | | 0.33 | 0.33 |
| | | △障害児教育演習 A | | 1 | | 1 |
| | | △障害児教育行政制度論演習 A | | 1 | | 1 |
| | | △障害児教育課程演習 A | | 1 | | 1 |
| | | △重複障害児指導法特論 A | 0.5 | | | 0.5 |
| | | △重複障害児指導法演習 A | | 0.5 | | 0.5 |
| | | △障害児臨床実習 A | | | 0.33 | 0.33 |
| | | △障害児診断法実習 A | | | 0.33 | 0.33 |
| | | △教育実践場面分析演習「障害児教育」 | | 0.09 | | 0.09 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 4 | 5.59 | 1.99 | 11.58 |
| 講師 | 恵羅修吉<br>※附属障害児教育実践センター | △障害児診断法実習 A | | | 0.33 | 0.33 |
| | | △障害児生理・心理学特論 C | 1 | | | 1 |
| | | △障害児教育観察・参加 A | | | 0.33 | 0.33 |
| | | △障害児生理・心理学演習 A | | 1 | | 1 |
| | | △障害児臨床実習 A | | | 0.33 | 0.33 |
| | | △障害児生理・心理学演習 C | | 1 | | 1 |
| | | △重複障害児指導法演習 C | | 0.2 | | 0.2 |
| | | △障害児研究法演習 | | 0.2 | | 0.2 |
| | | △教育実践場面分析演習「障害児教育」 | | 0.09 | | 0.09 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 1 | 4.49 | 0.99 | 6.48 |

〈言語系教育講座（国語）〉

| 職名 | 氏名 | 授業科目名（△印は大学院の授業科目を示す。） | 毎週授業時数 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 講義 | 演習 | 実験実習実技 | 計 |
| 教授 | 有澤俊太郎 | 基礎演習 | | 0.1 | | 0.1 |
| | | 専修教育実地研究「国語」 | | 1 | | 1 |
| | | 国語科演習III | | 1 | | 1 |
| | | 国語科研究法 | 0.33 | | | 0.33 |
| | | 国語科教育法（初等） | 0.34 | 0.34 | | 0.68 |
| | | △国語科教育特論 B | 1 | | | 1 |
| | | △国語科教育方法演習 | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「国語」 | | 0.1 | | 0.1 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 1.67 | 5.54 | | 7.21 |
| 教授 | 下西善三郎 | 基礎演習 | | 0.1 | | 0.1 |
| | | 宮沢賢治 | 0.2 | | | 0.2 |
| | | 国文学史 | 1 | | | 1 |
| | | 国文学講読II | 1 | | | 1 |
| | | 国文学演習II | | 1 | | 1 |
| | | △国文学演習 B | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「国語」 | | 0.1 | | 0.1 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 2.2 | 4.2 | | 6.4 |
| 教授 | 前川幸雄 | 基礎演習 | | 0.1 | | 0.1 |
| | | 中国語・中国事情 I | | 1 | | 1 |
| | | 漢文学概説 | 1 | | | 1 |
| | | 漢文学講読 A | 1 | | | 1 |
| | | 中国語・中国事情II | | 1 | | 1 |
| | | 漢文学講読II | 1 | | | 1 |
| | | 漢文学研究法 | 1 | | | 1 |
| | | △漢文学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △漢文学演習 | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「国語」 | | 0.1 | | 0.1 |
| | | △課題研究 | | 1 | | 1 |
| | | 計 | 5 | 4.2 | | 9.2 |
| 助教授 | 押木秀樹 | 基礎演習 | | 0.1 | | 0.1 |
| | | 書道概説 | 1 | | | 1 |
| | | 基礎情報処理 | | 0.13 | | 0.13 |
| | | 国語（書写を含む。） | 1 | | | 1 |
| | | 書写書道 I | | 1 | | 1 |
| | | 書写書道II | | 1 | | 1 |
| | | 書写書道III | | 1 | | 1 |
| | | 書写書道研究法 | 1 | | | 1 |
| | | △書写書道特論 | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「国語」 | | 0.1 | | 0.1 |
| | | 計 | 3 | 4.33 | | 7.33 |
| 助教授 | 小埜裕二 | 基礎演習 | | 0.1 | | 0.1 |
| | | 宮沢賢治 | 0.2 | | | 0.2 |
| | | 国文学講読 A | 1 | | | 1 |
| | | 基礎情報処理 | | 0.13 | | 0.13 |
| | | 国文学演習 I | | 1 | | 1 |
| | | 国文学研究法 | 1 | | | 1 |
| | | △国語学・国文学特論 | 0.5 | | | 0.5 |
| | | △国文学特論 B | 1 | | | 1 |
| | | △国文学演習 A | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「国語」 | | 0.1 | | 0.1 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 3.7 | 4.33 | | 8.03 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 助教授 | 髙　本　條　治 | 基礎演習 | | 0.1 | | 0.1 |
| | | 基礎情報処理 | | 0.13 | | 0.13 |
| | | 国語（書写を含む。） | 1 | | | 1 |
| | | 国語学概説 | 1 | | | 1 |
| | | 国語学講読II | 1 | | | 1 |
| | | 国語学演習 I | | 1 | | 1 |
| | | 国語学研究法 | 0.5 | | | 0.5 |
| | | △国語学・国文学特論 | 0.5 | | | 0.5 |
| | | △国語学特論 A | 1 | | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「国語」 | | 0.1 | | 0.1 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 5 | 3.33 | | 8.33 |
| 助教授 | 野　村　眞木夫 | 基礎演習 | | 0.1 | | 0.1 |
| | | ことばと人間 | 0.2 | | | 0.2 |
| | | 言語 | 1 | | | 1 |
| | | 基礎情報処理 | | 0.13 | | 0.13 |
| | | 国語学講読 A | 1 | | | 1 |
| | | 国語学演習II | | 1 | | 1 |
| | | 国語学演習III | | 0.5 | | 0.5 |
| | | 国語学研究法 | 0.5 | | | 0.5 |
| | | △国語学特論 B | 1 | | | 1 |
| | | △国語学講読 | 1 | | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「国語」 | | 0.1 | | 0.1 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 4.7 | 3.83 | | 8.53 |
| 助教授 | 松　本　　修<br>※附属実技教育研究指導センター | 基礎演習 | | 0.1 | | 0.1 |
| | | ことばと人間 | 0.2 | | | 0.2 |
| | | 国語科特講 | 1 | | | 1 |
| | | 国語科研究法 | 0.33 | | | 0.33 |
| | | 国語科教育法（中等） I | 1 | | | 1 |
| | | 国語科教育法（中等） II | 0.5 | | | 0.5 |
| | | 国語科教育法（初等） | 0.34 | 0.34 | | 0.68 |
| | | △国語科教育原理演習 | | 1 | | 1 |
| | | △言語（国語）文化論 | 1 | | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「国語」 | | 0.1 | | 0.1 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 4.37 | 3.54 | | 7.91 |
| 講　師 | 田　島　弘　司 | 基礎演習 | | 0.1 | | 0.1 |
| | | 日本語 I | 1 | | | 1 |
| | | 日本語II | 1 | | | 1 |
| | | 日本事情 I | 1 | | | 1 |
| | | 日本事情II | 1 | | | 1 |
| | | △日本語教育特論 | 1 | | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「国語」 | | 0.1 | | 0.1 |
| | | 計 | 5 | 0.2 | | 5.2 |
| 講　師 | 渡　部　洋一郎 | 基礎演習 | | 0.1 | | 0.1 |
| | | 国語科演習 A | | 1 | | 1 |
| | | 国語科演習II | | 1 | | 1 |
| | | 国語科教育法（初等） | 0.34 | 0.34 | | 0.68 |
| | | 国語科研究法 | 0.33 | | | 0.33 |
| | | △国語科教育特論 A | 1 | | | 1 |
| | | △国語科教育教材分析演習 | 1 | | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「国語」 | | 0.1 | | 0.1 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 2.67 | 4.54 | | 7.21 |

〈言語系教育講座（外国語）〉

| 職名 | 氏名 | 授業科目名（△印は大学院の授業科目を示す。） | 毎週授業時数 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 講義 | 演習 | 実験実習実技 | 計 |
| 教授 | 池内正幸 | コミュニケーション英語ＡＩ | | | 1 | 1 |
| | | コミュニケーション英語ＣＩ | | | 1 | 1 |
| | | 英語Ｉ（リーディング演習） | | | 1 | 1 |
| | | △英文法特論 | 1 | | | 1 |
| | | △生成文法特論 | 1 | | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「英語」 | | 0.1 | | 0.1 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | **計** | **2** | **2.1** | **3** | **7.1** |
| 教授 | 加藤雅啓 | コミュニケーション英語ＡＩ | | | 1 | 1 |
| | | コミュニケーション英語ＢII | | | 1 | 1 |
| | | 英語ＩＡ（リーディング演習） | | | 1 | 1 |
| | | コミュニケーション英語ＣII | | | 1 | 1 |
| | | △談話文法特論 | 1 | | | 1 |
| | | △生成文法演習 | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「英語」 | | 0.1 | | 0.1 |
| | | △課題研究 | | 1 | | 1 |
| | | **計** | **1** | **2.1** | **4** | **7.1** |
| 教授 | 齋藤九一<br>※附属実技教育研究指導センター | 英語II Ｂ（表現演習） | | | 1 | 1 |
| | | ことばと人間 | 0.2 | | | 0.2 |
| | | コミュニケーション英語ＣＩ | | | 1 | 1 |
| | | 英語ＩＶ（英米文化） | 1 | | | 1 |
| | | 英語III（教職教養英語） | 1 | | | 1 |
| | | △英文学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △英文学演習 | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「英語」 | | 0.1 | | 0.1 |
| | | △課題研究 | | 1 | | 1 |
| | | **計** | **3.2** | **2.1** | **2** | **7.3** |
| 教授 | 平野絹枝 | コミュニケーション英語ＡII | | | 1 | 1 |
| | | コミュニケーション英語ＢII | | | 1 | 1 |
| | | コミュニケーション英語ＣII | | | 1 | 1 |
| | | △英語科教育原理特論 | 1 | | | 1 |
| | | △英語科教育教材分析演習 | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「英語」 | | 0.1 | | 0.1 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | **計** | **1** | **3.1** | **3** | **7.1** |
| 助教授 | 熊井信弘 | コミュニケーション英語ＡＩ | | | 1 | 1 |
| | | コミュニケーション英語ＢＩ | | | 1 | 1 |
| | | コミュニケーション英語ＣII | | | 1 | 1 |
| | | ことばと人間 | 0.2 | | | 0.2 |
| | | △英語科教育コミュニケーション特論 | 1 | | | 1 |
| | | △英語科教育教材開発演習 | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「英語」 | | 0.1 | | 0.1 |
| | | △課題研究 | | 1 | | 1 |
| | | **計** | **1.2** | **2.1** | **3** | **6.3** |
| 助教授 | 平野七濤 | ドイツ語・ドイツ事情Ｉ | | 1 | | 1 |
| | | ドイツ語・ドイツ事情II | | 1 | | 1 |
| | | ドイツ語・ドイツ事情III | | 1 | | 1 |
| | | ドイツ語・ドイツ事情IV | | 1 | | 1 |
| | | ドイツ語Ｉ（初級） | | | 2 | 2 |
| | | ドイツ語II（中級） | | | 2 | 2 |
| | | △文学理論 | 1 | | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「英語」 | | 0.1 | | 0.1 |
| | | **計** | **1** | **4.1** | **4** | **9.1** |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 助教授 | 北條礼子 | コミュニケーション英語ＡII | | | 1 | 1 |
| | | コミュニケーション英語ＢI | | | 1 | 1 |
| | | コミュニケーション英語ＣII | | | 1 | 1 |
| | | △英語科教育評価特論 | 1 | | | 1 |
| | | △英語科教育研究法演習 | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「英語」 | | 0.1 | | 0.1 |
| | | △課題研究 | | 1 | | 1 |
| | | 計 | 1 | 2.1 | 3 | 6.1 |
| 助教授 | 前川利広 | コミュニケーション英語ＡII | | | 1 | 1 |
| | | コミュニケーション英語ＢII | | | 1 | 1 |
| | | コミュニケーション英語ＣI | | | 1 | 1 |
| | | △アメリカ文学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △アメリカ文学演習 | | 1 | | 1 |
| | | △英米作家特論 | 1 | | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「英語」 | | 0.1 | | 0.1 |
| | | △課題研究 | | 1 | | 1 |
| | | 計 | 2 | 2.1 | 3 | 7.1 |
| 講師 | 赤松信彦 | コミュニケーション英語ＡII | | | 1 | 1 |
| | | コミュニケーション英語ＢI | | | 1 | 1 |
| | | コミュニケーション英語ＢII | | | 1 | 1 |
| | | 英語II Ａ（表現演習） | | | 1 | 1 |
| | | △英語科教育論 | 1 | | | 1 |
| | | △英語科教育方法演習 | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「英語」 | | 0.1 | | 0.1 |
| | | 計 | 1 | 1.1 | 4 | 6.1 |
| 講師 | 野地美幸 | コミュニケーション英語ＡII | | | 1 | 1 |
| | | コミュニケーション英語ＢII | | | 1 | 1 |
| | | コミュニケーション英語ＣI | | | 1 | 1 |
| | | △言語学 | 1 | | | 1 |
| | | △英語学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「英語」 | | 0.1 | | 0.1 |
| | | 計 | 2 | 0.1 | 3 | 5.1 |
| 外国人教師 | クレイグ・スコット・ダーマー | コミュニケーション英語ＡI | | | 4 | 4 |
| | | コミュニケーション英語ＡII | | | 4 | 4 |
| | | 英語Ｖ（Oral Communication） | | | 1 | 1 |
| | | 英語Ⅶ（Composition） | | | 1 | 1 |
| | | 計 | | | 10 | 10 |

〈社会系教育講座〉

| 職名 | 氏名 | 授業科目名（△印は大学院の授業科目を示す。） | 毎週授業時数 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 講義 | 演習 | 実験実習実技 | 計 |
| 教授 | 赤羽孝之 | 地理学概説 | 0.5 | | | 0.5 |
| | | 地理学II | 1 | | | 1 |
| | | 地理学実験 | | | 0.5 | 0.5 |
| | | 地理学演習 | | 0.67 | | 0.67 |
| | | 地理学野外実験 | | | 1 | 1 |
| | | 地域調査法Ｂ | | | 2 | 2 |
| | | △人文地理学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △地理学演習Ｂ | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「社会」 | | 0.06 | | 0.06 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 2.5 | 3.73 | 3.5 | 9.73 |
| 教授 | 大嶽幸彦 | 基礎演習 | | 0.2 | | 0.2 |
| | | 地理学 | 1 | | | 1 |
| | | 地理学演習 | | 0.67 | | 0.67 |
| | | 日本地誌 | 1 | | | 1 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 世界地誌 | 1 | | | 1 |
| | | 地誌学外書講読 | 1 | | | 1 |
| | | △地域研究 | 1 | | | 1 |
| | | △地誌特論 | 1 | | | 1 |
| | | △地域研究実験 | | | 0.25 | 0.25 |
| | | △教育実践場面分析演習「社会」 | | 0.06 | | 0.06 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 6 | 2.93 | 0.25 | 9.18 |
| 教　授 | 神　成　嘉　光 | 法律学 | 1 | | | 1 |
| | | 法律学 A | 1 | | | 1 |
| | | 法律学 II（国際法を含む。） | 1 | | | 1 |
| | | 法律学演習 | | 2 | | 2 |
| | | △法律学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △法律学演習 | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「社会」 | | 0.06 | | 0.06 |
| | | △課題研究 | | 1 | | 1 |
| | | 計 | 4 | 4.06 | | 8.06 |
| 教　授 | 澁　谷　　久 | 哲学 | 1 | | | 1 |
| | | 哲学概説 | 1 | | | 1 |
| | | 哲学外書講読 | 1 | | | 1 |
| | | 哲学演習 | | 2 | | 2 |
| | | △哲学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「社会」 | | 0.06 | | 0.06 |
| | | 計 | 4 | 2.06 | | 6.06 |
| 教　授 | 真　野　俊　和 | 博物館資料論 | 0.33 | | | 0.33 |
| | | 民俗学 | 1 | | | 1 |
| | | 民俗学演習 | | 2 | | 2 |
| | | 地域調査法 A | | | 0.67 | 0.67 |
| | | △日本の文化と民族 | 1 | | | 1 |
| | | △民俗学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △民俗学演習 | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「社会」 | | 0.06 | | 0.06 |
| | | △課題研究 | | 1 | | 1 |
| | | 計 | 3.33 | 4.06 | 0.67 | 8.06 |
| 教　授 | 鈴　木　敏　紀 | 基礎演習 | | 0.2 | | 0.2 |
| | | 経済学 | 1 | | | 1 |
| | | アメリカ事情 | | 1 | | 1 |
| | | 自然と人間 | 0.5 | | | 0.5 |
| | | 経済学 I | 1 | | | 1 |
| | | 経済学 II | 1 | | | 1 |
| | | 経済学演習 | | 2 | | 2 |
| | | 社会 | 0.33 | | | 0.33 |
| | | △現代社会論 | 1 | | | 1 |
| | | △経済学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △経済学演習 | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「社会」 | | 0.06 | | 0.06 |
| | | △課題研究 | | 1 | | 1 |
| | | 計 | 5.83 | 5.26 | | 11.09 |
| 教　授 | 二　谷　貞　夫 | 地理歴史科教育法演習 | | 1 | | 1 |
| | | 基礎演習 | | 0.2 | | 0.2 |
| | | 地理歴史教材論 | 0.5 | | | 0.5 |
| | | 社会科教育法（中等） | 0.33 | | | 0.33 |
| | | 地理歴史科教育法 | 0.5 | | | 0.5 |
| | | 専修教育実地研究「社会」 | | 0.33 | | 0.33 |
| | | 社会科教育法（初等） | 0.34 | 0.34 | | 0.68 |
| | | △社会科教育論 | 0.33 | | | 0.33 |
| | | △社会科教育特論 B | 0.5 | | | 0.5 |
| | | △社会科教育演習 B | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「社会」 | | 0.06 | | 0.06 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 2.5 | 4.93 | | 7.43 |
| 教　授 | 藤　澤　郁　夫 | 基礎演習 | | 0.2 | | 0.2 |
| | | 倫理学 | 1 | | | 1 |
| | | 倫理学概説 | 1 | | | 1 |
| | | 倫理学外書講読 | 1 | | | 1 |
| | | 倫理学演習 | | 2 | | 2 |
| | | △倫理学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △倫理学演習 | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「社会」 | | 0.06 | | 0.06 |
| | | 計 | 4 | 3.26 | | 7.26 |
| 教　授 | 山　本　友　和 | 公民科教育法演習 | | 2 | | 2 |
| | | 社会科教育法（中等） | 0.33 | | | 0.33 |
| | | 公民科教育法 | 1 | | | 1 |
| | | 専修教育実地研究「社会」 | | 0.33 | | 0.33 |
| | | 社会科教育法（初等） | 0.34 | 0.34 | | 0.68 |
| | | △社会科教育論 | 0.33 | | | 0.33 |
| | | △社会科教育特論 A | 1 | | | 1 |
| | | △社会科教育演習 A | | 0.5 | | 0.5 |
| | | △教育実践場面分析演習「社会」 | | 0.06 | | 0.06 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 3 | 5.23 | | 8.23 |
| 助教授 | 浅　倉　有　子 | 日本史 I | 1 | | | 1 |
| | | 歴史学 | 1 | | | 1 |
| | | 日本史概説 | 0.5 | | | 0.5 |
| | | 日本史演習 | | 1 | | 1 |
| | | 地域調査法 A | | | 0.67 | 0.67 |
| | | 社会 | 0.33 | | | 0.33 |
| | | △日本史特論 A | 1 | | | 1 |
| | | △歴史学演習 A | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「社会」 | | 0.06 | | 0.06 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 3.83 | 4.06 | 0.67 | 8.56 |
| 助教授 | 河　西　英　通 | 基礎演習 | | 0.2 | | 0.2 |
| | | 古文書学演習 | | 1 | | 1 |
| | | 日本史概説 | 0.5 | | | 0.5 |
| | | 日本史II | 1 | | | 1 |
| | | 日本史演習 | | 1 | | 1 |
| | | 地域調査法 A | | | 0.67 | 0.67 |
| | | △日本史特論 B | 1 | | | 1 |
| | | △歴史学演習 B | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「社会」 | | 0.06 | | 0.06 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 2.5 | 5.26 | 0.67 | 8.43 |
| 助教授 | 佐　藤　芳　徳 | 社会 | 0.33 | | | 0.33 |
| | | 基礎情報処理 | | 0.5 | | 0.5 |
| | | 自然と人間 | 0.5 | | | 0.5 |
| | | 地理学概説 | 0.5 | | | 0.5 |
| | | 地理学 I | 1 | | | 1 |
| | | 地理学演習 | | 0.67 | | 0.67 |
| | | 地理学実験 | | | 0.5 | 0.5 |
| | | 地理学野外実験 | | | 1 | 1 |
| | | 地域調査法 B | | | 2 | 2 |
| | | △自然地理学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △地理学演習 A | | 1 | | 1 |
| | | △地域研究実験 | | | 0.25 | 0.25 |
| | | △教育実践場面分析演習「社会」 | | 0.06 | | 0.06 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 3.33 | 4.23 | 3.75 | 11.31 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 助教授 | 下　里　俊　行 | ロシア事情 | | 1 | | 1 |
| | | 歴史学 | 1 | | | 1 |
| | | 外国史概説 | 1 | | | 1 |
| | | 外国史Ⅰ | 1 | | | 1 |
| | | 外国史演習 | | 2 | | 2 |
| | | △外国史特論 | 1 | | | 1 |
| | | △歴史学演習C | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「社会」 | | 0.06 | | 0.06 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 4 | 6.06 | | 10.06 |
| 助教授 | 田　部　俊　充 | 地理歴史科教育法演習 | | 1 | | 1 |
| | | 地理歴史教材論 | 0.5 | | | 0.5 |
| | | 社会科教育法（中等） | 0.33 | | | 0.33 |
| | | 地理歴史科教育法 | 0.5 | | | 0.5 |
| | | 専修教育実地研究「社会」 | | 0.33 | | 0.33 |
| | | 社会科教育法（初等） | 0.34 | 0.34 | | 0.68 |
| | | △社会科教育論 | 0.33 | | | 0.33 |
| | | △社会科教育特論B | 0.5 | | | 0.5 |
| | | △社会科教育演習A | | 0.5 | | 0.5 |
| | | △教育実践場面分析演習「社会」 | | 0.06 | | 0.06 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 2.5 | 4.23 | | 6.73 |
| 助教授 | 松　田　愼　也 | 宮沢賢治 | 0.2 | | | 0.2 |
| | | 宗教学概説 | 1 | | | 1 |
| | | 宗教学特講 | 1 | | | 1 |
| | | 宗教学演習 | | 2 | | 2 |
| | | △現代思想研究 | 1 | | | 1 |
| | | △宗教学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △宗教学演習 | | 1 | | 1 |
| | | △宗教思想研究 | 1 | | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「社会」 | | 0.06 | | 0.06 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 5.2 | 5.06 | | 10.26 |
| 助教授 | 安　田　　尚 | 社会学 | 1 | | | 1 |
| | | 社会学Ⅰ | 1 | | | 1 |
| | | 社会学Ⅱ | 1 | | | 1 |
| | | 社会学演習 | | 2 | | 2 |
| | | 地域調査法C | | | 2 | 2 |
| | | △社会学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △社会学演習 | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「社会」 | | 0.06 | | 0.06 |
| | | △課題研究 | | 1 | | 1 |
| | | 計 | 4 | 4.06 | 2 | 10.06 |

〈自然系教育講座（数学）〉

| 職　名 | 氏　　名 | 授　業　科　目　名<br>（△印は大学院の授業科目を示す。） | 毎　週　授　業　時　数 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 講　義 | 演　習 | 実験<br>実習<br>実技 | 計 |
| 教　授 | 黒　木　伸　明 | 基礎演習 | | 0.33 | | 0.33 |
| | | 算数 | 1 | | | 1 |
| | | 代数学Ⅰ | 2 | | | 2 |
| | | 代数学特講Ⅱ | 1 | | | 1 |
| | | 数学演習 | | 1 | | 1 |
| | | △数学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △代数学特論A | 1 | | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「数学」 | | 0.11 | | 0.11 |
| | | △課題研究 | | 1 | | 1 |
| | | 計 | 6 | 2.44 | | 8.44 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 教　授 | 田　中　　博 | 基礎微分積分学 | 1 | | | 1 |
| | | 微分積分学 I | 1 | | | 1 |
| | | 微分積分学II演習 | | 1 | | 1 |
| | | 解析学特講 I | 1 | | | 1 |
| | | 解析学特講II | 1 | | | 1 |
| | | 数学演習 | | 1 | | 1 |
| | | △解析学特論 A | 1 | | | 1 |
| | | △解析学特論 B | 1 | | | 1 |
| | | △解析学演習 | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「数学」 | | 0.11 | | 0.11 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 6 | 5.11 | | 11.11 |
| 教　授 | 溝　上　武　實 | 算数 | 1 | | | 1 |
| | | 幾何学 I | 2 | | | 2 |
| | | 幾何学特講II | 1 | | | 1 |
| | | 数学演習 | | 1 | | 1 |
| | | △幾何学特論 B | 1 | | | 1 |
| | | △幾何学演習 | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「数学」 | | 0.11 | | 0.11 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 5 | 4.11 | | 9.11 |
| 教　授 | 森　　博 | 数学 | 1 | | | 1 |
| | | 幾何学II | 1 | | | 1 |
| | | 幾何学III | 1 | | | 1 |
| | | 幾何学特講 I | 1 | | | 1 |
| | | 数学演習 | | 1 | | 1 |
| | | △幾何学特論 A | 1 | | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「数学」 | | 0.11 | | 0.11 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 5 | 3.11 | | 8.11 |
| 助教授 | 熊　谷　光　一 | 数学史 | 0.5 | | | 0.5 |
| | | 数学演習 | | 1 | | 1 |
| | | 数学科教育法 I | 0.5 | | | 0.5 |
| | | 数学科教育法II | 0.25 | | | 0.25 |
| | | 専修教育実地研究「算数」 | | 0.5 | | 0.5 |
| | | 算数科教育法 | 0.5 | 0.5 | | 1 |
| | | △数学教育論 | 0.25 | | | 0.25 |
| | | △数学教育学特論 A | 0.25 | | | 0.25 |
| | | △数学教育学特論 B | 0.25 | | | 0.25 |
| | | △数学教育学特論 C | 0.25 | | | 0.25 |
| | | △数学教育学特論 D | 0.33 | | | 0.33 |
| | | △数学教育学演習 | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「数学」 | | 0.11 | | 0.11 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 3.08 | 5.11 | | 8.19 |
| 助教授 | 中　川　　仁 | 基礎情報処理 | | 0.5 | | 0.5 |
| | | 代数学II | 1 | | | 1 |
| | | 代数学III | 1 | | | 1 |
| | | 代数学特講 I | 1 | | | 1 |
| | | 計算機数学 | 1 | | | 1 |
| | | 数学演習 | | 1 | | 1 |
| | | △代数学特論 B | 1 | | | 1 |
| | | △代数学演習 | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「数学」 | | 0.11 | | 0.11 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 5 | 4.61 | | 9.61 |
| 助教授 | 松　本　健　吾 | 基礎演習 | | 0.33 | | 0.33 |
| | | 微分積分学II | 1 | | | 1 |
| | | 確率論 | 1 | | | 1 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 統計学特講Ⅰ | 1 | | | 1 |
| | | 統計学特講Ⅱ | 1 | | | 1 |
| | | 数学演習 | | 1 | | 1 |
| | | △確率論特論 | 1 | | | 1 |
| | | △統計学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △統計学演習 | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「数学」 | | 0.11 | | 0.11 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 6 | 4.44 | | 10.44 |
| 講師 | 岩崎　浩 | 基礎演習 | | 0.33 | | 0.33 |
| | | 算数科教育法 | 0.5 | 0.5 | | 1 |
| | | 数学史 | 0.5 | | | 0.5 |
| | | 数学演習 | | 1 | | 1 |
| | | 専修教育実地研究「算数」 | | 0.5 | | 0.5 |
| | | 数学科教育法Ⅰ | 0.5 | | | 0.5 |
| | | 数学科教育法Ⅱ | 0.25 | | | 0.25 |
| | | △数学教育論 | 0.25 | | | 0.25 |
| | | △数学教育学特論A | 0.25 | | | 0.25 |
| | | △数学教育学特論B | 0.25 | | | 0.25 |
| | | △数学教育学特論C | 0.25 | | | 0.25 |
| | | △数学教育学特論D | 0.33 | | | 0.33 |
| | | △教育実践場面分析演習「数学」 | | 0.11 | | 0.11 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 3.08 | 4.44 | | 7.52 |
| 講師 | 布川和彦 | 数学演習 | | 1 | | 1 |
| | | △数学教育学特論D | 0.33 | | | 0.33 |
| | | △教育実践場面分析演習「数学」 | | 0.11 | | 0.11 |
| | | △課題研究 | | 1 | | 1 |
| | | 計 | 0.33 | 2.11 | | 2.44 |

〈自然系教育講座（理科）〉

| 職名 | 氏名 | 授業科目名（△印は大学院の授業科目を示す。） | 毎週授業時数 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 講義 | 演習 | 実験実習実技 | 計 |
| 教授 | 大悟法　滋 | エネルギーと環境 | 0.33 | | | 0.33 |
| | | 博物館学 | 0.5 | | | 0.5 |
| | | 体験学習B（野外活動の指導法） | | | 0.4 | 0.4 |
| | | 博物館概論 | 0.5 | | | 0.5 |
| | | 生物学 | 1 | | | 1 |
| | | 形態学 | 1 | | | 1 |
| | | 植物系統学 | 1 | | | 1 |
| | | 植物学演習 | | 1 | | 1 |
| | | 生物学野外研究法 | | | 1 | 1 |
| | | 生物学野外実習 | | | 1 | 1 |
| | | △植物学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △形態学実験 | | | 1 | 1 |
| | | △生物学野外実習 | | | 1 | 1 |
| | | △生命・地球システム教育演習 | | 0.14 | | 0.14 |
| | | △教育実践場面分析演習「理科」 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 5.33 | 3.21 | 4.4 | 12.94 |
| 教授 | 戸北凱惟 | 生命・地球教材開発 | 1 | | | 1 |
| | | 理科教育特講Ⅰ（物質・エネルギー） | 2 | | | 2 |
| | | 理科教育研究法 | 0.67 | | | 0.67 |
| | | 理科教育法（中等）Ⅰ | 1 | | | 1 |
| | | 理科教育法（中等）Ⅱ | 0.5 | | | 0.5 |
| | | 専修教育実地研究「理科」 | | 0.5 | | 0.5 |
| | | 理科教育法（初等） | 0.5 | 0.5 | | 1 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 体験学学習A（学校と野外活動） | | | 0.4 | 0.4 |
| | | △理科教育課程特論 | 1 | | | 1 |
| | | △生命・地球システム教育演習 | | 0.14 | | 0.14 |
| | | △理科教育課程演習 | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「理科」 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 6.67 | 4.21 | 0.4 | 11.28 |
| 教　授 | 中　川　清　隆 | 基礎情報処理 | | 0.5 | | 0.5 |
| | | 地学 | 0.83 | | | 0.83 |
| | | 気象学 | 1 | | | 1 |
| | | 地学原書講読 | 0.67 | | | 0.67 |
| | | 地学演習 | | 0.67 | | 0.67 |
| | | 地学実験 | | | 0.67 | 0.67 |
| | | 気象学実験 | | | 2 | 2 |
| | | 気象学・天文学野外実習 | | | 2 | 2 |
| | | △大気科学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △大気科学実験 | | | 1 | 1 |
| | | △生命・地球システム教育演習 | | 0.14 | | 0.14 |
| | | △教育実践場面分析演習「理科」 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | △課題研究 | | 1 | | 1 |
| | | 計 | 3.5 | 2.38 | 5.67 | 11.55 |
| 教　授 | 西　山　保　子 | 物理学 | 0.66 | | | 0.66 |
| | | 光学 | 1 | | | 1 |
| | | 光学演習 | | 1 | | 1 |
| | | 原子物理学 | 1 | | | 1 |
| | | 原子物理学演習 | | 1 | | 1 |
| | | 物理学実験 | | | 0.67 | 0.67 |
| | | 物理学実験II | | | 1 | 1 |
| | | △光物性特論 | 1 | | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「理科」 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 3.66 | 4.07 | 1.67 | 9.4 |
| 教　授 | 林　　康　久 | 自然A | 0.5 | | | 0.5 |
| | | 化学 | 0.66 | | | 0.66 |
| | | 分析化学 | 1 | | | 1 |
| | | 機器分析化学 | 2 | | | 2 |
| | | 分析化学演習 | | 1 | | 1 |
| | | 化学実験 | | | 0.67 | 0.67 |
| | | 化学実験II | | | 0.67 | 0.67 |
| | | △無機・分析科学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △物質化学実験 | | | 0.33 | 0.33 |
| | | △教育実践場面分析演習「理科」 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | 計 | 5.16 | 1.07 | 1.67 | 7.9 |
| 教　授 | 室　谷　利　夫 | 力学 | 1 | | | 1 |
| | | 力学演習 | | 1 | | 1 |
| | | 現代物理学 | 1 | | | 1 |
| | | 現代物理学演習 | | 1 | | 1 |
| | | 物理学 | 0.66 | | | 0.66 |
| | | 物理学実験 | | | 0.67 | 0.67 |
| | | △現代物理学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「理科」 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | 計 | 3.66 | 2.07 | 0.67 | 6.4 |
| 教　授 | 森　川　鐵　朗 | 化学 | 0.66 | | | 0.66 |
| | | 物理化学 | 1 | | | 1 |
| | | 理論化学 | 2 | | | 2 |
| | | 化学実験 | | | 0.67 | 0.67 |
| | | 化学実験II | | | 0.67 | 0.67 |
| | | 物理化学演習 | | 1 | | 1 |
| | | △物理化学特論 | 1 | | | 1 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | △物質化学実験 | | | 0.33 | 0.33 |
| | | △教育実践場面分析演習「理科」 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | △課題研究 | | 1 | | 1 |
| | | 計 | 4.66 | 2.07 | 1.67 | 8.4 |
| 教　授 | 渡　邉　　隆 | 自然B | 0.5 | | | 0.5 |
| | | エネルギーと環境 | 0.33 | | | 0.33 |
| | | 地学 | 0.33 | | | 0.33 |
| | | 地球物質科学 | 1 | | | 1 |
| | | 地学原書講読 | 0.67 | | | 0.67 |
| | | 地学演習 | | 0.67 | | 0.67 |
| | | 地学実験 | | | 0.67 | 0.67 |
| | | 宮沢賢治 | 0.2 | | | 0.2 |
| | | 地球物質科学実験 | | | 2 | 2 |
| | | 岩石学・鉱物学野外実習 | | | 2 | 2 |
| | | △地球物質科学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △地球物質科学実験 | | | 1 | 1 |
| | | △地球物質科学野外実習 | | | 1 | 1 |
| | | △生命・地球システム教育演習 | | 0.14 | | 0.14 |
| | | △情報処理演習 | | 0.33 | | 0.33 |
| | | △教育実践場面分析演習「理科」 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | △課題研究 | | 1 | | 1 |
| | | 計 | 4.03 | 2.21 | 6.67 | 12.91 |
| 助教授 | 天　野　和　孝 | 人間と環境 | 0.25 | | | 0.25 |
| | | 博物館資料論 | 0.33 | | | 0.33 |
| | | 地学 | 0.83 | | | 0.83 |
| | | 地学原書講読 | 0.67 | | | 0.67 |
| | | 地学演習 | | 0.67 | | 0.67 |
| | | 地圏環境進化学 | 1 | | | 1 |
| | | 地圏環境進化学実験 | | | 2 | 2 |
| | | 体験学習A（学校と野外活動） | | | 0.4 | 0.4 |
| | | 地学実験 | | | 0.67 | 0.67 |
| | | 層位学・古生物学野外実習 | | | 1 | 1 |
| | | △地圏環境進化学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △地圏環境進化学野外実習 | | | 1 | 1 |
| | | △地圏環境進化学実験 | | | 1 | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「理科」 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | △課題研究 | | 1 | | 1 |
| | | 計 | 4.08 | 1.74 | 6.07 | 11.89 |
| 助教授 | 小　川　　茂 | 細胞学 | 1 | | | 1 |
| | | 生理学 | 1 | | | 1 |
| | | 細胞学演習 | | 1 | | 1 |
| | | 生物学実験 | | | 1 | 1 |
| | | △細胞学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △細胞学実験 | | | 1 | 1 |
| | | △生命・地球システム教育演習 | | 0.14 | | 0.14 |
| | | △教育実践場面分析演習「理科」 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | △課題研究 | | 1 | | 1 |
| | | 計 | 3 | 2.21 | 2 | 7.21 |
| 助教授 | 定　本　嘉　郎 | 物理学 | 0.66 | | | 0.66 |
| | | 基礎演習 | | 0.5 | | 0.5 |
| | | 電磁気学 | 1 | | | 1 |
| | | 電磁気学演習 | | 1 | | 1 |
| | | 応用電磁気学 | 1 | | | 1 |
| | | 応用電磁気学演習 | | 1 | | 1 |
| | | 物理学実験 | | | 0.67 | 0.67 |
| | | 物理学実験II | | | 1 | 1 |
| | | △電磁物性特論 | 1 | | | 1 |
| | | △物理学実験 | | | 1 | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「理科」 | | 0.07 | | 0.07 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | △課題研究 | | 1 | | 1 |
| | | 計 | 3.66 | 3.57 | 2.67 | 9.9 |
| 助教授 | 高津戸　秀 | 化学 | 0.66 | | | 0.66 |
| | | 有機化学 | 1 | | | 1 |
| | | 生物化学 | 2 | | | 2 |
| | | 有機化学演習 | | 1 | | 1 |
| | | 化学実験 | | | 0.67 | 0.67 |
| | | 化学実験II | | | 0.67 | 0.67 |
| | | △有機化学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △物質化学実験 | | | 0.33 | 0.33 |
| | | △教育実践場面分析演習「理科」 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 4.66 | 3.07 | 1.67 | 9.4 |
| 助教授 | 中村雅彦 | 基礎演習 | | 0.5 | | 0.5 |
| | | 自然B | 0.5 | | | 0.5 |
| | | 生態学 | 1 | | | 1 |
| | | 動物行動学 | 1 | | | 1 |
| | | 動物学演習 | | 1 | | 1 |
| | | 生物学実験 | | | 1 | 1 |
| | | 生物学野外研究法 | | | 1 | 1 |
| | | 生物学野外実習 | | | 1 | 1 |
| | | 体験学習B（野外活動の指導法） | | | 0.4 | 0.4 |
| | | △動物学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △形態学実験 | | | 0.5 | 0.5 |
| | | △生物学野外実習 | | | 0.5 | 0.5 |
| | | △生命・地球システム教育演習 | | 0.14 | | 0.14 |
| | | △教育実践場面分析演習「理科」 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | △課題研究 | | 1 | | 1 |
| | | 計 | 3.5 | 2.71 | 4.4 | 10.61 |
| 助教授 | 西川　純 | 生命・地球教材評価 | 1 | | | 1 |
| | | 理科教育特講II | 2 | | | 2 |
| | | 理科教育研究法 | 0.67 | | | 0.67 |
| | | 理科教育法（初等） | 0.5 | 0.5 | | 1 |
| | | △理科教育認知特論 | 1 | | | 1 |
| | | △理科教育認知演習 | | 1 | | 1 |
| | | △生命・地球システム教育演習 | | 0.14 | | 0.14 |
| | | △教育実践場面分析演習「理科」 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 5.17 | 3.71 | | 8.88 |
| 助教授 | 庭野義英 | 理科 | 2 | | | 2 |
| | | 理科教育特講III（総合・応用） | 2 | | | 2 |
| | | 理科教育研究法 | 0.67 | | | 0.67 |
| | | 物質・エネルギー教材基礎論 | 1 | | | 1 |
| | | 専修教育実地研究「理科」 | | 0.5 | | 0.5 |
| | | △理科教育論 | 1 | | | 1 |
| | | △自然認識特論 | 1 | | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「理科」 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 7.67 | 2.57 | | 10.24 |

〈芸術系教育講座（音楽）〉

| 職名 | 氏名 | 授業科目名（△印は大学院の授業科目を示す。） | 毎週授業時数 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 講義 | 演習 | 実験実習実技 | 計 |
| 教授 | 工藤智昭 | 音楽A | | | 1 | 1 |
| | | 声楽基礎A | | 0.33 | | 0.33 |
| | | 声楽基礎B | | 0.33 | | 0.33 |
| | | 歌唱法 | | 2 | | 2 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 合唱 | | 2 | | 2 |
| | | 音楽特別研究Ⅰ | | 1 | | 1 |
| | | 音楽特別研究Ⅱ | | 1 | | 1 |
| | | 音楽劇創作演習 | | 0.67 | | 0.67 |
| | | △独唱 | | 0.33 | | 0.33 |
| | | △音楽劇研究 | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「音楽」 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | | 10.73 | 1 | 11.73 |
| 教　授 | 重　嶋　　博 | 音楽科教育特別研究 | | 1 | | 1 |
| | ※附属実技教育研究指導センター | 音楽科教育法（中等）Ⅰ | 0.5 | | | 0.5 |
| | | 音楽科教育法（中等）Ⅱ | 0.25 | | | 0.25 |
| | | 専修教育実地研究「音楽」 | | 0.33 | | 0.33 |
| | | 音楽科教育法（初等） | 0.5 | 0.5 | | 1 |
| | | △音楽科教育論 | 1 | | | 1 |
| | | △音楽科教育研究法 | 0.5 | | | 0.5 |
| | | △音楽科教育特論Ａ | 1 | | | 1 |
| | | △音楽科教育演習Ａ | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「音楽」 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | △課題研究 | | 1 | | 1 |
| | | 計 | 3.75 | 3.9 | | 7.65 |
| 教　授 | 伊　達　　博 | 音楽Ａ | | | 1 | 1 |
| | | 合奏Ⅰ | | 1 | | 1 |
| | | 合奏Ⅱ | | 1 | | 1 |
| | | 指揮法Ⅰ | | 1 | | 1 |
| | | 指揮法Ⅱ | | 1 | | 1 |
| | | 音楽特別研究Ⅰ | | 1 | | 1 |
| | | 音楽特別研究Ⅱ | | 1 | | 1 |
| | | △独奏 | | 0.33 | | 0.33 |
| | | △器楽アンサンブル | | 1 | | 1 |
| | | △教育楽器研究 | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「音楽」 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | △課題研究 | | 1 | | 1 |
| | | 計 | | 9.4 | 1 | 10.4 |
| 教　授 | 茂手木　潔　子 | 基礎演習 | | 0.14 | | 0.14 |
| | | 芸術 | 0.5 | | | 0.5 |
| | | 音楽学Ｂ | 1 | | | 1 |
| | | 音楽学特別研究 | | 1 | | 1 |
| | | 音楽Ｂ | 0.13 | | | 0.13 |
| | | △音楽文化論Ｃ | 1 | | | 1 |
| | | △日本音楽研究 | | 0.5 | | 0.5 |
| | | △教育実践場面分析演習「音楽」 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | △課題研究 | | 1 | | 1 |
| | | 計 | 2.63 | 2.71 | | 5.34 |
| 教　授 | 山　形　忠　顯 | 音楽Ａ | | | 1 | 1 |
| | | 声楽基礎Ａ | | 0.33 | | 0.33 |
| | | 声楽基礎Ｂ | | 0.33 | | 0.33 |
| | | 歌唱法 | | 2 | | 2 |
| | | 音楽特別研究Ⅰ | | 1 | | 1 |
| | | 音楽特別研究Ⅱ | | 1 | | 1 |
| | | △独唱 | | 0.33 | | 0.33 |
| | | △児童発声研究 | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「音楽」 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | 計 | | 6.06 | 1 | 7.06 |
| 助教授 | 池　田　　操 | 基礎演習 | | 0.14 | | 0.14 |
| | | 音楽Ａ | | | 1 | 1 |
| | | ソルフェージュＡ | | 1 | | 1 |
| | | 声楽基礎Ａ | | 0.33 | | 0.33 |
| | | 声楽基礎Ｂ | | 0.33 | | 0.33 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 歌唱法 | | 2 | | 2 |
| | | 音楽特別研究Ⅰ | | 1 | | 1 |
| | | 音楽特別研究Ⅱ | | 1 | | 1 |
| | | △独唱 | | 0.33 | | 0.33 |
| | | △重唱 | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「音楽」 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | △課題研究 | | 1 | | 1 |
| | | 計 | | 8.2 | 1 | 9.2 |
| 助教授 | 小川昌文 | 基礎演習 | | 0.14 | | 0.14 |
| | | 音楽科教育法（中等）Ⅰ | 0.5 | | | 0.5 |
| | | 音楽科教育法（中等）Ⅱ | 0.25 | | | 0.25 |
| | | 基礎情報処理 | | 0.25 | | 0.25 |
| | | 音楽科教育特別研究 | | 1 | | 1 |
| | | 専修教育実地研究「音楽」 | | 0.33 | | 0.33 |
| | | △音楽科教育研究法 | 0.5 | | | 0.5 |
| | | △音楽科教育特論Ｃ | 1 | | | 1 |
| | | △音楽科教育演習Ｃ | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「音楽」 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | △課題研究 | | 1 | | 1 |
| | | 計 | 2.25 | 3.79 | | 6.04 |
| 助教授 | 後藤丹 | 宮沢賢治 | 0.2 | | | 0.2 |
| | | 作曲基礎Ⅰ | | 1 | | 1 |
| | | 作曲法 | | 1 | | 1 |
| | | 音楽劇創作演習 | | 0.67 | | 0.67 |
| | | △音楽劇作品分析 | | 1 | | 1 |
| | | △楽曲分析 | | 0.5 | | 0.5 |
| | | △マルチメディア特論 | 0.2 | | | 0.2 |
| | | △教育実践場面分析演習「音楽」 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | △課題研究 | | 1 | | 1 |
| | | 計 | 0.4 | 5.24 | | 5.64 |
| 助教授 | 酒井創 | ピアノ奏法基礎Ⅰ | | 1 | | 1 |
| | | ピアノ奏法基礎Ⅱ | | 1 | | 1 |
| | | ピアノ奏法・伴奏法 | | 2 | | 2 |
| | | 音楽特別研究Ⅰ | | 1 | | 1 |
| | | 音楽特別研究Ⅱ | | 1 | | 1 |
| | | △独奏 | | 0.33 | | 0.33 |
| | | △伴奏法 | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「音楽」 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | 計 | | 7.4 | | 7.4 |
| 助教授 | 時得紀子 | 基礎演習 | | 0.14 | | 0.14 |
| | | 音楽Ｂ | 0.13 | | | 0.13 |
| | | 音楽科教育特別研究 | | 1 | | 1 |
| | | 音楽科教育法（初等） | 0.5 | 0.5 | | 1 |
| | | 専修教育実地研究「音楽」 | | 0.33 | | 0.33 |
| | | △音楽科教育特論Ｂ | 1 | | | 1 |
| | | △音楽科教育演習Ｂ | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「音楽」 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | △課題研究 | | 1 | | 1 |
| | | 計 | 1.63 | 4.04 | | 5.67 |
| 助教授 | 平野俊介 | 音楽Ａ | | | 1 | 1 |
| | | 基礎演習 | | 0.14 | | 0.14 |
| | | ピアノ奏法基礎Ⅰ | | 1 | | 1 |
| | | ピアノ奏法基礎Ⅱ | | 1 | | 1 |
| | | ピアノ奏法・伴奏法 | | 2 | | 2 |
| | | 音楽特別研究Ⅰ | | 1 | | 1 |
| | | 音楽特別研究Ⅱ | | 1 | | 1 |
| | | △独奏 | | 0.33 | | 0.33 |
| | | △教育実践場面分析演習「音楽」 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 計 | | 8.54 | 1 | 9.54 |
| 助教授 | 山本茂夫<br>※附属実技教育研究指導センター | 基礎演習 | | 0.14 | | 0.14 |
| | | 音楽A | | | 1 | 1 |
| | | 音楽B | 0.13 | | | 0.13 |
| | | ソルフェージュB | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「音楽」 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | △課題研究 | | 1 | | 1 |
| | | 計 | 0.13 | 2.21 | 1 | 3.34 |
| 講師 | 阿部亮太郎 | 基礎演習 | | 0.14 | | 0.14 |
| | | 楽曲分析法 | | 1 | | 1 |
| | | ソルフェージュB | | 1 | | 1 |
| | | 作曲基礎II | | 1 | | 1 |
| | | 音楽特別研究I | | 1 | | 1 |
| | | 音楽特別研究II | | 1 | | 1 |
| | | 音楽劇創作演習 | | 0.67 | | 0.67 |
| | | 音楽A | | | 1 | 1 |
| | | 音楽B | 0.13 | | | 0.13 |
| | | △作曲 | | 1 | | 1 |
| | | △楽曲分析 | | 0.5 | | 0.5 |
| | | △教育実践場面分析演習「音楽」 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | △課題研究 | | 1 | | 1 |
| | | 計 | 0.13 | 8.38 | 1 | 9.51 |
| 講師 | 植村幸生 | 基礎情報処理 | | 0.25 | | 0.25 |
| | | 韓国文化論 | | 1 | | 1 |
| | | 音楽学A | 1 | | | 1 |
| | | 音楽学特別研究 | | 1 | | 1 |
| | | △音楽文化論B | 1 | | | 1 |
| | | △楽曲分析 | 0.5 | | | 0.5 |
| | | △音楽学概説 | 1 | | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「音楽」 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | △課題研究 | | 1 | | 1 |
| | | 計 | 3.5 | 3.32 | | 6.82 |

〈芸術系教育講座（美術）〉

| 職名 | 氏名 | 授業科目名<br>（△印は大学院の授業科目を示す。） | 毎週授業時数 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 講義 | 演習 | 実験実習実技 | 計 |
| 教授 | 太田將勝 | 基礎演習 | | 0.33 | | 0.33 |
| | | 博物館資料論 | 0.33 | | | 0.33 |
| | | 美術教育法I | 1 | | | 1 |
| | | 美術教育法II | 0.5 | | | 0.5 |
| | | 専修教育実地研究「図画工作」 | | 0.33 | | 0.33 |
| | | 造形教育法 | 0.5 | 0.5 | | 1 |
| | | △美術教育特論 | 1 | | | 1 |
| | | △美術科教育教材開発演習 | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「美術」 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | △課題研究 | | 1 | | 1 |
| | | 計 | 3.33 | 3.23 | | 6.56 |
| 教授 | 風巻孝男 | 芸術 | 0.5 | | | 0.5 |
| | | 美術史概論 | 1 | | | 1 |
| | | 西洋美術史特講 | 1 | | | 1 |
| | | 西洋美術史演習 | | 1 | | 1 |
| | | △芸術理論 | 1 | | | 1 |
| | | △西洋美術史 | 1 | | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「美術」 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | △課題研究 | | 1 | | 1 |
| | | 計 | 4.5 | 2.07 | | 6.57 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 教　授 | 西　野　範　夫 | 基礎演習 | | 0.33 | | 0.33 |
| | | 専修教育実地研究「図画工作」 | | 0.33 | | 0.33 |
| | | △美術科教育論 | 1 | | | 1 |
| | | △美術科教育教材分析演習 | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「美術」 | | 0.08 | | 0.08 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 1 | 3.74 | | 4.74 |
| 教　授 | 増　谷　直　樹 | 図画工作C | | | 0.33 | 0.33 |
| | | 基礎造形I | | 0.33 | | 0.33 |
| | | 基礎造形III | | 0.33 | | 0.33 |
| | | 絵画演習II | | 1 | | 1 |
| | | 絵画実習 | | | 4 | 4 |
| | | 絵画制作 | | | 4 | 4 |
| | | △日本画研究I | | | 1 | 1 |
| | | △西洋画研究II | | | 0.33 | 0.33 |
| | | △教育実践場面分析演習「美術」 | | 0.08 | | 0.08 |
| | | 計 | | 1.74 | 9.66 | 11.4 |
| 教　授 | 山ノ下　堅　一 | 図画工作C | | | 0.33 | 0.33 |
| | | 図法演習 | | 0.5 | | 0.5 |
| | | デザイン演習 | | 2 | | 2 |
| | | デザイン実習 | | | 2 | 2 |
| | | デザイン制作 | | | 4 | 4 |
| | | デザイン理論 | 0.5 | | | 0.5 |
| | | △視覚デザイン研究 | | | 1 | 1 |
| | | △マルチメディア特論 | 0.2 | | | 0.2 |
| | | △教育実践場面分析演習「美術」 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 0.7 | 4.57 | 7.33 | 12.6 |
| 助教授 | 阿　部　靖　子 | 基礎演習 | | 0.33 | | 0.33 |
| | | 基礎情報処理 | | 0.5 | | 0.5 |
| | | 図画工作B | 1 | | | 1 |
| | | 図画工作II B（幼稚園講義） | 0.5 | | | 0.5 |
| | | 専修教育実地研究「図画工作」 | | 0.33 | | 0.33 |
| | | 造形教育法 | 0.5 | 0.5 | | 1 |
| | | △美術科教育方法演習 | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「美術」 | | 0.08 | | 0.08 |
| | | △課題研究 | | 1 | | 1 |
| | | 計 | 2 | 3.74 | | 5.74 |
| 助教授 | 大　嶋　　彰<br>※附属実技教育研究指導センター | 図画工作A | | | 0.8 | 0.8 |
| | | 基礎造形I | | 0.33 | | 0.33 |
| | | 基礎造形III | | 0.33 | | 0.33 |
| | | 絵画演習I | | 1 | | 1 |
| | | 絵画演習II | | 1 | | 1 |
| | | 絵画実習 | | | 4 | 4 |
| | | 絵画制作 | | | 4 | 4 |
| | | 工芸理論 | 0.5 | | | 0.5 |
| | | △西洋画研究I | | | 0.5 | 0.5 |
| | | △西洋画研究II | | | 0.33 | 0.33 |
| | | △版画研究 | | | 0.5 | 0.5 |
| | | △教育実践場面分析演習「美術」 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 0.5 | 4.73 | 10.13 | 15.36 |
| 助教授 | 岡　　充　夫 | 図画工作A | | | 0.8 | 0.8 |
| | | 図画工作C | | | 0.33 | 0.33 |
| | | 基礎造形II | | 0.5 | | 0.5 |
| | | 彫塑演習 | | 1 | | 1 |
| | | 彫塑実習 | | | 2 | 2 |
| | | 彫塑制作 | | | 2 | 2 |
| | | △塑造研究I | | | 1 | 1 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | △塑造研究II | | | 1 | 1 |
| | | △実材研究 | | | 0.5 | 0.5 |
| | | △教育実践場面分析演習「美術」 | | 0.08 | | 0.08 |
| | | 計 | | 1.58 | 7.63 | 9.21 |
| 助教授 | 川村知行 | 体験学習B（野外活動の指導法） | | | 0.4 | 0.4 |
| | | 博物館学 | 0.5 | | | 0.5 |
| | | 博物館概論 | 0.5 | | | 0.5 |
| | | 美術理論 | 1 | | | 1 |
| | | 日本美術史特講 | 1 | | | 1 |
| | | 日本美術史演習 | | 1 | | 1 |
| | | 美術史実地研究 | | | 2 | 2 |
| | | △芸術学 | 1 | | | 1 |
| | | △日本美術史 | 1 | | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「美術」 | | 0.08 | | 0.08 |
| | | △課題研究 | | 1 | | 1 |
| | | 計 | 5 | 2.08 | 2.4 | 9.48 |
| 助教授 | 髙石次郎 | 工芸特講 | 0.5 | | | 0.5 |
| | | 図画工作A | | | 0.8 | 0.8 |
| | | 図法演習 | | 0.5 | | 0.5 |
| | | 工芸演習 | | 1 | | 1 |
| | | 陶芸実習 | | | 2 | 2 |
| | | 工芸特別演習 | | 1 | | 1 |
| | | 陶芸制作 | | | 4 | 4 |
| | | △陶芸研究I | | | 1 | 1 |
| | | △陶芸研究II | | | 0.5 | 0.5 |
| | | △教育実践場面分析演習「美術」 | | 0.08 | | 0.08 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 0.5 | 4.58 | 8.3 | 13.38 |
| 助教授 | 西村俊夫 | 図画工作A | | | 0.8 | 0.8 |
| | | 製図演習 | | 1 | | 1 |
| | | 工芸演習 | | 1 | | 1 |
| | | 木工芸制作 | | | 4 | 4 |
| | | 工芸理論 | 0.5 | | | 0.5 |
| | | 木工芸実習 | | | 2 | 2 |
| | | デザイン理論 | 0.5 | | | 0.5 |
| | | 工芸科教育法I | 1 | | | 1 |
| | | 工芸科教育法II | 0.5 | | | 0.5 |
| | | △生産デザイン研究 | | | 1 | 1 |
| | | △木工芸研究I | | | 0.5 | 0.5 |
| | | △木工芸研究II | | | 1 | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「美術」 | | 0.08 | | 0.08 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 2.5 | 4.08 | 9.3 | 15.88 |
| 助教授 | 福岡奉彦 | 図画工作A | | | 0.8 | 0.8 |
| | | 基礎造形I | | 0.33 | | 0.33 |
| | | 基礎造形III | | 0.33 | | 0.33 |
| | | 絵画演習I | | 1 | | 1 |
| | | 絵画演習II | | 1 | | 1 |
| | | 絵画実習 | | | 4 | 4 |
| | | 絵画制作 | | | 4 | 4 |
| | | △西洋画研究I | | | 0.5 | 0.5 |
| | | △西洋画研究II | | | 0.33 | 0.33 |
| | | △版画研究 | | | 0.5 | 0.5 |
| | | △教育実践場面分析演習「美術」 | | 0.08 | | 0.08 |
| | | 計 | | 2.74 | 10.13 | 12.87 |
| 講師 | 洞谷亜里佐 | 絵画演習I | | 1 | | 1 |
| | ※附属実技教育研究指導センター | 絵画実習 | | | 4 | 4 |
| | | 絵画制作 | | | 4 | 4 |
| | | △日本画研究I | | | 0.5 | 0.5 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | △日本画研究II | | | 1 | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「美術」 | | 0.08 | | 0.08 |
| | | 計 | | 1.08 | 9.5 | 10.58 |

〈生活・健康系教育講座（保健体育）〉

| 職名 | 氏名 | 授業科目名（△印は大学院の授業科目を示す。） | 毎週授業時数 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 講義 | 演習 | 実験実習実技 | 計 |
| 教授 | 青木　眞 | 健康スポーツ学 | 0.26 | | | 0.26 |
| | | 基礎演習 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | 体育経営管理学 | 1 | | | 1 |
| | | 保健体育科教育法 I | 1 | | | 1 |
| | | 保健体育科教育演習 | | 1 | | 1 |
| | | 専修教育実地研究「体育」 | | 0.33 | | 0.33 |
| | | 体育科教育法 | 0.34 | 0.34 | | 0.68 |
| | | △保健体育教育論 | 1 | | | 1 |
| | | △保健体育科教育特論 | 1 | | | 1 |
| | | △体育学研究法 | 0.07 | | | 0.07 |
| | | △学校体育経営管理特論 | 1 | | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「体育」 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 5.67 | 3.81 | | 9.48 |
| 教授 | 今泉和彦 | 基礎演習 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | 人体生理学 | 1 | | | 1 |
| | | 運動生理学特講 | 1 | | | 1 |
| | | 運動生理学演習 | | 2 | | 2 |
| | | 生理学実験 | | | 2 | 2 |
| | | 生理学概論 | 1 | | | 1 |
| | | △体育学研究法 | 0.07 | | | 0.07 |
| | | △運動生理学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △運動生理学実験 | | | 1 | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「体育」 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | △課題研究 | | 1 | | 1 |
| | | 計 | 4.07 | 3.14 | 3 | 10.21 |
| 教授 | 太田昌秀 | 基礎演習 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | 器械運動実技 | | | 1 | 1 |
| | | 体育 A | | | 1 | 1 |
| | | 運動学（運動方法学を含む。） | 0.5 | | | 0.5 |
| | | 運動学演習 | | 0.29 | | 0.29 |
| | | △体育学研究法 | 0.07 | | | 0.07 |
| | | △運動学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △運動方法学演習 A | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「体育」 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | △課題研究 | | 1 | | 1 |
| | | 計 | 1.57 | 2.43 | 2 | 6 |
| 教授 | 砥堀雅信 | 基礎演習 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | 保健体育学 | 0.33 | | | 0.33 |
| | | 学校保健 A（救急措置を含む。） | 1 | | | 1 |
| | | 学校保健 B | 1 | | | 1 |
| | | 学校保健III（小児保健・精神保健を含む。） | 1 | | | 1 |
| | | 学校保健演習 | | 1 | | 1 |
| | | 学校健康教育 | 1 | | | 1 |
| | | 保育内容「健康」 | | 0.5 | | 0.5 |
| | | △体育学研究法 | 0.07 | | | 0.07 |
| | | △学校保健学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △学校保健学演習 | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「体育」 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 計 | 5.4 | 4.64 | | 10.04 |
| 教　授 | 長　澤　靖　夫<br>※附属実技教育研究指導センター | 基礎演習 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | マウンテンスポーツ | | | 1 | 1 |
| | | 体育A | | | 1 | 1 |
| | | 運動方法学　I（体操・器械運動） | | | 1 | 1 |
| | | 運動学演習 | | 0.29 | | 0.29 |
| | | 保育内容「健康」 | | 0.5 | | 0.5 |
| | | △体育学研究法 | 0.07 | | | 0.07 |
| | | △スポーツ運動学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △運動観察法演習 | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「体育」 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | △課題研究 | | 1 | | 1 |
| | | 計 | 1.07 | 2.93 | 3 | 7 |
| 教　授 | 丸　山　芳　郎 | 体験学習（野外活動指導法） | | | 0.4 | 0.4 |
| | | 基礎演習 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | 体育実技III | | | 0.5 | 0.5 |
| | | 体育B | 1 | | | 1 |
| | | 保健体育科教育演習 | | 1 | | 1 |
| | | 保健体育科教育法II | 0.5 | | | 0.5 |
| | | 専修教育実地研究「体育」 | | 0.33 | | 0.33 |
| | | 体育科教育法 | 0.34 | 0.34 | | 0.68 |
| | | △保健体育科教育内容・指導論 | 1 | | | 1 |
| | | △保健体育科教育演習 | | 1 | | 1 |
| | | △体育学研究法 | 0.07 | | | 0.07 |
| | | △教育実践場面分析演習「体育」 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 2.91 | 4.81 | 0.9 | 8.62 |
| 教　授 | 三　浦　望　慶 | 基礎演習 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | 体育実技III | | | 0.5 | 0.5 |
| | | マウンテンスポーツ | | | 1 | 1 |
| | | 野外運動A | | | 1 | 1 |
| | | バイオメカニクス | 1 | | | 1 |
| | | 運動学演習 | | 0.29 | | 0.29 |
| | | 体育解剖学 | 1 | | | 1 |
| | | 解剖学 | 1 | | | 1 |
| | | △体育学研究法 | 0.07 | | | 0.07 |
| | | △バイオメカニクス特論 | 1 | | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「体育」 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | △課題研究 | | 1 | | 1 |
| | | 計 | 4.07 | 1.43 | 2.5 | 8 |
| 教　授 | 山　本　　保<br>※保健管理センター | 基礎演習 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | 人間と環境 | 0.25 | | | 0.25 |
| | | 衛生学・公衆衛生学 | 1 | | | 1 |
| | | 学校保健演習 | | 1 | | 1 |
| | | 家庭看護学 | 1 | | | 1 |
| | | 家族保健学 | 1 | | | 1 |
| | | △体育学研究法 | 0.07 | | | 0.07 |
| | | △健康管理学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △健康管理学演習 | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「体育」 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 4.32 | 4.14 | | 8.46 |
| 助教授 | 市　川　真　澄<br>※附属実技教育研究指導センター | 健康スポーツ学 | 0.26 | | | 0.26 |
| | | 基礎演習 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | 体育実技B | | | 1 | 1 |
| | | マウンテンスポーツ | | | 1 | 1 |
| | | 基礎情報処理 | | 0.25 | | 0.25 |
| | | 運動方法学II（陸上競技） | | | 1 | 1 |
| | | 運動学演習 | | 0.29 | | 0.29 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | △体育学研究法 | 0.07 | | | 0.07 |
| | | △運動方法学演習B | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「体育」 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | △課題研究 | | 1 | | 1 |
| | | 計 | 0.33 | 2.68 | 3 | 6.01 |
| 助教授 | 伊藤政展 | 基礎演習 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | 体育心理学 | 1 | | | 1 |
| | | 体育学演習 | | 1 | | 1 |
| | | 体育測定評価 | | 1 | | 1 |
| | | △体育学研究法 | 0.07 | | | 0.07 |
| | | △体育心理学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「体育」 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | △課題研究 | | 1 | | 1 |
| | | 計 | 2.07 | 3.14 | | 5.21 |
| 助教授 | 加藤泰樹 | 健康スポーツ学 | 0.26 | | | 0.26 |
| | | 基礎演習 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | 人間と環境 | 0.25 | | | 0.25 |
| | | 体育II B（幼稚園講義） | 0.5 | | | 0.5 |
| | | 体育哲学 | 1 | | | 1 |
| | | 体育学演習 | | 1 | | 1 |
| | | 専修教育実地研究「体育」 | | 0.33 | | 0.33 |
| | | 体育科教育法 | 0.34 | 0.34 | | 0.68 |
| | | △体育学研究法 | 0.07 | | | 0.07 |
| | | △体育学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「体育」 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | △課題研究 | | 1 | | 1 |
| | | 計 | 3.42 | 2.81 | | 6.23 |
| 助教授 | 榊原潔 | 運動学（運動方法学を含む。） | 0.5 | | | 0.5 |
| | | 基礎演習 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | 基礎情報処理 | | 0.25 | | 0.25 |
| | | 体育実技A | | | 4 | 4 |
| | | 体育実技I | | | 0.5 | 0.5 |
| | | 体育C | | | 0.5 | 0.5 |
| | | 運動方法学III（球技） | | | 2 | 2 |
| | | 運動学演習 | | 0.29 | | 0.29 |
| | | △体育学研究法 | 0.07 | | | 0.07 |
| | | △運動方法学演習C | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「体育」 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | 計 | 0.57 | 1.68 | 7 | 9.25 |
| 助教授 | 清水富弘 | 基礎演習 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | 保健体育学 | 0.33 | | | 0.33 |
| | | 体育実技C | | | 2 | 2 |
| | | 体育実技I | | | 0.5 | 0.5 |
| | | マリンスポーツ | | | 1 | 1 |
| | | 野外運動A（スキー） | | | 1 | 1 |
| | | 野外運動B（水泳） | | | 1 | 1 |
| | | 運動学演習 | | 0.29 | | 0.29 |
| | | △体育学研究法 | 0.07 | | | 0.07 |
| | | △運動方法学演習F | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「体育」 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | 計 | 0.4 | 1.43 | 5.5 | 7.33 |
| 助教授 | 直原幹 | 基礎演習 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | 健康スポーツ学 | 0.26 | | | 0.26 |
| | | 保健体育学 | 0.33 | | | 0.33 |
| | | 体育A | | | 2 | 2 |
| | | 武道 | | | 1 | 1 |
| | | 運動方法学V（ダンス） | | | 1 | 1 |
| | | 運動学演習 | | 0.29 | | 0.29 |
| | | △体育学研究法 | 0.07 | | | 0.07 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | △運動方法学演習G | | 1 | | 1 |
| | | △武道学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「体育」 | | 0.07 | | 0.07 |
| | | △課題研究 | | 1 | | 1 |
| | | 計 | 1.66 | 2.43 | 4 | 8.09 |

〈生活・健康系教育講座（技術）〉

| 職名 | 氏名 | 授業科目名（△印は大学院の授業科目を示す。） | 毎週授業時数 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 講義 | 演習 | 実験実習実技 | 計 |
| 教授 | 石田文彦 | 金属加工法 | | 1 | | 1 |
| | | 金属加工学 | 1 | | | 1 |
| | | △金属加工学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △金属加工学実験実習 | | | 0.5 | 0.5 |
| | | △技術史特論 | 1 | | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「技術」 | | 0.12 | | 0.12 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 3 | 3.12 | 0.5 | 6.62 |
| 教授 | 川崎直哉 | 家庭電気・機械 | 0.5 | | | 0.5 |
| | | 電気工学概論 | 1 | | | 1 |
| | | 電気工学実験実習 | | | 1 | 1 |
| | | △マルチメディア特論 | 0.2 | | | 0.2 |
| | | △電気工学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △電気回路特論 | 1 | | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「技術」 | | 0.12 | | 0.12 |
| | | △課題研究 | | 1 | | 1 |
| | | 計 | 3.7 | 1.12 | 1 | 5.82 |
| 教授 | 川島章弘 | 電子工学概論及び演習 | 0.5 | 0.5 | | 1 |
| | | 情報基礎（実習含む。） | | 1 | | 1 |
| | | △電子工学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △情報基礎演習 | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「技術」 | | 0.12 | | 0.12 |
| | | △課題研究 | | 1 | | 1 |
| | | 計 | 1.5 | 3.62 | | 5.12 |
| 助教授 | 平田晴路 | 木材加工法 I（手工具加工） | | 1 | | 1 |
| | | 木材加工法 II（機械加工） | | 1 | | 1 |
| | | △技術教育論 | 0.5 | | | 0.5 |
| | | △技術科教育方法特論 | 1 | | | 1 |
| | | △技術科教育教材分析演習 | | 0.5 | | 0.5 |
| | | △教育実践場面分析演習「技術」 | | 0.12 | | 0.12 |
| | | 計 | 1.5 | 2.62 | | 4.12 |
| 助教授 | 山崎貞登 | 人間と環境 | 0.25 | | | 0.25 |
| | | 栽培学概論 | 0.5 | | | 0.5 |
| | | 技術科教育法 I | 1 | | | 1 |
| | | 技術科教育法II | 0.5 | | | 0.5 |
| | | △技術教育論 | 0.5 | | | 0.5 |
| | | △技術科教育原理特論 | 1 | | | 1 |
| | | △技術科教育教材開発演習 | | 0.5 | | 0.5 |
| | | △教育実践場面分析演習「技術」 | | 0.12 | | 0.12 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 3.75 | 2.62 | | 6.37 |
| 助教授 | 黎子椰 | 製図法 | | 1 | | 1 |
| | | 機械工学概論 | 1 | | | 1 |
| | | 機械実習 | | | 1 | 1 |
| | | エネルギー変換工学 | 1 | | | 1 |
| | | 機械工学実験 | | | 1 | 1 |
| | | △機械工学特論 | 1 | | | 1 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | △機械工学実験実習 | | | 0.5 | 0.5 |
| | | △教育実践場面分析演習「技術」 | | 0.12 | | 0.12 |
| | | △課題研究 | | 1 | | 1 |
| | | 計 | 3 | 2.12 | 2.5 | 7.62 |
| 講師 | 大森康正 | 基礎情報処理 | 0.25 | | | 0.25 |
| | | △情報処理演習 | | 0.33 | | 0.33 |
| | | △認知科学特論 | 0.5 | | | 0.5 |
| | | △マルチメディア特論 | 0.2 | | | 0.2 |
| | | △プログラミング特論 | 1 | | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「技術」 | | 0.12 | | 0.12 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 1.95 | 2.45 | | 4.4 |
| 講師 | 高野浩志 | 基礎情報処理 | 0.25 | | | 0.25 |
| | | △情報処理演習 | | 0.33 | | 0.33 |
| | | △認知科学特論 | 0.5 | | | 0.5 |
| | | △マルチメディア特論 | 0.2 | | | 0.2 |
| | | △教育実践場面分析演習「技術」 | | 0.12 | | 0.12 |
| | | △課題研究 | | 1 | | 1 |
| | | 計 | 0.95 | 1.45 | | 2.4 |

〈生活・健康系教育講座（家庭）〉

| 職名 | 氏名 | 授業科目名（△印は大学院の授業科目を示す。） | 毎週授業時数 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 講義 | 演習 | 実験実習実技 | 計 |
| 教授 | 大瀧ミドリ | 基礎演習 | | 0.11 | | 0.11 |
| | | 保育学 | 1 | | | 1 |
| | | 保育学演習Ⅰ | | 1 | | 1 |
| | | 保育学演習Ⅱ | | 1 | | 1 |
| | | △家庭教育特論 | 0.5 | | | 0.5 |
| | | △児童学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「家庭」 | | 0.11 | | 0.11 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 2 | 4.22 | | 6.22 |
| 教授 | 大山秀夫 | 基礎演習 | | 0.11 | | 0.11 |
| | | 食物学A | 1 | | | 1 |
| | | 食物学演習 | | 0.5 | | 0.5 |
| | | 食物学実験 | | | 1.5 | 1.5 |
| | | 生化学 | 1 | | | 1 |
| | | 生活の科学 | 0.25 | | | 0.25 |
| | | △食物学特論A | 1 | | | 1 |
| | | △食物学特論B | 0.5 | | | 0.5 |
| | | △教育実践場面分析演習「家庭」 | | 0.11 | | 0.11 |
| | | △課題研究 | | 1 | | 1 |
| | | 計 | 3.75 | 1.72 | 1.5 | 6.97 |
| 教授 | 坂本宗仙 | 基礎演習 | | 0.11 | | 0.11 |
| | | 被服学A | 1 | | | 1 |
| | | 被服学特講 | 1 | | | 1 |
| | | 被服学演習 | | 0.5 | | 0.5 |
| | | 被服学実験 | | | 1.5 | 1.5 |
| | | 家庭電気・機械 | 0.5 | | | 0.5 |
| | | 生活の科学 | 0.25 | | | 0.25 |
| | | △被服材料学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △被服整理学特論 | 0.5 | | | 0.5 |
| | | △被服学特別実験 | | | 0.5 | 0.5 |
| | | △教育実践場面分析演習「家庭」 | | 0.11 | | 0.11 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 4.25 | 2.72 | 2 | 8.97 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 教　授 | 佐　藤　文　子 | 基礎情報処理 | | 0.5 | | 0.5 |
| | | 基礎演習 | | 0.11 | | 0.11 |
| | | 家庭 | 0.33 | | | 0.33 |
| | | 消費者教育論 | 1 | | | 1 |
| | | 家庭科教育学特講Ⅰ | 0.33 | | | 0.33 |
| | | 家庭科教育法（初等） | 0.34 | 0.34 | | 0.68 |
| | | △家庭科教育学特論Ｂ | 1 | | | 1 |
| | | △家庭科教育学演習 | | 1 | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「家庭」 | | 0.11 | | 0.11 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | **計** | 3 | 4.06 | | 7.06 |
| 助教授 | 佐　藤　悦　子 | 基礎演習 | | 0.11 | | 0.11 |
| | | 被服学Ｂ | 1 | | | 1 |
| | | 被服学演習 | | 0.5 | | 0.5 |
| | | 被服学実験 | | | 1.5 | 1.5 |
| | | 被服実習 | | | 2 | 2 |
| | | 生活の科学 | 0.25 | | | 0.25 |
| | | △被服構成学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △被服衛生学特論 | 0.5 | | | 0.5 |
| | | △被服学特別実験 | | | 0.5 | 0.5 |
| | | △教育実践場面分析演習「家庭」 | | 0.11 | | 0.11 |
| | | △課題研究 | | 1 | | 1 |
| | | **計** | 2.75 | 1.72 | 4 | 8.47 |
| 助教授 | 立屋敷　かおる | 基礎演習 | | 0.11 | | 0.11 |
| | | 食物学Ｂ | 1 | | | 1 |
| | | 食物学演習 | | 0.5 | | 0.5 |
| | | 食物学実験 | | | 1.5 | 1.5 |
| | | 調理実習 | | | 2 | 2 |
| | | 生活の科学 | 0.25 | | | 0.25 |
| | | 学校給食論 | 0.5 | | | 0.5 |
| | | △食物学特論Ｂ | 0.5 | | | 0.5 |
| | | △食物学特論Ｃ | 1 | | | 1 |
| | | △食物学特別実験 | | | 0.5 | 0.5 |
| | | △教育実践場面分析演習「家庭」 | | 0.11 | | 0.11 |
| | | **計** | 3.25 | 0.72 | 4 | 7.97 |
| 助教授 | 渡　邊　彩　子 | 基礎演習 | | 0.11 | | 0.11 |
| | | 家庭 | 0.33 | | | 0.33 |
| | | 家庭科教育学特講Ⅰ | 0.33 | | | 0.33 |
| | | 家庭科教法（中等）Ⅱ | 0.5 | | | 0.5 |
| | | 専修教育実地研究「家庭」 | | 1 | | 1 |
| | | 家庭科教育法（初等） | 0.34 | 0.34 | | 0.68 |
| | | 生活と福祉 | 0.5 | | | 0.5 |
| | | △家庭科教育学特論Ａ | 1 | | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「家庭」 | | 0.11 | | 0.11 |
| | | △課題研究 | | 1 | | 1 |
| | | **計** | 3 | 2.56 | | 5.56 |
| 講　師 | 得　丸　定　子 | 基礎演習 | | 0.11 | | 0.11 |
| | | 家庭 | 0.33 | | | 0.33 |
| | | 家庭科教育学特講Ⅰ | 0.33 | | | 0.33 |
| | | 家庭科教育法（中等）Ⅰ | 1 | | | 1 |
| | | 家庭科教育法（初等） | 0.34 | 0.34 | | 0.68 |
| | | △家庭科教育論 | 1 | | | 1 |
| | | △家庭科教育学特論Ｃ | 1 | | | 1 |
| | | △教育実践場面分析演習「家庭」 | | 0.11 | | 0.11 |
| | | **計** | 4 | 0.56 | | 4.56 |
| 講　師 | 細　江　容　子 | 基礎演習 | | 0.11 | | 0.11 |
| | | 家族関係学 | 1 | | | 1 |
| | | 家庭経済学 | 1 | | | 1 |
| | | 家庭経営学演習 | | 1 | | 1 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 生活と福祉 | 0.5 | | | 0.5 |
| | | △家庭経営学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △家族関係学特論 | 1 | | | 1 |
| | | △家庭経営学演習 | | 0.5 | | 0.5 |
| | | △教育実践場面分析演習「家庭」 | | 0.11 | | 0.11 |
| | | △課題研究 | | 2 | | 2 |
| | | 計 | 4.5 | 3.72 | | 8.22 |

### ⑹ 平成10年度学位論文・卒業研究

#### ① 大学院学校教育研究科修了者の学位論文題目一覧

#### ア 学校教育専攻

**＜教育基礎コース＞**

○「気付き」の実践的研究
—「気付き」の構造を生かす生活科学習の工夫— ……飯 田 榮 子

○生活科学習指導の問題点を補完する「調べる綴方」
—生活を観察して話し合う池田和夫の綴方指導—……伊 野 昌 子

○教師の時間意識と学校の時間構造が教師行動に与える影響
＝小学校教師の授業形成に関わる意識とチャイムとの関係＝……江 口 正 洋

○地域の経済更生運動における学校の機能
—農民の思考・生産様式の近代化と精神主義教育—……大 石 義 敬

○児童によるパーソナリティ特性の理解
—小学生による特性の帰属と行動の予測の発達—……小 川 陽 司

○大衆教育社会における大学進学行動
—メリトクラシー理論の視座から—……小 林 順 子

○ワーキングメモリ容量が日本語の読みにおよぼす影響
—日本語版リーディングスパンテストを基盤として—……鶴 田 裕 人

○自閉症児における心の理論と文の理解およびメタ言語的能力について
—精神遅滞児・健常児との比較—……長 山 菊 雄

○高等学校における科目選択制の現実と課題
～A県における総合学科・単位制普通科の事例研究～ ……平 野 禎 幸

○勤労体験学習場面における人との「出会い」に関する研究
—岩手県田野畑村における首都圏中学生の勤労体験学習事例—……松 永 透

○幼児・児童におけるたし算方略の発達と10の概念の獲得との関係
—打ち切り日計画法による年齢と学校教育の影響の分離—……三 浦 久 義

○自伝的記憶に及ぼすパーソナリティ要因の影響
—自伝的記憶の再生内容にみられる個人差の検討—……渡 部 博

**＜教育経営コース＞**

○学校教育における福祉教育の位置づけに関する研究
—高齢者理解の視点から—……池 田 幹 男

○高等学校の教育課程編成における「横断的・総合的学習」に関する研究
—教科間連携による「教科エゴイズム」の克服をめざして—……大 坪 泰 久

○中学生の学校ストレスに関する実証的研究
—ストレス対応が“いじめ”“登校拒否”におよぼす影響を中心に— ……桶 屋 宗 伯

○普通科高等学校の学年経営における教員間の協働性に関する研究
—学校組織文化の視座に基づいて—……嘉手苅 良 治

○情報教育の効果的な指導に関する研究
—コンピュータ不安からのアプローチ—……加 藤 真 悟

○教師力量の認知的側面に関する研究
—ビリーフの構造と機能に注目して—……斎　藤　雅　久
○高等学校数学教育における教科経営に関する研究
—生徒の問題解決能力の育成を目指して—……鈴　木　克　志
○公立小・中学校の教職員定数・配置改善に関する研究……関　　悟
○中国中等学校における学級経営に関する研究
—教師の指導力の向上を中心にして—……鄧　　麗　涛
○学校と児童自立支援施設の連携に関する研究
—学校・児童福祉・少年司法の関係改善のための基礎的考察—……成　田　信　己
○わが国中学校の英語教育における「学校知」に関する研究
—カリキュラム社会学の視座に基づいて—……橋　立　英　基
○学校教育におけるノーマリゼーションに関する研究
—地域リハビリテーションをめざす大阪府大東市の事例分析を通して—……村　越　直　之
○米国公立学校教員の身分制度に関する法的研究
—「過員削減」をめぐる関係判例分析を中心として— ……渡　邉　文　芳
**＜教育方法コース＞**
○学校の人間化を基盤とする教育課程の編成に関する研究……阿　部　安　夫
○強固な誤概念の発生源に関する探索的研究……市　村　直　哉
○数量関係の明示と具体的操作による表象が問題解決に及ぼす影響……井　上　哲　治
○コンピュータによるペア学習用ソフトウエアの効果……上　野　正　秋
○継続的な自己評価活動と教師コメントが児童の内省的態度形成に及ぼす影響……大　坂　　宏
○教師に知覚された児童の問題解決スタイル……小山田　秀　次
○ Text-Act 理論に基づく小学生の作文指導 ……河　村　一　郎
○学校外の友人のソーシャル・サポートが高校生のストレス反応に及ぼす影響……木　谷　克　己
○成長としての生活を視座とした「文化」の創造に関する研究……木　原　弘　和
○商業高等学校における教育課程の改善に関する研究……工　藤　利　勝
○「癒しとしての学び」の本質に関する基礎的研究……古田島　真　樹
○中学校の英語の授業における生徒の学習意欲と AET の要因 ……齋　藤　　健
○改善情報のフィードバックが児童の書写学習に及ぼす影響……柴　田　　敏
○複合型電子辞書による語彙学習の効果……神　能　精　一
○青年期の心の見方に関する探索的研究……瀧　川　　猛
○「興味」を視座とした授業改善の基礎的研究……寺　分　典　彦
○「学び」の教授学的研究
—「appreciation」による「真実性」に着目して— ……徳　村　恵　子
○「活動主義カリキュラム」を中核としたブルーナー学習理論の研究……中　島　佳　明
○図形概念の再構成を支援するコンピュータシミュレーション教材の開発と試行
—中学校数学科線対称移動を題材として—……中　野　博　幸
○ A.S.ニイルにおける「自由教育」の理論と実践に関する研究 ……畑　中　千　光
○学習内容に関する好き嫌いの教科横断的分析……堀　川　正　史
○直接体験が児童の映像認知に与える影響……舛　田　隆　弘

○知識の構造化を図る指導が問題スキーマに及ぼす影響の分析
—小数のかけ算を扱った文章題に焦点をあてて—……宮　村　　博
＜生徒指導コース＞
○「中学生の怒り情動と攻撃行動に関する研究」……池　田　誠　喜
○学級集団に対する社会的スキル訓練が児童の学校ストレスの軽減に及ぼす影響……大　竹　正　宏
○中学校における教師と生徒の心理的距離と生徒の生きがい感との関連……大　舘　昭　彦
○教師の指導態度の変容が児童のストレス軽減に及ぼす影響……國　田　　孝
○中学生における友人サポート・ギャップとストレス反応の関連……小　林　　泉
○中学校の学級活動活性化に関する研究
～グループワークを活用した生活班指導プログラムの開発を中心として～……後　藤　正　彦
○「いじめ抑止のための話し合い活動プログラムの開発に関する一研究」
—ディベート的手法に注目して—……斉　藤　和　彦
○中学生のテレビ視聴と価値観に関する研究
—テレビ視聴態度との関連を中心に—……齊　藤　忠　幸
○小学生への交流分析の適用に関する研究
—自我状態と登校拒否傾向との関連を中心にして—……鶴　巻　むつ子
○アドラー心理学の適用による学校改善に関する一考察
—公立Ａ中学校の事例を中心として—……長　島　利　行
○中学生の向社会的人生観・情動的共感性と向社会的行動に関する研究
～両親の養育態度との関連より～……夏　坂　　勝
○いじめ制止行動に至る児童の心理的過程に関する研究……半　間　喜　浩
○モーニング・エクササイズが中学生の学級集団に及ぼす影響に関する研究
—構成的グループ・エンカウンターの活用を通して—……廣　橋　里　志
○中学校における生命尊重の道徳教育に関する一考察
—デス・エデュケーションを適用して—……福　田　和　己
○教師の指導態度が生徒の級友関係および学習意欲に及ぼす影響……宮　原　喜与志
○小学校における委員会活動に関する基礎的研究
—活動意欲を高める活動支援モデルの開発を目指して—……宮　本　和　典
○中学生における自己受容に関する研究
—生活体験との関連から—……横　澤　　彰
○教師の指導態度が児童のいじめ同調傾向に及ぼす影響……米　山　一　寿
○中学生の認知する教師の指導態度に関する研究……齋　藤　秀　爾
イ　幼児教育専攻
○幼児の分与判断と分与行動の関連性
—他者の分与行動についての予想を含めて—……青　谷　瑞　紀
○幼児の自発活動場面における一人遊びの特徴について
—集団遊びとの関連を中心に—……飯　塚　修　義
○「早期教育」の実態と母親の意識に関する研究……伊　東　祐　子
○幼児の道徳判断に関する研究……金　子　真住美
○幼稚園教育におけるピアノの在り方に関する一考察……癸生川　真愛子

○幼児の達成動機づけに関する研究
—課題遂行に及ぼす「雰囲気」の影響について—……小　林　絵　里
○ルソーにおける「自然」概念と幼児教育の方法原理
～『エミール』を中心として～ ……米　須　清　貴
○子どもの遊びを支える教師の援助について……佐々木　尚　子
○里親政策の現状と課題
～埼玉県の事例を中心に～……瀬　下　裕紀子
○幼児の思いやり行動に関する一研究
—高齢者との触れ合いに視点をあてて—……竹　内　幸　男
○子どもの遊びと学びにおけるつくり表すことの意味と役割に関する事例研究……服　部　孝　江
○幼児の旋律づくりにおける表現内容に関する研究
～音楽的環境からの検討～……丸　山　　桂
○幼稚園の音楽環境に関する一考察
—楽器に焦点を当てて—……佐　藤　知　司
○保育形態が保育者の行動特性に及ぼす影響について……丸　岡　敏　隆

**ウ　障害児教育専攻**

○聾学校中学部生徒の感情の特性と感情語の理解に関する研究……赤　坂　宜　紀
○大学生における養護・訓練関連用語に対するイメージ……浅　田　幸　子
○神奈川県における少人数精神薄弱特殊学級の教育課程及び指導形態に関する研究……石　川　茂　行
○障害児・者をもつ家族に対するレスパイトサービスの現状と課題……石　津　史　絵
○大江健三郎における障害児・者との共生思想についての研究……石　月　将　子
○統合保育における手だてに関する保育者の意識……大　橋　岳　男
○聾学校小学部児童の補聴器活用に関する自己評価の研究……加　藤　哲　則
○山形県における情緒障害特殊学級の指導目標・内容に関する研究……加　藤　信　一
○知的障害者の職業生活自立を支援するための通勤寮の現状と役割に関する研究……君　島　一　正
○肢体不自由養護学校に在籍する脳損傷児に対する教師の実態把握の方略……甲　田　　隆
○養護・訓練指導計画作成過程における教師のリーダーシップ行動の認知が集団討議の
参加に及ぼす影響……佐　藤　美　紀
○言語発達遅滞児一事例を対象にした「もらい文」に関する指導法の検討……三　田　美　保
○自閉傾向を示す精神遅滞児における常同行動の出現と覚醒水準の変動に関する研究……杉　田　典　子
○言語性短期記憶の個人差に関する研究
—音韻ループ・システムにおける語彙性の効果—……田　邉　るみ子
○知的障害養護学校における個別化教育のための学習指導に関する調査研究……田　村　　敦
○視覚障害の専門機関と小学校との連携に関する研究……辻　尾　壽　市
○盲児における重なり図形の認知に関する研究……西　田　正　信
○肢体不自由養護学校におけるインターネット活用に関する教師の意識調査……橋　立　裕　司
○作業学習における教師がとらえる生徒の意欲に関する調査研究……平　塚　直　樹
○知的障害養護学校の縫製作業における電動ミシンの補助具とその効果……丸　山　英　一
○中学校教師の態度が肢体不自由児の通常学級受け入れに及ぼす影響……渡　辺　政　治

## エ　教科・領域教育専攻

### ＜言語系コース（国語）＞


○読み深めのための音読・朗読指導に関する研究……秋川俊行
○文末表現「のだ」の研究……五十嵐彰
○論説的文章における読みの指導の研究
—「修辞作用段落」に着目した段落指導— ……上野有紀
○『今物語』研究……大沼和美
○太宰治『お伽草紙』研究……厳大漢
○表現過程における意味マップと相互交流の効果
—説明的文章を題材として—……金子淳嗣
○国語科における自己評価に関する研究……﨑見宣人
○「読者反応」に基づく読みの指導に関する研究……宍戸和博
○国語科における課題学習の研究……高野紀久代
○『太平記』についての一考察……西尾有礼
○芥川龍之介の文体研究
—「速度」の観点からの分析— ……久留隆
○読みの多様性に気付かせる文学教材の指導……松澤隆
○教室ディベートの指導研究
—反論・反駁に焦点をあてて—……松下寿
○聞くことを重視した音声言語指導の研究
—授業での対話活動を通して—……山口哲哉
○説明的文章の理解に関する研究……山本哲也
○『寶氏聯珠集』研究……石塚英樹
○現代日本語における終助詞「わ」の研究……大塚博巳
○連体修飾の語用論的考察
—曖昧性が解消される過程—……小野育子


### ＜言語系コース（英語）＞


○ The Effects of Learning Methods on Foreign Language Vocabulary
Learning : Japanese Junior High School Students ……姉﨑達夫
○ A Comparison of Teacher Assessment and EFL Junior High School Student
Self-Assessment:Relationships Between Student Personality and Motivation ……上田敏夫
○ On Demonstratives in English and Japanese ……川鶴望
○ A Study of Acceptable Japanese High School Students'English Pronunciation
by Native Speakers of English ……熊谷政彦
○ A Study of Teaching Materials at School from the Perspective of Information
Structures ……田中豪
○ A Study of the Effects of Learning L2 Vocabulary in Semantic Sets ……辻川陽子
○ The Effects of Audience Awareness on Revising Argumentative Essays by Japanese
EFL High School Students ……長谷川浩美
○ Nature in Hemingway's Early Stories ……堀尚人

○ A Study of the Reading Strategies Used by Japanese EFL Learners ……中　村　享　子

＜社会系コース＞

○世界史教育におけるクリミア戦争（1854-1856年）史像の再検討
　—19世紀前半期における全面戦争と限定戦争の相剋性を中心とした世界史教育
　のための基礎研究—……赤　城　　毅

○社会科学習におけるコンピュータ活用に関する基礎的研究
　—長野県小，中学校の実態調査から—……麻　田　正　明

○比較文明論の比較研究
　—世界史教育における文明圏学習のための基礎的考察—……井　上　幸　治

○中学校社会科授業における意志決定過程に関する実証的研究……小　栗　英　樹

○「田園都市」の変遷における住環境の保全に関する研究
　—東京都大田区田園調布について—……鬼　木　　勝

○徳富蘇峰の教育思想……加　藤　典　子

○児童の知覚環境の特性に関する基礎的研究
　—新潟県上越市における児童の遊び行動を中心に—……上　村　　淳

○児童の外国認識に関する一考察
　—描画分析を手法とした試み—……川　村　直　子

○ヨーロッパ世界におけるピョートル１世統治下のロシア経済の位置
　—「世界システム論」の再考— ……櫻　井　　武

○戦国期下総国における地域構造に関する一試論……関　口　岳　人

○歴史の授業構成における教師の指導性について
　—本多公栄の歴史教育論を中心として—……髙　橋　昌　也

○環境教育における学社連携・融合に関する基礎的研究
　—千葉県習志野市立秋津小学校の事例を中心に—……舘　岡　靖　哲

○尾張藩における上層給人の知行地支配と藩政の動向
　—石河氏を中心に—……西　田　　真

○近代日本における地域青年集団の位置と機能……牧　　匡　尚

○群馬県大泉町における児童・生徒の異文化受容に関する研究……増　田　眞　次

○問題解決学習における「問題」の成立過程に関する分析的考察……水　田　辰　男

○上越市における商業動向の特徴
　—ナルスの経営分析を基に—……山　邊　暁　孝

○社寺運営と村落組織
　—糸魚川市西海谷水保・北山の事例を通して—……渡　辺　洋　臣

○日本海側北部の交通体系の変遷と都市の関係……渡　辺　義　人

＜自然系コース（数学）＞

○算数教育における一般化の構成過程に関する考察
　—小数乗法における概念形成に関して—……新　井　　馨

○中学生における関数の理解に関する研究
　—１次関数を事例として—……桐　山　眞　一

○数学の授業における教師の意思決定の実際に関する研究
—新たな教材を導入する授業を構想する際の思考過程に焦点をあてて—……黒田　匠
○ Sofic Shift の表現とその位相共役について……佐野孝志
○平均曲率が一定な螺旋面について……坪谷秀雄
○複素射影空間内の円について……奈良岡英男
○ On the comparison between closure spaces and topological spaces ……西村雅彦
○正則関数の境界挙動について……濵田和彦
○数学的問題解決における生徒の情報の生成を促す指導に関する
基礎的研究……藤田尚徳
○超楕円曲線の合同ゼータ関数……畠和弘
○算数授業における子どものリアリティの構成と発展
—Realistic Mathematics Education の理論を手がかりとして—……吉田亨
**＜自然系コース（理科）＞**
○アワ（*Setaria italica* Beauv.）に含まれる sitostanol の分析に関する研究……阿部文一
○カツラ科における Winged seeds の形成過程と生態的意義……池田信三
○日本とアジア諸国の中学生における環境問題についての意識の比較調査……荻原穣
○アメリカの環境教育に見られる環境リテラシーの内容及び環境教育政策の研究……荻原彰
○葛藤条件の提示による溶解時の質量保存概念の意識変容に関わる研究
—先行オーガナイザー的な授業方略を通して—……片山幸毅
○小学生の理科学習における話し合い活動に関する研究……川合千尋
○植物の生育環境と Stomatal index ……小林尚
○上越市近郊における *Oenothera biennis* L.の生育動態……小山聡
○アセチルサリチル酸—サリチル酸混合物のラマン分光を用いた非破壊定量分析……下村治
○理科教育における観察能力に関する一考察
—対話が児童の観察事実獲得過程に及ぼす効果—……菅原隆宏
○中学校理科における生徒の学び合いに関する研究
—コミュニケーション活動を通して—……杉山清
○ Response to Partner Contribution and Nestling Begging in the Barn Swallow ……田嶋一善
○大学生が持つ自然科学の教育的価値の研究
—理科嫌い・理科離れの原因の一考察—……多田篤司
○ねじれ振動に関する研究……檜康弘
○カブトムシの配偶行動……古澤博之
○地表性昆虫群集による環境解析とその教材化……古寺誠
○小・中学校理科における実験の学習形態に関する研究
—児童生徒の実験操作に影響を与える要因—……渡邉亮夫
**＜芸術系コース（音楽）＞**
○アマチュア合唱団活動の研究
～活動内容，意思決定および満足度に関する調査を中心として～……小島玲恵
○わが国の唱歌教育における数字譜の導入と変遷
—明治・大正期の唱歌教科書・指導書の分析を通して—……阪田久美

○調子外れの児童の音程矯正を目的とした歌唱指導法の研究……新　山　　順
○中山晋平の歌曲の作曲様式……西　牧　美土里
○ショパン〈24のプレリュード〉作品28の研究……八　町　裕　子
○第２次性徴にともなう声の変化と学習意欲
　―小学校高学年男子児童を中心にして―……広　川　由紀子
○中学校音楽科熟達教師に見られる教授行動の特質
　―新入生を対象にした「授業ルーティン」の確立過程―……保　坂　淑　子
○環境教育の視点に立った音楽科教育の研究
　―サウンドスケープに着目して―……門　名　由　佳
○自己の歌唱表現における成長過程について
　―声楽発声を中心にして―……吉　田　至　徳
○小学校音楽科教育における「創作音楽劇」に関する研究
　―「音楽をつくって表現する」学習からのアプローチ― ……渡　辺　昌　子
**＜芸術系コース（美術）＞**
○子どもが「生きる力」を育む図画工作……青　木　善　治
○自分つくりとしての鑑賞の在り方……石　川　清　春
○中学校美術科教育におけるデザインと構成についての一考察……石　坂　真希子
○今日的な教育の課題と造形遊びに関する研究
　～ジョン・デューイの『芸術論―経験としての芸術―』を中心として～……小笠原　良　枝
○子どもが〈よさ〉を生かす図画工作……小　野　裕　美
○素材と空間
　―状況的認知を視点とした造形に関する考察―……岸　上　恭　史
○教育の基盤としての造形教育の可能性
　―子どもの〈つくる〉がひろがる学習活動の在り方―……草　間　恵　子
○ビジュアル・サインコミュニケーション・デザインの研究
　―外国人のための視覚言語について―……蔡　　志　英
○〈他者〉と美術教育……佐々木　貴　子
○自己・他者論を通しての「個性」に関する考察……土　田　涼　子
○総合的学習における造形領域の役割
　―グラスゴー1999計画における Art の意味― ……長　島　春　美
○高橋由一の風景画における「ピクチャレスク」……本　名　正　幸
○造形的な創造活動と今日の子どもの問題に関する研究……南　　伸　裕
○意味生成の場としての美術教育……村　松　哲　史
○子どものつくることの行為の意味と教育
　―造形的な行為の教育的意味の問い直し―……吉　田　直　彦
**＜生活・健康系コース（体育）＞**
○低学年の体育学習における単元構想の基礎的研究……青　木　ゆう子
○剣道における身体部位語を用いた言語指示が構え姿勢に及ぼす影響……荒　川　紀　子
○肥満及びるい痩園児の体型と遊びに関する事例的研究……飯　吉　令　枝
○体育学習における身体論の検討……石　黒　和　仁

○体育学習における教師の存在論的考察……岩　城　隆　徳
○ジュニア・クロスカントリースキー選手の体力とトレーニング強度……岩　瀬　真　澄
○文脈干渉効果を生かした新しい授業スケジュールへの試み
　—跳び箱運動の学習を通して—……石　見　　洋
○体育授業のオープンエンド化に関する研究……小　野　　聡
○虚血性心疾患患者のセルフケア能力の学習過程に関する研究……金　子　史　代
○スノースポーツにおける安全対策について
　—スキーヤー，スノーボーダーの衝突分析—……清　水　幸　子
○前方倒立回転とびに関する運動形態学的研究……田　中　裕　子
○女性における痩身願望と行為に関する研究……南　雲　綾　乃
○投運動における運動発生形態をもとにした伝承論
　—あそびから投運動へ—……西　幅　孝　弘
○体育における「からだのわかり」に関する研究……星　野　浩　一
○中学校体育授業における準備運動論……宮　川　高　広
○短期間のバランストレーニングが運動系平衡能力に及ぼす影響
　—正中線意識を用いたイメージトレーニングとバランスボードを用いたトレーニングの比較—……山　下　晃　司
○体育授業における向社会的行動に関する研究……吉　田　博　幸
○ラット骨格筋と内臓のサイズに対する下垂体の調節作用……野　崎　三　好
**＜生活・健康系コース（技術）＞**
○新潟県における石油工業の発展過程……石　井　太　郎
○ RDB と連携した WWW による上越教育大学電子シラバスシステムの開発 ……小野寺　春　樹
○プログラム作成過程に着目したプログラミング教育支援方法とその応用……小　杉　実　穂
○メカトロニクス制御機器の開発に関する研究
　「多関節型くぎ打ちロボットの製作と応用」……鈴　木　真　弥
○技術科教育のクロス・テーマ「エネルギー変換活用」カリキュラムのデザインと
　アクション・リサーチ……田　中　俊　光
○機械加工学習用旋盤シミュレータに関する研究……渡根木　好　文
○情報教育における生徒のスキルと知識を評価するためのコンピュータテストシステムの開発……ヘンネ　カール
○地理情報システムソフトを利用した町の開発……劉　　艶　春
**＜生活・健康系コース（家庭）＞**
○青年期の生活設計に影響する要因の分析……赤　羽　尚　子
○世代間交流類型による老いについての考え方の相違
　—高校生と祖父母の場合—……榎　　由希子
○小学校家庭科教育における教師の意識と教科観
　—能力と教育内容の視点から—……菊　池　麻衣子
○家庭科住居領域における高校生の地域への参加意識の育成……清　水　悦　子
○高等学校家庭科教育における生活情報に関する研究
　—家庭科教員の認識と情報教育内容の構想試案—……狭　間　和　恵

② 学校教育学部卒業者の卒業研究題目一覧

**ア 学校教育専修**

○完全主義・私的自己意識と抑うつ傾向との関連……青木朝夕美
○へき地教育振興施策の現段階と今後の課題……今枝成晃
○学力モデルの特質と学習指導の改善……井本志穂
○ホリスティック教師とその形成過程に関する研究……上谷恭子
○記憶における記銘材料の入力モダリティ効果……大塚祐一郎
○「知の総合化」を視座とする学びの構想と教師の支援……大濱孝子
○チャーター・スクールに関する研究
—教育の多様化原理の実現を目指して—……小田朋一
○調べ学習を支援する電子教材の開発と活用……唐沢典之
○生徒と教師の心理的距離に関する研究……河内泰子
○米国の学校教育における多文化教育の役割に関する研究……川原典子
○小学生のモラールと学級雰囲気に教師の勢力資源が及ぼす影響……児玉郁子
○“ライバル”認知の規定因に関する研究……小林郁子
○自己効力感・完全主義と対人不安との関連……櫻川美穂
○企業における実力主義と教員の給与制度……笹川幸子
○自己受容と性格特性との関連についての再検討
—“あきらめ”的自己受容を中心として— ……島崎貴史
○プログラム作成過程の分析法に関する研究……駿河秀一
○ネル・ノディングズのケアリング論に関する研究……髙橋洋子
○役割取得能力が約束を破った友達に対する態度に及ぼす影響……田熊悦子
○『歎異抄』の人生観とその教育的意義……立野文州
○林竹二の授業論及び授業実践に関する一考察
～特に、問答法に注目して～……田中謙二
○トーマス・リコーナの統合的道徳教育論についての一考察……茅野弘幸
○エゴグラムと自己受容，他者受容との関連……中川亜希乃
○学級担任教師のオープナー度と小学生の自己開示との関係に関する研究……中島哉子
○教師の職能発達における自己評価の意義と課題……中島崇
○児童期における仲間関係についての一考察
～希薄化した関係の改善を目指して～……西正真琴
○青年期の生活スタイルと心の見方……西村美智雄
○絵本のよみきかせに関する一考察
～親子間のコミュニケーションに着目して～……本多麻記子
○大学生の精神的健康に関する研究
—ストレス，自己効力感との関連—……宮下英恵
○若者文化における恐れの本質……吉本靖一郎
○「学習意欲」の本質と授業改善の構想……飯村太造
○心を育てる体験活動の構想と展開……生井寛子
○スポーツ事故に関する教師の監督責任の研究……山田智幸

○大学生におけるギャンブル依存傾向に関する研究

—同一性混乱・アパシー傾向との関連を中心に—……持田　肇

**イ　幼児教育専修**

○幼稚園における幼児の文字接触行動の実態調査……天野ひろみ

○幼児の描画活動と「名づけ」についての研究……伊東周子

○幼児教育における父親の役割

—父親の育児参加の実態と役割意識の調査から—……内田昌樹

○幼児と生物との関わりを支える教師の援助の検討……小口真司

○幼児の基本的生活習慣のくずれに関する研究

—清潔の習慣について—……近藤昌子

○幼児の家庭における遊びの実態とその環境の検討

—幼児のテレビ視聴を中心に—……鷲岡徹

○幼児の遊びと造形活動における素材の変化と役割……直町美幸

○絵本の読み聞かせにおける読み方に関する考察

—幼児の読み取り反応との関わりから—……西谷真澄

○統合保育の現状と課題

—J市における統合保育の実態を中心に—……平木瑞穂

○幼児向けテレビ番組と幼児との関わりに関する一研究……古澤勉

○幼児の造形的遊びによる日常生活空間の変容について……三浦真里

○幼稚園と保育所の相互の関係についての一考察……山村貴志

○我が国に於ける幼児教育の発展とその時代背景に関する一研究

—昭和20年以降を中心に—……藤盛香織

○幼児の数能力における理解過程について……水田綾

**ウ　教科・領域教育専修**

**＜言語系（国語）コース＞**

○阿部昭「司令の休暇」研究……浅沼琴江

○新聞における見出しの研究

—情報の復元を中心として—……井口真規子

○『とりかへばや物語』研究……池田更織

○横光利一文学における時間

—「時間」を中心に—……石川仁章

○井伏鱒二初期作品研究

—『夜ふけと梅の花』の世界—……大隅貴啓

○読みの指導過程における〈初発の感想〉に関する研究……岡部藍

○『百人一首』研究……喜多清可

○説明的文章教材の授業に関する研究

—ディベートを用いた授業法の改善について—……熊谷敦子

○鳥山敏子の授業実践に関する研究……黒木美紀

○「曹植」研究……小森大樹

○白行簡の文学研究……後藤由美子

○情態詞に着目した詩の表現分析
—八木重吉の詩作品を中心に—……清家紀子
○甲骨文から唐の楷書までの字形変化について……高田文代
○元稹の「連昌宮詞」について……田子裕香里
○梶井基次郎「のんきな患者」研究……白鍾美
○小学校低学年における生活文指導の研究
—体験活動を中心とした記述前指導について—……本多敦
○相馬御風の書の研究……松本高志
○古代歌謡研究……池浦和

**＜社会系コース＞**

○漢代の尚方に関する一考察……井伊徹
○ヴァイキングの活動の原因に関する一考察……飯塚真史
○中世初期におけるビザンツ帝国とその周辺
—ユスティニアヌス１世のローマ帝国再興—……池田利充
○電子マネーの流通に関する研究
—長野県駒ヶ根市におけるアンケート調査を中心として—……石黒智一
○新潟県の工業
～生活圏別工業力の比較研究～……上山北斗
○柿崎川流域における河川水および湧水の水質……掛川哲史
○上越市の文化施設に関する一考察……家弓智広
○史料から見た鬼の表象に関する一考察……木原昌子
○山の恵みを得る人々……向田裕子
○『都道府県間流動のポテンシャル・モデルによる分析』……小林一夫
○上越市内の食品スーパーのチラシ広告
～各スーパーにおけるチラシ広告の共通性と特性を探る～……駒澤勲
○中国の「武術」観から見た義和拳に関する一考察……菅原俊
○『高田平野東部のため池の特徴と管理について』……鈴木彰次
○高田平野における郷土銘菓に関する研究……高橋徹
○「幕末京都の治安維持体制について」……田知花伸一
○メディア・リテラシー教育における新展開……田村奈穂子
○蓮如教団の形成とその社会的基盤について……中谷潤九
○郷土かるたについての研究
—群馬県の場合—……堀口恵
○上越市朝日、黒田地区における上信越自動車道建設に伴う土地利用と用地売買……本城圭
○ムラ社会における親分子分……本田正樹
○近代における地方鉄道の形成と展開
—富山県の場合—……前田隆次
○大学生のラテンアメリカ認識に関する研究……丸山奈穂
○戦争学習における実践的研究
～「従軍慰安婦」を中心にして～……武藤基彦

○日本神話における神々の機能
—スサノヲを中心に……山　中　俊　典
○環日本海経済圏交流の現状と課題
—日本（新潟県）と中国（東北三省）の経済交流を中心として—……邢　　永　軍

**＜自然系（算数）コース＞**

○球面幾何……浅　野　早　苗
○「数学科における問題づくりの授業」……荒　木　　弘
○球面幾何学……上　野　　薫
○幾何学の研究……小　野　晶　子
○球面幾何……加　藤　良　太
○グラフ理論の研究……金　井　祐　一
○問題解決アプローチによる分数指導の研究……小　林　宏　子
○ GC を活用した中学校の図形指導に関する一考察……近　藤　　恵
○数学科における問題づくりの研究……牛　腸　賢　一
○関数論……佐々木　泰　子
○幾何学の研究……前　佛　大　輔
○算数拒否児へのカウンセリング的支援に関する研究
—分数を題材として—……竹　下　あき子
○解析学の数論への応用……二野戸　史　子
○「算数教育における文章題の役割に関する考察」……羽　石　史　人
○算数科における問題解決の授業に関する考察……藤　崎　貴　史
○関数論……森　下　昭　和
○分数を通して個性を生かし伸ばす算数教育の研究……横　田　明日美
○幾何学の研究……吉　岡　欣　哉
○リーマンのゼータ関数……吉　岡　弘　和
○関数論……六　谷　真由美

**＜自然系（理科）コース＞**

○越冬地におけるオナガガモのつがい形成……渥　美　　猛
○硝酸溶液の濃度によるラマンスペクトルの変化……石　野　博　行
○ Ag の原子化におよぼす共存物質の影響について……伊　藤　龍　弥
○都市表面温度に関する模型実験……押　切　正　寿
○実験提示による誤概念の変化……風　間　美　紀
○寒候季の日本海側における GPS 可降水量の短時間変動の解析……川　東　範　子
○湯川秀樹の自然観についての研究
—創造性育成との関連から—……木　村　智　明
○環境教育の視点から見た里山に関する教材研究
—新潟県中頚城郡三和村，所山田地内を例として—……黒　田　隆　夫
○ブラシノステロイド欠損変異体の生合成変異部位解明のための植物ステロールおよび
それらの重水素標識体の合成研究……後　藤　千　春
○仮想的な原子，分子，イオンを用いた WWW 上の化学結合教材の開発……佐　野　かおり

○児童・生徒の空間認識能力の評価方法に関する研究……七條　敬
○微量Mnの原子吸光分析について……渋沢しのぶ
○接合藻ミカヅキモ（*Closterium*）の栄養細胞におけるゴルジ体の分裂……嶋　知子
○スゲ属植物における受粉様式
—ヒメカンスゲを材料として—……須貝希美子
○イミンのメチレンホスホン酸類を配位子とする金属錯体の水熱条件下における合成……髙山安章
○曲面での屈折による結像に関する研究……竹内　涼
○キイチゴ属2種における開花過程とその生態的意義
—ナワシロイチゴの花弁はなぜ開出しないか—……立野朋子
○接合藻ミカヅキモ（*Closterium*）の発芽細胞における核の挙動……藤間知恵
○中学校理科における環境倫理の取り扱い
—生命倫理との関連をふまえて—……中川洋明
○身近な素材の教材化
～木材の炭化実験～……羽子岡　誠
○南方熊楠の自然観についての研究
—自然保護思想の側面から—……三方健治
○地球表層にみられる鉄バイオマットの生成……美坂史朗
○新潟第三系におけるスメクタイトのイライト化メカニズム……横山信吾
○理科教師の実践能力に関する実態調査……吉江謙治
○ツバメの尾羽の長さと初卵日の関係……若山幸恵
**＜芸術系（音楽）コース＞**
○学校教育におけるマーチングバンドの指導法……伊藤典代
○インド映画音楽における北と南……海津　大
○ベートーヴェンピアノ・ソナタ第12から第15番について
—独自の様式確立への過渡期の様式として—……越水雅恵
○「ヒーリングミュージック序論」
～理念と実践～……小林英樹
○明治時代の演歌における西洋音楽の受容……五味友貴子
○人はなぜ歌を歌うのか
—越後の酒屋唄に焦点を当てて—……佐野牧美
○バリ島の葬送儀礼における音楽のあり方……佐原真弓
○「劇団四季」についての研究……菅沼加代
○授業における発声指導
—小学校高学年を中心として—……田村由紀子
○「えんぶり」の研究……中村真紀子
○モード・ジャズの研究
—マイルス・デイビスにおけるコード上のアドリブと、モード手法によるアドリブの比較を基に—
……長谷川　勝
○地域の音楽を取り入れた小学校の音楽授業
—「弘前ねぷた囃子」を中心にして— ……早坂実来子

○小学校音楽科の目標達成のための指導の展開
—「音楽をつくって表現できるようにする」ことを中心として— ……原　田　　実
○ブルースの研究……疋　津　智永子
○J.S.バッハ《マタイ受難曲》における象徴技法……前　川　牧　人
○“癒しとしての音楽”と子ども
—小学校への導入に向けた実証的研究—……的　野　千　絵
○音楽授業における「楽しさ」に関する研究
～小学校音楽科の授業を中心にして～……真　鍋　　愛
○音楽科と他教科・領域を総合的に学習する試みについての一考察……森　谷　悦　香
**＜芸術系（図画工作）コース＞**
○トゥールーズ・ロートレックのリトグラフ……池　田　睦　子
○「デイヴィット・ホックニー／絵画実践に見る視点の変遷について」……大　島　咲　子
○宮本三郎論……荻　野　千　佳
○大人と絵本の関わりについて……髙　橋　美紀子
○美術教育におけるさまざまな描画材の可能性について……富　沢　美　里
○『原弘について』……直　井　美　里
○宮崎駿の自然観……羽　鳥　美　和
○焼くことを通しての陶芸のあり方についての考察……寶　住　美　雪
○ジャコメッティの彫刻……山　本　雄　一
**＜生活・健康系（体育）コース＞**
○運動負荷が姿勢変換時の心拍応答に与える影響……味　澤　浩　恒
○バスケットボールのルールの変化について……石　塚　　諭
○キャプテンの条件に関する一考察……井　上　尚　子
○キャンプ参加者の援助行動に関する研究……伊　原　久美子
○教育実習における体育授業の自己点検……上　田　加奈子
○中学校運動部におけるソーシャル・サポートに関する調査的研究……岡　　麻理子
○運動負荷がBIA法の体脂肪率測定値に与える影響……菊　池　未　来
○女性のスポーツ観に関する一考察……草　野　陽　子
○視覚情報と前庭感覚情報の不一致が立位時の姿勢調節に与える影響……窪　田　晴　康
○児童からみた親子関係について……小　林　綾　芽
○小学校体育授業における子供たちの自発性について……菅　原　知　昭
○子どもの体育嫌いに関する一考察……鈴　木　宏　和
○体性刺激後の心拍数変動からみた自律神経系応答……角　岡　篤　樹
○ゲーム中におけるボールを受ける時の体の向きについて
～種目間の比較～……内　城　友　昭
○動作の準備過程における運動と運動イメージの機能的類同性について……中　川　知　己
○シュートを打つ位置への入り方
～98フランスワールドカップ大会を対象にして～……中　澤　賢　一
○トスまわし時の情況認識に関する考察……平　山　大　造
○PNFテクニックを用いたウォーミングアップが関節可動域に与える影響……藤　森　亜希子

○ PNF テクニックを用いたウォーミングアップ後の筋力発揮特性……星　野　裕　之
○運動部における指導者の在り方に関する検討……吉　村　幸　治
○『サッカーくじ』の導入に関する考察……鷲　田　佐知宏
○バスケットボール選手の判断……竹　中　大　介

**＜生活・健康系（家庭）コース＞**

○家庭科教育における自律性支援に関する研究……池　上　瑞　穂
○小学校高学年における Death Education の取り組み
～自殺に関する意識調査とその防止案～……石　塚　智　子
○ストレンジシチュエーション法による愛着行動に関する縦断的研究……石　原　　翠
○小学校家庭科教育における「家庭生活の理解」に関する研究……青　山　幸　子
○小学校高学年における Death Education の取り組み
―授業実践と教材開発―……北　原　利　枝
○日韓大学生のもつ高齢者イメージ……三　上　晴　美
○家庭科における福祉教育
―高校生の加齢のとらえ方―……平　　牧　子
○日韓大学生のもつ老親扶養意識……田　中　愛　子
○大学生のジーンズの着用に関する研究……流　合　えり子
○ストレンジシチュエーション法による母子間距離に関する縦断的研究……蜂須賀　美　枝
○「暮しの手帖」の被服関連記事に関する研究……細　田　晶　子
○被服学の学生実験に関する研究……山　下　裕　子
○家庭科における福祉教育
―車椅子体験による住居・住環境意識の変化について―……米　澤　浩　子

### (7) 教育職員免許状取得状況

① 平成10年度大学院学校教育研究科修了者

| 免許状の種類（教科） | | 平成10年度取得件数 |
|---|---|---|
| 小学校教諭専修免許状 | | 26 |
| 幼稚園教諭専修免許状 | | 7 |
| 中学校教諭専修免許状 | （国　語） | 5 |
| | （英　語） | 3 |
| | （社　会） | 5 |
| | （数　学） | 2 |
| | （理　科） | 4 |
| | （音　楽） | 4 |
| | （美　術） | 5 |
| | （保健体育） | 5 |
| | （技　術） | 1 |
| | （家　庭） | 4 |
| 高等学校教諭専修免許状 | （国　語） | 5 |
| | （英　語） | 3 |
| | （地理歴史） | 4 |
| | （公　民） | 2 |
| | （数　学） | 2 |
| | （理　科） | 4 |
| | （音　楽） | 4 |
| | （美　術） | 5 |
| | （保健体育） | 5 |
| | （家　庭） | 4 |
| 養護学校教諭専修免許状 | | 4 |
| 聾学校教諭専修免許状 | | 1 |
| 聾学校教諭1種免許状 | | 2 |
| 合計 | | 116 |

（注）取得件数は，新規大学修了生を対象としている。（現職教員を除く。）

② 平成10年度学校教育学部卒業者

| 免許状の種類（教科） | | 平成10年度取得件数 |
|---|---|---|
| 小学校教諭一種免許状 | | 194 |
| 幼稚園教諭一種免許状 | | 45 |
| 幼稚園教諭二種免許状 | | 51 |
| 中学校教諭一種免許状 | （国　語） | 27 |
| | （社　会） | 33 |
| | （数　学） | 18 |
| | （理　科） | 23 |
| | （音　楽） | 18 |
| | （美　術） | 7 |
| | （保健体育） | 21 |
| | （家　庭） | 12 |
| 中学校教諭二種免許状 | （国　語） | 1 |
| | （社　会） | 0 |
| | （数　学） | 0 |
| | （理　科） | 0 |
| | （音　楽） | 0 |
| | （美　術） | 0 |
| | （保健体育） | 0 |
| | （技　術） | 8 |
| | （家　庭） | 0 |
| 高等学校教諭一種免許状 | （国　語） | 16 |
| | （地理歴史） | 21 |
| | （公　民） | 3 |
| | （数　学） | 18 |
| | （理　科） | 23 |
| | （音　楽） | 18 |
| | （美　術） | 7 |
| | （工　芸） | 0 |
| | （保健体育） | 21 |
| | （家　庭） | 12 |
| 合計 | | 597 |

（注）取得件数は，新潟県教育委員会に教員免許状の一括申請をした数である。

## ⑻ 科学研究費補助金等

### ① 科学研究費補助金

| 研究種目 | 研究代表者職名・氏名 | 研究課題 | 金額(千円) |
|---|---|---|---|
| 基盤研究(A) | 助教授 下里俊行 | 東アジア地域の歴史学と歴史教育のマルチ・メディア教材の開発に関する総合的研究 | 14,800 |
| | 小計 | 1件 | 14,800 |
| 基盤研究(B) | 教授 西野範夫 | つくること表すことによる「生きる力」としての学びの基礎理論の構築と教育の体系化 | 5,300 |
| | 助教授 西川純 | 科学教育における思考力・判断力の育成と評価の研究 | 3,000 |
| | 助教授 中村雅彦 | 地理的隔離と集団サイズがイワヒバリ地域個体群の遺伝的多様性に与える影響 | 2,600 |
| | 小計 | 3件 | 10,900 |
| 基盤研究(C) | 助教授 清水富弘 | 高齢者を対象とした水中歩行の運動処方に関する縦断的研究 | 1,300 |
| | 教授 小宮三彌 | ダウン症者の加齢に伴う運動機能の変化：心理面と生理面からの検討 | 300 |
| | 教授 大瀧ミドリ | 親の保育要求の充足と子どもの保育補償に関する実証的研究 | 700 |
| | 助教授 大庭重治 | 障害児における書字指導プログラムの作成に関する基礎的研究 | 600 |
| | 助教授 渡邊彩子 | 高齢社会における児童・生徒の積極的な福祉観を培う問題解決型学習プログラムの開発 | 1,200 |
| | 教授 藤澤郁夫 | プラトンの『国家』における市民の生存益に関する基礎的研究 | 600 |
| | 助教授 若林明雄 | 児童用パーソナリティー検査の標準化とその利用による教育的効果に関する研究 | 500 |
| | 助教授 安田尚 | 燕市金属製品流通業の構造変動と戦略転換 | 1,000 |
| | 教授 池内正幸 | ミニマリスト・プログラムにおける経済性の条件の研究 | 500 |
| | 教授 森博 | ロバチェフスキー空間内の部分多様体に関する研究 | 1,400 |
| | 助手 大場孝信 | 閃長岩および花崗岩に産する角閃石による圧力推定 | 800 |
| | 教授 中川清隆 | 都市地表面放射収支の表面形状依存性に関する研究 | 500 |
| | 教授 中野靖夫 | 情報活用過程における状況認知と処理方略に関する実証的研究 | 500 |
| | 助教授 北條礼子 | 日本人学習者の言語（国語・英語）学習における学習方略のモデル構築に関する研究 | 600 |
| | 助教授 川村知行 | 白描図像の伝来における醍醐寺本図像抄に関する調査研究 | 2,000 |
| | 教授 増井三夫 | ドイツ近代社会の学区編成にともなう文化変容と社会的規律化の実証的研究 | 1,000 |
| | 助教授 安藤隆男 | 重複障害児の養護・訓練における個別の指導計画作成に関する基礎的研究 | 1,300 |
| | 助教授 河西英通 | 近代日本形成期における「東北論」の基礎的研究 | 1,200 |
| | 助教授 中川仁 | 概均質ベクトル空間に付随するゼータ関数の研究 | 1,700 |
| | 助教授 佐藤悦子 | 衣服の着脱に関する研究―下衣服の着脱時における動作特性と動作過程モデル― | 700 |
| | 助教授 南部昌敏 | SCS と ISDN を組み合わせた多地点遠隔共同学習の開発とその有効性の検討 | 3,400 |
| | 小計 | 21件 | 21,800 |
| 萌芽的研究 | 教授 黒木伸明 | 知識集合の代数的構造とそのラフ集合による表現 | 500 |
| | 小計 | 1件 | 500 |
| 奨励研究(A) | 助教授 内藤美加 | 自閉症児および健常児の自己の知識とその由来の理解について | 1,000 |
| | 講師 赤松信彦 | 日本人大学生の英語読解メカニズム研究：英語読解力と語学学習スタイルの関係について | 800 |
| | 助教授 松本健吾 | 作用素理論とその記号力学系への応用 | 600 |
| | 講師 惠羅修吉 | 自閉症児における学習能力の基底にある記憶機能特性に関する基礎研究 | 700 |
| | 助教授 山崎貞登 | 環境保全や共生概念を導入した科学技術教育の教材開発 | 100 |
| | 助手 葛西賢太 | セルフヘルプ・グループの規範導入機能および霊性についての宗教学的研究 | 1,100 |
| | 助教授 河合康 | 障害児教育における親のパートナーシップ原理のあり方に関する比較教育学的研究 | 1,200 |
| | 助手 山縣耕太郎 | 妙高，富士，支笏火山における火山泥流に関する編年学的研究 | 1,100 |
| | 助手 柴田好章 | 逐語記録にもとづく質的な授業分析への量的手法の統合に関する研究 | 1,400 |
| | 小計 | 9件 | 8,000 |
| 合計 | | 35件 | 56,000 |

（注）分担者及び附属学校教官の研究を除く。

② 各種研究経費

| 経費名 | 研究代表者職・氏名 | 採択対象 | 配分額（千円） |
|---|---|---|---|
| 高度化推進特別経費（研究科共同研究経費） | 副学長<br>大澤健郎 | 現職教員再教育の場としての大学院における自然環境教育の在り方に関する共同研究（3年計画の2年次分） | 23,385 |
| 教員養成学部フレンドシップ事業促進等経費 | | 授業科目「体験学習A・B」 | 1,253 |
| 大学改革推進等経費（教養特別講義プログラム推進経費） | | 授業科目「家庭」 | 280 |
| 教育研究活性化推進経費（教員流動化促進経費） | | 教授　室谷　利夫 | 3,470 |

③ 奨学寄附金

| 名称 | 研究代表者職・氏名 | 寄付者 | 金額（千円） |
|---|---|---|---|
| 上越教育大学における教育研究活動等への助成 | | 松下電器産業㈱外 | 25,290 |
| 附属中学校の国際理解教育助成 | | 上越教育大学附属中学校助成会<br>理事長<br>小川善司 | 450 |
| 海外教育研究助成 | | 上越教育大学<br>後援会会長<br>佐々木法子 | 250 |
| 海外教育特別研究助成 | | 上越教育大学大学院<br>同窓会会長<br>矢野利雄 | 200 |
| 海外教育（特別）研究助成 | | 公孫会会長<br>後藤亮一 | 400 |
| 初等中等教育の場における米国理解教育の充実のための教員研修に対する助成 | 学長<br>加藤章 | 米日財団東京事務所 | 16,830 |
| 佐藤芳徳助教授に対する研究助成 | 助教授<br>佐藤芳徳 | ㈱日さく | 200 |
| 清水富弘助教授に対する学術研究助成 | 助教授<br>清水富弘 | ㈱ユアースポーツ | 120 |

④ 受託研究経費

| 研究者職・氏名 | 研究題目 | 委託者 | 金額（千円） |
|---|---|---|---|
| 教授　渡邉　隆<br>助手　大場孝信 | 緩衝材の鉱物学的長期安定性評価（II） | 核燃料サイクル開発機構 | 4,000 |
| 助教授　中村雅彦 | 平成10年度野生生物集団の絶滅プロセスに関する研究<br>—小集団の遺伝的変異と近交弱勢の効果の解明— | 国立環境研究所 | 1,552 |

### ⑼ 教官の外国出張等

#### ① 外国出張・海外研修

| 職　名 | 氏　名 | 渡航目的国 | 用　　務 | 期　　間 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 助　教　授 | 田部　俊充 | アメリカ合衆国 | 上越教育大学・米国理解プロジェクト現地調査(事前調査) | 平成10年５月26日～<br>平成10年６月５日 | 外国出張 |
| 学　　長 | 加藤　　章 | 〃 | アイオワ大学との交流協定締結及びアメリカの教育事情視察 | 平成10年５月28日～<br>平成10年６月４日 | 〃 |
| 副　学　長 | 大澤　健郎 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 助　教　授 | 庭野　義英 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 〃 | 酒井　　創 | ルーマニア<br>ハンガリー<br>チェコ | ルーマニア国立ボトシャニ・フィルハーモニー管弦楽団定期演奏会における研究演奏発表及び東欧音楽研究のための資料収集 | 平成10年６月12日～<br>平成10年６月26日 | 海外研修 |
| 助　　手 | 宇野　哲之 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 学　　長 | 加藤　　章 | 韓国 | 韓国の教育事情視察及び韓日国際シンポジウム「歴史研究の動向と歴史教科書の叙述－古代・近世」に出席 | 平成10年６月18日～<br>平成10年６月21日 | 外国出張 |
| 助　教　授 | 河西　英通 | 〃 | 東アジア地域の歴史学と歴史教育のマルチメディア教材の開発に関する総合的研究の資料調査及び収集 | 〃 | 〃 |
| 教　　授 | 二谷　貞夫 | 韓国 | 韓日国際シンポジウム「歴史研究の動向と歴史教科書の叙述－古代・近世」に出席 | 平成10年６月18日～<br>平成10年６月21日 | 海外研修 |
| 助　教　授 | 浅倉　有子 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 〃 | 若林　明雄 | イギリス | 9 th European Conference on Personality 参加，研究発表及びサセックス大学でのリサーチセミナー実施 | 平成10年７月６日～<br>平成10年７月17日 | 〃 |
| 教　　授 | 佐藤　文子 | プエルトリコ | 国際家政学会評議会出席及び家庭科教育関係資料収集 | 平成10年７月11日～<br>平成10年７月21日 | 〃 |
| 助　教　授 | 下里　俊行 | ロシア<br>中国 | 大学間交流協定に関する事前調査及びロシア・中国の教育事情調査 | 平成10年７月13日～<br>平成10年７月20日 | 外国出張 |
| 助　教　授 | 庭野　義英 | アメリカ合衆国 | 理科の授業における総合学習的指導に関する日米の比較研究に関する研究打合せ | 平成10年７月20日～<br>平成10年７月31日 | 海外研修 |
| 講　　師 | 植村　幸生 | 韓国 | 韓国民間芸能の教習過程及び演奏技法の調査・記録 | 平成10年７月30日～<br>平成10年８月５日 | 〃 |
| 助　　手 | 山縣耕太郎 | ロシア | カムチャッカ半島における氷河・周氷河地形の研究 | 平成10年８月１日～<br>平成10年８月28日 | 外国出張 |

| 職　名 | 氏　名 | 渡航目的国 | 用　　務 | 期　　間 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 学　　長 | 加藤　　章 | アメリカ合衆国 | 上越教育大学米国理解プロジェクト現地調査 | 平成10年８月７日～<br>平成10年８月16日 | 外国出張 |
| 教　　授 | 池内　正幸 | 〃 | 〃 | 平成10年８月７日～<br>平成10年８月22日 | 〃 |
| 〃 | 大嶽　幸彦 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 助 教 授 | 田部　俊充 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 教　　諭 | 釜田　　聡 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 〃 | 佐山幸太郎 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 助 教 授 | 中川　　仁 | イギリス<br>ドイツ | 概均質ベクトル空間の研究に関する情報交換及びInternational Congress of Mathematiciansにて研究成果発表 | 平成10年８月10日～<br>平成10年８月28日 | 〃 |
| 助 教 授 | 熊谷　光一 | 〃 | ICMI-East Asia Regional Conference on Mathematics Education出席及び研究発表 | 平成10年８月15日～<br>平成10年８月22日 | 海外研修 |
| 助　　手 | 髙橋　　等 | 〃 | ICMI-East Asia Regional Conference on Mathematics Education出席 | 〃 | 〃 |
| 〃 | 岡﨑　正和 | 〃 | 東アジア地域数学教育国際会議出席 | 平成10年８月16日～<br>平成10年８月23日 | 〃 |
| 教　　諭 | 竹田　幸雄 | 韓国 | 韓国交歓（訪問）生徒引率 | 平成10年８月25日～<br>平成10年８月28日 | 外国出張 |
| 〃 | 石野　秋広 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 〃 | 澤田　　靖 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 〃 | 牧井　　創 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 助 教 授 | 古賀　一博 | アメリカ合衆国 | 米国教科書行政の歴史的発展構造に関する研究 | 平成10年９月１日～<br>平成11年４月30日 | 外国出張（文部省在外研究員） |
| 〃 | 林　　泰成 | 〃 | 米国の教員養成における公立学校との協力体制に関する研究 | 平成10年９月１日～<br>平成10年10月２日 | 〃 |
| 助　　手 | 大前　敦巳 | フランス | 日仏の教育と社会移動に関する比較社会学研究 | 平成10年９月１日～<br>平成11年４月30日 | 〃 |
| 教　　授 | 森島　　慧 | イギリス | 平成10年度海外教育（特別）研究現地研修学生の引率・指導 | 平成10年９月15日～<br>平成10年９月24日 | 外国出張 |
| 〃 | 坂本　宗仙 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 助 教 授 | 川村　知行 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 庶務課課長補佐 | 霜越　隆晴 | 〃 | 平成10年度海外教育（特別）研究現地研修学生の引率 | 〃 | 〃 |
| 教　　諭 | 藤田賢一郎 | イギリス | 英国の教育制度と施設・設備及び情報教育の概要に関する視察及び資料収集 | 平成10年９月16日～<br>平成10年９月24日 | 海外研修 |

| 職　名 | 氏　名 | 渡航目的国 | 用　　務 | 期　　間 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 助　　手 | 五百川　裕 | フィリピン | フィリピンにおけるマメ科植物の調査研究 | 平成10年10月19日～<br>平成10年11月９日 | 外国出張 |
| 教　　授 | 茂手木潔子 | 中国 | 第17回亜州芸術祭～アジア21・遙かなるユーラシア大陸音楽創造～（国際交流基金・香港臨時市政局主催）及び中国伝統音楽学会（開封河南大学）出席 | 平成10年10月29日～<br>平成10年11月５日 | 〃 |
| 教　　授 | 大悟法　滋 | ドイツ | 欧州（ドイツ，フライブルグ市）における環境教育に関する視察及びフライブルグ大学との国際交流に関する事前調査 | 平成10年10月31日～<br>平成10年11月５日 | 〃 |
| 講　　師 | 植村　幸生 | 韓国 | 韓国音楽史学会主催国際音楽シンポジウム出席，口頭発表及び東アジア音楽史に関する資料収集 | 平成10年11月５日～<br>平成10年11月９日 | 〃 |
| 助教授 | 庭野　義英 | アメリカ合衆国 | 理科における創造性育成を意図した授業の日米比較研究に関する研究打ち合わせ | 平成10年12月７日～<br>平成10年12月15日 | 海外研修 |
| 教　　授 | 太田　將勝 | 〃 | アメリカの美術館・博物館・公立小・中・高校の現場視察及び教育長・学校長・現代作家の訪問並びに美術教育研究資料の収集 | 平成10年12月14日～<br>平成10年12月29日 | 〃 |
| 教　　諭 | 釜田　　聡 | 韓国 | 授業実践の打ち合わせ | 平成10年12月14日～<br>平成10年12月19日 | 〃 |
| 教　　授 | 若井　彌一 | 〃 | 韓国の教育の今日的課題（いじめを含む）の聞き取り調査 | 平成10年12月19日～<br>平成10年12月22日 | 外国出張 |
| 〃 | 〃 | 中国 | 中華人民共和国の教育の今日的課題（いじめを含む）の聞き取り調査 | 平成11年１月４日～<br>平成11年１月７日 | 〃 |
| 助教授 | 小川　昌文 | 韓国 | 韓国（ソウル市）の教員養成大学における音楽教育カリキュラムについての視察・資料収集 | 平成11年１月７日～<br>平成11年１月９日 | 海外研修 |
| 〃 | 田部　俊充 | アメリカ合衆国 | 「東アジア地域の歴史学と歴史教育のマルチメディア教材の開発に関する総合的研究」に関する資料収集 | 平成11年２月９日～<br>平成11年２月19日 | 外国出張 |
| 助　　手 | 葛西　賢太 | 〃 | 「セルフヘルプ・グループの規範導入機能及び霊性についての宗教学的研究」に関する資料収集 | 平成11年２月18日～<br>平成11年２月23日 | 〃 |

| 職　名 | 氏　名 | 渡航目的国 | 用　　務 | 期　　間 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 助　　手 | 土田　了輔 | アメリカ合衆国 | アメリカバスケットボールのエンドラインからのスローインフォーメーションに関する資料収集及び試合期コンディショニングトレーニングの視察 | 平成11年２月26日～<br>平成11年３月３日 | 海外研修 |
| 講　　師 | 植村　幸生 | 韓国<br>インドネシア | 朝鮮宮廷音楽に関する古文献の調査及び韓国農村における民俗芸能に関する調査並びにジャワ及びバリにおけるガムラン音楽と楽器調査 | 平成11年２月23日～<br>平成11年３月24日 | 外国出張 |
| 教　　授 | 二谷　貞夫 | 台湾 | 「東アジア地域の歴史学と歴史教育のマルチメディア教材の開発に関する総合的研究」に関する資料収集 | 平成11年３月１日～<br>平成11年３月４日 | 〃 |
| 〃 | 真野　俊和 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 助教授 | 河西　英通 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 〃 | 松田　愼也 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 〃 | 田部　俊充 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 〃 | 浅倉　有子 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 〃 | 下里　俊行 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 助　　手 | 山縣耕太郎 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 助教授 | 山崎　貞登 | 台湾 | 技術教育の総合的思考に関する国際会議（ITTE）参加発表 | 平成11年３月１日～<br>平成11年３月６日 | 〃 |
| 教　　諭 | 釜田　　聡 | 〃 | 「東アジア地域の歴史学と歴教育のマルチ・メディア教材の開発に関する総合的研究」に関する資料収集 | 平成11年３月１日～<br>平成11年３月４日 | 海外研修 |
| 助教授 | 庭野　義英 | アメリカ合衆国 | アメリカにおける初等理科カリキュラムの成立に関する研究の文献検索・収集及びCo-laboration In Science E-ucation Research 1998の打ち合わせ | 平成11年３月１日～<br>平成11年３月12日 | 〃 |
| 教　　諭 | 釜田　　聡 | 韓国 | 検証授業実施 | 平成11年３月19日～<br>平成11年３月22日 | 〃 |

### ⑽ 非常勤講師等

① 非常勤講師

ア 大学院学校教育研究科

| 講座等 | 授業科目名 | 時間数 | 担当教官名 | 勤務先 | 日程 |
|---|---|---|---|---|---|
| 教育基礎 | 教育基礎論 | 30 | イ・ヨンスク | 一橋大学 | 7月21日(火)～7月24日(金) |
| 教育経営 | 教育計画特論 | 30 | 岡東壽隆 | 広島大学 | 9月19日(土)～9月22日(火) |
| 教育方法 | 学習指導特論 | 30 | 安彦忠彦 | 名古屋大学 | 7月27日(月)～7月30日(木) |
| 生徒指導 | 同和教育特論 | 15 | 橘川真彦 | 宇都宮大学 | 9月24日(木)～9月25日(金) |
| | 社会教育特論 | 30 | 菊池龍三郎 | 茨城大学 | 7月24日(金)～7月26日(日) |
| 幼児教育 | 幼児教育実践学特論 | 30 | 野口伐名 | 弘前大学 | 7月25日(土)～7月28日(火) |
| 障害児教育 | 障害児保健学特論 | 30 | 柴若光昭 | 東京大学 | 7月23日(木)～7月26日(日) |
| | 障害児研究法特論 | 15 | 植村勝彦 | 愛知淑徳大学 | 9月17日(木)～9月18日(金) |
| | 視覚障害児発達学特論 | 30 | 山本利和 | 大阪教育大学 | 2月6日(土)～2月8日(月) |
| 国語 | 国語学演習 | 30 | 宇佐美まゆみ | 東京外国語大学 | 2月8日(月)～2月10日(水) |
| 外国語 | 英語科教育応用言語学特論 | 30 | 小野昭一 | なし | 7月17日(金)～7月20日(月) |
| 社会 | 社会系教育特論A | 30 | 杉田英明 | 東京大学 | 7月18日(土)～7月19日(日)<br>9月19日(土)～9月20日(日) |
| 数学 | 数学教育論 | 15 | 森田俊雄 | なし | 7月17日(金)～7月18日(土) |
| | 数学教育学特論A | 15 | 岩崎秀樹 | 広島大学 | 8月29日(土)～8月30日(日) |
| | 数学教育学特論B | 15 | 日野圭子 | 奈良教育大学 | 9月28日(月)～9月29日(火) |
| | 数学教育学特論C | 15 | 小山正孝 | 広島大学 | 9月17日(木)～9月18日(金) |
| 理科 | 理科教育学特論A | 15 | 熊野善介 | 静岡大学 | 2月13日(土)～2月14日(日) |
| | 物質・エネルギー特論A | 15 | 谷津潔 | 筑波大学 | 7月18日(土)～7月19日(日) |
| | 物質・エネルギー特論C | 15 | 山下伸典 | 兵庫教育大学 | 7月17日(金)～7月18日(土) |
| | 「生命・地球」特論A | 15 | 赤井純治 | 新潟大学 | 2月18日(木)～2月19日(金) |
| | 「生命・地球」特論B | 15 | 高橋英樹 | 北海道大学 | 9月28日(月)～9月29日(火) |
| | 「生命・地球」特論C | 15 | 椿宜高 | 環境庁<br>国立環境研究所 | 9月26日(土)～9月27日(日) |
| 音楽 | 音楽学特論 | 15 | 村井靖児 | 国立音楽大学 | 7月22日(水)～7月23日(木) |
| | 指揮 | 45 | 伊藤浩史 | 新潟大学 | 前期5回・後期2回 |
| | 日本音楽研究 | 15 | 福永千恵子 | 東海大学 | 7月17日(金)～7月18日(土) |
| 美術 | 造形心理学特論 | 15 | 近江源太郎 | 女子美術大学 | 7月28日(火)～7月29日(水) |
| | 東洋美術史 | 15 | 星山晋也 | 早稲田大学 | 9月14日(月)～9月15日(火) |
| | 工芸・デザイン論 | 15 | 金子賢治 | 東京国立近代美術館 | 9月24日(木)～9月25日(金) |
| | 金工研究II | 30 | 宮田亮平 | 東京芸術大学 | 9月17日(木)～9月20日(日) |
| | 塑造研究II | 30 | 藤田英樹 | 信州大学 | 7月25日(土)～7月27日(月) |
| 保健体育 | 運動方法学演習D | 30 | 石村宇佐一 | 金沢大学 | 9月25日(金)～9月28日(月) |
| | 体育社会学特論 | 30 | 永島惇正 | 東京学芸大学 | 9月12日(土)～9月13日(日)<br>9月19日(土)～9月20日(日) |
| 技術 | 木材加工学特論 | 30 | 谷口醵 | 新潟大学 | 7月21日(火)～7月23日(木) |
| 家庭 | 住居学特論 | 30 | 五十嵐由利子 | 新潟大学 | 7月21日(火)～7月22日(水)<br>7月28日(火)～7月29日(水) |
| | 住居学演習 | 30 | 五十嵐由利子 | 新潟大学 | 8月24日(月)～8月25日(火)<br>9月18日(金)～9月19日(土) |
| 教育方法(自由科目) | 教育課程行政特論 | 30 | 辰野裕一 | 文部省 | 10月17日(土)～10月18日(日)<br>10月31日(土)～11月1日(日) |

イ　学校教育学部

| 講座等 | 授業科目名 | 時間数 | 担当教官名 | 勤務先 | 日　　程 |
|---|---|---|---|---|---|
| 学校教育研究センター | 日本の教育 | 30 | 松　田　稔　樹 | 東京工業大学 | 7月27日(月)～7月28日(火)<br>9月21日(月)～9月22日(火) |
| 生徒指導 | 同和教育 | 30 | 橘　川　真　彦 | 宇都宮大学 | 7月21日(火)～7月24日(金) |
| | 生涯学習概論B | 30 | 吉　川　　弘 | 横浜国立大学 | 7月17日(金)～7月20日(月) |
| | 博物館経営・情報論 | 30 | 鈴　木　昭　英 | なし | 2月15日(月)～2月18日(木) |
| 幼児教育 | 保育内容表現論 | 30 | 西　原　　和 | なし | 7月23日(木)～7月26日(日) |
| | 生活科教育法 | 60 | 小　林　毅　夫<br>五　島　由美子<br>佐　藤　真　市<br>小　出　佳　子 | 上越市立大手町小学校<br>本学附属小学校<br>上越市立大手町小学校<br>上越市立高志小学校 | 前期時間割組込み |
| 国語 | 文学 | 30 | 石　破　　洋 | 島根女子短期大学 | 9月15日(火)～9月18日(金) |
| | 国語史 | 30 | 川　嶋　秀　之 | 茨城大学 | 2月9日(火)～2月11日(木) |
| | 国文学特講Ⅰ | 30 | 先　田　　進 | 新潟大学 | 7月16日(木)～7月18日(土) |
| | 国語学特講 | 30 | 中　里　理　子 | 埼玉短期大学 | 2月19日(金)～2月21日(日) |
| | 国語学演習Ⅲ | 15 | 田　中　牧　郎 | 国立国語研究所 | 2月11日(木)～2月13日(土) |
| 社会 | 政治学（国際政治を含む。） | 30 | 和　田　　守 | 大東文化大学 | 7月16日(木)～7月19日(日) |
| | 考古学 | 30 | 森　　隆 | 財団法人富山県文化振興財団 | 2月12日(金)～2月15日(月) |
| 理科 | 自然A | 15 | 大　澤　健　郎 | 上越教育大学副学長 | 前期時間割組込み |
| | エネルギーと環境 | 10 | 大　澤　健　郎 | 上越教育大学副学長 | 前期時間割組込み |
| | 電磁気学演習 | 30 | 福　島　謙　二 | 青森大学 | 12月24日(木)～12月26日(土) |
| 美術 | 工芸特講 | 15 | 板　橋　廣　美 | ウィンズ陶芸研究所 | 7月30日(木)～7月31日(金) |
| 技術 | 栽培実習 | 30 | 鳥　山　和　伸 | 北陸農業試験場 | 前期不定期 |

② 教員養成実地指導講師

ア 教職に関する科目（教育実習の事前及び事後指導に関するものは除く）

| 講師氏名 | 職　名 | 授業科目名 | 授業の趣旨・概要 | 年間授業時間数 |
|---|---|---|---|---|
| 大滝雅浩 | 新潟県立<br>高田盲学校　校長 | 幼児・障害児教育原理 | 盲学校における教育・指導 | 2 |
| 岡　武男 | 新潟県立<br>高田養護学校　校長 | 〃 | 精神薄弱養護学校における教育・指導 | 2 |
| 小池省吾 | 新潟県立<br>新潟聾学校　校長 | 〃 | 聾学校における教育・指導 | 2 |
| 小杉敏勝 | 新潟県立<br>上越養護学校　校長 | 〃 | 肢体不自由養護学校における教育・指導 | 2 |
| 安藤雅之 | 常葉学園大学<br>附属橘小学校　教諭 | 教育方法学 | 授業研究の意義・目的・方法 | 2 |
| 古閑晶子 | 上越市立<br>春日小学校　教諭 | 国語科教育法(初等) | 小学校の国語科教材の見方・扱い方について実践的な立場から説述する | 2 |
| 寺島一之 | 練馬区立<br>開進第三小学校　教諭 | 〃 | 〃 | 2 |
| 近藤　均 | 名古屋市立<br>白山中学校　教諭 | 国語科教育法(中等)Ⅰ | 中学校の国語科教材の見方・扱い方について実践的な立場から説述する | 2 |
| 西沢睦郎 | 新潟県立<br>吉川高等学校　教諭 | 地理歴史科教育法 | 地理歴史科の教材内容と授業実践について、歴史教育に焦点をあてて講ずる | 4 |
| 高橋恵子 | 板倉町立<br>筒方小学校　校長 | 算数科教育法 | 新しい学力観の立場からの算数の指導と評価の実際 | 6×2 |
| 大山賢一 | 川口町立<br>川口小学校　教頭 | 理科教育法（初等） | 地層の観察 | 2×2 |
| 丸山幹生 | 上越市立<br>直江津中学校　教頭 | 理科教育法（中等）Ⅰ | 生物教材の指導 | 4 |
| 高倉芳行 | 新井市立<br>新井中央小学校　教諭 | 音楽科教育法(初等) | 児童の歌唱、創作に関する講義・演習 | 4×2 |
| 神谷敬二 | 頸城村立<br>頸城中学校　教頭 | 音楽科教育法(中等)Ⅰ | 生徒の「表現」に関する講義・演習 | 4 |
| 小林新治 | 上越市立<br>総合博物館　館長 | 造形教育法 | 図画工作科教育の実践的内容についての講義 | 4×2 |
| 堀川紀夫 | 三条市立<br>月岡小学校　校長 | 美術科教育法Ⅰ | 中学校美術科教育の実践的内容についての講義 | 6 |
| 小笠原秀夫 | 上越教育事務所<br>学校指導課　指導主事 | 体育科教育法 | 小学校体育科授業の構成と展開<br>新しい学力観の考え方 | 2×2 |
| 古澤良彰 | 前上越市立<br>大和小学校　校長 | 家庭科教育法(初等) | 環境教育と家庭科について実践をもとに講義する | 2×2 |
| 白川ナツ子 | 栃尾市立<br>塩川小学校　校長 | 〃 | 家庭科について実践をもとに講義する | 2×2 |
| 古澤良彰 | 前上越市立<br>大和小学校　校長 | 技術科教育法Ⅰ | 技術科教材研究の構成と実践 | 6 |
| 長谷川新平 | 糸魚川市立<br>根知小学校　校長 | 特別講義<br>「教育機器の利用法」 | 視聴覚教育機器の利用法について、操作実技実習を含めて講義する | 12 |
| 志村正幸 | 糸魚川市立<br>大野小学校　教頭 | 〃 | 〃 | 12 |
| 山川　晃 | 柿崎町立<br>柿崎小学校　教諭 | 〃 | 〃 | 12 |
| 熊木　徹 | 新井市立<br>新井南中学校　教諭 | 〃 | 〃 | 12 |

| 講師氏名 | 職　名 | 授業科目名 | 授業の趣旨・概要 | 年間授業時間数 |
|---|---|---|---|---|
| 山澤禎之 | 上越地区広域視聴覚教育協議会<br>視聴覚教育主事 | 特別講義<br>「教育機器の利用法」 | 視聴覚教育機器の利用法について、操作実技実習を含めて講義する | 24 |
| 戸田義隆 | 〃 | 〃 | 〃 | 24 |
| 阿部勉 | 上越教育大学<br>附属小学校　教諭 | 国語科教育法(初等) | 小学校の国語科教材の見方・扱い方について実践的な立場から説述する | 2 |
| 中野英康 | 〃 | 〃 | 〃 | 2 |
| 田中和人 | 上越教育大学<br>附属中学校　教諭 | 国語科教育法(中等)<br>Ⅰ | 中学校の国語科教材の見方・扱い方について実践的な立場から説述する | 2 |
| 青柳隆広 | 〃 | 数学科教育法Ⅰ | 問題解決の立場からの数学の授業の構成と展開の実際 | 6 |
| 小川唯一 | 上越教育大学<br>附属中学校非常勤講師 | 〃 | 新しい学力観の立場に立つ数学の指導と評価の実際 | 6 |
| 三崎隆 | 上越教育大学<br>附属中学校　教諭 | 理科教育法（中等）<br>Ⅰ | 地学教材の指導 | 4 |
| 近藤隆司 | 上越教育大学<br>附属小学校　教諭 | 音楽科教育法(初等) | 児童の器楽表現に関する講義・演習 | 2×2 |
| 長谷川泰山 | 上越教育大学<br>附属中学校　教諭 | 音楽科教育法(中等)<br>Ⅰ | 生徒の「鑑賞」に関する講義・演習 | 4 |
| 滝沢一博 | 上越教育大学<br>附属小学校　教諭 | 体育科教育法 | 小学校体育科授業の構成と展開<br>指導計画立案の手順 | 2×2 |
| 藤田賢一郎 | 上越教育大学<br>附属中学校　教諭 | 技術科教育法Ⅰ | 技術科授業の構成と展開 | 4 |

イ　教科に関する科目

| 講師氏名 | 職　名 | 授業科目名 | 授業の趣旨・概要 | 年間授業時間数 |
|---|---|---|---|---|
| 井部　剛 | 上越市立<br>直江津東中学校　教諭 | 理科 | 小学校物理・化学教材の展開例と実践例 | 2×2 |
| 石野繁男 | 上越市立教育センター<br>研究員 | 〃 | 小学校生物・地学教材の展開例と実践例 | 2×2 |
| 松井千鶴子 | 上越市立<br>東本町小学校　教諭 | 生活 | 小学校生活科の実践場面の解説 | 4×2 |
| 渡辺祐治 | 上越市立<br>春日新田小学校　教諭 | 体育B | 小学校体育科指導計画とその展開I | 2×2 |
| 上野　宏 | 上越市立<br>直江津小学校　教諭 | 〃 | 小学校体育科指導計画とその展開II | 2×2 |
| 塚本宇男 | 大潟町立<br>大潟町小学校　校長 | 専修教育実地研究<br>「国語」 | 小・中学校の国語科教育の内容につき、実践的な立場から説述する | 2 |
| 若月　昇 | 糸魚川市立<br>糸魚川中学校　校長 | 〃 | 〃 | 2 |
| 小林晃彦 | 上越市立<br>城西中学校　教諭 | 専修教育実地研究<br>「社会」 | 中学校社会科、特に公民的分野の教材内容と授業実践について講ずる | 2 |
| 長谷川敬子 | 大潟町立<br>大潟町小学校　教諭 | 〃 | 小学校社会科教材内容の分析方法、授業実践について講ずる | 2 |
| 陸川　晃 | 糸魚川市立<br>糸魚川中学校　教頭 | 〃 | 中学校社会科、特に地理的分野の教材内容と授業実践について講ずる | 2 |
| 山川　晃 | 柿崎町立<br>柿崎小学校　教諭 | 専修教育実地研究<br>「理科」 | 生物教材と情報の利用 | 4 |
| 石野繁男 | 上越市立教育センター<br>研究員 | 〃 | 地域素材の教材科 | 4 |
| 土田弘志 | 六日町立<br>五十沢中学校　教頭 | 専修教育実地研究<br>「音楽」 | 学校教育現場における音楽科教育の在り方について | 4 |
| 臼井一郎 | 十日町市立<br>十日町小学校　校長 | 専修教育実地研究<br>「図画工作」 | 図画工作科教育の実践的内容についての指導 | 4 |
| 吉越正子 | 頸城村立<br>明治小学校　校長 | 専修教育実地研究<br>「家庭」 | 授業の分析 | 4 |
| 笹川辰雄 | 上越教育大学<br>附属幼稚園　教頭 | 幼児教育実践学 | 専修教育実習の事前事後指導 | 2 |
| 石野秋広 | 上越教育大学<br>附属中学校　教諭 | 専修教育実地研究<br>「国語」 | 小・中学校の国語科教育の内容につき、実践的な立場から説述する | 2 |
| 清沢　聰 | 上越教育大学<br>附属中学校　教頭 | 専修教育実地研究<br>「社会」 | 中学校社会科、特に歴史的分野の教材内容と授業実践について講ずる | 2 |
| 五島由美子 | 上越教育大学<br>附属小学校　教諭 | 〃 | 小学校社会科教材内容の分析方法、授業実践について講ずる | 2 |
| 竹田幸雄 | 上越教育大学<br>附属中学校　教諭 | 専修教育実地研究<br>「算数」 | 新しい学力観の立場からの算数の指導と評価の実際 | 8 |
| 田村　学 | 上越教育大学<br>附属小学校　教諭 | 〃 | 新しい学力観からの算数の授業の構成と展開の実際 | 6 |
| 村井友明 | 上越教育大学<br>附属中学校　教諭 | 専修教育実地研究<br>「体育」 | 中学校体育授業の構成と展開<br>授業計画の立案 | 4 |

ウ　教育実習の事前及び事後指導に関するもの

| 講師氏名 | 職　名 | 授業科目名 | 授業の趣旨・概要 | 実施場所 | 年間授業時間数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 森澤　勉 | 前中郷村立<br>中郷小学校　校長 | 教育実地研究II<br>（授業基礎研究） | OHP・ビデオ教材の制作に関する講義と実習指導 | 学校教育研究センター | 4 |
| 蒲野　衛 | 妙高高原町立<br>杉野沢小学校校長 | 〃 | 〃 | 〃 | 4 |
| 長谷川　新平 | 糸魚川市立<br>根知小学校　校長 | 〃 | 〃 | 〃 | 4 |
| 志村正幸 | 糸魚川市立<br>大野小学校　教頭 | 〃 | 〃 | 〃 | 4 |
| 山川　晃 | 柿崎町立<br>柿崎小学校　教諭 | 〃 | 〃 | 〃 | 4 |
| 熊木　徹 | 新井市立<br>新井南中学校教諭 | 〃 | 〃 | 〃 | 4 |
| 山澤禎之 | 上越地区広域視聴覚教育協議会<br>視聴覚教育主事 | 〃 | 〃 | 〃 | 6 |
| 戸田義隆 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 6 |
| 高橋　守 | 頸城村立<br>南川小学校　教頭 | 〃 | 〃 | 〃 | 4 |
| 寺田喜男 | 牧村立<br>牧小学校　校長 | 〃 | 授業における板書の構造化 | 〃 | 10 |
| 石田重助 | 浦川原村立<br>下保倉小学校校長 | 〃 | 〃 | 〃 | 10 |
| 小林毅夫 | 上越市立<br>大手町小学校校長 | 普通教育実習事前指導 | 小学校教育実習事前指導 | 大学 | 2 |
| 保坂邦夫 | 上越市立<br>八千浦小学校校長 | 普通教育実習事後指導 | 小学校教育実習事後指導 | 〃 | 2 |
| 藤本孝昭 | 上越市立<br>城北中学校　教頭 | 中学校教育実習事前指導 | 中学校教育実習事前指導 | 〃 | 2 |
| 立川厚生 | 上越教育大学<br>附属小学校　教諭 | 教育実地研究II<br>（授業基礎研究） | 学習指導案の意味とその内容構成 | 〃 | 2 |
| 近藤隆司 | 〃 | 〃 | 音楽における指導案の作成方法 | 〃 | 2 |
| 滝沢一博 | 〃 | 〃 | 体育における指導案の作成方法 | 〃 | 1 |
| 渡辺由紀 | 〃 | 〃 | 家庭科における指導案の作成方法 | 〃 | 1 |
| 秋山敦子 | 〃 | 〃 | 生活科における指導案の作成方法 | 学校教育研究センター | 8 |
| 中野英康 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 8 |
| 佐山幸太郎 | 〃 | 〃 | 道徳における指導案の作成方法 | 〃 | 8 |
| 親跡久樹 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 8 |
| 阿部　勉 | 〃 | 普通教育実習事前指導 | 教育実習事前指導・国語指導案作成指導 | 大学 | 1 |
| 田村　学 | 〃 | 〃 | 教育実習事前指導・算数指導案作成指導 | 〃 | 1 |
| 福保雄成 | 〃 | 〃 | 教育実習事前指導・理科指導案作成指導 | 〃 | 1 |
| 常山昭男 | 〃 | 〃 | 教育実習事前指導・社会指導案作成指導 | 〃 | 1 |
| 清沢　聰 | 上越教育大学<br>附属中学校　教頭 | 中学校教育実習事後指導 | 中学校教育実習事後指導 | 〃 | 2 |

③　ティーチング・アシスタント

| 専攻・コース | 学籍番号・氏名 | 任用期間 | 業務担当時間数 | 業務担当授業科目名 | 担当教官 | 学期 | 曜日・時限 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教科・領域教育専攻<br>社会系コース | １０５３６５Ｆ<br>三　王　昌　代 | ５月１日から<br>９月30日まで | 15時間 | 社会科教育法(初等)<br>(Ａ・Ｄグループ) | 二谷貞夫教授　他 | 前期 | 月　2 |
| 教科・領域教育専攻<br>社会系コース | １０５３６５Ｆ<br>三　王　昌　代 | ５月１日から<br>９月30日まで | 15時間 | 社会科教育法(初等)<br>(Ｂ・Ｃグループ) | 二谷貞夫教授　他 | 前期 | 木　1 |
| 教科・領域教育専攻<br>自然系コース（数学） | １０５４０５Ｊ<br>加瀬谷　博　文 | ５月１日から<br>９月30日まで | 15時間 | 算数科教育法<br>(Ａ・Ｄグループ) | 熊谷光一助教授<br>他 | 前期 | 火　2 |
| 教科・領域教育専攻<br>自然系コース（数学） | １０５４１５Ｆ<br>安　井　修　子 | ５月１日から<br>９月30日まで | 15時間 | 算数科教育法<br>(Ｂ・Ｃグループ) | 熊谷光一助教授<br>他 | 前期 | 木　2 |
| 教科・領域教育専攻<br>芸術系コース（音楽） | ０９５４５３Ｆ<br>阪　田　久　美 | ５月１日から<br>９月30日まで | 30時間 | 音楽Ａ | 山本茂夫助教授<br>他 | 前期 | 火　5 |
| 教科・領域教育専攻<br>芸術系コース（音楽） | ０９５４５６Ｌ<br>八　町　裕　子 | ５月１日から<br>９月30日まで | | | | | |
| 教科・領域教育専攻<br>芸術系コース（美術） | ０９５４７１Ｃ<br>土　田　涼　子 | ５月１日から<br>９月30日まで | 30時間 | 図画工作Ａ<br>(Ａグループ) | 大嶋彰助教授　他 | 前期 | 木　2 |
| 教科・領域教育専攻<br>芸術系コース（美術） | ０９５４７１Ｃ<br>土　田　涼　子 | ５月１日から<br>９月30日まで | 30時間 | 図画工作Ａ<br>(Ｂグループ) | 大嶋彰助教授　他 | 前期 | 木　3 |
| 教科・領域教育専攻<br>芸術系コース（音楽） | ０９５４５２Ｈ<br>小　島　玲　恵 | ５月１日から<br>９月30日まで | 10時間 | 基礎演習（音楽） | 小川昌文助教授<br>他 | 前期 | 木　3 |
| 教科・領域教育専攻<br>芸術系コース（音楽） | ０９５４５３Ｆ<br>阪　田　久　美 | ５月１日から<br>９月30日まで | | | | | |
| 教科・領域教育専攻<br>言語系コース（国語） | １０５３０６Ｌ<br>佐　粧　光　一 | ５月１日から<br>９月30日まで | 15時間 | 基礎情報処理<br>(国語) | 髙本條治助教授<br>他 | 前期 | 木　4 |
| 教科・領域教育専攻<br>自然系コース（理科） | １０５４２９Ｆ<br>柳　　茂　徳 | ５月１日から<br>９月30日まで | 15時間 | 基礎情報処理<br>(理科) | 中川清隆教授 | 前期 | 水　2 |
| 教科・領域教育専攻<br>芸術系コース（美術） | ０９５４６９Ａ<br>蔡　　志　英 | ５月１日から<br>９月30日まで | 15時間 | 基礎情報処理<br>(音楽) | 小川昌文助教授<br>他 | 前期 | 月　2 |
| 教科・領域教育専攻<br>芸術系コース（美術） | ０９５４６４Ｍ<br>石　坂　真希子 | ５月１日から<br>９月30日まで | 15時間 | 基礎情報処理<br>(図画工作) | 阿部靖子助教授 | 前期 | 月　2 |
| 教科・領域教育専攻<br>生活・健康系コース（家庭） | ０９５５３０Ｂ<br>菊　池　麻衣子 | ５月１日から<br>９月30日まで | 15時間 | 基礎情報処理<br>(家庭) | 佐藤文子教授 | 前期 | 木　5 |
| 教科・領域教育専攻<br>生活・健康系コース（技術） | ０９５５２０Ｆ<br>石　井　太　郎 | ５月１日から<br>９月30日まで | 30時間 | 金属加工法 | 石田文彦教授 | 前期 | 火　5 |
| 教科・領域教育専攻<br>芸術系コース（音楽） | １０５４５１Ａ<br>荒　井　美　恵 | ５月１日から<br>９月30日まで | 15時間 | 指揮法Ⅰ | 伊達博教授 | 前期 | 木　2 |
| 教科・領域教育専攻<br>芸術系コース（音楽） | １０５４５８Ｋ<br>田　村　章　子 | ５月１日から<br>９月30日まで | | | | | |
| 教科・領域教育専攻<br>社会系コース | ０９５３７１Ｈ<br>山　邊　暁　孝 | ５月１日から<br>３月31日まで | 30時間 | 経済学演習 | 鈴木敏紀教授 | 前期<br>後期 | 月　5<br>金　5 |
| 教科・領域教育専攻<br>言語系コース（国語） | ０９５３０４Ｍ<br>大　沼　和　美 | ５月１日から<br>９月30日まで | 30時間 | 書写書道Ⅰ | 押木秀樹助教授 | 前期 | 月　4 |
| 学校教育専攻<br>教育経営コース | ０９５０５５Ｇ<br>加　藤　真　悟 | ５月１日から<br>９月30日まで | 30時間 | 心理学実験 | 内藤美加助教授 | 前期 | 木　3～4 |
| 学校教育専攻<br>教育方法コース | １０５１０３Ｂ<br>臼　田　裕　美 | ５月１日から<br>９月30日まで | 30時間 | 情報教育演習 | 小川亮助教授　他 | 前期 | 火　4 |
| 教科・領域教育専攻<br>自然系コース（理科） | １０５４１９Ｊ<br>小　丸　恭　平 | ５月１日から<br>９月30日まで | 30時間 | 地圏環境進化学実験 | 天野和孝助教授 | 前期 | 金　4～5 |
| 教科・領域教育専攻<br>芸術系コース（美術） | １０５４７０Ｊ<br>村　越　清　華 | ５月１日から<br>９月30日まで | 30時間 | 彫塑演習 | 岡充夫助教授 | 前期 | 木　4～5 |
| 教科・領域教育専攻<br>自然系コース（理科） | １０５４２９Ｆ<br>柳　　茂　徳 | ５月１日から<br>９月30日まで | 30時間 | 地球物質科学実験 | 渡邉隆教授 | 前期 | 火　4～5 |
| 教科・領域教育専攻<br>生活・健康系コース（家庭） | １０５５１８Ｇ<br>岡　崎　貴　志 | ５月１日から<br>９月30日まで | 30時間 | 食物学実験 | 大山秀夫教授　他 | 前期 | 月　3～5 |
| 学校教育専攻<br>教育経営コース | １０５０６５Ｇ<br>望　月　　謙 | 10月１日から<br>３月31日まで | 15時間 | 教育実地研究Ⅱ<br>(授業基礎研究)<br>(Ａ・Ｄグループ) | 中野靖夫教授　他 | 後期 | 水　5 |

| 専攻・コース | 学籍番号・氏名 | 任用期間 | 業務担当時間数 | 業務担当授業科目名 | 担当教官 | 学期 | 曜日・時限 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学校教育専攻<br>教育経営コース | １０５０６５Ｇ<br>望　月　　謙 | 10月１日から<br>３月31日まで | 15時間 | 教育実地研究II<br>（授業基礎研究）<br>（B・Cグループ） | 中野靖夫教授　他 | 後期 | 金　5 |
| 幼児教育専攻 | ０９５２０５Ｂ<br>癸生川　真愛子 | 10月１日から<br>３月31日まで | 30時間 | 保育内容<br>「表現・音楽」 | 大山美和子教授 | 後期 | 火　3 |
| 幼児教育専攻 | ０９５２１２Ｆ<br>服　部　孝　江 | 10月１日から<br>３月31日まで | 30時間 | 保育内容<br>「表現・造形」 | 松本健義助教授 | 後期 | 火　2 |
| 教科・領域教育専攻<br>芸術系コース（美術） | ０９５４７１Ｃ<br>土　田　涼　子 | 10月１日から<br>３月31日まで | 30時間 | 図画工作Ａ<br>（Cグループ） | 大嶋彰助教授　他 | 後期 | 火　3 |
| 教科・領域教育専攻<br>芸術系コース（美術） | ０９５４７１Ｃ<br>土　田　涼　子 | 10月１日から<br>３月31日まで | 30時間 | 図画工作Ａ<br>（Dグループ） | 大嶋彰助教授　他 | 後期 | 木　2 |
| 教科・領域教育専攻<br>芸術系コース（美術） | １０５４７３Ｂ<br>米　澤　　徹 | 10月１日から<br>３月31日まで | 30時間 | 図画工作 C | 増谷直樹教授　他 | 後期 | 月　3 |
| 学校教育専攻<br>教育方法コース | １０５１０３Ｂ<br>臼　田　裕　美 | 10月１日から<br>３月31日まで | 15時間 | 基礎情報処理<br>（学校教育） | 南部昌敏助教授<br>他 | 後期 | 金　4 |
| 幼児教育専攻 | １０５２０３Ｋ<br>犬　童　賢　樹 | 10月１日から<br>３月31日まで | 15時間 | 基礎情報処理<br>（幼児教育） | 南舘忠智教授　他 | 後期 | 月　4 |
| 教科・領域教育専攻<br>自然系コース（数学） | １０５４１５Ｆ<br>安　井　修　子 | 10月１日から<br>３月31日まで | 15時間 | 基礎情報処理<br>（算数） | 中川仁助教授 | 後期 | 金　3 |
| 教科・領域教育専攻<br>生活・健康系コース（保健体育） | ０９５５０２Ｈ<br>荒　川　紀　子 | 10月１日から<br>３月31日まで | 15時間 | 基礎情報処理<br>（体育） | 榊原潔助教授　他 | 後期 | 火　4 |
| 教科・領域教育専攻<br>生活・健康系コース（家庭） | １０５５１９Ｅ<br>栗　山　朋　子 | 10月１日から<br>３月31日まで | 30時間 | 被服学実験 | 坂本宗仙教授　他 | 後期 | 木　3～5 |
| 教科・領域教育専攻<br>生活・健康系コース（家庭） | １０５５２０Ｊ<br>斉　藤　美智子 | 10月１日から<br>３月31日まで | | | | | |
| 教科・領域教育専攻<br>生活・健康系コース（家庭） | １０５５２２Ｅ<br>星　野　純　子 | 10月１日から<br>３月31日まで | | | | | |
| 教科・領域教育専攻<br>自然系コース（理科） | ０９５４１４Ｅ<br>荻　原　　穣 | 10月１日から<br>３月31日まで | 30時間 | 専修教育実地研究<br>「理科」 | 戸北凱惟教授　他 | 後期 | 木　2 |
| 教科・領域教育専攻<br>自然系コース（理科） | ０９５４２８Ｅ<br>渡　辺　亮　夫 | 10月１日から<br>３月31日まで | | | | | |
| 教科・領域教育専攻<br>言語系コース（国語） | ０９５３０４Ｍ<br>大　沼　和　美 | 10月１日から<br>３月31日まで | 30時間 | 書写書道II | 押木秀樹助教授 | 後期 | 月　4 |
| 教科・領域教育専攻<br>自然系コース（数学） | １０５４０５Ｊ<br>加瀬谷　博　文 | 10月１日から<br>３月31日まで | 15時間 | 専修教育実地研究<br>「算数」 | 熊谷光一助教授<br>他 | 後期 | 水　2 |
| 教科・領域教育専攻<br>芸術系コース（音楽） | １０５４５１Ａ<br>荒　井　美　恵 | 10月１日から<br>３月31日まで | 15時間 | 指揮法II | 伊達博教授 | 後期 | 火　2 |
| 教科・領域教育専攻<br>芸術系コース（音楽） | １０５４５８Ｋ<br>田　村　章　子 | 10月１日から<br>３月31日まで | | | | | |
| 教科・領域教育専攻<br>言語系コース（国語） | ０９５３０４Ｍ<br>大　沼　和　美 | 10月１日から<br>３月31日まで | 30時間 | 書写書道III | 押木秀樹助教授 | 後期 | 月　3 |
| 教科・領域教育専攻<br>生活・健康系コース（技術） | １０５５１４Ｃ<br>王　　海　兵 | 10月１日から<br>３月31日まで | 30時間 | 製図法 | 黎子椰助教授 | 後期 | 火　5 |
| 教科・領域教育専攻<br>生活・健康系コース（家庭） | １０５５１９Ｅ<br>栗　山　朋　子 | 10月１日から<br>３月31日まで | 30時間 | 被服実習 | 佐藤悦子助教授 | 後期 | 火　2～5 |
| 教科・領域教育専攻<br>芸術系コース（美術） | １０５４７０Ｊ<br>村　越　清　華 | 10月１日から<br>３月31日まで | 30時間 | 基礎造形II | 岡充夫助教授 | 後期 | 金　4 |
| 教科・領域教育専攻<br>自然系コース（数学） | １０５４１５Ｆ<br>安　井　修　子 | 10月１日から<br>３月31日まで | 20時間 | 微分積分学II演習 | 田中博教授 | 後期 | 月　3 |
| 教科・領域教育専攻<br>芸術系コース（美術） | １０５４７１Ｇ<br>村　田　　透 | 10月１日から<br>３月31日まで | 30時間 | 陶芸実習 | 髙石次郎助教授 | 後期 | 木　4～5 |
| 教科・領域教育専攻<br>自然系コース（理科） | ０９５４２７Ｇ<br>古　寺　　誠 | 10月１日から<br>３月31日まで | 30時間 | 生物学実験 | 小川茂助教授　他 | 後期 | 木　4～5 |
| 教科・領域教育専攻<br>生活・健康系コース（家庭） | １０５５１９Ｅ<br>栗　山　朋　子 | 10月１日から<br>３月31日まで | 30時間 | 調理実習 | 立屋敷かおる<br>助教授 | 後期 | 火　2～5 |

| 専攻・コース | 学籍番号・氏名 | 任用期間 | 業務担当時間数 | 業務担当授業科目名 | 担当教官 | 学期 | 曜日・時限 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教科・領域教育専攻<br>芸術系コース（美術） | ０９５４６４Ｍ<br>石　坂　真希子 | 10月１日から<br>３月31日まで | 30時間 | デザイン演習 | 山ノ下堅一教授 | 後期 | 木　3 |
| 教科・領域教育専攻<br>自然系コース（理科） | １０５４２９Ｆ<br>柳　茂　徳 | 10月１日から<br>３月31日まで | 30時間 | 気象学実験 | 中川清隆教授 | 後期 | 木　4～5 |
| 教科・領域教育専攻<br>芸術系コース（美術） | ０９５４７３Ｌ<br>本　名　正　幸 | 10月１日から<br>３月31日まで | 30時間 | 美術史実地研究 | 川村友行助教授 | 後期 | 集　中 |
| 教科・領域教育専攻<br>芸術系コース（美術） | ０９５４６４Ｍ<br>石　坂　真希子 | 10月１日から<br>３月31日まで | 30時間 | 図法演習 | 山ノ下堅一教授<br>他 | 後期 | 月　4 |

| 専攻・連合講座 | 学籍番号・氏名 | 任用期間 | 業務担当時間数 | 業務担当授業科目名 | 担当教官 | 学期 | 曜日・時限 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学校教育実践学専攻<br>学校教育方法連合講座 | Ｄ９８１０３Ｊ<br>松　岡　　律 | 10月１日から<br>３月31日まで | 30時間 | 教育史演習Ⅰ | 増井三夫教授 | 後期 | 木　2 |
| 学校教育実践学専攻<br>学校教育方法連合講座 | Ｄ９８１０３Ｊ<br>松　岡　　律 | 10月１日から<br>３月31日まで | 30時間 | 教育史演習Ⅱ | 増井三夫教授 | 後期 | 月　4 |
| 学校教育実践学専攻<br>学校教育方法連合講座 | Ｄ９６１０２Ｊ<br>黒　羽　正　見 | 10月１日から<br>３月31日まで | 30時間 | 学級経営演習 | 西　穣司教授 | 後期 | 木　2 |
| 教科教育実践学専攻<br>言語系教育連合講座 | Ｄ９６３０４Ｊ<br>藤　井　知　弘 | 10月１日から<br>３月31日まで | 30時間 | 国語科教育方法演習 | 有澤俊太郎教授 | 後期 | 金　2 |
| 教科教育実践学専攻<br>言語系教育連合講座 | Ｄ９６３０４Ｊ<br>藤　井　知　弘 | 10月１日から<br>３月31日まで | 30時間 | 国語科演習Ⅲ | 有澤俊太郎教授 | 後期 | 木　4 |
| 教科教育実践学専攻<br>自然系教育連合講座 | Ｄ９６５０１Ｊ<br>嶋　根　紀　仁 | 10月１日から<br>３月31日まで | 30時間 | 幾何学演習 | 溝上武實教授 | 後期 | 水　1 |
| 教科教育実践学専攻<br>自然系教育連合講座 | Ｄ９６５０１Ｊ<br>嶋　根　紀　仁 | 10月１日から<br>３月31日まで | 30時間 | 数学演習 | 溝上武實教授 | 後期 | 火　5 |
| 教科教育実践学専攻<br>芸術系教育連合講座 | Ｄ９７６０１Ｊ<br>秋　山　敏　行 | 10月１日から<br>３月31日まで | 30時間 | 美術科教育教材分析演習 | 西野範夫教授 | 後期 | 火　1 |
| 教科教育実践学専攻<br>芸術系教育連合講座 | Ｄ９７６０２Ｊ<br>新　野　貴　則 | 10月１日から<br>３月31日まで | 30時間 | 絵画演習Ⅱ | 増谷直樹教授 | 後期 | 火　4 |
| 教科教育実践学専攻<br>芸術系教育連合講座 | Ｄ９７６０２Ｊ<br>新　野　貴　則 | 10月１日から<br>３月31日まで | 28時間 | 西洋画研究Ⅱ | 増谷直樹教授 | 後期 | 木　1～2 |
| 教科教育実践学専攻<br>生活・健康系教育連合講座 | Ｄ９６７０３Ｊ<br>原　田　咲　織 | 10月１日から<br>３月31日まで | 30時間 | 生理学実験 | 今泉和彦教授 | 後期 | 火　3～4 |
| 教科教育実践学専攻<br>生活・健康系教育連合講座 | Ｄ９６７０３Ｊ<br>原　田　咲　織 | 10月１日から<br>３月31日まで | 30時間 | 運動生理学演習 | 今泉和彦教授 | 後期 | 木　4～5 |
| 教科教育実践学専攻<br>生活・健康系教育連合講座 | Ｄ９６７０３Ｊ<br>原　田　咲　織 | 10月１日から<br>３月31日まで | 30時間 | 運動生理学実験 | 今泉和彦教授 | 後期 | 金　3～4 |

④　リサーチ・アシスタント

| 専攻・連合講座 | 学籍番号・氏名 | 任用期間 | 業務担当時間数 | 研究プロジェクト等名 | 左の中心的組織名 | 研究プロジェクト代表者 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 学校教育実践学専攻<br>学校教育方法連合講座 | D９６１０２J<br>黒　羽　正　見 | ７月１日から<br>１月31日まで | 205時間 | 教師の職能発達における同僚教師間コミュニケーションの影響力に関する研究 | 学校教育研究科 | 西　穣司教授 |
| 教科教育実践学専攻<br>言語系教育連合講座 | D９６３０４J<br>藤　井　知　弘 | ７月１日から<br>１月31日まで | 256時間 | 読みの発達に関する理論的・実践的研究 | 学校教育研究科 | 有澤俊太郎教授 |
| 教科教育実践学専攻<br>自然系教育連合講座 | D９６５０１J<br>嶋　根　紀　仁 | ７月６日から<br>１月14日まで | 205時間 | 位相空間論に関する研究 | 学校教育研究科 | 溝上武實教授 |
| 教科教育実践学専攻<br>生活・健康系教育連合講座 | D９６７０３J<br>原　田　咲　織 | ７月１日から<br>11月30日まで | 313時間 | 肝臓内エタノール代謝の内分泌制御に関する栄養生理学的研究 | 学校教育研究科 | 今泉和彦教授 |
| 教科教育実践学専攻<br>芸術系教育連合講座 | D９７６０１J<br>秋　山　敏　行 | ７月１日から<br>３月31日まで | 241時間 | 作ること表すことによる「生きる力」としての学びの基礎理論の構築と教育の体系化に関する研究 | 学校教育研究科 | 西野範夫教授 |

### ⑾ 公開講座等実施状況

① 公開講座

| 講座の種類・名称 | | 講師 | 実施期間 | 開設時間 | 定員 | 受講者 | 実施場所 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 一般公開講座 | Macintoshでパソコン入門（夜間） | 学校教育研究系(教育基礎)<br>助教授 阿部 勲<br>学校教育研究センター<br>助教授 小川 亮<br>学校教育研究センター<br>助手 柴田好章 | 6月8日(月)<br>〜<br>6月12日(金)<br>5回 | 18：30<br>〜<br>21：30<br>計15時間 | 30 | 男4<br>女4<br>計8 | 情報処理センター |
| | Windowsでパソコン入門（夜間） | 学校教育研究系(教育基礎)<br>助教授 阿部 勲<br>学校教育研究センター<br>助教授 小川 亮<br>学校教育研究センター<br>助手 柴田好章 | 6月22日(月)<br>〜<br>6月26日(金)<br>5回 | 18：30<br>〜<br>21：30<br>計15時間 | 30 | 男12<br>女18<br>計30 | 情報処理センター |
| | 家族ホームページ作成教室 | 学校教育研究センター<br>助教授 南部昌敏 | 6月27日(土)<br>〜<br>11月14日(土)<br>5回 | 9：00<br>〜<br>12：00<br>計15時間 | 30 | 男3<br>女5<br>計8 | 情報処理センター |
| | フレスコ画を描く | 芸術系教育研究部（美術）<br>教授 増谷直樹<br>芸術系教育研究部（美術）<br>助教授 阿部靖子<br>芸術系教育研究部（美術）<br>講師 洞谷亜里佐 | 7月4日(土)<br>7月5日(日)<br>7月11日(土)<br>7月12日(日)<br>7月18日(土)<br>5回 | 13：00〜<br>16：30<br>7月12日のみ<br>13：00〜<br>19：00 | 30 | 男5<br>女8<br>計13 | 美術棟 |
| | インターネット入門（夜間） | 学校教育研究系(教育基礎)<br>助教授 阿部 勲<br>学校教育研究センター<br>助教授 小川 亮<br>学校教育研究センター<br>助手 柴田好章 | 7月6日(月)<br>〜<br>7月10日(金)<br>5回 | 18：30<br>〜<br>21：30<br>計15時間 | 30 | 男13<br>女17<br>計30 | 情報処理センター |
| | シェイプアップ・アクアフィットネス（午後の部） | 生活・健康系教育研究部(保健体育)<br>助教授 清水富弘 | 7月22日(水)<br>〜<br>7月26日(日)<br>5回 | 14：00<br>〜<br>16：00<br>計10時間 | 30 | 女17<br>計17 | プール |
| | シェイプアップ・アクアフィットネス（夜間の部） | 生活・健康系教育研究部(保健体育)<br>助教授 清水富弘 | 7月22日(水)<br>〜<br>7月26日(日)<br>5回 | 18：00<br>〜<br>20：00<br>計10時間 | 30 | 女27<br>計27 | プール |
| | 陶芸―型を使って皿と壺を作る― | 芸術系教育研究部（美術）<br>助教授 髙石次郎 | 7月25日(土)<br>〜<br>8月23日(日)<br>5回 | 13：00<br>〜<br>18：00<br>計25時間 | 20 | 男4<br>女16<br>計20 | 美術棟 |
| | すぐ使えるロシア語表現（中級者向け） | 社会系教育研究系<br>助教授 下里俊行 | 9月2日(水)<br>〜<br>11月4日(水)<br>8回 | 18：00<br>〜<br>19：30<br>計12時間 | 20 | 男1<br>女3<br>計4 | 人文棟 |
| | 越の文化を探るV | 芸術系教育研究部（美術）<br>助教授 川村知行<br>上越市教育委員会<br>副参事 小島幸雄 | 10月7日(水)<br>10月14日(水)<br>10月17日(土)<br>10月18日(日)<br>10月28日(水)<br>5回 | 18：30〜<br>20：30<br>見学旅行<br>1泊2日<br>計15時間 | 50 | 男17<br>女18<br>計35 | 学校教育研究センター |
| | Macintoshでパソコン入門（午前） | 学校教育研究系(教育基礎)<br>助教授 阿部 勲<br>学校教育研究センター<br>助教授 小川 亮<br>学校教育研究センター<br>助手 柴田好章 | 10月12日(月)<br>〜<br>10月23日(金)<br>6回 | 9：30<br>〜<br>12：00<br>計15時間 | 30 | 男1<br>女13<br>計14 | 情報処理センター |
| | Windowsでパソコン入門（午前） | 学校教育研究系(教育基礎)<br>助教授 阿部 勲<br>学校教育研究センター<br>助教授 小川 亮<br>学校教育研究センター<br>助手 柴田好章 | 11月9日(月)<br>〜<br>11月20日(金)<br>6回 | 9：30<br>〜<br>12：00<br>計15時間 | 30 | 男8<br>女27<br>計35 | 情報処理センター |

| 講座の種類・名称 | | 講　　師 | 実施期間 | 開設時間 | 定員 | 受講者 | 実施場所 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 一般公開講座 | インターネット入門<br>（午前） | 学校教育研究系(教育基礎)<br>助教授　阿　部　　勲<br>学校教育研究センター<br>助教授　小　川　　亮<br>学校教育研究センター<br>助　手　柴　田　好　章 | 11月30日(月)<br>～<br>12月11日(金)<br>6回 | 9：30<br>～<br>12：00<br>計15時間 | 30 | 男5<br>女17<br>計22 | 情報処理センター |
| 計13講座 | | 延28人 | | | 390 | 263 | |

| 講座の種類・名称 | | 講　　師 | 実施期間 | 開設時間 | 定員 | 受講者 | 実施場所 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 現職教員対象公開講座 | 発達の遅れがある子どもの理解を深める検査法実習入門 | 幼児・障害児教育研究系（障害児）<br>助教授　安　藤　隆　男<br>幼児・障害児教育研究系（障害児）<br>助教授　大　庭　重　治<br>幼児・障害児教育研究系（障害児）<br>助教授　河　合　　康<br>障害児教育実践センター<br>講　師　恵　羅　修　吉<br>幼児・障害児教育研究系（障害児）<br>助　手　藤　井　和　子<br>幼児・障害児教育研究系（障害児）<br>助　手　笠　原　芳　隆<br>障害児教育実践センター<br>助　手　村　中　智　彦 | 8月27日(木)<br>～<br>8月29日(土)<br>3回 | 13：00<br>～<br>18：00<br>計15時間 | 10 | 男1<br>女13<br>計14 | 障害児教育実践センター |
| | 幼児の世界と教育 | 幼児・障害児教育研究系(幼児)<br>教　授　大　山　美和子<br>幼児・障害児教育研究系(幼児)<br>教　授　細　井　房　明<br>幼児・障害児教育研究系(幼児)<br>教　授　鈴　木　情　一<br>幼児・障害児教育研究系(幼児)<br>助教授　木　村　吉　彦<br>幼児・障害児教育研究系(幼児)<br>助教授　松　本　健　義 | 10月3日(土)<br>～<br>11月21日(土)<br>5回 | 14：00<br>～<br>17：00<br>計15時間 | 30 | 男1<br>女6<br>計7 | 学校教育研究センター |
| 計2講座 | | 延12人 | | | 40 | 21 | |

② 文化講演会

| 回数 | 開催期日 | 時間 | 会　場 | 演　　題 | 講　　師 | 学部学生 | | | | | 大学院学生 | | | 一般市民 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 | 小計 | 修士 | 博士 | 小計 | | |
| | | | | | | 人 | 人 | 人 | 人 | 人<br>(%) | 人 | 人 | 人<br>(%) | 人<br>(%) | 人<br>(%) |
| 1 | 6月27日(土) | 14：00<br>～<br>16：00 | 上越教育大学講堂 | ともに働く社会の実現を目指して | 三　澤　義　一　氏 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1<br>(1.3) | 8 | 0 | 8<br>(10.5) | 67<br>(88.2) | 76<br>(100) |
| 2 | 9月5日(土) | 14：00<br>～<br>16：00 | 上越教育大学講堂 | 環境学入門 | 市　川　定　夫　氏 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0<br>(0.0) | 7 | 0 | 7<br>(6.9) | 95<br>(93.1) | 102<br>(100) |
| 特 | 9月26日(土) | 14：00<br>～<br>16：00 | 上越文化会館 | 人生のデザイナー | 三　屋　裕　子　氏 | 1 | 0 | 0 | 2 | 3<br>(1.9) | 6 | 0 | 6<br>(3.9) | 145<br>(94.2) | 154<br>(100) |
| 3 | 11月14日(土) | 14：00<br>～<br>16：00 | 上越教育大学講堂 | 「やまとことば」から見たユーラシア大陸 | 島　田　昌　彦　氏 | 0 | 53 | 26 | 6 | 85<br>(53.1) | 20 | 0 | 20<br>(12.5) | 55<br>(34.4) | 160<br>(100) |
| 合　　計 | | | | | | 2 | 53 | 26 | 8 | 89<br>(18.1) | 41 | 0 | 41<br>(8.3) | 362<br>(73.6) | 492<br>(100) |

### ⑿ 厚生補導事業実施状況

| 名　称 | 期　日 | 内　容 |
|---|---|---|
| 新入生オリエンテーション | 4　月 | ○大学院１年次学生<br>本学の創設の趣旨，教育課程と履修方法，海外教育特別研究及び海外派遣制度，個別指導<br><br>○学部１年次学生<br>本学の創設の趣旨，教育課程と履修方法，海外教育研究及び海外派遣制度，クラス担当教官等の指導<br><br>○共通<br>附属図書館，情報処理センター，保健管理センター，学生生活，厚生補導業務，学生宿舎（学生宿舎入居者のみ対象） |
| 新入生合宿研修 | 6　月<br>（1　泊） | ○学部１年次学生対象<br>ビデオによる研修，オリエンテーリング，クラス討議，野外炊飯，市内見学等<br>［本学及び国立妙高少年自然の家］ |
| 就職指導 | 4　月<br><br>4月～7月<br>4月～6月<br>7　月<br>10　月<br>12　月<br>11月～12月<br>1月～3月 | ○学部４年次学生対象<br>・オリエンテーション（履修と就職）<br><br>○学部学生及び大学院学生（現職教員を除く。）対象<br>・教職講座III　学部４年次・大学院２年次<br>・教員採用選考検査の模擬試験　学部４年次・大学院２年次<br>・就職ガイダンス　学部３年次・大学院１年次<br>・教職講演会Ⅰ　学部２年次<br>・教職講演会II　学部１年次<br>・教職講座Ⅰ　学部３年次・大学院１年次<br>・教職講座II　学部３年次・大学院１年次 |
| 教員養成課程学生合宿研修 | 10　月<br>（1　泊） | ○学部３年次学生対象<br>講演Ⅰ・II，教育実習の体験発表・討議，進路指導等<br>［国立妙高少年自然の家］ |
| 課外活動団体リーダーズ・トレーニング研修 | 3　月<br>（1　泊） | ○課外活動団体の代表・副代表及びマネージャー等対象<br>講演，班別討議，全体討議，レクリエーション，よりよい仲間の関係パネルディスカッション<br>［国立妙高少年自然の家］ |

## ⑬ 学生団体一覧

平成10年５月１日現在

| 区分 | 団体名 | 構成員数 | 顧問教官 | 代表責任者 | | | 課外活動団体認定 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 所属 | 学年 | 氏名 | |
| 文化系 | 書道部 | 29 | 押木　秀樹 | 国語 | 3 | 栁井洋一郎 | ○ |
| | 紙ひこうき | 20 | 安藤　隆男 | 学校教育 | 3 | 中田　有美 | ○ |
| | ちるど連 | 31 | 大山美和子 | 幼児教育 | 3 | 柴田　亜耶 | ○ |
| | 座禅・不識会 | 11 | 高田喜久司・大塚文雄 | 教育方法 | M２ | 寺分　典彦 | ○ |
| | 華道部 | 12 | 前田　幹 | 図工 | 3 | 川村　清香 | |
| | アマチュア無線クラブ | 14 | 林　康久・戸北凱惟 | 理科 | M２ | 荻原　穣 | ○ |
| | つまみぐい同好会 | 16 | 安田　尚 | 音楽 | 4 | 佐野　牧美 | |
| | 中国学研究会 | 19 | 前川　幸雄 | 国語 | 3 | 谷口　宏次 | ○ |
| | せんせいのたまご倶楽部 | 12 | 庭野　義英 | 家庭 | 4 | 刈田　幸子 | |
| | 小計（９団体） | 164 | | | | | 小計（６団体）124名 |
| 芸術系 | 演劇部 | 33 | 前田　幹 | 幼児教育 | 3 | 菊澤　剛志 | ○ |
| | ﾓﾀﾞﾝ・ﾐｭｰｼﾞｯｸ・ｿｻｲｴﾃｨ | 62 | 庭野　義英 | 社会 | 4 | 藤崎　貴史 | ○ |
| | 吹奏楽団 | 53 | 山本　茂夫 | 音楽 | 3 | 小見山豊一 | ○ |
| | 管弦楽団 | 40 | 後藤　丹 | 学校教育 | 3 | 山田　哲也 | ○ |
| | 混声合唱団 | 51 | 鈴木　敏紀 | 社会 | 3 | 森本　安宣 | ○ |
| | 雅楽部 | 22 | 茂手木潔子 | 音楽 | 3 | 島田裕次郎 | ○ |
| | 箏曲部 | 19 | 茂手木潔子 | 音楽 | 3 | 吉池　理香 | ○ |
| | バリ・ガムランクラブ | 12 | 植村　幸生 | 音楽 | 3 | 荒木　友美 | ○ |
| | 小計（８団体） | 292 | | | | | 小計（８団体）292名 |
| 体育系 | ソフトテニス部 | 45 | 大山美和子 | 体育 | 3 | 戸田　裕樹 | ○ |
| | 男子バレーボール部 | 26 | 加藤　泰樹 | 体育 | 4 | 平山　大造 | ○ |
| | 女子バレーボール部 | 16 | 加藤　泰樹 | 体育 | 4 | 井上　尚子 | ○ |
| | 野球部 | 44 | 若井　彌一 | 体育 | 4 | 菅原　友昭 | ○ |
| | 卓球部 | 26 | 我妻　敏博 | 社会 | 3 | 小森　静香 | ○ |
| | 剣道部 | 14 | 直原　幹 | 社会 | 4 | 武藤　基彦 | ○ |
| | 男子バスケットボール部 | 19 | 丸山　芳郎 | 算数 | 3 | 望月　謙 | ○ |
| | 女子バスケットボール部 | 19 | 丸山　芳郎 | 社会 | 4 | 田村奈穂子 | ○ |
| | 陸上競技部 | 32 | 市川　真澄 | 音楽 | 4 | 長谷川　勝 | ○ |
| | ワンダーフォーゲル部 | 14 | 松田　愼也 | 幼児教育 | 3 | 新田　保夫 | ○ |
| | 水泳部 | 22 | 清水　富弘 | 国語 | 3 | 馳　真理子 | ○ |
| | サッカー部 | 37 | 榊原　潔 | 学校教育 | 3 | 福田俊一朗 | ○ |
| | 弓道部 | 16 | 大悟法　滋 | 体育 | 3 | 古澤　矢絵 | ○ |
| | スキー部 | 20 | 三浦　望慶 | 国語 | 4 | 松本　高志 | ○ |
| | バドミントン部 | 28 | 砥堀　雅信 | 学校教育 | 3 | 宮下　祐治 | ○ |
| | ソフトボール部 | 25 | 青木　眞 | 体育 | 3 | 田上　芙美 | ○ |
| | 体操部 | 20 | 太田　昌秀 | 家庭 | 3 | 岩澤　友美 | ○ |
| | 硬式テニス部 | 43 | 丸山　芳郎 | 算数 | 3 | 笹岡　秀夫 | ○ |
| | ダンス部 | 21 | 長澤　靖夫 | 音楽 | 3 | 渡邉恵美子 | ○ |
| | ハンドボール部 | 47 | 杵淵　俊夫 | 学校教育 | 4 | 駿河　秀一 | ○ |
| | 女子サッカー部 | 19 | 榊原　潔 | 体育 | 3 | 山崎　順子 | ○ |
| | ラグビー部 | 31 | 川村　知行 | 体育 | 3 | 横尾　保年 | ○ |
| | アイスホッケー部 | 14 | 伊藤　政展 | 学校教育 | 3 | 中島　之裕 | ○ |
| | なわとびクラブ | 10 | 太田　昌秀 | 体育 | M２ | 野上　孝時 | ○ |
| | 柔道部 | 13 | 鈴木　敏紀 | 理科 | 3 | 小池　高司 | ○ |
| | 一輪車同好会 | 14 | 太田　昌秀 | 体育 | M２ | 西幅　孝弘 | |
| | ビーチバレーボールクラブ | 39 | 鈴木　敏紀 | 学校教育 | 3 | 内藤　靖 | ○ |
| | 女子アイスホッケー部 | 17 | 伊藤　政展 | 学校教育 | 2 | 葭谷久美子 | ○ |
| | スノーボード部 | 19 | 北條　礼子 | 国語 | 3 | 松原　央明 | ○ |
| | 空手道部 | 13 | 鈴木　敏紀 | 幼児教育 | 3 | 手島　正登 | ○ |
| | 小計（30団体） | 723 | | | | | 小計（29団体）709名 |
| 他 | 大学院学生協議会 | 498 | 新井　郁男 | 教育方法 | M２ | 河村　一郎 | |
| | 小計（１団体） | 498 | | | | | |
| | 学生団体合計（48団体） | 1,677 | | | | | 課外活動団体合計（43団体）1,125名 |

### ⑭ 奨学金受給状況

① 日本育英会

平成11年３月31日現在

| 区分 | | 奨学生数（種別・貸与月額）（人） | | | | | 在籍者数（人） | 受給率（%） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 第一種 | | 第二種 | | 合計 | | |
| | | 自宅 | 自宅外 | 自宅 | 自宅外 | | | |
| 大学院 | １年次 | 29 | | 4 | | 33 | 75 | 44.0 |
| | ２年次 | 33 | | 5 | | 38 | 77 | 49.4 |
| | 小計 | 62 | | 9 | | 71 | 152 | 46.7 |
| 学部 | １年次 | 3 | 39 | 0 | 9 | 51 | 204 | 25.0 |
| | | 42 | | 9 | | | | |
| | ２年次 | 2 | 47 | 0 | 12 | 61 | 204 | 29.9 |
| | | 49 | | 12 | | | | |
| | ３年次 | 5 | 34 | 0 | 12 | 51 | 203 | 25.1 |
| | | 39 | | 12 | | | | |
| | ４年次 | 1 | 44 | 0 | 9 | 54 | 215 | 25.1 |
| | | 45 | | 9 | | | | |
| | 小計 | 11 | 164 | 0 | 42 | 217 | 826 | 26.3 |
| | | 175 | | 42 | | | | |
| 合計 | | 237 | | 51 | | 288 | 978 | 29.4 |

（注） １貸与月額　大学院１・２年次　83,000円
学部１・２年次　自宅40,000円　自宅外46,000円
学部３・４年次　自宅38,000円　自宅外44,000円

2　在籍者数は，休学中の者も含む。なお，大学院は，現職教員及び外国人留学生を除いた数である。

② 日本育英会以外の奨学事業団体

平成11年3月31日現在

| | 区分 | 貸与月額等（円） | 学部奨学生数（人） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 | 合計 |
| | 富山県奨学資金 | 38,000 | | | 1 | 1 | 2 |
| | 中村村役場奨学金 | 30,000 | | | 1 | | 1 |
| | 日本コカ・コーラボトラーズ育英会 | 15,000 | | | | 1 | 1 |
| | 岐阜県選奨生奨学金 | 16,000 | | | | 1 | 1 |
| ※ | 加治木町奨学金 | 28,000 | | | | 1 | 1 |
| | 江刺市奨学金 | 15,000 | | | | 1 | 1 |
| | 富山市奨学金 | 32,000 | | | | 1 | 1 |
| | 東村奨学金 | 40,000 | | | 1 | | 1 |
| | 板倉町育英資金 | 50,000 | | | 1 | | 1 |
| ※ | 上越市奨学金 | 30,000 | | 1 | 1 | | 2 |
| | 石川県育英資金 | 35,000 | | | 1 | | 1 |
| | 福太郎奨学財団 | 50,000 | | | 1 | | 1 |
| | 鹿島市奨学金 | 25,000 | | | 1 | | 1 |
| | 新井市奨学金 | 30,000 | | | 1 | | 1 |
| | 新潟県大学奨学金 | 35,000 | | | 1 | | 1 |
| | | 37,000 | | 1 | | | 1 |
| | 三沢市奨学金 | 30,000 | | | 1 | | 1 |
| | 十日町市奨学金 | 35,000 | | 1 | | | 1 |
| | 合計（人） | | 0 | 3 | 11 | 6 | 20 |
| | 在籍者数（人） | | 204 | 204 | 203 | 215 | 826 |
| | 受給率（%） | | 0 | 1.5 | 5.4 | 2.8 | 2.4 |

（注） ※は大学をとおして奨学金を交付している団体である。

### ⑮ 授業料及び入学料免除実施状況

① 授業料

| 区分 | | | 免除者数（人） | | | 在籍者数（人） | 免除率（%） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 全額 | 半額 | 計 | | |
| 大学院 | 1年次 | 前期 | 11 | 0 | 11 | 84 | 13.09 |
| | | 後期 | 11 | 1 | 12 | | 14.28 |
| | 2年次 | 前期 | 11 | 3 | 14 | 79 | 17.72 |
| | | 後期 | 13 | 0 | 13 | | 16.45 |
| | 小計 | 前期 | 22 | 3 | 25 | 163 | 15.33 |
| | | 後期 | 24 | 1 | 25 | | 15.33 |
| 学部 | 1年次 | 前期 | 4 | 0 | 4 | 203 | 1.97 |
| | | 後期 | 3 | 0 | 3 | | 1.47 |
| | 2年次 | 前期 | 10 | 1 | 11 | 203 | 5.41 |
| | | 後期 | 11 | 1 | 12 | | 5.91 |
| | 3年次 | 前期 | 17 | 4 | 21 | 202 | 10.39 |
| | | 後期 | 17 | 4 | 21 | | 10.39 |
| | 4年次 | 前期 | 10 | 0 | 10 | 213 | 4.69 |
| | | 後期 | 11 | 2 | 13 | | 6.10 |
| | 小計 | 前期 | 41 | 5 | 46 | 821 | 5.60 |
| | | 後期 | 42 | 7 | 49 | | 5.96 |
| 合計 | | 前期 | 63 | 8 | 71 | 984 | 7.21 |
| | | 後期 | 66 | 8 | 74 | | 7.52 |

（注） 1 授業料年額 平成 4 年度入学者……375,600円
平成5・6年度入学者……411,600円
平成7・8年度入学者……447,600円
平成9・10年度入学者……469,200円
2 在籍者数は，平成10年5月1日現在の数で，休学者，現職教員及び国費外国人留学生を除いた数である。

② 入学料

| 区分 | 免除者数（人） | | | 在籍者数（人） | 免除率（%） |
|---|---|---|---|---|---|
| | 全額 | 半額 | 計 | | |
| 大学院1年次 | 0 | 6 | 6 | 84 | 7.1 |
| 学部1年次 | 0 | 0 | 0 | 204 | 0.0 |
| 合計 | 0 | 6 | 6 | 288 | 2.1 |

（注） 1 入学料額 平成10年度入学者275,000円
2 在籍者数は，平成10年4月1日現在の数である。
3 大学院の在籍者数は，現職教員及び国費外国人留学生を除いた数である。

## ⑯ 学生宿舎・国際学生宿舎入居状況等

① 入居状況

平成11年５月１日現在

| 区分 | | | 学年 | 収容定員（人） | 在籍者（人） | 入居者（人） | 入居率（%） | 収容定員充足率（%） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学生宿舎 | 単身用 | 学部 | 1 | 172(100) | 204(134) | 152( 99) | 74.5( 73.9) | 88.4 |
| | | | 2 | 360(240) | 203(110) | 127( 84) | 62.5( 76.4) | ①100.3 |
| | | | 3 | | 202(116) | 121( 82) | 59.9( 70.7) | |
| | | | 4 | | 220(115) | 113( 74) | 51.4( 64.3) | |
| | | | 小計 | 532(340) | 829(475) | 513(339) | 61.9( 71.4) | 96.4 |
| | | 修士 | 1 | 90( 24) | 245( 83) | 97( 30) | 39.6( 36.1) | ②107.8 |
| | | | 2 | 90( 24) | 228( 53) | 82( 18) | 36.0( 34.0) | 91.1 |
| | | | 小計 | 180( 48) | 473(136) | 179( 48) | 37.8( 35.3) | 99.4 |
| | | 博士 | 1 | 8( 0) | 5( 2) | 0( 0) | 0.0( 0.0) | 37.5 |
| | | | 2 | | 4( 0) | 1( 0) | 25.0( 0.0) | |
| | | | 3 | | 8( 2) | 2( 0) | 25.0( 0.0) | |
| | | | 小計 | 8( 0) | 17( 4) | 3( 0) | 17.6( 0.0) | |
| | | 計 | | 720(388) | 1,319(615) | 695(387) | 52.7( 62.9) | 96.5 |
| | 世帯用 | 修士 | 1 | 40 | 【 245( 83)】 | 31( 0) | 12.7( 0.0) | 77.5 |
| | | | 2 | 40 | 【 228( 53)】 | 44( 0) | 19.3( 0.0) | ③110.0 |
| | | | 計 | 80 | 【 473(136)】 | 75( 0) | 15.9( 0.0) | 93.8 |
| 国際学生宿舎 | | 学部 | 1 | 42 | 【 204(134)】 | 0( 0) | 0.0( 0.0) | |
| | | | 2 | | 【 203(110)】 | 0( 0) | 0.0( 0.0) | |
| | | | 3 | | 【 202(116)】 | 0( 0) | 0.0( 0.0) | |
| | | | 4 | | 【 220(115)】 | 1( 1) | 0.5( 0.9) | |
| | | | 留学生 | | ※ 1( 1) | ※ 1( 1) | 100.0(100.0) | |
| | | | 計 | | 829(475) | ※ 1( 1) | 0.1( 0.2) | |
| | | 修士 | 1 | | 【 245( 83)】 | 20( 4) | 8.2( 4.8) | |
| | | | 2 | | 【 228( 53)】 | 14( 3) | 6.1( 5.7) | |
| | | | 留学生 | | ※ 17( 8) | ※ 14( 7) | 82.4( 87.5) | |
| | | | 計 | | 【 473(136)】 | 34( 7) | 7.2( 5.1) | |
| | | 外国人研究生等 | | | 13( 6) | 10( 5) | 76.9( 83.3) | |
| | | 計 | | 42 | 486(142) | 45( 12) | 9.3( 11.8) | ④107.1 |
| 合計 | | | | 842(388) | 1,332(625) | 815(399) | 61.2( 63.8) | 96.8 |

（注） 1 各欄の（ ）は，女子で内数である。
2 在籍者欄の【 】は，単身棟と二重登載である。
3 外国人留学生欄（※印）は，内数である。
4 収容定員を超過している区分及び理由
① 単身用学部３年次の入居者１人が，学部１年次の居室に入居しているためである。
② 単身用大学院修士１年次の入居者が，大学院２年次の居室に入居しているためである。
③ 世帯用大学院修士２年次の入居者が，大学院１年次の居室に入居しているためである。
④ 国際学生宿舎の夫婦室の入居者が，２人１組で入居しているためである。

② 居室状況

| 区分 | | | 広さ | 設備等 |
|---|---|---|---|---|
| 学生宿舎 | 単身用 | I 型（1 棟） | 20㎡ | 約12畳分のＰタイル張り，２人で使用<br>ベッド，机，椅子，本棚，ロッカー，下駄箱等 |
| | | II 型（2～4棟） | 10㎡ | 約６畳分のＰタイル張り，個室<br>ベッド，机，椅子，本棚，ロッカー，下駄箱等 |
| | | 第一共用棟 | | 浴室（男女各１），談話室，機械室，事務室等 |
| | | 第二共用棟 | | 浴室（男女各１），談話室，機械室 |
| | 世帯用 | III 型（60 戸） | 43㎡ | 和室２（11㎡，８㎡），台所（７㎡），浴室（３㎡），洗面所，便所他 |
| | | IV 型（20 戸） | 56㎡ | 和室３（13㎡，10㎡，７㎡），台所（７㎡），浴室（３㎡），洗面所，便所他 |
| 国際学生宿舎 | | 家族用居室 | 53㎡ | 洋室１（10㎡），和室１（15㎡），DK（13㎡），浴室，便所，洗面所他 |
| | | | | 洋室２（16㎡，14㎡），DK（13㎡），浴室，便所，洗面所他 |
| | | 夫婦用居室 | 35㎡ | 洋室１（10㎡），和室１（12㎡），DK（６㎡），浴室，便所，洗面所，玄関収納庫他 |
| | | | | 洋室２（10㎡，12㎡），台所（６㎡），浴室，便所，洗面所，ベッド，机・椅子，書棚，応接テーブル・椅子，食卓テーブル・椅子，食器棚，整理ダンス，玄関収納庫，洗濯機，乾燥機，冷蔵庫，電気スタンド他 |
| | | 単身用居室 | 15㎡ | 個室<br>台所，浴室(便所付)，ベッド，机，椅子，書棚，洋服ダンス，食器棚，冷蔵庫，電気スタンド |
| | | | 18㎡ | 個室<br>台所，浴室(便所付)，ベッド，机，椅子，書棚，洋服ダンス，食器棚，冷蔵庫，電気スタンド |
| | | 共用部分 | | 第一研修室，第二研修室，シャワー，洗濯室（単身用），事務室等 |

（注） 単身用学生宿舎においては，便所，洗面・洗濯室，補食室は共同の施設である。

### ⑰ 平成10年度修了者・卒業者就職状況

① 大学院学校教育研究科

平成11年５月１日現在

| 区分 | | | 教員就職者 | | | | | | | 企業・官庁等 | 進学者 | その他（未就職等） | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 小学校 | 中学校 | 高等学校 | 幼稚園 | 盲・聾・養護学校 | 短期大学 | 計 | | | | |
| 学校教育専攻 | 教育基礎コース | 男 | | | | | | | | | | | |
| | | 女 | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| | | 計 | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| | 教育経営コース | 男 | | | 1 | | | | 1 | | | | 1 |
| | | 女 | | | | | | | | | | 1[1] | 1[1] |
| | | 計 | | | 1 | | | | 1 | | | 1[1] | 2[1] |
| | 教育方法コース | 男 | | | | | | | | | | | |
| | | 女 | | | | | | | | | | | |
| | | 計 | | | | | | | | | | | |
| | 生徒指導コース | 男 | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| | | 女 | | | | | | | | | | | |
| | | 計 | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| 幼児教育専攻 | | 男 | | | | | | | | 1 | | 3 | 4 |
| | | 女 | 1( 1) | 1( 1) | | | | 1 | 3( 2) | 1 | | 5 | 9 |
| | | 計 | 1( 1) | 1( 1) | | | | 1 | 3( 2) | 2 | | 8 | 13 |
| 障害児教育専攻 | | 男 | | | | | | | | 2 | | | 2 |
| | | 女 | | | | | | | | 3① | | 2 | 5 |
| | | 計 | | | | | | | | 5① | | 2 | 7 |
| 教科・領域教育専攻 | 言語系コース | 男 | | | | | | | | 1 | | 5[1] | 6[1] |
| | | 女 | | | 3( 3) | | | | 3( 3) | 1 | | 1 | 5 |
| | | 計 | | | 3( 3) | | | | 3( 3) | 2 | | 6[1] | 11[1] |
| | 社会系コース | 男 | 1( 1) | | | | | | 1( 1) | 2① | | 1 | 4 |
| | | 女 | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| | | 計 | 1( 1) | | | | | | 1( 1) | 2① | | 2 | 5 |
| | 自然系コース | 男 | 1 | 2( 1) | 1 | | | | 4( 1) | 1 | | 1 | 6 |
| | | 女 | | | | | | | | | | | |
| | | 計 | 1 | 2( 1) | 1 | | | | 4( 1) | 1 | | 1 | 6 |
| | 芸術系コース | 男 | 1 | | | | | | 1 | 1 | | 2[1] | 4[1] |
| | | 女 | | 1( 1) | 1( 1) | | 2( 2) | | 4( 4) | | 1 | 3 | 8 |
| | | 計 | 1 | 1( 1) | 1( 1) | | 2( 2) | | 5( 4) | 1 | 1 | 5[1] | 12[1] |
| | 生活・健康系コース | 男 | 1( 1) | 1 | | | | | 2( 1) | 1 [1] | | 1 | 4[1] |
| | | 女 | 2( 1) | 2( 1) | | | 1 | | 5( 2) | 2 | | 3[1] | 10[1] |
| | | 計 | 3( 2) | 3( 1) | | | 1 | | 7( 3) | 3 [1] | | 4[1] | 14[2] |
| 合計 | | 男 | 4( 2) | 3( 1) | 2 | | | | 9( 3) | 9①[1] | | 14[2] | 32[3] |
| | | 女 | 3( 2) | 4( 3) | 4( 4) | | 3( 2) | 1 | 15(11) | 7① | 1 | 17[2] | 40[2] |
| | | 計 | 7( 4) | 7( 4) | 6( 4) | | 3( 2) | 1 | 24(14) | 16②[1] | 1 | 31[4] | 72[5] |

（注） 1 （ ）内は，育児休業，病休，産休教員の代替教員，その他１年以内の期限つき教員で内数である。
2 ○内は，臨時的任用の公務員で内数である。
3 □内は，外国人留学生で内数である。
4 その他（未就職者等）に，平成10年９月修了者の男２人を含む。
5 生活・健康系（体育）コースの新潟県立看護短期大学教員女２人は現職とみなし，本表から除く。

② 学校教育学部

平成11年５月１日現在

| 区分 | | | 教員就職者 | | | | | | 企業・官庁等 | 進学者 | その他（未就職等） | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 小学校 | 中学校 | 高等学校 | 幼稚園 | 盲・聾・養護学校 | 計 | | | | |
| 学校教育専修 | | 男 | 6( 4) | 2( 1) | | | | 8( 5) | 2 | | 5 | 15 |
| | | 女 | 3( 1) | 1( 1) | | 1 | | 5( 2) | 5① | | 8 | 18 |
| | | 計 | 9( 5) | 3( 2) | | 1 | | 13( 7) | 7① | | 13 | 33 |
| 幼児教育専修 | | 男 | 1( 1) | | | | | 1( 1) | | 2 | 2 | 5 |
| | | 女 | | | | 4 | | 4 | | 1 | 4 | 9 |
| | | 計 | 1( 1) | | | 4 | | 5( 1) | | 3 | 6 | 14 |
| 教科・領域教育専修 | 言語系（国語）コース | 男 | 4( 1) | | | | | 4( 1) | | | 1 | 5 |
| | | 女 | 5( 4) | 1( 1) | | | | 6( 5) | 3① | | 4 | 13 |
| | | 計 | 9( 5) | 1( 1) | | | | 10( 6) | 3① | | 5 | 18 |
| | 社会系コース | 男 | 8( 4) | 1( 1) | 1( 1) | | | 10( 6) | 5① | 4 | 1 | 20 |
| | | 女 | 2( 2) | | | | 1 | 3( 2) | 1 | | 1 | 5 |
| | | 計 | 10( 6) | 1( 1) | 1( 1) | | 1 | 13( 8) | 6① | 4 | 2 | 25 |
| | 自然系（算数）コース | 男 | 1 | 4( 4) | 1( 1) | | | 6( 5) | 2 | | 3 | 11 |
| | | 女 | | 4( 4) | | | | 4( 4) | 2 | | 3 | 9 |
| | | 計 | 1 | 8( 8) | 1( 1) | | | 10( 9) | 4 | | 6 | 20 |
| | 自然系（理科）コース | 男 | 2( 1) | 3( 2) | | | | 5( 3) | 1① | 4 | 5 | 15 |
| | | 女 | 4( 1) | 2( 2) | | | | 6( 3) | 2① | | 2 | 10 |
| | | 計 | 6( 2) | 5( 4) | | | | 11( 6) | 3② | 4 | 7 | 25 |
| | 芸術系（音楽）コース | 男 | | | | | | | | 4 | 1 | 5 |
| | | 女 | 3( 3) | 2( 2) | | 1( 1) | | 6( 6) | 2 | 1 | 4 | 13 |
| | | 計 | 3( 3) | 2( 2) | | 1( 1) | | 6( 6) | 2 | 5 | 5 | 18 |
| | 芸術系（図画工作）コース | 男 | | | | | | | | 1 | | 1 |
| | | 女 | | | | | | | 3① | 1 | 4 | 8 |
| | | 計 | | | | | | | 3① | 2 | 4 | 9 |
| | 生活・健康系（体育）コース | 男 | 4( 4) | | 1( 1) | | 1( 1) | 6( 6) | 3 | 1 | 4 | 14 |
| | | 女 | 3( 2) | | | 1( 1) | | 4( 3) | 2① | | 2 | 8 |
| | | 計 | 7( 6) | | 1( 1) | 1( 1) | 1( 1) | 10( 9) | 5① | 1 | 6 | 22 |
| | 生活・健康系（家庭）コース | 男 | | | | | | | | | | |
| | | 女 | 5( 3) | 1( 1) | | | | 6( 4) | 1 | 4 | 2 | 13 |
| | | 計 | 5( 3) | 1( 1) | | | | 6( 4) | 1 | 4 | 2 | 13 |
| 合計 | | 男 | 26(15) | 10( 8) | 3( 3) | | 1( 1) | 40(27) | 13② | 16 | 22 | 91 |
| | | 女 | 25(16) | 11(11) | | 7( 2) | 1 | 44(29) | 21⑤ | 7 | 34 | 106 |
| | | 計 | 51(31) | 21(19) | 3( 3) | 7( 2) | 2( 1) | 84(56) | 34⑦ | 23 | 56 | 197 |

（注） 1 （ ）内は，育児休業，病休，産休教員の代替教員，その他１年以内の期限つき教員で内数である。
2 ○内は，臨時的任用の公務員で内数である。
3 平成10年９月卒業者の男３人（企業１，その他２）を含む。

③　都道府県別公立学校教員採用者数

平成11年５月１日現在

| 都道府県名 | 大学院 | | | | | 学部 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 県別出身者 | 採用試験結果 | | 採用状況 | | 県別出身者 | 採用試験結果 | | 採用状況 | |
| | | 受験者 | 合格者 | 正規 | 臨時 | | 受験者 | 合格者 | 正規 | 臨時 |
| 北海道 | 6人 | 9人 | 2人 | 1人 | 人 | 人 | 4人 | 2人 | 人 | 人 |
| 青森 | 1 | 1 | 0 | | | 4 | 3 | 0 | | |
| 岩手 | 2 | 2 | 0 | | 2 | 10 | 7 | 3 | 3 | |
| 宮城 | 2 | 2 | 1 | | 1 | | | | | |
| 秋田 | 2 | 1 | 0 | | | 2 | 1 | 0 | | |
| 山形 | 1 | 1 | 0 | | 1 | 9 | 4 | 1 | 1 | 4 |
| 福島 | 6 | 6 | 0 | | | 4 | 7 | 0 | | 1 |
| 茨城 | 2 | 2 | 0 | | | 2 | 1 | 0 | | |
| 栃木 | 4 | 3 | 0 | | | 11 | 9 | 3 | 3 | 3 |
| 群馬 | 2 | 2 | 1 | 1 | 1 | 5 | 4 | 0 | | 3 |
| 埼玉 | 1 | | | | | 1 | | | | |
| 千葉 | 2 | 1 | 0 | | | 2 | | | | |
| 東京 | 2 | 3 | 1 | 1 | | | 3 | 0 | | |
| 神奈川 | 2 | 2 | 1 | 1 | | 1 | 2 | 0 | | |
| 新潟 | 27 | 27 | 3 | 3 | 8 | 32 | 73 | 10 | 7 | 13 |
| 富山 | 2 | | | | | 29 | 11 | 0 | | 4 |
| 石川 | | | | | | 21 | 12 | 0 | | 9 |
| 福井 | | | | | | 17 | 11 | 0 | | 6 |
| 山梨 | 1 | | | | | | | | | |
| 長野 | 3 | 2 | 0 | | | 19 | 14 | 3 | 3 | 3 |
| 岐阜 | | | | | | 2 | 3 | 0 | | |
| 静岡 | | | | | | 4 | 1 | 0 | | |
| 愛知 | 3 | 4 | 0 | | | 6 | 9 | 1 | 1 | |
| 三重 | | | | | | | | | | |
| 滋賀 | 2 | | | | | 3 | 2 | 0 | | |
| 京都 | | | | | | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| 大阪 | | | | | | 1 | 1 | 0 | | |
| 兵庫 | | | | | | 7 | 4 | 0 | | 1 |
| 奈良 | 1 | | | | | | | | | |
| 和歌山 | | | | | | | | | | |
| 鳥取 | | | | | | 2 | 2 | 0 | | 1 |
| 島根 | | | | | | 5 | 1 | 0 | | |
| 岡山 | | | | | | 1 | | | | |
| 広島 | 2 | 2 | 1 | 1 | | 2 | 1 | 0 | | 1 |
| 山口 | | | | | | | | | | |
| 徳島 | | | | | | 1 | 1 | 0 | | 1 |
| 香川 | | | | | | | | | | |
| 愛媛 | | | | | | 1 | 1 | 0 | | 1 |
| 高知 | | | | | | | | | | |
| 福岡 | | | | | | 2 | | | | |
| 佐賀 | | | | | | | | | | |
| 長崎 | 1 | | | | | | | | | |
| 熊本 | | | | | | | | | | |
| 大分 | 1 | 1 | 0 | | | 3 | 2 | 0 | | 1 |
| 宮崎 | | | | | | 1 | | | | |
| 鹿児島 | | | | | | 5 | 4 | 3 | 3 | |
| 沖縄 | 1 | | | | | | | | | |
| 外国 | 5 | | | | | 2 | | | | |
| 合計 | 84 | 71 | 10 | 8 | 13 | 218 | 199 | 27 | 22 | 52 |

（注）　1　県別出身者数には卒業（修了）不可になった者も含む。また，受験者数と合格者数は，延べ人数である。

2　平成10年９月末修了者２人（大分，神奈川）及び卒業者３人（福井，石川，外国）を含む。

### ⑱ 学生健康診断受診・精神衛生相談実施状況

① 定期健康診断

| 区分 | | | 対象者数（人） | 受検者数（人） | 受検率（%） | 有所見者数（人） | 有所見者率（%） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 大学院（修士） | 1年次 | 男子 | 174 | 171 | 98.3 | 6 | 3.5 |
| | | 女子 | 50 | 49 | 98.0 | 5 | 10.2 |
| | | 計 | 224 | 220 | 98.2 | 11 | 5.0 |
| | 2年次 | 男子 | 174 | 148 | 85.1 | 3 | 2.0 |
| | | 女子 | 65 | 51 | 78.5 | 0 | 0.0 |
| | | 計 | 239 | 199 | 83.3 | 3 | 1.5 |
| | 計 | 男子 | 348 | 319 | 91.7 | 9 | 2.8 |
| | | 女子 | 115 | 100 | 87.0 | 5 | 5.0 |
| | | 計 | 463 | 419 | 90.5 | 14 | 3.3 |
| 学部 | 1年次 | 男子 | 93 | 93 | 100.0 | 3 | 3.2 |
| | | 女子 | 110 | 110 | 100.0 | 19 | 17.3 |
| | | 計 | 203 | 203 | 100.0 | 22 | 10.8 |
| | 2年次 | 男子 | 87 | 67 | 77.0 | 1 | 1.5 |
| | | 女子 | 116 | 110 | 94.8 | 2 | 1.8 |
| | | 計 | 203 | 177 | 87.2 | 3 | 1.7 |
| | 3年次 | 男子 | 89 | 73 | 82.0 | 0 | 0.0 |
| | | 女子 | 113 | 108 | 95.6 | 4 | 3.7 |
| | | 計 | 202 | 181 | 89.6 | 4 | 2.2 |
| | 4年次 | 男子 | 105 | 92 | 87.6 | 1 | 1.1 |
| | | 女子 | 108 | 101 | 93.5 | 3 | 3.0 |
| | | 計 | 213 | 193 | 90.6 | 4 | 2.1 |
| | 計 | 男子 | 374 | 325 | 86.9 | 5 | 1.5 |
| | | 女子 | 447 | 429 | 96.0 | 28 | 6.5 |
| | | 計 | 821 | 754 | 91.8 | 33 | 4.4 |
| 合計 | | 男子 | 722 | 644 | 89.2 | 14 | 2.2 |
| | | 女子 | 562 | 529 | 94.1 | 33 | 6.2 |
| | | 計 | 1,284 | 1,173 | 91.4 | 47 | 4.0 |

（注） 診断内容は，内科・眼科・耳鼻咽喉科，胸部間接撮影，血圧測定，尿検査及び身体測定（身長・体重・肥満度）である。

② 特別健康診断（学部１・４年次生対象）

| 区分 | | | 対象者数（人） | 受検者数（人） | 受検率（%） | 有所見者数（人） | 有所見者率（%） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 心電図検査 | 学部１年次 | 男子 | 91 | 83 | 91.2 | 3 | 3.6 |
| | | 女子 | 110 | 108 | 98.2 | 4 | 3.7 |
| | | 計 | 201 | 191 | 95.0 | 7 | 3.7 |
| | 学部４年次 | 男子 | 103 | 63 | 61.2 | 3 | 4.8 |
| | | 女子 | 109 | 95 | 87.2 | 1 | 1.1 |
| | | 計 | 212 | 158 | 74.5 | 4 | 2.5 |
| | 合計 | 男子 | 194 | 146 | 75.3 | 6 | 4.1 |
| | | 女子 | 219 | 203 | 92.7 | 5 | 2.5 |
| | | 計 | 413 | 349 | 84.5 | 11 | 3.2 |
| 血液検査 | 学部４年次 | 男子 | 103 | 63 | 61.2 | 1 | 1.6 |
| | | 女子 | 109 | 95 | 87.2 | 1 | 1.1 |
| | | 計 | 212 | 158 | 74.5 | 2 | 1.3 |
| 血液生化学検査 GOT GPT γ-GTP | 学部４年次 | 男子 | 103 | 63 | 61.2 | 2 | 3.2 |
| | | 女子 | 109 | 95 | 87.2 | 0 | 0.0 |
| | | 計 | 212 | 158 | 74.5 | 2 | 1.3 |
| 血液生化学検査 血液脂質検査 | 学部４年次 | 男子 | 103 | 63 | 61.2 | 8 | 12.7 |
| | | 女子 | 109 | 95 | 87.2 | 3 | 3.2 |
| | | 計 | 212 | 158 | 74.5 | 11 | 7.0 |

（注） 有所見者には，保健管理センターで問診・指導を行い，必要に応じて再検査を実施した。

③ 精神衛生相談

| 区分 | | | 修学（人） | 情緒・性格（人） | 進路（人） | 友人（人） | 家庭（人） | 異性（人） | UPI（人） | 合計（人） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 大学院修士 | １年次 | 男子 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | 女子 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | | 計 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | ２年次 | 男子 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | 女子 | 0 | 15 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 19 |
| | | 計 | 0 | 15 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 19 |
| | 計 | 男子 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | 女子 | 1 | 15 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 20 |
| | | 計 | 1 | 15 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 20 |
| 研究生 | | | 0 | 0 | 0 | 0 | 11 | 0 | 0 | 11 |
| 学部 | １年次 | 男子 | 0 | 29 | 0 | 0 | 0 | 0 | 14 | 43 |
| | | 女子 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 24 | 25 |
| | | 計 | 0 | 29 | 0 | 1 | 0 | 0 | 38 | 68 |
| | ２年次 | 男子 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | 女子 | 0 | 50 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 51 |
| | | 計 | 0 | 50 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 51 |
| | ３年次 | 男子 | 5 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 6 |
| | | 女子 | 0 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 |
| | | 計 | 5 | 6 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 11 |
| | ４年次 | 男子 | 0 | 41 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 41 |
| | | 女子 | 0 | 20 | 23 | 0 | 2 | 3 | 0 | 48 |
| | | 計 | 0 | 61 | 23 | 0 | 2 | 3 | 0 | 89 |
| | 計 | 男子 | 5 | 71 | 0 | 0 | 0 | 0 | 14 | 90 |
| | | 女子 | 0 | 75 | 23 | 2 | 2 | 3 | 24 | 129 |
| | | 計 | 5 | 146 | 23 | 2 | 2 | 3 | 38 | 219 |
| 合計 | | 男子 | 5 | 71 | 0 | 0 | 11 | 0 | 14 | 101 |
| | | 女子 | 1 | 90 | 27 | 2 | 2 | 3 | 24 | 149 |
| | | 計 | 6 | 161 | 27 | 2 | 13 | 3 | 38 | 250 |

（注） UPIとは，University Personality Inventory（大学生精神健康調査）の調査に基づく相談件数である。

## ⑲ 附属図書館蔵書数・利用状況

### ① 蔵書数

#### ア 図書数の推移

| 区分 | | 和書 | 洋書 | 計 |
|---|---|---|---|---|
| 昭和56年度〜平成９年度 | 購入 | 126,710冊 | 31,882冊 | 158,592冊 |
| | 寄贈 | 25,495 | 3,629 | 29,124 |
| | 製本 | 16,561 | 11,863 | 28,424 |
| | その他 | 9,853 | 3,242 | 13,095 |
| | 計 | 178,619 | 50,616 | 229,235 |
| 平成10年度 | 購入 | 6,363 | 1,667 | 8,030 |
| | 寄贈 | 915 | 78 | 993 |
| | 製本 | 1,048 | 1,171 | 2,219 |
| | その他 | 133 | 142 | 275 |
| | 計 | 8,459 | 3,058 | 11,517 |
| 累計 | 購入 | 133,073 | 33,549 | 166,622 |
| | 寄贈 | 26,410 | 3,707 | 30,117 |
| | 製本 | 17,609 | 13,034 | 30,643 |
| | その他 | 9,986 | 3,384 | 13,370 |
| | 計 | 187,078 | 53,674 | 240,752 |

#### イ 受入雑誌種類数

| 区分 | | 和書 | 洋書 | 計 |
|---|---|---|---|---|
| 平成９年度 | 購入 | 603種 | 441種 | 1,044種 |
| | 寄贈 | 701 | 11 | 712 |
| | 計 | 1,304 | 452 | 1,756 |
| 平成10年度 | 購入 | 581 | 420 | 1,001 |
| | 寄贈 | 701 | 11 | 712 |
| | 計 | 1,282 | 431 | 1,713 |

② 利用状況（前年度比）

| 区分 | | | 平成９年度 | 平成10年度 | 増減（△） |
|---|---|---|---|---|---|
| 利用対象者数 | | 学部学生 | 831人 | 831人 | 0人 |
| | | 院生等 | 539 | 523 | △16 |
| | | 職員 | 363 | 346 | △17 |
| | | 計 | 1,733 | 1,700 | △33 |
| 開館日数及び時間数 | | 総開館日数 | 276日 | 280日 | 4日 |
| | | 時間外開館日数 | 215 | 218 | 3 |
| | | 総開館時間数 | 3,013h | 3,043h | 30h |
| | | 時間外開館時間数 | 1,093 | 1,131 | 38 |
| 入館者数 | | 総入館者数 | 81,780人 | 77,333人 | △4,447人 |
| | | 時間外入館者数 | 21,840 | 19,333 | △2,507 |
| 貸出業務 | 館外貸出人数 | 学部学生 | 3,930人 | 4,243 | 313人 |
| | | 院生等 | 5,207 | 4,789 | △418 |
| | | 職員 | 1,676 | 1,786 | 110 |
| | | 計 | 10,813 | 10,818 | 5 |
| | 館外貸出冊数 | 学部学生 | 16,603冊 | 18,473冊 | 1,870冊 |
| | | 院生等 | 32,035 | 30,706 | △1,329 |
| | | 職員 | 9,037 | 13,194 | 4,157 |
| | | 計 | 57,675 | 62,373 | 4,698 |
| | 学生当たり貸出冊数 | 学部学生 | 20.0冊 | 22.2冊 | 2.2冊 |
| | | 院生等 | 59.4 | 58.7 | △0.7 |
| 参考業務 | 文献複写受付 | | 4,558件 | 2,342件 | △2,216件 |
| | 参考業務 | 文献所在調査 | 711件 | 672件 | △39件 |
| | | 事項調査 | 101 | 90 | △11 |
| | | 利用指導 | 826 | 752 | △74 |
| | | 計 | 1,638 | 1,514 | △124 |
| 相互協力 | 文献複写 | 受付 | 3,089件 | 2,820件 | △269件 |
| | | 依頼 | 4,697 | 3,612 | △1,085 |
| | | 計 | 7,786 | 6,432 | △1,354 |
| | 相互貸借 | 貸出 | 622件 | 656件 | 34件 |
| | | 借受 | 622 | 838 | 216 |
| | | 計 | 1,244 | 1,494 | 250 |

### ⑳ 附属学校在学児童・生徒・幼児数

平成10年５月１日現在

| 区　分 | 入学(園)定員 | 総定員 | 学級数 | 児童・生徒・幼児数 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | １学年（３歳児） | ２学年（４歳児） | ３学年（５歳児） | ４学年 | ５学年 | ６学年 | 計 |
| 附属小学校 | 80 | 480 | 12 | 70(36) | 78(39) | 68(31) | 76(35) | 77(34) | 78(37) | 447(212) |
| 附属中学校 | 120 | 360 | 9 | 119(62) | 116(53) | 110(54) | — | — | — | 345(169) |
| 附属幼稚園 | ３歳児　20<br>４歳児　15<br>５歳児　－ | 20<br>35<br>35 } 90 | 3 | 22(11) | 30(17) | 33(17) | — | — | — | 85( 45) |

（注）（　）内は女子で内数である。

## 3　兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科

### (1)　平成11年度入学者選抜試験状況

| 区分 / 都道府県 | 志願者 | | | | | 受験者 | | | | | 合格者 | | | | | 入学者 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 上越 | 兵庫 | 岡山 | 鳴門 | 合計 | 上越 | 兵庫 | 岡山 | 鳴門 | 合計 | 上越 | 兵庫 | 岡山 | 鳴門 | 合計 | 上越 | 兵庫 | 岡山 | 鳴門 | 合計 |
| 北海道 | 1 | | | | 1 | 1 | | | | 1 | 1 | | | | 1 | 1 | | | | 1 |
| 青森 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 岩手 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 宮城 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 秋田 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 山形 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 福島 | 1 | | | | 1 | 1 | | | | 1 | 1 | | | | 1 | 1 | | | | 1 |
| 茨城 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 栃木 | 1(1) | | | | 1(1) | 1(1) | | | | 1(1) | 1(1) | | | | 1(1) | 1(1) | | | | 1(1) |
| 群馬 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 埼玉 | 1 | | | | 1 | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | | |
| 千葉 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 東京 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 神奈川 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 新潟 | 3(1) | | | | 3(1) | 3(1) | | | | 3(1) | 1(1) | | | | 1(1) | 1(1) | | | | 1(1) |
| 富山 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 石川 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 福井 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 山梨 | | 1 | | | 1 | | 1 | | | 1 | | | | | | | | | | |
| 長野 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 岐阜 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 静岡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 愛知 | | | 1(1) | 1 | 2(1) | | | 1(1) | | 1(1) | | | 1(1) | | 1(1) | | | 1(1) | | 1(1) |
| 三重 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 滋賀 | | 1(1) | | | 1(1) | | 1(1) | | | 1(1) | | 1(1) | | | 1(1) | | 1(1) | | | 1(1) |
| 京都 | | 2(1) | | | 2(1) | | 2(1) | | | 2(1) | | 1 | | | 1 | | 1 | | | 1 |
| 大阪 | | 1(1) | | | 1(1) | | 1(1) | | | 1(1) | | 1(1) | | | 1(1) | | 1(1) | | | 1(1) |
| 兵庫 | | 2 | | | 2 | | 2 | | | 2 | | 1 | | | 1 | | 1 | | | 1 |
| 奈良 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 和歌山 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 鳥取 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 島根 | | 1 | | | 1 | | 1 | | | 1 | | 1 | | | 1 | | 1 | | | 1 |
| 岡山 | | | 3(3) | | 3(3) | | | 3(3) | | 3(3) | | | 3(3) | | 3(3) | | | 3(3) | | 3(3) |
| 広島 | | 1(1) | | | 1(1) | | 1(1) | | | 1(1) | | | | | | | | | | |
| 山口 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 徳島 | | | | 2(1) | 2(1) | | | | 2(1) | 2(1) | | | | 2(1) | 2(1) | | | | 2(1) | 2(1) |
| 香川 | | | | 1(1) | 1(1) | | | | 1(1) | 1(1) | | | | 1(1) | 1(1) | | | | 1(1) | 1(1) |
| 愛媛 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 高知 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 福岡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 佐賀 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 長崎 | 1 | | | | 1 | 1 | | | | 1 | 1 | | | | 1 | 1 | | | | 1 |
| 熊本 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 大分 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 宮崎 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 鹿児島 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 沖縄 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 外国 | | 5(2) | | 1(1) | 6(3) | | 5(2) | | 1(1) | 6(3) | | 3(1) | | | 3(1) | | 3(1) | | | 3(1) |
| 計 | 8(2) | 14(6) | 4(4) | 5(3) | 31(15) | 8(2) | 14(6) | 4(4) | 4(3) | 30(15) | 5(2) | 8(3) | 4(4) | 3(2) | 20(11) | 5(2) | 8(3) | 4(4) | 3(2) | 20(11) |

(注)　(　)内は女子で内数である。

### ⑵ 構成大学別配属学生数

平成10年５月１日現在

| 区　　分 | 学校教育実践学専攻 | | | | 教科教育実践学専攻 | | | | 合　　計 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | １年次 | ２年次 | ３年次 | 計 | １年次 | ２年次 | ３年次 | 計 | １年次 | ２年次 | ３年次 | 計 |
| 上越教育大学 | 1 | 1 | 3(1) | 5(1) | 4 | 2 | 4(1) | 10(1) | 5 | 3 | 7(2) | 15(2) |
| 兵庫教育大学 | 1 | 3(1) | 3(2) | 7(3) | 3(2) | 6 | 6(2) | 12(2) | 4(2) | 9(1) | 9(4) | 22(7) |
| 岡 山 大 学 | 3(2) | 1(1) | 2(1) | 6(4) | 1 | 3(1) | 3 | 6(1) | 4(2) | 4(2) | 5(1) | 13(5) |
| 鳴門教育大学 | 3(1) | 3 | | 6(1) | 8(3) | 5(3) | 4(2) | 9(5) | 11(4) | 8(3) | 4(2) | 23(9) |
| 合　　計 | 8(3) | 8(2) | 8(4) | 24(9) | 16(5) | 16(4) | 17(5) | 33(9) | 24(8) | 24(6) | 25(9) | 73(23) |

（注）（　）内は女子で内数である。

### ⑶ 配属学生別指導教官

平成10年５月１日現在

① 学校教育実践学専攻

＜学校教育方法連合講座＞

| 学生氏名 | 性別 | 学年 | 主指導教官 | 副指導教官 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 松 岡　　律 | 男 | 1 | 増 井 三 夫（上越教育大学） | 新 井 郁 男（上越教育大学） | 杉 尾　　宏（兵庫教育大学） |
| 坂 本 徳 弥 | 男 | 2 | 中 野 靖 夫（上越教育大学） | 正 司 和 彦（兵庫教育大学） | 近 藤　　勲（岡山大学） |
| 黒 羽 正 見 | 男 | 3 | 西　　穣 司（上越教育大学） | 高 田 喜久司（上越教育大学） | 佐 古 秀 一（鳴門教育大学） |
| 水 戸 美津子 | 女 | 3 | 新 井 郁 男（上越教育大学） | 増 井 三 夫（上越教育大学） | 杉 尾　　宏（兵庫教育大学） |

＜学校教育臨床連合講座＞

| 学生氏名 | 性別 | 学年 | 主指導教官 | 副指導教官 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 木 内 隆 生 | 男 | 3 | 犬 塚 文 雄（上越教育大学） | 高 田 喜久司（上越教育大学） | 上 地 安 昭（兵庫教育大学） |

② 教科教育実践学専攻

＜言語系教育連合講座＞

| 学生氏名 | 性別 | 学年 | 主指導教官 | 副指導教官 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 桑 原 哲 朗 | 男 | 1 | 有 澤 俊太郎（上越教育大学） | 野 村 眞木夫（上越教育大学） | 菅 原　　稔（兵庫教育大学） |
| 藤 井 知 弘 | 男 | 3 | 有 澤 俊太郎（上越教育大学） | 野 村 眞木夫（上越教育大学） | 世 羅 博 昭（鳴門教育大学） |

＜社会系教育連合講座＞

| 学生氏名 | 性別 | 学年 | 主指導教官 | 副指導教官 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 吉 田　　剛 | 男 | 1 | 赤 羽 孝 之（上越教育大学） | 二 谷 貞 夫（上越教育大学） | 岩 田 一 彦（兵庫教育大学） |

＜自然系教育連合講座＞

| 学生氏名 | 性別 | 学年 | 主指導教官 | 副指導教官 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 古 屋 光 一 | 男 | 1 | 戸 北 凱 惟（上越教育大学） | 渡 邉　　隆（上越教育大学） | 山 下 伸 典（兵庫教育大学） |
| 嶋 根 紀 仁 | 男 | 3 | 溝 上 武 實（上越教育大学） | 黒 木 伸 明（上越教育大学） | 丸 林 英 俊（鳴門教育大学） |

＜芸術系教育連合講座＞

| 学生氏名 | 性別 | 学年 | 主指導教官 | 副指導教官 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 秋山敏行 | 男 | 2 | 西野範夫（上越教育大学） | 西村俊夫（上越教育大学） | 橋本泰幸（鳴門教育大学） |
| 新野貴則 | 男 | 2 | 増谷直樹（上越教育大学） | 太田將勝（上越教育大学） | 橋本泰幸（鳴門教育大学） |
| 犬童昭久 | 男 | 3 | 西野範夫（上越教育大学） | 西村俊夫（上越教育大学） | 辻田嘉邦（兵庫教育大学） |

＜生活・健康系教育連合講座＞

| 学生氏名 | 性別 | 学年 | 主指導教官 | 副指導教官 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 稲垣　洋 | 男 | 1 | 今泉和彦（上越教育大学） | 立屋敷かおる（上越教育大学） | 前田英雄（鳴門教育大学） |
| 原田咲織 | 女 | 3 | 今泉和彦（上越教育大学） | 立屋敷かおる（上越教育大学） | 岡田美津子（鳴門教育大学） |

### ⑷　平成10年度修了者及び学位論文

①　修了者

| 専攻・連合講座名 | | 修了者数 | 左記修了者内訳 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 配属大学別 | | | |
| | | | 上越 | 兵庫 | 岡山 | 鳴門 |
| 学校教育実践学 | 学校教育方法 | 2(2) | | 2(2) | | |
| | 学校教育臨床 | 1 | | | 1 | |
| 教科教育実践学 | 言語系教育 | 1 | 1 | | | |
| | 社会系教育 | 2(1) | | 1 | | 1(1) |
| | 自然系教育 | 2 | 1 | | | 1 |
| | 芸術系教育 | | | | | |
| | 生活・健康系教育 | | | | | |
| 合計 | | 8(3) | 2 | 3(2) | 1 | 2(1) |

（注）（　）内は女子で内数である。

②　修了者の学位論文題目一覧

| 専攻・所属連合講座名 | 学生氏名 | 配属大学 | 学位論文題目 |
|---|---|---|---|
| 学校教育実践学<br>学校教育方法 | 遠藤　晶 | 兵庫教育大学 | 子どもの手の器用さについての心理学的研究 |
| 学校教育実践学<br>学校教育方法 | 中田　栄 | 兵庫教育大学 | 向社会的行動における自己統制の役割とその規定要因の検討 |
| 学校教育実践学<br>学校教育臨床 | 平松清志 | 岡山大学 | 箱庭療法の面接過程に関する臨床的基礎研究 |
| 教科教育実践学<br>言語系教育 | 藤井知弘 | 上越教育大学 | 読書教育実践学研究<br>—「読者論」による学びの構築— |
| 教科教育実践学<br>社会系教育 | 柿本智正 | 兵庫教育大学 | 国家—教会—教育<br>ドイツにおける信教の自由の多元的側面 |
| 教科教育実践学<br>社会系教育 | 劉　美鳳 | 鳴門教育大学 | 近世民衆社会の史的研究 |
| 教科教育実践学<br>自然系教育 | 嶋根紀仁 | 上越教育大学 | On relations between generalized metric spaces and hyperspaces |
| 教科教育実践学<br>自然系教育 | 原　英光 | 鳴門教育大学 | アカネスイセン Eleutherine americana の活性成分の構造と植物を用いた総合化学実験プログラムの開発に関する研究 |

# あ　と　が　き

本学では，上越教育大学という組織及びその運営並びに教育研究活動等全般にわたる年次報告書を昭和61年度（昭和60年度版）から作成・発行してきており，この平成10年度版で通算第14集を刊行するに至った。

平成８年度から実施している新体制による自己点検•評価は３年目となり，比較的スムーズに行われた平成10年度の自己点検・評価の結果は，前年度版の年次報告書と同様に「年次報告書」と「自己点検・評価報告書」の両面を満たすように構成され，この平成10年度版の年次報告書に掲載されている。

今後は，現行の自己点検・評価体制，自己点検・評価結果の学内外への公表手段及び結果の活用方法についても点検・評価を行い，なお一層の自己点検・評価の充実に努めていく所存である。

また，この自己点検・評価が，全学の理解に基づき推進している大学改革に結び付き，本学の発展・向上に大きな役割をなすことを期待したい。

最後に，自己評価等委員会から，本報告書の作成に当たり御協力いただいた本学教官及び事務官各位に厚く御礼申し上げるとともに，本学内外の関係各位からの御意見・御助言をお願い申し上げたい。

自己評価等委員会副委員長
渡邉　　隆

## 自 己 評 価 等 委 員 会

| | |
|---|---|
| 大澤健郎 | 渡邉　隆 |
| 増井三夫 | 湧井　豊 |
| 高田喜久司 | 中野靖夫 |
| 小宮三彌 | 有澤俊太郎 |
| 大嶽幸彦 | 大悟法　滋 |
| 重嶋　博 | 風巻孝男 |
| 長澤靖夫 | 大山秀夫 |
| 長木正治 | |

上越教育大学年次報告書
第14集：平成10年度版

平成12年３月発行
編集　　上越教育大学自己評価等委員会
発行　　上越教育大学
〒943-8512　上越市山屋敷町１番地
ＴＥＬ（0255)22-2411㈹

